

Novell ZENworks® Desktop Management

6.5

www.novell.com

インストールガイド

2005 年 2 月 11 日



Novell®

法的通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また本書の商品性および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、Novell 製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

米国輸出規制または当該国の法律を含む（これに限られません）該当する法律や規制に違反して、この製品を輸出または再輸出することはできません。

Copyright © 2005 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc. は、本書に記載された製品に含まれる技術に関する知的所有権を有しています。特に、これらの知的所有権には、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国および他の国における 1 つまたは複数のその他の特許または係属特許のアプリケーションを含んでいます（ただし、これらに限定されません）。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U. S. A.

www.novell.com

Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド
[2005iN2&e1iZ](#)

オンラインドキュメント： この製品およびその他の Novell 製品のオンラインドキュメントやアップデート版を入手するには、www.novell.com/documentation を参照してください。

Novell の商標

BorderManager は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Client32 は、米国 Novell, Inc. の商標です。

ConsoleOne は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

DeFrame は、米国 Novell, Inc. の商標です。

DirXML は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

exteNd Director は、米国 Novell, Inc. の商標です。

GroupWise は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

iChain は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Internetwork Packet Exchange は、米国 Novell, Inc. の商標です。

IPX は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NCP は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NDS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NetWare は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Ngage は、米国 Novell, Inc. のサービスマークです。

NLM は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Application Launcher は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Certificate Server は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Client は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Cluster Services は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell iFolder は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Nterprise Branch は、米国 Novell, Inc. の商標です。

snAppShot は、米国 Novell, Inc. の商標です。

SUSE は、Novell の関連会社である SUSE LINUX AG 社の登録商標です。

ZENworks は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

ZENworks OnDemand Services は、米国 Novell, Inc. の商標です。

サードパーティの商標

すべてのサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	13
パート I 概要	
1 ZENworks Desktop Management について	17
自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)	17
Workstation Management (ワークステーション管理)	17
アプリケーション管理 (Application Management)	18
ワークステーションイメージング	19
Remote Management (リモート管理)	20
Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	20
Sybase	22
2 Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート	23
パート II 準備	
3 インストールに使用する Workstation の条件	29
4 ZENworks Desktop Management Server のインストール条件	31
Desktop Management Server のハードウェア要件	31
統合コンポーネントインストールのハードウェア要件	31
起動前サービスのハードウェア要件	32
ワークステーションインベントリ分割インストールのハードウェア要件	32
データベース分割インストールのハードウェア要件	33
Desktop Management Server のソフトウェア要件	33
すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件	33
ワークステーションインベントリのみをインストールする場合のソフトウェア要件	35
ZENworks データベースのみをインストールする場合のソフトウェア要件	36
Desktop Management Server のインストール条件	36
5 ZENworks Middle Tier Server のインストール条件	39
ZENworks Middle Tier Server の制限	39
ZENworks Middle Tier Server のハードウェア要件	41
ZENworks Middle Tier Server のソフトウェア要件	41
Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントのポート設定	43
NetWare 上の Apache Web Server のポート設定	43
Windows 上の IIS のポート設定	43
eDirectory 8.7.3 をインストールした Windows 2000 サーバ環境における Dhost ポート割当の変更	44
デスクトップ管理エージェントのポート設定	44
Middle Tier Server のための Apache Web Server の最適化	44
NetWare 6 Middle Tier Server のインストールのための Apache Web Server の最適化	45
6 ユーザワークステーションの要件	47
サポートされるワークステーションプラットフォーム	47
ユーザワークステーションのハードウェア要件	47
ユーザワークステーションのソフトウェア要件	48

パート III インストール

7	ZENworks Desktop Management Server のインストール	51
	Desktop Management Server のインストール手順	51
	インストール前のスキーマの拡張	53
	完全インストール（スキーマの拡張を含む）の実行	54
	NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定	63
	ディレクトリスキーマが拡張されたかどうかの確認	64
	必要なデスクトップポリシーのセットアップ	64
	ポリシーパッケージの作成	65
	ワークステーションインポートポリシーのセットアップ	66
	データベース場所ポリシーの設定	66
	ワークステーションインベントリポリシーの設定	68
	自動ワークステーションインポートのセットアップ	70
	ODBC ドライバのインストール	71
8	ZENworks Middle Tier Server のインストール	73
	ZENworks Middle Tier Server のインストール手順	73
	ZENworks Middle Tier Server のインストール手順	83
	Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利	93
	コンテキストレスログイン用の権利	93
	リモート管理用の権利	93
	NSAdmin を使用して Middle Tier Server を管理するための権利	93
	Middle Tier Server が iFolder NetStorage Server を兼ねる場合に必要な権利	94
	NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集	94
9	Desktop Management Server と Middle Tier Server の同一コンピュータへのインストール	95
	1 台の NetWare サーバへのデスクトップ管理サービスのインストール	95
	1 台の Windows 2000 サーバへのデスクトップ管理サービスのインストール	95
10	デスクトップ管理エージェントのインストールと設定	99
	インストールの前に	99
	手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール	100
	手動のインストール手順	100
	手動のインストールにおける機能の追加	105
	Novell Application Launcher を使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール	106
	エージェント MSI パッケージの保存	106
	MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定	106
	MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更	107
	MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加	108
	Application Launcher プラグインによるエージェントの配布	110
	デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開	110
	エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件	110
	デスクトップ管理エージェントの展開	111
	デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開	116
	エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件	116
	Windows ワークグループメンバーへのデスクトップ管理エージェントの配布	117
	デスクトップ管理エージェントの設定の変更	121
	Novell Application Launcher による機能の追加	121
11	Novell Application Launcher プラグインのインストール	123
	Novell Application Launcher プラグインの使用に適したケース	123
	Novell Application Launcher プラグインのインストール方法	124
	Novell Application Launcher プラグインのインストール	125
	Novell Application Launcher プラグインの再インストール	128

12	ZENworks Launch ガジェットの実インストール	129
	ポータルへの ZENworks Launch ガジェットの実インストール	129
	ポータルへの Citrix ファイルのコピー	130
	ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントの実インストール	131
13	ターミナルサーバアプリケーションのサポートの設定	133
	ターミナルサーバの要件	133
	ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理	134
	Novell Client およびデスクトップ管理エージェントの実インストール	134
	Workstation Manager のセットアップ	135
	パススルー認証の設定	135
	ダイナミックローカルユーザアカウントのセットアップ	136
	ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理	141
	ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントの実インストール	142
14	認証のセットアップ	143
	Novell Client による認証	143
	ユーザポリシーに必要なアカウント情報	144
	ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報	144
	デスクトップ管理エージェントと ZENworks Middle Tier Server による認証	145
	デスクトップ管理ポリシーに必要なアカウント情報	145
	エージェントのログインのカスタマイズ	146
	同期パススルーログイン	148
	Windows ネットワーク環境へのログイン	148
15	セキュリティ対策のセットアップ	151
	Windows Middle Tier Server の SSL および証明書の実設定	151
	証明書の署名要求の生成	151
	eDirectory ルート CA による証明書の発行	152
	Middle Tier Server でのルート CA の実インストール	153
	IIS で保留中の証明書要求の処理	154
	NetWare Middle Tier Server の SSL および証明書の実設定	155
	SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ	156
	Windows ワークステーションへの証明書のインポート	156
	証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの実設定	156
	NetIdentity 認証のセットアップ	157
	有効な NetIdentity 証明書を使用した Middle Tier Server の実設定	157
	厳密な信用性検証を実行するためのデスクトップ管理エージェントの実設定	158
16	Windows ネットワーク環境での実インストール	159
	Windows 環境で使用するための ZENworks の準備	160
	最低ネットワーク要件	160
	必要とされるネットワーク実設定	160
	ZENworks Desktop Management ユーザワークステーションの環境実設定オプション	161
	DirXML エンジンおよびドライバ	162
	Windows ネットワーク環境での ZENworks の実インストール	162
	テストラボの環境実設定	163
	ZENworks 6.5 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス	163
	eDirectory インストールプログラムの実行	164
	ディレクトリツリーの実用性の検証	169
	DirXML の Active Directory 管理者アカウントの作成	170
	DirXML の実インストール	171
	DirXML ドライバの実設定	173
	Password Synchronization の実インストール	176
	DirXML ドライバの最終実設定	178
	eDirectory、DirXML、および Password Synchronization の動作確認	178

Desktop Management Server のインストール	179
ZENworks Middle Tier Server のインストール	186
Sybase の ODBC ドライバのインストール	195
ユーザワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの展開	195

パート IV アップグレード

17 ZENworks 6.5 Desktop Management の変更点と新機能	199
一般的な変更点	199
ZENworks Multiple UNC Provider	199
Windows の命名規則	200
ZENworks Tree (ZENworks ツリー)	200
デスクトップ管理エージェントディストリビュータ	200
Workstation Management (ワークステーション管理)	201
Novell iPrint ポリシー	201
Windows デスクトップ初期設定ポリシー	202
Windows グループポリシー	202
ワークステーションインポートポリシー	202
ワークステーションオブジェクトのプロパティ	203
アプリケーション管理 (Application Management)	203
ワークステーション空間での MSI アプリケーションの配布	203
MSI アプリケーションのプリインストール	204
配布ルール	204
プロセスの終了	204
レジストリ値の append/prepend	205
アンインストールスクリプト	205
GUID (Global Unique ID) の管理	205
言語変数マクロ	205
Novell Application Launcher の環境設定	206
ワークステーションイメージング	206
ワークステーションイメージの分割	206
Image Explorer (Imgexp.exe) の新しいグラフィカルユーザインタフェース	207
ZENworks イメージング Windows エージェント (Ziswin.exe) の新しいグラフィカルユーザインタフェース	207
Remote Management (リモート管理)	207
Agent-Initiated Connection (エージェント開始接続)	207
サイズの調整	208
エージェントに対するマウス動作のブロック	208
256 色のカラーパレットの強制適用	208
セッションの暗号化	208
Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	208
ソフトウェアデータのインベントリスキャンにおける機能拡張	209
新規インベントリレポート	209
Oracle 9i におけるインベントリデータベースのサポート	209
ハードウェアデータのインベントリスキャンに関する新しい機能拡張	210
インベントリデータの XML ファイルへのエクスポート	210
eDirectory オブジェクトに対するわかりやすい新規命名法	210
ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 の変更点と新機能	210
インストールの変更	211
デスクトップ管理エージェントディストリビュータの機能拡張	211
Windows XP Service Pack 2 のサポート	211
ワークステーション管理の機能拡張	211
アプリケーション管理の機能拡張	211
ワークステーションインベントリの機能拡張	212

18	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード	215
	ZENworks 6.5 をインストールするための前提条件の確認	215
	eDirectory の確認	215
	eDirectory スキーマの拡張	216
	ConsoleOne のアップグレード	218
	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバのアップグレード	219
	アプリケーション管理のアップグレードの完了	221
	ワークステーション管理のアップグレードの完了	225
	ワークステーションイメージングのアップグレードの完了	228
	リモート管理のアップグレードの完了	229
	ワークステーションインベントリのアップグレードの完了	229
	ZENworks 6.5 Middle Tier Server のインストール	239
	管理対象ワークステーションのアップグレード	239
	管理対象ワークステーション上の Novell Client のアップグレード	239
	デスクトップ管理エージェントのインストール	240
19	ZENworks for Desktops 4. x からのアップグレード	247
	ZENworks 6.5 をインストールするための前提条件の確認	247
	eDirectory の確認	247
	eDirectory スキーマの拡張	248
	ConsoleOne のアップグレード	250
	ZENworks for Desktop 4. x Server のアップグレード	251
	アプリケーション管理、ワークステーション管理、リモート管理、およびワークステーションイメージングのアップグレード	251
	ワークステーションインベントリのアップグレード	260
	Middle Tier Server のアップグレード	268
	アップグレードを実行する前に確認すべき事項	268
	ソフトウェアのインストール	269
	myapps.html ページの変更	270
	ワークステーションのアップグレード	273
	ZENworks for Desktops 4. x エージェントへのロールバック	274
20	ZENworks 6.5 Launch ガジェットへのアップグレード	275
	ポータルへの ZENworks Launch ガジェットのインストール	276
	ポータルへの Citrix ファイルのコピー	277
	ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール	277
	ICA クライアント	278
	RDP クライアント	278
	アプリケーションオブジェクトのアップグレード	278
	ZENworks 6 Web セルフサービスコンポーネントの削除	278
21	ZENworks 6 DeFrame からのアップグレード	279
	ターミナルサーバの要件	279
	DeFrame ファイルのアンインストール	280
	DeFrame サーバオブジェクトの削除	280
	ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理	281
	Novell Client およびデスクトップ管理エージェントのインストール	281
	Workstation Manager のセットアップ	281
	パススルー認証の設定	282
	ダイナミックローカルユーザアカウントおよびプロファイルのセットアップ	283
	ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理	289
	アプリケーションオブジェクトのアップグレード	290
	ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール	293

22	ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 へのアップグレード	295
	概要	295
	SP1 のインストールで実行される処理	295
	SP1 インストールプログラムが実行しない項目	296
	ネットワークサーバの段階的アップグレード	296
	インストール前のチェックリスト	296
	Desktop Management Server 用 SP1 アップグレードのインストール	297
	アップグレード後の作業	303
	ZENworks Middle Tier Server のアップグレード	304
	ZENworks 管理エージェントのアップグレード	314

パート V 相互運用性

23	ZENworks for Desktops 4. x との相互運用性	319
	4. x/6.5 相互運用環境でのワークステーションとサーバの互換性	319
	バージョン 4. x と 6.5 のコンポーネントの違い	320
	ワークステーションインポート	320
	ポリシー管理	320
	アプリケーション管理 (Application Management)	320
	ワークステーションイメージング	320
	Remote Management (リモート管理)	321
	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	321
	Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性	321
	Desktop Management Agent (デスクトップ管理エージェント)	321
	ポリシーとポリシーパッケージ	322
	自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)	323
	アプリケーション管理 (Application Management)	323
	ワークステーションイメージング	323
	Remote Management (リモート管理)	324
	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	324
24	インベントリの相互運用性	325
	ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性	326
	同一サーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と	
	ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性	326
	複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と	
	ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性	326
	複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と旧バージョンの	
	ZENworks for Desktops 間の相互運用性	332
	ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの	
	ZENworks 間の相互運用性	333
	ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの	
	ZENworks が 1 台のサーバにインストールされている場合の相互運用性	333
	ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの	
	ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性	334
25	Remote Management の相互運用性	337
26	他の Novell 製品との相互運用性	339
	サードパーティのリモート管理製品との相互運用性	339
	Novell iChain との相互運用性	339
	Novell Cluster Services との相互運用性	339
	Novell GroupWise クライアントとの相互運用性	340
	Novell Nterprise Branch Office との相互運用性	340

パート VI アンインストール / 再インストール

27 Remote Management のアンインストール	343
リモート管理エージェントコンポーネントのアンインストール	343
リモート管理サーバコンポーネントのアンインストール	343
ConsoleOne ファイルの削除	343
Wake-on-LAN ファイルの削除	345
28 ワークステーションインベントリのアンインストールまたは再インストール	347
ワークステーションインベントリのアンインストール	347
ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール	348
データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール	349
Sybase インベントリデータベースのアンインストール	349
Sybase エンジンのアンインストール	350
インベントリサーバソフトウェアのアンインストール	351
XML プロキシサーバのアンインストール	353
ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール	354
デスクトップ管理インベントリエージェントのアンインストール	355
NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール	355
ワークステーションインベントリの再インストールの準備	356
ワークステーションインベントリの再インストール	356
ワークステーションインベントリの再インストールの確認	358
デスクトップ管理インベントリエージェントの再インストール	358

パート VII 付録

A ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 6.5 のポリシーパッケージの違い	361
コンテナポリシーパッケージの構成	361
サーバポリシーパッケージの構成	361
SLP ポリシーの構成	363
ユーザポリシーパッケージの構成	363
ワークステーションポリシーパッケージの構成	366
B Novell Cluster Services 環境へのインストール	369
概要	369
インストールの前に	370
クラスタ環境の準備	370
Desktop Management コンポーネントのインストール	371
ワークステーションイメージングの設定	379
マルチキャストに関する問題	380
ワークステーションインベントリの設定	380
クラスタ化されたワークステーションインベントリを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする	381
クラスタ環境におけるワークステーションインベントリのアンインストール	381
ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール	382
データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール	383
Sybase インベントリデータベースのアンインストール	383
Sybase エンジンのアンインストール	383
インベントリサーバソフトウェアのアンインストール	384
XML プロキシサーバのアンインストール	385
ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール	386
クラスタスクリプトへの変更の適用	387
クラスタ環境におけるワークステーションインベントリの再インストール	387
ワークステーションインベントリの再インストールの準備	387
ワークステーションインベントリの再インストール	388
ワークステーションインベントリの再インストールの確認	388

C	Novell BorderManager VPN クライアントと相互運用する場合の制限	389
	シナリオ 1: ワークステーションに Novell Client とデスクトップ管理エージェントをインストールする	389
	シナリオ 2: ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールする	390
D	バージョン情報を含むレジストリエントリ	393
	Windows ワークステーション上で提供されるバージョン情報	393
	ワークステーションにインストール済みの ZENworks デスクトップ管理エージェント	393
	Windows ワークステーション上のインベントリエージェント	394
	Windows ワークステーション上のリモート管理エージェント	394
	Windows ワークステーション上のアプリケーション管理エージェント	395
	Windows ワークステーション上のイメージングエージェント	395
	Windows ワークステーション上の Workstation Manager エージェント	395
	Windows サーバ上で提供されるバージョン情報	396
	Windows サーバにインストール済みの ZENworks Desktop Management サーバコンポーネント	396
	Windows サーバ上のアプリケーション管理サーバコンポーネント	397
	Windows サーバ上のリモート管理サーバコンポーネント	397
	Windows サーバ上の NAL データベースサーバコンポーネント	397
	Windows サーバ上のインベントリデータベースサーバコンポーネント	398
	Windows サーバ上のインベントリサーバコンポーネント	398
	Windows サーバ上のインベントリ (XML) プロキシサーバコンポーネント	398
	Windows サーバ上のイメージングサーバコンポーネント	399
	Windows サーバ上の起動前サービスサーバコンポーネント	399
	Windows サーバ上のワークステーションのインポート / 削除サーバコンポーネント	399
	Windows サーバ上の ZENworks Middle Tier サーバ	400
	NetWare サーバ上で提供されるバージョン情報	400
	NetWare サーバにインストール済みの ZENworks Desktop Management サーバコンポーネント	400
	NetWare 上のアプリケーション管理サーバコンポーネント	401
	NetWare 上のリモート管理サーバコンポーネント	401
	NetWare 上の NAL データベースサーバコンポーネント	401
	NetWare 上のインベントリデータベースサーバコンポーネント	402
	NetWare 上のインベントリサーバコンポーネント	402
	NetWare 上のインベントリ (XML) プロキシサーバコンポーネント	402
	NetWare 上のイメージングサーバコンポーネント	403
	NetWare 上の起動前サービスサーバコンポーネント	403
	NetWare 上のワークステーションのインポート / 削除サーバコンポーネント	403
	NetWare 上の ZENworks Middle Tier サーバ	404
E	インストールに関するエラーメッセージ	405
	Remote Management のインストールエラー	405
	ワークステーションインベントリのインストールエラー	409
F	XMLRPC のライセンス契約	441
	HELMA のライセンス	441
	John Wilson のライセンス	442
	Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス	442
G	ドキュメントの更新	445
	2004 年 7 月 23 日	445
	2004 年 8 月 25 日	446
	2004 年 10 月 4 日	448
	2004 年 10 月 25 日	448
	2005 年 2 月 11 日 (Support Pack 1)	449

このガイドについて

この『ZENworks Desktop Management インストールガイド』では、Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management を実装するための、インストール、計画、セットアップ、およびテストなどの一般的な手順について説明します。

このガイドは次のパートで構成されます。

- ◆ 15 ページの「概要」
- ◆ 27 ページの「準備」
- ◆ 49 ページの「インストール」
- ◆ 197 ページの「アップグレード」
- ◆ 317 ページの「相互運用性」
- ◆ 341 ページの「アンインストール / 再インストール」
- ◆ 359 ページの「付録」

注：ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 へのアップグレードについては、22 章 295 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 へのアップグレード」を参照してください。

表記規則

Novell のマニュアルでは、大なり記号 (>) を使用して、手順説明の個々の操作や、相互参照パスの項目を区切ります。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標であることを示します。

プラットフォームによってバックスラッシュで表記する場合とスラッシュで表記する場合があるパス名は、バックスラッシュで表記します。UNIX など、スラッシュを使う必要があるプラットフォームを使用しているユーザは、必要に応じてスラッシュを使用してください。

ご意見の宛先

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインドキュメントの各ページの下部にある「ご意見の宛先」機能を使用するか、または www.novell.com/documentation/feedback.html でご意見をご記入ください。

ドキュメントの更新

更新された最新バージョンの『ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド』については、Novell ZENworks 6.5 Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65>) を参照してください。

関連ドキュメント

ZENworks 6.5 Desktop Management に関する説明と製品の実装方法については、以下のマニュアル (PDF および HTML 形式) も参照してください。

- ◆ *ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*
- ◆ *Novell ZENworks 6.5 用語集*

さらに、ZENworks 6.5 スイートに含まれるその他の機能については、さまざまな文書で説明されています。文書の詳細なリストについては、[Novell ZENworks 6.5 Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks65\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65) にある ZENworks 6.5 のドキュメント内容を参照してください。



概要

この章には次の情報が記載されています。

- ◆ 1 章 17 ページの「ZENworks Desktop Management について」
- ◆ 2 章 23 ページの「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」

1

ZENworks Desktop Management について

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management は、ZENworks 6.5 スイートを構成するコアコンポーネントの 1 つです。ZENworks 6.5 Desktop Management は、デバイスのライフサイクルを通して、ポリシー駆動型の自動化を使用し、ソフトウェアの配布や修復、デスクトップの構成、ワークステーションイメージング、リモート管理、およびワークステーションインベントリなどのデスクトップ管理作業に要する負荷を軽減し、ときにはこうした作業を実行する必要性を排除します。

- ◆ 17 ページの「自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)」
- ◆ 17 ページの「Workstation Management (ワークステーション管理)」
- ◆ 18 ページの「アプリケーション管理 (Application Management)」
- ◆ 19 ページの「ワークステーションイメージング」
- ◆ 20 ページの「Remote Management (リモート管理)」
- ◆ 20 ページの「Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)」
- ◆ 22 ページの「Sybase」

自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)

自動ワークステーションインポート / 削除サービスを使用すると、手作業を必要とせずに簡単にユーザワークステーションを管理できます。

自動ワークステーションインポートは、ワークステーションを eDirectory にインポートして自動的に統合します。自動ワークステーションインポートで作成されたワークステーションオブジェクトを使用することにより、ソフトウェアおよびコンピュータの設定を Novell Application Launcher™ (NAL) と ZENworks Desktop Management ポリシーによってワークステーションまで配布できます。

自動ワークステーション削除は、ディレクトリおよびインベントリデータベースから古くなったワークステーションデータを削除します。

Workstation Management (ワークステーション管理)

ワークステーション管理は、ネットワーク内のワークステーションデスクトップの環境設定および維持にかかる全体的なコストを削減し、その手順の複雑さを解消するために役立ちます。ZENworks のポリシーを使用することにより、サーバ、ユーザ、およびワークステーションの設定、処理、動作を自動的に管理することが可能になります。つまり、ユーザの設定やワークステーションを構成するのに、サイト内に存在する各ワークステーションにアクセスする必要がなくなりました。ワークステーション管理を使用することによって、次のことができます。

- ◆ ローミングプロファイルを有効にし、ユーザのデフォルトのデスクトップ初期設定を指定します。
- ◆ 拡張可能ポリシーを使用して、Windows* レジストリ内で設定されるあらゆるアプリケーション機能を制御します。
- ◆ Windows 2000/XP ワークステーションとユーザのグループポリシーを設定します。
- ◆ ユーザのワークステーションのリモート管理に関するパラメータを設定します。リモートコントロール、リモートビュー、診断、ファイル転送、リモート実行、Wake-on-LAN など。
- ◆ ワークステーションのイメージングに関するパラメータを設定します。
- ◆ 収集するインベントリ情報を指定するパラメータを設定します。
- ◆ 新しいワークステーションをeDirectoryツリーに自動的にインポートするパラメータを設定します。
- ◆ Novell iPrint を使用するためのユーザパラメータを設定し、ユーザが Web ブラウザを使用してワークステーションにプリンタをインストールできるようにします。
- ◆ ユーザのターミナルサーバ接続を設定します。

アプリケーション管理 (Application Management)

アプリケーション管理は、Windows ワークステーション上のユーザへのアプリケーション配布を管理する場合に役立ちます。アプリケーション管理を使用することによって、次のことができます。

- ◆ 従来の Windows アプリケーションと Microsoft* Windows Installer アプリケーションを配布します。従来の Windows アプリケーションには、そのアプリケーションのインストールプログラムも含まれています。Windows Installer アプリケーションは、Windows Installer と .msi ファイルをインストールに使用します。
- ◆ Web アプリケーションを配布します。Web アプリケーションは Web サーバ上で動作するため、通常は配布する場合にユーザが URL を利用できるようにしなければなりません。
- ◆ eDirectory と接続している場合にはネットワークから、eDirectory との接続が切断されている場合でも CD、Jaz* ドライブ、Zip* ドライブなどのリムーバブルメディアからアプリケーションを配布します。
- ◆ アプリケーション配布先のユーザを決定します。eDirectory を使用してアプリケーションをユーザに関連付けてからユーザにアプリケーションを配布する必要があります。アプリケーションをワークステーションに関連付けて、ログインしたユーザに関係なくワークステーションでアプリケーションを利用することもできます。
- ◆ アプリケーションの依存関係を作成します。アプリケーションの依存関係により、アプリケーション B をインストールし、実行することをアプリケーション A 起動の条件にすることができます。
- ◆ 配布アプリケーションをワークステーションでユーザに表示する方法を決定します。

eDirectory で設定し、ユーザに関連付けたアプリケーションをユーザが受信する場合は、そのユーザのワークステーション上で Novell Application Launcher が起動している必要があります。Application Launcher は eDirectory にアクセスしてユーザに関連付けられたアプリケーションを確認し、アプリケーションに関するすべての配布処理（インストールとアンインストールを含む）を実行します。

Application Launcher には、アプリケーションを表示する次の 3 つのビューが用意されています。1)Application Window。配布アプリケーションのアイコンを表示するスタンドアロンウィンドウ。2)Application Explorer。Application Window などのスタンドアロンウィンドウと Windows Explorer との統合を含むコンポーネント。配布アプリケーションのアイコンを Windows のデスクトップ、[スタート] メニュー、システムトレイ、およびクイック起動バーに表示できます。3)Application Browser。配布アプリケーションのアイコンを表示する Web ブラウザ。3 つのビューはすべて Application Launcher がインストールされると利用できるようになります。

- ◆ イメージング処理によって新しくイメージが作成されたワークステーションにアプリケーションを配布します。
- ◆ 配布されていないアプリケーションをワークステーションで起動するかどうか制御します。たとえば、配布した計算機プログラムを使ってほしくないためユーザが Microsoft Calculator を起動できないようにするには、Application Launcher によって配布されていない場合でも Calculator の起動を無効にすることができます。
- ◆ 配布アプリケーションをアンインストールします。アンインストールには、アプリケーションの配布に関連する共有していないすべてのファイル、エントリ、.ini エントリ、レジストリエントリの削除が含まれます。

ワークステーションイメージング

ワークステーションイメージングを使用することによって、次のイメージング操作ができます。

- ◆ ワークステーションのイメージを作成し、同じワークステーション（ローカル）またはイメージングサーバ（プロキシ）に格納します。
- ◆ 選択したファイルの“アドオン”イメージを作成します。
- ◆ イメージをカスタマイズします。
- ◆ イメージを圧縮して保存容量を最小限にします。
- ◆ ワークステーション（ローカル）またはイメージングサーバ（プロキシ）に保存されたイメージを取得し、ワークステーションに保存します。この操作は各ワークステーションで手動で実行したり、ConsoleOne® から自動的に実行したりすることができます。
- ◆ ワークステーションまたはサーバポリシーを使用してイメージング操作を定義します。
- ◆ イメージング操作をカスタマイズして自動化するスクリプトを記述します。
- ◆ マルチキャストセッションでイメージを多数のワークステーションに同時に復元します。
- ◆ パーティションとストレージデバイスの情報をワークステーションで表示します。
- ◆ パーティションを作成、削除、有効化します。

Remote Management（リモート管理）

リモート管理は、リモート管理コンソールからワークステーション（管理対象ワークステーション）をリモートで管理します。リモート管理では、次の操作を実行できます。

- ◆ 電源が切断されている管理対象ワークステーションをリモートから起動することができます。
- ◆ 管理対象ワークステーションをリモートで制御します。
- ◆ 管理対象ワークステーションをリモートから表示します。
- ◆ ログインしているユーザがローカルのAdministratorsグループのメンバーでなくても、システム権利を使って、管理対象ワークステーションで検出される実行可能ファイルをリモートで実行します。
- ◆ リモート管理コンソールと管理対象ワークステーションの間でファイルを転送できます。
- ◆ 情報を表示して、管理対象ワークステーションの問題を診断します。
- ◆ 管理対象ワークステーションで実行されるリモート管理セッションに関する監査記録情報を記録します。
- ◆ リモートコントロールセッション中に管理対象ワークステーションの画面を消去します。
- ◆ リモートコントロールセッション中に管理対象ワークステーションのキーボードとマウスの制御をロックすることができます。

重要：サーバ上のリモート管理機能を取得するのに、ZENworks 6.5 Desktop Management を使用することはできません。Windows 2000/2003 サーバをリモートで管理する場合、ZENworks Server Management のリモート管理機能を使用することができます。詳細については、[ZENworks Server Management のマニュアル](http://www.novell.com/documentation) (<http://www.novell.com/documentation>) を参照してください。

Workstation Inventory（ワークステーションインベントリ）

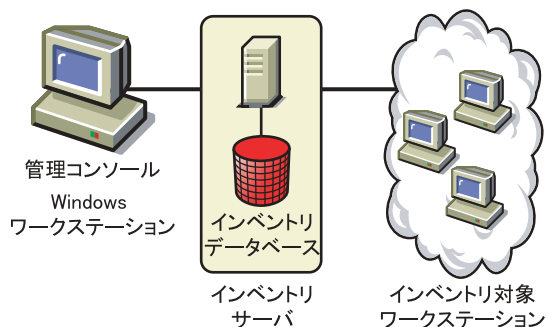
ZENworks Desktop Management を使用すると、ネットワークに接続している全ワークステーションのハードウェアとソフトウェアの情報をすべて収集し、管理できます。ConsoleOne から、ワークステーションのハードウェアとソフトウェアに関するインベントリをすべて表示できます。一元管理されているワークステーションのデータベースに照会してレポートを生成することもできます。Desktop Management では、大型ネットワークのサーバ、ファイアウォール、ツリー間でインベントリ情報をロールアップすることもできます。

次の簡単な用語集では、ワークステーションインベントリで使用する用語の基本的な定義について説明します。

- ◆ **インベントリ対象ワークステーション：**Windows ワークステーションで、そのハードウェアおよびソフトウェアデータをスキャンし、中央リポジトリで管理します。ワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのすべてのインベントリ情報を収集するには、ワークステーションにインベントリエージェント（Inventory Agent、ZENworks デスクトップ管理エージェント（Desktop Management Agent）の一部）をインストールする必要があります。
- ◆ **インベントリサーバ：**NetWare® または Windows サーバで、インベントリサービスが実行されます。インベントリサーバでは、他のデスクトップ管理サービスも実行できます。インベントリサーバは、関連付けられているインベントリ対象ワークステーションからインベントリデータを収集し、インベントリに保存します。

- ◆ **インベントリデータベース**：全インベントリ対象ワークステーションのインベントリ情報のリポジトリ。
- ◆ **データベースサーバ**：インベントリデータベースがマウントされている Sybase、Oracle、または MS SQL を実行する、NetWare または Windows を搭載したサーバ。
- ◆ **管理コンソール**：Desktop Management ワークステーションインベントリの ConsoleOne スナップインがインストールされ、Novell ConsoleOne を実行する Windows を搭載したワークステーションまたはサーバ。管理コンソールは、インベントリシステムを管理するためのインタフェースを提供します。

この『インストールガイド』では、ワークステーションインベントリに関する理解を深めるため、パイロットシステムの設定に焦点を当てています。次の図で示すようにパイロットシステムは、管理コンソール、インベントリサーバ、Sybase*を実行しているインベントリデータベース、および1台以上のインベントリ対象のワークステーションで構成されます。



このセットアップには次の特徴があります。

- ◆ インベントリサーバとインベントリ対象ワークステーションが同じ Novell eDirectory™ ツリーに配置されています。
- ◆ インベントリサーバにインベントリ対象ワークステーションが接続されています。
- ◆ インベントリサーバには、インベントリデータベースが接続されています。

インベントリスキャンサイクルは次のとおりです。

1. インベントリスキャナはハードウェアとソフトウェア情報をインベントリ対象のワークステーションからインベントリサーバへ、スキャンスケジュールに従って送信します。
2. インベントリサーバは、そのインベントリ情報をインベントリデータベースに保存します。
3. 管理コンソールで、[レポート中] > [概要] などのインベントリツールを使用してインベントリデータベースのインベントリ情報を参照および取得することができます。

作業環境にワークステーションインベントリをインストールする前に、企業のインベントリサーバのツリー構造を計画的に決定しておきます。ネットワークおよび情報の要件に基づいて、インベントリの配置を決定しておく必要があります。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

Sybase

Sybase Adaptive Server* Anywhere (ASA) は、ZENworks Desktop Management とバンドルされているネットワークデータベースサーバです。Desktop Management によって、NetWare および Windows 上にワークステーションインベントリおよび Novell Application Launcher データベースをマウントするデータベースプラットフォームとして Sybase ASA がインストールされます。

2

Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management のテストは、NetWare® 6、NetWare 6.5、Windows 2000 サーバ、および Windows Server 2003 の環境で実施されました。次の表は、Novell ZENworks 6.5 Desktop Management によるテストがすべて終了したフルサポートされる Desktop Management 構成を示しています (ZENworks Middle Tier Server プラットフォームが Desktop Management Server プラットフォームに接続している構成)。

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	説明
Windows 2000 SP4	Windows 2000 SP4	<p>両方のサーバが Microsoft ドメインのメンバーである必要があります。</p> <p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client™ と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows 2000 サーバ付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server を Windows 2000 上にインストールする場合は、次の条件に従います。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ Novell ConsoleOne® 1.3.6 と Novell eDirectory™ 8.7.1 (最低限) または 8.7.3 (推奨) がインストールされていること◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX™ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること◆ SYS という名前を持つ eDirectory (通常は c:\novell) の現在の場所が共有されていること <p>この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときにのみサポートされます。</p>

Windows Server 2003 Standard Edition または Enterprise Edition	Windows 2000 SP4	<p>両方のサーバが Microsoft ドメインのメンバーである必要があります。</p> <p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server を Windows 2000 上にインストールする場合は、次の条件に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.1 (最低限) または 8.7.3 (推奨) がインストールされていること ◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること ◆ SYS という名前を持つ eDirectory (通常は c:\novell) の現在の場所が共有されていること
Windows Server 2003 Standard Edition	Windows Server 2003 Standard Edition	<p>両方のサーバが Microsoft ドメインのメンバーである必要があります。</p> <p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server を Windows 2003 上にインストールする場合は、次の条件に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.3 がインストールされていること ◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること ◆ SYS という名前を持つ eDirectory (通常は c:\novell) の現在の場所が共有されていること <p>この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときもサポートされます。</p>

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	説明
Windows Server 2003 Enterprise Edition	Windows Server 2003 Enterprise Edition	<p>両方のサーバが Microsoft ドメインのメンバーである必要があります。</p> <p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server を Windows 2003 上にインストールする場合は、次の条件に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.3 がインストールされていること ◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること ◆ SYS という名前を持つ eDirectory (通常は c:\novell) の現在の場所が共有されていること <p>この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときもサポートされます。</p>
Windows Server 2003 Standard Edition または Enterprise Edition	NetWare 6 SP4	<p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。</p>
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition	NetWare 6.5 SP1.1	<p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。</p>
NetWare 6 SP4	NetWare 6 SP4	<p>Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。</p> <p>この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときもサポートされます。</p>
NetWare 6.5 SP1.1	NetWare 6 SP4	<p>Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。</p>
NetWare 6.5 SP1.1	NetWare 6.5 SP1.1	<p>Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。</p> <p>この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときもサポートされます。</p>

Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.3 は、*Novell ZENworks 6.5 Companion 1* CD にあります。eDirectory 8.7.x 評価版ライセンスディスクの作成に必要なファイルは、[Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード \(http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html\)](http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) Web サイトから入手できます。

最新の Novell Client (バージョン 4.9 SP1a 以降) は、[Novell Product Downloads \(http://download.novell.com/pages/PublicSearch.jsp\)](http://download.novell.com/pages/PublicSearch.jsp) からダウンロードできます。

NetWare Support Pack ファイルは、Novell Support Connection Web サイトの「[Minimum Patch List \(http://support.novell.com/produpdate/patchlist.html\)](http://support.novell.com/produpdate/patchlist.html)」から入手できます。

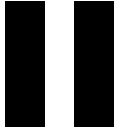
ZENworks Middle Tier Server と ZENworks Desktop Management Server は、同じコンピュータにインストールできます。

重要： ZENworks の機能に関してワークステーションを認証するサーバに NetWare 6.5 SP2 をインストールする場合は、コンピュータにインストールされている Novell Client のバージョンを 4.9 SP2 にアップグレードしないと、ConsoleOne 1.3.6 を使用して eDirectory ツリーまたはサーバを管理できません。

重要： ZENworks Patch Management (PatchLink) をインストールする場合は、ネットワークリソースの使用方法を計画してください。Patch Management では、インストールする Windows サーバに対して次のような環境設定が必要です。

- 新規および未変更の Windows XP、2000、または 2003 Server、および IIS と asp.net がインストールされていること
- Windows 2000 が Service Pack 2 でアップデートされていること (PatchLink アプリケーション以降についてはその他のアップグレードを適用)
- その他のアプリケーションソフトウェアがシステムにインストールされていないこと

ZENworks Patch Management は、専用のコンピュータにインストールする必要があります。



準備

この節では、次に示す Novell[®] ZENworks[®] 6.5 Desktop Management の主要コンポーネントのインストール前およびインストールプログラムの実行中に必要とされる重要な情報を紹介します。

- ◆ 3 章 29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」
- ◆ 4 章 31 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール条件」
- ◆ 5 章 39 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」
- ◆ 6 章 47 ページの「ユーザワークステーションの要件」

3

インストールに使用する Workstation の条件

次の表は、ネットワークサーバにデスクトップ管理サービスと Middle Tier Server ソフトウェアをインストールする場合に使用するワークステーションのソフトウェア要件を示しています。

インストールする ZENworks コンポーネント	インストールに使用するワークステーションのソフトウェア要件
デスクトップ管理サービス	<ul style="list-style-type: none">◆ Windows 2000 Professional SP4 ワークステーション、Windows XP SP1 ワークステーション、Windows 2000 Server SP4、または Windows Server 2003 (Standard および Enterprise)◆ Novell Client 4.9 SP1a 以降がインストールされていること◆ Internet Explorer 5.5 SP2 以降がインストールされていること◆ ZENworks スナップインをローカルワークステーションにインストールする場合は、そのワークステーションに ConsoleOne 1.3.6 がインストールされている必要があります。詳細については、54 ページの「完全インストール（スキーマの拡張を含む）の実行」のステップ 8を参照してください。 <p>サポート対象外： 次のソフトウェア構成の場合は、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールできません。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ Windows 95/98/ME/NT 4 ワークステーションからインストールする場合◆ NAT（ネットワークアドレス変換）など、ファイアウォールの一方の側から別の側にインストールする場合
Middle Tier Server	<ul style="list-style-type: none">◆ Windows 2000/XP ワークステーションまたは Windows 2000/2003 サーバ◆ Novell Client 4.9 SP1a 以降がインストールされていること <p>サポート対象外： 次のソフトウェア構成の場合は、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールできません。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ Windows 95/98/ME/NT 4 ワークステーションからインストールする場合◆ NAT が設定されているネットワークからインストールする場合

インストールするワークステーションでのログインセッションは、次のように実行する必要があります。

- ◆ NetWare サーバにインストールする場合は、管理者または同等の権利でログインする必要があります。これにより、インストールプログラムによって eDirectory スキーマが拡張され、eDirectory ツリーと NetWare サーバを参照することができます。
- ◆ Windows 2000 サーバまたは Windows Server 2003 にインストールする場合は、インストール先のサーバを認証するために Administrator または同等の権利でログインする必要があります。

ZENworks 6.5 Desktop Management を管理するための ConsoleOne を実行するワークステーションまたはサーバに Novell Client をインストールする必要があります。これは、ConsoleOne がクライアントの NetWare ライブラリに依存するためです。

Desktop Management Server インストールの詳細については、[51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)を参照してください。

4

ZENworks Desktop Management Serverのインストール条件

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 31 ページの「Desktop Management Server のハードウェア要件」
- ◆ 33 ページの「Desktop Management Server のソフトウェア要件」
- ◆ 36 ページの「Desktop Management Server のインストール条件」

Desktop Management Server のハードウェア要件

Novell® ZENworks® 6.5 デスクトップ管理サービスをすべて同じコンピュータにインストールすることができますが、ネットワークのリソースや設計によっては一部のコンポーネントを異なるサーバにインストールする必要があります。この節では、そのようなサーバのハードウェア要件を紹介します。

- ◆ 31 ページの「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」
- ◆ 32 ページの「起動前サービスのハードウェア要件」
- ◆ 32 ページの「ワークステーションインベントリ分割インストールのハードウェア要件」
- ◆ 33 ページの「データベース分割インストールのハードウェア要件」

統合コンポーネントインストールのハードウェア要件

デスクトップ管理サービスの機能や性能を最大限に活用するためには、デスクトップ管理サービスをインストールするサーバに、少なくとも次の処理速度、ディスク容量、および RAM が必要です。

リソース	最低ディスク容量	最低ハードウェア要件
NetWare 6 サーバ	290 MB	Pentium® III プロセッサ（最低）、256MB の RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1 GB の RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。
NetWare 6.5 サーバ	290 MB	Pentium III プロセッサ（最低）、512 MB RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1 GB RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。
Windows 2000 サーバ	290 MB	Pentium III プロセッサ（最低）、256 MB RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1 GB RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。
Windows Server 2003	290 MB	Pentium III プロセッサ（最低）、256 MB RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1 GB RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。

重要：Windows サーバではオペレーティングシステム用にディスク容量が確保されています。ZENworks Desktop Management をインストールするには、サーバ用に確保されたディスク容量のほかに十分な空き容量があることを確認してください。

起動前サービスのハードウェア要件

Desktop Management 起動前サービスが正しく機能するためには、IP 層をサポートする LAN（ローカルエリアネットワーク）が必要です。次の要件も満たす必要があります。

仕様	最低要件
プロセッサ	Pentium II、350MHz 以上
使用可能な空き容量	10 MB
RAM	128 MB
LAN 接続	Ethernet

ワークステーション用起動前サービスのハードウェア要件については、[47 ページの「ユーザワークステーションのハードウェア要件」](#)を参照してください。

ワークステーションインベントリ分割インストールのハードウェア要件

デスクトップ管理サービスのワークステーションインベントリコンポーネントをインストールする場合は、次のハードウェア環境設定のいずれかに従って NetWare 6、NetWare 6.5、Windows 2000、または Windows Server 2003 のコンピュータに個別にインストールできます。

リソース	最低ディスク容量	最低ハードウェア要件
NetWare 6 サーバ	インベントリとデータベースの併用は 50MB、インベントリ単独は 35MB	Pentium II プロセッサ（最低）、512MB の RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。
NetWare 6.5 サーバ	インベントリとデータベースの併用は 50MB、インベントリ単独は 35MB	Pentium II プロセッサ（最低）、512MB の RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。
Windows 2000 サーバ	インベントリとデータベースの併用は 50MB、インベントリ単独は 25MB	31 ページの「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」 を参照してください。
Windows Server 2003	インベントリとデータベースの併用は 50MB、インベントリ単独は 25MB	31 ページの「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」 を参照してください。

データベース分割インストールのハードウェア要件

デスクトップ管理サービスのインベントリデータベースコンポーネントをインストールする場合は、次のハードウェア環境設定に従って NetWare 6、NetWare 6.5、Windows 2000、または Windows Server 2003 のコンピュータに個別にインストールできます。

コンポーネント	ハードウェアおよびソフトウェアの最低要件
RAM	<ul style="list-style-type: none">データベースに推奨される最低メモリは 512MB。最低キャッシュは 128MB。ルートサーバレベルの最低メモリは 768MB、推奨メモリは 1GB 以上。キャッシュは 256MB。
ハードディスク	<ul style="list-style-type: none">10,000 台のワークステーションが接続されている最下位レベルのサーバに推奨される最低ハードディスク容量は 5GB。最上位レベルのサーバ（ルートサーバ）に必要な最低ハードディスク容量：20GB。接続されているワークステーションの数に応じて、ハードディスクのサイズは 1GB から 25GB までにおよびます。

Desktop Management Server のソフトウェア要件

各デスクトップ管理サービスをすべて同じコンピュータにインストールすることができますが、ネットワークのリソースや設計によっては一部のコンポーネントを異なるサーバにインストールする必要があります。この節では、そのようなサーバのソフトウェア要件を紹介します。

- ◆ 33 ページの「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」
- ◆ 35 ページの「ワークステーションインベントリのみをインストールする場合のソフトウェア要件」
- ◆ 36 ページの「ZENworks データベースのみをインストールする場合のソフトウェア要件」

すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件

次の表は、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするコンピュータに必要なソフトウェア構成を示しています。

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
NetWare 6	<ul style="list-style-type: none">◆ Support Pack 4(最低)◆ Novell eDirectory® 8.6.2(最低)、8.7.1、または 8.7.3(推奨¹)◆ JVM 1.4.1 for NetWare(最低)◆ LDAP の設定および実行◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること <p>重要：最新の Consolidated Support Pack に同梱されている JVM のバージョンおよび NetWare 6 Support Pack のバージョンをダウンロードしてインストールすることを強くお勧めします。この 2 つのソフトウェアは、連携して動作するよう設計されています。</p> <p>¹ この NetWare 6 サーバが ZENworks 6.5 Middle Tier Server も実行する場合は、サーバの eDirectory をバージョン 8.7.3（推奨）にアップグレードする必要があります。</p>

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
NetWare 6.5	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Support Pack 1.1(最低) ◆ eDirectory 8.7.3(最低) ◆ LDAP の設定および実行 ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること <p>重要：ZENworks の機能に関してワークステーションを認証するサーバに NetWare 6.5 SP2 をインストールする場合は、コンピュータにインストールされている Novell Client のバージョンを 4.9 SP2 にアップグレードしないと、ConsoleOne 1.3.6 を使用して eDirectory ツリーまたはサーバを管理できません。</p>
Windows 2000	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows Service Pack 4(最低) ◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること ◆ eDirectory 8.6.2(最低)、8.7.1、または 8.7.3(推奨) ◆ LDAP の設定および実行 ◆ eDirectory の現在の場所が SYS という名前で共有されていること <p>C: 以外のドライブに eDirectory と ZENworks 6.5 イメージングコンポーネントを共存させることはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること ◆ Windows 2000 で ZENworks Middle Tier Server に接続する場合は、両方の Windows 2000 サーバが共に Active Directory* を実行している Microsoft ドメインのメンバーであることが必要です。 ◆ Windows 2000 サーバが Windows ターミナルサーバとして機能している場合、このサーバはリモート管理モードで実行する必要があります。アプリケーションモードはサポートされていません。
Windows Server 2003	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること ◆ eDirectory 8.7.3(最低) ◆ LDAP の設定および実行 ◆ eDirectory の現在の場所が SYS という名前で共有されていること <p>C: 以外のドライブに eDirectory と ZENworks 6.5 イメージングコンポーネントを共存させることはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること ◆ Windows Server 2003 で ZENworks Middle Tier Server に接続する場合は、両方の Windows Server 2003 コンピュータが共に Active Directory を実行している Microsoft ドメインのメンバーであることが必要です。 ◆ Windows Server 2003 が Windows ターミナルサーバとして機能している場合、このサーバはリモート管理モードで実行する必要があります。アプリケーションモードはサポートされていません。

Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.3 は、*Novell ZENworks 6.5 Companion 1* CD にあります。eDirectory 8.7.x 評価版ライセンスディスクの作成に必要なファイルは、[Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード \(http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html\)](http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) Web サイトから入手できます。

最新の Novell Client (バージョン 4.9 SP1a 以降) は、[Novell Product Downloads \(http://download.novell.com/pages/PublicSearch.jsp\)](http://download.novell.com/pages/PublicSearch.jsp) からダウンロードできます。

NetWare Support Pack ファイルは、Novell Support Connection Web サイトの「[Minimum Patch List \(http://support.novell.com/produpdate/patchlist.html\)](http://support.novell.com/produpdate/patchlist.html)」から入手できます。

JVM version 1.4.1 for NetWare 6 は、Novell Support Connection Web サイトの最新の「[Consolidated Support Pack \(http://support.novell.com/tools/csp/csplist.html\)](http://support.novell.com/tools/csp/csplist.html)」からダウンロードできます。

Novell ZENworks 6.5 Companion 1 CD に収録されている ConsoleOne 1.3.6 (以降) は、NetWare Support Pack を適用してからインストールする必要があります。

重要: Desktop Management Server は、IP-to-IP ゲートウェイまたは IPX-to-IP ゲートウェイ環境では動作しません。

ワークステーションインベントリのみをインストールする場合のソフトウェア要件

デスクトップ管理サービスのワークステーションインベントリコンポーネントをインストールする場合は、NetWare 6、NetWare 6.5、Windows 2000 のサーバ、または Windows Server 2003 のコンピュータに個別にインストールできます。

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
NetWare 6 サーバ	<ul style="list-style-type: none">◆ 33 ページの「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」を参照◆ ロングネームスペースがインストールされていること <p>重要: この NetWare 6 サーバが ZENworks 6.5 Middle Tier Server も実行する場合は、eDirectory をバージョン 8.7.3 (必要最低) にアップグレードする必要があります。</p>
NetWare 6.5 サーバ	<ul style="list-style-type: none">◆ 33 ページの「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」を参照◆ ロングネームスペースがインストールされていること
Windows 2000 サーバ	<ul style="list-style-type: none">◆ 33 ページの「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」を参照◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、TID 2967860 で入手できるパッチを適用されていること、および IPX ではなく IP のみを使用するように設定されていること。TID 2967860 (http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2967860.htm) の詳細については、Novell Support Knowledgebase (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) を参照してください。◆ Windows 2000 サーバが Windows ターミナルサーバとして機能している場合、このサーバはリモート管理モードで実行する必要があります。アプリケーションモードはサポートされていません。
Windows Server 2003	<ul style="list-style-type: none">◆ 33 ページの「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」を参照◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、TID 2967860 で入手できるパッチを適用されていること、および IPX ではなく IP のみを使用するように設定されていること。TID 2967860 (http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2967860.htm) の詳細については、Novell Support Knowledgebase (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) を参照してください。◆ Windows Server 2003 が Windows ターミナルサーバとして機能している場合、このサーバはリモート管理モードで実行する必要があります。アプリケーションモードはサポートされていません。

重要：Windows サーバの場合は、サーバの DNS ショートネームとサーバ名を同じにする必要があります。サーバの名前が DNS ショートネームと一致しない場合は、インストールの実行前に Windows サーバの名前を変更してください。または、ワークステーションインベントリのインストールにこのようなサーバを選択しないでください。

ZENworks データベースのみをインストールする場合のソフトウェア要件

Desktop Management Server ソフトウェアのデータベースコンポーネントをインストールする場合は、NetWare 6、NetWare 6.5、Windows 2000 のサーバ、または Windows Server 2003 のコンピュータに個別にインストールできます。

コンポーネント	ハードウェアおよびソフトウェアの最低要件
データベース	<p>インベントリデータベースをインストールすることを選択すると、Sybase が自動的にインストールされます。</p> <ul style="list-style-type: none">NetWare 6 SP3、NetWare 6.5、Windows 2000 Server SP4、Windows 2003 Standard Edition、および Windows 2003 Enterprise Edition にインストールされる Sybase ASA 8.0.2 <p>Oracle* を Sybase の代わりに使用することもできます。</p> <p>Windows 2000 Server SP4 上の Oracle 8.1.7</p> <p>次のプラットフォーム上の Oracle 9i リリース 2:</p> <ul style="list-style-type: none">Windows 2000 Server SP4Windows 2003 Standard EditionWindows 2003 Enterprise Edition <p>MS SQL を Sybase の代わりに使用することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none">(推奨) MS SQL バージョン 2000 SP3a

Desktop Management Server のインストール条件

デスクトップ管理サービスをインストールする前に満たす必要がある条件がいくつかあります。この節では、それらの条件に関する情報を紹介します。

- ☐ サーバのバックアップを作成し、保存したことを確認します。
- ☐ Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするサーバに、ConsoleOne の推奨バージョンがインストールされていることを確認します。
- ☐ Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするすべてのサーバ上で eDirectory に対する管理者または同等の権利を持っていることを確認します。
- ☐ ディレクトリのスキーマを拡張するための管理者または同等の権利を持っていることを確認します。
- ☐ NetWare サーバにインストールする場合は、java.nlm をアンロードします (サーバコンソールで、「**java -killall**」と入力してから「**java -exit**」と入力します)。アンロードする場合は、別のプロセスによって Java* が使用されていないこと、および必要な Java コンポーネントがインストール済みであることを確認します。
- ☐ Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするサーバ上の sys:public ディレクトリのファイルを使用するプログラムをすべて終了します。

- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアをインストールまたは管理するワークステーションの画面は、解像度を 1024 x 768 に設定する必要があります。800 x 600 に設定してインストールすると、インストール画面および ConsoleOne 画面の解像度が大きすぎて重要な情報が表示されません。
- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアを Windows 2000/XP ワークステーションから Windows 2000/2003 サーバにインストールすることを選択すると、ワークステーションはインストールする Windows サーバのローカルまたはドメイン管理者として両方の eDirectory を認証します。
- ❑ インベントリサーバコンポーネントをインストールする場合は、インベントリサーバをインストールするサーバの名前と、サーバが常駐するツリーに「#」が含まれていないことを確認します。

Desktop Management Server のインストールプログラムでは、Desktop Management コンポーネントを個別に（または選択したグループごとに）指定したサーバにインストールできます。コンポーネントの詳細については、[1 章 17 ページの「ZENworks Desktop Management について」](#)を参照してください。

Desktop Management の特定のコンポーネントのみをインストールする場合は、インストール所要時間を短縮し、サーバのディスク容量を節約することができます。次のコンポーネントを個別に選択してインストールすることができます。

デスクトップ管理サービス

- ◆ アプリケーション管理 (Application Management)
- ◆ ワークステーション管理に共通するコンポーネント
- ◆ Remote Management (リモート管理)

[Additional Options]

- ◆ デスクトップ管理データベース
- ◆ Inventory Database
- ◆ Inventory Server
- ◆ [インベントリプロキシサーバ]
- ◆ イメージングサーバ
- ◆ PXE サーバ
- ◆ ワークステーションインポート / 削除サーバ
- ◆ デスクトップ管理サービスのスナップイン

リモート管理をインストールする場合は、次の点に注意します。

- ❑ リモート管理エージェントをインストールする管理者の権利を持っていることを確認します。

ワークステーションインベントリをインストールする場合は、次の点に注意します。

- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアのワークステーションインベントリコンポーネントと ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを同じ Windows 2000 サーバにインストールしないでください。

- ❑ Sybase Adaptive Server Anywhere を停止します。

NetWare の場合： Sybase コンソールのプロンプトで「Q」と入力します。

Windows 2000 の場合： コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して、[停止] をクリックします。

- ❑ インベントリをインストールする際には、上位から下位へと展開します。常に最上位レベルのサーバからインストールを開始し、以降 1 レベルずつ下位のサーバのインストールを続けます。たとえば、ルートサーバとリーフサーバを含むインベントリセットアップの場合、ルートサーバに対するインベントリのインストールを完了してから、リーフサーバのインストールを実行します。
- ❑ Desktop Management インベントリサーバとデータベースのコンポーネントをインストールするサーバに有効な DNS 名が設定されていることを確認します。Desktop Management Server ソフトウェアのインストールに使用するワークステーションが DNS ルックアップを実行するように適切に設定されていることも確認します。

サーバに DNS 名が設定されていない場合は、Desktop Management インベントリポリシー設定時にサーバの IP アドレスを選択する必要があります。サーバの IP アドレスまたは DNS 名設定の詳細については、[63 ページの「NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定」](#)を参照してください。

5

ZENworks Middle Tier Server のインストール条件

NetWare サーバにインストールする場合は、管理者または同等の権利でログインする必要があります。これにより、インストールプログラムが eDirectory ツリーと NetWare サーバを参照できるようになります。

Windows 2000 サーバにインストールする場合は、Administrator または同等の権利でログインする必要があります。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ [39 ページの「ZENworks Middle Tier Server の制限」](#)
- ◆ [41 ページの「ZENworks Middle Tier Server のハードウェア要件」](#)
- ◆ [41 ページの「ZENworks Middle Tier Server のソフトウェア要件」](#)
- ◆ [43 ページの「Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントのポート設定」](#)
- ◆ [44 ページの「Middle Tier Server のための Apache Web Server の最適化」](#)

ZENworks Middle Tier Server の制限

ZENworks Middle Tier Server をインストールする前に、次の制限に注意する必要があります。

- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management は、Windows NT 4 サーバへの ZENworks Middle Tier Server のインストールをサポートしていません。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management は、アプリケーションモードで実行している Windows ターミナルサーバへの ZENworks Middle Tier Server のインストールをサポートしていません。ZENworks Middle Tier Server として機能する Windows ターミナルサーバは、リモート管理モードで実行する必要があります。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management は、Novell クラスタリングサービス環境への ZENworks Middle Tier Server のインストールをサポートしていません。詳細については、[369 ページの付録 B「Novell Cluster Services 環境へのインストール」](#)を参照してください。
- ◆ デフォルトでは、Apache Web Server はポート 80 (HTTP) とポート 443 (HTTPS) 上で通信するように設定されています。ただし、Novell iFolder[®] や iPrint など、他の NetWare 6 コンポーネントが NetWare 6 にすでにインストールされていると、NetWare Port Resolver が Apache 以外の HTTP スタックにポート 80 とポート 443 を割り当てる可能性があります。

Novell iFolder も Apache を使用して稼動します。iFolder 1.3 の Apache サーバがカーネルメモリではなく保護されたメモリスペースにロードされた場合、HTTP スタックの別のインスタンスが作成されます。デスクトップ管理エージェントは、Apache とデスクトップ管理エージェントの両方に対して設定されたポートを使用して ZENworks Middle Tier Server と通信します。ポート設定の詳細については、[43 ページの「Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントのポート設定」](#)を参照してください。

- ◆ ZENworks 6.5 Middle Tier Server は、NetWare 6 上でのマルチプロセッサ対応バージョンの Apache Web Server をサポートしません。マルチプロセッサ対応バージョンの Apache を搭載する NetWare 6 に ZENworks Middle Tier Server をインストールすると、サーバは異常終了します。
- ◆ Novell NetStorage は、NetWare 6 上にインストールされた ZENworks 6.5 Middle Tier Server をサポートしません。NetStorage を Desktop Management 機能として以外にも使用する場合は、NetStorage を別のサーバにインストールすることをお勧めします。
- ◆ Novell NetStorage は、ZENworks 6.5 Middle Tier Server と共にインストールされます。ZENworks Middle Tier の使用頻度が高く、NetStorage を Desktop Management 機能として以外にも使用する場合は、Middle Tier のパフォーマンス低下を避けるために NetStorage も別のサーバにインストールすることをお勧めします。
- ◆ Windows 2000/2003 サーバに Novell Client をインストールして、同じコンピュータに Middle Tier Server をインストールした場合、このサーバから Novell Client をアンインストールすると、Middle Tier Server で障害が発生します。Novell Client のアンインストールプログラムを実行すると、ZENworks Middle Tier Server で必要とされる重要なファイルが削除されます。

この同じシナリオで、Novell Client を 4.9 SP2 にアップグレードすると、異なるバージョンの `nicm.sys` がインストールされます。ZENworks 6.5 Middle Tier Server に含まれる `nicm.sys` を使用しないと、Middle Tier Server で障害が発生します。

この問題を回避するには、次の 2 つのオプションがあります。

- 1) Novell Client をアップグレードする前に ZENworks 6.5 Middle Tier Server に含まれる `nicm.sys` ファイルを保存し、アップグレード前に再びコピーします（この場合、Novell Client のアップグレード後に Middle Tier を再インストールする必要があることがあります）。
 - 2) Novell Client のアップグレード後に、Novell Support Knowledgebase の [TID 10093371](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10093371.htm) (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10093371.htm>) から `nicm.sys` をダウンロードし、コピーすることにより、更新された Novell Client のバージョンの `nicm.sys` を上書きします。
- ◆ Active Directory (Desktop Management Server がプライマリドメインコントローラとして機能するためにインストール) と eDirectory (ZENworks Desktop Management に対応するためにインストール) の両方がすでにインストールされている Windows 2000/2003 コンピュータにインストールした Desktop Management Server に対して、ZENworks Middle Tier Server を通して認証を行おうとすると、フルコンテキストでログインしている場合でも、認証に失敗します。

これは、Active Directory と eDirectory の LDAP リスナ間でデフォルトの LDAP ポートが競合することが原因です。このようなポートの競合を回避するには、eDirectory のインストール時にデフォルト以外の LDAP ポートを選択した後、ZENworks Middle Tier Server の NSAdmin ユーティリティを使用して ZENworks Middle Tier Server がそのポート上で通信するように設定します。

NSAdmin を使用して LDAP ポートを設定するには

- 1 Internet Explorer の [アドレス] ボックスに、NSADMIN ユーティリティの URL を入力します。例：
`http://Middle_Tier_IP_address/oneNet/nsadmin`
- 2 LDAP ポート設定パラメータの [値] フィールドに、eDirectory ですでに設定した LDAP ポートの番号を入力します。このポートは、ZENworks Middle Tier Server が Desktop Management Server との通信に使用するポートです。次に、[Submit (送信)] をクリックします。

ZENworks Middle Tier Server のハードウェア要件

ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールするネットワークサーバに対しては、次のようなハードウェア構成が必要です。

リソース	ディスクの最低 空き容量	最低ハードウェア要件
NetWare 6 サーバ	160 MB	Pentium III プロセッサ (最低)、256 MB RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1 GB RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。
NetWare 6.5 サーバ	160 MB	Pentium III プロセッサ (最低)、256 MB RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1 GB RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。
Windows 2000 サーバ	160 MB	Pentium III プロセッサ (最低)、256 MB RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1 GB RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。
Windows Server 2003	160 MB	Pentium III プロセッサ (最低)、256 MB RAM。200 人の同時ユーザまでスケールする場合は、Pentium III、1 GB RAM を使用します。これ以上は、適宜スケールします。

注：ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアは Windows NT 4 サーバ上ではサポートされません。IIS がインストールされている Windows 2000 Professional ワークステーションでもサポートされません。

ZENworks Middle Tier Server のソフトウェア要件

ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールするネットワークサーバに対しては、次のようなソフトウェア構成が必要です。

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
NetWare 6 サーバ	<ul style="list-style-type: none">◆ Support Pack 4 (最低)◆ SSL 接続を使用する場合は、NICI (Novell International Cryptographic Infrastructure) クライアント 2.4.0 がインストールされていること。NICI は、Novell Product Downloads (http://download.novell.com) から入手できます。◆ eDirectory 8.7.3 (必要最低)

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
NetWare 6.5 サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Support Pack 1(最低) ◆ SSL 接続を使用する場合は、NICI(Novell International Cryptographic Infrastructure) クライアント 2.4.0 がインストールされていること。NICI は、Novell Product Downloads (http://download.novell.com) から入手できます。
Windows 2000 サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ IIS がインストールされていること (Windows 2000 サーバに付属のバージョン) ◆ Windows 2000 Server Service Pack 4(最低) ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること ◆ Windows 2000 Desktop Management Server に接続する場合は、両方の Windows 2000 サーバが同じ Active Directory ドメインのメンバーであるか、属しているドメイン間に信頼関係が存在する必要があります。Desktop Management Server が MSI アプリケーションを配布中でなければ、ログインしているワークステーションがドメインのメンバーである必要はありません。ドメイン内にはドメインコントローラとして指定されたサーバが必要です。ドメインコントローラには、ZENworks Middle Tier Server または Desktop Management Server を指定できます。 ◆ SSL 接続を使用する場合は、NICI(Novell International Cryptographic Infrastructure) クライアント 2.4.0 がインストールされていること。NICI は、Novell Product Downloads (http://download.novell.com) から入手できます。
Windows Server 2003	<ul style="list-style-type: none"> ◆ IIS がインストールされていること (Windows Server 2003 に付属のバージョン) ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること ◆ Windows 2003 Desktop Management Server に接続する場合は、両方の Windows Server 2003 のコンピュータが同じ Active Directory ドメインのメンバーであるか、属しているドメイン間に信頼関係が存在する必要があります。Desktop Management Server が MSI アプリケーションを配布中でなければ、ログインしているワークステーションがドメインのメンバーである必要はありません。ドメイン内にはドメインコントローラとして指定されたサーバが必要です。ドメインコントローラには、ZENworks Middle Tier Server または Desktop Management Server を指定できます。 ◆ SSL 接続を使用する場合は、NICI(Novell International Cryptographic Infrastructure) クライアント 2.4.0 がインストールされていること。NICI は、Novell Product Downloads (http://download.novell.com) から入手できます。

重要： IIS Web サーバのログが正しく設定されていない場合、Middle Tier Server と共に IIS によって使用される Web サイトのログファイル (C:\windows\system32\logfiles\w3svc1\yymmdd.log) のサイズが巨大化し、Windows サーバで使用するディスク容量が許容できないレベルに達する場合があります。

Windows Server 2003 用に Web サイトのログを設定する方法については、マイクロソフトのサポート技術情報 Web サイトの [マイクロソフト サポート技術情報 - 324279 \(http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;324279\)](http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;324279) を参照してください。

Middle Tier Server は、myapps.html と呼ばれる Novell Application Explorer の Web ブラウザビューを介して利用できるアプリケーションをホストする場合にも使用されます。myapps.html のインストールの詳細については、[11 章 123 ページの「Novell Application Launcher プラグインのインストール」](#)を参照してください。myapps.html の構成と使用の詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「[Novell Application Launcher: ビューのカスタマイズ](#)」にある「[Application Browser ビューのカスタマイズ](#)」を参照してください。

Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントのポート設定

デスクトップ管理エージェントと Web サーバソフトウェアが ZENworks Middle Tier Server のコンピュータ (NetWare 上の Apache HTTP Server および Windows 上の IIS) にインストールされて同じポート上で通信するようにセットアップされている場合、デスクトップ管理エージェントはワークステーションが企業ファイアウォールの中にあっても外にあっても ZENworks Middle Tier Server と通信できます。

80 番と 443 番のデフォルトポート指定を変更する場合、デフォルト以外の追加ポートを変更するか割り当てる場合、Web サーバのポートに合わせてデスクトップ管理エージェントのポートを変更する場合は、通信ポートの設定方法を知る必要があります。

注：設定可能なポートの一覧については、[NetWare 6 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/lg/nw6p/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/nw6p/index.html) の「*Managing Web Servers and Other Web Tools*」にある「*Getting Results with Novell Web Servers and Tools*」の「*Port Number Assignments*」の付録を参照してください。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 43 ページの「NetWare 上の Apache Web Server のポート設定」
- ◆ 43 ページの「Windows 上の IIS のポート設定」
- ◆ 44 ページの「eDirectory 8.7.3をインストールしたWindows 2000サーバ環境における Dhost ポート割当の変更」
- ◆ 44 ページの「デスクトップ管理エージェントのポート設定」

NetWare 上の Apache Web Server のポート設定

NetWare 6 サーバ上の Apache: NetWare 6 上で Apache Web Server のポートを設定するには、`sys:¥apache¥conf` ディレクトリの `adminserv.conf` を開いて編集します。現在のポートが割り当てられている行を探します。ポート番号は、変更することも追加することもできます。リッスンに使用される安全なポートにするかどうかも指定できます。安全ではないポートで新しいポートの割り当てを作成する場合は、既存のポートの環境設定行をテンプレートとして使用します。安全なポート (HTTPS) を指定するには、ポート 443 を使用する必要があります。

Novell Application Launcher の Web ブラウザビュー (`myapps.html`) を使用する場合は、ポート番号を編集して Apache Web サーバのポートに合わせる必要があります。NetWare 6 サーバでは、`myapps.html` は `sys:¥apache¥nwdocs` ディレクトリにあります。

Windows 上の IIS のポート設定

IIS でポート番号を設定するには

- 1 サーバのデスクトップで [プログラム] > [管理ツール] > [インターネット サービス マネージャ] > [インターネット インフォメーション サービス] の順にクリックし、[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウを開きます。
- 2 ZENworks Middle Tier Server アイコンの「+」記号をクリックして階層を展開します。
- 3 [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックして、[Default Web Site Properties (既定の Web サイトのプロパティ)] ダイアログボックスを開きます。

- 4 ダイアログボックスの Web サイトページ（デフォルトで開かれるページ）の [TCP ポート] フィールドでポート番号を変更します。安全なポート（HTTPS）を指定するには、ポート 443 を使用する必要があります。

または

Web サイトページで [詳細] をクリックし、ダイアログボックスの指示に従って複数のポート番号を追加します。

Novell Application Launcher の Web ブラウザビュー (myapps.html) を使用する場合は、ポート番号を編集して IIS サーバのポートに合わせる必要があります。Windows サーバでは、myapps.html は c:\inetpub\wwwroot ディレクトリにあります。

eDirectory 8.7.3 をインストールした Windows 2000 サーバ環境における Dhost ポート割当の変更

Windows 2000 サーバ上で eDirectory 8.7.3 をインストールすると、Dhost サービスがポート 80 に設定され、そのポートで起動します。同じ Windows 2000 サーバに ZENworks Middle Tier Server を引き続きインストールすると、IIS Web サーバもポート 80 を使用しようとしします。したがって、ポートの競合が発生して次のメッセージが表示されます。

アドレスはすでに使用されています。

ZENworks Middle Tier Server は、Dhost ポート割り当てがポート 80 以外に変更されない限り起動しません。Dhost ポートの割当を変更するには、次の手順に従います。

- 1 ConsoleOne を開き、eDirectory をインストールしたルートコンテナをダブルクリックします。
- 2 Http Server-server_name のプロパティを開き、[その他] タブをクリックします。
- 3 [その他] ページで httpDefaultClearPort をダブルクリックし、80 をダブルクリックしてポート番号を 80 以外のポートに変更します。
- 4 [OK] をクリックして ConsoleOne を閉じ、Windows サーバを再起動します。

デスクトップ管理エージェントのポート設定

デフォルトではポート 80 がインストール時にデスクトップ管理エージェントに割り当てられます。Web サーバのポート（Apache または IIS 上）が変更されている場合や、Web サーバに対してすでに設定されている代替ポートをデスクトップ管理エージェント用に選択する場合は、Web サーバのポート割当を変更します。デスクトップ管理エージェントのポート番号の割り当て方法については、[102 ページのステップ 8](#)を参照してください。

インストール後にポートがデスクトップ管理エージェントに割り当てられていても、異なるポートへの接続を指定することができます。詳細については、[146 ページの「エージェントのログインのカスタマイズ」](#)を参照してください。

Middle Tier Server のための Apache Web Server の最適化

NetWare 上の ZENworks Middle Tier Server のパフォーマンスを最適化するには、Apache Web Server の ThreadsPerChild 設定パラメータをデフォルトの 50 から 512 に変更する必要があります。方法については、[45 ページの「NetWare 6 Middle Tier Server のインストールのための Apache Web Server の最適化」](#)を参照してください。

NetWare 6 Middle Tier Server のインストールのための Apache Web Server の最適化

NetWare 6 上で Apache Web Server を最適化するには、`adminserv.conf` の `ThreadsPerChild` パラメータを編集する必要があります。このファイルは `sys:¥apache¥conf` フォルダにあります。ファイル内の設定パラメータの最初のいくつかは次のようになっています。

```
ServerType standalone
ServerRoot "sys:/apache"
PidFile logs/httpd.pid
ScoreBoardFile logs/apache_status
Timeout 300
KeepAlive On
MaxKeepAliveRequests 100
KeepAliveTimeout 15
ThreadsPerChild 50
```

`ThreadsPerChild` パラメータの値を 50 から 512 に変更します。

6

ユーザワークステーションの要件

ZENworks Desktop Management はクライアントのない環境で動作するように設計されています。つまり、エンドユーザのワークステーションは Novell Client だけに依存して Desktop Management Server ソフトウェアと通信するものではありません。

これは、Novell Client があってはならないということではありません。実際、ZENworks Desktop Management の新しいワークステーション機能がデスクトップ管理エージェントといっしょにインストールされている場合でも、ユーザは Novell Client (バージョン 3.34/4.9 以降) を使用することができます。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 47 ページの「サポートされるワークステーションプラットフォーム」
- ◆ 47 ページの「ユーザワークステーションのハードウェア要件」
- ◆ 48 ページの「ユーザワークステーションのソフトウェア要件」

デスクトップ管理エージェントソフトウェアをデスクトップコンピュータにインストールする詳細については、99 ページの「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」を参照してください。

サポートされるワークステーションプラットフォーム

ZENworks Desktop Management は、次のデスクトッププラットフォームで広範囲にわたってテストされています。

- ◆ Windows 2000 Professional、Service Pack 4 適用済み
- ◆ Windows XP Professional、Service Pack 1 適用済み (最低要件)
- ◆ Windows 98 SE

ユーザワークステーションのハードウェア要件

ZENworks Desktop Management の機能や性能を最大限に活用するためには、デスクトップ管理エージェントをインストールする ZENworks Desktop Management 管理対象ワークステーションのデスクトップコンピュータに、少なくとも次の処理速度、ディスク容量、および RAM が必要です。

リソース	ディスクの最低空き容量	最低ハードウェア要件
ユーザワークステーション (デスクトップ管理エージェントの完全インストール)	20 MB	Pentium 互換プロセッサ (32 ビットのみ)、200MHz、64MB の RAM

重要：ZENworks Desktop Management は、NEC*9800 シリーズのパーソナルコンピュータ (PC98) ではサポートされていません。

起動前サービスをインストールするワークステーションには、次のハードウェアが必要です。

仕様	最低要件
プロセッサ	Pentium、75MHz 以上
ネットワークカード	PXE 対応（ネットワークカードを PXE 対応にできない場合は、PXE-on-Disk ブートディスクを使用すればワークステーションを起動できます）
使用可能な空き容量	必要なし
RAM	16MB。ワークステーションでワークステーションイメージングを使用する場合は 128MB を推奨
グラフィックディスプレイ	VGA (16 ビットカラー)
レイ	

起動前サービスをインストールするサーバか、同じネットワーク内の別のサーバに標準の DHCP サーバをインストールしてから、起動前サービスをインストールする必要があります。

標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上に起動前サービス（特にプロキシ DHCP コンポーネント）をインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「NetWare 6.x DHCP サーバでの標準の DHCP/ プロキシ DHCP サービスのセットアップ」および「Windows 2000 Advanced Server での標準の DHCP/ プロキシ DHCP サービスのセットアップ」を参照してください。

ユーザワークステーションのソフトウェア要件

デスクトップ管理エージェントを適切に動作させるには、ユーザワークステーションにいくつかのソフトウェアをインストールしておく必要があります。次の表は、それらのソフトウェアの一覧を示しています。

必要なソフトウェア	構成の詳細
Internet Explorer	バージョン 5.5 SP2 以降、高度なセキュリティ (128 ビット以上) 暗号化が必要です。デスクトップ管理エージェントは、Internet Explorer に組み込まれているセキュリティとインターネットアクセス制御を使用します。 ワークステーションのいずれかに Explorer 6.0 がインストールされている場合は、cookie を受け入れるようにプライバシーが設定されていることを確認します。デフォルトでは、Internet Explorer 6.0 はクッキーを受け入れません。
MSI (Microsoft Windows Installer)	Windows 2000 に付属のバージョン 1.11 以降が必要です。 デスクトップ管理エージェントのインストールプログラムは自動的に MSI 1.2 をインストールします。MSI 2.0 は、Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD の %microsoft windows installer フォルダから入手できます。

注：認証に Novell Client のみを使用する場合（必須ではありません）は、すべての機能を利用するにはバージョン 4.9 SP1a 以降が必要です。



インストール

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management には、次のインストールプログラムが含まれています。

- ◆ **Desktop Management Server:** ネットワーク上のユーザおよびワークステーションのポリシーとプロファイルを中央で作成および管理できます。このポリシーおよびプロファイルにより、ネットワーク内の Windows ワークステーションへのアプリケーションの配布、管理、更新のほか、高度なインベントリ管理機能とリモート管理機能の実行、およびオペレーティングシステムの自動インストールが可能になります。
- ◆ **ZENworks Middle Tier Server:** ネットワークサーバ上にインストールされた Web Server ソフトウェアを使用して企業ファイアウォール内の Desktop Management と企業ファイアウォール外のワークステーション間の認証と通信をセットアップします。このような通信によりモバイルユーザが旅行中にデスクトップ管理サービスにアクセスできるようになります。Novell Client™ が不在ワークステーションの通信も可能です。
- ◆ **デスクトップ管理エージェント:** このソフトウェアには、ワークステーションのリモート制御、アプリケーションの受信、またはワークステーションへのポリシー送信に必要な機能が含まれています。このソフトウェアにより、ワークステーションが従来の Novell Client を使用せずに、ZENworks Middle Tier Server を通して Desktop Management Server への認証を実行することも可能になります。

ZENworks Desktop Management コンポーネントが提供するワークステーションの機能は、デスクトップ管理エージェントをインストールした場合のみ利用できます。このことは、現在ワークステーションに Novell Client をインストールしている場合にも当てはまります。デスクトップ管理エージェントをインストールすると、Novell Client がインストールした Desktop Management の機能が削除され、選択した ZENworks ワークステーションの機能に置き換えられます。

- ◆ **(オプション)Novell Application Launcher プラグイン:** Novell Application Launcher™ の単純化バージョン（デスクトップ管理エージェントといっしょにインストール）です。Middle Tier Server からインストールでき、ユーザにアプリケーションを配布できるようにします。
- ◆ **(オプション)ZENworks Launch ガジェット:** このソフトウェアにより、ユーザは Novell eXtended Director™ 4.1 SE ポータルからアプリケーションを起動できます。

コンポーネントをネットワーク環境にインストールする場合、次の節に記載された情報が参考になります。

- ◆ 7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」
- ◆ 8 章 73 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール」
- ◆ 9 章 95 ページの「Desktop Management Server と Middle Tier Server の同一コンピュータへのインストール」
- ◆ 10 章 99 ページの「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」

- ◆ 11 章 123 ページの「Novell Application Launcher プラグインのインストール」
- ◆ 12 章 129 ページの「ZENworks Launch ガジェットのインストール」
- ◆ 13 章 133 ページの「ターミナルサーバアプリケーションのサポートの設定」
- ◆ 14 章 143 ページの「認証のセットアップ」
- ◆ 15 章 151 ページの「セキュリティ対策のセットアップ」
- ◆ 16 章 159 ページの「Windows ネットワーク環境でのインストール」

7

ZENworks Desktop Management Serverのインストール

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 51 ページの「Desktop Management Server のインストール手順」
- ◆ 63 ページの「NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定」
- ◆ 64 ページの「ディレクトリスキーマが拡張されたかどうかの確認」
- ◆ 64 ページの「必要なデスクトップポリシーのセットアップ」
- ◆ 70 ページの「自動ワークステーションインポートのセットアップ」
- ◆ 71 ページの「ODBC ドライバのインストール」

Desktop Management Server のインストール手順

インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件および前提条件 (27 ページの「準備」を参照) を満たしている場合は、次の手順を実行して、Novell® ZENworks® Desktop Management Server をインストールし、NetWare® または Windows サーバで実行します。

- 1 Windows 2000/XP ワークステーション (または Windows 2000/2003 サーバ) を選択して、Desktop Management Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」を参照してください。
- 2 Windows ワークステーションに、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を挿入します。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

注：ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

重要：インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を取り出したり、インストール先のサーバへの接続が切断されたりすると、インストールプログラムは中断されます。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャで [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

Novell® ZENworks® 6.5		バージョン 6.5	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			→ 終了

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management		バージョン 6.5	N
スキーマの拡張と製品のライセンス	Novell eDirectoryツリーのスキーマを拡張し、ZENworks Desktop Managementをサポートします。また、ライセンスコードをインストールします。		
Desktop Management Services	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、デスクトップ、ワークステーション、およびラップトップを管理します。		
Middle Tier Server	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、Desktop Management AgentとDesktop Management Serviceとの間の要求を処理します。		
Desktop Management Agents	ワークステーション上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、アプリケーションの配布およびデスクトップ管理を行います。Microsoft Windows Installerが必要です。		
Documentation	Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			← 戻る → 終了

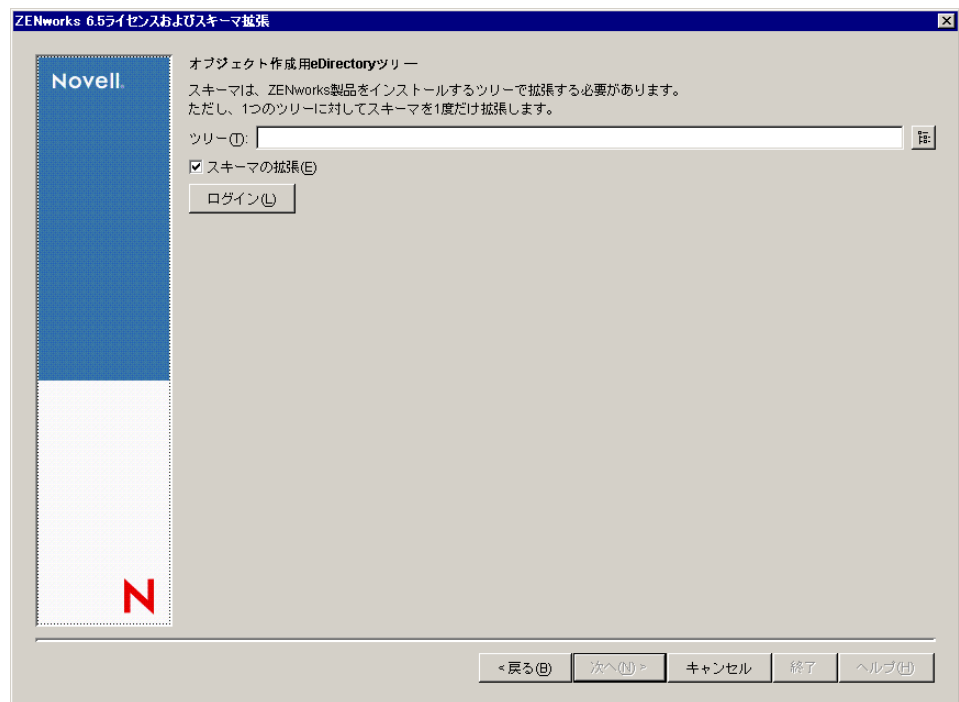
このページから、実際に新しいデスクトップ管理製品をインストールする前にスキーマを拡張したり、インストール手順の一部としてスキーマを拡張することができます。

- ◆ 53 ページの「インストール前のスキーマの拡張」
- ◆ 54 ページの「完全インストール（スキーマの拡張を含む）の実行」

インストール前のスキーマの拡張

Desktop Management Server をインストールするネットワーク環境が大規模なツリーの場合、新しい Desktop Management 製品をインストールする前に、スキーマを拡張して Novell eDirectory™ ツリーを安定化することができます。最初にスキーマを拡張するには、次の手順に従います。

- 1 [Schema Extension and Product Licensing (スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] を選択し、ZENworks Desktop Management スキーマの拡張と製品のライセンス契約ウィザードを起動します。
- 2 ライセンス契約の条項に同意して [次へ] をクリックしたら、ウィザードの [オブジェクト作成用 eDirectory ツリー] ページで、ZENworks Desktop Management スキーマの拡張を追加する eDirectory ツリーの名前を参照または入力します。[スキーマの拡張] を選択し、[次へ] をクリックします。

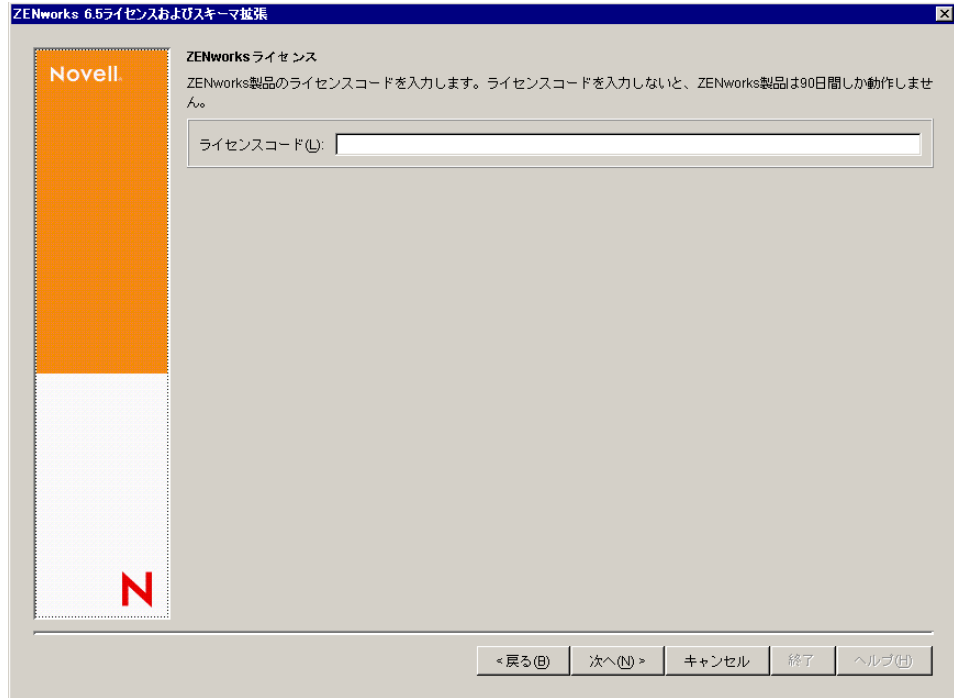


ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

スキーマの拡張操作に要する時間は、ツリーのサイズと複雑さによって異なります。

- 3 [ZENworks ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを入力し、[次へ] をクリックします。

このページでライセンスコードを入力しなければ、この ZENworks Desktop Management のインストールは評価版と見なされます。評価版としてインストールすると、定期的な間隔で製品のライセンスを取得するように促されます。90 日が経過すると、評価版の製品は動作しなくなります。



スキーマの拡張操作が完了すると、c:\%novell%\zfdtemp\zwextsch.log にログファイルが作成されます。

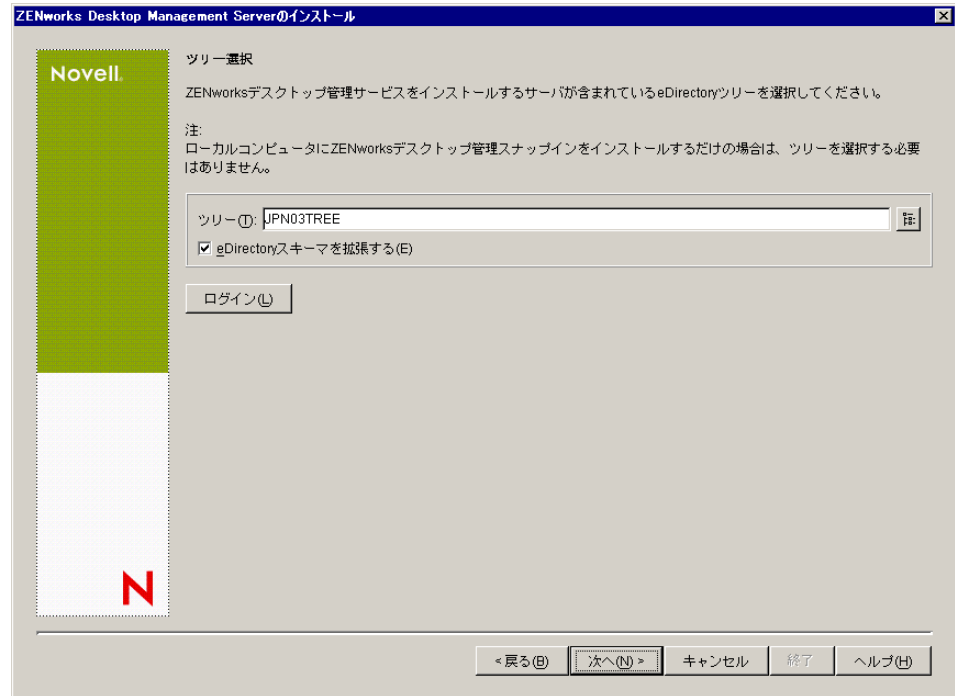
完全インストール（スキーマの拡張を含む）の実行

スキーマの拡張後に Desktop Management Server ソフトウェアをインストールする場合、またはインストールの一部としてツリーのスキーマを拡張する場合は、次の手順に従います。

- 1 [デスクトップ管理サービス] をクリックし、Desktop Management Server インストールウィザードを起動します。
- 2 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 3 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 4 [Installation Requirements(インストール要件)] ページで、Desktop Management Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。

- 5 [ツリー選択] ページで、Desktop Management Server をインストールする Novell eDirectory ツリーの名前を入力または参照します。このインストールのスキーマをまだ拡張していない場合は (53 ページの「インストール前のスキーマの拡張」を参照)、[スキーマの拡張] を選択し、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするツリーのスキーマを拡張します。[次へ] をクリックします。

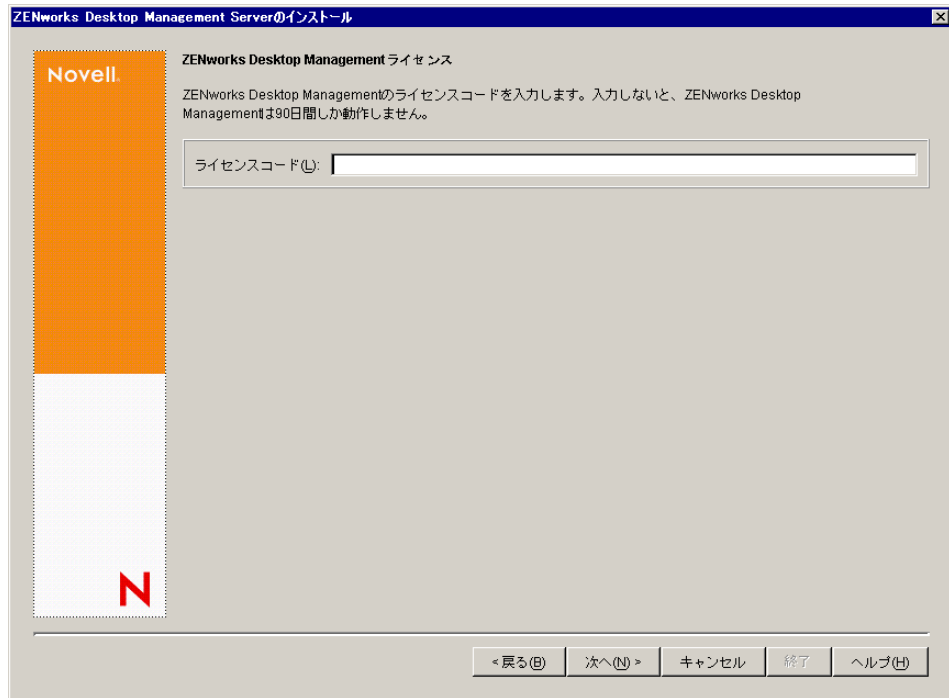
注：Desktop Management Server ソフトウェアを複数のツリーに同時にインストールすることはできません。



ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

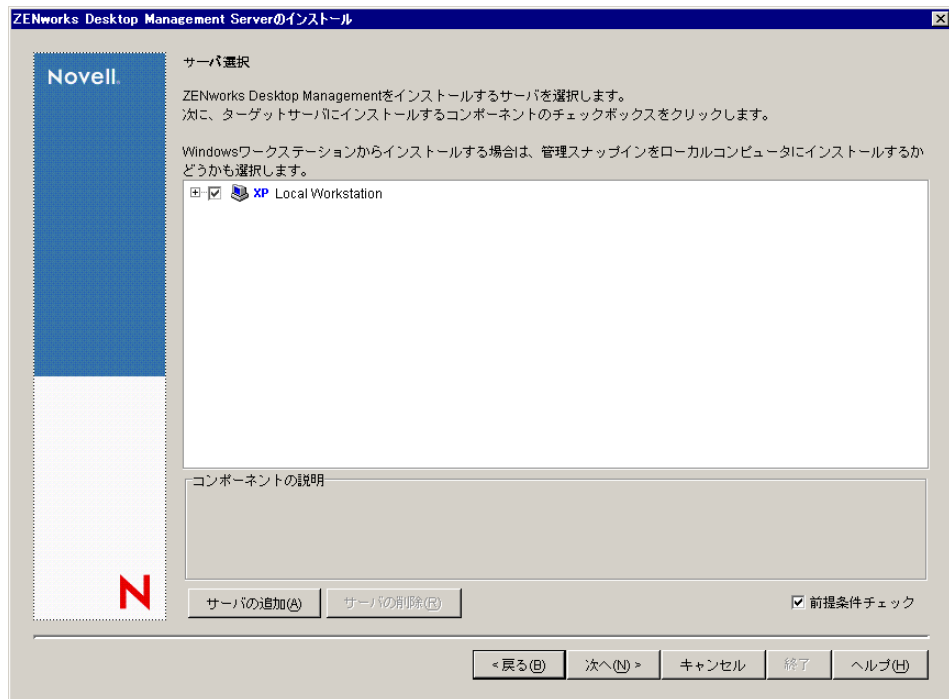
- 6 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。

このページでライセンスコードを指定しない場合、ZENworks Desktop Management のこのインストールは評価版とみなされます。評価版としてインストールすると、定期的な間隔で製品のライセンスを取得するように促されます。90 日経つと、評価版は機能しなくなります。



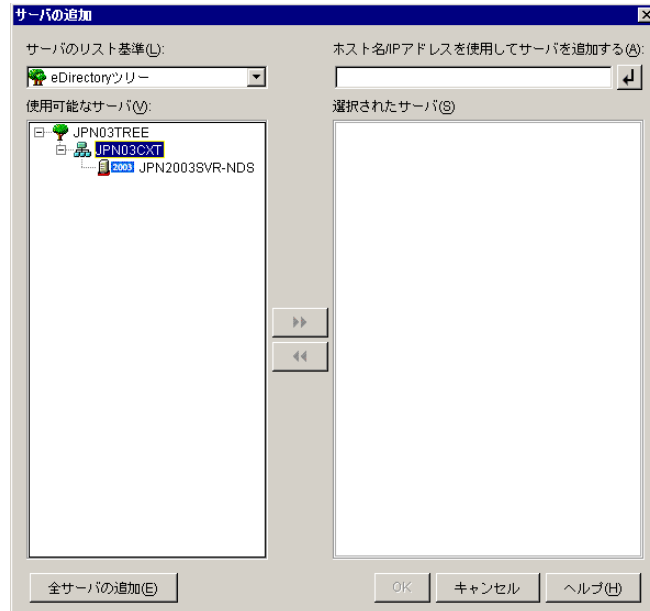
- 7 [サーバ選択] ページで、[サーバの追加] をクリックし、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするサーバの名前を参照します。

ステップ 5 で選択したツリーからのみサーバを選択できます。1 度に最大 7 つのサーバにインストールできます。




- 7a (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとにサーバを一覧表示できます。サーバにインストールするには、[eDirectory ツリー] を選択し、インストール先のサーバの名前を参照してクリックするか、[全サーバの追加] をクリックしてコンテナ内のすべてのサーバを選択します。右方向矢印ボタンをクリックして、選択したサーバを [選択されたサーバ] ペインに移動し、[OK] をクリックします。

注： 認証されていない Windows サーバを追加する場合は、サーバのアイコンをダブルクリックしてダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Windows 認証に必要なアカウント情報を入力します。



- 7b (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、[ホスト名 / IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドにサーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。指定した値は、サーバの名前に解決できる必要があります。

 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- 8 この [サーバ選択] ページで、事前に選択した Desktop Management コンポーネント用にインストールするサービスを指定します。[次へ] をクリックし、設定を保存します。

リストに含まれている設定は、次のとおりです。

[ローカルワークステーション]： ConsoleOne 1.3.6 のインストールプログラムでは、ConsoleOne ファイルをローカルハードドライブにインストールすることができますが (パフォーマンスが若干向上します)、この方法ではデスクトップ管理サービススナップインはインストールされません。

[ローカルワークステーション] オプションの [Desktop Management Service Snap-ins (デスクトップ管理サービススナップイン)] を選択することで、ローカルワークステーションにデスクトップ管理サービススナップインをインストールするオプションを利用できます。スナップインを追加するには、ConsoleOne をワークステーションにインストールしておく必要があります。

[デスクトップ管理サービス]：デスクトップ管理サービス（「Desktop Management Server」は総称です）は、ワークステーションのアプリケーションとポリシーを設定し配布できるファイルおよびプログラムであり、一般的に使用されます。これらのサービスによって、Windows のアプリケーション、ユーザ、ワークステーションの設定、処理、および動作を自動的に管理できます。

- ◆ **[アプリケーション管理]**：アプリケーション、更新、およびパッチの配布や修復、トラッキングの自動化を有効にするソフトウェアをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **[ワークステーション管理共通コンポーネント]**：ユーザをワークステーションおよびネットワークに対して認証したり、環境設定情報を eDirectory との間で送受信するために使用するワークステーション常駐モジュールをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **[リモート管理]**：中央コンソールからのワークステーションのリモート管理を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このコンポーネントを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のリモート管理コンポーネントがインストールされていないことを確認してください。

[追加オプション]：デスクトップ管理サービスの展開をカスタマイズする場合は、その目的に応じて次の中からサービスを選択します。

- ◆ **[デスクトップ管理データベース]**：発生したアプリケーションのイベント（インストール、起動、キャッシュなど）に関するデータのリポジトリとして、Novell Application Launcher™ で使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **[インベントリデータベース]**：インベントリ対象ワークステーションから収集したハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報のリポジトリとして、ワークステーションインベントリで使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。

重要：Inventory データベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。

『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の手順に従ってください。

- ◆ **[インベントリサーバ]**：管理されたワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報の収集と表示を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、そのコンポーネントを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする必要があります。

- ◆ **[インベントリプロキシサーバ]**：ネットワークファイアウォールを越えて配置されたインベントリサーバへの、インベントリスキャンデータのロールアップを有効にするプロキシサービスをインストールする場合は、このオプションを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のインベントリコンポーネントがインストールされていないことを確認してください。
- ◆ **[イメージングサーバ]**：ワークステーションにワークステーションイメージファイルを作成、保存、送信、または復元するために使用する Linux イメージング環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。

注：イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

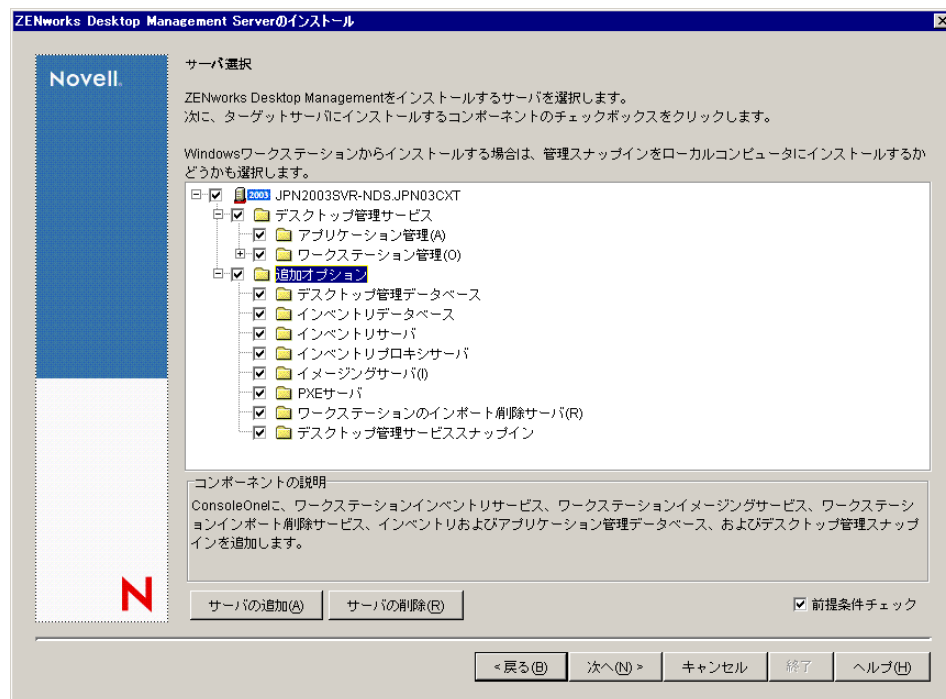
- ◆ **[PXE サーバ]**：Preboot Execution Environment(PXE) が有効なワークステーションと通信し、そのワークステーションにイメージングタスクを送信できるようにするために、サーバで使用する PXE プロトコルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

起動前サービスをインストールすると、インストールされるコンポーネントにプロキシ DHCP サーバが含まれます。標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上にプロキシ DHCP サーバをインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。

注：イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

- ◆ **[ワークステーションのインポート / 削除サーバ]**：ワークステーションオブジェクトを eDirectory に追加する（すでに追加されている場合は削除する）ファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。ワークステーションオブジェクトは、アプリケーションまたはコンピュータの設定を受信するために eDirectory で管理されます。
- ◆ **[デスクトップ管理サービススナップイン]**：デスクトップ管理ツールおよびユーティリティを起動し、eDirectory でデスクトップ管理オブジェクトのプロパティページを表示して、これらのオブジェクトを参照したり設定できるように、ConsoleOne に追加機能をインストールする場合は、このオプションを選択します。

注：カスタム選択を実行するには、1 つまたは複数のサーバを選択して右クリックし、ポップアップメニューを表示します。このポップアップメニューに表示されるオプションを使用して、選択したすべてのサーバにデータベースサービス、インベントリサービス、またはイメージングサービスを追加することができます。[デフォルト] オプションを使用すると、選択内容を最初の状態に戻すことができます。[カスタム選択] では、選択したすべてのサーバの特定のコンポーネントを選択できる別のダイアログボックスが表示されます。ここでの選択は、すでに選択している内容よりも優先されます。

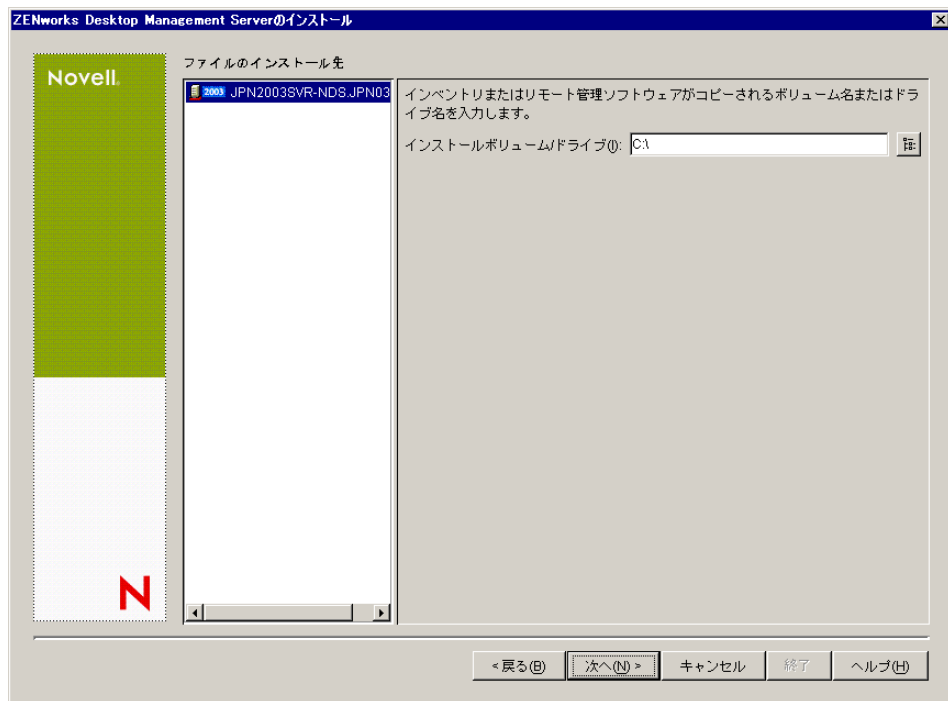


- 9 (オプション) デフォルトでは、[前提条件チェック] チェックボックスが選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択内容を保存します。インストールプログラムでは、サーバのネットワークオペレーティングシステムのバージョン (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバおよびインストールするワークステーション上の Novell Client (4.9 SP1a) の有無とバージョン、および ConsoleOne (1.3.6) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合は、警告メッセージが表示され、インストールは続行されません。警告メッセージが表示されると、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるか、チェックボックスの選択を解除するまでインストールを続行することはできません。

- 10 (ワークステーションインベントリまたはリモート管理が選択されている場合はオプション) [ファイルのインストール先] ページで、[選択されたサーバ] リストから 1 つまたは複数のターゲットサーバを選択し、ワークステーションインベントリ、またはリモート管理の各ファイルをインストールするボリュームまたはドライブを参照するか入力します。デフォルトは、Novell NetWare サーバの場合は SYS、Windows サーバの場合は C: になります。

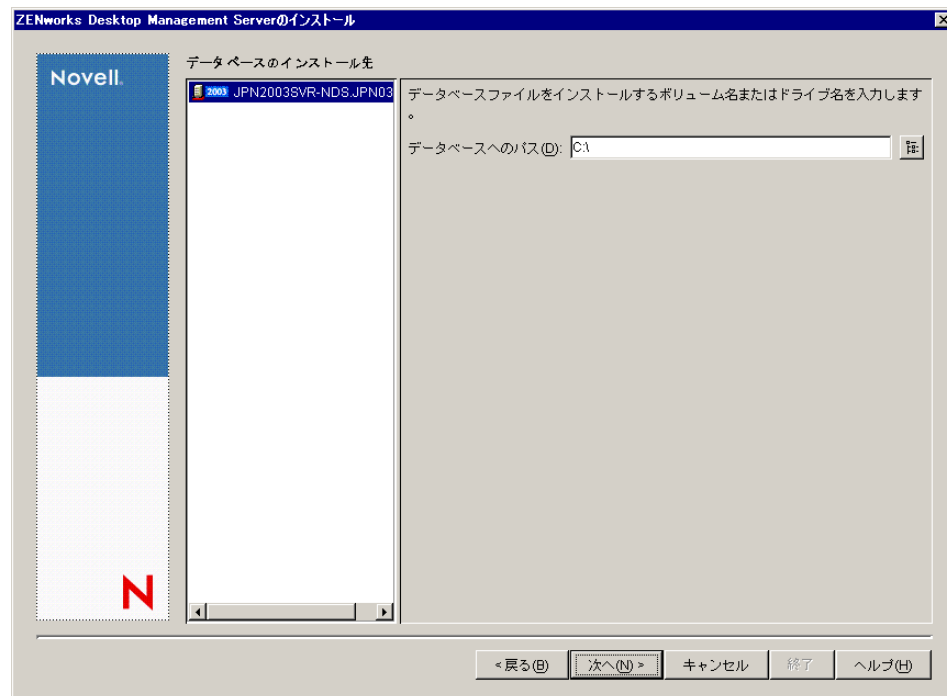
注： ZENworks 6.5 のワークステーションインベントリまたはリモート管理コンポーネントの以前のインストールがコンピュータで検出されると、既存のパスが淡色表示されます。今回のインストールでは、すべてのファイルがその既存のパスにインストールされます。



- 11 (オプション) インベントリデータベースまたはデスクトップ管理データベースのインストールを選択すると、[Database Location Installation (データベースロケーションのインストール)] ページが表示されます。左のペインで以前に指定したサーバを選択し、[データベースへのパス] フィールドで、データベースファイルをインストールするボリュームまたはドライブの名前を参照するか入力します。[次へ] をクリックします。

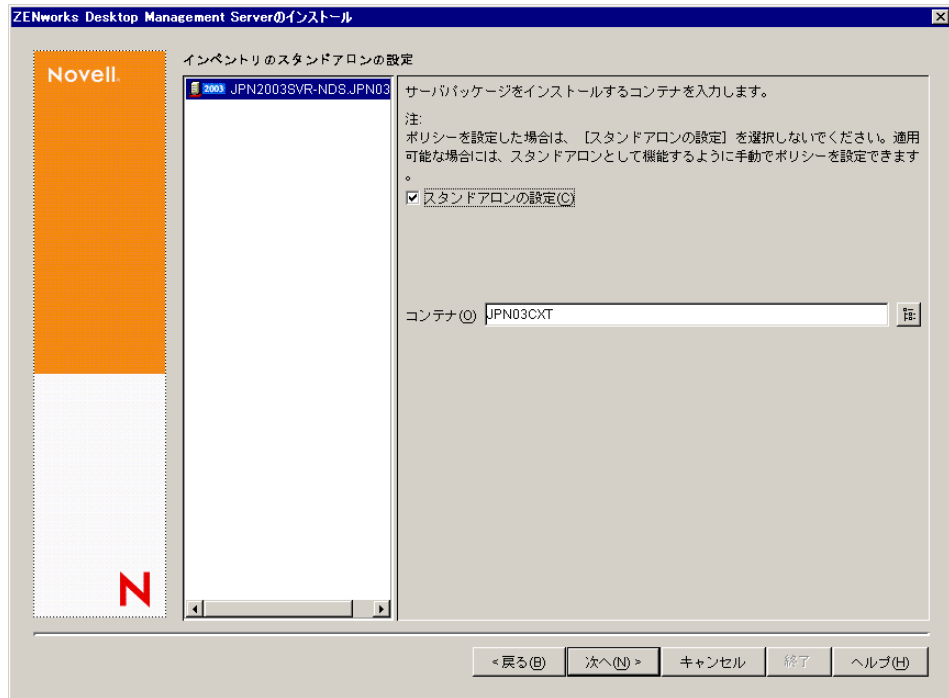
データベースサーバごとに別のボリュームまたはドライブを指定できます。たとえば、NetWare サーバごとにボリューム名が異なっても構いません。ただし、同一のサーバにデータベースファイルの複数のインスタンスを設定することはできません。各サーバで実行できるデータベースエンジンのインスタンスは1つだけです。NetWare サーバの場合、このパスに2バイト文字を指定することはできません。

注：SYS: が、NetWare サーバの場合のデフォルトです。NetWare サーバでは SYS: を選択しないことをお勧めします。データベースファイルが大きくなる場合があります。



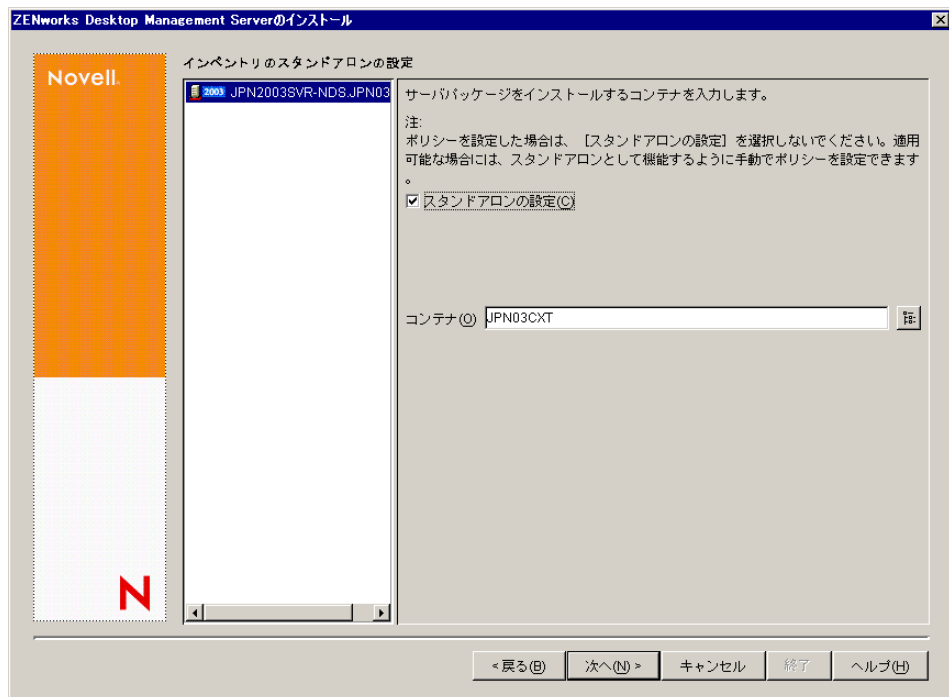
- 12 (オプション) 同じサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページが表示されます。インストールプログラムで、サーバパッケージ内にサーバパッケージおよびデータベースの場所ポリシーを自動的に作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページで設定を行います。

[スタンドアロンの設定] を選択し、共通のデータベースの場所の検索ポリシーを選択します。このポリシーを含むサーバパッケージを作成および設定するツリーコンテナの名前を入力するか参照し、[次へ] をクリックします。



- 13 (オプション) [インベントリプロキシサービスの設定] ページで、XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートを持つ 1 つまたは複数のサーバを選択します。次に、[プロキシポート] フィールドで、使用するポートを指定します。

すべてのサーバに対して同じポート番号を設定するには、サーバをすべて選択します。サーバを 1 つずつ選択し、値を個別に定義することもできます。デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ～ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。



- 14 [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。

[戻る] をクリックすると、必要に応じて何度でも変更を加えることができます。

[キャンセル] をクリックすると、インストール情報は保存されません。

インストール完了後、インストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は *datestamp_timestamp_zdmserver_install.log* になります (たとえば、20040304_024034_zdmserver_install.log)。このファイルは、インストール元のコンピュータの %novell%\zfdtemp ディレクトリに保存されます。このログファイルには、コンポーネントのインストールが失敗したかどうかを示されます。

インストールの概要を見直し、選択した内容を確認することもできます。概要は、*datestamp_timestamp_zdmserver_installsupport.log* という名前のログファイルに保存されます (たとえば、20040304_024034_zdmserver_installsupport.log)。このファイルも c:\%novell%\zfdtemp にあります。

- 15 ConsoleOne で、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールしたツリーとコンテナを選択し、[LDAP グループ] を右クリックします。次に、[プロパティ] > [一般] の順にクリックし、[LDAP Group General (LDAP Group 全般)] を選択します。

ZENworks Middle Tier Server の認証ドメインとして機能する各サーバについて、[TLS にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択が解除されている必要があります。Desktop Management Server をインストールした後で、このパラメータを設定する必要がある場合は、設定変更後に ZENworks Middle Tier Server を必ず再起動してください。

Active Directory ドメイン内の Windows サーバにインストールする場合、Active Directory ではポート 389 と 636 を使用するため、認証ドメインとして使用するサーバの LDAP グループオブジェクトを代替ポート番号を使用するように設定します。

NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定

CIFS をデフォルトのコンポーネントとして持つ NetWare サーバに Sybase をインストールする場合は、Inventory database_server_name オブジェクトのサーバ IP アドレスまたは DNS 名が、Sybase のインストール後に正しく設定されない場合があります。データベースオブジェクトを正しく設定するには、次の手順に従います。

- 1 ConsoleOne を開き、インベントリデータベースオブジェクトをダブルクリックします。
- 2 データベースオブジェクトの [ZENworks データベース] ページで、インベントリデータベースをインストールするサーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

ディレクトリスキーマが拡張されたかどうかの確認

デスクトップ管理サービスのインストール後に、ConsoleOne スキーママネージャツールを使用して、インストールプログラムによってディレクトリスキーマが拡張されたかどうかを確認できます。デスクトップ管理サービスでスキーマが拡張されている場合は、属性がリストに追加されます。

- 1 ConsoleOne で、[ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。
- 2 [属性] をクリックして、スキーマ属性のリストを開きます。

Desktop Management Server をインストールする場合は、次の属性を確認します。

zenlocZFD65Installed

必要なデスクトップポリシーのセットアップ

ZENworks Desktop Management では、eDirectory ツリーに、後で設定および有効化できるデスクトップポリシーを保持するポリシーパッケージが必要です。

この節では、デスクトップポリシーをセットアップするために必要な情報を紹介します。

- ◆ 65 ページの「ポリシーパッケージの作成」
- ◆ 66 ページの「ワークステーションインポートポリシーのセットアップ」

ZENworks をテストインストールした後の運用環境で、各コンポーネントを適切に動作させるために必要なポリシーを追加できます。

ワークステーションインベントリをインストールしている場合は、次に示すように、いくつかのデスクトップ管理ポリシーを設定する必要があります。

- ◆ 66 ページの「データベース場所ポリシーの設定」
- ◆ 68 ページの「ワークステーションインベントリポリシーの設定」

重要：Desktop Management Server のインストール中に Sybase をインストールするように選択した場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで [スタンドアロンの設定] を選択すると、インストールで自動的にサーバパッケージが作成されます。データベースの場所ポリシーが作成および設定され、インベントリサービスが開始されます。Desktop Management Server のインストールが完了したら、ワークステーションインベントリポリシーを作成および設定する必要があります。詳細については、68 ページの「ワークステーションインベントリポリシーの設定」を参照してください。

60 ページのステップ 11 で [インベントリのスタンドアロンの設定] ページのオプションを設定した場合は、インストールプログラムにより、サーバと同じ OU (部門) にサーバパッケージがすでに作成されています。別のサーバパッケージを作成しようとすると、サーバパッケージが同じ OU の別のサーバパッケージと競合することを示すメッセージが表示されます。

運用環境にワークステーションインベントリをインストールする場合は、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』を参照して、設定するポリシーについて確認してください。

必要なポリシーを設定した後、Inventory サービスを手動で開始する必要があります。

NetWare インベントリサーバ上でインベントリサービスを手動で開始するには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで「startinv」と入力します。

Windows 2000 インベントリサーバ上でインベントリサービスを手動で開始するには

- 1 コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
- 2 [Novell Inventory Service] を選択し、[開始] をクリックします。

Inventory Service を起動した後に、Inventory Service が稼働していることを確認します。すべてのサービスを一覧表示するには、インベントリサーバコンソールのプロンプトで「**ListSer ***」と入力します。Inventory Service が稼働していない場合、サーバステータスログをチェックします。サーバステータスログの詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』を参照してください。

ポリシーパッケージの作成

ポリシーパッケージには、ユーザまたはユーザワークステーションの使用規則や環境設定が指定されている個々の Windows デスクトップポリシーが保持されます。ポリシーパッケージを保持する部門 (OU) を作成する必要があります。この OU を配置する場所を決定するときは、次の点に考慮してください。

- ◆ ツリー内にパーティションがあるかどうか
- ◆ eDirectory 内の完全識別名の 256 文字までの制限
- ◆ ポリシーパッケージを見つけるための検索ポリシーの使用方法

ツリー内を効率よく検索するために、ポリシーパッケージの関連付け先になるオブジェクトを含んだパーティションのルートに、このポリシーパッケージ OU を作成することをお勧めします。これにより、次の利点が得られます。

- ◆ パーティションのルートと検索ポリシーを使用すると、ツリー内の検索効率が高まります。
- ◆ パーティションのルートに OU を配置することで、複数ポリシーの命名で利用できる文字数が最大になります。

ポリシーパッケージを作成するには

注：部門 (OU) を作成してポリシーを保持できます。そのためには、ConsoleOne で、OU を配置するコンテナを右クリックし、[新規] > [オブジェクト] > [部門] > [OK] の順にクリックします。次に、コンテナに、「デスクトップポリシー」などの短い名前を付けます。

- 1 ポリシーパッケージを配置するコンテナを右クリックし、[新規] > [ポリシーパッケージ] の順にクリックします。
- 2 次のいずれかのポリシーパッケージを選択します。

Container Package
Server Package
Service Location Package
ユーザパッケージ
ワークステーションパッケージ

- 3 [次へ] をクリックし、パッケージに短い名前を付けます。[次へ] をクリックし、[別のポリシーパッケージを作成] をクリックします。パッケージをすべて作成した後で、[完了] をクリックします。

パッケージの短い名前として、次のような名前を付けることができます。

Container
サーバ
場所
ユーザ
ワークステーション

- 4 作成するポリシーパッケージごとに、**ステップ 1** から **ステップ 3** を繰り返します。

ワークステーションインポートポリシーのセットアップ

Desktop Management をインストールしたサーバがワークステーションをインポートできるように、Desktop Management でワークステーションインポートポリシーが必要です。

インポートポリシーを有効にするには

- 1 ConsoleOne で、サーバパッケージを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [使用可能] 列の下にあるインポートポリシーのチェックボックスを選択します。この操作により、ポリシーが選択されると同時に有効になります。
- 3 [プロパティ] をクリックして [コンテナ] ページを表示します。
- 4 [プラットフォーム] タブの下向き矢印をクリックし、目的のプラットフォームを選択します。
- 5 [ワークステーションオブジェクトの作成先] ドロップダウンリストでオプションを選択し、ワークステーションオブジェクトを保存するコンテナを指定します。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [関連付け] タブをクリックし、[追加] をクリックします。Desktop Management をインストールするサーバを参照し、[OK] をクリックしてサーバを [関連付け] リストに追加します。
- 8 [関連付け] リストでインポートポリシーを関連付けるサーバを選択し、[適用] をクリックします。次に、[閉じる] をクリックします。

データベース場所ポリシーの設定

データベース場所ポリシーには、Inventory データベースの場所が含まれています。Database オブジェクトを、Service Location Package を使用して Inventory Service オブジェクトが置かれているコンテナに、または Server Package を使用して Inventory サーバに関連付けることができます。

注： SLP のプロパティパッケージとサーバパッケージの両方を設定する場合、サーバパッケージの設定は SLP のプロパティパッケージの設定によって上書きされます。

Database オブジェクトを Inventory Service オブジェクトが置かれているコンテナに関連付けるには

- 1 ConsoleOne で、[SLP のプロパティパッケージ] を右クリックし、[プロパティ]、[ポリシー] ページの順にクリックします。
- 2 [Enabled] 列の下にある ZENworks データベースポリシーのチェックボックスをオンにします。
- 3 [Properties] をクリックして [Inventory Management] ページを表示します。
- 4 インベントリデータベースオブジェクトの DN (Inventory database_server_name) を参照して選択し、[OK] をクリックします。

Sybase データベースでは、eDirectory がインストールされていない Windows 2000 サーバにインストールする場合を除いて、ワークステーションインベントリのインストール中にデータベースオブジェクトが自動的に作成されます。データベースオブジェクトを手動で作成する場合は、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

Oracle データベースでは、データベースオブジェクトを作成した後、そのオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

MS SQL データベースでは、データベースオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

重要：データベースオブジェクトに設定されたデータベースサーバの DNS 名が有効であることを確認します。DNS 名が無効である場合、データベースオブジェクトの [Property] ページで適切なデータベースサーバの IP アドレスを選択する必要があります。

データベースサーバの IP アドレスを選択するには

- 4a ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックして [ZENworks データベース] ページを表示します。
 - 4b [サーバの IP アドレスまたは DNS 名] フィールドで、適切な IP アドレスを選択します。
 - 4c [適用]、[閉じる] の順にクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
 - 6 [Associations] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
 - 7 Inventory Service オブジェクトが置かれているコンテナを参照して選択し、[OK] をクリックします。
 - 8 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

Database オブジェクトを Inventory サーバに関連付けるには

- 1 ConsoleOne で、サーバパッケージを右クリックし、[プロパティ]、[ポリシー] ページの順にクリックします。
- 2 [Enabled] 列の下にある ZENworks データベースポリシーのチェックボックスをオンにします。
- 3 [Properties] をクリックして [Inventory Management] ページを表示します。
- 4 インベントリデータベースオブジェクトの DN (Inventory database_server_name) を参照して選択し、[OK] をクリックします。

Sybase データベースでは、eDirectory がインストールされていない Windows 2000 サーバにインストールする場合を除いて、ワークステーションインベントリのインストール中にデータベースオブジェクトが自動的に作成されます。データベースオブジェクトを手動で作成する場合は、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

Oracle データベースでは、データベースオブジェクトを作成した後、そのオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

MS SQL データベースでは、データベースオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

重要：データベースオブジェクトに設定されたデータベースサーバの DNS 名が有効であることを確認します。DNS 名が無効である場合、データベースオブジェクトの [Property] ページで適切なデータベースサーバの IP アドレスを選択する必要があります。

データベースサーバの IP アドレスを選択するには

- 4a ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックして [ZENworks データベース] ページを表示します。
- 4b [サーバの IP アドレスまたは DNS 名] フィールドで、適切な IP アドレスを選択します。
- 4c [適用]、[閉じる] の順にクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [Associations] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
- 7 Inventory サーバオブジェクトを参照して選択し、[OK] をクリックします。
- 8 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

注： Inventory ポリシーを変更するか、またはオブジェクトを設定する場合は、常に Inventory Service を停止します。オブジェクトのポリシーおよびプロパティを設定します。Inventory Service を再開します。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』を参照してください。

ワークステーションインベントリポリシーの設定

- 1 ConsoleOne で、ワークステーションパッケージを右クリックし、[プロパティ] > [ポリシー] ページの順にクリックします。
- 2 [ポリシー] タブをクリックし、設定するプラットフォームをドロップダウンリストで選択し、選択したプラットフォームのポリシーを有効にします。利用可能なプラットフォームは、Windows 9x、Windows NT、Windows 2000、または Windows XP です。
- 3 [使用可能] 列の下にあるワークステーションインベントリポリシーのチェックボックスを選択します。
- 4 [プロパティ] をクリックし、[ワークステーションインベントリポリシー] ページを表示します。
- 5 [一般] ページで、次の設定を行います。
 - 5a インベントリサービスオブジェクトの DN を参照して選択します。
 - 5b デルタスキャン数を指定します。デルタスキャンの後でフルスキャンが実行されます。
- 6 (オプション) インベントリスキャンをカスタマイズします。
 - 6a [ハードウェアスキャン] タブをクリックして、次の設定を指定します。

[Enable DMI Scan]： [DMI スキャンを有効にする] オプションを選択して、インベントリ対象ワークステーションの DMI (Desktop Management Interface) からハードウェアデータのスキャンを追加します。

[Enable WMI Scan]： [WMI スキャンを有効にする] オプションを選択して、インベントリ対象ワークステーションの Microsoft WMI (Windows Management Instrumentation) からハードウェアデータの WMI スキャンを追加します。

Enable Custom Scanning (カスタムスキャンを有効にする)： このオプションを選択して、インベントリ対象ワークステーションのカスタムスキャンを追加します。カスタムスキャンを実行する前に、カスタムスキャン実行可能ファイルの名前を入力する必要があります。

カスタム属性エディタ： このボタンをクリックして、カスタム属性のリストを指定します。必要に応じてリストを修正します。

- 6b ZENworks for Desktops 3.2、ZENworks for Desktops 4、または ZENworks for Desktops 4.0.1 がインストールされている Windows インベントリ対象ワークステーションのソフトウェアスキャン設定をカスタマイズするには、[ソフトウェアスキャン] タブをクリックして、次の設定を実行します。

重要： ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされているインベントリ対象ワークステーションでは、設定を行わないでください。

[Enable Software Scan]： インベントリポリシーに関連付けられたインベントリ対象ワークステーションのソフトウェアスキャンを有効にします。スキャンプログラムは、インベントリ対象ワークステーションのソフトウェア情報を収集し、インベントリデータベースに保存します。

[Custom Scan Editor]： アプリケーションの詳細情報のリストをカスタマイズして、インベントリ対象ワークステーションをスキャンできます。インベントリスキャナは、カスタムスキャンエディタに示されるアプリケーションの詳細情報をスキャンします。

たとえば、カスタムスキャンエディタで次の詳細を指定します。ベンダ名 =Microsoft; 製品名 =Microsoft Office; 製品バージョン =10.0; ファイル名 =winword.exe; ファイルサイズ =1 MB。この場合、インベントリスキャナはインベントリ対象ワークステーションで、サイズが 1MB の winword.exe ファイルをスキャンします。このファイルが見つかった場合、Inventory データベースに "winword.exe;1 MB" について "Microsoft;Microsoft Office;10.0" が格納されます。

[Product Identification Number]： インベントリ対象ワークステーションにインストールされた、Microsoft アプリケーションの製品識別情報をスキャンできます。

Product Location(製品の場所)： インベントリ対象ワークステーションにインストールされたアプリケーションのフルパスをスキャンできます。

カスタムスキャンのみ実行する： カスタムスキャンエディタで選択された、カスタマイズされたソフトウェアアプリケーションだけをスキャンします。

- 6c [設定エディタ] タブをクリックします。必要に応じて、次の .ini ファイルの設定を変更します。

- ◆ **SWRules:** ZENworks for Desktops 3.2、ZENworks for Desktops 4、または ZENworks for Desktops 4.0.1 をインストールした、インベントリ対象の Windows ワークステーションの SWRules ファイルを設定します。ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされているインベントリ対象ワークステーションでは、ファイルを設定しないでください。

この SWRules ファイルを使用して、ベンダおよび製品のソフトウェアスキャン情報をカスタマイズします。このファイルの設定方法に関する詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」にある「ZENworks for Desktops 4.X とインベントリ対象ワークステーションの以前のバージョンをスキャンするソフトウェアインベントリ情報のカスタマイズ」を参照してください。

- ◆ **Asset Information:** このファイルを使用して、DMI (Desktop Management Interface) からベンダ固有の情報をスキャンします。このファイルの設定方法に関する詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」にある「DMI を使ったベンダ固有の資産情報のスキャン」を参照してください。

- ◆ **Zippered Names:** このファイルを使用して、Jaz* および Zip* ドライブのハードウェアスキャンをカスタマイズします。このファイルの設定方法に関する詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」にある「Jaz、Zip、およびフロッピードライブのベンダのハードウェアスキャン情報のカスタマイズ」を参照してください。
 - ◆ **IBM Names (IBM の名前):** このファイルを使用して、IBM コンピュータのモデルをスキャンします。このファイルの設定方法に関する詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」の「IBM コンピュータモデルのスキャン」を参照してください。
 - ◆ **HWRules:** このファイルを使用して、モニタの公称サイズをカスタマイズします。HWRules.ini ファイルの設定方法に関する詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」にある「モニタのサイズに関するハードウェア情報のカスタマイズ」を参照してください。
- 7 [Apply] をクリックします。
 - 8 [ポリシースケジュール] タブをクリックします。
 - 9 インベントリ対象ワークステーションのスキャンをスケジュールするために必要な設定を変更し、[適用]、[閉じる] の順にクリックします。
 - 10 [Associations] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
 - 11 インベントリ対象ワークステーションが登録されているコンテナオブジェクトを参照して選択し、[OK] をクリックします。
 - 12 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。
 - 13 ConsoleOne で、インベントリサービスオブジェクト (Inventory Service_server_name) を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。次に、[インベントリサービスオブジェクト] タブをクリックします。
 - 14 [コンピュータのスキャンを有効にする] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

自動ワークステーションインポートのセットアップ

次の手順では、自動ワークステーションインポートのインストール時に [インポート] または [インポート / 削除] オプションが選択されていることを前提とします。

- 1 自動ワークステーションインポートで使用する DNS 名をセットアップします。

DNS エントリまたはローカル hosts ファイルのエントリのいずれかを使用できます。www.novell.com は、DNS 名の例です。

次に、自動ワークステーションインポートの hosts ファイルに追加するテキストの例を示します。

```
151.155.155.55 zenwsimport
```

この例では、TCP/IP アドレスは、自動ワークステーションインポートサービス (Automatic Workstation Import service) を実行するサーバのアドレスです。“zenwsimport” はサーバ名ではなく、この TCP/IP アドレスに解決される DNS 名です。つまり、zenwsimport は、自動ワークステーションインポートサービスを実行しているサーバを識別するためのラベルです。

Windows 98 の場合、hosts ファイルは次の場所にあります。

`Win98_drive:\Win98_directory\hosts`

重要：Windows のデフォルトのホストファイル名は `hosts.sam` です。独自のホストファイルに名前を付ける場合、拡張子 `.sam` を使用しないでください。`hosts.sam` を `hosts` という名前に変更するか、`hosts.sam` をコピーして、コピー後のファイル名を変更します。Windows 95 の場合、デフォルト設定では、ファイル名の拡張子が既知の種類である場合に、その拡張子が表示されないようになっています。そのため、`hosts.sam` ファイルを `hosts` という名前に正しく変更するためには、ファイル名の拡張子を表示するように設定する必要があります。

Windows NT/2000 の場合、hosts ファイルは次の場所にあります。

`WinNT-2K_drive:\WinNT-2K_directory\system32\drivers\etc\hosts`

`hosts` はファイル名です。フォルダ名ではありません。

- 2 DNS 名または TCP/IP アドレスを確認するには、ワークステーションのコマンドプロンプトで次のように入力します。

`ping zenwsimport`

- 3 最新の Novell Client またはデスクトップ管理エージェントでインポートする各ワークステーションを更新します。

これは、Workstation Manager をワークステーションに配置するために必要な操作です。

Workstation Manager がワークステーションにインストールされると、Workstation Manager のスケジューラ部分が開始され、スケジューラサービス (Scheduler service) の開始時 (98/NT/2000/XP) またはユーザのログイン時 (98/NT/2000/XP) に自動的にワークステーションの登録が行われます。

- 4 NetWare サーバで自動ワークステーションインポートが動作していることを確認するには、(Ctrl)+(ESC) を押して、[ZENworks ワークステーションインポート] 画面を検索します。

または

Windows NT/2000 サーバで自動ワークステーションインポートが実行されていることを確認するには、サービスの一覧に次のサービスが含まれていることを確認します。

ZENworks Workstation Import

- 5 自動ワークステーションインポートが実行されていない場合は、サーバを再起動します。

ODBC ドライバのインストール

インベントリレポートを実行する前に、次の点を確認します。

- ConsoleOne を実行しているコンピュータに、Sybase、Oracle、または MS SQL 用の適切な ODBC クライアントがインストールされていることを確認します。ODBC ドライバは、インベントリレポートを起動したときに自動的にコンピュータに設定されます。

Sybase データベース向けの ODBC ドライバをインストールするには

1. *Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD* の ¥database drivers ディレクトリを開きます。
2. ¥database drivers ディレクトリに収録されている ODBCreadme.txt ファイルの指示に従います。この指示を実行することにより、Sybase データベースのアドレスを設定し、接続を確立することができます。

Oracle の場合、ODBC 用の適切なクライアントをインストールする必要があります。たとえば、Oracle 8i インベントリデータベースの場合、Oracle 8i クライアントをインストールします。これは、インベントリレポートが、それ以前、またはそれ以降のバージョンのクライアントに対して互換性を持っていないためです。

MS SQL の場合、クライアントは、すべての Microsoft Windows オペレーティングシステムで利用できます。

- ❑ Crystal Reports を実行する Windows NT コンピュータには、最低でも MDAC 2.6 SP1 (Microsoft Data Access Component) を個別にインストールする必要があります。ご自分のコンピュータにインストールされている MDAC のバージョンを確認します。[コントロール パネル] > [ODBC データ ソース] の順に選択し、[バージョン情報] タブペインを選択します。最低限必要なバージョンは 3.520.7326.0 です。使用しているバージョンが最低要件を満たしていない場合、ODBC のコアコンポーネントを [Microsoft サイト \(http://microsoft.com/data/download.htm\)](http://microsoft.com/data/download.htm) からダウンロードしてアップグレードする必要があります。

8

ZENworks Middle Tier Server のインストール

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 73 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール手順」
- ◆ 93 ページの「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」
- ◆ 94 ページの「NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集」

ZENworks Middle Tier Server のインストール手順

インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件および前提条件 (39 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」を参照) を満たしている場合は、次の手順を実行して、ZENworks® Middle Tier Server をインストールし、NetWare® または Windows サーバで実行します。

- 1 Windows 2000/XP ワークステーション (または Windows 2000/2003 サーバ) を選択して、Middle Tier Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」を参照してください。
- 2 Windows ワークステーションに、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を挿入します。

ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

重要： インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャで [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。
- 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Middle Tier Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [eDirectory の場所およびアカウント情報] ページで、次のフィールドに入力します。
- [DNS/IP アドレス]** : eDirectory をインストールするサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。
- [ユーザ名 (完全 DN)]** : Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を指定します (例: midtier-proxy.org-unit.org)。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。
- 必要な権限については、93 ページの「**Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利**」を参照してください。
- [Password]** : Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを指定します。

ZENworks Middle Tier Serverのインストール

Novell

eDirectoryの場所およびアカウント情報

このインストールプログラムで作成する Middle Tier Serverは、ユーザおよびワークステーションを認証し、ZENworksの設定およびポリシー情報を取得するために、eDirectoryサーバにアクセスします。詳細については、ヘルプを参照してください。

eDirectoryサーバの名前、またはIPアドレスおよび管理アカウント情報を指定します。
注: このサーバにはeDirectoryがインストールされている必要があります。

DNS/IP アドレス (&D):

管理アカウント情報

ユーザ名 (完全 DN) (U):

パスワード (P):

< 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル 終了 ヘルプ (H)

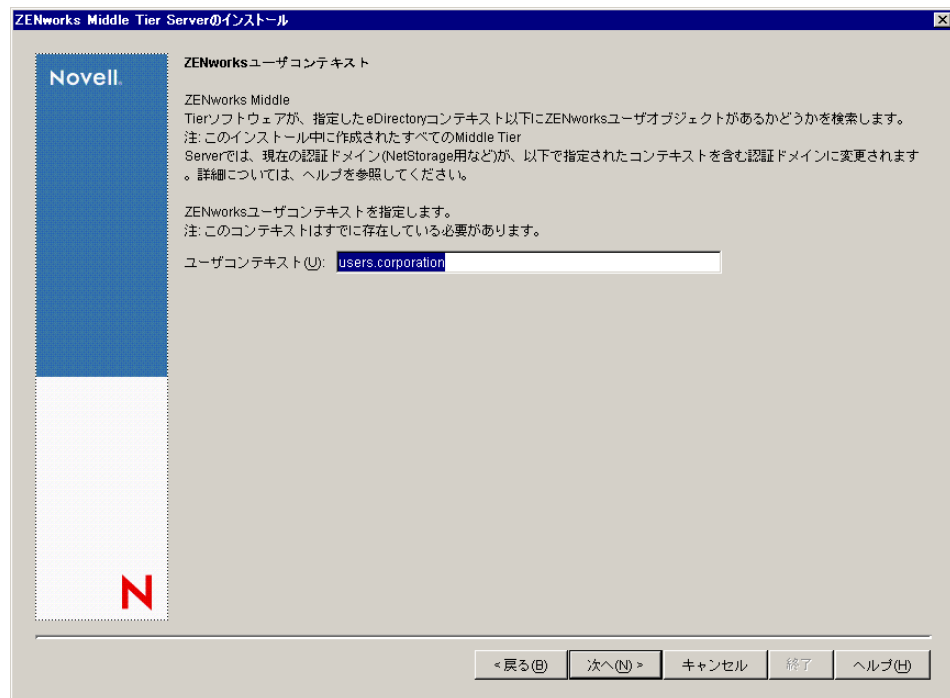
- 10 [ZENworks ユーザコンテキスト] ページ ([ユーザコンテキスト] フィールド) で、Desktop Management によって使用されるユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する、eDirectory コンテキストを指定します。
- ユーザオブジェクトが常駐する最上位のコンテナのコンテキストを使用する必要があります。この値は ZENworks Middle Tier Server に渡されます。ZENworks Middle Tier Server では、ユーザ検索時の開始ポイントとしてこの値を使用します。

たとえば、ユーザが多くサブコンテナに存在している場合は、これらのサブコンテナすべてを保持するコンテナのコンテキストを指定します。ユーザが ZENworks Middle Tier Server を通じてログインすると、サーバは指定された eDirectory コンテナでユーザの検索を開始し、適切なユーザが見つかるまで指定したコンテナのサブコンテナを検索します。

このインストールで指定する Middle Tier Server の場合、現在設定済みの認証ドメイン (NetStorage 用に設定された認証ドメインなど) は、ここで指定したコンテキストを持つ 1 つの認証ドメインに置き換えられます。

インストール後に、NSAdmin ユーティリティを使用して、この認証ドメインのコンテキストを再設定することができます。このユーティリティは Web ブラウザで開くことができます (http://middle_tier_server_name/oneNet/nsadmin)。

注： インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。



- 11 [ZENworks ファイルの場所] ページで、ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするためのネットワークの場所を選択します。

ZENworks Middle Tier Server では、ネットワーク上の他の場所にインストールされた ZENworks ファイルにアクセスする必要があります。ZENworks 管理者として、配布用のポリシーまたはアプリケーションの作成時に、これらのファイルの場所を定義します。このページで提供する情報は、Middle Tier Server が別のファイルシステムへのアクセス方法を決定する際に使用されます。ZENworks ファイルをまだ作成していなくても、この決定は現在のインストールに必要です。

- ◆ ZENworks の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルを NetWare サーバにだけ配置する場合は、1 番目のオプションボタンを選択します。
- ◆ ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルの一部、またはすべてを Microsoft Windows サーバ上に配置する場合は、2 つ目のオプションボタンを選択します。

ZENworks ファイルを Windows ファイルシステムに配置する場合、Middle Tier Server は Novell eDirectory のユーザ名とパスワードを使用してこれらのファイルにアクセスすることができません。これらのファイルにアクセスするには、Windows ドメインのアカウント情報が必要です。

ドメインに属していないサーバ上にファイルを配置する場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

【ドメインユーザ名】

ZENworks ファイルの場所に対する Windows ファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内の任意のユーザのユーザ名を指定します。

【パスワード】

ZENworks ファイルに対するファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内のユーザのパスワードを指定します。

【パスワードの確認】

正しいパスワードが入力されたことを確認するために同じパスワードを指定します。

ZENworks Middle Tier Serverのインストール

ZENworks ファイルの場所

ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするネットワーク上の場所を選択します。

☐ ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、NetWareサーバにのみ配置されます。

☒ ZENworksの一部(またはすべて)の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、Microsoft Windowsサーバに配置されます。

注:
このオプションを選択した場合は、Windowsファイルシステムにアクセスするためのログインアカウント情報を指定する必要があります。

ZENworksの管理対象ファイルが配置されるWindowsドメインのログインアカウント情報を入力します。ドメインに属さないサーバに管理対象ファイルが配置される場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

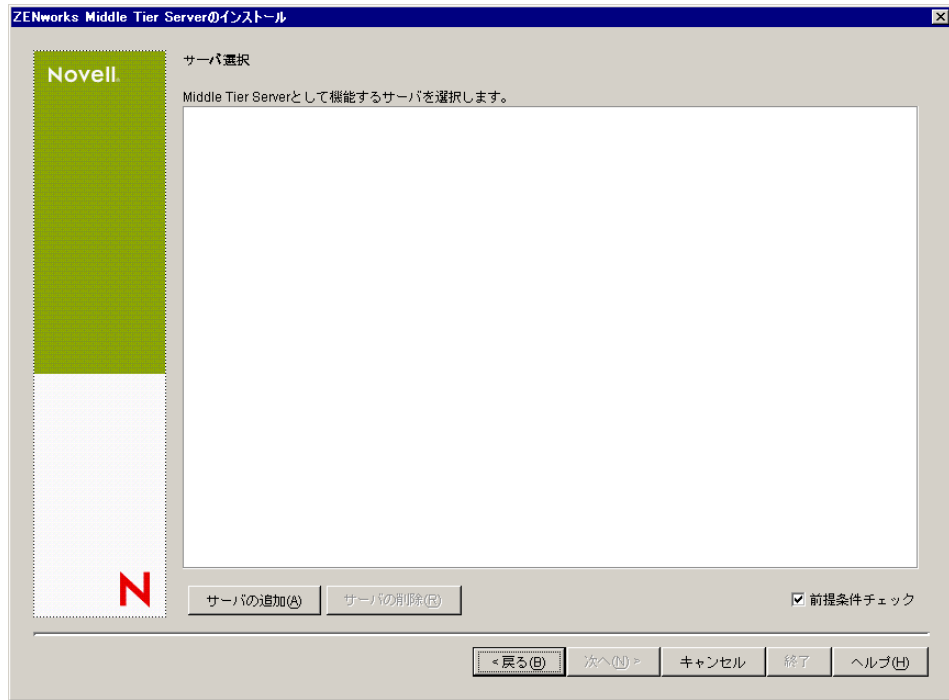
ドメインユーザ名(U):

パスワード(P):

パスワードの確認(C):

戻る(B) 次へ(N) > キャンセル 終了 ヘルプ(H)

- 12 【サーバ選択】 ページで、Middle Tier Server として機能するターゲットサーバのリストを作成する必要があります。【サーバの追加】 ボタンを使用すると、サーバを検索してリストに追加するダイアログボックスが表示されます。【サーバの削除】 ボタンを使用すると、追加したサーバをターゲットリストから削除することができます。【サーバの追加】 をクリックします。



- 13 (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks Middle Tier Servers のインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。

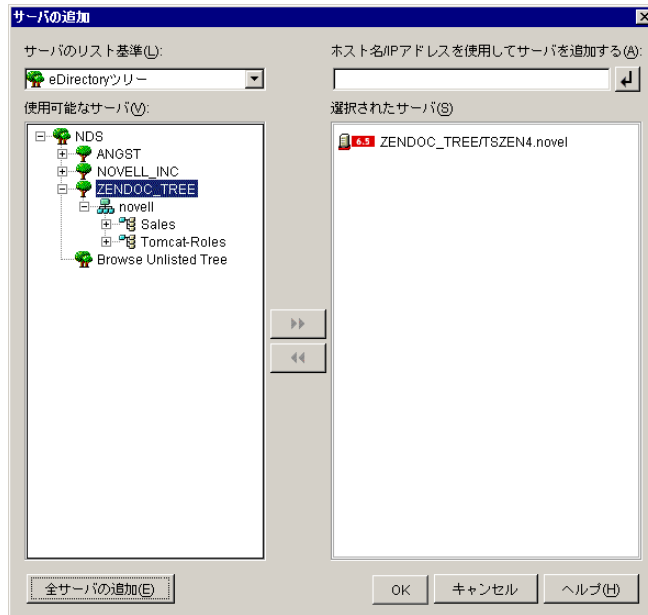
インストールプログラムは、以前にインストールされた Middle Tier Server ソフトウェアのバージョン、サーバのネットワークオペレーティングシステム (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバ上の IIS Web サーバの有無とバージョン、NetWare サーバ上の適切な Web サーバの有無とバージョン、およびターゲットサーバ上の NetStorage (2.6.0) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件が満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。

- 14 [サーバの追加] ダイアログボックスで、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストを開き、Novell eDirectory のツリー、Microsoft Windows Network の構造、または Microsoft Active Directory のツリー内の場所に基づいてサーバを一覧表示するオプションを表示します。

インストール中に、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを複数のサーバにインストールできます。サーバをリストに追加したら、[OK] をクリックします。

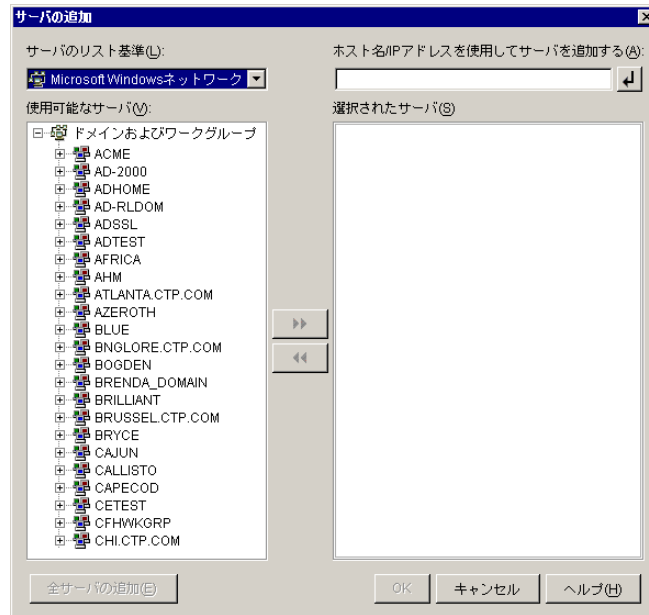
- 14a (eDirectory ツリーのサーバをリストに表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンボックスで [eDirectory ツリー] を選択し、現在認証されているすべての eDirectory ツリーを表示します。次に、ツリーを参照して目的のサーバまで移動し、右方向矢印ボタンをクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストボックスに移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックすると、ダイアログボックスにネットワーク上のすべてのツリーを表示できます。これらのツリーのいずれかをダブルクリックすると、認証されていないツリーでも、[使用可能なサーバ] リストに追加されます。
- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、サーバの名前に解決可能である必要があります。
 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- ◆ 認証されていないサーバを選択した場合は、ツリーの eDirectory アカウント情報を入力するように要求されます。
- ◆ [全サーバの追加] をクリックすると、認証が完了するときに、選択したツリーまたはコンテナのすべてのサーバが追加されます。上位レベルのコンテナを選択すると、そのコンテナのサーバすべてと、下位のコンテナにあるすべてのサーバが選択されます。
- ◆ サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、<Shift> または <Ctrl> キーを押しながらサーバを選択します。

- 14b** (Microsoft Windows ネットワーク構造のサーバをリストに表示する場合)
 [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで [Microsoft Windows ネットワーク] を選択し、現在認証されているすべての Windows ワークグループと Microsoft ドメインを一覧表示します。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストに移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [選択されたサーバ] リストにサーバを追加するには、サーバの管理ユーザである必要があります。サーバで認証されていない場合は、オブジェクトに疑問符のマークが表示されます。サーバが ZENworks 6.5 Desktop Management でサポートされているサーバプラットフォームの場合、疑問符のマークをダブルクリックしてサーバに対する認証を実行し、二重の右向き矢印をクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。
- ◆ Windows サーバ上にある ZENworks ファイルは、NetWare にインストールされた Middle Tier Server から取得することができないため、Microsoft ドメイン内のサーバの一覧を表示するときに、NetWare サーバは一覧に表示されません。
- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決できる必要があります。
 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

Windows サーバの複数のサーバ名のエイリアスを使用する場合、最初のエイリアスは Windows サーバの物理名であることが必要です。

- ◆ サーバの認証用に指定したアカウント情報(ステップ 11を参照)が管理アカウントではない場合、サーバをターゲットサーバとして追加することはできますが、[サーバの追加] ダイアログボックスを閉じるときに管理アカウントの再入力を求められます。
- ◆ 選択したドメインまたはワークグループ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはワークグループを選択すると、そのドメインまたはワークグループ内の認証済みサーバのすべてが選択されます。

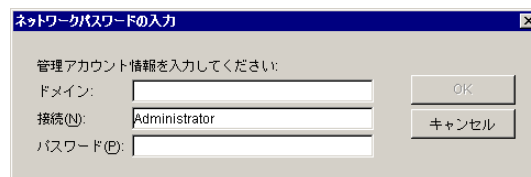
- ◆ [選択されたサーバ] リストからサーバを削除し、[使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] リストでサーバ名をクリックし、二重の左向き矢印をクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、〈Shift〉または〈Ctrl〉キーを押しながらサーバを選択します。

14c (Microsoft Active Directory でサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで、[Microsoft Active Directory] を選択します。ワークステーションが Active Directory のメンバーの場合、Active Directory のツリー内のドメインが表示されます。Active Directory で (ドメインごとに) リスト表示されるすべてのサーバを参照し、目的のサーバへの構造を参照します。次に、二重の右向き矢印をクリックして、サーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックして、追加するドメイン名の指定が可能なダイアログボックスを開きます。そして、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストにサーバを表示する前に、適切なアカウントを使ってサーバへの認証を実行することができます。



- ◆ [ホスト名 / IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。

↓をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- ◆ ドメインオブジェクトを右クリックし、次の 3 種類の検索方法のいずれかを選択します。

[検索基準の場所]：ドメインのルートにあるコンピュータとドメインコントローラを一覧表示します。これはデフォルトの検索方法です。

[ディレクトリ全体の検索]：コンピュータが配置されているすべてのディレクトリコンテナを一覧表示します。

[ディレクトリ階層の参照]：ディレクトリ内のすべてのコンテナを一覧表示します。コンテナを 1 つずつ展開して、目的のコンピュータを探することができます。大規模なディレクトリの検索基準以外の場所にコンピュータがある場合、この検索方法が役立ちます。

- ◆ [全サーバの追加] をクリックして、選択したドメインまたはコンテナのすべてのサーバを追加します。ドメインまたはコンテナを選択すると、そのドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバが選択されます。
- ◆ サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、<Shift> または <Ctrl> キーを押しながらサーバを選択します。

- 15 [概要] ページで、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアおよび関連付ける Desktop Management Server のインストール先として選択した場所を確認します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストール処理を開始します。

Middle Tier Server インストールウィザードは、別のインストールプログラムを起動します。このプログラムが完了するのを待ちます。

重要： インストール完了後、インストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmmidtier_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `%novell%\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。このログファイルには、コンポーネントのインストールが失敗したかどうかが表示されます。

インストールの概要を見直し、選択した内容を確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmmidtier_installsunmary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_installsunmary.log`)。このファイルも `c:%novell%\zfdtemp` にあります。

- 16 Desktop Management Server の eDirectory を対象とする ConsoleOne で、クリアテキストパスワードを許可するように Desktop Management Server を設定していることを確認します。詳細については、[63 ページのステップ 15](#) を参照してください。
- 17 (NetWare 6 のインストールのみ) NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server 上の `autoexec.ncf` ファイルを編集して、Apache Web Server のロードとバインドが正常に行われるようにします。詳細については、[94 ページの「NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集」](#) を参照してください。
- 18 ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたサーバを再起動します。
- 19 ワークステーションのブラウザで次の URL のいずれかを入力し、ZENworks Middle Tier Server がインストールされて、稼動していることを確認します。

`http://Middle_Tier_Server_DNS_or_IP/oneNet/xtier-stats`

`http://Middle_Tier_Server_IP_address/oneNet/zen`

ZENworks Middle Tier Server が稼動していれば、1 つ目の URL でサーバの統計値が表示された Web ページが開きます。ブラウザの [更新] ボタンをクリックすることにより、要求数が増加している場所が表示できます。

認証されていない場合、2 つ目の URL では、ユーザアカウント情報の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。認証された場合、3 つ目の URL では、XZEN (Middle Tier Server の Xtier モジュール) が実行中であることを示すメッセージを含んだ Web ページが表示されます。

ZENworks Middle Tier Server のインストール手順

インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件および前提条件 (39 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」を参照) を満たしている場合は、次の手順を実行して、ZENworks® Middle Tier Server をインストールし、NetWare® または Windows サーバで実行します。

- 1 Windows 2000/XP ワークステーション (または Windows 2000/2003 サーバ) を選択して、Middle Tier Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」を参照してください。
- 2 Windows ワークステーションに、Novell ZENworks 6.5 Desktop Management CD を挿入します。

ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

重要: インストール中に、CD ドライブから Novell ZENworks 6.5 Desktop Management CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャで [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

Novell® ZENworks® 6.5		バージョン 6.5	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			→ 終了

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management		バージョン 6.5	N
スキーマの拡張と製品のライセンス	Novell eDirectoryツリーのスキーマを拡張し、ZENworks Desktop Managementをサポートします。また、ライセンスコードをインストールします。		
Desktop Management Services	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、デスクトップ、ワークステーション、およびラップトップを管理します。		
Middle Tier Server	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、Desktop Management AgentとDesktop Management Serviceとの間の要求を処理します。		
Desktop Management Agents	ワークステーション上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、アプリケーションの配布およびデスクトップ管理を行います。Microsoft Windows Installerが必要です。		
Documentation	Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			← 戻る → 終了

- 5 [Middle Tier Server] をクリックし、Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。

- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は「受諾」をクリックします。
- 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。

- 8 「Installation Requirements (インストール要件)」 ページで、Middle Tier Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して「次へ」をクリックします。

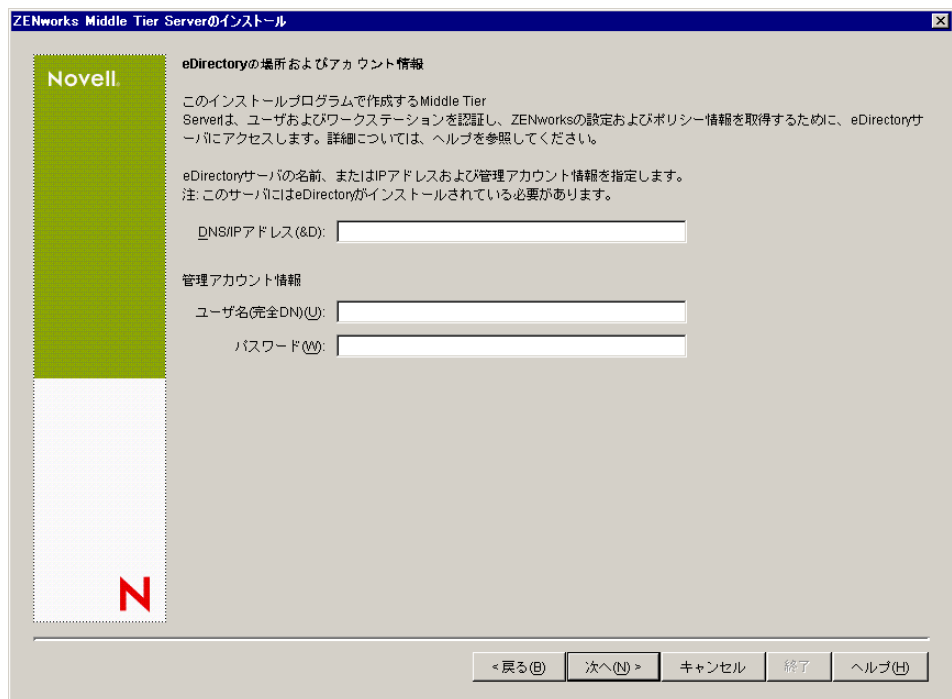
- 9 「eDirectory の場所およびアカウント情報」 ページで、次のフィールドに入力します。

[DNS/IP アドレス] : eDirectory をインストールするサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

[ユーザ名 (完全 DN)] : Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を指定します (例: midtier-proxy.org-unit.org)。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。

必要な権限については、93 ページの「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」を参照してください。

[Password] : Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを指定します。



The image shows a screenshot of the 'ZENworks Middle Tier Serverのインストール' (ZENworks Middle Tier Server Installation) window, specifically the 'eDirectoryの場所およびアカウント情報' (eDirectory Location and Account Information) page. The window has a title bar with the text 'ZENworks Middle Tier Serverのインストール'. On the left side, there is a green vertical bar with the 'Novell' logo at the top and a large red 'N' at the bottom. The main content area contains the following text: 'このインストールプログラムで作成するMiddle Tier Serverは、ユーザおよびワークステーションを認証し、ZENworksの設定およびポリシー情報を取得するために、eDirectoryサーバにアクセスします。詳細については、ヘルプを参照してください。' and 'eDirectoryサーバの名前、またはIPアドレスおよび管理アカウント情報を指定します。注: このサーバにはeDirectoryがインストールされている必要があります。'. Below this text are three input fields: 'DNS/IP アドレス (&D):', 'ユーザ名 (完全DN) (U):', and 'パスワード (P):'. At the bottom of the window, there are five buttons: '< 戻る (B)', '次へ (N) >', 'キャンセル', '終了', and 'ヘルプ (H)'.

- 10 「ZENworks ユーザコンテキスト」 ページ (「ユーザコンテキスト」 フィールド) で、Desktop Management によって使用されるユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する、eDirectory コンテキストを指定します。

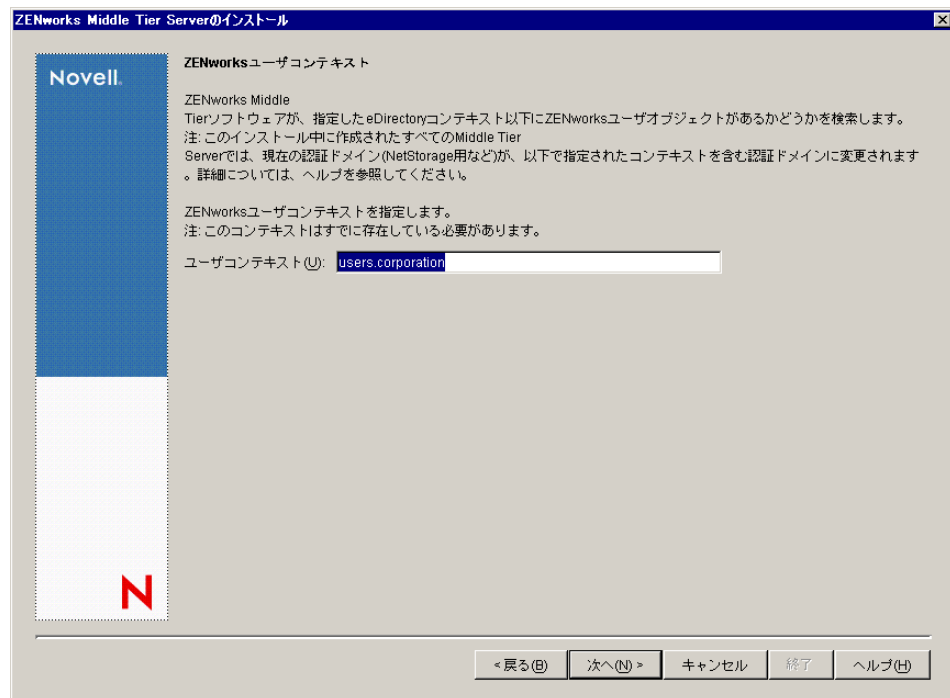
ユーザオブジェクトが常駐する最上位のコンテナのコンテキストを使用する必要があります。この値は ZENworks Middle Tier Server に渡されます。ZENworks Middle Tier Server では、ユーザ検索時の開始ポイントとしてこの値を使用します。

たとえば、ユーザが多くのサブコンテナに存在している場合は、これらのサブコンテナすべてを保持するコンテナのコンテキストを指定します。ユーザが ZENworks Middle Tier Server を通じてログインすると、サーバは指定された eDirectory コンテナでユーザの検索を開始し、適切なユーザが見つかるまで指定したコンテナのサブコンテナを検索します。

このインストールで指定する Middle Tier Server の場合、現在設定済みの認証ドメイン (NetStorage 用に設定された認証ドメインなど) は、ここで指定したコンテキストを持つ 1 つの認証ドメインに置き換えられます。

インストール後に、NSAdmin ユーティリティを使用して、この認証ドメインのコンテキストを再設定することができます。このユーティリティは Web ブラウザで開くことができます (http://middle_tier_server_name/oneNet/nsadmin)。

注： インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。



- 11 [ZENworks ファイルの場所] ページで、ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするためのネットワークの場所を選択します。

ZENworks Middle Tier Server では、ネットワーク上の他の場所にインストールされた ZENworks ファイルにアクセスする必要があります。ZENworks 管理者として、配布用のポリシーまたはアプリケーションの作成時に、これらのファイルの場所を定義します。このページで提供する情報は、Middle Tier Server が別のファイルシステムへのアクセス方法を決定する際に使用されます。ZENworks ファイルをまだ作成していなくても、この決定は現在のインストールに必要です。

- ◆ ZENworks の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルを NetWare サーバにだけ配置する場合は、1 番目のオプションボタンを選択します。
- ◆ ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルの一部、またはすべてを Microsoft Windows サーバ上に配置する場合は、2 つ目のオプションボタンを選択します。

ZENworks ファイルを Windows ファイルシステムに配置する場合、Middle Tier Server は Novell eDirectory のユーザ名とパスワードを使用してこれらのファイルにアクセスすることができません。これらのファイルにアクセスするには、Windows ドメインのアカウント情報が必要です。

ドメインに属していないサーバ上にファイルを配置する場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

【ドメインユーザ名】

ZENworks ファイルの場所に対する Windows ファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内の任意のユーザのユーザ名を指定します。

【パスワード】

ZENworks ファイルに対するファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内のユーザのパスワードを指定します。

【パスワードの確認】

正しいパスワードが入力されたことを確認するために同じパスワードを指定します。

ZENworks Middle Tier Serverのインストール

ZENworks ファイルの場所

ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするネットワーク上の場所を選択します。

☐ ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、NetWareサーバにのみ配置されます。

☒ ZENworksの一部(またはすべて)の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、Microsoft Windowsサーバに配置されます。

注:
このオプションを選択した場合は、Windowsファイルシステムにアクセスするためのログインアカウント情報を指定する必要があります。

ZENworksの管理対象ファイルが配置されるWindowsドメインのログインアカウント情報を入力します。ドメインに属さないサーバに管理対象ファイルが配置される場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

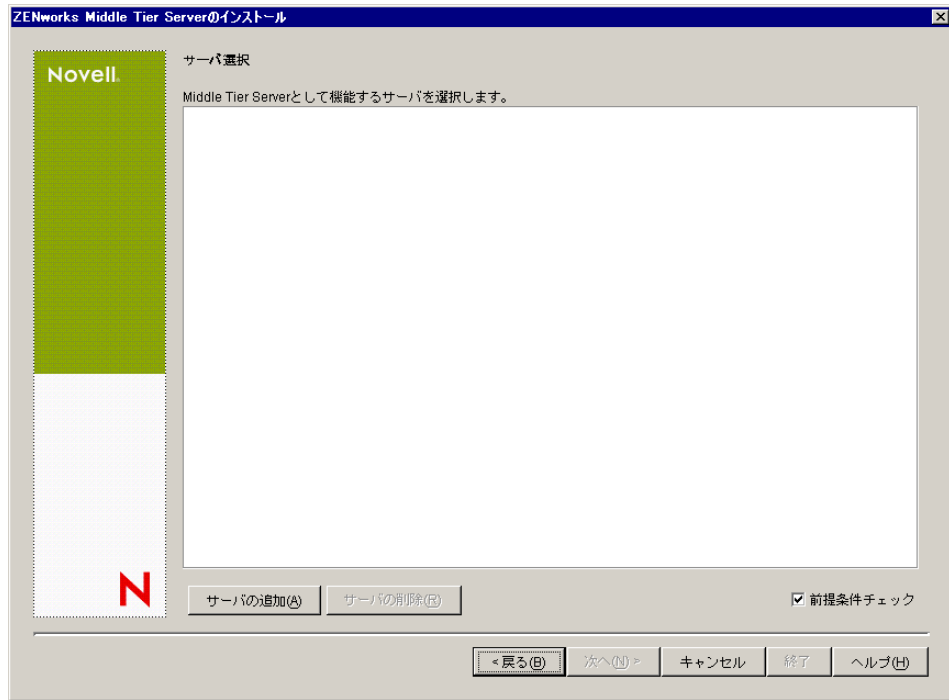
ドメインユーザ名(U):

パスワード(P):

パスワードの確認(C):

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル 終了 ヘルプ(H)

- 12 【サーバ選択】 ページで、Middle Tier Server として機能するターゲットサーバのリストを作成する必要があります。【サーバの追加】 ボタンを使用すると、サーバを検索してリストに追加するダイアログボックスが表示されます。【サーバの削除】 ボタンを使用すると、追加したサーバをターゲットリストから削除することができます。【サーバの追加】 をクリックします。



- 13 (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks Middle Tier Servers のインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。

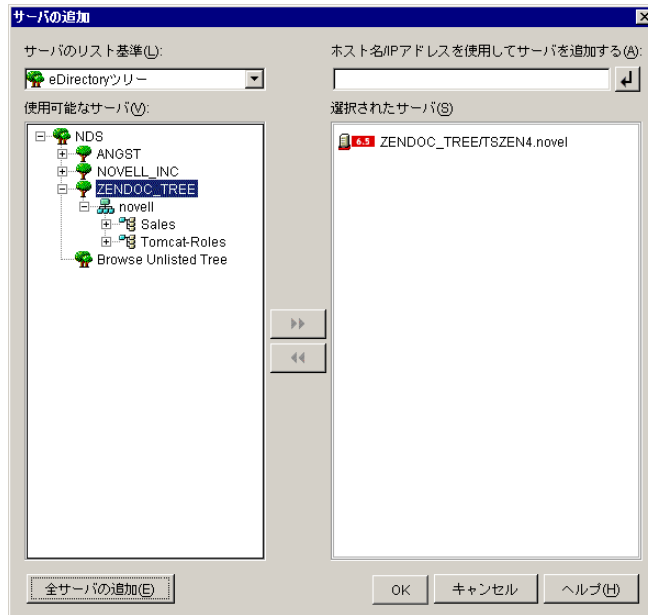
インストールプログラムは、以前にインストールされた Middle Tier Server ソフトウェアのバージョン、サーバのネットワークオペレーティングシステム (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバ上の IIS Web サーバの有無とバージョン、NetWare サーバ上の適切な Web サーバの有無とバージョン、およびターゲットサーバ上の NetStorage (2.6.0) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件が満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。

- 14 [サーバの追加] ダイアログボックスで、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストを開き、Novell eDirectory のツリー、Microsoft Windows Network の構造、または Microsoft Active Directory のツリー内の場所に基づいてサーバを一覧表示するオプションを表示します。

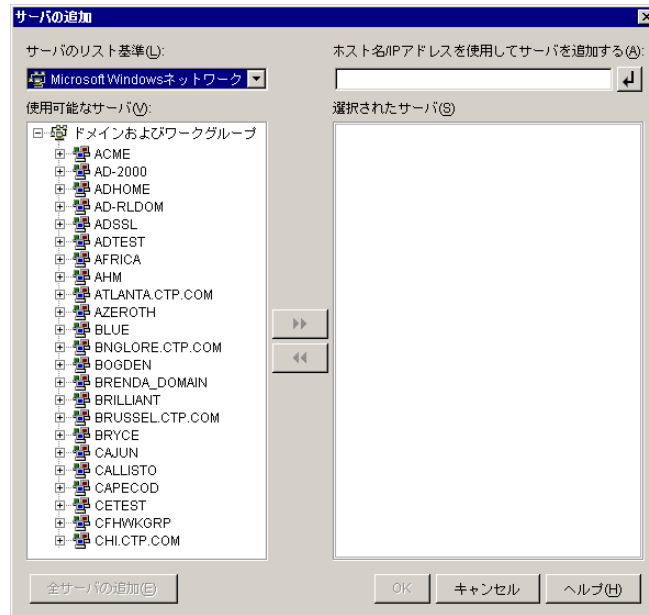
インストール中に、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを複数のサーバにインストールできます。サーバをリストに追加したら、[OK] をクリックします。

- 14a (eDirectory ツリーのサーバをリストに表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンボックスで [eDirectory ツリー] を選択し、現在認証されているすべての eDirectory ツリーを表示します。次に、ツリーを参照して目的のサーバまで移動し、右方向矢印ボタンをクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストボックスに移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックすると、ダイアログボックスにネットワーク上のすべてのツリーを表示できます。これらのツリーのいずれかをダブルクリックすると、認証されていないツリーでも、[使用可能なサーバ] リストに追加されます。
 - ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、サーバの名前に解決可能である必要があります。
 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
 - ◆ 認証されていないサーバを選択した場合は、ツリーの eDirectory アカウント情報を入力するように要求されます。
 - ◆ [全サーバの追加] をクリックすると、認証が完了するときに、選択したツリーまたはコンテナのすべてのサーバが追加されます。上位レベルのコンテナを選択すると、そのコンテナのサーバすべてと、下位のコンテナにあるすべてのサーバが選択されます。
 - ◆ サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、<Shift> または <Ctrl> キーを押しながらサーバを選択します。
- 14b (Microsoft Windows ネットワーク構造のサーバをリストに表示する場合)
 [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで [Microsoft Windows ネットワーク] を選択し、現在認証されているすべての Windows ワークグループと Microsoft ドメインを一覧表示します。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストに移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

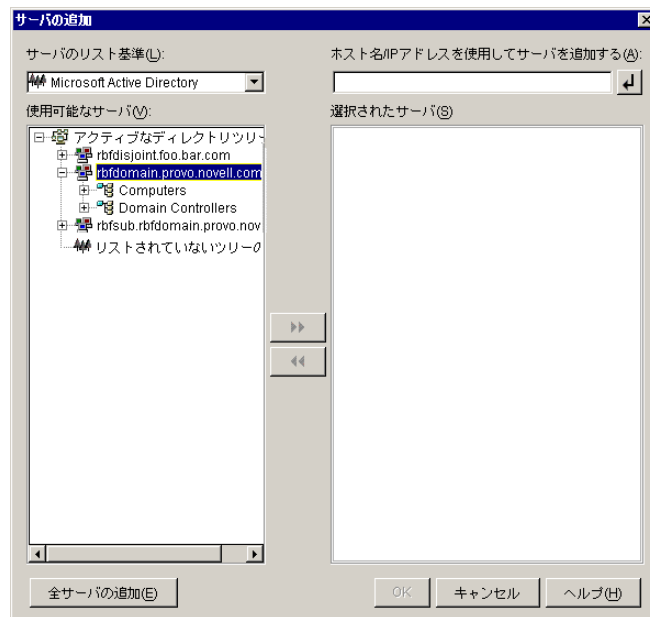
- ◆ [選択されたサーバ] リストにサーバを追加するには、サーバの管理ユーザである必要があります。サーバで認証されていない場合は、オブジェクトに疑問符のマークが表示されます。サーバが ZENworks 6.5 Desktop Management でサポートされているサーバプラットフォームの場合、疑問符のマークをダブルクリックしてサーバに対する認証を実行し、二重の右向き矢印をクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。
- ◆ Windows サーバ上にある ZENworks ファイルは、NetWare にインストールされた Middle Tier Server から取得することができないため、Microsoft ドメイン内のサーバの一覧を表示するときに、NetWare サーバは一覧に表示されません。
- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。
 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

Windows サーバの複数のサーバ名のエイリアスを使用する場合、最初のエイリアスは Windows サーバの物理名であることが必要です。

- ◆ サーバの認証用に指定したアカウント情報(ステップ 11 を参照)が管理アカウントではない場合、サーバをターゲットサーバとして追加することはできますが、[サーバの追加] ダイアログボックスを閉じるときに管理アカウントの再入力を求められます。
- ◆ 選択したドメインまたはワークグループ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはワークグループを選択すると、そのドメインまたはワークグループ内の認証済みサーバのすべてが選択されます。

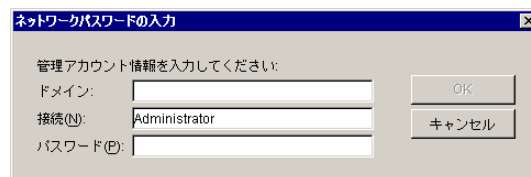
- ◆ [選択されたサーバ] リストからサーバを削除し、[使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] リストでサーバ名をクリックし、二重の左向き矢印をクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、〈Shift〉または〈Ctrl〉キーを押しながらサーバを選択します。

14c (Microsoft Active Directory でサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで、[Microsoft Active Directory] を選択します。ワークステーションが Active Directory のメンバーの場合、Active Directory のツリー内のドメインが表示されます。Active Directory で (ドメインごとに) リスト表示されるすべてのサーバを参照し、目的のサーバへの構造を参照します。次に、二重の右向き矢印をクリックして、サーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックして、追加するドメイン名の指定が可能なダイアログボックスを開きます。そして、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストにサーバを表示する前に、適切なアカウントを使ってサーバへの認証を実行することができます。



- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。

↓をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- ◆ ドメインオブジェクトを右クリックし、次の 3 種類の検索方法のいずれかを選択します。

[検索基準の場所] : ドメインのルートにあるコンピュータとドメインコントローラを一覧表示します。これはデフォルトの検索方法です。

[ディレクトリ全体の検索] : コンピュータが配置されているすべてのディレクトリコンテナを一覧表示します。

[ディレクトリ階層の参照] : ディレクトリ内のすべてのコンテナを一覧表示します。コンテナを 1 つずつ展開して、目的のコンピュータを探することができます。大規模なディレクトリの検索基準以外の場所にコンピュータがある場合、この検索方法が役立ちます。

- ◆ [全サーバの追加] をクリックして、選択したドメインまたはコンテナのすべてのサーバを追加します。ドメインまたはコンテナを選択すると、そのドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバが選択されます。
- ◆ サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、<Shift> または <Ctrl> キーを押しながらサーバを選択します。

- 15 [概要] ページで、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアおよび関連付ける Desktop Management Server のインストール先として選択した場所を確認します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストール処理を開始します。

Middle Tier Server インストールウィザードは、別のインストールプログラムを起動します。このプログラムが完了するのを待ちます。

重要 : インストール完了後、インストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmmidtier_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `%novell%zfdtemp` ディレクトリに保存されます。このログファイルには、コンポーネントのインストールが失敗したかどうかが表示されます。

インストールの概要を見直し、選択した内容を確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmmidtier_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_installsummary.log`)。このファイルも `c:%novell%zfdtemp` にあります。

- 16 Desktop Management Server の eDirectory を対象とする ConsoleOne で、クリアテキストパスワードを許可するように Desktop Management Server を設定していることを確認します。詳細については、[63 ページのステップ 15](#) を参照してください。
- 17 (NetWare 6 のインストールのみ) NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server 上の `autoexec.ncf` ファイルを編集して、Apache Web Server のロードとバインドが正常に行われるようにします。詳細については、[94 ページの「NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集」](#) を参照してください。
- 18 ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたサーバを再起動します。
- 19 ワークステーションのブラウザで次の URL のいずれかを入力し、ZENworks Middle Tier Server がインストールされて、稼動していることを確認します。

`http://Middle_Tier_Server_DNS_or_IP/oneNet/xtier-stats`

`http://Middle_Tier_Server_IP_address/oneNet/zen`

ZENworks Middle Tier Server が稼動していれば、1 つ目の URL でサーバの統計値が表示された Web ページが開きます。ブラウザの [更新] ボタンをクリックすることにより、要求数が増加している場所が表示できます。

認証されていない場合、2 つ目の URL では、ユーザアカウント情報の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。認証された場合、3 つ目の URL では、XZEN (Middle Tier Server の Xtier モジュール) が実行中であることを示すメッセージを含んだ Web ページが表示されます。

Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利

ZENworks Middle Tier プロキシユーザには、次のカテゴリで権利が必要です。

- ◆ 93 ページの「コンテキストレスログイン用の権利」
- ◆ 93 ページの「リモート管理用の権利」
- ◆ 93 ページの「NSAdmin を使用して Middle Tier Server を管理するための権利」
- ◆ 94 ページの「Middle Tier Server が iFolder NetStorage Server を兼ねる場合に必要な権利」

コンテキストレスログイン用の権利

定義済みのユーザコンテキストのサブコンテナにユーザが存在する場合、LDAP を使用して、認証プロセス中のコンテキストを検索します。この LDAP 照会を実施するには、Middle Tier プロキシユーザアカウントに、この Middle Tier Server を介してログインするユーザオブジェクトの CN 属性への読み込み権が必要です。

リモート管理用の権利

Novell Client™ のない (すなわちデスクトップ管理エージェントのみを使用している) 環境のユーザは、Middle Tier Server を介して eDirectory ツリーにログインします。Middle Tier プロキシユーザアカウントには、この Middle Tier Server を介してログインするユーザオブジェクトの zendmWSNetworkAddress 属性への書き込み権が必要です。この属性に保存されるネットワークアドレスは、この Middle Tier Server を介した各ユーザのログイン中に更新され、ユーザのネットワーク上の場所を決めるリモート管理プロセスによって使用されます。

注: zendmWSNetworkAddress 属性は、eDirectory ユーザオブジェクトでは、デフォルトで提示されないの
で、Middle Tier プロキシユーザアカウントには、ユーザオブジェクトに対してエントリ作成の権利が必要です。属性は、ユーザが、Middle Tier Server を介して、デスクトップ管理エージェントからはじめてログインするときに作成されます。

NSAdmin を使用して Middle Tier Server を管理するための権利

NSAdmin ユーティリティ (<http://midtier/oneNet/nsadmin>) を使用して、Middle Tier Server を管理することが必要なすべてのユーザは、Middle Tier プロキシユーザアカウントと同等セキュリティである必要があります。プロキシアカウントは、HKLM (または NW 用 myserver)¥Software¥Novell¥XTier¥Configuration¥Xsrv にある Middle Tier Server のレジストリに保管されています。

Middle Tier Server が iFolder NetStorage Server を兼ねる場合に必要な権利

NetWare 6.5 Middle Tier Server が Novell iFolder[®] NetStorage サーバを兼ねる場合、補助クラス (xTier) を追加するための追加権と、属性 (xTier-iFolderPassPhrase) に対する書き込み権を Middle Tier プロキシユーザに付与します。これらの権利により、プロキシユーザは、NetStorage の中から変更する場合パスワードを設定することができます。

NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集

NetWare 6 をインストールした場合は、NetWare サーバのプライマリ IP アドレスとは異なる IP アドレスで Apache (および他の NetWare サービス) を実行するオプションがありました。詳細については、『*NetWare 6 概要とインストールガイド*』の「IP ベースサービスを設定する (状況によって実行)」を参照してください。

このオプションを使用して、Apache Web Server をインストールすることを選択した場合、サーバの autoexec.ncf ファイルに 1 行以上が追加されて、Apache IP アドレスがセカンダリアドレスとして識別されました。これらの IP アドレス行は、Apache を含むさまざまな NetWare コンポーネントのロード行より上に配置されました。この構成は、ロードする Apache サーバが正しくセカンダリアドレスにバインドされるので機能します。

ただし、続けて ZENworks Middle Tier Server コンポーネント (すなわち、istorage.zip および storage.zip) をインストールする場合、Apache ロードコマンドは、autoexec.ncf ファイルの下部に移されます。この手順では、Apache はロードしますが、セカンダリアドレス行がまだ実行されていないので正しくバインドしません。

ZENworks Middle Tier Server をインストールした後、autoexec.ncf を編集して“セカンダリ IP アドレス追加”コマンドをファイルの最上部近くに配置し、サーバを再起動することをお勧めします。

9

Desktop Management Server と Middle Tier Server の同一コンピュータへのインストール

中小企業の場合、同じネットワークサーバ上に Novell® ZENworks® Middle Tier Server と Desktop Management Server をインストールできます。

この節では、次のトピックについて説明します。

- ◆ 95 ページの「1台のNetWareサーバへのデスクトップ管理サービスのインストール」
- ◆ 95 ページの「1台の Windows 2000 サーバへのデスクトップ管理サービスのインストール」

1 台の NetWare サーバへのデスクトップ管理サービスのインストール

次の必要なコンポーネントのインストールに関する高度な手順を使用して、1 台の NetWare 6 または NetWare 6.5 サーバで、ZENworks Desktop Management を実行します。

- 1 ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールします。詳細については、73 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール手順」を参照してください。
- 2 Desktop Management Server ソフトウェアをインストールします。詳細については、51 ページの「Desktop Management Server のインストール手順」を参照してください。
- 3 サーバを再起動します。

重要：ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアのインストール後に NetWare 6 SP4 をインストールする場合、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを再度インストールする必要があります。一部の NetWare 6 SP1 および SP2 ファイルは、ZENworks Middle Tier Server の同じ名前の新しいファイルを不正確に上書きします。

1 台の Windows 2000 サーバへのデスクトップ管理サービスのインストール

次の必要なコンポーネントのインストールに関する高度な手順を使用して、1 台の Windows 2000/2003 サーバで、ZENworks Desktop Management を実行します。

- 1 eDirectory をインストールします。これには次の補完ソフトウェアが必要です。
 - ◆ Novell eDirectory のライセンスが必要です。eDirectory 8.7.x 評価ライセンスに必要なファイルは、Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード Web サイト (http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) からダウンロードできます。Novell ZENworks 6.5 Companion 1 CD にある Novell eDirectory 8.7.3 には、eDirectory インストール中にこれらのファイルを要求するライセンスウィザードが含まれています。

- ◆ Novell Client 4.9 Support Pack 1a 以降がインストールされている必要があります。
- ◆ ConsoleOne® 1.3.6 がインストールされている必要があります。

重要: Windows 2000/2003 サーバに Novell Client™ をインストールして、同じコンピュータに Middle Tier Server をインストールした場合、このサーバから Novell Client をアンインストールすると、Middle Tier Server で障害が発生します。Novell Client のアンインストールプログラムを実行すると、ZENworks Middle Tier Server で必要とされる重要なファイルが削除されます。

この同じシナリオで、Novell Client を 4.9 SP2 にアップグレードすると、異なるバージョンの nicm.sys がインストールされます。ZENworks 6.5 Middle Tier Server に含まれる nicm.sys を使用しないと、Middle Tier Server で障害が発生します。

この問題を回避するには、次の 2 つのオプションがあります。

- 1) Novell Client をアップグレードする前に ZENworks 6.5 Middle Tier Server に含まれる nicm.sys ファイルを保存し、アップグレード前に再びコピーします（この場合、Novell Client のアップグレード後に Middle Tier を再インストールする必要があることがあります）。
 - 2) Novell Client のアップグレード後に、Novell Support Knowledgebase の TID 10093371 (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10093371.htm>) から nicm.sys をダウンロードし、コピーすることにより、更新された Novell Client のバージョンの nicm.sys を上書きします。
- 2 アクティブディレクトリも、このサーバにインストールされている（すなわち、サーバがプライマリドメインコントローラである）場合、eDirectory LDAP がデフォルト以外のポートでリッスンするように設定されていることを確認します。（389: 非保護、636: 保護）。**
- 2a** LDAP サーバオブジェクトを変更できる権利を持つように、Novell Client から Admin（またはそれと同等）として eDirectory にログインします。
 - 2b** ConsoleOne で、[LDAP サーバ] オブジェクトを右クリックし、[プロパティ] > [一般] の順に選択します。
 - 2c** [TCP Port (TCP ポート)] フィールドで、TCP ポートをデフォルト以外のポートに変更します（ポート 388 などが適しています）。

注: この操作は旧バージョンの eDirectory では若干異なります。場合によっては、LDAP サーバの [その他] のページを開き、[TCP Port (TCP ポート)] プロパティを探して、値の変更が必要です。
 - 2d** [SSL Configuration (SSL 設定)] タブをクリックして、[SSL Configuration (SSL 設定)] ページを開きます。
 - 2e** [SSL Port (SSL ポート)] フィールドで、ポート番号を 636 以外の数字に変更し、[適用] をクリックします。

ポート変更の適用後、エラーが表示される場合、それを無視してエラーダイアログボックスを閉じることができます。
 - 2f** [Refresh NLDAP Server Now (今すぐ NLDAP サーバをリフレッシュ)] ボタンをクリックします。

NLDAP サーバのリフレッシュ後、エラーが表示される場合は、それを無視してエラーダイアログを閉じることができます。
 - 2g** Windows のデスクトップで、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックして、[NDS Services (NDS サービス)] をダブルクリックします。
 - 2h** [NDS Services (NDS サービス)] ウィンドウで、nldap.dlm を選択して、[開始] をクリックして TCP ポートへの変更に同意します。

コマンドプロンプトで次のコマンドを入力することにより、LDAP サーバがリッスンしているポートを確認できます。

```
netstat -a -n
```

- 3 iMonitor もこのサーバにインストールされている場合、80 以外のポートで実行するように設定します。次の手順を使用して設定します。
- 3a Windows のデスクトップで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [インターネット サービス マネージャ] の順にクリックします。
- 3b [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウでプラス記号 (+) をクリックし、コンソールツリーのサーバノードを展開します。
- 3c [既定の Web サイト] アイコンで、(停止中の) 説明について確認します。
- Web サイトが実行中の場合、**ステップ 3d**に進みます。
- Web サイトが停止している場合、**ステップ 3e**に進みます。
- 3d (条件付き) コマンドプロンプトに次のコマンドを入力することにより、IIS Web サーバを停止します。
- ```
iisreset /stop
```
- 3e デスクトップから、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [NDS Services(NDS サービス)] を順にクリックして、[NDS iMonitor] > を選択し、[停止] をクリックして、iMonitor サービスを停止します。
- 画面はリフレッシュされず、サービスが停止されていることを示さない場合があります。場合によっては、NDS<sup>®</sup> サービスを閉じて、もう一度それらを開き、サービスが停止していることを確認する必要があります。
- コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して、ポート 80 でリッスンしているサービスがないことを確認できます。
- ```
netstat -a -n
```
- 3f 競合するポートの設定を変更します。ConsoleOne から、eDirectory サーバと同じコンテナで、[Http Server-Servername(HTTP サーバ-サーバ名)] オブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 3g httpDefaultClearPort および httpDefaultTLSPort 属性を展開します。
- 3h 各属性の値を選択し、変更をクリックして、割り当てされていないポートを入力して DHost コンソールと ndsimon 用に使用します。
- たとえば、そのポート 9000 および 443 が他のアプリケーションによって使用されていないと仮定すると、httpDefaultClearPort のデフォルト値が 80 に設定されている場合、それを 9000 に変更することができ、httpDefaultTLSPort が 43 に設定されている場合、それを 443 に変更する必要があります。
- 3i 新しいポート番号が有効になるように、eDirectory をシャットダウンして再起動します。
- 3j iMonitor を起動します。デスクトップから、[スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [NDS Services(NDS サービス)] の順にクリックして、[NDS iMonitor] を選択し、[開始] をクリックします。
- コマンドプロンプトで次のコマンドを入力することにより、iMonitor が、設定されたポートでリッスンしていることを確認します。
- ```
netstat -a -n
```
- 3k コマンドプロンプトから、次のコマンドを入力して、IIS を起動します。
- ```
iisreset /start
```

- 4 Desktop Management Server ソフトウェアをインストールします。詳細については、[7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)を参照してください。
- 5 サーバに ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールします。詳細については、[8 章 73 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール」](#)を参照してください。
- 6 サーバにアクティブディレクトリがあり、サーバがプライマリドメインコントローラである場合、IIS 権利を認めて Middle Tier レジストリエントリを変更します。
 - 6a Windows デスクトップで、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、[regedt32] を入力します。
 - 6b Windows レジストリエディタで、HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Novell\Xtier を開き、[セキュリティ] > [アクセス許可] の順にクリックします。
 - 6c [Xtier のアクセス許可] ダイアログボックスで、[詳細] をクリックします。
 - 6d [Xtier のアクセス制御の設定] ダイアログボックスで、[追加] をクリックします。
 - 6e [ユーザーまたはグループの選択] ダイアログボックスの [名前] フィールドで、ドメインが、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたところを選択されていることを確認し、リストから [IUSR_server_name] ユーザオブジェクトを選択し、[OK] をクリックします。
 - 6f [Xtier のアクセス許可のエントリ] ダイアログボックスで、次の許可のそれぞれに対して [許可] を選択します。
 - ◆ 値の照会
 - ◆ 値の設定
 - ◆ サブキーの作成
 - ◆ サブキーの列挙
 - ◆ 通知
 - ◆ 削除
 - ◆ 読み取り制御
 - 6g [OK] をクリックします。
 - 6h [Xtier のアクセス制御の設定] ダイアログボックスで、[すべての子オブジェクトのアクセス許可を元に戻し、継承可能なアクセス許可を継承できるようにする] を選択して [適用] をクリックします。
 - 6i [セキュリティ] 警告ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。
 - 6j [Xtier のアクセス制御の設定] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
 - 6k [Xtier のアクセス許可] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
 - 6l Windows レジストリエディタを閉じます。
- 7 ブラウザを開き、NSAdmin ユーティリティのアドレス (http://server_IP_address/oneNet/nsadmin) を入力し、ZENworks Middle Tier Server 用の LDAP ポート設定を変更します。

10

デスクトップ管理エージェントのインストールと設定

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management コンポーネントにより提供されるワークステーション機能は、デスクトップ管理エージェントをインストールする場合のみ利用できます。そのワークステーションに Novell Client™ を現在インストールしている場合でも、これは当てはまります。デスクトップ管理エージェントのインストールは、Novell Client により以前インストールされた ZENworks 機能を削除し、選択した ZENworks ワークステーション機能で置き換えます。

デスクトップ管理エージェントのインストールでは、さまざまな ZENworks 機能を以前の状態を基にインストールできます。つまり、以前のインストールでデスクトップ管理エージェントによってインストールされた任意のコンポーネントを、デスクトップ管理エージェントセットアップのメンテナンスダイアログボックスの [変更] オプションを使用して追加または削除できます。詳細については、121 ページの「デスクトップ管理エージェントの設定の変更」を参照してください。

インストールプログラムは、Microsoft Windows インストーラ機能を使用します。Microsoft Windows インストーラに関する詳しい説明は、MSI Web サイト (<http://www.microsoft.com/windows2000/techinfo/administration/management/wininstaller.asp>) を参照してください。

この節では、次の内容について説明します。

- ◆ 99 ページの「インストールの前に」
- ◆ 100 ページの「手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール」
- ◆ 106 ページの「Novell Application Launcherを使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール」
- ◆ 110 ページの「Application Launcher プラグインによるエージェントの配布」
- ◆ 110 ページの「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開」
- ◆ 116 ページの「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開」
- ◆ 121 ページの「デスクトップ管理エージェントの設定の変更」

インストールの前に

デスクトップ管理エージェントインストールプログラムの zfdagent.msi は、インストール処理中に各ワークステーションで、Microsoft Windows インストーラ (MSI) のバージョン 1.11 以上が必要です。

デスクトップ管理エージェントを、MSI 1.11（またはそれ以降）がすでにインストールされているワークステーション（Windows 2000 または Windows XP システム）にインストールしている場合、エージェント MSI インストールプログラムは正常に動きます。

手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール

ここでは、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD または *zfdagent.msi* のダウンロードコピーから作成するイメージを使用してデスクトップ管理エージェントをインストールすることについて説明します。次の節で構成されています。

- ◆ 100 ページの「手動のインストール手順」
- ◆ 105 ページの「手動のインストールにおける機能の追加」

手動のインストール手順

デスクトップ管理エージェントを、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD から個々のワークステーションに手動でインストールする場合は次の手順を使用します。

- 1 Windows ワークステーションに、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を挿入します。

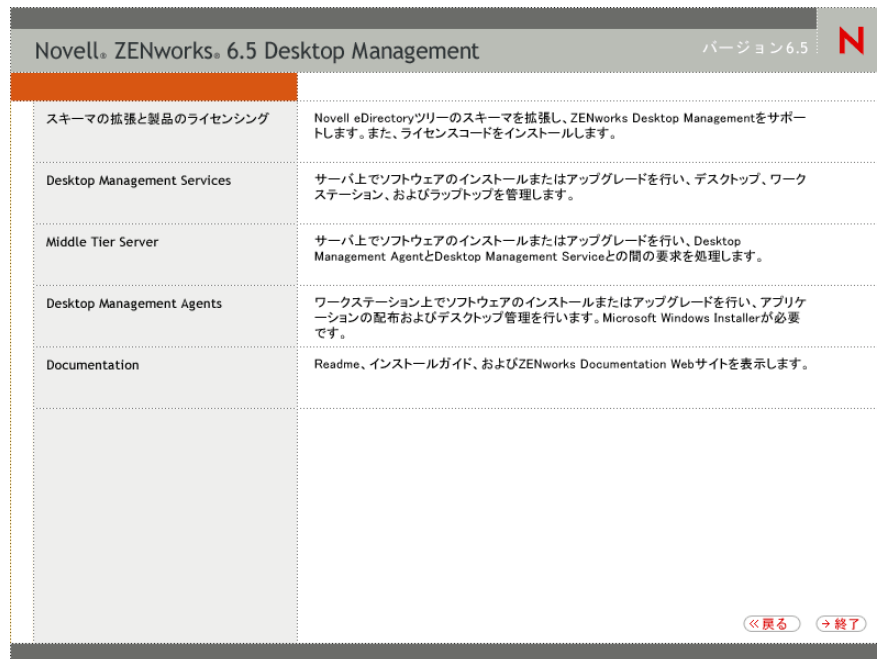
ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの位置からインストールを実行する場合、ISO ファイルのすべてが、*winsetup.exe* を実行している位置にコピーされていることを確認します。

重要： インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャで [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して、[プロセスの終了] をクリックします。

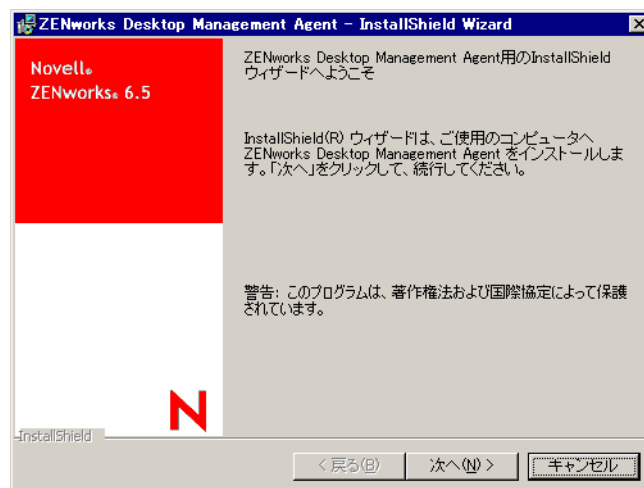
winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

Novell. ZENworks. 6.5		バージョン 6.5
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。	
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。	
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PC を含む)、および RIM BlackBerry デバイスの管理を自動化します。	
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。	
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。	
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。	
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。	
Companion プログラムおよびファイル	ZENworks で使用する補助プログラムおよびファイル群	
Documentation	Readme、入門ガイド、および ZENworks Documentation Web サイトを表示します。	
		→ 終了

- 2 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 3 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



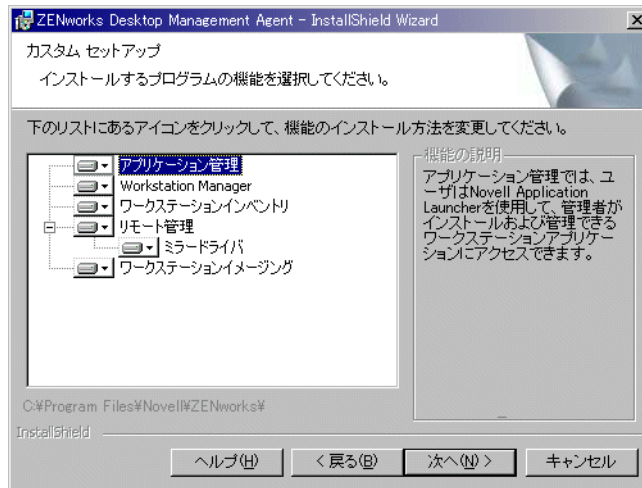
- 4 [デスクトップ管理エージェント] をクリックして、ZENworks デスクトップ管理エージェントインストールウィザードを起動します。
- 5 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。



- 6 ライセンス契約書を読みます。ライセンスの各条項に同意する場合は [ライセンス契約書の条件に同意します] をクリックします。
- または

ライセンスの各条項に同意しない場合は「ライセンス契約書の条件に同意しません」をクリックします。これによりインストールプログラムは終了します。

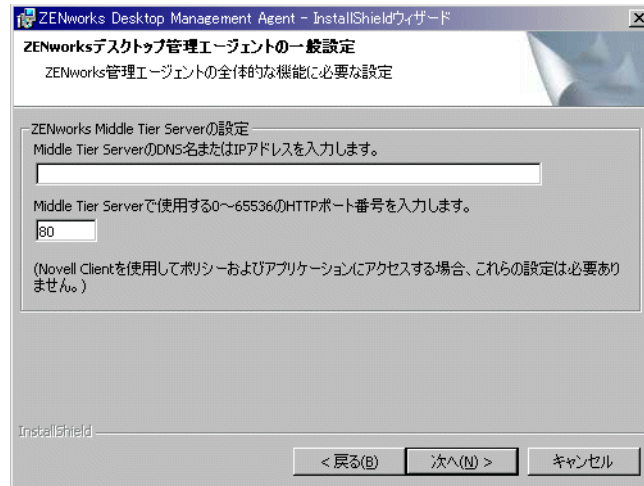
- 7 「カスタムセットアップ」ページで、ワークステーションにインストールする機能を選択し、「次へ」をクリックします。



インストール可能な機能は次の通りです。

- ◆ **「アプリケーション管理」**：Novell Application Launcher™ を使用して、管理者がインストールして管理できるワークステーションアプリケーションに、ユーザがアクセスできるようにします。アプリケーション管理は、デスクトップ管理エージェントの将来の更新を容易にするため、選択されていなくてもデフォルトでインストールされます。
- ◆ **Workstation Manager**：管理者が、Novell eDirectory™ を使用して、ワークステーションを設定、管理できるようにします。
- ◆ **ワークステーションインベントリ (Workstation Inventory)**：管理者が、スキャンの対象になるワークステーションからハードウェアとソフトウェアのインベントリ情報を収集できるようにします。
- ◆ **「リモート管理」**：管理者が管理コンソールからリモートワークステーションを管理できるようにします。
- ◆ **ミラードライバ**：この機能は、ビデオアダプタを独立して使用し、他のリモートコントロールソリューションを共存させることができます。この機能が選択されていると、MSI インストールでは、ビデオドライバのチェックが無視され、Windows のすべてのメッセージが非表示になります。このドライバを使用しない場合は、チェックボックスをオフにします（最適化は無効になります）。
注：Mirror Driver は、まだ Microsoft によって署名されていません。
- ◆ **ワークステーションイメージング (Workstation Imaging)**：管理者が、ワークステーションのハードドライブのイメージを取得し、それをネットワークを介して他のワークステーションに配置できるようにします。

- 8 「一般設定」ページで、フィールドに入力し、「次へ」をクリックします。



Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを入力します： エージェントが接続する ZENworks Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを指定します。

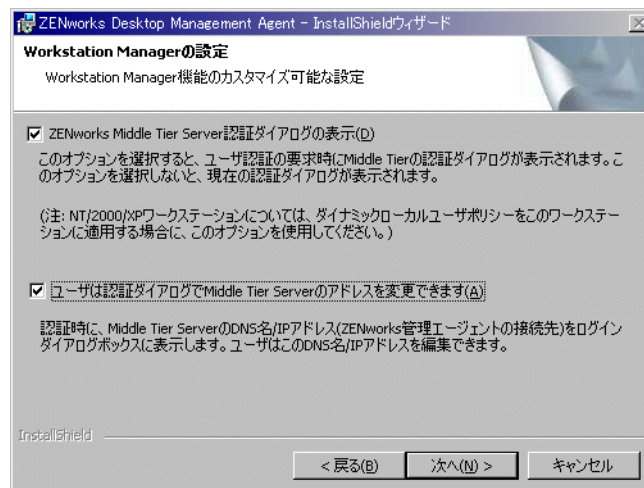
重要： プロトコル (http: や https: など) を IP アドレスと共に入力すると、デスクトップ管理エージェントが ZENworks Middle Tier Server に接続できません。

Middle Tier Server により使用されるポート番号を入力します： Apache Web サーバ (NetWare) または IIS Web サーバ (Windows) がエージェントのログインをリッスンするのに使用する HTTP または HTTPS ポート番号を指定します。

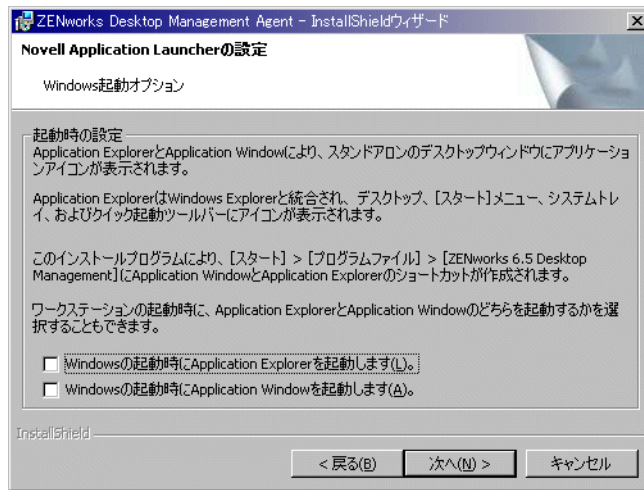
重要： 安全な (HTTPS) ポートを指定する場合、ポート 443 を使用する必要があります。

IP アドレスまたは DNS 名およびポート番号により、ワークステーションは Middle Tier と一緒に起動する Apache Web サーバにアクセスし、Desktop Management Server へ認証アカウント情報を渡します。Novell Client がインストールされている場合、IP アドレスまたは DNS 名はオプションです。

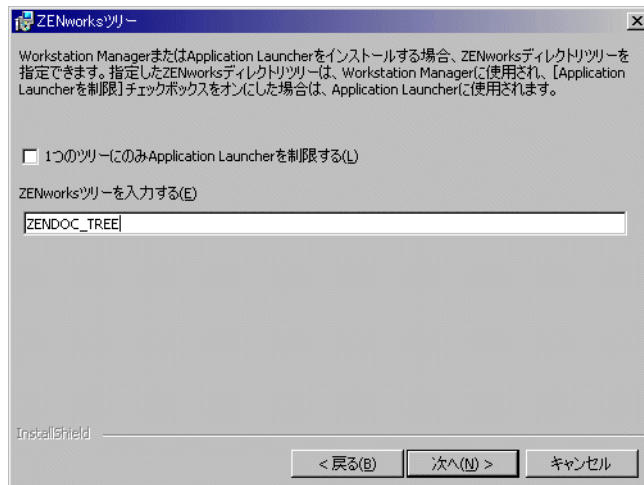
- 9 (条件付き。Novell Client がインストールされていないワークステーションにインストールしている場合は、[Workstation Manager 設定ページ] が表示されます)



[ZENworks Middle Tier Server 認証ダイアログの表示] または [Allow Users to Change Middle Tier Server Address (Middle Tier Server アドレスの変更を許可)] いずれか、または両方を選択して、Workstation Manager 機能に対する設定をカスタマイズし、[次へ] をクリックし、もう一度 [次へ] をクリックして、[Novell Application Launcher/Windows 起動オプション] ページを表示します。



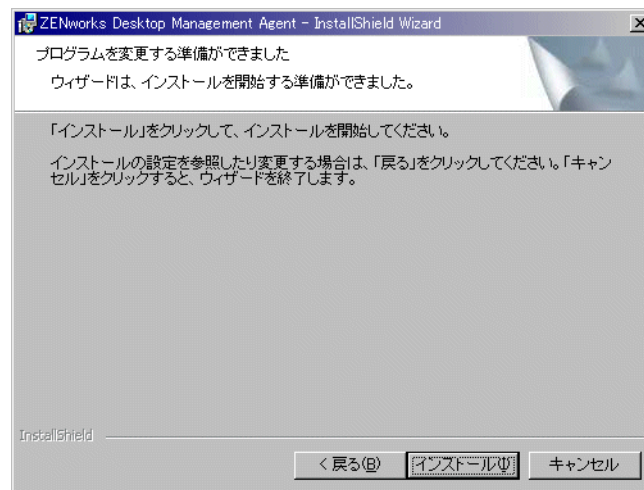
- 10 起動時に Application Explorer または Application Window いずれかを起動する（またはどちらも起動しない）ことを選択して、[次へ] をクリックします。
- 11 （条件付き。Workstation Manager または Application Launcher をインストールする場合、[ZENworks ツリー] ページが表示されます。）



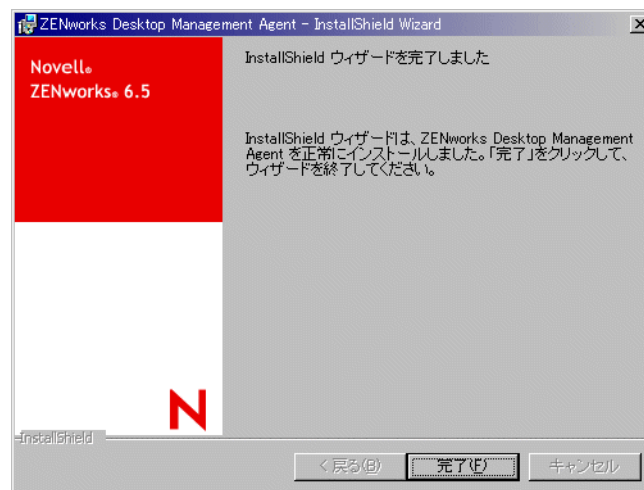
フィールドで指定する eDirectory ツリーで利用可能なアプリケーションに、ワークステーションのユーザがアクセスするのを制限したい場合は、[1 つのツリーにのみ Application Launcher を制限する] を選択します。

ユーザが 1 つのツリーでアプリケーションを受信するのを制限したい場合は、ZENworks ディレクトリツリーフィールドでその eDirectory ツリー名を指定し、[次へ] をクリックして、[プログラムのインストールが可能] ページを表示します。
または

[1つのツリーにのみ Application Launcher を制限する] を選択しなかった場合でも、[ZENworks ツリー] フィールドでツリーの名前を指定できます。このツリーは、ポリシーがアクセスされ、ワークステーションに適用されているツリーとして、Workstation Manager に認識されます。[次へ] をクリックして、[プログラムのインストールが可能] ページを表示します。



- 12 デスクトップ管理エージェントインストール用に選択した設定を確認する場合は、[戻る] をクリックします。設定が正しい場合、[インストール] をクリックして、インストールプログラムを起動します。
- 13 [InstallShield ウィザードが完了しました] のページで、[終了] をクリックします。



手動のインストールにおける機能の追加

初回インストール後にインストールプログラムを実行する場合、[変更] オプションを選択して、個々のワークステーションに機能を追加できます。この手順には、インストールプログラムが zfdagent.msi 全体にアクセスできる（すなわち、ネットワークドライブ、ローカルワークステーション、または *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management CD* からアクセスできる）ことが必要です。

Novell Application Launcher を使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール

zfdagent.msi パッケージは、ワークステーションに多くのファイルをインストールし、多くの設定変更を行う複雑なアプリケーションです。デスクトップ管理エージェントをインストールするための最も効率的な方法は、Novell Application Launcher を使用して、MSI アプリケーションとしてデスクトップ管理エージェントをワークステーションに配布することです。Novell Application Launcher は、エージェント MSI パッケージを配布するだけでなく、Windows Installer を呼び出してワークステーションへのインストールを実行します。

ここでは、Application Launcher を使って配布するよう MSI パッケージを設定する手順について説明します。

- ◆ 106 ページの「エージェント MSI パッケージの保存」
- ◆ 106 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定」
- ◆ 107 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更」
- ◆ 108 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加」

エージェント MSI パッケージの保存

Novell ZENworks 6.5 Desktop Management CD の %agentinstall ディレクトリを参照する場合、次の言語フォルダとファイルが表示されます。

english¥zfdagent.msi (英語インストールファイル)
portugue¥zfdagent.msi (ポルトガル語インストール)
francais¥zfdagent.msi (フランス語インストール)
deutsch¥zfdagent.msi (ドイツ語インストール)
espanol¥zfdagent.msi (スペイン語インストール)
nihongo¥zfdagent.msi (日本語インストール)

Novell Application Launcher に後でアクセスできるように、ネットワークサーバの位置に、選択した zfdagent.msi ファイルをコピーする必要があります。

MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定

- 1 ConsoleOne で、アプリケーションオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規] > [オブジェクト] の順にクリックして、[新規オブジェクト] ダイアログボックスを開きます。
- 2 [新規オブジェクト] ダイアログボックスで、[アプリケーション] をクリックし、[OK] をクリックして [新しいアプリケーションオブジェクト] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [新しいアプリケーションオブジェクト] ダイアログボックスで、[. MSI ファイルが含まれるアプリケーション] オプションをクリックし、[次へ] をクリックします。
- 4 .msi ファイルをコピーしたネットワークの位置のパスを指定します。
- 5 [次へ] をクリックし、必要に応じてフィールドを変更して、アプリケーションオブジェクトをカスタマイズします。

- 6 [次へ] をクリックし、エージェント MSI の配布に先立って、ワークステーションが満たす必要のあるシステム要件を定義します。
- 7 [次へ] をクリックして、Agent の MSI アプリケーションオブジェクトを、配布するユーザと関連づけます。
- 8 [次へ] をクリックし、アプリケーションオブジェクトの設定を確認したら、[終了] をクリックしてアプリケーションオブジェクトを作成します。

重要： エージェント MSI (または何らかの MSI パッケージ) を Novell Application Launcher を使って配布する前に、Agent の MSI アプリケーションオブジェクトが [強制キャッシュ] に設定されており、eDirectory と Active Directory (使用されている場合) で、ローカルワークステーション上のユーザのアカウント情報が同期されていることを確認することをお勧めします。

MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更

デフォルトで、次の機能のすべてがデスクトップ管理エージェントによりインストールされます。

- ◆ **[アプリケーション管理]：** Novell Application Launcher を使用することにより、管理者がインストールして管理できるワークステーションアプリケーションに、ユーザがアクセスできるようにします。
 - ◆ **Workstation Manager：** 管理者が eDirectory を使って、ワークステーションを設定、管理できるようにします。
 - ◆ **ワークステーションインベントリ (Workstation Inventory)：** 管理者が、スキャンの対象になるワークステーションからハードウェアとソフトウェアのインベントリ情報を収集できるようにします。
 - ◆ **[リモート管理]：** 管理者が管理コンソールからリモートワークステーションを管理できるようにします。
 - ◆ **ミラードライバ：** ビデオアダプタを独立して使用し、他のリモートコントロールソリューションを共存させることができます。この機能が選択されていると、MSI インストールでは、ビデオドライバのチェックが無視され、Windows のすべてのメッセージが非表示になります。このドライバを使用しない場合は、チェックボックスをオフにします (最適化は無効になります)。
- 注：** Mirror Driver は、まだ Microsoft によって署名されていません。
- ◆ **ワークステーションイメージング (Workstation Imaging)：** 管理者が、ワークステーションのハードドライブのイメージを取得し、それをネットワークを介して他のワークステーションに配置できるようにします。

このデフォルトのインストールを変更する場合、MSI 機能を、zfdagent.msi アプリケーションオブジェクトのパブリックプロパティとして追加できます。次の手順を使用して、インストール対象機能のリストを変更します。

- 1 アプリケーションオブジェクトの [MSI] タブをダブルクリックし、[プロパティ]、[追加] を順にクリックして、[追加するプロパティを選択してください] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [値の名前] フィールドで、ADDLOCAL をプロパティ名として入力し、[値のデータ] フィールドにプロパティの値を指定します。プロパティ値として次の機能名を 1 つ以上使用します。
 - ◆ ApplicationLauncher
 - ◆ WorkstationManager

- ◆ RemoteManagement
- ◆ MirrorDriver（このプロパティは、RemoteManagement プロパティも追加しなければ機能しません）
- ◆ Imaging
- ◆ インベントリ (Inventory)

コンマ（スペースなし）で区切ることにより、これらの値を2つ以上リストに追加できます。たとえば、Application Launcher と Workstation Manager を機能として追加する場合、プロパティとして「ADDLOCAL」と入力し、そのプロパティの値として ApplicationLauncher と WorkstationManager を入力します。

3 [OK] をクリックして、プロパティを [プロパティ] リストに追加します。

MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加

次の表に、MSI アプリケーションオブジェクトに追加できるプロパティと、その値（値に対する定義を含む）の一覧を示しています。これらのプロパティの1つが値なしでリストされている場合、デフォルト値が使用されます。

プロパティ	値	意味
ADDLOCAL	<ul style="list-style-type: none"> ◆ WorkstationManager ◆ ApplicationLauncher ◆ RemoteManagement ◆ MirrorDriver ◆ インベントリ (Inventory) ◆ Imaging 	インストールする機能をカンマで区切った一覧。
LOGIN_PASSIVE_MODE	0	ユーザログイン時に Novell ログインを表示します。
	1	デフォルトです。ユーザログイン時に標準の Microsoft ログインを表示します。
注：ダイナミックローカルユーザを使用する場合、このプロパティに、値ゼロ (0) を割り当てる必要があります。		
EDITABLE_MT_ADDRESS	1	認証が行われる ZENworks Middle Tier の IP アドレスをユーザが変更できるようにします。Novell Client がインストールされていない場合のみ利用できます。
	0	デフォルトです。ユーザは Middle Tier のアドレスを指定することができません。
このプロパティ用の値は、Novell Client がワークステーションにインストールされていない場合のみ有効です。Novell Client がすでにインストールされている場合、zfdagent.msi をインストールしてもその設定は有効になりません。		
zfdagent.msi のインストール後に Novell Client が削除されると、これらの設定は有効になります。		

プロパティ	値	意味
STARTUP_APEXPLORER	1	Windows 起動時に Application Explorer を起動します。
	0	デフォルトです。Windows 起動時に Application Explorer を起動しません。
STARTUP_APPWINDOW	1	Windows 起動時に Application Window を起動します。
	0	デフォルトです。Windows 起動時に Application Window を起動しません。
MT_SERVER_ADDRESS	このプロパティは、ZENworks Middle Tier Server の IP アドレスまたは DNS 名を指定します。Middle Tier Server を使用していない場合、このプロパティを指定する必要はありません。	
HTTP_PORT	0-65536	このプロパティは、Middle Tier Server と通信する場合にデスクトップ管理エージェントによって使用される HTTP ポートを指定します。Middle Tier Server を使用している場合、このプロパティを追加して、その値を定義する必要があります。
	80	デフォルトの HTTP ポートです。
NAL_SINGLE_TREE	1	Novell Application Launcher が、1 つのツリー内のアプリケーションにしかアクセスできないよう制限します。
	0	デフォルトです。Application Launcher がアプリケーションにアクセスするのに複数のツリーにアクセスできるようにします。
ZENWORKS_TREE	任意のツリー名	<p>eDirectory ツリーを ZENworks ツリーとして使用するよう指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Workstation Manager がインストールされている場合、このプロパティで指定されたツリーが、Workstation Manager によるポリシーの検索対象ツリーになります。 ◆ NAL_SINGLE_TREE プロパティが設定され、Novell Application Launcher がインストールされている場合、このツリーは、Application Launcher がアプリケーションを検索する唯一のツリーになります。 <p>詳細については、『<i>ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド</i>』の「ZENworks ツリーの使用」を参照してください。</p>
IGNORE_3RDPARTY_GINA	1	サイレントモードのインストールで、サードパーティの GINA が検出された場合に、それを無視してデスクトップ管理エージェントのインストールを続行します。
	0	デフォルトです。サイレントモードのインストールで、サードパーティの GINA は検出されたとしてもインストールしません。
<p>インストールプログラムをサイレントモードで実行し、サードパーティの GINA が検出された場合、インストールを続行すると、その GINA が置き換えられることを示す警告がインストールダイアログボックスに表示されます。ユーザはインストールをキャンセルするか、続行するかを選択できます。</p> <p>インストールを続行すると（つまり、サイレントモードでこのプロパティ値を 1 に設定するか、非サイレントモードでユーザがインストールを続行した場合）、サードパーティの GINA に依存するアプリケーションが動作しなくなる可能性があります。</p>		

Application Launcher プラグインによるエージェントの配布

Novell Application Launcher プラグインは、Web 経由でインストールされる単純化されたバージョンの Novell Application Launcher で、ユーザ関連アプリケーションの起動を可能にします。Application Launcher プラグインのインストールは、デスクトップ管理エージェント（または旧バージョンのエージェントまたは Novell Client）がインストールされていないワークステーションから Web ページ (myapps.html) にユーザがアクセスする場合に発生します。Application Launcher プラグインをワークステーションでインストールしたら、それを使用して、デスクトップ管理エージェントをワークステーションに配布できます。

Application Launcher プラグインのインストールの詳細については、**11 章 123 ページ**の「**Novell Application Launcher プラグインのインストール**」を参照してください。

Application Launcher プラグインをユーザのワークステーションにインストールすると、ユーザはユーザ関連アプリケーションへアクセスできます。MSI アプリケーションオブジェクトを設定して、デスクトップ管理エージェント (zfdagent.msi) を配布できます。MSI アプリケーションオブジェクト用のセキュリティレベルが、[通常の実行] に設定されていることを確認します。zfdagent.msi を実行するユーザは、管理者権限も持っている必要があります。MSI アプリケーションオブジェクトの作成の詳細については、『**ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド**』の「**アプリケーション管理**」の「**配布：単純なアプリケーション**」を参照してください。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開

デスクトップ管理エージェントディストリビュータは、Microsoft ドメインおよび Microsoft Active Directory を使用することによって、ZENworks デスクトップ管理エージェントの初期展開と今後のアップグレードを容易にします。エージェントディストリビュータでは、デフォルトで、ターゲットワークステーションを選択してデスクトップ管理エージェントを展開するときに、Microsoft ドメインと Active Directory を使用します。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ **110 ページ**の「**エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件**」
- ◆ **111 ページ**の「**デスクトップ管理エージェントの展開**」

エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件

エージェントディストリビュータを使用して Microsoft ドメイン環境内にデスクトップ管理エージェントを展開する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- ◆ エージェントディストリビュータは、ConsoleOne と一緒にインストールされ、ConsoleOne にアクセス可能で Microsoft ドメインおよび Active Directory の一部であるワークステーションから実行できます。agentdistributor.exe はスタンドアロンユーティリティで、¥sys¥public¥mgmt¥consoleone¥1.2¥bin ディレクトリからローカルの配布ワークステーションへコピーできます。エージェントディストリビュータは、ローカルに実行されます。
- ◆ Windows ワークステーションでログインしているユーザは、ドメイン管理者グループのメンバーである必要があります。

- ◆ ZENworks デスクトップ管理エージェントの MSI インストールファイル (zfdagent.msi) は、ワークステーションで利用可能な Windows ワークステーションまたはネットワーク上の場所に配置されています。zfdagent.msi ファイルは、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD の %agentinstall%english ディレクトリに配置されています。
- ◆ デスクトップ管理エージェントが展開される各ワークステーションには、Microsoft Windows インストーラがインストールされている必要があります。インストーラは Windows 2000 および Windows XP ワークステーションでは前もって設定されています。

Windows Installer がインストールされている必要がある Windows 98 ワークステーションでは、*Novell ZENworks Companion 2* CD を挿入し、[Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)]、[More (続き)]、[Microsoft Windows Installer (Microsoft Windows インストーラ)] の順にクリックします。

- ◆ すべてのサーバ (NetWare と Microsoft の両方) を 10 分以内に同期する必要があります。時間がこの範囲内に収まらない場合は、zfdagent.msi は配布されず、次のエラーが表示されます。

[失敗 - \$Admin 共有ドライブを割り当てられません。]

デスクトップ管理エージェントの展開

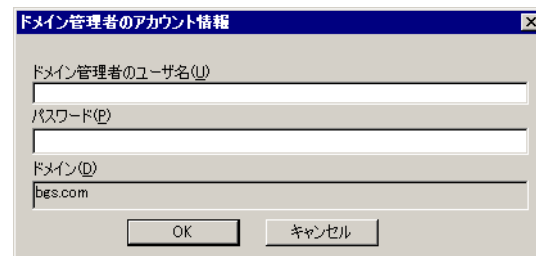
Microsoft ドメインまたは Active Directory のメンバーであるワークステーションにデスクトップ管理エージェントを展開するには、次のようにします。

- 1 Windows ワークステーションで、ドメイン管理者グループのメンバーであるユーザとしてドメインにログインします。
- 2 Windows ワークステーションで ConsoleOne を起動し、[ツール] > [ZENworks ユーティリティ] > [エージェントのインストール] の順にクリックします。

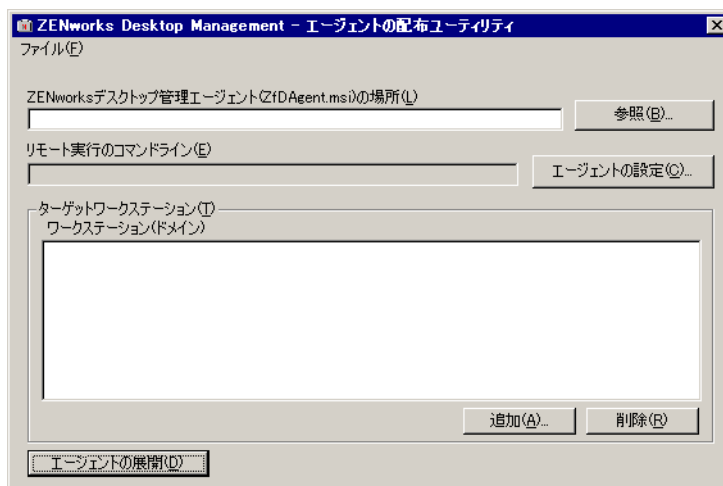
または

sys%public%mgmt%ConsoleOne%1.2%bin ディレクトリから配布ワークステーションに agentdistributor.exe ファイルをコピーして、ローカルワークステーションでそれを実行します。

ドメイン管理者グループのメンバーでない場合、またはワークステーションがドメインのメンバーでない場合、エージェントディストリビュータのメインダイアログボックスは、入力を待ちます (これにより、エージェントを Windows ワークグループに配布することが可能になります。116 ページの「[デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開](#)」を参照)。そうでなければ、次のダイアログボックスが表示されます。



- 3 ドメイン管理者ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックして次のダイアログボックスを表示します。

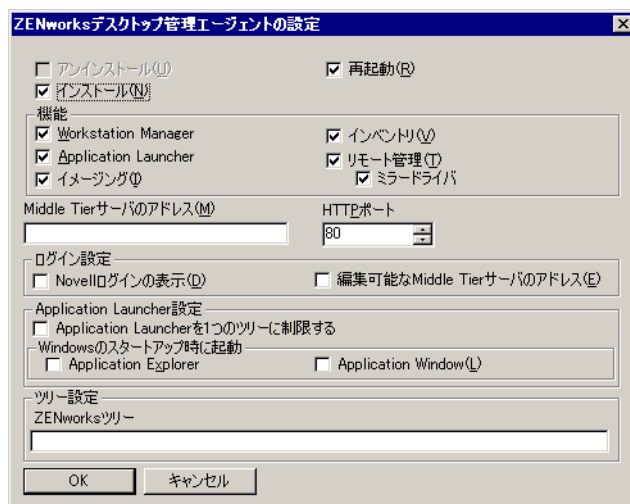


- 4 [ZENworks デスクトップ管理エージェント (zfdagent.msi) の場所] フィールドで、zfdagent.msi ファイルを参照して選択します。

zfdagent.msi ファイルがワークステーションのローカルドライブまたは利用可能なネットワークドライブに配置されていない場合、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD に配置されている %agentinstall%english ディレクトリからコピーします。

- 5 管理エージェントオプションを設定します。手順は次のとおりです。

- 5a [エージェントの設定] をクリックして [ZENworks デスクトップ管理エージェントの設定] ダイアログボックスを表示します。



このダイアログボックスを使用して、デスクトップ管理エージェントオプションを設定します。選択するオプション（[インストール] または [アンインストール]）が、他のオプションの可用性を判断します。各オプションの説明が次にリストされています。

アンインストール / インストール / 再起動： デスクトップ管理エージェントをインストールまたはアンインストールする場合に選択します。選択が完了した後、ワークステーションを再起動する場合には、[再起動] を選択します。

機能： インストールまたはアンインストールする機能を選択します。[アンインストール] および全機能を選択すると、ZENworks デスクトップ管理エージェントはアンインストールされます。

Middle Tier アドレスと HTTP ポート： ZENworks Middle Tier Server を使用している場合、デスクトップ管理エージェントが接続する ZENworks Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを指定し、Apache Web サーバ (NetWare) または IIS Web サーバ (Windows) がエージェントのログインをリッスンするのに使用する HTTP または HTTPS ポート番号を指定します。

Novell Client を使用している場合は、Middle Tier アドレスは必要ありません。

Middle Tier アドレスを指定しないと、エージェントディストリビュータが、Novell Client がインストールされるインストール時間を確認します。Middle Tier が指定されていない場合、エージェントディストリビュータはエージェントをインストールしません。

ログイン設定： この設定は、Workstation Manager で利用できる ZENworks Middle Tier Server ログインオプションを決定します。

- ◆ **Novell ログインの表示：** このオプションを選択して、Workstation Manager により表示される Middle Tier Server ログインを有効にします。
- ◆ **編集可能な Middle Tier アドレス：** このオプションを選択して、ログイン中の Middle Tier Server アドレスをユーザが編集できるようにします。

Application Launcher 設定： この設定は Novell Application Launcher に適用します。

- ◆ **Application Launcher を 1 つのツリーに制限する：** このオプションを選択して、Novell Application Launcher が 1 つのツリーのアプリケーションにのみアクセスするように制限します。[ZENworks for Desktops ツリー] フィールドでツリーを指定します。
- ◆ **Windows のスタートアップ時に起動：** Windows のスタートアップフォルダに追加され、Windows 起動時に起動される Novell Application Launcher ビュー (Application Explorer または Application Window) を選択します。Novell Application Launcher の起動に Windows のスタートアップフォルダを使用しない場合は、どちらのビューも選択しません。

ツリー設定： このフィールドを使用して、ZENworks ツリーとして使用される eDirectory ツリーを指定します。Workstation Manager がインストールされている場合、このツリーはポリシーを探すツリーになります。[1 つのツリーにのみ Application Launcher を制限する] が選択されており、Application Launcher がインストールされている場合、このツリーはアプリケーションを探すツリーになります。

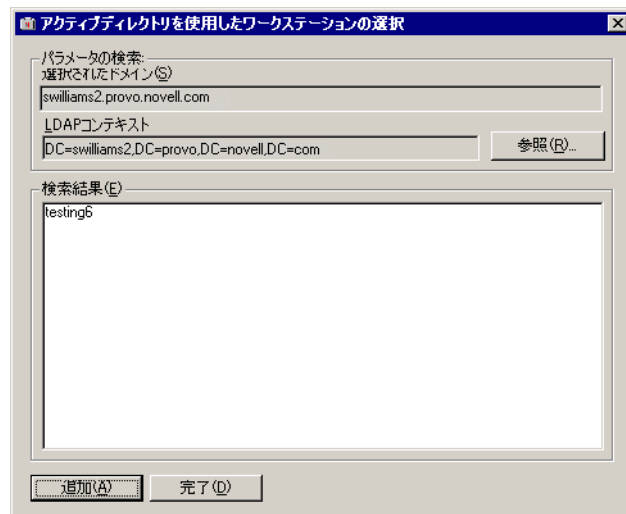
- 5b デスクトップ管理エージェントオプションの設定が終了したら、[OK] をクリックして設定を保存し、[ZENworks Desktop Management - エージェントの配布ユーティリティ] ダイアログボックスに戻ります。
- 6 デスクトップ管理エージェントを展開するワークステーションを追加します。手順は次のとおりです。
 - 6a [ターゲットワークステーション] ボックスで、[追加] をクリックして、[ドメインの参照] ダイアログボックスを表示します。



このダイアログボックスは、管理者として認証されるドメインをリストします。ワークステーションが他のドメインに信頼をおくドメインに接続されている場合、その該当するドメインがリストされます。

- 6b 追加するワークステーションを含むドメインを選択し、[OK] をクリックして、[アクティブディレクトリを使用したワークステーションの選択] ダイアログボックスを表示します。

注： 信頼されているドメインを選択すると、ドメイン管理者アカウント情報の入力が必要です。



[検索結果] リストに、[LDAP コンテキスト] フィールドに表示されるコンテキストに配置されている全ワークステーションが表示されます。[参照] ボタンを使用して、コンテキストを変更できます。コンテキストの変更により、選択されたコンテキストに含まれるワークステーションが表示されます。

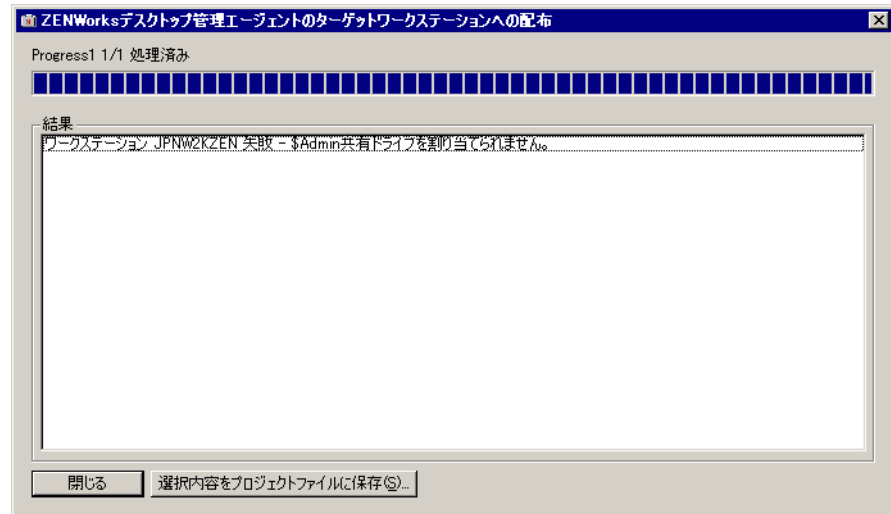
重要： エージェントディストリビュータの [検索結果] リストのデータは、アクティブディレクトリから入手されます。ワークステーションをドメインまたはディレクトリから削除するけれども、アクティブディレクトリ管理ツールを使ってワークステーションをアクティブディレクトリから削除しない場合、[検索結果] リストは不正確になります。

- 6c [検索結果] リストでは、追加するワークステーションを選択し、[追加] をクリックします。
- 6d **ステップ 6a ～ステップ 6c** を繰り返して、デスクトップ管理エージェントを展開するすべてのワークステーションを追加します。

- 7 別の機会に再利用するために設定をプロジェクト (.pad) ファイルに保存する場合は、[ファイル] > [名前を付けて保存] の順にクリックして、ファイル名を指定し、[OK] をクリックします。

プロジェクトファイルは、読み込み可能な .ini フォーマットで保存されます。

- 8 [エージェントの展開] をクリックして、選択したワークステーションに対して管理エージェントを表示し、[ZENWorks デスクトップ管理エージェントのターゲットワークステーションへの配布] ダイアログボックスを表示します。



ダイアログボックスは展開の成功と失敗を表示します。失敗イベントをプロジェクトファイル (.pad) に保存して、失敗したワークステーションの問題を修正後、[ファイル] メニューから開くことができます。

エージェントディストリビュータも、各配布の試みの成功と失敗のリストを含むログファイル (lastrun.log) を保管します。ログファイルは展開ウィンドウが表示するのと同じ出力ですが、開始と終了時間も含まれます。ファイルは同じディレクトリに agentdistributor.exe として保存されます。サンプル lastrun.log ファイルは次のようになります。

```
===== Start time Thursday, April 01, 2004 11:32 AM =====  
  
Workstation SWILLIAMSDELL Successful  
  
Workstation SWDESKPRO-W98 Successful  
  
===== End time Tuesday, April 06, 2004 11:34 PM =====  
  
===== Start time Friday, April 09, 2004 12:49 PM =====  
  
Workstation testing6 Failed - Unable to contact workstation.  
  
Workstation WILLIAMS2KSP3 Failed - Unable to map $Admin share drive.  
  
===== End time Friday, April 09, 2004 12:49 PM =====
```

エージェントディストリビュータも MSI デバッグファイルを各ワークステーションからコピーして、それを %workstationlogs ディレクトリの下にある Windows ドライブのルートに保管します。このディレクトリには最新のログファイルのみが含まれます。すべてのファイルが次の試行で削除され、ZENworks デスクトップ管理エージェントを配布します。このデバッグファイルにより、特定のワークステーションにおける展開の失敗をトラブルシューティングできます。ファイルの名前は .log 拡張子がついたワークステーション名です（例、c:%workstationlogs%williams2ksp3.log）。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開

エージェントディストリビュータを実行するワークステーションが Microsoft ドメインのメンバーでない場合、エージェントディストリビュータを使用して、デスクトップ管理エージェントをその Windows ワークグループのメンバーであるターゲットワークステーションに配布することができます。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 110 ページの「エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件」
- ◆ 111 ページの「デスクトップ管理エージェントの展開」

エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件

エージェントディストリビュータを使用して Windows ワークグループ内のターゲットワークステーションにデスクトップ管理エージェントを配布する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- ◆ エージェントディストリビュータは、ConsoleOne の一部としてインストールされており、ConsoleOne にアクセス可能で Windows ワークグループのメンバーであるすべてのワークステーションから実行できます。agentdistributor.exe はスタンドアロンユーティリティで、%sys%public%mgmt%consoleone%1.2%bin ディレクトリからローカルの配布ワークステーションへコピーできます。エージェントディストリビュータは、ローカルに実行されます。
- ◆ ZENworks デスクトップ管理エージェントの MSI インストールファイル (zfdagent.msi) は、配布ワークステーションで利用可能な Windows ワークステーションまたはネットワーク上の場所に配置されています。zfdagent.msi ファイルは、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD の %agentinstall%english ディレクトリに配置されています。
- ◆ デスクトップ管理エージェントが展開される各ワークステーションには、Microsoft Windows インストーラがインストールされている必要があります。インストーラは Windows 2000 および Windows XP ワークステーションでは前もって設定されています。

Windows インストーラがインストールされている必要がある Windows 98 ワークステーションでは、*Novell ZENworks Companion 2* CD を挿入し、[Companion Programs and Files(Companion プログラムおよびファイル)]、[More(続き)]、[Microsoft Windows Installer(Microsoft Windows インストーラ)] の順にクリックします。

- ◆ すべてのサーバ (NetWare と Microsoft の両方) を 10 分以内に同期する必要があります。時間がこの範囲内に収まらない場合は、zfdagent.msi は配布されず、次のエラーが表示されます。

[失敗 - \$Admin 共有ドライブを割り当てられません。]

Windows ワークグループメンバーへのデスクトップ管理エージェントの配布

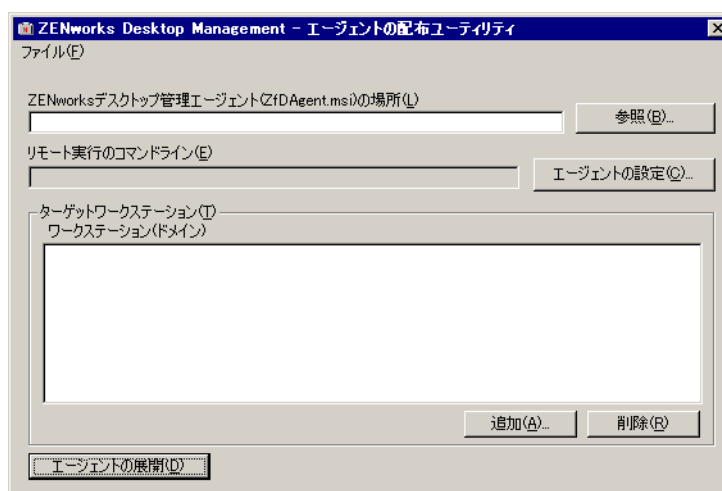
ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 の一部として、同じ Windows ワークグループのメンバーであるワークステーションにデスクトップ管理エージェントを展開できます。

- 1 Windows ワークステーションで、Windows ワークグループの管理者としてローカルにログインします。
- 2 Windows ワークステーションで ConsoleOne を起動し、[ツール] > [ZENworks ユーティリティ] > [エージェントのインストール] の順にクリックします。

または

sys¥public¥mgmt¥ConsoleOne¥1.2¥bin ディレクトリから配布ワークステーションに agentdistributor.exe ファイルをコピーして、ローカルワークステーションでそれを実行します。

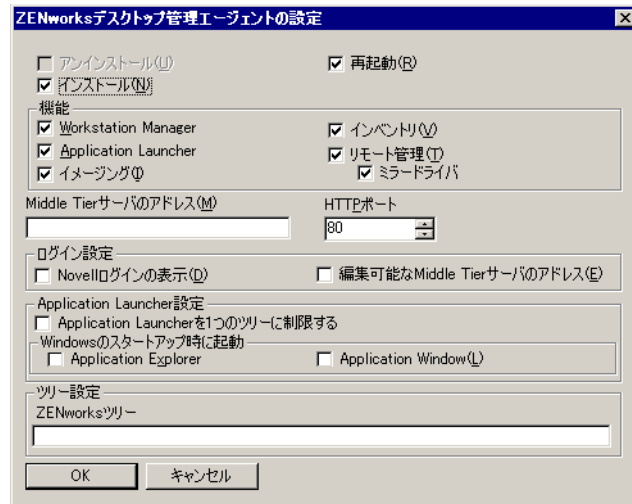
[エージェントの配布ユーティリティ] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [ZENworks デスクトップ管理エージェント (zfdagent.msi) の場所] フィールドで、zfdagent.msi ファイルを参照して選択します。

zfdagent.msi ファイルがワークステーションのローカルドライブまたは利用可能なネットワークドライブに配置されていない場合、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD に配置されている ¥agentinstall¥english ディレクトリからコピーします。

- 4 管理エージェントオプションを設定します。手順は次のとおりです。
 - 4a [エージェントの設定] をクリックして [ZENworks デスクトップ管理エージェントの設定] ダイアログボックスを表示します。



このダイアログボックスを使用して、デスクトップ管理エージェントオプションを設定します。選択するオプション（[インストール] または [アンインストール]）が、他のオプションの可用性を判断します。各オプションの説明が次にリストされています。

アンインストール / インストール / 再起動： デスクトップ管理エージェントをインストールまたはアンインストールする場合に選択します。選択が完了した後、ワークステーションを再起動する場合には、[再起動] を選択します。

機能： インストールまたはアンインストールする機能を選択します。[アンインストール] および全機能を選択すると、ZENworks デスクトップ管理エージェントはアンインストールされます。

Middle Tier アドレスと HTTP ポート： ZENworks Middle Tier Server を使用している場合、デスクトップ管理エージェントが接続する ZENworks Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを指定し、Apache Web サーバ (NetWare) または IIS Web サーバ (Windows) がエージェントのログインをリッスンするのに使用する HTTP または HTTPS ポート番号を指定します。

Novell Client を使用している場合は、Middle Tier アドレスは必要ありません。

Middle Tier アドレスを指定しないと、エージェントディストリビュータが、Novell Client がインストールされるインストール時間を確認します。Middle Tier が指定されていない場合、エージェントディストリビュータはエージェントをインストールしません。

ログイン設定： この設定は、Workstation Manager で利用できる ZENworks Middle Tier Server ログインオプションを決定します。

- ◆ **Novell ログインの表示：** このオプションを選択して、Workstation Manager により表示される Middle Tier Server ログインを有効にします。
- ◆ **編集可能な Middle Tier アドレス：** このオプションを選択して、ログイン中の Middle Tier Server アドレスをユーザが編集できるようにします。

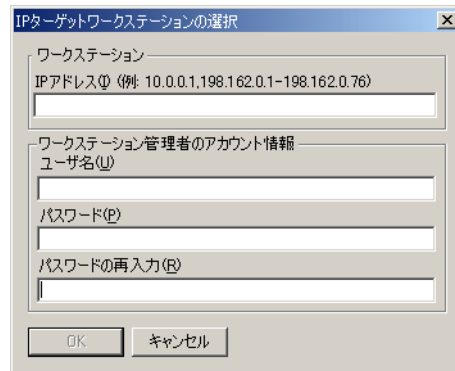
Application Launcher 設定： この設定は Novell Application Launcher に適用します。

- ◆ **Application Launcher を 1 つのツリーに制限する：** このオプションを選択して、Novell Application Launcher が 1 つのツリーのアプリケーションにのみアクセスするように制限します。[ZENworks for Desktops ツリー] フィールドでツリーを指定します。

- ◆ **Windows のスタートアップ時に起動：**Windows のスタートアップフォルダに追加され、Windows 起動時に起動される Novell Application Launcher ビュー (Application Explorer または Application Window) を選択します。Novell Application Launcher の起動に Windows のスタートアップフォルダを使用しない場合は、どちらのビューも選択しません。

ツリー設定：このフィールドを使用して、ZENworks ツリーとして使用される eDirectory ツリーを指定します。Workstation Manager がインストールされている場合、このツリーはポリシーを探すツリーになります。[1 つのツリーにのみ Application Launcher を制限する] が選択されており、Application Launcher がインストールされている場合、このツリーはアプリケーションを探すツリーになります。

- 4b デスクトップ管理エージェントオプションの設定が終了したら、[OK] をクリックして設定を保存し、[ZENworks Desktop Management - エージェントの配布ユーティリティ] ダイアログボックスに戻ります。
- 5 デスクトップ管理エージェントを展開するワークステーションを追加します。手順は次のとおりです。
 - 5a [追加] をクリックして [IP ターゲットワークステーションの選択] ダイアログボックスを表示します。



- 5b 次のフィールドに情報を入力します。

ワークステーション

[IP アドレス]：デスクトップ管理エージェントを展開する各ターゲットワークステーションの IP アドレスを指定します。複数指定する場合はカンマで区切ります。IP アドレス範囲をリスト内の単一項目として指定することもできます。

ワークステーション管理者のアカウント情報

[ユーザ名]：ワークグループ管理者のユーザ名を入力します。

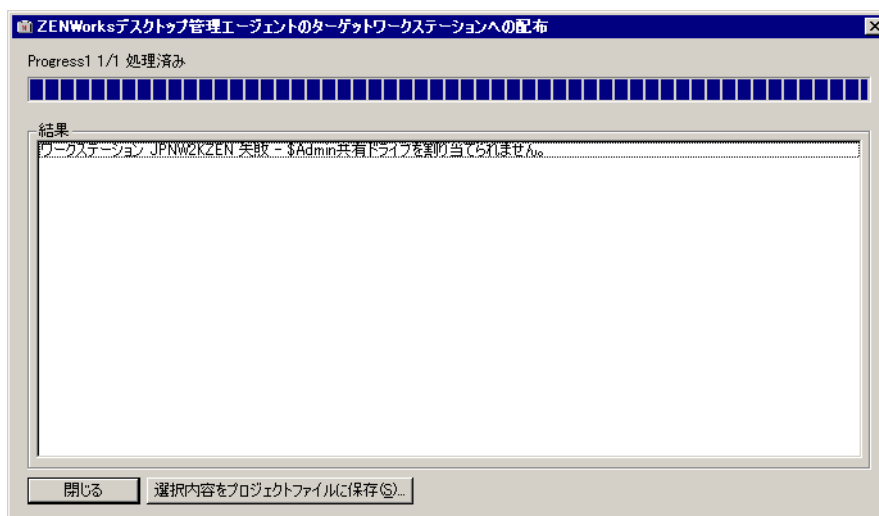
[パスワード]：ワークグループ管理者のパスワードを入力します。

[パスワードの再入力]：ワークグループ管理者のパスワードであることを確認するために、パスワードを再入力します。

注：[IP アドレス] フィールドで指定したすべてのターゲットワークステーションで同じアカウント情報 (ユーザ名とパスワード) を使用する必要があります。

- 5c [OK] をクリックして、ターゲットワークステーションのリストを保存します。

- 6 [エージェントの展開] をクリックして、選択したワークステーションに対して管理エージェントを表示し、[ZENworks デスクトップ管理エージェントのターゲットワークステーションへの配布] ダイアログボックスを表示します。



ダイアログボックスは展開の成功と失敗を表示します。失敗イベントをプロジェクトファイル (.pad) に保存して、失敗したワークステーションの問題を修正後、[ファイル] メニューから開くことができます。

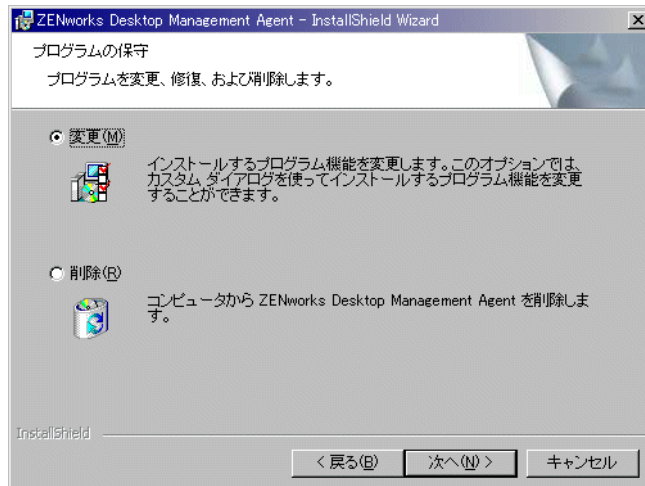
エージェントディストリビュータも、各配布の試みの成功と失敗のリストを含むログファイル (lastrun.log) を保管します。ログファイルは展開ウィンドウが表示するのと同じ出力ですが、開始と終了時間も含まれます。ファイルは同じディレクトリに agentdistributor.exe として保存されます。サンプル lastrun.log ファイルは次のようになります。

```
===== Start time Thursday, April 01, 2004 11:32 AM =====  
  
Workstation USER2DELL Successful  
  
Workstation USER3DESKPRO-W98 Successful  
  
===== End time Tuesday, April 06, 2004 11:34 PM =====  
  
===== Start time Friday, April 09, 2004 12:49 PM =====  
  
Workstation testing6 Failed - Unable to contact workstation.  
  
Workstation WILLIAMS2KSP3 Failed - Unable to map $Admin share drive.  
  
===== End time Friday, April 09, 2004 12:49 PM =====
```

エージェントディストリビュータも MSI デバッグファイルを各ワークステーションからコピーして、それを %workstationlogs ディレクトリの下にある Windows ドライブのルートに保管します。このディレクトリには最新のログファイルのみが含まれます。すべてのファイルが次の試行で削除され、ZENworks デスクトップ管理エージェントを配布します。このデバッグファイルにより、特定のワークステーションにおける展開の失敗をトラブルシューティングできます。ファイルの名前は .log 拡張子がついたワークステーション名です (c:%workstationlogs%testing8.log など)。

デスクトップ管理エージェントの設定の変更

ユーザワークステーションでデスクトップ管理エージェントを変更する必要がある場合、デスクトップ管理エージェントインストールプログラムを再度実行することにより、ローカルに実施できます。もう一度インストールを開始すると、デスクトップ管理エージェントのメンテナンスダイアログボックスが表示されます。



変更：このオプションを選択して、[Select Features (機能を選択)] ページを開きます。このページで、デスクトップ管理エージェントインストールに含める機能の追加または削除ができます。

削除：このオプションを選択して、ワークステーションからデスクトップ管理エージェントファイルを削除（アンインストール）します。

Novell Application Launcher による機能の追加

最初の配布を実行した後、デスクトップ管理エージェントに機能を追加する場合、MSI アプリケーションオブジェクトを増分して、Novell Application Launcher が新しいアプリケーションとして認識できるようにする必要があります。次に、MSI アプリケーションオブジェクトの ADDLOCAL プロパティを変更して、オブジェクトの再配布を実行することができます。利用可能な ADDLOCAL プロパティの詳細については、[107 ページのステップ 2](#)を参照してください。

11

Novell Application Launcher プラグインのインストール

Novell® Application Launcher™ プラグインは、簡素化されたバージョンの Novell Application Launcher で、ユーザに関連付けられたアプリケーションの配布のみを必要とするワークステーション上で、ZENworks® デスクトップ管理エージェントの代わりに使用できます。管理エージェントをワークステーションに Web ベースで配布するときにも使用できます。

Novell Application Launcher プラグインは Application Explorer ビューと Application Browser ビューのみを含んでいます。Application Window ビュー、Novell Application Launcher Service for Windows (nalntsrv.exe)、Application Launcher Workstation Helper (zenappws.dll) は含んでいません。

Workstation Manager、ワークステーションインベントリ、リモート管理、ワークステーションイメージングなどの他の ZENworks デスクトップ管理エージェントコンポーネントも含んでいません。

次の節では、Novell Application Launcher プラグインの使用に適したケースと、Novell Application Launcher プラグインのインストール方法について説明します。

- ◆ 123 ページの「Novell Application Launcher プラグインの使用に適したケース」
- ◆ 124 ページの「Novell Application Launcher プラグインのインストール方法」
- ◆ 125 ページの「Novell Application Launcher プラグインのインストール」
- ◆ 128 ページの「Novell Application Launcher プラグインの再インストール」

Novell Application Launcher プラグインの使用に適したケース

Novell Application Launcher プラグインの主な目的は、ユーザに関連付けられたアプリケーションの起動に必要な基本的 Application Launcher ファイルを提供して、Web ベースのインストールプログラムを介してアプリケーションを起動することです。Novell Application Launcher プラグインに関する、次の制限事項に注意する必要があります。

- ◆ Windows 2000/XP ユーザは、アプリケーションをインストールして起動するための十分なファイルアクセス権限を持っている必要があります。権限がない場合、プラグインのインストールマネージャはプラグインファイルをインストールできません。プラグインがインストールされていても、アプリケーションを起動できません。Novell Application Launcher プラグインは、機能が制限されたワークステーションでは使用できません。
- ◆ Novell Application Launcher プラグインは、ユーザに関連付けられたアプリケーションのみを表示します。Workstation Manager と Application Launcher Workstation Helper がインストールされていないので、ワークステーションに関連付けられたアプリケーションは表示されません。

- ◆ Workstation Manager がインストールされていないので、ポリシーは適用されません。
- ◆ データベースレポート機能はサポートされていません。Novell Application Launcher プラグインには、実行に必要な ODBC ドライバが含まれていないため、データベースにイベントを書き込めません。
- ◆ Novell Application Launcher プラグインは、ターミナルサーバアプリケーションの起動をサポートしていません。サポートするには、ZENworks デスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。

ユーザに関連付けられたアプリケーションの起動以外に、デスクトップ管理エージェント機能を必要としない場合は、アプリケーションを使用して Novell Application Launcher プラグインをワークステーションにインストールすることで、引き続きデスクトップ管理エージェント機能を使用できます。ユーザがデスクトップ管理エージェントの最大限の機能性を必要とする場合は、Novell Application Launcher プラグインをインストールした後に、アプリケーションオブジェクトを介してデスクトップ管理エージェントをワークステーションに配布できます。

Novell Application Launcher プラグインのインストール方法

Novell Application Launcher プラグインは、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャによりインストールされます。Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ、Novell Application Launcher プラグイン、および Novell Application Launcher プラグインサポートファイルは、ZENworks Middle Tier Server のインストール中に Web サーバにコピーされます。NetWare® Middle Tier Server では、`web_server_root\%nwdocs` ディレクトリが対象になるインストールディレクトリです。Windows Middle Tier Server では、インストールディレクトリは `inetpub\wwwroot` です。ファイルは次の CAB ファイルにパッケージ化されています。

- ◆ **zfdinstallmgr.cab**: Novell Application Launcher プラグインファイルのインストールおよび更新の管理に使用する Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ DLL が含まれています。
- ◆ **zfdplugin.cab**: Novell Application Launcher プラグインファイルが含まれています。
- ◆ **netidentity.cab**: ID を管理し、Novell Application Launcher プラグインユーザを ZENworks Middle Tier Server に対して安全に認証するために必要なファイルが含まれています。
- ◆ **instmsi.cab**、**instmsi9x.cab**、**instmsint.cab**: NetIdentity ファイルのインストールに必要な Microsoft Windows Installer (バージョン 2) が含まれています。これらの CAB ファイルは、バージョン 2 以降の Windows Installer がない場合のみインストールされます。

同じディレクトリにインストールされる `myapps.html` ページは、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ CAB ファイル (`zfdinstallmgr.cab`) を参照します。`myapps.html` ページにアクセスしたときに Application Launcher または Novell Application Launcher プラグインがワークステーションにまだインストールされていない場合、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ DLL ファイル (`zfdwebinstallmgr.dll`) はインストールマネージャ CAB ファイルから Windows のシステムディレクトリに解凍され、登録されます。`myapps.html` ファイルがロードされた後、インストールマネージャは Novell Application Launcher プラグインとそのサポートファイルのインストールを開始します。

Novell Application Launcher プラグインのインストール

ワークステーションに Novell Application Launcher プラグインをインストールするには

- 1 ZENworks Middle Tier Server インストールプログラムを実行したことを確認し、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ、Novell Application Launcher プラグインファイル、および myapps.html ファイルを Web サーバにコピーします。必要に応じて、[8 章 73 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール」](#)を参照してください。
- 2 (オプション) myapps.html ページを変更します。

Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャを起動するほか、myapps.html ページには、Novell Application Launcher プラグインおよび Application Launcher と一緒に使用する Application Browser ビューの機能と外観を決定するパラメータが含まれています。ユーザに配布する前に、これらのパラメータを使用して Application Browser ビューをカスタマイズすることができます。

重要： Middle Tier Server をインストールすると、Middle Tier Server のプライベート (内部) アドレスは myapps.html ファイルに追加されます。ユーザがファイアウォールの外で Application Browser を実行する場合、Middle Tier Server のパブリック (外部) IP アドレスとプライベート IP アドレスが異なるときには、パブリック IP アドレスを myapps.html ファイルに入力する必要があります。myapps.html ファイルの MiddleTierAddress パラメータを使用して IP アドレスを指定します。

myapps.html ファイルは、Application Browser ビューの生成に使用される ActiveX* コントロール (axnalsrv.dll) をロードします。ActiveX コントロールに渡されるパラメータを変更して Application Browser ビューをカスタマイズすることができます。次の 9 つのパラメータがあります。

```
<!--param name="SingleTree" value="ZENWORKS_TREE"-->
<!--param name="PortalView" value="false"-->
<!--param name="BannerURL" value="http://www.company.com/banner.html"-->
<!--param name="BannerHeight" value="80"-->
<!--param name="ShowTree" value="true"-->
<!--param name="ShowTasks" value="false"-->
<!--param name="AppDisplayType" value="0"-->
<!--param name="ShowAppFrameNavigation" value="true"-->
<!--param name="ShowIEToolbarButton" value="true"-->
```

さらに、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャを使用して Middle Tier Server から myapps.html ファイルをダウンロードする場合は、インストールマネージャで使用される 2 つの追加パラメータをカスタマイズできます。

```
<!--param name="MiddleTierAddress" value="$$IPADDR$$"-->
<!--param name="Nt4PluginVersion" value="4, 0, 1, 0"-->
```

デフォルトではパラメータはコメントアウトされているので、ActiveX コントロールは事前に設定された内部値を使用します。パラメータを変更するには、次の手順に従います。

- 2a !-- (コメントの先頭) と -- (コメントの最後) を削除して、パラメータを有効にします。例：

```
<param name="SingleTree" value="novell_tree"
```

- 2b Modify the parameter's value. 次に各パラメータについて説明します。

SingleTree: このパラメータを使用すると、アプリケーション情報を読み込む対象となる単一の Novell eDirectory™ ツリーを指定できます。このパラメータを使用する場合、Application Launcher ではユーザが認証する他のツリーが無視されます。

このパラメータは、インストール時のみ適用されます。インストール後にこのパラメータを変更しても、影響はありません。

PortalView: このパラメータを使用して、Application Browser ビューのバナー部分を削除することによってポータルのサポートを改善できます。value の設定値は [true] または [false] です。[true] に設定すると、バナー部分は削除されます。

BannerURL: このパラメータは、PortalView パラメータが [false] に設定されている場合のみ適用されます。

このパラメータを使用して別のバナーを指定することができます。たとえば、Novell ロゴの代わりに自分の会社のロゴを含むバナーを使用できます。value の設定値は、HTML ページまたはグラフィックファイル (GIF、JPEG など) への URL にする必要があります。HTML ページを指定した場合、ページは BannerHeight パラメータで指定された高さに切り取られます。グラフィックファイルを指定した場合、バナー部分はグラフィックファイル全体が収まるようにスクロールします。バナー部分をスクロール可能にたくない場合は、グラフィックの高さが BannerHeight パラメータで指定された高さを超えないようにする必要があります。

BannerHeight: このパラメータは、PortalView パラメータが [false] に設定され、デフォルトの Novell バナーが BannerView パラメータによって無効になっている場合のみ適用されます。

このパラメータを使用してバナー部分の高さを決定します。value の設定値は 5 から 200 にする必要があります。5 未満の値は 5 に切り上げられます。200 を超える値は 200 に切り下げられます。

ShowTree: このパラメータは、Application Browser ビューが左のペイン (フォルダビューとも呼ばれます) を含むかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] の場合はフォルダビューが表示され、[false] の場合は削除されます。

ShowTasks: このパラメータは、フォルダビュー (左のペイン) が、[オンライン作業]、[オフライン作業]、[Middle Tier ログイン]、[Middle Tier ログアウト]、[アプリケーションを更新する]、および [ヘルプ] オプションを含むかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] の場合はオプションが表示され、[false] の場合は削除されます。

AppDisplayType: このパラメータは、アプリケーションが Application Browser ビューの右のペインにどのように表示されるかを決定します。value の設定値は [0] または [1] です。デフォルト値の [0] では、アプリケーションアイコンは、Windows エクスプローラの [大きいアイコン] の表示と同じように、大きなアイコンとして表示されます。設定値 [1] では、アプリケーションは、Windows エクスプローラの [一覧] の表示と同じように、表形式で一覧表示されます。

ShowAppFrameNavigation: このパラメータは、Application Browser ビューの右のペインにナビゲーションが含まれるかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] に設定すると、右のペインにナビゲーションが含まれます。ナビゲーションのタイプは、AppDisplayType パラメータの設定によって異なります。

- ◆ AppDisplayType パラメータが [0] ([大きいアイコン]) に設定されている場合、ナビゲーションはブレッドクラムとして表示されます (ZENworks Tree > Application Folder > Application A など)。
- ◆ AppDisplayType パラメータが [1] ([小さいアイコン]) に設定されている場合、ナビゲーションは、アプリケーションリストの一番上に上向き矢印として表示されます。

このパラメータの値を [false] に設定すると、Application Browser ビューで [A11] フォルダが開きます。つまり、すべてのアプリケーションアイコンが右のペインに表示されます。ConsoleOne のユーザの [Application Launcher の環境設定] で [A11] フォルダが無効になっている場合、このパラメータは無視されます (つまり、デフォルト値の [true] が使用されます)。

ShowIEToolbarButton: このパラメータは、Internet Explorer のツールバーに [Application Browser] ボタンを追加するかどうかを決定します。[Application Browser] ボタンは、ローカルバージョンの myapps.html ファイルを起動します。value の設定値は [true] または [false] です。デフォルトの設定は [true] で、ツールバーに [Application Browser] ボタンが追加されます。[false] に設定すると、ツールバーから [Application Browser] ボタンが削除されます。この設定を変更する場合、ユーザは必ず Internet Explorer を終了して、変更を有効にするために再度開く必要があります。

MiddleTierAddress: このパラメータは、eDirectory へのアクセスとして ZENworks Middle Tier Server を設定した場合にのみ適用されます。

MiddleTierAddress パラメータを使用して、ユーザが認証を受ける Middle Tier Server の IP アドレスを指定することができます。Middle Tier Server アドレスが Windows レジストリに含まれていない場合にのみ使用されます。ユーザが ZENworks デスクトップ管理エージェントインストールプログラムの実行時にアドレスを入力した場合、レジストリにはこのアドレスが含まれています。

Nt4PluginVersion: このパラメータは、ZENworks for Desktops 4.0.1 からアップグレードする場合にのみ適用されます。このパラメータは、Windows NT 4 ワークステーションにのみ適用され、ワークステーションで実行する必要のある最低限のバージョンの ZENworks for Desktops 4.0.1 Novell Application Launcher プラグインを指定します。たとえば、ワークステーションのバージョンが 4,0,1,0 で、このパラメータに 4,0,1,3 が指定されている場合は、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャが ZENworks Middle Tier Server からバージョン 4,0,1,3 以降の Novell Application Launcher プラグイン CAB ファイル (zfd40.cab) をダウンロードできる場合にのみ、Application Browser ビューが実行されます。一方、ワークステーションのバージョンが 4,0,1,3 で、このパラメータが 4,0,1,0 に指定されている場合は、Novell Application Launcher プラグインが新しいバージョン (4,0,1,4 など) でも、インストールマネージャは Middle Tier Server から Novell Application Launcher プラグインをダウンロードします。

2c ファイルを保存します。

3 myapps.html ページにアクセスしてセットアップをテストします。

- ◆ Novell Application Launcher または Novell Application Launcher プラグインがすでにインストールされているワークステーションから myapps.html ページにアクセスした場合、Application Browser ビューが Web ブラウザに表示されます。ファイルはダウンロードされません。

- ◆ Novell Application Launcher および Novell Application Launcher プラグインがインストールされていないワークステーションから myapps.html ページにアクセスした場合、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャがインストールされて登録されます。次に、Novell Application Launcher プラグインファイルのインストールが開始されます。

インストール処理中に使用される各 CAB ファイルには、Novell が署名した証明書が含まれています。インストールを続行する前に証明書を受け入れるように求めるメッセージが表示されます。それぞれの証明書を受け入れるか、最初の証明書で表示された [Always Trust Content From Novell (Novell のコンテンツを常に信頼する)] をオンにして、それ以降の Novell が署名した証明書をすべて受け入れることができます。

インストールが完了したら、(再び myapps.html ページにアクセスして) Application Browser ビューおよび [スタート] メニューから起動して) Application Explorer ビューの両方から、ユーザに関連付けられたアプリケーションにアクセスできます。

- ◆ 以前のバージョンの Application Launcher がすでにインストールされている (または以前にインストールされた) ワークステーションから myapps.html ページにアクセスすると、インストールプログラムで次のエラーメッセージが表示されることがあります。

Error:Install Error

An installation error has prevented you from obtaining the ZENworks for Desktops plugin. Please contact your system administrator for help. You must first uninstall any previous versions of ZENworks for Desktops.

この問題を解決するには、ワークステーションの Windows system32 ディレクトリ (通常は c:\winnt\system32 または c:\windows\system32) から naldesk.exe ファイルを削除して、サーバにマップされた検索ドライブまたは naldesk.exe が存在するディレクトリがワークステーションにないことを確認してから、myapps.html ページに再度アクセスします。

- 4 ユーザが myapps.html ページにアクセスするための URL が表示されます。

Novell Application Launcher プラグインの再インストール

ワークステーションに Novell Application Launcher プラグインを再インストールするには

- 1 コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して、zfdwebinstallmgr.dll と axnalserver.dll の登録を取り消します。

```
regsvr32 -u zfdwebinstallmgr.dll
regsvr32 -u axnalserver.dll
```

- 2 Windows システムディレクトリ (たとえば c:\winnt\system32) 内にある zfdwebinstallmgr.dll を削除します。

- 3 (条件付き) Windows NT ワークステーションにプラグインを再インストールする場合、ワークステーションのレジストリから次の値を削除してください。

```
HKey_Local_Machine\software\novell\zenworks\installpath
```

- 4 Web ブラウザで myapps.html ページにアクセスします。

12

ZENworks Launch ガジェットの実インストール

Novell® ZENworks® Desktop Management には、ZENworks Launch ガジェットが含まれています。これは、Novell exteNd Director™ 4.1 SE ポータル内からユーザに関連付けられたアプリケーションを起動するために使用されます。ユーザのワークステーションにデスクトップ管理エージェントは必要ありません。次の節ではインストール手順について説明します。

- ◆ 129 ページの「ポータルへの ZENworks Launch ガジェットの実インストール」
- ◆ 130 ページの「ポータルへの Citrix ファイルのコピー」
- ◆ 131 ページの「ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントの実インストール」

ポータルへの ZENworks Launch ガジェットの実インストール

- 1 Novell exteNd Director 4.1 Standard Edition がインストールされ NetWare® 6.x または Windows 2000/2003 Server で稼動していることを確認します。

インストールの詳細については、『Novell exteNd Director Standard Edition インストールガイド (<http://www.novell.com/documentation/lg/nedse41>)』を参照してください。

- 2 exteNd Director 4.1 ポータルを管理できる Windows ワークステーションで、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD を CD ドライブに挿入します。
Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD には、ポータルモジュールファイル ZENworks.npm が含まれています。このファイルには、ポータルにインストールする ZENworks Launch ガジェットが含まれています。ファイルは、¥ZENworks Launch Gadget ディレクトリにあります。
- 3 ポータルに管理者としてログインします。
- 4 [Portal Administration(ポータルの管理)] > [Administer the Portal(ポータルを管理)] の順にクリックして、[Portal Administration(ポータルの管理)] ページを表示します。
- 5 [Modules(モジュール)] をクリックして [Modules(モジュール)] ページを表示します。
- 6 [インストール] をクリックして、[Install a New Module(新規モジュールの実インストール)] ページを表示します。
- 7 [Path to Module File Package(モジュールファイルパッケージへのパス)] フィールドで [参照] をクリックし、ZENworks.npm ファイルを参照して選択します。
.npm ファイルは、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の ¥ZENworks Launch Gadget ディレクトリにあります。

8 [インストール] をクリックして、[Thin Client Support(シンクライアントサポート)] オプションを表示し、ICA および RDP クライアントのサポートを必要とする場合は [ICA & RDP]、RDP クライアントのサポートのみを必要とする場合には [RDP] を選択して、[次へ] をクリックします。

9 (条件付き) シンクライアントのサポートについて [ICA & RDP] を選択した場合は、次のフィールドに入力して、[次へ] をクリックします。

Citrix XML Service Address: Citrix IMA データベースが存在するサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。複数の Citrix ファームを使用している場合は、IMA データベースが存在する各サーバのアドレスをカンマで区切って入力します。

Citrix XML Service Port: Citrix XML Service で使用されているポート番号を指定します。これは通常、ポート 80 になります。MMC でポート番号を確認するには、[サーバ] > [Server Properties(サーバのプロパティ)] > [MetaFrame XP Settings(メタフレーム XP の設定)] の順にクリックして、[TCP/IP Port(TCP/IP ポート)] フィールドにチェックを付けます。

10 インストールが完了したら、ポータルを終了します。

11 ポータルが NetWare 6.x サーバ上にある場合は、サーバを再起動します。

または

ポータルが Windows 2000 サーバ上にある場合は、サーバを再起動するか、または Tomcat を再起動します。

ガジェットがアクセスするターミナルサーバなど、ZENworks Launch ガジェットの設定の変更については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」にある「ZENworks Launch ガジェット: 設定」を参照してください。

ポータルへの Citrix ファイルのコピー

ターミナルサーバ環境に Citrix サーバを使用している場合は、exteNd Director ポータルに複数の Citrix ファイルをコピーする必要があります。この Citrix ファイルは、ICA クライアントセッションを起動するときに Launch ガジェットで使用されます。

1 *Citrix MetaFrame XP Presentation Server* CD を使用して、
¥metaframe¥w2k¥program files¥citrix¥application¥nfuse ディレクトリ全体を次のポータルディレクトリにコピーします。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZenLaunchGadget
```

この結果、ディレクトリは次のようになります。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZenLaunchGadget¥nfuse
```

2 *.properties ファイルを com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥nfuse ディレクトリから次のポータルディレクトリに移動します。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥WEB-INF¥classes
```

いずれかのファイルがディレクトリにすでに存在する場合は、最新の日付のファイルを保存します。

- 3 *.jar ファイルを com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥nfuse ディレクトリから次のポータルディレクトリに移動します。

tomcat¥webapps¥nps¥portal¥WEB-INF¥lib

いずれかのファイルがディレクトリにすでに存在する場合は、最新の日付のファイルを保存します。

ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール

ZENworks Launch ガジェットでターミナルサーバアプリケーションを起動するには、ワークステーションに Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントがインストールされている必要があります。

ICA クライアント

ZENworks Launch ガジェットでは、ワークステーションに ICA Program Neighborhood (PN) クライアントまたは ICA Web クライアントがインストールされている必要があります。ユーザのワークステーションに PN クライアントまたは Web クライアントがまだインストールされていない場合は、次の手順に従います。

- 1 Citrix Download Clients サイト (<http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755>) から PN クライアントまたは Web クライアントファイルをダウンロードします。
- 2 各ワークステーションにクライアントファイルを配布します。手順は次のとおりです。
 - 2a Web クライアントの場合は、wficat.cab ファイルをポータルサーバの次の場所にコピーします。

tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥bin

ユーザが ICA クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは CAB ファイルを使用して、Web クライアントをインストールします。

- 2b PN クライアントの場合は、『Citrix 管理者ガイド』に記載されているインストール手順に従うか、または Novell Application Launcher を使用して、クライアントファイルを配布します。

または

PN クライアントファイルの名前を wficat.cab に変更し、ポータルサーバの次の場所にコピーします。

tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥bin

RDP クライアント

Microsoft RDP 5.1 クライアント (msrdp.ocx) は、ZENworks Launch ガジェットに含まれています。RDP クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットはユーザのワークステーションの c:\¥program files¥novell¥zenworks ディレクトリに msrdp.ocx ファイルをインストールして、OCX ファイルを登録します。

13

ターミナルサーバアプリケーションのサポートの設定

Novell® ZENworks® Desktop Management のアプリケーション管理機能を使用すると、ICA または RDP クライアントセッションを介して、Citrix MetaFrame Server または Microsoft Windows ターミナルサーバからアプリケーションを起動できます。ターミナルサーバアプリケーションをサポートするには、要件を確認して、次のセクションのタスクを実行する必要があります。

- ◆ 133 ページの「ターミナルサーバの要件」
- ◆ 134 ページの「ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理」
- ◆ 141 ページの「ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理」
- ◆ 142 ページの「ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール」

上記のタスクを完了すると、Novell Application Launcher™ を使用してユーザに配布できるように、ターミナルサーバアプリケーションを設定できます。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「配布：単純なアプリケーション」を参照してください。

ターミナルサーバの要件

次の表に、Windows ターミナルサーバおよび Citrix MetaFrame Server の最低要件を示します。

アイテム	最低要件
オペレーティングシステム	Service Pack 4 (最新のサービスパックを推奨) を適用した Windows 2000 Server Windows Server 2003 (最新のサービスパックを推奨)
Windows ターミナルサービス	Windows 2000/2003 Server オペレーティングシステムでサポートされているバージョン
Citrix MetaFrame (オプション)	Citrix MetaFrame XP Feature Release 3 (FR3) 最新のサービスパックおよびホットフィックスをお勧めします。 Citrix Web サイト (http://www.citrix.com) からダウンロードできます。

アイテム	最低要件
Desktop Management Agent (デスクトップ管理エージェント)	<p>ZENworks 6.5 バージョン</p> <p>デスクトップ管理エージェントは、ターミナルサーバでローカルユーザアカウントを動的に作成する場合にのみ必要です。</p> <p>デスクトップ管理エージェントのすべてのコンポーネントをインストールできますが、ターミナルサーバのサポートに必要なのは、アプリケーション管理コンポーネントとワークステーション管理コンポーネントのみです。</p>
Novell Client	<p>Novell Client™ 4.91 SP1 for Windows 2000/XP</p> <p>Novell Client は、デスクトップ管理エージェントをインストールする場合にのみ必要です。管理エージェントは、Novell Client を使用して Novell eDirectory から認証を受け、ダイナミックローカルユーザポリシーにアクセスします。</p>
Internet Explorer	<p>高度なセキュリティ (128 ビット以上) 暗号化を使用し、サービスパック 2 を適用した Internet Explorer 5.5</p> <p>Internet Explorer は、デスクトップ管理エージェントをインストールする場合のみ必要です。</p> <p>Internet Explorer 6.0 をインストールする場合は、クッキーを受け入れるようにプライバシーが設定されていることを確認してください。デフォルトでは、Internet Explorer 6.0 はクッキーを受け入れません。</p>

ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理

ターミナルサーバでアプリケーションを実行するには、ターミナルサーバにローカルユーザアカウントが必要です。Workstation Manager (デスクトップ管理エージェントと共にインストールされます) およびユーザポリシーを使用して、ターミナルサーバのユーザアカウントを動的に管理できます。Workstation Manager を使用する場合は、次の節で説明するタスクを実行します。Workstation Manager を使用しない場合は、他のユーザ管理方法について 141 ページの「ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理」を参照してください。

- ◆ 134 ページの「Novell Client およびデスクトップ管理エージェントのインストール」
- ◆ 135 ページの「Workstation Manager のセットアップ」
- ◆ 135 ページの「パススルー認証の設定」
- ◆ 136 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントのセットアップ」

Novell Client およびデスクトップ管理エージェントのインストール

ターミナルサーバアカウントを動的に管理するには、ZENworks を使用する各ターミナルサーバに Novell Client およびデスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。

デスクトップ管理エージェントには、ターミナルサーバ上にローカルユーザアカウントを動的に作成する Workstation Manager コンポーネントが含まれています。管理エージェントは、Novell Client を使用して Novell eDirectory から認証を受け、ダイナミックローカルユーザポリシーにアクセスします。

- 1 Novell Product Downloads (<http://download.novell.com>) から Novell Client 4.91 SP1 (以降) をダウンロードして、ターミナルサーバにクライアントをインストールします。
- 2 デスクトップ管理エージェントをインストールして、Workstation Manager およびアプリケーション管理コンポーネントがインストールされていることを確認します。他のコンポーネントはオプションです。

デスクトップ管理エージェントのインストールの詳細については、**10 章 99 ページ**の「**デスクトップ管理エージェントのインストールと設定**」を参照してください。

Workstation Manager のセットアップ

ZENworks Desktop Management には、eDirectory ユーザポリシーが含まれており、ターミナルサーバ上のローカルユーザアカウントおよびプロファイルを簡単に管理できます。ターミナルサーバで稼動している Workstation Manager は、ユーザがターミナルサーバにログインしたときにポリシーを適用します。ここでは、Workstation Manager が正しくインストールおよび設定されているかを確認する方法について説明します。ユーザポリシーの作成および使用については、**136 ページ**の「**ダイナミックローカルユーザアカウントのセットアップ**」を参照してください。

Workstation Manager は、デスクトップ管理エージェントと共にインストールされます。[サービス] ウィンドウで Workstation Manager サービスを確認することにより、ターミナルサーバに Workstation Manager がインストールされ稼動していることが確認できます。

複数の eDirectory ツリーがある場合は、ユーザオブジェクトが属している eDirectory ツリーを読み取るように Workstation Manager が設定されていることも確認する必要があります。手順は次のとおりです。

- 1 [スタート] メニュー > [設定] > [コントロール パネル] > [Network Identity (ネットワーク ID)] の順にクリックします。
- 2 [Novell Network Identity (Novell ネットワーク ID)] ダイアログボックスで、[設定] をクリックします。
- 3 [Workstation Manager を有効にする] がオンになっていて、ツリーが正しく設定されていることを確認します。
- 4 (オプション) HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\Workstation Manager\Identification キーの下にある Windows レジストリで、Tree 値を確認します。

パススルー認証の設定

ターミナルサーバアプリケーションを起動するプロセスを簡素化するために、ZENworks Desktop Management は、パススルー認証を提供しています。パススルー認証を使用すると、ユーザの eDirectory アカウントと Windows のユーザアカウントに同じユーザ名とパスワードを使用している限り、ターミナルサーバアプリケーションを起動するときに、ユーザ名およびパスワードの入力を要求するメッセージは表示されません。

デフォルトでは、パススルー認証は、ターミナルサーバにデスクトップ管理エージェントをインストールするときに自動的に設定されます。ただし、正しく設定されていることを確認するために、次の作業を実行することをお勧めします。

- 1 ターミナルサーバの [Use Client Provided Logon Information(クライアントからのログオン情報を使用する)] 設定をオンにして、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1a ターミナルサーバで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [ターミナルサービス構成] の順にクリックします。
 - 1b 接続タイプ (デフォルトは RDP-Tcp) をダブルクリックして、プロパティを入力します。
 - 1c [ログオン設定] タブで、[Use Client Provided Logon Information(クライアントからのログオン情報を使用する)] 設定をオンにして、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1d 接続タイプごとに **ステップ 1b** と **ステップ 1c** を繰り返します。
- 2 ターミナルサーバの Novell Client のデフォルトプロファイル設定を確認します。
 - 2a ターミナルサーバで、タスクバーのステータス領域にある [Novell] アイコン (N アイコン) を右クリックし、[Novell クライアントプロパティ] をクリックします。
 - 2b [ロケーションプロファイル] タブをクリックします。
 - 2c [ロケーションプロファイル] リストで [デフォルト] を選択し、[プロパティ] をクリックして、[Location Profiles Properties(ロケーションプロファイルのプロパティ)] ダイアログボックスを表示します。
 - 2d [サービス] リストの [ログインサービス] を選択し、[Service Instance(サービスインスタンス)] リストの [デフォルト] を選択して、[プロパティ] をクリックし、[Novell ログイン] ダイアログボックスを表示します。
 - 2e [ログイン成功後にプロファイルを保存] オプションを選択解除 (オフに) します。
 - 2f [NDS] タブをクリックします。
 - 2g [ツリー] フィールドで、ターミナルサーバアプリケーションがアプリケーションオブジェクトとして設定されている eDirectory ツリーを選択します。
 - 2h [コンテキスト] および [サーバ] フィールドから情報を削除します。
 - 2i 環境設定を保存するには、すべてのダイアログボックスで [OK] をクリックして閉じます。

ダイナミックローカルユーザアカウントのセットアップ

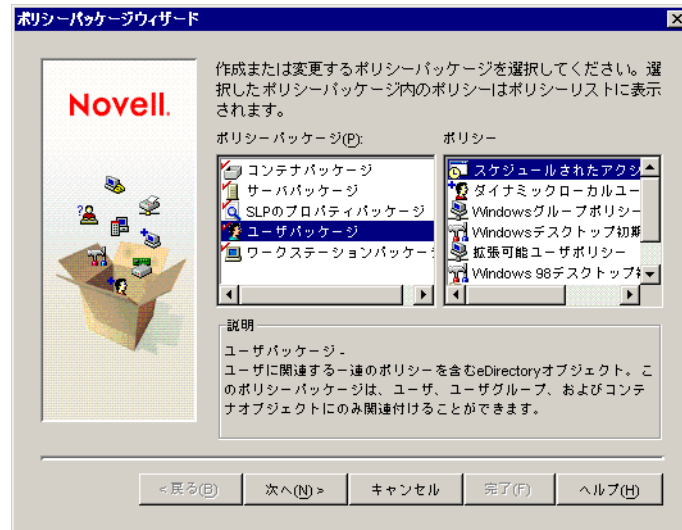
ターミナルサーバで Workstation Manager のインストールおよび設定が完了したら、ローカルユーザアカウントを制御するポリシーを有効にして設定する必要があります。次の節ではそれらの手順について説明します。

- ◆ 137 ページの「ユーザポリシーパッケージの作成」
- ◆ 139 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」
- ◆ 140 ページの「ユーザパッケージとユーザの関連付け」

ユーザポリシーパッケージの作成

ユーザポリシーパッケージに含まれる Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシーを使用して、ダイナミックローカルユーザアカウントを管理します。既存のユーザポリシーパッケージを使用するか、または Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシー専用の新しいユーザポリシーパッケージを作成できます。使用するユーザポリシーパッケージがすでにある場合は、**139 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」**に進んでください。ユーザポリシーパッケージがない場合は、次の手順を実行して、ユーザポリシーパッケージを作成します。

- 1 ConsoleOne で、ユーザポリシーパッケージオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規] をクリックします。次に、[ポリシーパッケージ] をクリックし、ポリシーパッケージウィザードを表示します。

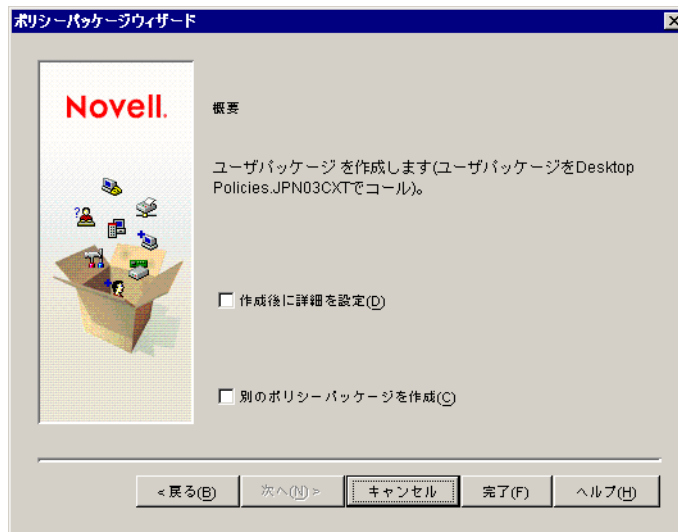


- 2 [ポリシーパッケージ] リストで、[ユーザパッケージ] を選択して、[次へ] をクリックします。

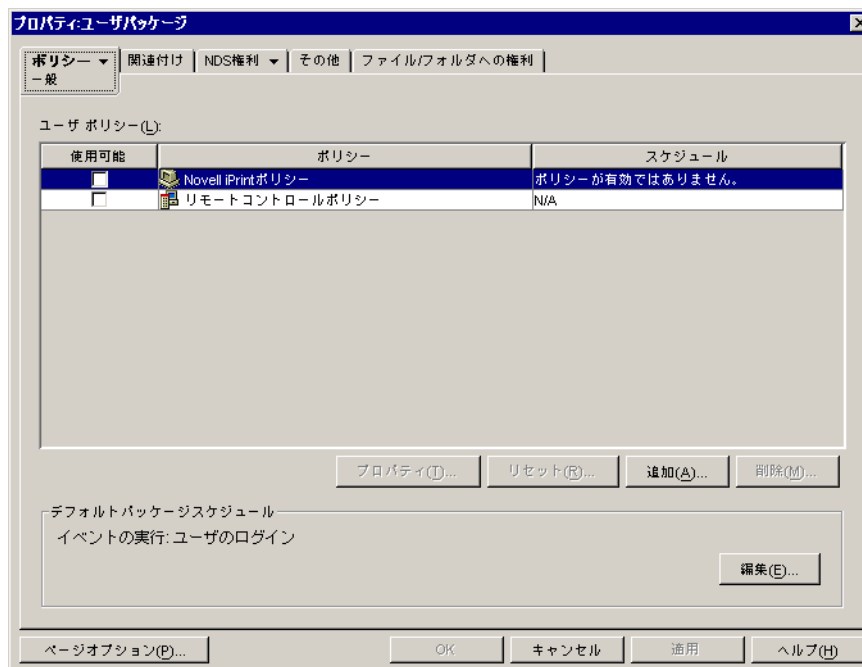


パッケージオブジェクトの名前は、パッケージオブジェクトが作成されるコンテナ内で一意でなければなりません。複数のユーザポリシーパッケージを作成する場合は、[Win2000-2003 TS ユーザパッケージ] など、わかりやすい名前を使用することもできます。ポリシーのユーザが存在する同じコンテナにポリシーを作成することもできます。

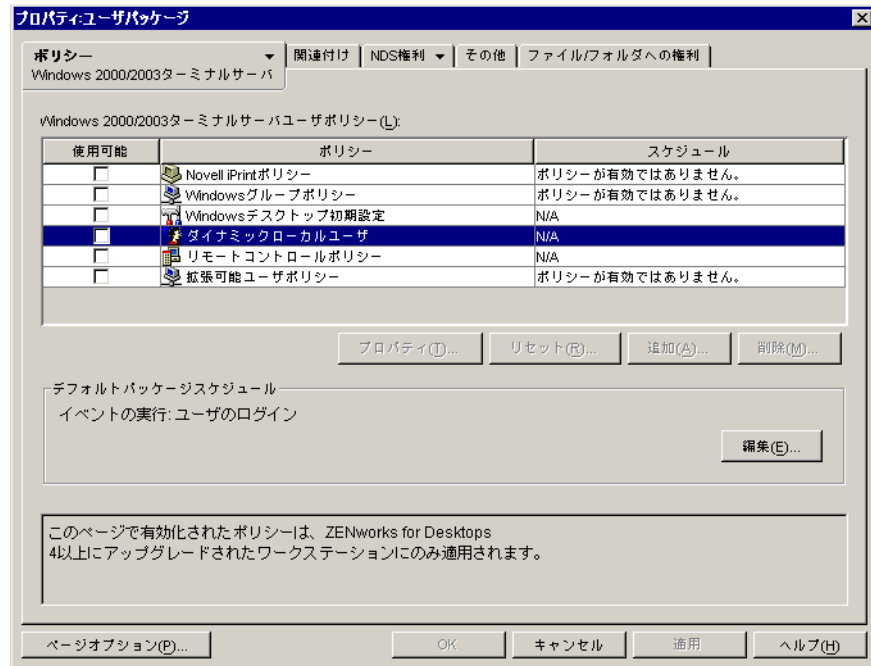
- 3 必要に応じて、パッケージのオブジェクト名と、パッケージが作成されるコンテナを変更して、[次へ] をクリックします。



- 4 [概要] ページで、[作成後に詳細を設定] を選択し、[完了] をクリックして、ユーザパッケージオブジェクトを作成し、オブジェクトのプロパティページを表示します。



- 5 [ポリシー] タブをクリックし、[Windows 2000-2003 ターミナルサーバ] をクリックして、[Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシー] ページを表示します。



6 次の節「**ダイナミックローカルユーザアカウントの設定**」に進みます。

ダイナミックローカルユーザアカウントの設定

ダイナミックローカルユーザ (DLU) ポリシーを使用して、Workstation Manager がターミナルサーバ上にユーザアカウントを作成する方法を設定します。

- 1 [Windows 2000/2003 ターミナルサーバ] プラットフォームページで、[ダイナミックローカルユーザポリシー] の左にあるチェックボックスを選択して、ポリシーを有効にしてから、[プロパティ] をクリックして、[ダイナミックローカルユーザ] プロパティページを表示します。



2 次のフィールドを設定します。

[ダイナミックローカルユーザを有効にする]：Workstation Manager を有効にして、ユーザアカウントを動的に作成する場合は、このオプションを選択します。

[既存のユーザアカウントを管理する]：Workstation Manager で既存のユーザアカウントに DLU ポリシーを適用する場合は、このオプションを選択します。既存のユーザアカウントに DLU ポリシーを適用しない場合、DLU ポリシーは新しいユーザアカウントにのみ適用されます。

[eDirectory アカウント情報を使用する]：ローカルユーザアカウントに eDirectory ユーザ名とパスワードを使用する場合は、このオプションを選択します。ユーザの eDirectory と Windows アカウント情報を同期させて、パススルー認証を設定すると (135 ページの「パススルー認証の設定」を参照)、ターミナルサーバからアプリケーションを起動する際にアカウント情報を要求するプロンプトが表示されません。

[一時的ユーザ (ログアウト後に削除する)]：ユーザがアプリケーションを終了して、セッションを終了した後に、ユーザのアカウントを削除する場合は、このオプションを選択します。すべてのユーザアカウント情報が削除されます。Roaming プロファイルを保持する場合は、ターミナルサーバの Roaming プロファイルを設定できます。手順については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーション管理」の「Windows デスクトップ初期設定ポリシー (ユーザパッケージ)」を参照してください。

[選択されているグループ] / [選択されていないグループ]：[選択されていないグループ] リストで、ユーザをメンバーにするグループを選択して、[追加] をクリックします。グループメンバーシップにより、ターミナルサーバでのユーザのアクセス権が決定されます。リストに表示されたグループに、ユーザに割り当てる正確なファイルシステム権利がない場合は、[ファイル権利] ページを使用します ([ダイナミックローカルユーザ] タブ > [ファイル権利] ページ)。

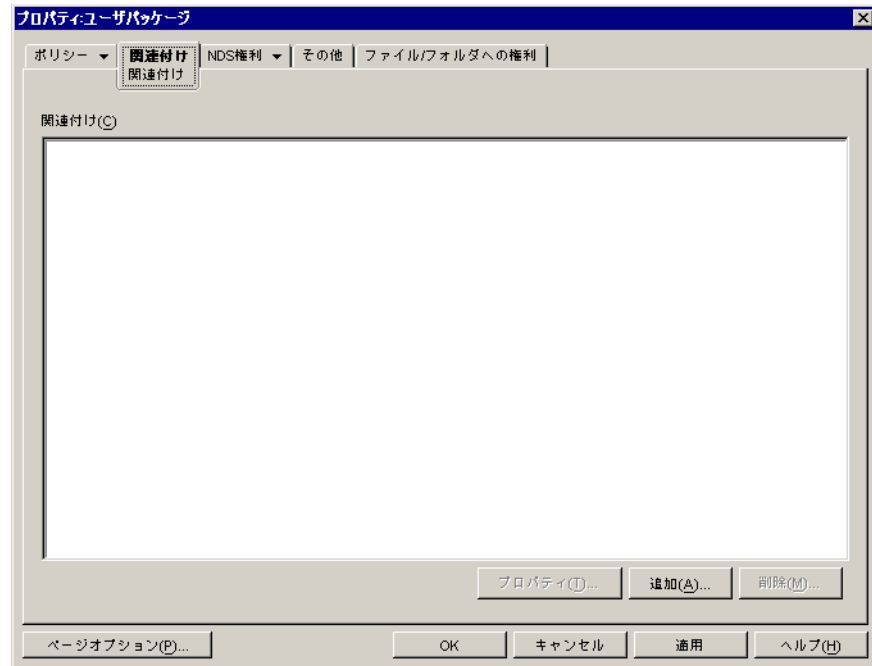
3 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[ダイナミックローカルユーザ] プロパティページを閉じます。

4 次の節「ユーザパッケージとユーザの関連付け」に進みます。

ユーザパッケージとユーザの関連付け

ユーザポリシーパッケージを有効にする前に、ユーザに関連付ける必要があります。

- 1 ユーザパッケージオブジェクトのプロパティページが表示されていない場合は、[ユーザパッケージ] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [関連付け] タブをクリックして [関連付け] ページを表示します。



- 3 [追加] をクリックし、ポリシーパッケージを適用するユーザを参照して選択します。ユーザ、グループ、またはコンテナを追加します。
- 4 ユーザを追加し終わったら、[OK] をクリックして保存します。

ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理

ターミナルサーバでユーザアカウントを動的に作成するときに、Workstation Manager とユーザポリシーを使用しない場合は、アカウントを他の方法で作成する必要があります（たとえば、各ターミナルサーバで静的アカウントを手動で作成するか、または Microsoft Active Directory を使用して作成します）。ユーザアカウントの作成方法については、Windows のマニュアルを参照してください。ユーザアカウントを作成するときは、次の点に注意してください。

- ◆ RDP アプリケーションに対してパススルー認証を有効にする場合、ユーザの Windows アカウントには、eDirectory アカウントと同じユーザ名とパスワードが必要です。
- ◆ パススルー認証は、ICA アプリケーションには使用できません。ユーザは、ICA アプリケーションを起動したときに、常にログインアカウント情報を要求されます。ICA アプリケーションに対してパススルー認証を有効にするには、Workstation Manager とユーザポリシーを使用する必要があります。
- ◆ グループメンバーシップまたは個別のユーザ許可によって、ターミナルサーバからアプリケーションを実行するには、ユーザアカウントに適切なファイルシステム権利を付与する必要があります。

ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール

Novell Application Launcher™、Novell Application Launcher プラグイン、または ZENworks Launch ガジェットでターミナルサーバアプリケーションを起動する場合、常に Citrix ICA クライアントまたは Microsoft RDP クライアントを使用して、ターミナルサーバとのクライアントセッションが作成されます。このため、各ユーザのワークステーションに ICA および RDP クライアントをインストールする必要があります。

ICA クライアント

ワークステーションに ICA Program Neighborhood (PN) クライアントまたは ICA Web クライアントをインストールする必要があります。ユーザのワークステーションに PN クライアントまたは Web クライアントがまだインストールされていない場合は、次の手順に従います。

- 1 [Citrix Download Clients サイト \(http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755\)](http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755) から PN クライアントまたは Web クライアントファイルをダウンロードします。
- 2 各ワークステーションにクライアントファイルを配布します。手順は次のとおりです。
 - 2a 『*Citrix 管理者ガイド*』に記載されているインストール手順に従うか、または Novell Application Launcher を使用して、クライアントファイルを配布します。
 - 2b (条件付き) ZENworks Launch ガジェットを使用している場合は、Web クライアント (wficat.cab) ファイルをポータルサーバ上の次の場所にコピーします。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥bin
```

または

PN クライアントの場合は、ファイル名を wficat.cab に変更して上記の場所にコピーします。

ユーザが ICA クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは CAB ファイルを使用して、Web クライアントをインストールします。その後、ユーザは Novell Application Launcher、Novell Application Launcher プラグイン、および ZENworks Launch ガジェットから ICA アプリケーションを起動できます。

ZENworks Launch ガジェットの使用方法については、[12 章 129 ページの「ZENworks Launch ガジェットのインストール」](#)を参照してください。

RDP クライアント

Microsoft RDP 5.1 クライアント (msrdp.ocx) は、ZENworks デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Launch ガジェットに含まれています。デスクトップ管理エージェントのインストール時に、c:\¥program files¥novell¥zenworks ディレクトリに msrdp.ocx がインストールされます。ZENworks Launch ガジェットを使用する場合、ユーザが RDP クライアントセッションで実行するように設定されたターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは、c:\¥program files¥novell¥zenworks ディレクトリに msrdp.ocx ファイルをインストールします。

14

認証のセットアップ

ワークステーションのログインダイアログボックスで、ユーザが認証されたユーザ ID とパスワード（「アカウント情報」とも呼ばれます）を入力すると、そのワークステーションと Novell® ZENworks® デスクトップ管理コンポーネントの間に安全なネットワーク接続が確立されます。これらのコンポーネントはネットワーク上にあり、Novell eDirectory™ によって管理されます。この接続（「認証」とも呼ばれます）は、さまざまな設定状況で発生します。

この節では、次のような状況でどのように認証が行われるかについて説明します。

- ◆ 143 ページの「Novell Client による認証」
- ◆ 145 ページの「デスクトップ管理エージェントと ZENworks Middle Tier Server による認証」

Novell Client による認証

デスクトップ管理エージェントがインストールされているワークステーションに、Novell Client™ が以前にインストールされている場合、Novell Client は引き続きログイン時に起動します。Client をそのままにしておくことで、ワークステーションがファイアウォール内にあり、ZENworks Middle Tier Server による認証の必要がないことが前提となります。ただし、デスクトップ管理エージェントをインストールすると、ワークステーションが新しい ZENworks 6.5 デスクトップ管理機能にアップグレードされます。これには、更新された機能が含まれています。

ZENworks デスクトップ管理による Novell Client の使用方法については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』を参照してください。

この節では、デスクトップ管理エージェントがインストールされているかどうかに関係なく、ユーザのワークステーションに従来の Novell Client がインストールされている場合に、ZENworks ユーザおよびワークステーションポリシーが eDirectory の認証を受けるために必要なアカウント情報（つまりユーザ ID とパスワード）について説明します。

この情報は、インストール時にこれらのアカウント情報を指定する理由を理解するのに役立ちます。この節では、次の内容について説明しています。

- ◆ 144 ページの「ユーザポリシーに必要なアカウント情報」
- ◆ 144 ページの「ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報」

ユーザポリシーに必要なアカウント情報

次の表は、ZENworks デスクトップ管理ユーザポリシーに必要なアカウント情報を示します。このポリシーは、Novell Client を使用して eDirectory から認証を受けます。

ワークステーションプラットフォーム	アクセスするサーバのファイルシステム	必要なアカウント情報	コメント
Windows 98 SE	NetWare	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 98 SE	Windows 2000/2003	ドメインワークステーション ID とパスワード	Microsoft SMB クライアントは、Windows ファイルシステムへのアクセスに使用されます。
Windows 2000/XP	NetWare	eDirectory ユーザ ID とパスワード	
Windows 2000/XP	Windows 2000/2003	ドメインユーザ ID とパスワード	Microsoft SMB クライアントは、Windows ファイルシステムへのアクセスに使用されます。

ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報

次の表は、ZENworks デスクトップ管理ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報を示します。このポリシーは、Novell Client を使用して eDirectory から認証を受けます。

ワークステーションプラットフォーム	アクセスするサーバのファイルシステム	必要なアカウント情報	コメント
Windows 98 SE	NetWare	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 98 SE	Windows 2000/2003	ドメインワークステーション ID とパスワード	Microsoft SMB クライアントは、Windows ファイルシステムへのアクセスに使用されます。
Windows 2000/XP	NetWare	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 2000/XP	Windows 2000/2003	ドメインワークステーション ID とパスワード	Microsoft SMB クライアントは、Windows ファイルシステムへのアクセスに使用されます。

デスクトップ管理エージェントと ZENworks Middle Tier Server による認証

デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスを使用してネットワークにログインする場合は、デスクトップ管理エージェントのカスタマイズ方法、およびユーザに必要なログイン経験をカスタマイズするためのその他の準備について理解する必要があります。

この節では、次のトピックについて説明します。

- ◆ 145 ページの「デスクトップ管理ポリシーで必要なアカウント情報」
- ◆ 146 ページの「エージェントのログインのカスタマイズ」
- ◆ 148 ページの「同期パススルーログイン」
- ◆ 148 ページの「Windows ネットワーク環境へのログイン」

デスクトップ管理ポリシーで必要なアカウント情報

この節では、ユーザのワークステーションにデスクトップ管理エージェントがインストールされており、ZENworks Middle Tier Server を使用して通信している場合に、デスクトップ管理ユーザとワークステーションポリシーが eDirectory から認証を受けるために必要なアカウント情報について説明します。

この情報は、インストール時にこれらのアカウント情報を指定する理由を理解するのに役立ちます。この節では、次の内容について説明しています。

- ◆ 145 ページの「ユーザポリシーに必要なアカウント情報」
- ◆ 146 ページの「ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報」

ユーザポリシーに必要なアカウント情報

次の表は、デスクトップ管理ユーザポリシーで必要なアカウント情報を示します。このポリシーは、デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Middle Tier Server を使用して、eDirectory から認証を受けます。ユーザのワークステーションに、デスクトップ管理エージェントがインストールされていることが前提となります。

ワークステーション プラットフォーム	eDirectory サーバのファ イルシステム	必要なアカウント 情報	コメント
Windows 98 SE	NetWare	eDirectory ワ ークステーション ID とパスワード	
Windows 98 SE	Windows 2000/2003	eDirectory ユー ザおよびドメイ ンユーザの ID とパスワード	プロキシアカウント情報は、ZENworks Middle Tier Server のインストール時に登録され、 ZENworks Middle Tier Server のレジストリに 格納されます。
Windows 2000/XP	NetWare	eDirectory ユー ザ ID とパス ワード	

ワークステーション プラットフォーム	eDirectory サーバのファ イルシステム	必要なアカウント 情報	コメント
Windows 2000/XP	Windows 2000/2003	eDirectory ユー ザおよびドメイ ンユーザの ID とパスワード	ユーザがドメインにログインしていない（た だし、ローカルワークステーションおよび eDirectory にはログインしている）場合、 Middle Tier Server は eDirectory アカウント 情報を使用して、ドメインから認証を受けま す。つまり、eDirectory アカウント情報は、 ドメインアカウント情報と一致している必要 があります。 ユーザがドメインにログインしている場合は、 そのドメインアカウント情報が使用されます。

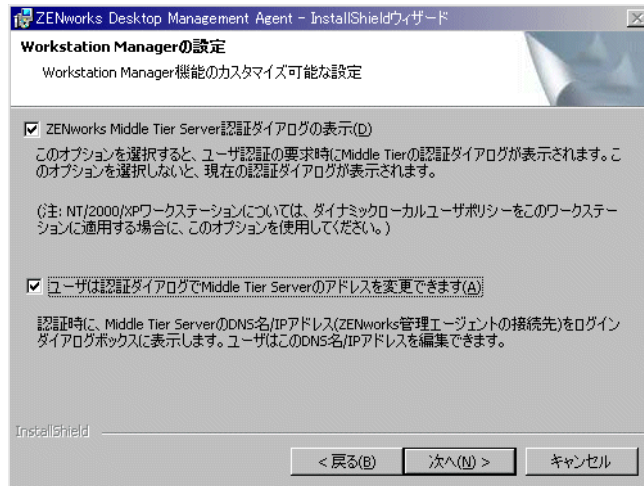
ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報

次の表は、デスクトップ管理ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報を示します。このポリシーは、デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Middle Tier Server を使用して、eDirectory から認証を受けます。ユーザのワークステーションに、デスクトップ管理エージェントがインストールされていることが前提となります。

ワークステーション プラットフォーム	eDirectory サーバのファ イルシステム	必要なアカウント 情報	コメント
Windows 98 SE	NetWare	eDirectory ワークステー ション ID とパ スワード	
Windows 98 SE	Windows 2000/2003	eDirectory ユーザおよび ドメインユー ザの ID とパス ワード	プロキシアカウント情報は、ZENworks Middle Tier Server のインストール時に登録され、 ZENworks Middle Tier Server のレジストリに 格納されます。
Windows 2000/XP	NetWare	eDirectory ワークステー ション ID とパ スワード	
Windows 2000/XP	Windows 2000/2003	プロキシ ID と パスワード	プロキシアカウント情報は、ZENworks Middle Tier Server のインストール時に登録され、 ZENworks Middle Tier Server のレジストリに 格納されます。

エージェントのログインのカスタマイズ

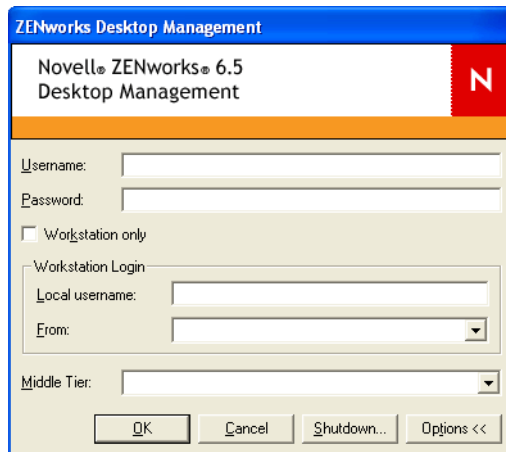
デスクトップ管理エージェントがインストールされていて、ワークステーションに Novell Client が存在しない場合、インストールプログラムは [Workstation Manager の設定] ページを表示します。このページを使用すると、ログイン時にユーザに表示される内容をカスタマイズできます。



[Display ZENworks Middle Tier Server Authentication (ZENworks Middle Tier Server 認証を表示)] ダイアログを選択すると、カスタマイズされた [Novell ログイン] ダイアログボックスが常にユーザに表示されます。

ユーザがデスクトップ管理サーバから認証を受けるのに使用できるネットワーク内に、複数の Middle Tier Server を設置する場合、このオプションを選択することもできます。

注： ユーザのワークステーションが Windows 2000/XP プラットフォームで、ワークステーションにダイナミックローカルユーザポリシーを適用する場合は、このオプションを使用する必要があります。



このログインダイアログボックスに、デスクトップ管理サーバのユーザ ID およびパスワード（「認証アカウント情報」）を入力する必要があります。これらのアカウント情報は、ネットワークに接続（つまり eDirectory に接続）するときにユーザが使い慣れているアカウント情報と同じです。

インストールプログラムの実行中、[認証ダイアログでの ZENworks Middle Tier Server アドレスの変更を許可する] ダイアログを選択した場合、このワークステーション上のユーザは、eDirectory から認証を受けるのに使用される ZENworks Middle Tier Server の DNS 名 /IP アドレスを編集できます。Apache Web サーバ (NetWare®) または IIS Web サーバ (Windows) から認証を受けるために、代替ポートを指定することもできます。代替ポートを指定するには、デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスで、[オプション] ボタンをクリックします。

IP アドレスまたは DNS 名の最後にコロンとポート番号を入力して、代替ポートを指定します。例：

151.155.155.000:5080

重要： プロトコル (http: や https: など) を IP アドレスと共に入力すると、デスクトップ管理エージェントが ZENworks Middle Tier Server に接続できません。

同期パススルーログイン

ユーザに [Novell ログイン] ダイアログボックスを表示しないようにする、つまりデスクトップ管理エージェントを“パススルー”して、ZENworks ファイルの場所に対する認証を実行するには、ユーザのローカルワークステーションのアカウント情報が、eDirectory のアカウント情報と同じであることをまず確認する必要があります。このログインを、“パッシブモード”ログインとも呼びます。

この同期の準備が完了すると、次のように認証が行われます。

1. ユーザは、Windows のログインダイアログで、ローカル Windows ログインアカウント情報を入力します。
2. デスクトップ管理エージェントは、表示されていない場合でも、Windows ワークステーションのアカウント情報を Middle Tier Server に渡します。
3. Middle Tier Server は eDirectory ユーザに対してアカウント情報を確認し、一致した場合は eDirectory から認証を受けます。
4. ユーザは eDirectory から認証を受けます。eDirectory は、ユーザがログインするワークステーションに渡されるポリシーファイルを指定します。

デスクトップ管理エージェントにパススルー認証を設定するには、デスクトップ管理エージェントのインストール時にデフォルトで選択されている [Workstation Manager の設定] ダイアログボックスのオプションの選択を解除します。詳細については、[146 ページの「エージェントのログインのカスタマイズ」](#)を参照してください。

ユーザが eDirectory では無効なアカウント情報を使用して Windows にログインした場合は、Novell デスクトップ管理エージェントのログインダイアログが表示されます。

Windows ネットワーク環境へのログイン

ZENworks デスクトップ管理をインストールするサーバが、Windows ネットワーク環境の一部になっている場合（つまり、Novell NetWare が存在しないネットワーク）、そのネットワークには Microsoft Active Directory がインストールされている可能性があり、ユーザは Microsoft ドメインのメンバーです。[33 ページの「Desktop Management Server のソフトウェア要件」](#)で述べたように、Novell eDirectory 8.7.3（推奨）のインストールは、ZENworks Desktop Management をインストールするネットワーク（この場合は Microsoft ドメイン）の前提条件でもあります。

次の例は、Windows ネットワーク環境にログインした後に、ZENworks デスクトップ管理が認証を行う方法を示しています。

- ◆ [149 ページの「eDirectory への同期ログイン」](#)
- ◆ [149 ページの「Microsoft ドメインへのログイン」](#)
- ◆ [150 ページの「自動ワークステーション認証」](#)

eDirectory への同期ログイン

デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスとローカルコンピュータのアカウント情報を使用してログインする場合、ローカルワークステーションのアカウント情報を eDirectory のアカウント情報と同期させる必要があります。この同期の準備が完了すると、次のように認証が行われます。

1. ワークステーションの起動時に、Windows 2000/XP オペレーティングシステムは、デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスを開きます。
2. ダイアログボックスで [オプション] ボタンをクリックして、オプションのログインフィールドを表示します。
3. ユーザは、[ユーザ名] および [パスワード] フィールドに eDirectory ユーザ名とパスワードを入力します。
4. [送信者] ドロップダウンリストで Windows ワークステーションの名前を選択して、Windows ネットワークにログインします。
5. デスクトップ管理エージェントは、eDirectory アカウント情報を ZENworks Middle Tier Server に渡します。
6. ZENworks Middle Tier Server は eDirectory ユーザに対してアカウント情報を確認し、一致した場合は eDirectory から認証を受けます。
7. ユーザは eDirectory から認証を受けます。eDirectory は、ユーザがログインするワークステーションに渡されるポリシーファイルを指定します。

Microsoft ドメインへのログイン

デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスと、Microsoft ドメインのアカウント情報を使用してログインする場合、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアがインストールされている Windows 2000/2003 サーバと、デスクトップ管理サーバソフトウェアがインストールされている Windows 2000/2003 サーバは、同じ Microsoft ドメインまたは信頼関係に属している必要があります。Desktop Management Server が MSI アプリケーションを配布しないかぎり、ユーザのワークステーションはドメインにログインしません。

認証は、次のように行われます。

1. ワークステーションの起動時に、Windows 2000 オペレーティングシステムは、デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスを開きます。
2. ダイアログボックスで [オプション] ボタンをクリックして、オプションのログインフィールドを表示します。
3. [送信者] ドロップダウンリストで、Microsoft ドメインからログインするオプションを選択します。
4. ユーザは、[ユーザ名] および [パスワード] フィールドにドメインのアカウント情報を入力します。このアカウント情報は、eDirectory のアカウント情報と同期させる必要があります。
5. デスクトップ管理エージェントは、アカウント情報を ZENworks Middle Tier Server に渡します。
6. ZENworks Middle Tier Server はドメインユーザに対してアカウント情報を確認して、ドメインから認証を受けます。
7. ユーザはドメインから認証を受け、ポリシーファイルへのアクセス権を付与されます。ポリシーファイルは保存され、ドメインからアクセス可能で、ユーザがログインするワークステーションに渡されます。

自動ワークステーション認証

ワークステーションにデスクトップ管理エージェントがすでにインストールされており、そのワークステーションの Workstation Manager がワークステーショングループポリシーを受け取るようにスケジュールが設定されている場合、ユーザがログインしていなくても、ワークステーションは Windows ネットワークから認証を受け、グループポリシーの実行時間になったときにポリシーファイルを受け取ります。これは、「自動」認証と呼ばれることもあります。認証は、次のように行われます。

1. ポリシー実行時間になると、デスクトップ管理エージェントは、インストール時に指定された DNS 名または IP アドレスを使用して、ZENworks Middle Tier Server に接続します。この情報は、ワークステーションの Windows レジストリに格納されます。
2. ZENworks Middle Tier Server は、(ZENworks Middle Tier インストールプログラムが提供する) レジストリプログラムに格納されたドメインユーザのアカウント情報を使用して、該当するファイルへのファイル権利を持つドメインユーザとして認証します。
3. ポリシーファイルは、ZENworks Middle Tier Server によってユーザのワークステーションにコピーされます。

15

セキュリティ対策のセットアップ

この節では、Novell ZENworks® Middle Tier Server がインストールされている Microsoft Windows または Novell® NetWare® サーバで、証明書を取得して Web サーバ用の SSL を設定する手順について説明します。

次の各節で構成されています。

- ◆ 151 ページの「Windows Middle Tier Server の SSL および証明書の設定」
- ◆ 155 ページの「NetWare Middle Tier Server の SSL および証明書の設定」
- ◆ 156 ページの「SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ」
- ◆ 157 ページの「NetIdentity 認証のセットアップ」

Windows Middle Tier Server の SSL および証明書の設定

Windows 2000 コンピュータで Middle Tier Server の SSL をセットアップすると、すべての管理がインターネットサービスマネージャおよび ConsoleOne® によって行われます。セットアップの主な手順は、次のとおりです。

- ◆ 151 ページの「証明書の署名要求の生成」
- ◆ 152 ページの「eDirectory ルート CA による証明書の発行」
- ◆ 153 ページの「Middle Tier Server でのルート CA のインストール」

証明書の署名要求の生成

Windows 2000 にインストールされている Middle Tier Server で証明書要求を生成するには

- 1 サーバのデスクトップで、[プログラム] > [管理ツール] > [インターネット サービス マネージャ] > [インターネット インフォメーション サービス] の順にクリックして、[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウを開きます。
- 2 Middle Tier Server アイコンの「+」記号をクリックして、階層を展開します。
- 3 [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックして、[Default Web Site Properties (既定の Web サイトのプロパティ)] ダイアログボックスを開きます。

SSL 証明書がまだ設定されていない場合、[SSL Port (SSL ポート)] フィールドが淡色表示されます。

- 4 [Directory Security (ディレクトリのセキュリティ)] をクリックして、[Directory Security (ディレクトリのセキュリティ)] ページを開きます。

- 5 [Server Certificate(サーバの証明書)] をクリックして、Web サービス証明書ウィザードを開始します。
 - 5a ウィザードの初期ページで [次へ] をクリックして、[Server Certificate(サーバの証明書)] ページを開きます。
 - 5b [Server Certificate(サーバの証明書)] ページで、[Create a New Certificate(新規証明書の作成)] をクリックして、[次へ] をクリックします。
 - 5c ウィザードの [Delayed or Immediate(後で、または今すぐ実行)] ページで、[Prepare the Request Now, But Send it Later(今すぐ要求を準備するが、後で送信する)] を選択して、[次へ] をクリックします。
 - 5d [Name and Security Setting(名前とセキュリティの設定)] ページで、証明書の名前 (DaveMiddleTier Web Site) を指定し、ビット長を 1024 に変更して、[次へ] をクリックします。
 - 5e ウィザードの [Organization Information(組織情報)] ページで組織の名前を指定し、[組織] および [部門] フィールドで部門を指定して、[次へ] をクリックします。
 - 5f ウィザードの [Your Site's Common Name(ユーザサイトの共通名)] ページで、DNS 表を使用している場合は完全な DNS 名 (zztop1.zenworks.provo.novell.com など) を指定して、[次へ] をクリックします。

IP アドレスが静的で、すべてのアクセスが IP アドレスを使用して行われる場合は、IP アドレスを入力することもできます。

サーバがファイアウォールの背後にある場合は、サーバを外部に認識させる DNS 名を入力します。
 - 5g ウィザードの [Geographical Information(地域情報)] ページで、[国]、[都道府県]、[市町村] の各フィールドに正しい情報を入力して、[次へ] をクリックします。
 - 5h ウィザードの [Certificate Request File Name(証明書要求ファイル名)] ページで、アクセス可能な場所にある証明書要求を保存して、[次へ] をクリックします。

この要求は、信頼される認証局 (CA) に署名のために送信されるファイルです。
 - 5i ウィザードの [Request File Summary(要求ファイル概要)] ページで、すべての情報を確認します。必要に応じて、[戻る] ボタンを使用して、該当するページを変更することもできます。[次へ] をクリックします。
 - 5j ウィザードの [Completing the Web Services Certificate Wizard(Web サービス証明書ウィザードの完了)] ページで、[完了] をクリックします。
- 6 信頼される適切な認証局に証明書要求を送信します。信頼される CA が証明書を発行したら、**154 ページの「IIS で保留中の証明書要求の処理」**で説明する手順に進みます。

eDirectory ルート CA による証明書の発行

eDirectory ルート CA を使用して、有効な CSR(Certificate Signing Request) の証明書を発行します。この方法を使用する場合、ルートは信頼されるルートではありません。詳細については、**153 ページのステップ 4**を参照してください。

このコンピュータには、Novell Client™ 4.83 以降、ConsoleOne 1.3.3 以降、および Novell International Cryptographic Infrastructure (NICI) クライアント 2.4.0 以降がインストールされている必要があります。

- 1 サーバのデスクトップで、ConsoleOne を起動します。
- 2 サーバオブジェクトが存在するツリーで、コンテナを選択します。
- 3 [ツール] > [Issue Certificate(証明書の発行)] の順に選択して、証明書の発行ウィザードを開始します。
 - 3a [ファイル名] フィールドで、証明書要求を含むファイルの名前を指定して、[次へ] をクリックします。
 - 3b [Organizational Certificate Authority(組織の証明書認証)] ページで、[次へ] をクリックします。
 - 3c [SSL or TLS(SSL または TLS)] ページで、[次へ] をクリックします。
 - 3d ウィザードの次のページで [次へ] をクリックして、デフォルトをそのまま使用します。
 - 3e [Save Certificate(証明書の保存)] ページで、ファイルをデフォルト (.der 形式) で保存します。
- 4 認証局から自己署名付きの証明書をエクスポートします。

ルートは信頼されるルートではないため、Middle Tier Server に接続されるすべてのワークステーションに、ルート CA から自己署名付き証明書をインポートする必要があります。この自己署名付き証明書がインポートされなかった場合、この CA によって発行されたすべての証明書の検証が失敗します。

- 4a ConsoleOne で、ツリーのセキュリティコンテナを参照します。セキュリティコンテナは、鍵アイコンで識別されます。
- 4b [Server Name Organizational CA(サーバ名の組織 CA)] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
- 4c [Certificates(証明書)] をクリックして、[Self Signed Certificate(自己署名証明書)] を選択します。
- 4d [エクスポート] をクリックします。
- 4e 特定の場所への保存が必要になるまで、後続のページでデフォルトをそのまま使用します。

Middle Tier Server でのルート CA のインストール

信頼されない CA(eDirectory ルート CA など) が証明書要求に署名した場合は、Middle Tier Server 上の CA から自己署名付き証明書をインストールする必要もあります。

- 1 CA から自己署名付き証明書を含むファイルを検索して、ダブルクリックします。
- 2 [Certificate(証明書)] ページで [Install Certificate(証明書のインストール)] をクリックして、ウィザードを開始します。
 - 2a ウィザードの最初のページで、[次へ] をクリックします。
 - 2b ウィザードの 2 番目のページで、「Automatically select the certificate store(証明書の保管場所を自動的に選択)」というメッセージが表示されたら、[次へ] をクリックします。
 - 2c ウィザードの 3 番目のページで、[完了] をクリックします。

2d [Root Certificate Store(ルート証明書を保管)] メッセージボックスで、[はい] を選択します。

2e [Successful Import(インポートの完了)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

「The import was successful(インポートに成功しました)」というメッセージが表示されます。

IIS で保留中の証明書要求の処理

信頼される CA が証明書を発行した場合、インターネットサービスマネージャを使用して、その要求を処理できます。

- 1 サーバのデスクトップで、[プログラム] > [管理ツール] > [インターネット サービス マネージャ] > [インターネット インフォメーション サービス] の順にクリックして、[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウを開きます。
- 2 Middle Tier Server アイコンの「+」記号をクリックして、階層を展開します。
- 3 [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックして、[Default Web Site Properties(既定の Web サイトのプロパティ)] ダイアログボックスを開きます。
- 4 [Directory Security(ディレクトリのセキュリティ)] をクリックして、[Directory Security(ディレクトリのセキュリティ)] ページを開きます。
- 5 [Server Certificate(サーバの証明書)] をクリックして、Web サービス証明書ウィザードを開始します。
- 6 Web サービス証明書ウィザードを使用して、証明書要求を処理します。
 - 6a** 初期ページで、[次へ] をクリックします。
 - 6b** [Server Certificate(サーバの証明書)] ページで、[Process the Pending Request and Install the Certificate(保留中の要求を処理して証明書をインストール)] を選択して、[次へ] をクリックします。
 - 6c** 次のページで、認証局から受け取った署名付き証明書のフルパスを入力します。

これは、認証局で使用する命名規則によって、.der または .cer ファイル、あるいは他の拡張子が付いたファイルになります。
 - 6d** 次のウィザードページで、[次へ] をクリックします。
 - 6e** 最後のウィザードページで、[完了] をクリックします。
- 7 [プロパティ] ページを閉じます。
- 8 ツリー内のサーバアイコンを右クリックして、[Restart IIS(IIS の再起動)] を選択します。
- 9 IIS が再起動したら、[既定の Web サイト] のプロパティを開いて、SSL ポートが使用可能になっていることを確認します。

NetWare Middle Tier Server の SSL および証明書の設定

NetWare コンピュータで Middle Tier Server の SSL をセットアップすると、すべての管理が ConsoleOne によって行われます。NetWare サーバには、NICI クライアント 2.4.0 以降がインストールされている必要があります。

次の手順に従って、NetWare サーバの SSL を設定します。

- 1 ConsoleOne で、Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたツリーを参照して、最上位のコンテナ（通常は組織）を右クリックし、[新規]、[オブジェクト] の順にクリックして、[新規オブジェクト] ダイアログボックスを開きます。
- 2 NDSPKI:Key Material という名前のオブジェクトをクリックして、作成ウィザードを開始します。
 - 2a 証明書の名前（証明書と、関連するパブリックキーとプライベートキーのキーペア名）を指定して、[カスタム] のインストールを選択し、[次へ] をクリックします。
 - 2b [External Certificate Authority(外部の証明書認証)] を選択して、[次へ] をクリックします。
 - 2c [Key Size(キーサイズ)] を 1024 に変更し、他のフィールドはすべてデフォルトをそのまま使用して、[次へ] をクリックします。

デフォルトの [Key Size(キーサイズ)] は 2048 ですが、1024 で十分です。
 - 2d [サブジェクト名] フィールドで、[CN=] を完全識別名に変更し、他のフィールドはすべてデフォルトをそのまま使用して、[次へ] をクリックします。
 - 2e [完了] をクリックして、CSR を作成します。
 - 2f Base64 として保存してから、後でアクセスできるようにパスとファイル名を指定します。
- 3 **ステップ 2** で生成した CSR を使用して、信頼する CA でサーバ証明書を作成します。

必要に応じて、eDirectory ルート CA を使用して証明書を発行することができます。詳細については、**152 ページの「eDirectory ルート CA による証明書の発行」**を参照してください。
- 4 証明書が発行されたら、ConsoleOne を開いて、Middle Tier Server ソフトウェアがインストールされているツリーを開きます。
- 5 作成した NDSPKI: キーマテリアルオブジェクト (KMO) を開いて、[Certificates(証明書)] をクリックし、[Trusted Root Cert(信頼するルート証明書)] をクリックします。次に [インポート] をクリックして、インポートウィザードを開始し、証明書をインポートします。
 - 5a [Trusted Root Certificate(信頼するルート証明書)] ページで、[Read from File(ファイルから読み込み)] をクリックし、[Trusted Root Cert(信頼するルート証明書)] を選択して、[次へ] をクリックします。
 - 5b [Server Certificate(サーバの証明書)] ページで、[Read from File(ファイルから読み込み)] をクリックし、**ステップ 3** で作成した証明書を選択します。[次へ] をクリックして、[完了] をクリックします。

6 (条件付き) NetWare 6 の Apache 設定ファイルを変更して、ConsoleOne で作成した証明書の名前を反映します。

6a `sys:\$apache¥conf` ディレクトリにある `adminserv.conf` を開いて編集します。

6b 現在のポート割り当てが記載された行を検索します。行は、次のようになります。

```
SecureListen 10.0.1.1:443 "SSL CertificateDNS"
```

6c 「SSL CertificateDNS」を ConsoleOne で作成した証明書の名前に置き換えます。例：

```
SecureListen 10.0.1.1:443 "Dave Cert"
```

ウィザードでサーバ証明書を作成する際、名前の最後に `- server_name` が追加されます (Dave Cert - DaveServer など)。このセクションを `.conf` ファイルに追加しないでください。

新しい証明書の名前を使用して、`.conf` ファイルの Web Manager セクションを編集することもできます。

7 NetWare サーバを再起動します。

SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ

この節では、SSL およびセキュリティ証明書を使用するための Windows 98/NT/2000/XP ワークステーションのセットアップについて説明します。次の各節で構成されています。

- ◆ 156 ページの「Windows ワークステーションへの証明書のインポート」
- ◆ 156 ページの「証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの設定」

Windows ワークステーションへの証明書のインポート

使用する SSL 証明書が信頼されるルートリストに記載されていない CA によって発行されたものである場合、ワークステーションの CA から自己署名証明書をインストールする必要があります。これにより、ワークステーションはその CA によって発行された証明書を信頼できるようになります。証明書のインストールは、デスクトップ管理エージェントのインストールの前でも後でも実行できます。

Windows ワークステーションの証明書は、「User Account (ユーザアカウント)」、「Computer Account (コンピュータアカウント)」、および「Service Account (サービスアカウント)」内にインポートできます。証明書のインポートの詳細については、[Windows XP Professional Product Documentation Web サイト \(http://www.microsoft.com/resources/documentation/windows/xp/all/proddocs/en-us/sag_cmprocsimport.mspx\)](http://www.microsoft.com/resources/documentation/windows/xp/all/proddocs/en-us/sag_cmprocsimport.mspx) の「To Import a Certificate」を参照してください。

証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの設定

デスクトップ管理エージェントのインストールプログラムで、IP アドレスまたは Middle Tier Server の DNS 名の入力が必要な場合、証明書要求の作成時に使用した共通名を入力する必要があります。詳細については、152 ページのステップ 5f を参照してください。

NetIdentity 認証のセットアップ

デスクトップ管理エージェントから行う Middle Tier Server に対する認証は、チャレンジ/レスポンス方式に基づいています。Middle Tier Server が認証のためにエージェントにチャレンジするとき、Middle Tier Server は X.509 証明書を送信します。エージェントは証明書の完全性と信用性を検証し、パブリックキーとプライベートキー、およびセッションキー暗号化技術を使用して秘密が交換されます。

インストール時に、NetIdentity 証明書が Middle Tier Server にインストールされます。NetWare では、この証明書はサーバが属するツリーの認証局 (CA) によって署名されます。Windows 2000 では、この証明書は自己署名された擬似証明書です。これらの証明書は暗号化の面では有効ですが、信頼されるルート認証局によって署名されたものではないため、制御された環境以外では信頼すべきではありません。デフォルトでは、デスクトップ管理エージェントのインストールはこうした自己署名証明書を受け入れますが、これは設定可能なインストールパラメータです。制御されたネットワーク外部で展開するときには、信頼されるルート認証局によって署名された証明書を使用して Middle Tier Servers を設定する必要があります。厳密な信用性チェックを実行するように設定することも必要です。

有効な NetIdentity 証明書を使用した Middle Tier Server の設定

有効な SSL 証明書（信頼されるルート認証局によって署名された証明書）がサーバ用にすでにある場合、NetIdentity 認証処理でその証明書を使用できます。

- 1 サーバが NetWare サーバの場合は、SSL 証明書のキーペア名を書き留めておきます（この名前は、ConsoleOne に表示される証明書オブジェクトの名前です）。Windows 2000 サーバの場合は、証明書のフレンドリ名を書き留めておきます。
- 2 ブラウザで Middle Tier Server の NSAdmin ページ (<http://ip-address/oneNet/nsadmin>) を表示します。
- 3 [一般] 設定ページで、[Certificate Name (証明書の名前)] の値を **ステップ 1** の名前に設定します。
- 4 変更内容を送信します。
- 5 Middle Tier Server を再起動します。

有効な SSL 証明書がサーバ用でない場合、有効な X.509 証明書（信頼されるルート CA によって署名された証明書）をサーバ用に設定する必要があります。

- 1 信頼されるルート CA によって署名された証明書を取得します。プラットフォームに合わせて、**151 ページの「証明書の署名要求の生成」**および **153 ページの「Middle Tier Server でのルート CA のインストール」**で説明した手順に従います。
- 2 キーペア名またはフレンドリ名（プラットフォームによって異なります）が「NetIdentity」と異なる場合は、適切な名前を使用して Middle Tier Server を設定します。この手順の **ステップ 1** から **ステップ 4** を参照してください。
- 3 Middle Tier Server を再起動します。

注： どちらの場合でも、証明書が信頼されるルート CA のリストに記載されていない CA によって署名されたものであるときには、CA の自己署名証明書を各ワークステーションにインポートする必要があります。詳細については、**156 ページの「Windows ワークステーションへの証明書のインポート」**を参照してください。

厳密な信用性検証を実行するためのデスクトップ管理エージェントの設定

信頼されるルート CA によって署名された証明書を使用して Middle Tier Server を設定したら、NetIdentity 証明書の厳密な信用性検証を実行するようにデスクトップ管理エージェントを設定します。次のレジストリキーの設定を変更します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\Client\Policies\NetIdentity  
"Strict Trust"= dword:0x00000001
```

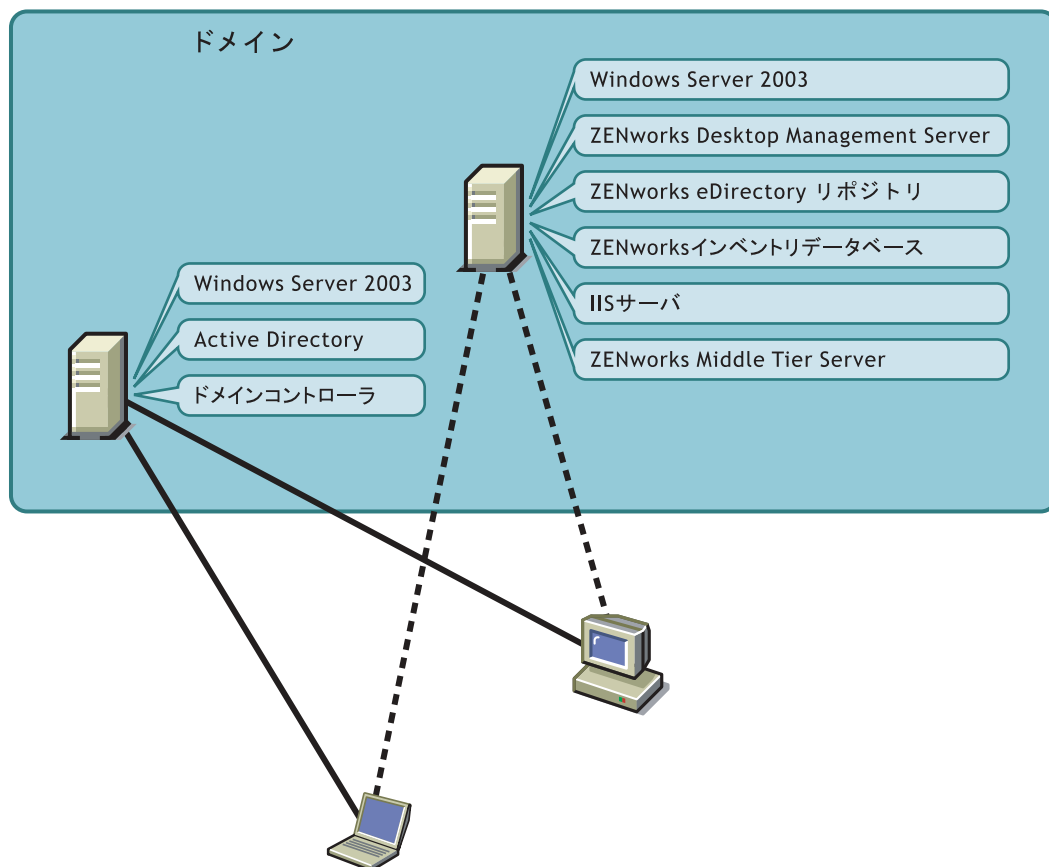
デフォルトでは、Strict Trust の値は 0（ゼロ）です。値がない場合、または 0x0（ゼロ）に設定した場合は、すべての証明書を受け入れることができます。値を 0x1 に設定すると、信用性を完全に検証することができない証明書は拒否するようにデスクトップ管理エージェントが設定されます。

16

Windows ネットワーク環境でのインストール

Novell® ZENworks® は、ネットワークのサーバ環境には関係なく Windows ワークステーションで動作します。Desktop Management は、Windows 2000/2003 サーバまたは NetWare® 6.x サーバを使用しているネットワークや、これらのサーバを組み合わせで使用しているネットワークも含め、Novell eDirectory™ を実行しているあらゆる IP ネットワークで機能します。

これまで、ZENworks は、NetWare または NetWare と Windows の混在環境に配備されてきました。以前のバージョンの ZENworks は、NetWare の LAN 特有の多数の機能に依存していました。しかし、製品の進歩に伴ってその機能も進化し、ZENworks 6.5 では、混在環境ではない Windows ネットワーク環境で重要な機能を使用できるようになりました。



図に示すように、Active Directory* ドメインに ZENworks を配備し、Windows 2003 サーバと IIS Web サーバを通じて ZENworks サービスを提供することができます。eDirectory を Active Directory から独立したリポジトリとして使用し、アプリケーション、デスクトップ、およびポリシーを管理しながら、ドメインによってユーザーアカウントを引き続き管理できます。

ZENworks 6.5 には、Active Directory（または NT ドメイン）と eDirectory ZENworks リポジトリ間でユーザーとパスワードを同期させることができる他の Novell 製品が同梱されています。ZENworks はエージェントベースであるため、ユーザーワークステーションやラップトップに Novell Client™ をインストールする必要はありません。ZENworks は、eDirectory の認証を得てアプリケーションとポリシーを取得し、ブラウザ、Windows のスタートメニュー、アプリケーションウィンドウ、またはデスクトップのアイコンを使用して、ユーザーのデスクトップに配布します。

ここでは、サンプルの Windows ネットワーク環境に ZENworks 6.5 を配備する方法の一例を紹介します。インストールに関する情報および Windows ネットワークユーザーにとって役立つ ZENworks の重要な機能についても説明します。次の情報が含まれています。

- ◆ 160 ページの「Windows 環境で使用するための ZENworks の準備」
- ◆ 162 ページの「Windows ネットワーク環境での ZENworks のインストール」

Windows 環境で使用するための ZENworks の準備

- ◆ 160 ページの「最低ネットワーク要件」
- ◆ 160 ページの「必要とされるネットワーク設定」
- ◆ 161 ページの「ZENworks Desktop Management ユーザーワークステーションの環境設定オプション」
- ◆ 162 ページの「DirXML エンジンおよびドライバ」

最低ネットワーク要件

このサンプル Windows ネットワークで、ZENworks は次に示す項目を必要とします。

- ◆ eDirectory (Windows Server 2003 で使用する場合はバージョン 8.7.3 以降) (このインストールでは、ZENworks をインストールするために必要なサーバ上に Novell Client™ が配置されます)。eDirectory 8.7.3 は、*Novell ZENworks 6.5 Companion 1* CD に収録されています。
- ◆ Microsoft IIS Web サーバ。
- ◆ ドメインにインストールされた Windows Server 2003 (IIS を含む)。

必要とされるネットワーク設定

このサンプル Windows 環境で、次の Windows ネットワーク設定を満たすことを前提としています。

- ◆ Active Directory ドメイン。
- ◆ Novell eDirectory、DirXML® 1.1a、および Password Synchronization がインストールされている Windows Server 2003 にインストールされた ZENworks 6.5 サーバ。このサーバは、Active Directory ドメインコントローラと同じドメインに存在する必要がありますが、ドメインコントローラではありません。

注：Novell ZENworks 6.5 Companion 1 CDに含まれる DirXML 1.1.a は、eDirectory 8.7.3 とのみ互換性があります。eDirectory 8.8 で DirXML 機能を使用するには、DirXML 1.1a 環境を Novell Identity Manager 2.x にアップグレードする必要があります。

- ◆ Microsoft IIS がインストールされている Windows Server 2003 サーバにインストールされた ZENworks 6.5 Middle Tier Server。このサーバは、Active Directory ドメインコントローラと同じドメインに存在する必要があります。ZENworks ソフトウェアがインストールされているサーバと同じサーバでも構いませんが、パフォーマンス上の問題を最少限に抑えるために、IIS サーバの独立性を保つことを考慮する必要があります。また、DirXML の Password Synchronization モジュールとは別のサーバで運用することが必要です。

ZENworks Desktop Management ユーザワークステーションの環境設定オプション

ZENworks Desktop Management は、Novell Client または次の 2 つの非クライアントモードを使用して、ユーザワークステーションで実行できます。

- ◆ Application Browser ビューモード
- ◆ デスクトップ管理エージェントフルモード

これは、Windows ネットワーク環境で Novell Client を使用しないことを前提としています。したがって、ネットワークで必要な機能を決定し、非クライアントモードのいずれかでユーザ用の ZENworks Desktop Management を設定する必要があります。

Application Browser ビューモード

このモードでは、ユーザが IIS に接続し、ZENworks Desktop Management で提供されるアプリケーションページ (myapps.html) を開いたときに、単一の Application Browser ビューが配布されます。ユーザがアプリケーションをローカルでインストールする権利を持っている場合は、Web ビューがワークステーションに自動的にインストールされます。

Application Browser モードでアプリケーションをワークステーションに配布できるのは、ユーザが個別に設定されたアプリケーション Web ページに接続した場合だけです。ダイナミックローカルユーザアカウントの作成、ハードウェアおよびソフトウェアインベントリ、自動イメージングサービス、およびリモート管理機能は、このモードには含まれていません。

デスクトップ管理エージェントフルモード

デスクトップ管理エージェントフルモードでは、管理者によって、イメージの一部として、またはユーザによって Desktop Management のすべてのコンポーネントがワークステーションにインストールされます。デスクトップ管理エージェントのインストールに Desktop Management のすべてのコンポーネントを含めることによって、ZENworks Desktop Management で提供する必要のあるすべての機能をユーザに提供できます。

ワークステーションでダイナミックローカルユーザアカウントを作成する場合、Windows へのローカルログインの前に、eDirectory にログインすることをユーザに求めるようにデスクトップ管理エージェントを設定します。エージェントをこのように設定すると、ユーザは eDirectory のユーザ名とパスワード (2 つのアカウントは DirXML によって同期されるため、Active Directory アカウントと同じものにする必要があります) の入力を求められます。ローカルアカウントが存在しない場合、ZENworks Desktop Management はワークステーションにローカルアカウントを作成し、提供されたユーザ名とパスワードを使用してユーザを Windows にログインさせます。

ダイナミックローカルユーザアカウントを作成する必要がある場合、ユーザがワークステーションにログインするときに、ZENworks は Novell ユーザのアカウント情報をサイレントで Windows に渡します（ユーザは、すでにワークステーションでアカウントを設定されている必要があります。ただし、ワークステーションがアクティブディレクトリドメインに属しており、ユーザがアクティブディレクトリにログインしている場合、ワークステーションでアカウントを設定されている必要はありません）。デスクトップ管理エージェントは、アプリケーションをユーザに配布するために、提供されたユーザ名とパスワードを使用して eDirectory に接続します。

注：デスクトップ管理エージェントがワークステーションにインストールされていても、アプリケーションの配布を選択できるのはやはりブラウザビューからだけです。

DirXML エンジンおよびドライバ

DirXML エンジンを使用すると、eDirectory のデータを外部のデータサービスと同期させることができます。DirXML エンジンは、データソース間で入出力をどのように送信するかを記述した複数のドライバを実行しています。

DirXML Driver for Active Directory (Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD の Novell DirXML Starter Pack フォルダに格納されています) は、Novell eDirectory と Microsoft Active Directory 間でデータを同期させるために特別に設計されたものです。同期は双方向です。2つのディレクトリ間で双方向に情報を流すか、一方方向だけに情報を流すかを指定できます。

Windows 2000 Server 用に数多くの DirXML ドライバが存在し、PeopleSoft、JDBC、LDAP ディレクトリ、Lotus Notes、SAP HR、および WebSphere MQ などの他のデータソースと同期させることができます。その他のドライバの詳細については、[Novell DirXML Web サイト \(http://www.novell.com/dirxml\)](http://www.novell.com/dirxml) を参照してください。

DirXML アーキテクチャでは、パブリッシャ / サブスクライバモデルを使用しています。このモデルでは、パブリッシャは eDirectory に情報を配置する役割を果たし、サブスクライバは eDirectory の変更内容を同期された外部のデータソースに適用します。パブリッシャとサブスクライバの動作および属性のマッピングは、DirXML ドライバに含まれる一連の規則によって決まります。DirXML ドライバを XML 規則によってカスタマイズすると、必要なほとんどのデータ設定を配布できます。

DirXML の設定方法の詳細については、[DirXML マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

DirXML インストールをカスタマイズする Novell ソリューションの詳細については、[Novell DirXML Web サイト \(http://www.novell.com/dirxml\)](http://www.novell.com/dirxml) を参照してください。

Windows ネットワーク環境での ZENworks のインストール

Windows ネットワーク環境および Active Directory テスト環境に ZENworks をインストールするときには、次の作業を順番に行う必要があります。

1. 163 ページの「テストラボの環境設定」
2. 163 ページの「ZENworks 6.5 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス」
3. 164 ページの「eDirectory インストールプログラムの実行」
4. 169 ページの「ディレクトリツリーの実用性の検証」
5. 170 ページの「DirXML の Active Directory 管理者アカウントの作成」

6. 171 ページの「DirXML のインストール」
7. 173 ページの「DirXML ドライバの設定」
8. 176 ページの「Password Synchronization のインストール」
9. 178 ページの「DirXML ドライバの最終設定」
10. 178 ページの「eDirectory、DirXML、および Password Synchronization の動作確認」
11. 179 ページの「Desktop Management Server のインストール」
12. 186 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール」
13. 195 ページの「Sybase の ODBC ドライバのインストール」
14. 195 ページの「ユーザワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの展開」

テストラボの環境設定

実際のエンタープライズ環境には、アプリケーションの実行やターミナルサービスなどのさまざまな用途に使用する多数のサーバが含まれています。この節では、次のような小規模の Windows ネットワーク構成をテストラボ環境のサンプルとして使用します。

- ◆ ZENDEMO ドメインの Active Directory ドメインコントローラとして機能する Windows Server 2003。このサーバは SRV-01 と示しています。
- ◆ Novell eDirectory、ZENworks Desktop Management Server、および Password Synchronization をインストールする Windows Server 2003。このサーバには IIS がインストールされており、ZENDEMO ドメインのメンバーです。このサーバは SRV-02 と示しています。
- ◆ ZENworks Middle Tier Server をインストールする Windows Server 2003。このサーバは SRV-03 と示しています。
注： Password Synchronization と ZENworks Middle Tier Server を同じサーバにインストールすることはできません。競合により、Password Synchronization が起動できなくなります。
- ◆ デスクトップ管理エージェントモード（デスクトップ管理エージェントのすべてのコンポーネントがインストールされているモード）で稼動する Windows XP Professional SP1a ワークステーション。このワークステーションは WKS-01 と示しています。
- ◆ Novell Application Launcher™ の Application Browser ビューがインストールされている Windows XP Professional SP1a ワークステーション。このワークステーションは WKS-02 と示しています。

注： Windows 標準セットアップで、最大限のパフォーマンスを実現するために、ZENworks Middle Tier Server を別のサーバにインストールする場合があります。この構成は、ハードウェア要件を最低限に抑えるための一例としてのみ使用します。

ZENworks 6.5 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス

Windows ネットワーク環境で ZENworks 6.5 をセットアップするときには、2 枚の *Novell ZENworks 6.5 Companion* CD のいずれかが必要になります。

Companion CD の内容には、インストールプログラムからアクセスできます。アクセスするには、*Novell ZENworks 6.5* CD を Windows ワークステーションの CD ドライブに挿入します。インストールプログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートの `winsetup.exe` を手動で実行します。[Companion プログラムおよびファイル] をクリックし、（必要に応じて）画面で挿入を求められた CD を挿入して、2 つのメニューページの 1 つで必要になるコンポーネントを参照します。

Companion CD の次のコンポーネントが必要です。

- ◆ DirXML 1.1a for Windows Server 2003 は、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の `¥novell dirxml starter pack` フォルダにあります。
- ◆ DirXML Password Synchronization for Windows (`pwdsync.exe`) は、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の `¥novell dirxml starter pack¥nt¥dirxml¥passwordsync` フォルダにあります。
- ◆ Novell eDirectory 8.7.3 for Windows Server 2003。eDirectory 8.7.3 は、*Novell ZENworks 6.5 Companion 1* CD の `¥novell edirectory for windows 2k` フォルダにあります。
- ◆ 最新の DirXML Active Directory ドライバおよびユーティリティは、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の `¥novell dirxml starter pack¥nt¥dirxml¥drivers¥ad¥rules` フォルダにあります。

このフォルダには、次のファイルが含まれています。

`ad-driver.xml`
`ad-driver_en.xlf`

eDirectory 評価版ライセンスフロッピーディスクの作成

ZENworks では、Windows 用の eDirectory の 1 対 1 ライセンスを提供しています。eDirectory 8.7.x 評価版ライセンスは、[Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード Web サイト \(http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html\)](http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) から入手できます。Novell が 2 つのファイル (`.nfk` ファイルおよび `.nlf` ファイル) を電子メールに添付して送信できるように、いくつかの連絡先情報を入力する必要があります。

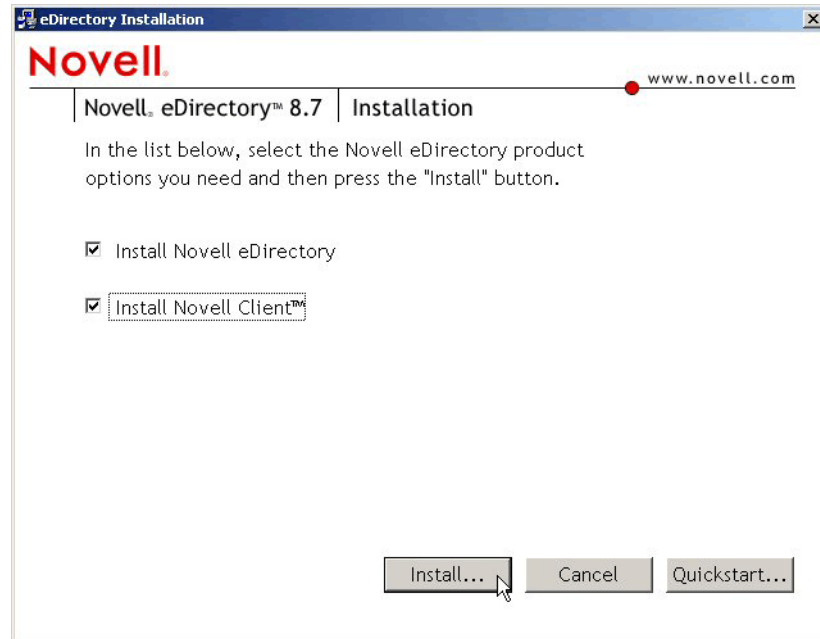
必須ではありませんが、フロッピーディスクをフォーマットし、このフロッピーディスクのルートに `¥license` ディレクトリを作成して、ここに 2 つのファイルを保存しておくことをお勧めします。製品のインストール時に、このフロッピーディスク / ファイルを求めるメッセージが表示されます。

eDirectory インストールプログラムの実行

Windows ネットワーク環境のテストシステムで、SVR-02 サーバの eDirectory インストールプログラムを起動するには、次の手順に従います。

- 1 管理者として SVR-02 Windows Server 2003 にログインし、*Novell ZENworks 6.5 Companion 1* CD から eDirectory のインストールプログラムを起動します。**(163 ページの「ZENworks 6.5 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス」を参照してください)**。CD は自動的に起動します。CD が自動的に起動しない場合は、CD のルートにある `winsetup.exe` を手動で実行します。

- 2 [Companion Programs and Files(Companion プログラムおよびファイル)] を選択し、[Novell eDirectory] を選択して指定したディレクトリに eDirectory のインストールファイルを解凍するプログラムを起動します。次に、ファイルの解凍先として c:\¥edir873 ディレクトリを指定し、ファイルが解凍されたら [閉じる] をクリックします。
- 3 c:\¥edir873¥nt ディレクトリを参照し、setup.exe を実行します。[Install Novell eDirectory(Novell eDirectory のインストール)] および [Install Novell Client(Novell Client のインストール)] を選択し、[インストール] をクリックします。



メインのインストールプログラムが起動すると、次の分割インストールが実行されます。

- ◆ 165 ページの「Novell Client の分割インストール」
- ◆ 166 ページの「eDirectory ライセンスの分割インストール」
- ◆ 166 ページの「NICI の分割インストール」
- ◆ 167 ページの「eDirectory の分割インストール」
- ◆ 168 ページの「ConsoleOne の分割インストール」

Novell Client の分割インストール

eDirectory 製品の分割インストールでは、まず Novell Client がインストールされます。この分割インストールは、Novell Client インストールウィザードによって実行されます。

- 1 [Novell Client license agreement(Novell Client のライセンス契約)] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。
ライセンス契約書の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 2 [Custom Installation(カスタムインストール)] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 3 モジュールリストでクライアントだけが選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 4 NMA および NCI が選択され、NetIdentity の選択が解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 5 [IP Only(IP のみ)] および [Remove IPX(IPX の削除)] (表示されている場合) を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 NDS を選択してデフォルトで NDS[®] 接続を使用するようにクライアントを設定し、[次へ] をクリックし、次に [完了] をクリックします。

eDirectory ライセンスの分割インストール

Novell Client をインストールしたら、Novell eDirectory ライセンスのインストールウィザードを使用して、eDirectory のサーバライセンスをインストールします。

- 1 ライセンスのインストールウィザードの初期ページで、[次へ] をクリックしてライセンス契約書を表示します。
- 2 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept(同意します)] をクリックします。

ライセンス契約書の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 3 ドライブ A: に 164 ページの「eDirectory 評価版ライセンスフロッピーディスクの作成」で作成したライセンスフロッピーディスクを挿入します。
- 4 [Specify path to License File(ライセンスファイルへのパスを指定)] を選択して、フロッピーディスクに作成したディレクトリ内の .nfs ライセンスファイルを選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 [Licensing Success(ライセンス認証の成功)] ダイアログボックスで、[閉じる] をクリックします。

NCI の分割インストール

Novell Client と eDirectory ライセンスをインストールすると、Novell International Cryptographic Infrastructure (NCI) インストールウィザードが自動的に起動します。NCI のインストールが完了すると、Windows サーバは再起動を求めるメッセージを表示します。

- 1 ドライブ A: からライセンスフロッピーディスクを取り出し、再起動を求めるダイアログボックスで [OK] をクリックします。

サーバが再起動し、eDirectory のインストール手順が続行されます。
- 2 Novell Client のログインダイアログボックスで、(Ctrl)+(Alt)+(Del) を押します。
- 3 ログインダイアログボックスで [ワークステーションのみ] を選択して、管理者としてサーバにログインし、[OK] をクリックします。

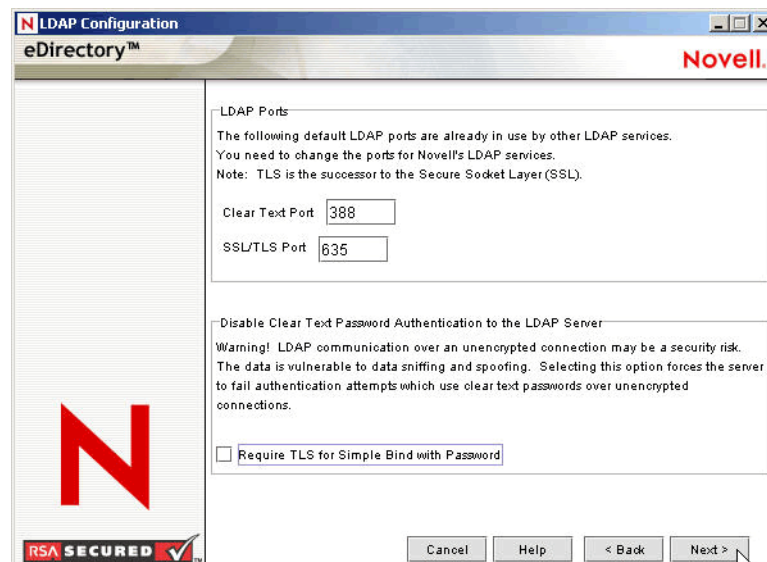
eDirectory の分割インストール

Novell Client、eDirectory ライセンス、および NCI をインストールすると、eDirectory インストールが続行されます。

- 1 [eDirectory Installation Welcome(eDirectory インストール初期)] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックします。
- 2 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept (同意します)] をクリックします。

ライセンス契約書の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 3 インストールする言語を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [次へ] をクリックすると、デフォルトのインストールパスにインストールされます。
- 5 [はい] をクリックすると、新規ディレクトリを作成します。
- 6 [Create a New eDirectory Tree (新規 eDirectory ツリーを作成)] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 新規ツリーおよびサーバへのアクセスをセットアップします。
 - 7a 新規ツリーの名前を指定します (例: ZENTREE)。
 - 7b サーバオブジェクトのコンテキストを指定します (例: SVR-02.SERVICES.ZEN)。

注: このガイドでは、eDirectory 内の ZEN という名前の組織コンテナ、SVR-02 が常駐する SERVICES という名前の部門コンテナ、および Admin ユーザオブジェクトが常駐する USERS という名前の部門コンテナを作成することを前提としています。
 - 7c Admin ユーザオブジェクトの名前を指定します (例: Admin)。
 - 7d Admin ユーザオブジェクトのパスワードを指定し (例: Novell)、[次へ] をクリックします。
- 8 [HTTP Server Port Configuration(HTTP サーバポートの設定)] ページでは、このサーバで競合しているポートはないため、[HTTP Stack Ports(HTTP スタックポート)] をデフォルトとして受け入れます。[次へ] をクリックします。
- 9 [LDAP Configuration(LDAP 構成)] ページで、使用する LDAP ポートを指定します。



Active Directory と eDirectory が同じ Windows サーバ上にインストールされている場合は、eDirectory が Active Directory のデフォルトポート 389 と 636 と競合しないよう、他の LDAP ポートを選択する必要があります。

9a [Clear Text Port(クリアテキストポート)] の番号を 388 に変更し、[SSL Port(SSL ポート)] を 635 に変更します。

9b [Require TLS for Simple Bind with Password(パスワードへのシンプルバインドに TLS が必要)] の選択を解除してパスワード同期が機能するようにし、[次へ] をクリックします。

10 [次へ] をクリックし、NMASTTM のデフォルトのログイン手段を受け入れます。

11 [完了] をクリックし、eDirectory のインストールを完了します。

eDirectory のインストールプログラムは、SRV-02 サーバ上でインストールを実行します。プログラムが正常に完了したら、[成功] ダイアログボックスで [閉じる] をクリックします。

ConsoleOne の分割インストール

eDirectory のインストールが完了したら、SRV-02 に ConsoleOne を手動でインストールする必要があります。ConsoleOne をインストールするには、次の手順に従います。

1 Novell ZENworks 6.5 Companion 1 CD を SRV-02 の CD ドライブに挿入します。CD が自動的に起動しない場合は、CD のルートから winsetup.exe を手動で実行します。

2 [Companion Programs and Files(Companion プログラムおよびファイル)] を選択し、[Novell ConsoleOne] を選択します。

3 Winzip の自己抽出ダイアログボックスで、セットアップをクリックして抽出を実行し、ConsoleOne のインストールプログラムを起動します。

4 ConsoleOne インストールウィザードの開始ページで、[次へ] をクリックします。

5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept(同意します)] をクリックします。

ライセンス契約書の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。

6 デフォルトのインストールパスを受け入れ、[次へ] をクリックします。

7 インストールするデフォルトのコンポーネントを受け入れ、[次へ] をクリックします。

8 [Additional Languages(その他の言語)] ページで、インストールする他の言語を選択し、[次へ] をクリックします。

9 [JInfoNet Licensing Agreement(JInfoNet のライセンス契約)] ページを読み、条項に同意する場合は [I Accept(同意します)] をクリックします。

ライセンス契約書の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。

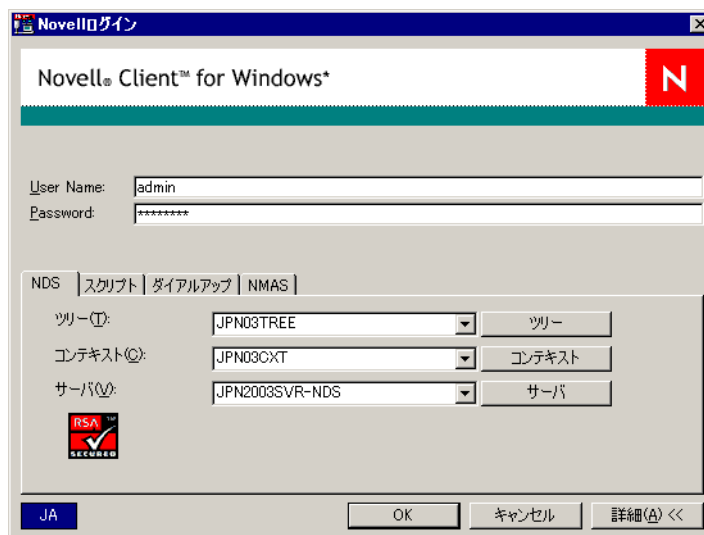
10 [ConsoleOne Installation Summary(ConsoleOne インストールのサマリ)] ページで [完了] をクリックし、SRV-02 サーバに ConsoleOne をインストールします。

11 [ConsoleOne Installation Success(ConsoleOne インストールの成功)] ページで、[閉じる] をクリックします。

ディレクトリツリーの実用性の検証

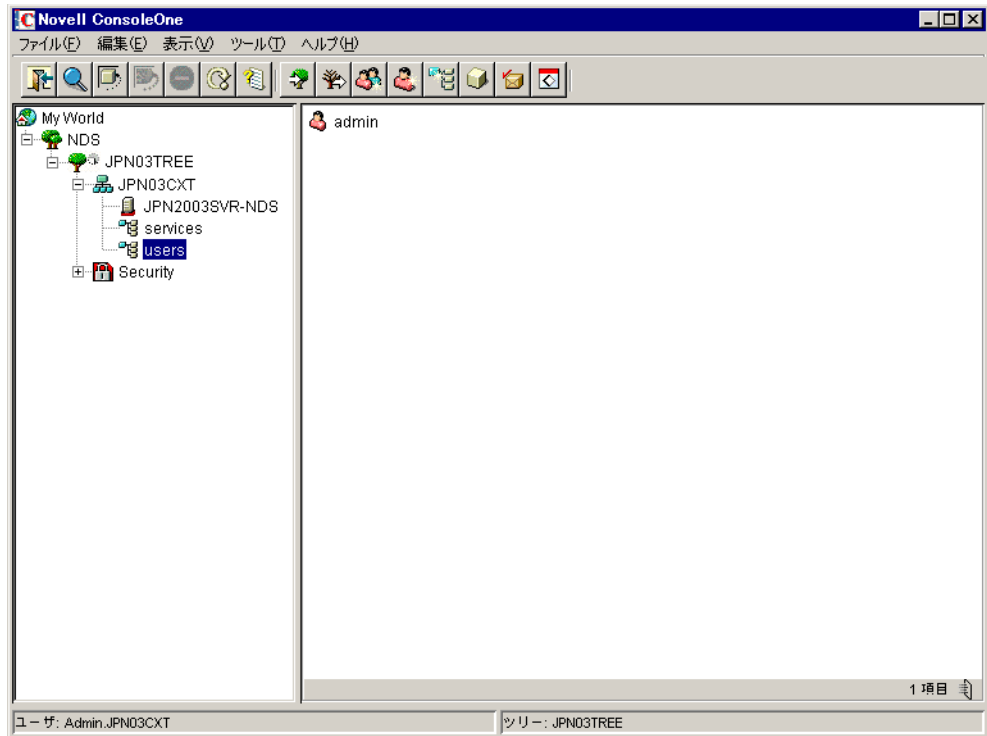
eDirectory および ConsoleOne のインストールが完了したら、次の手順を実行してツリーの実用性を検証します。

- 1 eDirectory にログインします。
 - 1a Windows サーバのデスクトップで、タスクバーの赤い N アイコンを右クリックし、NetWare ログインを選択します。
 - 1b [ユーザ名] フィールドに、「Admin」と入力します。
 - 1c [パスワード] フィールドに、「novell」と入力します。
 - 1d [詳細] をクリックし、ログインダイアログボックスの [NDS] ページを開きます。
 - 1e [ツリー] フィールドに、「ZENTREE」と入力します。
 - 1f [コンテキスト] フィールドに、「USERS.ZEN」と入力します。
 - 1g [サーバ] フィールドに「SRV-02」と入力し、[OK] をクリックして eDirectory にログインします。



- 2 Admin としてツリーにログインしていることを確認するには、タスクバーの赤い N アイコンを右クリックして [NetWare 接続] を選択し、ZENTREE とユーザ名 (CN=Admin) に対してリソースが一覧表示されていることを確認します。

この接続の認証状態は、[ディレクトリサービス] として表示されます。
- 3 [閉じる] をクリックし、[NetWare 接続] ダイアログボックスを閉じます。
- 4 ConsoleOne で、ツリーオブジェクトが表示されていること、[ユーザ] コンテナに Admin ユーザが表示されていること、および [サービス] コンテナに SRV-02 サーバが表示されていることを確認します。



- 5 サーバに `c:\novell\nds\ndscons.exe` のショートカットを作成します。

注： NDSConsole は、eDirectory ツリーと実行しているサービスの状態を表示できるユーティリティです。

- 6 [NDSConsole] ショートカットをクリックし、少なくとも `ds.dlm` と `nldap.dlm` が実行されていることを確認します。

現在、Windows Server 2003 で eDirectory ツリーが実行されています。

DirXML の Active Directory 管理者アカウントの作成

他の管理者アカウントで発生する可能性のある変更から分離するために、Active Directory の管理者特権を持つ DirXML 用の別のアカウントを作成することをお勧めします。

- 1 ドメインの管理者として、SRV-01 サーバにログインします。
- 2 SRV-01 サーバのデスクトップで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [Active Directory ユーザーとコンピュータ] の順にクリックし、監視コンソールを起動します。
- 3 [Active Directory ユーザーとコンピュータ] ページで、DirXML 管理者ユーザを追加するコンテナを選択し、[新規作成] > [ユーザ] の順にクリックします。
- 4 ユーザ名を入力します。
たとえば、名として「Novell」、姓として「DirXML」、フルネームとして「Novell DirXML」と入力します。この例のユーザログイン名は、`dirxml@zendemo.com` です。
- 5 新規ユーザのパスワードを入力し、期限切れのパスワードによってドライブが無効にならないように、[パスワードを無期限にする] を選択します。
- 6 [次へ] をクリックして概要を確認し、[完了] をクリックします。

- 7 ドメインのツリービューで [Builtin(ビルトイン)] を選択します。次に、[Administrators object(管理者オブジェクト)] を右クリックし、[プロパティ] をクリックして [Administrators Properties(管理者プロパティ)] ダイアログボックスを開きます。
- 8 [Administrators Properties(管理者プロパティ)] ダイアログボックスで、[メンバー] タブ、[追加]、[Advance(詳細)]、[Find Now(今すぐ検索)] の順にクリックします。
- 9 作成したユーザのフルネーム (Novell DirXML) を選択し、以降の 3 つのダイアログボックスですべて [OK] をクリックします。
- 10 [Active Directory ユーザーとコンピュータ] ページを閉じます。
- 11 Windows のデスクトップで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [ドメイン コントローラ セキュリティ ポリシー] の順にクリックします。
- 12 ツリービューで [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] > [ユーザー権利の割り当て] の順にクリックします。
- 13 [サービスとしてログオン] をダブルクリックし、[セキュリティ] > [ユーザーまたはグループの追加] > [参照] > [Advance(詳細)] > [Find Now(今すぐ検索)] の順にクリックします。
- 14 作成したユーザ (Novell DirXML) を選択し、[OK] をクリックします。以降の 3 つのダイアログボックスでは、[OK] をクリックします。
- 15 [ドメイン コントローラ セキュリティ ポリシー] を閉じ、サーバを再起動します。

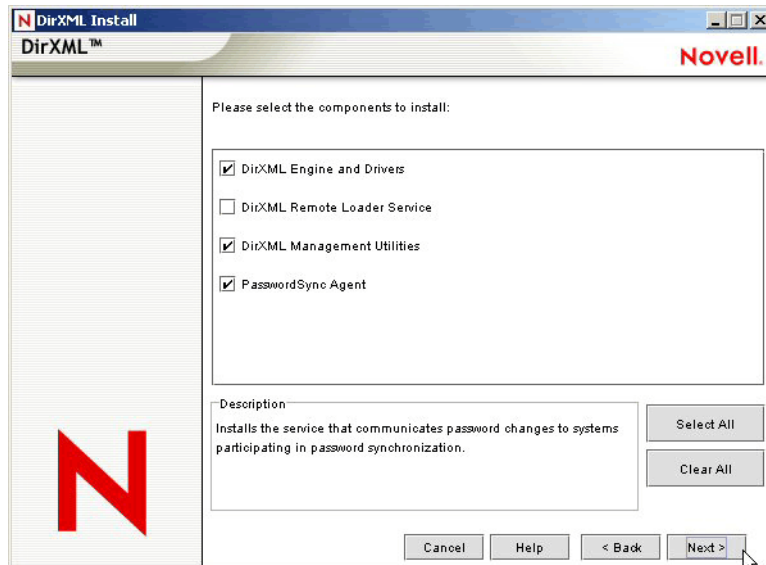
DirXML のインストール

eDirectory を実行し安定したら、Active Directory ドメインと eDirectory 間でユーザを同期できるように、DirXML をインストールする必要があります。

重要： DirXML をインストールするときは、Windows サーバ上で ZENworks のサービスが実行されていないことを確認してください。

- 1 管理者として SRV-02 Windows Server 2003 にログインし、admin として eDirectory にログインします。
- 2 *Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD を SRV-02 の CD ドライブに挿入し、Windows のエクスプローラを使用して Novell DirXML Starter Pack フォルダを参照します。
- 3 setup.bat をダブルクリックし、DirXML 1.1a のインストールプログラムを起動します。
- 4 DirXML の初期ページで、[次へ] をクリックします。
- 5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept(同意します)] をクリックします。

ライセンス契約書の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 6 コンポーネントの選択ページで、[DirXML Engine and Drivers(DirXML エンジンおよびドライバ)]、[DirXML Management Utilities(DirXML 管理ユーティリティ)]、[PasswordSync Agent>PasswordSync エージェント] の順に選択し、[次へ] をクリックします。



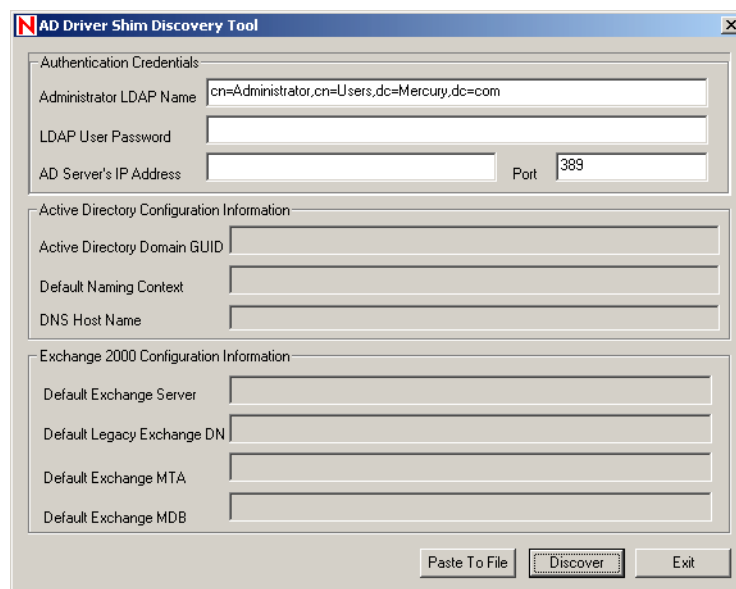
- 7 次のコンポーネントページで、[DirXML EngineDirXML エンジン] および適切な [Core Driver(コアドライバ)] (DirXML Driver 2.0.2 for Active Directory) を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 [スキーマの拡張] ページで、ツリーが適切であること (ZENTREE) を確認し、admin ユーザの完全識別名 (DN)、およびユーザのパスワード (admin ユーザ名は、CN=admin. OU=Users. O=ZEN) を入力するか、参照して選択します。[次へ] をクリックします。
- 9 インストールする追加コンポーネントとして、[ConsoleOne Snap-Ins for DirXML (DirXML 用の ConsoleOne スナップイン)] および [DirXML Preconfigured Drivers(DirXML 事前設定済みドライバ)] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 10 適切な Active Directory ドライバを除くすべての設定済みドライバの選択を解除し、[次へ] をクリックします。
- 11 [概要] 画面の内容を確認し、[完了] をクリックします。
DirXML のインストールプログラムによって eDirectory がシャットダウンされ、処理が続行されます。
- 12 eDirectory と LDAP の競合の可能性について警告するダイアログボックスで [OK] をクリックします (この問題は、eDirectory のインストール時に回避されています)。
ファイルのコピーが完了すると、eDirectory が再度起動します。
- 13 最後のインストールダイアログボックスで [閉じる] をクリックし、インストールプログラムを終了します。

DirXML のインストールが完了したら、DirXML ドライバを設定して同期を実行できるようにする必要があります。詳細については、[173 ページの「DirXML ドライバの設定」](#)を参照してください。

DirXML ドライバの設定

SRV-02 サーバへの eDirectory および DirXML のインストールが終了したら、Active Directory ドメインと eDirectory 間での同期を開始するように DirXML ドライバを設定する必要があります。

- 1 管理者として SRV-02 サーバにログインしてから、admin として eDirectory にログインします。
- 2 サーバの CD ドライブに Novell ZENworks Companion 2 CD を挿入します。次に、`novell dirxml starter pack¥utilities¥ad_disc¥adshimdiscoverytool.exe` を参照し、`adshimdiscoverytool.exe` をダブルクリックして実行します。



- 2a ツールのインタフェースで、次のフィールドに入力します。

[Administrator LDAP Name(管理者 LDAP 名)] : Active Directory 管理者の LDAP 名を入力します。

[LDAP User Password(LDAP ユーザパスワード)] : Active Directory 管理者のパスワードを入力します。

[AD Server's IP Address(AD サーバの IP アドレス)] : GUID を取得する Active Directory サーバの IP アドレスを入力します。

- 2b [Discover(検出)] をクリックします。

ツールが実行され、他のフィールドの入力内容に基づいてデータ (Active Directory ドメインの GUID など) が検出されます。

- 2c Active Directory ドメインの GUID を切り取り、後で利用できるようにテキストファイルに貼り付けます (174 ページのステップ 11 を参照)。

- 3 ConsoleOne を起動します。
- 4 新規 Active Directory ドライバに対応するように、eDirectory スキーマを拡張します。
 - 4a `c:¥novell¥nds¥ndscons.exe` を実行します。
 - 4b `install.dlm` を選択し、[開始] をクリックします。

- 4c [Install Additional Schema Files(追加のスキーマファイルのインストール)] をクリックし、[次へ] をクリックします。
- 4d eDirectory の admin ログイン名 (admin)、コンテキスト (ZEN¥Users)、および パスワード (novell) を入力し、[OK] をクリックします。
- 4e c:¥novell¥nds¥drv_ext. sch を参照して選択し、[開く] をクリックします。
- 4f [完了] をクリックし、スキーマを適用します。
- 4g [NDSCons] ウィンドウの閉じる (X) ボタンをクリックします。
- 5 ConsoleOne で、ZEN 組織コンテナの下に新規部門 (OU) コンテナを作成し、この OU コンテナの名前を DirXML にします。
- DirXML に関連するオブジェクトはすべて、このコンテナの下に作成します。
- 6 新規 DirXML コンテナの親コンテナ (ZEN という名前のコンテナ) を選択し、メニューから [Wizards(ウィザード)] > [Create a New Application Driver(新規アプリケーションドライバの作成)] の順に選択します。
- 7 アプリケーションドライバ作成ウィザードで、[In a New Driver Set(新規ドライバセット内)] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 [New Driver Set Properties(新規ドライバセットのプロパティ)] ページで、次のフィールドに情報を入力します。
- [Name] : ドライバセット名を入力します (例: ADDriverSet)。
- [コンテキスト] : DirXML コンテナを参照して選択します。
- [サーバ] : SRV-02 サーバを参照して選択します。
- 9 [Next] をクリックします。
- ドライバセットのオブジェクトが作成されます。
- 10 [Import Preconfigured Driver(事前設定済みドライバのインポート)] を選択し、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の ¥novell dirxml starter pack¥nt¥dirxml¥drivers¥ad¥rules にある ad-driver. xml を参照して選択します。
[次へ] をクリックします。
- 重要:** DirXML のインストールプログラムによって、システムには addriver. xml ファイルが配置されています。このファイルはリストでも使用できます。*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD から入手した新規 ad-driver. xml ファイル (スペルの違いに注意してください) を必ず選択してください。
- 11 次のフィールドに情報を入力し、アプリケーションドライバ作成ウィザードに一覧表示されたドライバのパラメータ (スクロールして表示できます) を設定します。
- [Driver Name(ドライバ名)] : ドライバの名前をデフォルトとしてそのまま使用します。
- [Authoritative ID(信頼できる ID)] : 作成済みのドメイン管理者アカウントを入力します (dirxml@zendemo. com)。
- [Authoritative Password(信頼できるパスワード)] : dirxml ドメイン管理者アカウントのパスワードを入力します。
- [Retype the Password(パスワードの再入力)] : dirxml ドメイン管理者アカウントのパスワードを再入力します。
- [Authentication Server(認証サーバ)] : [Address of Active Domain Controller(アクティブなドメインコントローラのアドレス)] フィールドに、「LDAP://svr-01. zendemo. com」と入力します。IP アドレスを入力しないでください。この LDAP 値は、SVR-01 の DNS 名です。

[Domain GUID(ドメイン GUID)] :GUID(173 ページのステップ 2 で adshimdiscoverytool.exe を実行しテキストファイルに保存した GUID) をコピーし、このフィールドに貼り付けます。

[Configure Data Flow(データフローの構成)] : [Bi-Directional(双方向)] をデフォルトとしてそのまま使用します。

[Base Container in Active Directory(Active Directory 内のベースコンテナ)] :Active Directory のベースコンテナの名前を入力します。これはユーザを eDirectory と同期させるコンテナです(例: CN=Users、DC=zendemo、DC=com)。

[Base Container in eDirectory(eDirectory 内のベースコンテナ)] :ユーザを作成して Active Directory と同期させるコンテナを指定します(例: users.zen)。**[参照]** をクリックすると、このコンテナを参照できます。Active Directory コンテナをミラーリングする場合、このコンテナが eDirectory で最上位のコンテナになります。

[Publisher Placement(パブリッシャの配置)] : [Flat(フラット)] または [Mirror(ミラー)] を選択します。[Flat(フラット)] を選択すると、Active Directory のユーザオブジェクトはすべて同じコンテナ内に配置されます。[Mirror(ミラー)] を選択すると、すべてのユーザオブジェクトとコンテナが eDirectory に再作成されます。

[Subscriber Placement(サブスクライバの配置)] : [Publisher Placement(パブリッシャの配置)] フィールドを確認して配置を選択します。

[Driver Polling Interval(ドライバのポーリング間隔)] : 希望のポーリング間隔を指定します。ラボ環境では、間隔を約 1 分に設定します。運用環境では、約 15 分に設定します。

[Use Secure Authentication(安全な認証を使用)] : デフォルト ([はい]) のままにします。

[Enable PasswordSync(PasswordSync を有効にする)] : デフォルト ([はい]) のままにします。

[Install Driver as Remote/Local(リモートまたはローカルとしてドライバをインストール)] : [Local(ローカル)] に設定します。

[Remote Host Name and Port(リモートホストの名前およびポート)] : デフォルト設定のままにします。

[Driver Password(ドライバのパスワード)] : 空白のままにします。

[Retype the Password(パスワードの再入力)] : 空白のままにします。

[Remote Password(リモートのパスワード)] : 空白のままにします。

[Retype the Password(パスワードの再入力)] : 空白のままにします。

[Support Exchange 2000(Exchange 2000 のサポート)] : デフォルトの [はい] を [いいえ] に変更します。

[Default Exchange Server(既定の Exchange Server)] : 空白のままにします。

[Default Exchange DN(既定の Exchange DN)] : 空白のままにします。

[Default Exchange MTA(既定の Exchange MTA)] : 空白のままにします。

[Default Exchange MDB(既定の Exchange MDB)] : 空白のままにします。

12 [OK] をクリックします。

13 [はい] をクリックし、ドライバの同等セキュリティを設定します。

- 14 [追加] をクリックし、admin.da ユーザを参照して選択します。次に、このユーザをリストに追加し、[OK] をクリックします。
- 15 [Novell Recommends You Identify All Objects that Represent Administrative Roles (管理業務に関わるすべてのオブジェクトを識別することを推奨します)] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。
- 16 [追加] をクリックして、eDirectory の管理者であるすべてのユーザを参照して選択し、[OK] をクリックします。

これにより、今後 Active Directory ドメインにユーザを作成し、同期することはできなくなります。
- 17 [概要] ページで [完了] をクリックします。

DirXML ドライバを実行するには、Password Synchronization ソフトウェアをインストールする必要があります。詳細については、[176 ページの「Password Synchronization のインストール」](#)を参照してください。

Password Synchronization のインストール

Password Synchronization を使用すると、DirXML に自動的に作成された各ユーザオブジェクトは、Active Directory に作成した対応するユーザと同じパスワードを持つことができます。これは、ユーザがワークステーションにログインするときに、1 回のログインで Active Directory と eDirectory の両方にログインできるようにするために必要となります。

Password Synchronization では、プラットフォーム固有のパスワードポリシーが相互に矛盾していないことが必要となります。パスワードポリシーに矛盾があると、正常なパスワード同期の妨げとなります。たとえば、eDirectory のパスワードは 8 文字以上の長さを必要とし、Windows のパスワードには長さの要件がない場合、ユーザは eDirectory では受け入れられない Windows の短いパスワードを作成する可能性があります。Password Synchronization は、プラットフォームのポリシーよりも優先されることはありません。

DirXML を使用すると、アカウントの属性または Java サービスを通じて使用できる他の情報に基づいて、アカウントの初期パスワードを生成することができます。たとえば、ユーザの姓と 4 桁の数字を基にパスワードを生成できます。初期パスワードを生成するにはドライバをカスタマイズする必要がありますが、既存の人事管理ツールセットを使用してアカウントを提供するときに、パスワードの管理に適した方法です。

ConsoleOne では、[NDS パスワードの割り当て] を選択した後に、[作成中にプロンプト表示] を選択すると、ユーザアカウントの作成時に初期パスワードを設定できます。この場合、ConsoleOne によってパスワードが設定されてから、アカウントが NT または Active Directory のアカウントに関連付けられます。これにより、初期パスワードは同期されなくなります。最初のパスワードが変更されない限り、パスワードは同期されません。この遅延を防ぐには、次のいずれかを実行します。

- ◆ [Assign NDS Password During User Creation (ユーザ作成中に NDS パスワードを割り当て)] の選択を解除し、パスワードを後で割り当てます。わずかな遅延でアカウントの関連付けを完了できます。
- ◆ [最初のログイン時にプロンプト表示] を選択し、アカウントが実際に使用されるまでパスワードの設定を延期します。

Microsoft 管理コンソール (MMC) では、アカウントの作成時にパスワードを入力することによって、ユーザアカウントの初期パスワードを設定できます。パスワードが設定されるまでは、Password Synchronization は eDirectory アカウントを Active Directory アカウントに関連付けることができないため、Password Synchronization サービスでは eDirectory アカウントをすぐに更新することはできません。ただし、サービスはパスワードの更新を再試行するため、アカウントは数分以内に適切に更新されます。

サーバに Password Synchronization をインストールするには、ConsoleOne が実行されていないことを確認してから、次の手順に従います。

- 1 管理者として SRV-02 サーバにログインしてから、Admin として eDirectory にログインします。
- 2 ConsoleOne が閉じていることを確認します。
- 3 [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックし、[Password Synchronization (パスワードの同期)] をダブルクリックします。
- 4 Password Synchronization インストールウィザードの初期ページで、[はい] をクリックします。
- 5 [セットアップ] ページで [ZENDEMO] ドメインを選択し、eDirectory の ADDriver (AD-Driver. ADDriverSet. DirXML. ZEN) オブジェクトを参照して、[OK] をクリックします。
- 6 [オブジェクト名] フィールドはデフォルト値のままにし、[コンテキスト] フィールドの値が作成済みの DirXML コンテナになっていることを確認して、[OK] をクリックします。
- 7 パスワード同期オブジェクトの権限に関するプロンプトが表示されたら、ユーザオブジェクト (Active Directory から同期されたオブジェクト) を常駐させるコンテナを選択し、同期するユーザのすべてのコンテナに対して権限を付与していることを確認して (通常は、0=ZEN など、ツリーの組織に設定するのが最も適しています)、[OK] をクリックします。
- 8 各ドメインコントローラでフィルタを適用するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。
ドメインコントローラのリストが含まれた [Password Filters (パスワードフィルタ)] ページが表示されます。
- 9 [SRV-01] を選択し、[追加] をクリックします。
サーバを追加すると、サーバが再起動されます。
- 10 サーバが再起動し、ダイアログボックスにサーバが稼動していることが示されるまで待ちます。
- 11 [閉じる] をクリックし、[完了] をクリックします。
- 12 SRV-01 サーバおよび SRV-02 サーバを必ず再起動します。

DirXML ドライバの最終設定

DirXML ドライバと PasswordSync ドライバの両方をインストールし設定したら、ドライバが自動的に起動して正しく機能するように、最終的な設定を行う必要があります。

- 1 管理者として SRV-02 サーバにログインしてから、Admin として eDirectory にログインします。
- 2 ConsoleOne から DirXML コンテナを開き、ADDriverSet オブジェクトを右クリックして [プロパティ] をクリックします。
- 3 [DirXML] タブをクリックして [ドライバ] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 4 [Driver Module(ドライバモジュール)] をクリックし、[Native(固有)] が選択され、フィールドに addriver.dll が入力されていることを確認します。
- 5 [Startup Option(起動オプション)] をクリックし、[Startup(起動)] の値を [Auto-Start(自動起動)] に変更します。次に、[適用] をクリックし、[閉じる] をクリックします。
- 6 リストで [ADDriver] を選択し、[開始] をクリックします。ステータスフィールドが [稼動中] に変わるのを待ち、ドライバが起動したことを確認します。
- 7 ndscons.exe を開き、dirxml.dlm が実行中であることを確認します。

eDirectory、DirXML、および Password Synchronization の動作確認

使用している環境で eDirectory、DirXML、および Password Synchronization が正しく動作していることを確認するには、Active Directory にユーザを作成し、適切なパスワードを使用して eDirectory にユーザが自動的に作成されるかどうかを確認する必要があります。

- 1 Active Directory ドメインの管理者としてサーバ SRV-01 にログインします。
- 2 Active Directory 管理ツールを起動し、Active Directory にテストユーザを作成します。

例：TestUser1@zendemo.com

- 3 ドメインの管理者および eDirectory の admin として SRV-02 にログインします。
- 4 ConsoleOne を開き、管理されたコンテナに TestUser1 が作成されていることを確認します。

ユーザが eDirectory に表示されるまで、同期サイクルが完了するのを待つことが必要な場合もあります。

- 5 eDirectory に TestUser1 としてログインし、パスワードが Active Directory で指定したパスワードと同じものであることを確認してから、eDirectory に正常に認証されていることを確認します。

パスワードが更新されるまでに、別の同期サイクルが必要となります。

- 6 作業を完了するために、eDirectory にユーザを作成し (Admin としてログインしている間に ConsoleOne を使用します)、そのユーザが現在ドメイン内に存在していることを確認し、eDirectory で指定したパスワードを使用して、そのユーザとしてドメインにログインできることを確認します。

デフォルトの同期規則では、フルネーム属性フィールドが eDirectory に読み込まれるまで、Active Directory ユーザは作成されません。ConsoleOne の [User_object] > [プロパティ] > [一般] でこれを確認します。

Desktop Management Server のインストール

すべてのコンポーネントのインストールを選択しない場合もありますが、ここでは各コンポーネントのインストール手順について説明します。

以前に eDirectory をインストールした SRV-02 サーバに Desktop Management Server をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 管理者として SRV-02 サーバにログインしてから、Admin として eDirectory にログインします。
- 2 Windows ワークステーションで、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を挿入します。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で実行します。

ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

この場合、インストールが正常に実行できない可能性があることが通知されます。これは、インストール時に選択するオプションで CD スワップが必要となるためです。

重要： インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャで [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

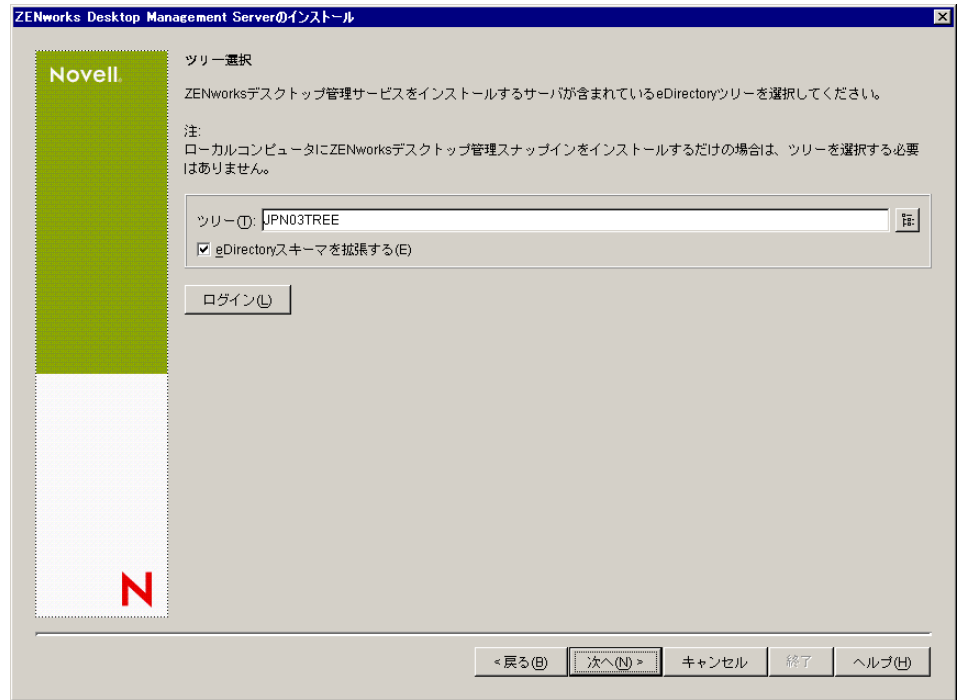
Novell® ZENworks® 6.5		バージョン 6.5	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
		→ 終了	

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management		バージョン 6.5	N
スキーマの拡張と製品のライセンスング	Novell eDirectoryツリーのスキーマを拡張し、ZENworks Desktop Managementをサポートします。また、ライセンスコードをインストールします。		
Desktop Management Services	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、デスクトップ、ワークステーション、およびラップトップを管理します。		
Middle Tier Server	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、Desktop Management AgentとDesktop Management Serviceとの間の要求を処理します。		
Desktop Management Agents	ワークステーション上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、アプリケーションの配布およびデスクトップ管理を行います。Microsoft Windows Installerが必要です。		
Documentation	Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
		<< 戻る → 終了	

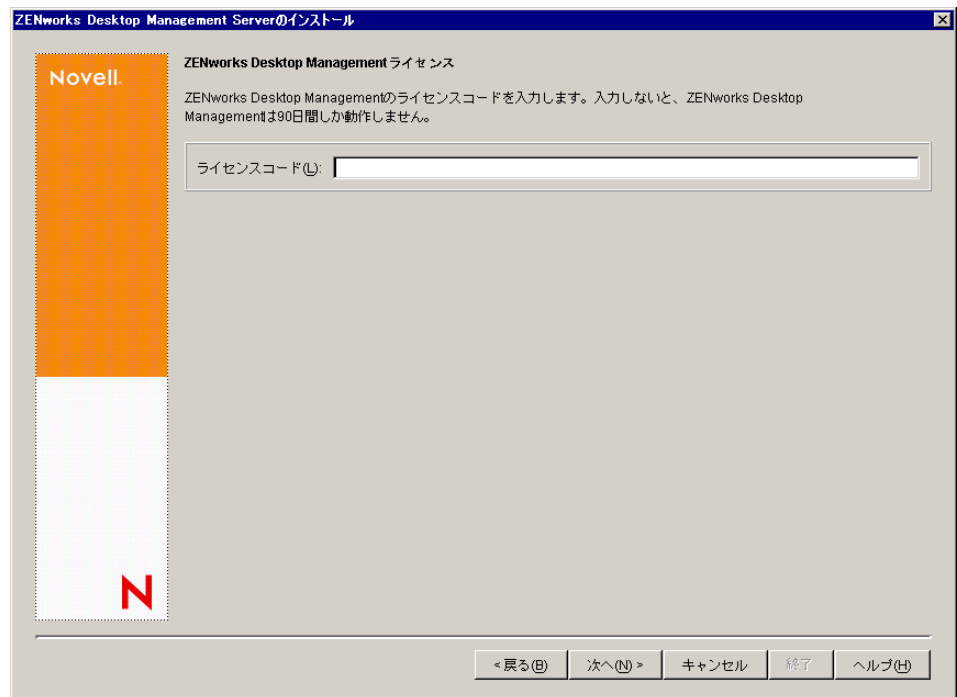
- 5 [デスクトップ管理サービス] をクリックし、Desktop Management Server インストールウィザードを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements(インストール要件)] ページで、Desktop Management Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [ツリー選択] ページで、SRV-02 サーバの Novell eDirectory ツリーの名前 (ZENTREE) を入力または参照します。このインストールのスキーマをまだ拡張していない場合は (53 ページの「インストール前のスキーマの拡張」を参照)、[スキーマの拡張] を選択し、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするツリーのスキーマを拡張します。[次へ] をクリックします。

注： Desktop Management Server ソフトウェアを複数のツリーに同時にインストールすることはできません。



ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

- 10 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。



このページでライセンスコードを指定しない場合、ZENworks Desktop Management のこのインストールは評価版とみなされます。評価版としてインストールすると、定期的な間隔で製品のライセンスを取得するように促されます。90 日経つと、評価版は機能しなくなります。


- 11 [サーバ選択] ページで [サーバの追加] をクリックし、SRV-02 サーバを参照します。

サーバは ZENTREE ツリーからのみ選択できます。1 度に最大 7 つのサーバにインストールできます。

- 11a (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとにサーバを一覧表示できます。サーバにインストールするには、eDirectory のツリーを選択し、SRV-02 サーバの名前を参照してクリックします。次に、右向き矢印ボタンをクリックして選択したサーバを [選択されたサーバ] ペインに移動し、[OK] をクリックします。

注： 認証されていない Windows サーバを追加する場合は、サーバのアイコンをダブルクリックしてダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Windows 認証に必要なアカウント情報を入力します。

- 11b (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、[ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドにサーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。指定した値は、サーバの名前に解決できる必要があります。

 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- 12 この [サーバ選択] ページで、事前に選択した Desktop Management コンポーネント用にインストールするサービスを指定します。[次へ] をクリックし、設定を保存します。

リストに含まれている設定は、次のとおりです。

[ローカルワークステーション]： ConsoleOne 1.3.6 のインストールプログラムでは、ConsoleOne ファイルをローカルハードドライブにインストールすることができますが (パフォーマンスが若干向上します)、この方法ではデスクトップ管理サービススナップインはインストールされません。

[ローカルワークステーション] オプションの [Desktop Management Service Snap-ins (デスクトップ管理サービススナップイン)] を選択することで、ローカルワークステーションにデスクトップ管理サービススナップインをインストールするオプションを利用できます。スナップインを追加するには、ConsoleOne をワークステーションにインストールしておく必要があります。

[デスクトップ管理サービス]： デスクトップ管理サービス (「Desktop Management Server」は総称です) は、ワークステーションのアプリケーションとポリシーを設定し配布できるファイルおよびプログラムであり、一般的に使用されます。これらのサービスによって、Windows のアプリケーション、ユーザ、ワークステーションの設定、処理、および動作を自動的に管理できます。

- ◆ **[アプリケーション管理]：** アプリケーション、更新、およびパッチの配布や修復、トラッキングの自動化を有効にするソフトウェアをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **[ワークステーション管理共通コンポーネント]：** ユーザをワークステーションおよびネットワークに対して認証したり、環境設定情報を eDirectory との間で送受信するために使用するワークステーション常駐モジュールをインストールする場合は、このオプションを選択します。

- ◆ **[リモート管理]**：中央コンソールからのワークステーションのリモート管理を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このコンポーネントを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のリモート管理コンポーネントがインストールされていないことを確認してください。

[追加オプション]：デスクトップ管理サービスの展開をカスタマイズする場合は、その目的に応じて次の中からサービスを選択します。

- ◆ **[デスクトップ管理データベース]**：発生したアプリケーションのイベント（インストール、起動、キャッシュなど）に関するデータのリポジトリとして、Novell Application Launcher™ で使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **[インベントリデータベース]**：インベントリ対象ワークステーションから収集したハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報のリポジトリとして、ワークステーションインベントリで使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。

重要：Inventory データベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。

『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の手順に従ってください。

- ◆ **[インベントリサーバ]**：管理されたワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報の収集と表示を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、そのコンポーネントを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする必要があります。

- ◆ **[インベントリプロキシサーバ]**：ネットワークファイアウォールを越えて配置されたインベントリサーバへの、インベントリスキャンデータのロールアップを有効にするプロキシサービスをインストールする場合は、このオプションを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のインベントリコンポーネントがインストールされていないことを確認してください。
- ◆ **[イメージングサーバ]**：ワークステーションにワークステーションイメージファイルを作成、保存、送信、または復元するために使用する Linux イメージング環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。

注：イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

- ◆ **[PXE サーバ]**：Preboot Execution Environment (PXE) が有効なワークステーションと通信し、そのワークステーションにイメージングタスクを送信できるようにするために、サーバで使用する PXE プロトコルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

起動前サービスをインストールすると、インストールされるコンポーネントにプロキシ DHCP サーバが含まれます。標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上にプロキシ DHCP サーバをインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。

注：イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

- ◆ **[ワークステーションのインポート / 削除サーバ]** : ワークステーションオブジェクトを eDirectory に追加する (すでに追加されている場合は削除する) ファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。ワークステーションオブジェクトは、アプリケーションまたはコンピュータの設定を受信するために eDirectory で管理されます。
- ◆ **[デスクトップ管理サービススナップイン]** : デスクトップ管理ツールおよびユーティリティを起動し、eDirectory でデスクトップ管理オブジェクトのプロパティページを表示して、これらのオブジェクトを参照したり設定できるように、ConsoleOne に追加機能をインストールする場合は、このオプションを選択します。

注 : カスタム選択を実行するには、1 つまたは複数のサーバを選択して右クリックし、ポップアップメニューを表示します。このポップアップメニューに表示されるオプションを使用して、選択したすべてのサーバにデータベースサービス、インベントリサービス、またはイメージングサービスを追加することができます。[デフォルト] オプションを使用すると、選択内容を最初の状態に戻すことができます。[カスタム選択] では、選択したすべてのサーバの特定のコンポーネントを選択できる別のダイアログボックスが表示されます。ここでの選択は、すでに選択している内容よりも優先されます。

- 13 (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択内容を保存します。インストールプログラムでは、サーバのネットワークオペレーティングシステムのバージョン (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバおよびインストールするワークステーション上の Novell Client (4.9 SP1a) の有無とバージョン、および ConsoleOne (1.3.6) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合は、警告メッセージが表示され、インストールは続行されません。警告メッセージが表示されると、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるか、チェックボックスの選択を解除するまでインストールを続行することはできません。

- 14 (ワークステーションインベントリまたはリモート管理が選択されている場合はオプション) [ファイルのインストール先] ページで、[選択されたサーバ] リストから 1 つまたは複数のターゲットサーバを選択し、ワークステーションインベントリ、またはリモート管理の各ファイルをインストールするボリュームまたはドライブを参照するか入力します。Windows サーバの場合、デフォルトは C: です。

注 : ZENworks 6.5 のワークステーションインベントリまたはリモート管理コンポーネントの以前のインストールがコンピュータで検出されると、既存のパスが淡色表示されます。今回のインストールでは、すべてのファイルがその既存のパスにインストールされます。

- 15 (オプション) インベントリデータベースまたはデスクトップ管理データベースのインストールを選択すると、[Database Location Installation (データベースロケーションのインストール)] ページが表示されます。左のペインで以前に指定したサーバを選択し、[データベースへのパス] フィールドで、データベースファイルをインストールするボリュームまたはドライブの名前を参照するか入力します。[次へ] をクリックします。

データベースサーバごとに別のドライブを指定できます。ただし、各サーバで実行できるデータベースエンジンのインスタンスは 1 つだけであるため、同じサーバ上にデータベースファイルの複数のインスタンスを保持することはできません。

- 16 (オプション) 同じサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページが表示されます。インストールプログラムを使って、自動的にサーバパッケージを作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページで設定を行います。

[スタンドアロンの設定] を選択し、共通のデータベースの場所の検索ポリシーを選択します。このポリシーを含むサーバパッケージを作成および設定するツリーコンテナの名前を入力するか参照し、[次へ] をクリックします。

- 17 (オプション) [インベントリプロキシサービスの設定] ページで、XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートを持つ1つまたは複数のサーバを選択します。次に、[プロキシポート] フィールドで、使用するポートを指定します。

すべてのサーバに対して同じポート番号を設定するには、サーバをすべて選択します。サーバを1つずつ選択し、値を個別に定義することもできます。デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ~ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。

- 18 [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。

[戻る] をクリックすると、必要に応じて何度でも変更を加えることができます。

[キャンセル] をクリックすると、インストール情報は保存されません。

インストール完了後、インストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は *datestamp_timestamp_zdmserver_install.log* になります (たとえば、20040304_024034_zdmserver_install.log)。このファイルは、インストール元のコンピュータの *%novell%\zfdtemp* ディレクトリに保存されます。このログファイルには、コンポーネントのインストールが失敗したかどうかを示されます。

インストールの概要を見直し、選択した内容を確認することもできます。概要は、*datestamp_timestamp_zdmserver_installsummary.log* という名前のログファイルに保存されます (たとえば、20040304_024034_zdmserver_installsummary.log)。このファイルも *c:\%novell%\zfdtemp* にあります。

- 19 ConsoleOne で、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールしたツリーを選択し、[LDAP グループ] を右クリックします。次に、[プロパティ] > [一般] の順にクリックし、[クリアテキストパスワードを許可] を選択します。

ConsoleOne 1.3.6 を使用している場合、ZENworks Middle Tier Server の認証ドメインとして機能する各サーバの [LDAP Group Object (LDAP グループオブジェクト)] で、[TLS にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択が解除されている必要があります。Desktop Management Server をインストールした後で、このパラメータを設定する必要がある場合は、設定変更後に ZENworks Middle Tier Server を必ず再起動してください。

Active Directory ドメイン内の Windows サーバにインストールする場合、Active Directory ではポート 389 と 636 を使用するため、認証ドメインとして使用するサーバの LDAP グループオブジェクトを代替ポート番号を使用するように設定します。

ZENworks Middle Tier Server をすでにインストールしている場合は、Desktop Management Server で行われた LDAP のクリアテキストパスワードへの変更を認識させるために、ZENworks Middle Tier Server を再起動する必要があります。

ZENworks Middle Tier Server のインストール

インターネットブラウザを通じて Desktop Management の機能を配布するには、ZENworks Middle Tier Server をインストールする必要があります。この展開シナリオでは、Microsoft IIS Web サーバがすでにインストールされている SRV-02 にソフトウェアをインストールします。Middle Tier Server のインストールプログラムでは、インストールしているワークステーションまたはサーバに Novell Client が必要となります。まず、Novell Client を SRV-03 サーバにインストールしてから、同じサーバに ZENworks 6.5 Middle Tier Server をインストールする必要があります。Novell Client (バージョン 4.90 SP1a 以降) は、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) からダウンロードできます。

Novell Client のインストール後、次の手順に従って Middle Tier Server をインストールします。

- 1 サーバのローカルワークステーション管理者として SRV-03 にログインします。
- 2 *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を挿入します。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

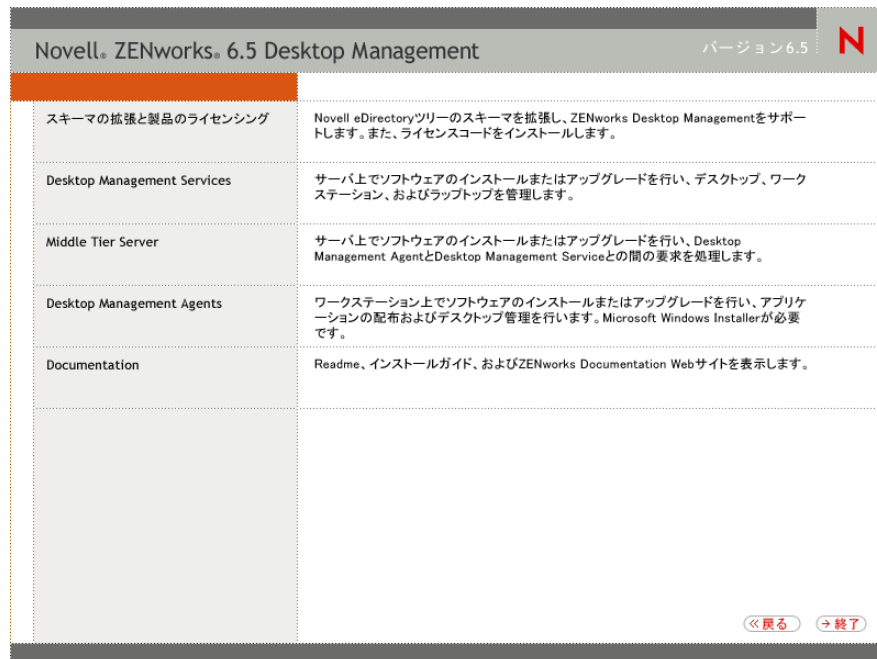
ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

この場合、インストールが正常に実行できない可能性があることが通知されます。これは、インストール時に選択するオプションで CD スワップが必要となるためです。

重要： インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャで [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

Novell. ZENworks. 6.5		バージョン 6.5	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PC を含む)、および RIM BlackBerry デバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworks で使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、および ZENworks Documentation Web サイトを表示します。		
		→ 終了	

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



- 5 [Middle Tier Server] をクリックし、Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Middle Tier Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [eDirectory の場所およびアカウント情報] ページで、次のフィールドに入力します。

[DNS/IP アドレス]：eDirectory をインストールする SRV-02 サーバの DNS 名、または IP アドレスを指定します。

[ユーザ名 (完全 DN)]：Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を指定します（例：admin.users.zen）。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。

必要な権限については、93 ページの「**Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利**」を参照してください。

[Password]：Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを指定します。

- 10 [ZENworks ユーザコンテキスト] ページ（[ユーザコンテキスト] フィールド）で、Middle Tier Server が Desktop Management で使用するユーザオブジェクトを検索できる eDirectory コンテキストを指定します。この例では、コンテキストは Users です。

ユーザオブジェクトが常駐する最上位のコンテナのコンテキストを使用する必要があります。この値は ZENworks Middle Tier Server に渡されます。ZENworks Middle Tier Server では、ユーザ検索時の開始ポイントとしてこの値を使用します。

このインストールで指定する Middle Tier Server の場合、現在設定済みの認証ドメイン（NetStorage 用に設定された認証ドメインなど）は、ここで指定したコンテキストを持つ 1 つの認証ドメインに置き換えられます。

インストール後に、NSAdmin ユーティリティを使用して、この認証ドメインのコンテキストを再設定することができます。このユーティリティは、Web ブラウザで開くことができます（<http://srv-02/oneNet/nsadmin>）。

注：インストールプログラムによってコンテキスト（コンテナ）の存在が確認されると、インストールが続行されます。

- 11 [ZENworks ファイルの場所] ページで、ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするためのネットワークの場所を選択します。

ZENworks Middle Tier Server では、ネットワーク上の他の場所にインストールされた ZENworks ファイルにアクセスする必要があります。ZENworks 管理者として、配布用のポリシーまたはアプリケーションの作成時に、これらのファイルの場所を定義します。このページで提供する情報は、Middle Tier Server が別のファイルシステムへのアクセス方法を決定する際に使用されます。ZENworks ファイルをまだ作成していなくても、この決定は現在のインストールに必要です。

- ◆ ZENworks の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルを NetWare サーバにだけ配置する場合は、1 番目のオプションボタンを選択します。
- ◆ ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルの一部、またはすべてを Microsoft Windows サーバ上に配置する場合は、2 つ目のオプションボタンを選択します。

ZENworks ファイルを Windows ファイルシステムに配置する場合、Middle Tier Server は Novell eDirectory のユーザ名とパスワードを使用してこれらのファイルにアクセスすることができません。これらのファイルにアクセスするには、Windows ドメインのアカウント情報が必要です。

ドメインに属していないサーバ上にファイルを配置する場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

[ドメインユーザ名]

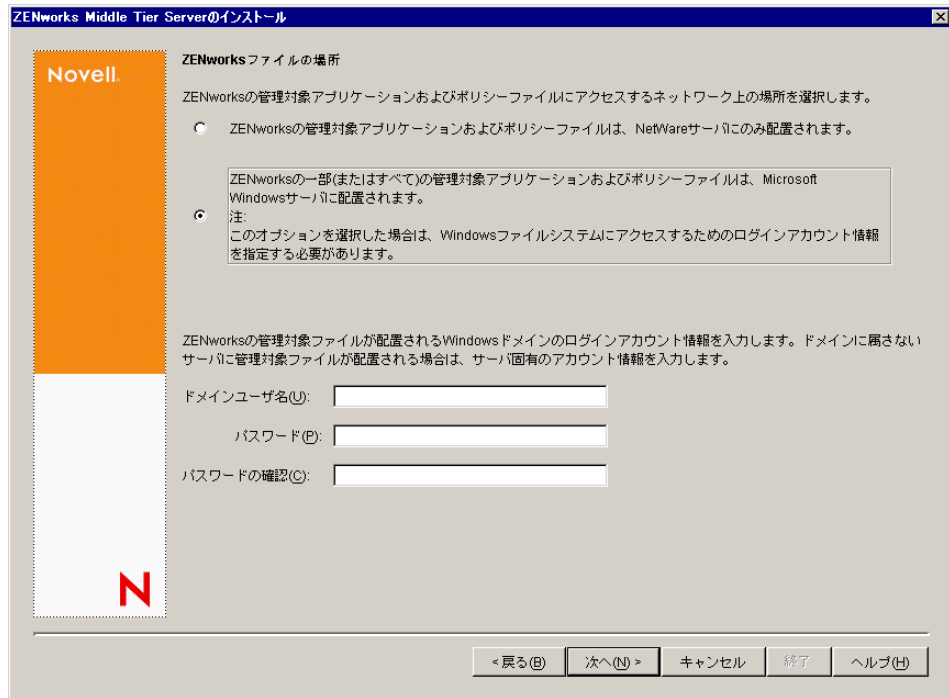
ZENworks ファイルの場所に対する Windows ファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内の任意のユーザのユーザ名を指定します。

[パスワード]

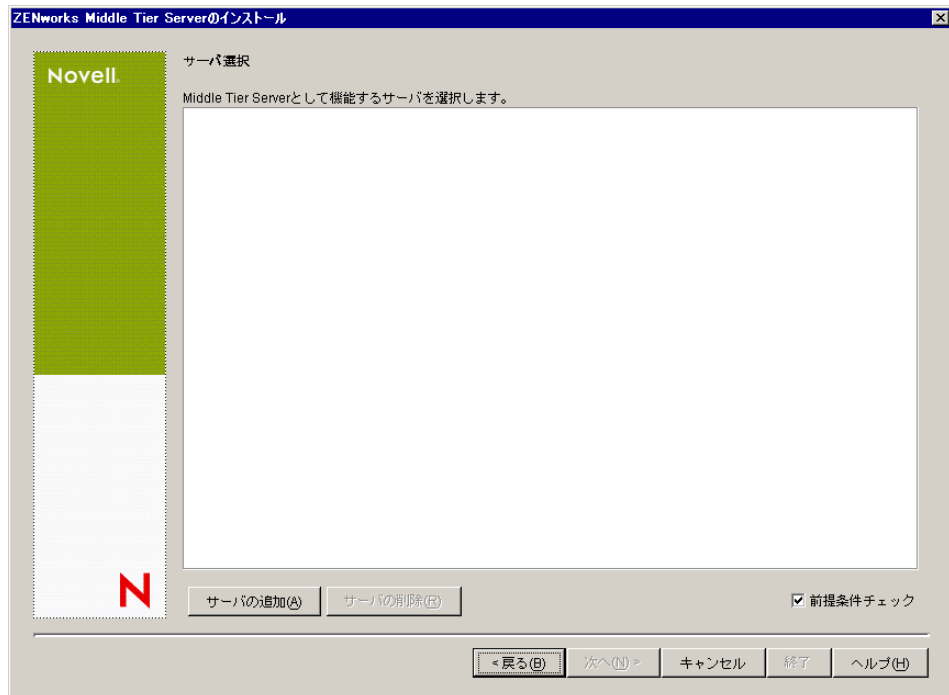
ZENworks ファイルに対するファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内のユーザのパスワードを指定します。

[パスワードの確認]

正しいパスワードが入力されたことを確認するために同じパスワードを指定します。



- 12 [サーバ選択] ページで、Middle Tier Server として機能するターゲットサーバのリストを作成する必要があります。[サーバの追加] ボタンを使用すると、サーバを検索してリストに追加するダイアログボックスが表示されます。[サーバの削除] ボタンを使用すると、追加したサーバをターゲットリストから削除することができます。[サーバの追加] をクリックします。



- 13 (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks Middle Tier Servers のインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。

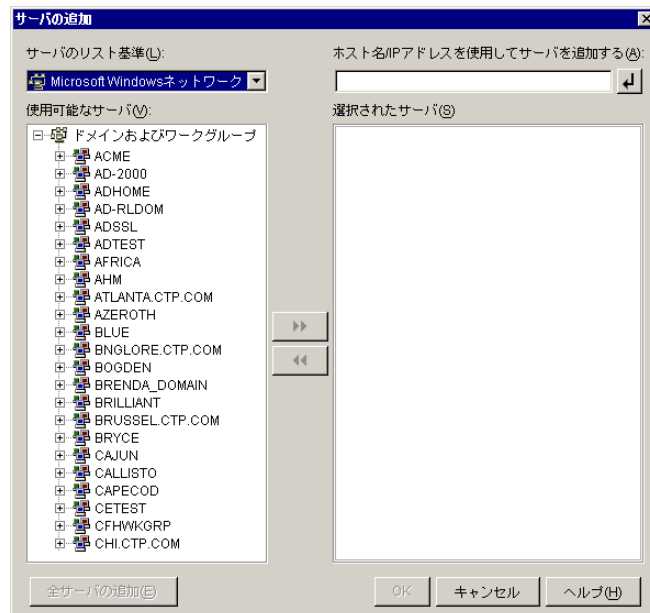
インストールプログラムは、以前にインストールされた Middle Tier Server ソフトウェアのバージョン、サーバのネットワークオペレーティングシステム (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバ上の IIS Web サーバの有無とバージョン、NetWare サーバ上の適切な Web サーバの有無とバージョン、およびターゲットサーバ上の NetStorage (2.6.0) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件が満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。

- 14 [サーバの追加] ダイアログボックスで、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストを開き、Novell eDirectory のツリー、Microsoft Windows Network の構造、または Microsoft Active Directory のツリー内の場所に基づいてサーバを一覧表示するオプションを表示します。


インストール中に、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを複数のサーバにインストールできます。サーバをリストに追加したら、[OK] をクリックします。

- 14a (Microsoft Windows ネットワーク構造のサーバをリストに表示する場合)
[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで [Microsoft Windows ネットワーク] を選択し、現在認証されているすべての Windows ワークグループと Microsoft ドメインを一覧表示します。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストボックスに移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [選択されたサーバ] リストにサーバを追加するには、サーバの管理ユーザである必要があります。サーバで認証されていない場合は、オブジェクトに疑問符のマークが表示されます。サーバが ZENworks 6.5 Desktop Management でサポートされているサーバプラットフォームの場合、疑問符のマークをダブルクリックしてサーバに対する認証を実行し、二重の右向き矢印をクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。
- ◆ Windows サーバ上にある ZENworks ファイルは、NetWare にインストールされた Middle Tier Server から取得することができないため、Microsoft ドメイン内のサーバの一覧を表示するときに、NetWare サーバは一覧に表示されません。
- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。

をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

Windows サーバの複数のサーバ名のエイリアスを使用する場合、最初のエイリアスは Windows サーバの物理名であることが必要です。

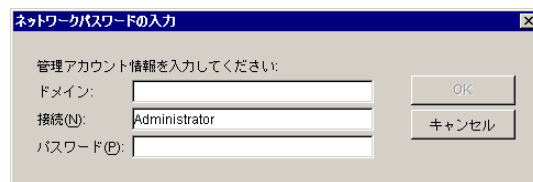
- ◆ サーバの認証用に指定したアカウント情報(ステップ 11を参照)が管理アカウントではない場合、サーバをターゲットサーバとして追加することはできますが、[サーバの追加] ダイアログボックスを閉じるときに管理アカウントの再入力を求められます。
- ◆ 選択したドメインまたはワークグループ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはワークグループを選択すると、そのドメインまたはワークグループ内の認証済みサーバのすべてが選択されます。
- ◆ [選択されたサーバ] リストからサーバを削除し、[使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] リストでサーバ名をクリックし、二重の左向き矢印をクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、<Shift> または <Ctrl> キーを押しながらサーバを選択します。

- 14b (Microsoft Active Directory でサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで、[Microsoft Active Directory] を選択します。ワークステーションが Active Directory のメンバーの場合、Active Directory のツリー内のドメインが表示されます。Active Directory に表示されるすべてのサーバを参照できます (ドメイン単位)。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストボックスにサーバを移動します。




このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックして、追加するドメイン名の指定が可能なダイアログボックスを開きます。そして、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストにサーバを表示する前に、適切なアカウントを使ってサーバへの認証を実行することができます。



- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決できる必要があります。

 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- ◆ ドメインオブジェクトを右クリックし、次の 3 種類の検索方法のいずれかを選択します。

[検索基準の場所]：ドメインのルートにあるコンピュータとドメインコントローラを一覧表示します。これはデフォルトの検索方法です。

[ディレクトリ全体の検索]：コンピュータが配置されているすべてのディレクトリコンテナを一覧表示します。

[ディレクトリ階層の参照]：ディレクトリ内のすべてのコンテナを一覧表示します。コンテナを 1 つずつ展開して、目的のコンピュータを探することができます。大規模なディレクトリの検索基準以外の場所にコンピュータがある場合、この検索方法が役立ちます。

- ◆ [全サーバの追加] をクリックして、選択したドメインまたはコンテナのすべてのサーバを追加します。ドメインまたはコンテナを選択すると、そのドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバが選択されます。
- ◆ サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、<Shift> または <Ctrl> キーを押しながらサーバを選択します。

- 15 [概要] ページで、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアおよび関連付ける Desktop Management Server のインストール先として選択した場所を確認します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストール処理を開始します。

Middle Tier Server インストールウィザードは、別のインストールプログラムを起動します。このプログラムが完了するのを待ちます。

重要： インストール完了後、インストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は *datestamp_timestamp_zdmmidtier_install.log* になります（たとえば、20040304_024034_zdmmidtier_install.log）。このファイルは、インストール元のコンピュータの %novell%\zfdtemp ディレクトリに保存されます。このログファイルには、コンポーネントのインストールが失敗したかどうかが表示されます。

インストールの概要を見直し、選択した内容を確認することもできます。概要は、*datestamp_timestamp_zdmmidtier_installsummary.log* という名前のログファイルに保存されます（たとえば、20040304_024034_zdmmidtier_installsummary.log）。このファイルも c:\novell\zfdtemp にあります。

- 16 Desktop Management Server の eDirectory を対象とする ConsoleOne で、クリアテキストパスワードを許可するように Desktop Management Server を設定していることを確認します。
- 17 ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたサーバを再起動します。
- 18 ワークステーションのブラウザで次の URL のいずれかを入力し、ZENworks Middle Tier Server がインストールされて、稼動していることを確認します。

`http://srv-02/oneNet/xtier-stats`

`http://srv-02/oneNet/zen`

ZENworks Middle Tier Server が稼動していれば、1 つ目の URL でサーバの統計値が表示された Web ページが開きます。ブラウザの [更新] ボタンをクリックすることにより、要求数が増加している場所が表示できます。

2 つ目の URL では、ユーザアカウント情報の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。

- 19 ネットワークブラウザで、「`http://srv-02/oneNet/nsadmin`」と入力して、Admin ユーザとして eDirectory にログインし、167 ページの「**eDirectory の分割インストール**」の **ステップ 9a** で実行した変更内容に合致するよう、LDAP ポートを変更します。

注： eDirectory と Active Directory が同じネットワークサーバにインストールされた場合、eDirectory にログインできない場合があります。このケースに該当する場合、ZENworks Middle Tier がインストールされているサーバのレジストリにアクセスして、`HKLM\Software\Novell\XTier\Configuration\Xsrv` レジストリキーの LDAP Port DWord の値を、167 ページの「**eDirectory の分割インストール**」の **ステップ 9a** で指定したポートに変更します。

Sybase の ODBC ドライバのインストール

インベントリレポートを実行する前に、次の点を確認します。

- ❑ ConsoleOne を実行しているコンピュータに、Sybase、Oracle、または MS SQL 用の適切な ODBC クライアントがインストールされていることを確認します。ODBC ドライバは、インベントリレポートを起動したときに自動的にコンピュータに設定されます。

Sybase データベース向けの ODBC ドライバをインストールするには

1. Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD の ¥database drivers ディレクトリを開きます。
2. ¥database drivers ディレクトリに収録されている ODBCreadme.txt ファイルの指示に従います。この指示を実行することにより、Sybase データベースのアドレスを設定し、接続を確立することができます。

Oracle の場合、ODBC 用の適切なクライアントをインストールする必要があります。たとえば、Oracle 8i インベントリデータベースの場合、Oracle 8i クライアントをインストールします。これは、インベントリレポートが、それ以前、またはそれ以降のバージョンのクライアントに対して互換性を持っていないためです。

MS SQL の場合、クライアントは、すべての Microsoft Windows オペレーティングシステムで利用できます。

- ❑ Crystal Reports を実行する Windows NT コンピュータには、最低でも MDAC 2.6 SP1 (Microsoft Data Access Component) を個別にインストールする必要があります。ご自分のコンピュータにインストールされている MDAC のバージョンを確認します。[コントロール パネル] > [ODBC データ ソース] の順に選択し、[バージョン情報] タブペインを選択します。最低限必要なバージョンは 3.520.7326.0 です。使用しているバージョンが最低要件を満たしていない場合、ODBC のコアコンポーネントを [Microsoft サイト \(http://microsoft.com/data/download.htm\)](http://microsoft.com/data/download.htm) からダウンロードしてアップグレードする必要があります。

ユーザワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの展開

Windows サーバ環境で ZENworks Desktop Management を実行している場合、デスクトップ管理エージェントをユーザワークステーションにインストールし、Desktop Management の機能を使用してワークステーションを管理する必要があります。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータは、Microsoft ドメインおよび Microsoft Active Directory を使用することによって、ZENworks デスクトップ管理エージェントの初期展開と今後のアップグレードを容易にします。エージェントディストリビュータでは、ターゲットワークステーションを選択してデスクトップ管理エージェントを展開するときに、Microsoft ドメインと Active Directory を使用します。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータを使用して、Windows ネットワーク内のワークステーションにデスクトップ管理エージェントを展開する方法の詳細については、110 ページの「**デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開**」を参照してください。

IV

アップグレード

この章では、ZENworks for Desktops 4.x(ZENworks for Desktops 4 SP1bまたはZENworks for Desktops 4.0.1) がすでにインストールされ稼動しているネットワーク環境に Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management を展開する場合に必要な情報を紹介します。ZENworks の複数のバージョンが混在することによって影響を受ける Desktop Management の機能について説明し、機能を最大限活用するためのシステムの設定方法を提案します。

また、一部の機能を強化した ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 (SP1) についても取り上げます。

この節には、次の情報が含まれています。

- ◆ 17 章 199 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management の変更点と新機能」
- ◆ 18 章 215 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード」
- ◆ 19 章 247 ページの「ZENworks for Desktops 4.x からのアップグレード」
- ◆ 20 章 275 ページの「ZENworks 6.5 Launch ガジェットへのアップグレード」
- ◆ 21 章 279 ページの「ZENworks 6 DeFrame からのアップグレード」
- ◆ 22 章 295 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 へのアップグレード」

ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 6.5 Desktop Management へのアップグレードに関するヘルプを参照する場合は、次のリソースから入手できます。

- ◆ <http://www.novell.com/cool solutions/zenworks> (<http://www.novell.com/cool solutions/zenworks>) の ZENworks for Desktops Cool Solutions Community。
- ◆ <http://support.novell.com> (<http://support.novell.com>) の Novell Support Knowledgebase。
- ◆ <http://www.novell.com/solutions/ngage/consulting.html> (<http://www.novell.com/solutions/ngage/consulting.html>) の Novell NgageSM コンサルティング。

17

ZENworks 6.5 Desktop Management の変更点と新機能

次の節では、Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management に加えられた変更について説明します。

- ◆ 199 ページの「一般的な変更点」
- ◆ 201 ページの「Workstation Management（ワークステーション管理）」
- ◆ 203 ページの「アプリケーション管理 (Application Management)」
- ◆ 206 ページの「ワークステーションイメージング」
- ◆ 207 ページの「Remote Management（リモート管理）」
- ◆ 208 ページの「Workstation Inventory（ワークステーションインベントリ）」

ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 のコンポーネントに対する変更については、次の節で説明されています。

- ◆ 210 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 の変更点と新機能」

一般的な変更点

次の節では、ZENworks 6.5 の ZENworks Desktop Management 機能に加えられた一般的な変更について説明します。

- ◆ 199 ページの「ZENworks Multiple UNC Provider」
- ◆ 200 ページの「Windows の命名規則」
- ◆ 200 ページの「ZENworks Tree (ZENworks ツリー)」
- ◆ 200 ページの「デスクトップ管理エージェントディストリビュータ」

ZENworks Multiple UNC Provider

Novell ZENworks 6.5 より古いバージョンの場合、Novell Client™ がないすべての環境では、Microsoft Client が使用可能であっても、ZENworks Middle Tier Server を介してデータにアクセスする必要がありました。ZENworks Multiple UNC Provider では、Microsoft Client (CIFS/SMB プロトコルを使用) を使用して、ネットワークポリシーやアプリケーションにユーザがより速くアクセスできるようになります。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ZENworks Multiple UNC Provider の理解」を参照してください。

Windows の命名規則

ZENworks 6.5 Desktop Management は、ユーザがログインする際の入力形式について、Windows の命名規則をサポートします。

電子メールの名前形式およびドットで区切られた名前形式 (joe.black.users.mycompany など) は、いずれもデスクトップ管理エージェント (Desktop Management Agent) を使用した認証に使用できます。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「[電子メールおよびドットで区切られた名前によるログインのサポート](#)」を参照してください。

ZENworks Tree (ZENworks ツリー)

大規模組織では、ユーザ識別情報やユーザ固有情報の保存と管理について複数のリポジトリを使用することがあります。ネットワークディレクトリは認証のための信頼できるソースであることが多いですが、人事管理部門が有するアプリケーションやデータベースなどの他のソースも、ユーザ管理に重要な役割を果たします。

組織で Novell eDirectory™ および DirXML® を使用して、複数の領域からユーザ情報や識別データを収集する場合、ZENworks を排他的に使用するための専用の eDirectory ツリーを配備することができます。この「ワークフォースツリー」は、使用できるデスクトップアプリケーションまたはワークステーションポリシーのソースを制御または制限するための 1 つの方法です。

ZENworks ツリーは、ユーザ認証を行う企業ディレクトリに変更を加えなくても、配備することができます。これにより、現在のツール、ID 管理プロセス、または現在使用している認証プロセスに影響を与えることなく ZENworks Desktop Management を導入できます。単一のツリーで ZENworks オブジェクトを作成および管理することもできます。

ZENworks ツリーは、ZENworks デスクトップ管理エージェントのインストールプログラムの実行中に指定します。詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド』の「[手動のインストール手順](#)」および『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「[ZENworks ツリーの使用](#)」を参照してください。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータ

デスクトップ管理エージェントディストリビュータを使用することにより、Microsoft ドメインと Microsoft Active Directory を使用して、ZENworks デスクトップ管理エージェントの初期展開および今後のアップグレードを実行できるようになります。ディストリビュータは、ターゲットワークステーションを選択するとき、および選択したターゲットワークステーションに ZENworks エージェントを展開するときに、Microsoft ドメインと Microsoft Active Directory を使用します。

ディストリビュータの詳細については、[110 ページの「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開」](#)を参照してください。

Workstation Management (ワークステーション管理)

次の節では、ZENworks 6.5 のワークステーション管理機能に加えられた変更について説明します。

- ◆ 201 ページの「Novell iPrint ポリシー」
- ◆ 202 ページの「Windows デスクトップ初期設定ポリシー」
- ◆ 202 ページの「Windows グループポリシー」
- ◆ 202 ページの「ワークステーションインポートポリシー」
- ◆ 203 ページの「ワークステーションオブジェクトのプロパティ」

Novell iPrint ポリシー

次の節では、Novell iPrint ポリシーに関する最新情報を示します。

- ◆ 201 ページの「新しいNovell iPrint Client インストールユーティリティ」
- ◆ 201 ページの「ファイアウォール外から印刷するためのアドレス」
- ◆ 201 ページの「バージョンが新しい場合クライアントを再インストールする」
- ◆ 201 ページの「ターミナルサーバのサポート」

これらのトピックのいずれかに関する詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーション管理」の「Novell iPrint ポリシー (ユーザパッケージおよびワークステーションパッケージ)」を参照してください。

新しいNovell iPrint Client インストールユーティリティ

NetWare 6.5 SP2 を実行していない場合は、最新の Novell iPrint ユーティリティファイル (nipp.exe) をダウンロードする必要があります。

ファイアウォール外から印刷するためのアドレス

物理的にファイアウォール外にワークステーションがある場合は、[ファイアウォール外から印刷するためのアドレス] フィールドを使用して、プロキシ、ファイアウォール、または NAT (ネットワークアドレス変換) アドレスを指定することができます。それぞれの後にコロン (:) を入力してからポート番号を指定します。

バージョンが新しい場合クライアントを再インストールする

このオプションを有効にすると、[Novell iPrint クライアントのインストールパス] に一覧表示された iPrint クライアントがワークステーションにインストールされた iPrint クライアントより新しい場合に、iPrint クライアントが再インストールされます。

ターミナルサーバのサポート

Windows 2000/2003 ターミナルサーバに対する Novell iPrint サポートが追加されています。

Windows デスクトップ初期設定ポリシー

ZENworks for Desktops 4 では、ローミングプロファイルをダウンロードするのに著しく時間がかかる低速リンクが検出された場合の対応として、ローミングプロファイルを自動的にダウンロードするように Novell レジストリキーを設定する、ローカルに保存されているプロファイルを使用する、またはダウンロードを続行するかローカルに保存されているプロファイルを使用するかをユーザが選択するダイアログボックスを表示することができました。この機能は、ZENworks 6.5 Desktop Management では変更されました。ローミングプロファイルの処理は、すべて Microsoft のプロセスによって実行されるようになりました。これにより、管理者はグループポリシーを使用してローミングプロファイルの動作を制御することができます。低速リンクの検出も Microsoft のプロセスで処理されるようになり、グループポリシー設定 (gpedit.msc または ZENworks が提供するグループポリシー) 内で定義されます。

ConsoleOne® のデスクトップ初期設定ポリシーでローミングプロファイルの設定を続行することができます。Microsoft がサポートするすべての機能は、ZENworks Desktop Management が提供するローミングプロファイルで機能します。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーション管理」の「Windows デスクトップ初期設定ポリシー (ユーザパッケージ)」を参照してください。

Windows グループポリシー

インポートされたセキュリティ設定により、管理者は他のセキュリティ設定に影響を与えずに、特定のセキュリティ設定だけを設定することができます。セキュリティ設定は、Active Directory のグループポリシーからインポートすることができます。または、MMC (Microsoft Management Console) でセキュリティの構成と分析スナップインを使用して生成することができます。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーション管理」の「Windows グループポリシー (ユーザパッケージおよびワークステーションパッケージ)」を参照してください。

ワークステーションインポートポリシー

[ユーザの履歴を無効にする] オプションが、ワークステーションインポートポリシーの [制限] ページに追加されています。

ユーザがワークステーションにログインするたびに、ワークステーションオブジェクトの [ユーザ履歴] ページが更新されるため、管理者はそのワークステーションにログインしているすべてのユーザをリストで確認することができます。ワークステーションに関するユーザ履歴を収集しない場合は、このオプションを有効にする必要があります。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーション管理」の「ワークステーションインポートポリシー」を参照してください。

ワークステーションオブジェクトのプロパティ

[Do Not Add to History (履歴に追加しない)] オプションがワークステーションオブジェクトの「ユーザ履歴」ページに追加されています。このオプションを使用すると、このワークステーションに関するユーザ履歴の収集を無効にすることができます。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーション管理」の「ワークステーションインポートポリシー」を参照してください。

アプリケーション管理 (Application Management)

次の節では、ZENworks 6.5 のアプリケーション管理機能に加えられた変更について説明します。

- ◆ 203 ページの「ワークステーション空間での MSI アプリケーションの配布」
- ◆ 204 ページの「MSI アプリケーションのプリインストール」
- ◆ 204 ページの「配布ルール」
- ◆ 204 ページの「プロセスの終了」
- ◆ 205 ページの「レジストリ値の append/prepend」
- ◆ 205 ページの「アンインストールスクリプト」
- ◆ 205 ページの「GUID (Global Unique ID) の管理」
- ◆ 205 ページの「言語変数マクロ」
- ◆ 206 ページの「Novell Application Launcher の環境設定」

ワークステーション空間での MSI アプリケーションの配布

デフォルトでは、ワークステーションに関連付けられている MSI アプリケーションは、ユーザセキュリティ空間に配布されます。つまり、Novell Application Launcher™ は、ログインしたユーザのアカウント情報とファイルシステムアクセスを使用して、配布を実行します。このデフォルトの動作を上書きして、ワークステーションに関連付けられている MSI アプリケーションが、ユーザ空間ではなくワークステーションセキュリティスペースに配布されるように設定することができます。これにより、次のことが可能になります。

- ◆ ユーザではなく、ワークステーションから MSI ファイルにアクセスできるようにすることにより、ソースの場所を保護します。
- ◆ ワークステーションに関連付けられている MSI アプリケーションの自動配布をスケジュール設定します (204 ページの「MSI アプリケーションのプリインストール」を参照してください)。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「[オプション] ページ」を参照してください。

MSI アプリケーションのプリインストール

ZENworks の旧バージョンでは、AOT/AXT アプリケーションをプリインストールすることができました。ZENworks 6.5 では、MSI アプリケーションをプリインストールできるようになりました。プリインストールでは、ワークステーションに関連するすべての配布プロセス（ファイルのコピー、テキストファイル、.ini ファイル、ワークステーションレジストリ設定の変更）が、アプリケーションの起動前に実行されます。ユーザがアプリケーションを起動するときには、そのユーザ固有の配布プロセス（ユーザレジストリキーの変更など）が完了しています。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「[アプリケーション管理](#)」の「[\[プリインストールスケジュール\] ページ](#)」を参照してください。

配布ルール

アプリケーションをワークステーションに配布するかどうかを決めるために使用するシステム要件に対して、いくつかの変更が追加されています。

- ◆ この機能は、拡張された機能を反映するため、および従来のシステム要件と差別化するために、システム要件から配布ルールに変更されました。
- ◆ AND/OR ブール演算子のサポートが追加されています。ZENworks の旧バージョンでは、すべてのシステム要件に対して AND が使用されました。
- ◆ アプリケーションが利用できるようになる前に定義されていたオペレーティングシステムの要件は削除されます。

ZENworks の旧バージョンでは、配布および起動用にアプリケーションが利用可能になる前に、システム要件で OS プラットフォームを定義する必要がありました。この要件は削除されました。

新しい配布ルールでは、次の論理を使用します。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムのみで実行する場合、オペレーティングシステムの配布ルールを定義する必要があります。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムを必要としない場合は、配布ルールを定義する必要はありません。オペレーティングシステムの配布ルールが定義されていないアプリケーションはデフォルトで、サポートの対象になるすべてのプラットフォーム（Windows 98、Windows 2000、および Windows XP）で利用できます。

- ◆ ルールのグループ化のサポートが追加されています。この機能は、OR 演算子を使用する場合に特に便利です。たとえば、OR 演算子を使用してルールのグループ 2 つを結合することができます。いずれか一方のルールのグループに一致すれば、そのアプリケーションは配布されます。
- ◆ 認証および接続速度という 2 つの新しいルールが追加されています。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「[アプリケーション管理](#)」の「[\[配布ルール\] ページ](#)」を参照してください。

プロセスの終了

アプリケーションの配布前に終了しておくプロセス（Windows プログラムまたはサービス）を定義することができます。これを定義すると、アプリケーション配布の際に、置き換えられる既存のファイルは開かれずにロックされるため、再起動の必要がなくなります。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「[アプリケーション管理](#)」の「[\[配布前にプロセスを終了\] ページ](#)」を参照してください。

レジストリ値の append/prepend

レジストリの文字列値（[文字列]、[文字列の展開]、[マルチバリュー文字列]、[デフォルト]）に対してデータを append 処理または prepend 処理することができます。append 処理するデータは、そのレジストリ値の末尾のエントリとして追加されます。prepend 処理するデータは、そのレジストリ値の先頭のエントリとして追加されます。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「[レジストリ] ページ」を参照してください。

アンインストールスクリプト

アプリケーションのアンインストールプロセスの一部として、Novell Application Launcher では、スクリプトエンジンを起動して「アンインストール前」スクリプトおよび「アンインストール後」スクリプトを実行することができます。アンインストールスクリプトは、アプリケーションをアンインストールする前または後のいずれかに実行されること以外は、配布および起動スクリプトと類似しています。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「[アンインストールスクリプト] ページ」を参照してください。

GUID (Global Unique ID) の管理

新しい GUID Manager ユーティリティが ConsoleOne に追加されています。GUID Manager を使用すると、次の操作を実行できます。

- ◆ 新しい GUID をランダムに生成することにより、アプリケーションの GUID を変更します。
- ◆ 新しい GUID を手動で指定することにより、アプリケーションの GUID を変更します。
- ◆ アプリケーションの GUID を別のアプリケーションの GUID と一致させます。

旧バージョンの ZENworks にあった、Distribution GUID の同期化オプションおよび新しい GUID の生成オプション（[ConsoleOne] > [ツール] メニュー > [Application Launcher ツール]）は GUID マネージャユーティリティにより置き換えられます。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「配布 GUID を管理する」を参照してください。

言語変数マクロ

同じアプリケーションを異なる言語版で配布する場合に必要なアプリケーションオブジェクトの数を最小化するために、アプリケーションオブジェクト内の言語に依存する情報を、言語変数を使用して表すことができるようになりました。

たとえば、ヘルプファイルを c:\%program files%\%program%\help\%LOCALE_SYS_ABBR_LANG%\ディレクトリにコピーする必要があります。ここで、%LOCALE_SYS_ABBR_LANG% は 3 文字表記による言語および特殊言語です（たとえば、米国の英語の場合は ENU）。%LOCALE_SYS_ABBR_LANG% を使用することにより、Novell Application Launcher は、ワークステーションのシステム言語設定で定義された適切な言語ディレクトリにファイルをコピーします。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「Language Variable マクロ」を参照してください。

Novell Application Launcher の環境設定

Application Launcher の環境設定に次の変更が加えられています。

- ◆ **「関連付けが解除されてからアンインストールされるまでの日数」**（**「ユーザ」 タブ** および **「ワークステーション」 タブ**）：この設定のデフォルトは、0（アプリケーションがユーザまたはワークステーションとの関連付けを解除された後、Novell Application Launcher が更新されるとすぐにアンインストール）から -1（アンインストールしない）に変更されました。
- ◆ **「Application Launcher の自動起動」**（**「ユーザ」 タブ**）：この設定は、ZENworks 6.5 より古いバージョンの Application Launcher にのみ適用されます。ZENworks 6.5 では、この設定は、ZENworks デスクトップ管理エージェントインストールプログラムでの起動オプションを指定する機能に置き換わっています。
- ◆ **「ブラウザの終了時に Application Launcher を終了する」**（**「Browser(ブラウザ)」 タブ**）：この設定は、ZENworks 6.5 より古いバージョンの Application Launcher にのみ適用されます。ZENworks 6.5 では、Application Launcher でこの設定を使用しなくなりました。代わりに、最後に表示したビュー (Application Explorer、Application Window、または Application Browser) の終了後にのみ、呼び出しとシャットダウンの回数が追跡確認されます。
- ◆ **「キャッシュへの書き込みを有効にする」**（**「ワークステーション」 タブ**）：この設定が **「ワークステーション」** タブに追加されています。旧バージョンでは、この設定はユーザのみが対象でした。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「Novell Application Launcher: 設定」を参照してください。

ワークステーションイメージング

次の節では、ZENworks 6.5 のワークステーションイメージング機能に加えられた変更について説明します。

- ◆ 206 ページの「ワークステーションイメージの分割」
- ◆ 207 ページの「Image Explorer (Imgexp.exe) の新しいグラフィカルユーザインタフェース」
- ◆ 207 ページの「ZENworks イメージング Windows エージェント (Ziswin.exe) の新しいグラフィカルユーザインタフェース」

ワークステーションイメージの分割

1つのイメージファイルを複数のファイルに分割して、イメージ全体を複数の CD や DVD に分散して配置することができます。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションイメージング」の「ワークステーションイメージの分割」を参照してください。

Image Explorer (Imgexp.exe) の新しいグラフィカルユーザインタフェース

Windows ワークステーションで Image Explorer ユーティリティを使用すると、ワークステーションイメージの表示、カスタマイズ、アドオンイメージの作成を実行できます。新しいグラフィカルユーザインタフェースが Desktop Management 6.5 用に開発されました。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションイメージング」の「Image Explorer (imgexp.exe)」を参照してください。

ZENworks イメージング Windows エージェント (Ziswin.exe) の新しいグラフィカルユーザインタフェース

既存の Windows ワークステーションに ZENworks イメージング Windows エージェント (ziswin) をインストールすると、ワークステーションに特有の特定のデータ (IP アドレス、コンピュータ名など) が再イメージの影響を受けないハードディスク領域に保存されます。新しいグラフィカルユーザインタフェースが Desktop Management 6.5 用に開発されました。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションイメージング」の「ZENworks Imaging Windows Agent (Ziswin.exe)」を参照してください。

Remote Management (リモート管理)

ZENworks 6.5 のリモート管理に次の新しい機能が加えられています。


- ◆ 207 ページの「Agent-Initiated Connection (エージェント開始接続)」
- ◆ 208 ページの「サイズの調整」
- ◆ 208 ページの「エージェントに対するマウス動作のブロック」
- ◆ 208 ページの「256 色のカラーパレットの強制適用」
- ◆ 208 ページの「セッションの暗号化」

Agent-Initiated Connection (エージェント開始接続)

エージェントから開始する接続の機能を使用すると、管理対象ワークステーションのユーザは、リモートコントロールやリモートビューに対する要求をリモートオペレータに送信することができます。この機能は、管理対象コンピュータがプライベートネットワークの背後にあり、管理コンソールから直接アクセスできない場合に特に役立ちます。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「リモート管理」の「リモート管理エージェントからのリモート管理セッションの起動」を参照してください。

サイズの調整

サイズの調整の機能を使用すると、スクロールバーを非表示にして、リモート管理ウィンドウを画面に合ったサイズに調整することができます。ツールバーのをクリックします。<Ctrl>+<Alt>+<G> キーを使用することもできます。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「リモートワークステーションの管理」を参照してください。

エージェントに対するマウス動作のブロック

これは、[Control Parameters] ダイアログボックスで利用できる新しいオプションです。このオプションを選択すると、エージェントに対するすべてのマウス動作をブロックできます。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「リモートワークステーションの管理」を参照してください。

256 色のカラーパレットの強制適用

リモート管理エージェント (Remote Management Agent) は、リモート管理セッション中に管理対象ワークステーションで 256 色のカラーパレットを使用するように強制します。これによって、低速リンクでの Remote Management のパフォーマンスが向上します。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「リモートワークステーションの管理」を参照してください。

セッションの暗号化

セッションの暗号化機能により、管理コンソールと Remote Management Agent 間で安全なリモートセッションが確立します。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「リモートワークステーションの管理」を参照してください。

Workstation Inventory（ワークステーションインベントリ）

Novell ZENworks 6.5 Desktop Management のワークステーションインベントリには、次の新しい機能が加えられています。

- ◆ 209 ページの「ソフトウェアデータのインベントリスキャンにおける機能拡張」
- ◆ 209 ページの「新規インベントリレポート」
- ◆ 209 ページの「Oracle 9i におけるインベントリデータベースのサポート」
- ◆ 210 ページの「ハードウェアデータのインベントリスキャンに関する新しい機能拡張」
- ◆ 210 ページの「インベントリデータの XML ファイルへのエクスポート」
- ◆ 210 ページの「eDirectory オブジェクトに対するわかりやすい新規命名法」

ソフトウェアデータのインベントリスキャンにおける機能拡張

インベントリスキャナは、次の各機能によって機能拡張され、スキャンプロセスをより効果的および効率的に制御することができます。

- ◆ 次のソフトウェアインベントリ情報のスキャンをサポートします。
 - ◆ Windows* オペレーティングシステムおよびそのパッチ
 - ◆ Internet Explorer とその修正プログラム
 - ◆ Windows Media Player とその修正プログラム
 - ◆ Outlook Express とその修正プログラム
 - ◆ Novell Client32™ およびインストールされたコンポーネント
 - ◆ ZENworks スイートおよびインストールされたコンポーネント
 - ◆ Microsoft* Office およびそのインストールされたアプリケーション
 - ◆ Symantec* AntiVirus* Corporate Edition、Network Associates* McAfee* VirusScan* などのアンチウイルス製品
 - ◆ Symantec Antivirus Corporate Edition、McAfee VirusScan などのアンチウイルス製品のウイルス定義の日付とバージョン
- ◆ Windows の [アプリケーションの追加と削除] および MSI データベースで一覧表示される製品のスキャンをサポートします。
- ◆ ソフトウェアのタイトルのディクショナリを含んでおり、インストールされたソフトウェアに関する、より正確なレポートを提供します。
- ◆ ソフトウェアスキャンの範囲を制御するルールを提供します。
- ◆ 設定済みのファイル拡張子が使用する総ディスク容量のレポートを作成します。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「ZENworks 6.5 インベントリ対象ワークステーションでスキャンされるソフトウェアインベントリ情報のカスタマイズ」を参照してください。

新規インベントリレポート

ワークステーションインベントリには新しいソフトウェアインベントリレポートが用意されています。

ZENworks for Desktops 4.0.1 のインベントリレポートと、ZENworks 6.5 Desktop Management の新しいレポートが再グループ化されています。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「インベントリレポートの種類」を参照してください。

Oracle 9i におけるインベントリデータベースのサポート

ZENworks 6.5 では、インベントリデータベースをネットワーク内の Oracle 9i に対応するように設定することができます。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「Oracle9i インベントリデータベースのセットアップ」を参照してください。

ハードウェアデータのインベントリスキャンに関する新しい機能拡張

ワークステーションインベントリでモニタのスキャンがサポートされるようになりました。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」にある「モニタのサイズに関するハードウェア情報のカスタマイズ」を参照してください。

インベントリデータの XML ファイルへのエクスポート

ワークステーションインベントリでは、データエクスポートツールを使用して、インベントリデータをインベントリデータベースから .xml (Extensible Markup Language) ファイルにエクスポートすることができます。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」にある「インベントリデータのエクスポート」を参照してください。

eDirectory オブジェクトに対するわかりやすい新規命名法

次の eDirectory オブジェクトの命名法が変更されました。

- ◆ ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクトの名前は `server_name_InvService` ではなく `Inventory Service_server_name` として表示されます。
- ◆ ConsoleOne で、インベントリデータベースオブジェクト名は、`server_name_Invdatabase` ではなく `Inventory database_server_name` として表示されます。

ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 の変更点と新機能

ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 には、ZENworks Support Pack としてのコード修正のほかに、次のような変更点と新機能が加えられています。

- ◆ 211 ページの「インストールの変更」
- ◆ 211 ページの「デスクトップ管理エージェントディストリビュータの機能拡張」
- ◆ 211 ページの「Windows XP Service Pack 2 のサポート」
- ◆ 211 ページの「ワークステーション管理の機能拡張」
- ◆ 211 ページの「アプリケーション管理の機能拡張」
- ◆ 212 ページの「ワークステーションインベントリの機能拡張」

インストールの変更

Support Pack 1 のインストールプログラムは、一部のオプションが利用できない点を除き、オリジナルの ZENworks 6.5 インストールプログラムをベースとしています。このプログラムは、アップグレードの対象として指定したサーバに、既存の ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされているかどうかをスキャンします。すでにインストール済みの 6.5 Desktop Management コンポーネントだけがアップグレードの対象となります。詳細については、[22 章 295 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 へのアップグレード」](#)を参照してください。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータの機能拡張

Support Pack 1 のデスクトップ管理エージェントディストリビュータでは、Windows ワークグループのメンバーである Windows ワークステーションから、同じワークグループのメンバーである他のワークステーションに、デスクトップ管理エージェントを配布できるようになりました。管理者は、デスクトップ管理エージェントを配布するターゲット Windows ワークステーションの IP アドレスを指定できます。

ディストリビュータのこの機能の詳細については、[116 ページの「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開」](#)を参照してください。

Windows XP Service Pack 2 のサポート

ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 は、Windows XP Service Pack 2 のワークステーションをサポートします。ZENworks のコンポーネントは、実際に SP2 が動作するワークステーションでテストされています。

ワークステーション管理の機能拡張

ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 のワークステーション管理は、次の新機能または機能拡張を提供します。

- ◆ [211 ページの「Windows XP SP2 と ZENworks 6.5 Windows グループポリシー」](#)

Windows XP SP2 と ZENworks 6.5 Windows グループポリシー

ZENworks 6.5 SP1 では、グループポリシーの編集集中にオペレーティングシステムのバージョンとサポートパックレベルをチェックする機能が追加されました。詳細については、『[ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド](#)』の「[Windows グループポリシー（ユーザパッケージおよびワークステーションパッケージ）](#)」にある「[Windows XP SP2 と ZENworks 6.5 Windows グループポリシー](#)」を参照してください。

アプリケーション管理の機能拡張

ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 のアプリケーション管理は、次の新機能または機能拡張を提供します。

- ◆ [212 ページの「ディレクトリをワークステーションにコピーする際にサブディレクトリを含める機能」](#)
- ◆ [212 ページの「ZENworks 6.5 および ZENworks 6.5 Support Pack 1 \(SP1\) における NAL キャッシュへのファイルシステム権利について」](#)

ディレクトリをワークステーションにコピーする際にサブディレクトリを含める機能

ディレクトリをワークステーションにコピーするとき、サブディレクトリを含めるかどうかを指定できるようになりました。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「[配布オプション] タブ」で、「アプリケーションファイル」の「追加」の「ディレクトリ」を参照してください。

ZENworks 6.5 および ZENworks 6.5 Support Pack 1 (SP1) における NAL キャッシュへのファイルシステム権利について

セキュリティ向上のために ZENworks 6.5 Support Pack 1 (SP1) に変更が加えられたため、ZENworks が NAL キャッシュディレクトリにファイルシステム権利を割り当てる方法が変更されました。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「Understanding File System Rights to the NAL Cache in ZENworks 6.5 and in ZENworks 6.5 Support Pack 1 (SP1)」を参照してください。

ワークステーションインベントリの機能拡張

ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 のワークステーションインベントリは、次の新機能または機能拡張を提供します。

- ◆ 212 ページの「ソフトウェアディクショナリの機能拡張」
- ◆ 213 ページの「新しい AntiVirus 製品のスキャン」
- ◆ 214 ページの「CIM スキーマを使用せずにインベントリデータベースからインベントリ情報を取得する」

ソフトウェアディクショナリの機能拡張

ZENworks ソフトウェアディクショナリに、次の機能拡張が加えられました。

- ◆ ソフトウェアディクショナリスナップインに改良が加えられ、より直感的でわかりやすくなりました。
- ◆ ソフトウェアインベントリ情報をスキャンする際に、ZENworks ソフトウェアディクショナリにデフォルトとして設定されているファイルとソフトウェアのマッピングルールをインベントリスキャナで使用しない場合には、[Ignore Default File-Software Mapping Rules (デフォルトのファイルとソフトウェアのマッピングルールを無視)] オプションを使用して無効化できます。
- ◆ ディクショナリコンシューマは、最上位レベルのインベントリサーバで設定されたソフトウェアディクショナリルールを、ディクショナリ更新ポリシー設定に従ってマージするようになりました。これらは、継承されたルールと呼ばれます。ルールは編集したり削除したりできません。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

新しい AntiVirus 製品のスキャン

インベントリ スキャナは、次の製品バージョンについて、インベントリ対象サーバにインストールされている最新のウイルス定義の日付とバージョンに関する情報を収集します。

Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0
Norton* AntiVirus* Corporate Edition for Windows 7.0
Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6.1.0000
Symantec Norton AntiVirus 2000
Symantec Norton Internet Security 2002
Symantec Norton AntiVirus 2003 (9.00)
Symantec Norton AntiVirus 2003 Professional Edition (9.00)
Symantec Norton AntiVirus 2004 (10.00)
Symantec Norton Internet Security 2004 (10.00)
Symantec Norton AntiVirus 2004 Professional (10.00)
Symantec Norton Internet Security 2004 Professional (10.00)
Symantec Norton AntiVirus 2005 Professional (11.00)
Symantec Norton Internet Security 2005 Professional (11.00)
Network Associates* McAfee VirusScan 4.0.3 (Windows 9x)
Network Associates McAfee VirusScan NT 4.0.3a (Windows NT)
Network Associates McAfee NetShield 4.5.0
Network Associates McAfee VirusScan 4.5.0
Network Associates McAfee VirusScan 4.5.1
Network Associates McAfee VirusScan (McAfee Security Center) 8.0
Network Associates McAfee VirusScan ASaP
Network Associates McAfee VirusScan Enterprise 7.1
Network Associates McAfee VirusScan Enterprise 8.0
Central Command* Vexira* AntiVirus Guard for Windows XP (2000 + NT) 2.10
Central Command Vexira AntiVirus Windows 95/98
Central Command Vexira AntiVirus NT/2000 Servers
Central Command Vexira AntiVirus Server Edition (6.26.xx.xx)
Sophos Anti-Virus - Windows NT/2000/XP/2003
Sophos Anti-Virus - Windows 95/98
Trend Micro* PC-cillin 2002* (9.x)
Trend Micro PC-cillin 2003 (10.x)
Trend Micro Internet Security 11.x (PC-cillin)
Trend Micro Internet Security 2005 12.x (PC-cillin)
Trend Micro Server Protect 5.xx
Trend Micro OfficeScan* 5.xx - Client for Windows NT/2000/XP
Trend Micro OfficeScan 5.xx - Client for Windows 9x

CIM スキーマを使用せずにインベントリデータベースからインベントリ情報を取得する

ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 は、インベントリデータベースから CIM スキーマを使用せずにインベントリ情報を取得できる、操作性に優れたビューを備えています。ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 のワークステーションインベントリコンポーネントをインストールすると、あらかじめ定義されたデバイス固有のビューがインベントリデータベースに自動的に作成されます。

詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

18

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード

次の項では、Novell® ZENworks® for Desktops (ZfD) 3.2 SP3 から ZENworks 6.5 Desktop Management に正常にアップグレードするのに実行する必要がある手順について説明します。次の順序で実行する必要があります。

1. 215 ページの「ZENworks 6.5 をインストールするための前提条件の確認」
2. 215 ページの「eDirectory の確認」
3. 216 ページの「eDirectory スキーマの拡張」
4. 218 ページの「ConsoleOne のアップグレード」
5. 219 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバのアップグレード」
6. 239 ページの「ZENworks 6.5 Middle Tier Server のインストール」
7. 239 ページの「管理対象ワークステーションのアップグレード」

ZENworks 6.5 をインストールするための前提条件の確認

ネットワークのワークステーションおよびサーバが必要な前提条件を満たしていることを確認します。詳細については、27 ページの「準備」を参照してください。

eDirectory の確認

ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールし、Desktop Management の属性を使用してディレクトリスキーマを拡張する前とこれらの作業を実行した後の両方で、Novell eDirectory® ツリーの健全性を確認する必要があります。状態の確認に必要な情報については、次のリソースを参照してください。

- ◆ Novell Support Web サイトから利用可能な、Directory Health Check Procedures - Cross Platform - TID 10060600 (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10060600.htm>)
- ◆ Novell Support Web サイトから利用可能な、Checking the OS and DS Health for Inconsistent ZENworks behavior - TID 10062741 (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10062741.htm>)
- ◆ eDirectory Cool Solutions (<http://www.novell.com/cool solutions/nds>)

eDirectory スキーマの拡張

ZENworks 6.5 Desktop Management インストールプログラムを実行すると、eDirectory スキーマが拡張され、新しいタイプのディレクトリオブジェクトを作成できるようになります。スキーマ拡張は元に戻すことができない処理です。

ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールは、サポートする Windows および Novell Client のバージョンが設定されたワークステーションに対して実行する必要があります (3 章 29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」を参照)。

- 1 インストールを実行するワークステーションから、スキーマを拡張する eDirectory ツリーに対して管理者権限を持つユーザとして eDirectory で認証を受けます。
- 2 *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 6.5 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell® ZENworks® 6.5		バージョン 6.5	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
		→ 終了	

- 3 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks Desktop Management] ページを表示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management		バージョン 6.5	N
スキーマの拡張と製品のライセンスリング		Novell eDirectoryツリーのスキーマを拡張し、ZENworks Desktop Managementをサポートします。また、ライセンスコードをインストールします。	
Desktop Management Services		サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、デスクトップ、ワークステーション、およびラップトップを管理します。	
Middle Tier Server		サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、Desktop Management AgentとDesktop Management Serviceとの間の要求を処理します。	
Desktop Management Agents		ワークステーション上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、アプリケーションの配布およびデスクトップ管理を行います。Microsoft Windows Installerが必要です。	
Documentation		Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。	
		戻る 終了	

- 4 [Schema Extensions and Product Licensing(スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] を選択して、スキーマ拡張プログラムを起動します。
- 5 [ソフトウェア使用許諾契約] ダイアログボックスで、[受諾] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [オブジェクト作成用 eDirectory ツリー] ダイアログボックスで、スキーマを拡張するツリーを選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [ZENworks ライセンス] ダイアログボックスに、ご自分の ZENworks ソフトウェアに割り当てられたライセンスコードを入力し、[次へ] をクリックします。
 ライセンスコードがない場合でも、ZENworks ソフトウェアをインストールできます。ソフトウェアのすべての機能がインストールされ、90 日間の評価期間中、使用できます。この評価期間中、または評価期間後に、もう一度インストールプログラムを実行し、[Schema Extensions and Product Licensing(スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] オプションを使用してライセンスコードを入力できます。
- 8 [インストール概要] ダイアログボックスで、[完了] をクリックしてスキーマを拡張します。
- 9 (省略可能) [ZENworks Schema Extension completion(ZENworks スキーマ拡張の完了)] ダイアログボックスで、[ログファイルの表示] をクリックして適用された拡張を確認します。
- 10 [ZENworks Schema Extension completion(ZENworks スキーマ拡張の完了)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- 11 eDirectory の状態確認を実行します。247 ページの「eDirectory の確認」を参照してください。

ConsoleOne のアップグレード

ZENworks 6.5 Desktop Management を使用する場合は、バージョン 1.3.6 以降の ConsoleOne[®] が必要になります。

ZfD 3.2 SP3 では、ZfD 3.2 SP3 スナップインをサーバにインストールするのに、ZfD 3.2 SP3 サーバに ConsoleOne をインストールする必要がありました。必要に応じて、ワークステーションから ConsoleOne を実行するために、ConsoleOne ディレクトリをサーバからワークステーションにコピーできます。

ZENworks 6.5 では、Desktop Management サーバの ConsoleOne ディレクトリおよびローカルワークステーションの ConsoleOne ディレクトリの両方に、Desktop Management スナップインをインストールすることができます。3.2 SP3 から 6.5 にアップグレードする場合、スナップインはデフォルトでサーバにインストールされます。

ConsoleOne をバージョン 1.3.6 にアップグレードするときには、次の点を確認する必要があります。

- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management の管理に使用するすべての場所にインストールします。
- ◆ ZfD 3.2 SP3 スナップインを含む ConsoleOne のコピーを最低 1 つ保持します。この操作により、アップグレードプロセス中も引き続き ZfD 3.2 SP3 を管理することができます。

ConsoleOne をアップグレードするには

- 1 (オプション) ZfD 3.2 SP3 スナップインを含む ConsoleOne のコピーを最低 1 つ作成します。

ConsoleOne 1.3.6 は、ZfD 3.2 SP3 スナップインをサポートしています。このスナップインを含む現在の ConsoleOne のコピーを作成するか、このスナップインを含む ConsoleOne 1.3.6 のコピーを作成する (**ステップ 3** を参照) か、またはその両方を実行するかを選択できます。

たとえば、ConsoleOne 1.3.2 がインストールされた ZfD 3.2 SP3 サーバが存在し、ZfD 3.2 SP3 スナップインが sys:\%public%\mgmt%\consoleone¥1.2 ディレクトリに含まれている状態で、このインストールのコピーを確実に保持する必要がある場合、sys:\%public%\mgmt%\consoleone%\zfd32 ディレクトリを作成して、すべてのファイルとサブディレクトリを 1.2 ディレクトリから zfd32 ディレクトリにコピーします。

- 2 ConsoleOne 1.3.6 をローカルワークステーションまたは ZfD 3.2 SP3 サーバにインストールします。手順は次のとおりです。
 - 2a *Novell ZENworks 6.5 Companion 1* CD をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 6.5 インストールプログラムを自動実行します。
インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。
 - 2b [Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択します。
 - 2c [Novell ConsoleOne] を選択して、ConsoleOne 1.3.6 インストールプログラムを起動します。
 - 2d 画面の指示に従って、ConsoleOne を ...¥consoleone¥1.2 ディレクトリにインストールします。

インストールが完了した時点で、...¥consoleone¥1.2 ディレクトリに ConsoleOne 1.3.6 が含まれています。ZfD 3.2 SP3 スナップインを含む場所に ConsoleOne をインストールした場合でも、依然として 3.2 SP3 スナップインは機能します。

- 3 (オプション) ZfD 3.2 SP3 スナップインが設定された ConsoleOne 1.3.6 のコピーを保持する場合、**ステップ 2** で作成したインストールを別の場所にコピーします。

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバのアップグレード



ZfD 3.2 SP3 サーバをアップグレードするには、ZENworks 6.5 Desktop Management Server のインストールプログラムを使用します。

アプリケーション管理 (Application Management)、ワークステーション管理 (Workstation Management)、リモート管理 (Remote Management)、およびワークステーションイメージング (Workstation Imaging) コンポーネントのアップグレード処理は非常に容易で、アップグレード時に計画しなければならない点はほとんどありません。

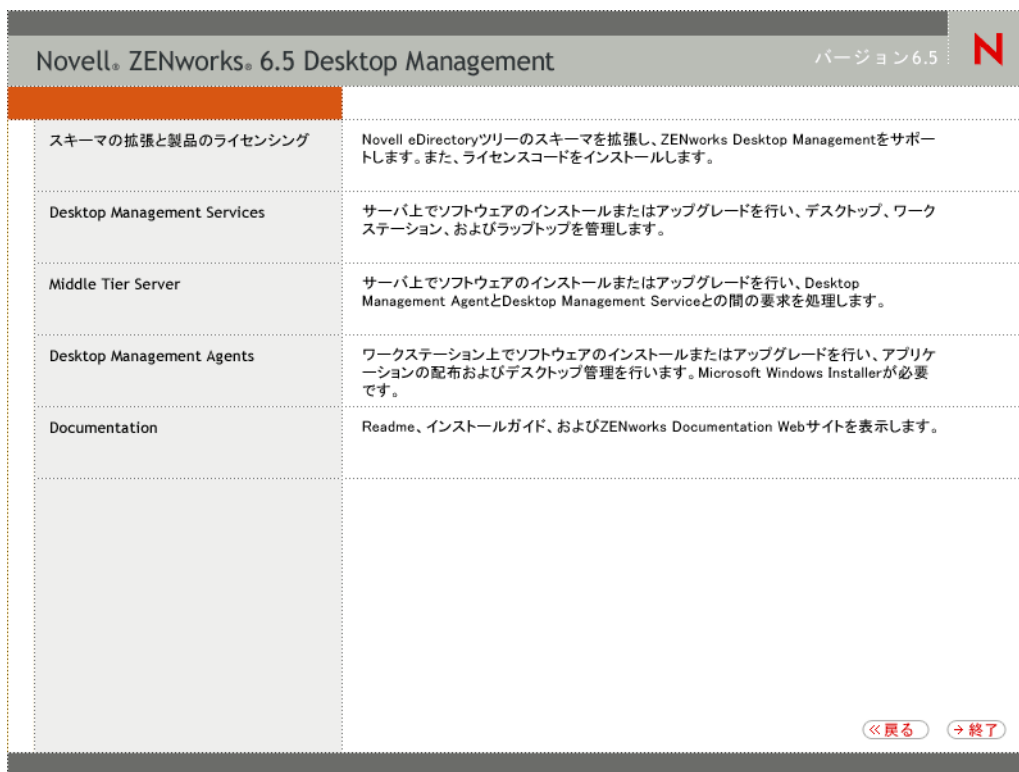
アップグレードインストールの手順は新規インストールの場合と同じです。次の手順では、インストールプログラムを起動し、アップグレード特有の項目を選択する必要がある部分についてのみ説明します。インストールの詳細については、**7 章 51 ページ**の「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

- 1 インストールを実行するワークステーションから、ZENworks 6.5 用にスキーマを拡張した eDirectory に対して管理者権限を持つユーザとして eDirectory で認証を受けます。**216 ページ**の「eDirectory スキーマの拡張」を参照してください。
- 2 *Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD をワークステーションの CD ドライブに挿入し、ZENworks 6.5 インストールプログラムを自動実行します。

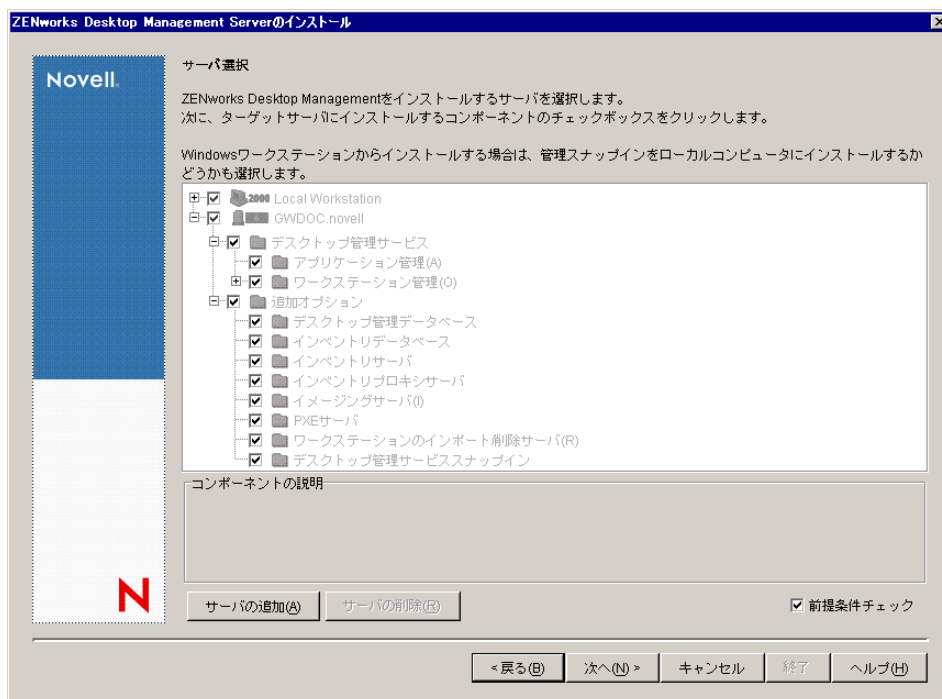
インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell® ZENworks® 6.5		バージョン 6.5	
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			

- 3 [デスクトップ管理]、[英語] の順に選択して、[ZENworks Desktop Management] ページを表示します。



- 4 [デスクトップ管理サービス] を選択して、ZENworks Desktop Management Server インストールプログラムを起動します。
- 5 画面の指示に従ってアップグレードするサーバを追加し、次のように [サーバ選択] ページを表示しておきます。



- 6 サーバにインストールしないコンポーネントの選択を解除します。

たとえば、ワークステーションインベントリをアップグレードしない場合、[インベントリデータベース]、[インベントリサーバ]、および [インベントリプロキシサーバ] の選択を解除します。コンポーネントを選択すると、[コンポーネントの説明] ボックスに説明が表示されます。

- 7 (省略可能) インストールプログラムで、ターゲットサーバが ZENworks 6.5 の前提条件を満たしているかどうかを確認しない場合は、[前提条件チェック] オプションの選択を解除します。

[前提条件チェック] オプションを選択したときに、ターゲットサーバが前提条件を満たしていない場合は、サーバをアップグレードするか、このオプションの選択を解除してインストールプログラムを再実行するまで、そのサーバに対してインストールは実行されません。

- 8 [次へ] をクリックし、画面の指示に従ってソフトウェアをインストールします。

- 9 次の節の手順に従って、アップグレード処理を完了します。

- ◆ 221 ページの「アプリケーション管理のアップグレードの完了」
- ◆ 225 ページの「ワークステーション管理のアップグレードの完了」
- ◆ 228 ページの「ワークステーションイメージングのアップグレードの完了」
- ◆ 229 ページの「リモート管理のアップグレードの完了」
- ◆ 229 ページの「ワークステーションインベントリのアップグレードの完了」

アプリケーション管理のアップグレードの完了

次の節では、ZENworks Desktop Management のアプリケーション管理コンポーネントのアップグレードを完了するための手順を説明します。

- ◆ 221 ページの「Application Launcher の起動方法の更新」
- ◆ 223 ページの「アプリケーションの更新」
- ◆ 224 ページの「システム要件から配布ルールへの移行」

Application Launcher の起動方法の更新

ZENworks 3.2 サーバを ZENworks 6.5 Desktop Management サーバにアップグレードすると、nalexpld.exe および nal.exe が更新され、デスクトップ管理エージェント (Desktop Management Agent) がインストールされたローカルディレクトリから naldesk または nalwin32 が起動するようになります。この更新は、Novell Client を使用しており、ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントがインストールされなかった ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションに影響を及ぼします。

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションを更新するまでの間、ユーザが古いバージョンの Application Launcher にアクセスできるようにする必要があります。この解決策として、次の 2 つのシナリオが考えられます。

- ◆ 222 ページの「ユーザがネットワークに接続した状態で Application Launcher にアクセスする場合」
- ◆ 223 ページの「ユーザがネットワークから切断された状態で Application Launcher にアクセスする場合」

ユーザがネットワークに接続した状態で Application Launcher にアクセスする場合

ユーザが主にネットワーク接続時に Novell Application Launcher にアクセスする場合、引き続きクライアントのログインスクリプトを使用して Application Launcher を起動することができます。更新された ZENworks 6.5 Desktop Management ファイルが存在するかどうかについてワークステーションを確認する方法の 1 つに、exist.exe ツールを使って c:\program_files\novell\zenworks をチェックし、nalwin32.exe または naldesk.exe の有無を確認する方法があります。

注： exist.exe ツールは、Novell [ZENworks Cool Solutions ページ \(http://www.novell.com/cool solutions/tools/1067.html\)](http://www.novell.com/cool solutions/tools/1067.html) からダウンロードできます。このツールをログインスクリプトまたはアプリケーション起動スクリプトから実行することにより、指定したファイルが存在するかどうかを確認します。指定したファイルが検出されると、この .exe はゼロ (0) の ERROR_LEVEL を返します。

exist.exe をダウンロードしたら、ログインスクリプトを編集して、ローカルで ZENworks for Desktops 3.2 Novell Application Launcher を実行するか、サーバから実行するか、または ZENworks 6.5 バージョンを実行するかを確認する行を挿入します。こうした行は、検索パスに sys:\public ディレクトリが追加された後に設定する必要があります。または exist.exe にフルパスを指定する必要があります。次の（または同様の内容の）行を編集する必要があります。

@z:\nalwin32.exe

この行をどのように編集する必要があるかを次に示します。

```
； まず、ZENworks 6.5 エージェントが存在するかどうかを確認します。存在する場合、
； 何も実行する必要はありません。デスクトップから自動的に起動します。
#exist %<windir>%\..\Program Files\Novell\Zenworks\naldesk.exe
； ZENworks 6.5 エージェントが存在しない場合、確認を続行します
if "%ERRORLEVEL"!="0" then
； ZfD 3.x Application Launcher がワークステーションに存在するかどうかを確認します
#exist %<windir>%system32\nalwin32.exe
； ZfD 3.x Application Launcher がワークステーションに存在しない場合、
； サーバにアクセスして、サーバから Application Launcher を起動します。
if "%ERRORLEVEL"!="0" then
； Windows 95 ファミリを確認します
#exist %<windir>%\..\novell\client32\nalwin32.exe
if "%ERRORLEVEL"!="0" then
@z:\ZfD32NAL\nalwin32.exe
else
@%<windir>%\..\novell\client32\nalwin32.exe
end
else
@%<windir>%system32\nalwin32.exe
end
end
```

このようにスクリプトを編集することにより、次に示す 3 つの方法のいずれかで Application Launcher が起動します。

- ◆ ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントのワークステーションコピーから（自動的に起動するため、ログインスクリプトから起動する必要はありません）
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 Application Launcher コードのローカルコピーから（存在する場合）
- ◆ ワークステーションに ZENworks 6.5 エージェントおよびローカルの ZENworks for Desktops 3.2 Application Launcher コードが存在しない場合はサーバから

ZENworks for Desktops 3.2 ファイルをサーバから起動する場合とローカルで起動する場合の唯一の相違点は、Application Launcher をローカルで起動した場合、サーバに存在する更新済みの ZENworks for Desktops 3.2 Application Launcher ファイルがワークステーションに配布されなくなる点です。移行中、この処理を必ずしも実行する必要はありません。ただし実行することが必要になった場合、ポリシーパッケージで Application Launcher の /i コマンドラインスイッチを使用して、ローカルの ZENworks for Desktops 3.2 Application Launcher ファイルを更新することができます。詳細については、[ZENworks for Desktops 3.2 のマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/lg/zdfs/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/zdfs/index.html) の『ZENworks for Desktops 3.2 管理ガイド』を参照してください。

注： ご自分のネットワーク環境に共有ワークステーションが存在する場合、どのタイミングでコンテナ、パーティション、またはサイトを ZENworks 6.5 にアップグレードするのかにかかわらず、すべてのログインスクリプトを同時に編集する必要があります。これにより、古い Application Launcher ファイルが共有ワークステーションに配布される事態を回避することができます。

ユーザがネットワークから切断された状態で Application Launcher にアクセスする場合

ユーザがネットワークから切断されていることが多い場合、Application Launcher または Application Explorer を [スタートアップ] フォルダから起動する必要があると ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントで指定することにより、Application Launcher を起動することができます。この方法は最も簡単ですが、コマンドラインパラメータをショートカットに追加することはできません。さらに、ユーザが [スタートアップ] フォルダからアイテムを削除してしまう可能性があります。

コマンドラインパラメータを指定する場合、Windows レジストリを編集して、NALWIN32 または NALDESK を HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Run キーに追加することにより、Application Launcher を起動することができます。

アプリケーションの更新

ZENworks 6.5 Desktop Management に移行する前に、アプリケーションの準備を実行する必要があります。ZENworks 6.5 Desktop Management を使用する場合、引き続きワークステーションに Novell Client をインストールするかどうか、または ZENworks Middle Tier Server を介した Desktop Management 機能の導入に移行するかどうかを決定する必要があります。

Novell Client を継続して使用する予定の場合、新しい Desktop Management 環境で機能するよう、アプリケーションオブジェクトに対して変更を実行する必要はありません。ただし、Novell Client の ZENworks に関する機能を更新するために、デスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。

ワークステーションで Novell Client を使用せず、デスクトップ管理エージェントを導入する予定の場合、[10 章 99 ページの「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」](#)を参照してください。

企業のファイアウォールの外部に配布されるすべての MSI アプリケーションについて、[キャッシュの強制] を設定する必要があります。Microsoft MSI インストーラは、ZENworks Middle Tier Server を認識しないため、ブラウザを介して正しくアプリケーションを要求することができません。したがってインストールの前に、すべてのファイルをローカルワークステーションにキャッシュする必要があります。

システム要件から配布ルールへの移行

ZfD 3.2 SP3 のアプリケーション配布を定義する場合に使用するシステム要件機能の名前が、配布ルールに変更されました。この変更のおかげで、拡張された機能がよりの確に表現されるようになり、以前のバージョンの機能であるシステム要件と容易に区別できるようになりました。ZENworks 6.5 の配布ルールは、AND/OR のブール演算子と要件のグループ化を使用することによって、より柔軟な配布の条件をサポートしています。ZfD 3.2 SP3 では、すべてのシステム要件で AND 演算子が使用されましたが、要件をグループ化する機能は存在しませんでした。

ZENworks 6.5（またはそれ以降の）バージョンの Novell Application Launcher™ のみ、配布ルールで新しい演算子のロジックおよびグループ化を処理できます。したがって ZfD 3.2 SP3 Application Launcher との後方互換性を維持するため、eDirectory ツリーのスキーマのアップグレード中に、既存のシステム要件がレガシーシステム要件として保存されます。ZfD 3.2 SP3 Application Launcher と ZENworks 6.5 Application Launcher の両方で、レガシーシステム要件を処理することができます。つまり、いずれのバージョンの Application Launcher を使用していても、ユーザはレガシーシステム要件が設定されたアプリケーションを継続して利用することができます。

レガシーシステム要件から配布ルールに移行する場合は、次の点に注意する必要があります。

- ◆ 配布ルールは、アプリケーションオブジェクトの [配布ルール] ページ（アプリケーションオブジェクト > [可用性] タブ > [配布ルール] ページ）で定義されます。
- ◆ レガシーシステム要件は、[配布ルール] ページで、[レガシー] ボタンをクリックし、[レガシー設定を編集する] をクリックすることによって利用できます。このオプションを使用して、既存のレガシーシステム要件を編集したり、新しいシステムレガシー要件を追加したりすることができます（たとえば、ZfD 3.2 SP3 Application Launcher を実行しているワークステーションで利用可能な新しいアプリケーションオブジェクトを作成する場合）。
- ◆ レガシーシステム要件を持ち、配布ルールを持たないアプリケーションの [配布ルール] ページにアクセスすると、要件を配布ルールにインポートするかどうかを確認するメッセージが表示されます。要件をインポートしないことを選択した場合でも、後で [配布ルール] ページの [レガシー設定をインポートする] オプションを使用してインポートできます。
- ◆ レガシーシステム要件を配布ルールにインストールするか、手動で配布ルールを定義すると、ZENworks 6.5 Application Launcher では配布ルールだけが処理されます。レガシーシステム要件は無視されます。ただし ZfD 3.2 SP3 Application Launcher は引き続きレガシーシステム要件を処理します。これは、ZfD 3.2 SP3 Application Launcher が新しい配布ルールを認識しないためです。したがって、まだ ZfD 3.2 SP3 Application Launcher を実行しているワークステーションが存在する環境で配布ルールを使用する場合、配布ルールのリストとレガシーシステム要件のリストの両方を保持する必要があります。
- ◆ 配布ルールに対する変更内容は、レガシーシステム要件には追加されません。同様に、レガシーシステム要件に対する変更内容は配布ルールに追加されません。
- ◆ 配布ルールを定義し、レガシーシステムルールをインポートする場合、既存の配布ルールはレガシーシステムルールによって上書きされます。

- ◆ アプリケーションが利用できるようになる前に定義されていたオペレーティングシステムの要件は削除されます。ZfD 3.2 SP3 では、配布および起動用にアプリケーションが利用可能になる前に、システム要件で OS プラットフォームを定義する必要があります。この要件は削除されました。新しい動作では次のようなロジックが使用されます。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムのみで実行する場合、オペレーティングシステムの配布ルールを定義する必要があります。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムを必要としない場合は、配布ルールを定義する必要はありません。オペレーティングシステムの配布ルールが定義されていないアプリケーションはデフォルトで、サポートの対象になるすべてのプラットフォーム (Windows 98、Windows 2000、および Windows XP) で利用できます。

このような詳細を考慮して、システム要件から配布ルールへの円滑な移行のために次の手順をお勧めします。

- 1 各アプリケーションオブジェクトについて、レガシーシステムルールを配布ルールにインポートします。必要に応じて、ルールを変更します。
- 2 ZfD 3.2 SP3 Application Launcher を使用しているワークステーションをサポートできるよう、レガシーシステム要件を保持します。
- 3 アプリケーションの配布条件を変更する場合は、ZENworks 6.5 と ZfD 3.2 SP3 の双方の Application Launcher が確実に配布条件を適用できるよう、配布ルールとレガシーシステム要件の両方を変更します。
- 4 すべてのワークステーションが ZENworks 6.5 Application Launcher にアップグレードされた後 (273 ページの「ワークステーションのアップグレード」を参照)、レガシーシステム要件を削除します。

または

ワークステーションで ZfD 3.2 SP3 デスクトップ管理エージェントを引き続き実行することにより、ご自分の環境で Windows NT 4.0 ワークステーションをサポートしている場合、レガシーシステム要件を削除しないでください。レガシーシステム要件と配布ルールの両方を保持する必要があります。

配布ルールとレガシーシステム要件の詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「[配布ルール] ページ」を参照してください。

ワークステーション管理のアップグレードの完了

初めて ZENworks 6.5 Desktop Management を eDirectory ツリーにインストールすると、追加の ZENworks 6.5 Desktop Management ポリシースキーマがこのツリーに配置されます。既存の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシーは、新しい ZENworks 6.5 Desktop Management のポリシーを作成する際、ツリーに自動的に移行されます。

次の節では、ZENworks Desktop Management のワークステーション管理コンポーネントのアップグレードを完了する場合に役立つ情報について説明します。

- ◆ 226 ページの「検索ポリシーの更新」
- ◆ 227 ページの「ポリシーのアップグレードに関する追加情報」

検索ポリシーの更新

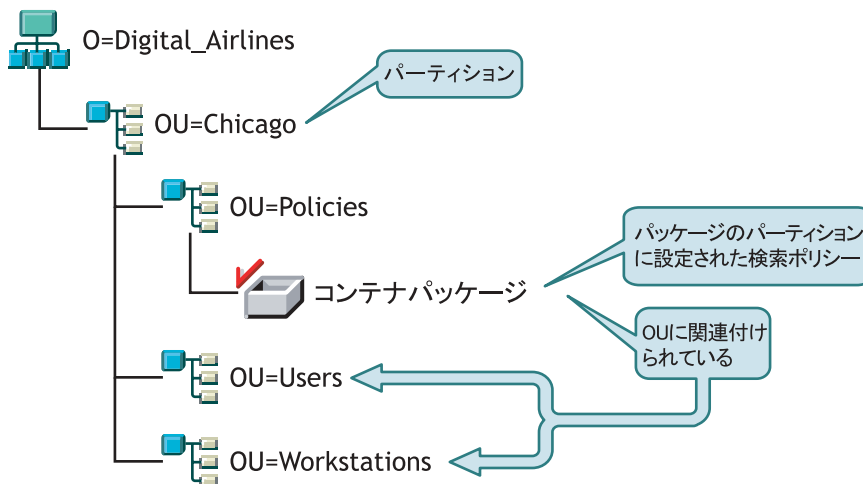
eDirectory ツリー内に検索ポリシーが含まれているかどうかを確認します。検索ポリシーは、コンテナパッケージの一部であり、きわめて重要な役割を果たします。検索ポリシーを使用することにより、ZENworks エージェントが、ポリシーおよび環境設定情報を見つけ出すのにルートまで検索対象を広げるのを回避することができます。

ツリーに検索ポリシーが含まれていない場合、ZENworks エージェントの最適なパフォーマンスを確保するために、新しい ZENworks 6.5 Desktop Management 検索ポリシーを作成する必要があります。ポリシーの動作について、次の点を考慮してください。

- ◆ ネットワーク環境内で Novell Client のみを使って認証を実行する予定の場合、検索ポリシーは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 の検索ポリシーと同じように機能します。
- ◆ ZENworks Middle Tier Server を使用し、Novell Client なしでデスクトップ管理エージェントを実行する予定の場合、ネットワークをアップグレードすると、検索ポリシーの動作が変更される可能性があります。

ZENworks 6.5 エージェントは、ZENworks for Desktops 3.2 エージェントと異なり、コンテナのパーティション境界を認識しません。したがって、パーティション境界をベースとする既存の検索ポリシーが存在する場合、ZENworks 6.5 エージェントは、パーティション境界を越えてポリシーを検索するかどうかにかかわらず、コンテナパッケージが関連付けられているコンテナまで検索を実行します。

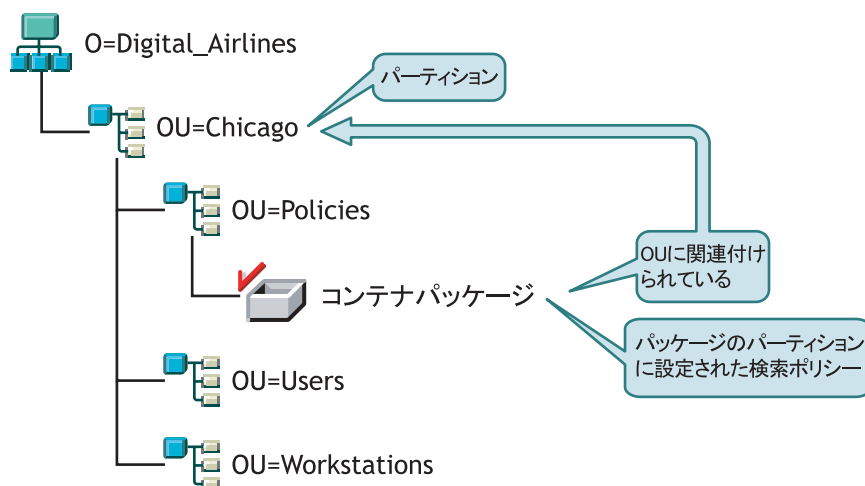
たとえば、次のツリーが設定されていると仮定します。



ZENworks for Desktops 3.2 SP3 では、ユーザまたはワークステーションのエージェントはまず、それぞれの親コンテナに対して検索を実行し、関連付けられた検索ポリシーを検索します。検索ポリシーでは、エージェントはポリシーに設定されているパーティション境界の範囲だけを検索する必要があることが定義されています。エージェントがポリシーを検索する際、エージェントは Chicago コンテナ（パーティション境界）までの範囲についてのみツリー内の検索を実行します。

ZENworks 6.5 Desktop Management では、検索ポリシーで [パーティション] オプションを利用することができません。[パーティション] オプションは [関連付けられたコンテナ] オプションに置き換えられました。つまり、以前のバージョンの検索ポリシーが ZENworks 6.5 の [パーティション] オプションにアップグレードされた場合、そのポリシーは [関連付けられたコンテナ] オプションに置き換えられます。こうした変更を想定していない場合、ポリシーの取得結果が異なるものになる可能性があります。

検索境界として [パーティション] オプションを使用したときと同様の検索結果が引き続き必要になる場合、コンテナパッケージ（設定された検索ポリシーを含むポリシーパッケージ）を、ユーザおよびワークステーションオブジェクトによって実行されるポリシー検索のパーティション境界である eDirectory コンテナに関連付ける必要があります。



ZENworks 6.5 エージェントがツリーを検索すると、検索ポリシーを含むコンテナパッケージが Chicago で検索され、Chicago までの範囲でポリシーの検索を実行します。このように範囲が制限されるのは、Chicago が、関連付けられたコンテナであるためです。

注： パッケージに関連付けられているコンテナによって、エージェントがツリー内のどの範囲まで検索を実行するかが決定されます。ディレクトリ内におけるパッケージの実際の保存場所が、検索範囲のベースになることはありません。検索ポリシー内の検索レベルは、パーティション境界ではなく、関連付けられたコンテナに適用されます。

ポリシーのアップグレードに関する追加情報

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシーをアップグレードする際、次に示す項目を認識しておく必要があります。

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 および Novell Client がインストールされたワークステーションを新規 ZENworks 6.5 エージェントにアップグレードしたが、クライアントはそのままの場合、このワークステーションは、ZENworks 6.5 にアップグレードする前にディレクトリ内に作成されたポリシーを引き続き使用します。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 および Novell Client がインストールされたワークステーションを新規 ZENworks 6.5 エージェントにアップグレードしたが、クライアントは削除された場合、このワークステーションは、ZENworks 6.5 で有効なポリシーだけを使用します（たとえば、RAS 環境設定ポリシーは適用されません）。

- ◆ 新しいワークステーションにZENworks 6.5エージェントだけがインストールされた場合（クライアントやZENworks for Desktops 3.2 SP3はインストールされない場合）、このワークステーションは、ZENworks 6.5で有効なポリシーだけを使用します。
- ◆ 既存のZENworks for Desktops 3.2 SP3インストールをアップグレードせずにZENworks 6.5をインストールした場合、有効なZENworks 6.5ポリシーだけが設定されます。アップグレードを実行しない限り、元のZENworks for Desktops 3.2 SP3ポリシーは削除されます。

ZENworks for Desktops 3.2ポリシーとZENworks 6.5 Desktop Managementポリシーの比較については、[361 ページの付録 A「ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 6.5 のポリシーパッケージの違い」](#)を参照してください。

ワークステーションイメージングのアップグレードの完了

ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールした場合に、新しいZENworks 6.5 Desktop Management のイメージ圧縮機能を利用できるようにするには、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションイメージングをアップグレードする必要があります。

- ◆ [228 ページの「イメージングサーバのアップグレード」](#)
- ◆ [228 ページの「ワークステーションにLinuxパーティションが存在する場合のイメージングのアップグレード」](#)
- ◆ [228 ページの「ZENworks 6.5 起動前サービス \(Preboot Services\) へのアップグレード」](#)

イメージングサーバのアップグレード

ZENworks 6.5 ワークステーションイメージングサーバにアップグレードするには、*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management* CD を挿入して、ZENworks 6.5 Desktop Management インストールプログラムを実行し、ワークステーションイメージングをインストールします。この結果、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 イメージングエンジンがアップグレードされます。

ワークステーションにLinuxパーティションが存在する場合のイメージングのアップグレード

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションに設定されているLinuxパーティションを引き続き使用する場合、次にワークステーションがイメージングサーバと通信するときにイメージングエンジンが更新されます。ZENworks 6.5 ワークステーションイメージングにアップグレードした後、必要に応じて、他のすべてのLinux OS ファイルがLinuxパーティションにコピーされ、インストールされます。

自動更新が実行された後、Linuxパーティションを含むすべてのワークステーションはZENworks 6.5 Desktop Management システムを実行します。

ZENworks 6.5 起動前サービス (Preboot Services) へのアップグレード

ワークステーションのLinuxパーティションを削除するためにZENworks 6.5 起動前サービス (PXE) への移行を決定した場合、次の手順を実行します。

- 1 ネットワークサーバにZENworks 6.5 起動前サービスをインストールします。

インストールおよび設定に関する手順については、このガイドの 51 ページの「Desktop Management Server のインストール手順」および『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ZENworks デスクトップ管理起動前サービスの使用」を参照してください。

DHCP サーバに対して環境設定の変更を実行することが必要になる場合があります。

- 2 ネットワークカードで提供された PXE を通じて、または pxebuilder.exe を使って生成した PXE ブート可能フロッピーを通じて ZENworks 6.5 起動前サービスが動作していることを確認します。
- 3 ConsoleOne で、サーバポリシーパッケージの ZENworks イメージングポリシーを右クリックし、[プロパティ] > [一般] > [イメージングパーティション] の順にクリックします。
- 4 ZENworks イメージングパーティションを無効にします。

この手順により、ワークステーションのハードドライブ上の Linux パーティションがブート不可になります。Linux パーティションが削除されるわけではありません。

Linux パーティションを削除する場合、ワークステーション上にベースイメージを復元した後、イメージオブジェクト内の既存の Linux パーティションを削除するオプションを選択する必要があります。サーバポリシーパッケージまたはワークステーションポリシーパッケージで参照することができます。

リモート管理のアップグレードの完了

ZENworks 6.5 Desktop Management コンソールは、ZENworks for Desktops 3.2 エージェントワークステーションと ZENworks 6.5 エージェントワークステーションの両方をリモートで管理することができます。ただし、ZENworks 6.5 Desktop Management は廃止された機能を提供しない点に注意する必要があります。ZENworks for Desktops 3.2 エージェントは ZENworks 6.5 Desktop Management の機能拡張をいずれもサポートしません。

注：ワークステーションのリモート管理エージェントを管理するのに、リモート管理アプリケーションオブジェクトを使用する必要はなくなりました。リモート管理エージェントは、デスクトップ管理エージェントの一部としてワークステーションにインストールされるようになりました。

ワークステーションインベントリのアップグレードの完了

ワークステーションインベントリを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 6.5 にアップグレードするには、次の作業をこの順序で実行します。

1. 230 ページの「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」の情報を確認します。
2. 232 ページの「アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業」の説明に従って作業を行います。
3. 234 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリデータベースのアップグレード」の説明に従って作業を行います。
4. 235 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバのアップグレード」の説明に従って作業を行います。
5. 237 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP 3 インベントリポリシーの手動による移行」の説明に従って作業を行います。
6. 238 ページの「データベース移行後の作業」の説明に従って作業を行います。

アップグレードを実行する前に確認すべき事項

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のインベントリコンポーネントをアップグレードする前に、次の事項を確認します。

- ◆ 230 ページの「Inventory Server」
- ◆ 232 ページの「Inventory Agent」
- ◆ 232 ページの「管理コンソール」

Inventory Server

- ◆ ZENworks for Desktops 3 または ZENworks for Desktops 3.2 SP1 には、ZENworks 6.5 Desktop Management に対して下位互換性がありません。ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする前に、インベントリツリーにある ZENworks for Desktops 3、ZENworks for Desktops 3 SP1、ZENworks for Desktops 3.2、ZENworks for Desktops 3.2 SP1、または ZENworks for Desktops 3.2 SP2 インベントリサーバをすべて ZENworks for Desktops 3.2 SP3 にアップグレードする必要があります。

ネットワークで ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 6.5 Desktop Management の両方をサポートするためには、最初に ZENworks for Desktops 3.2 SP3 をネットワークにインストールする必要があります。最初に ZENworks for Desktops 3.2 SP3 をインストールしないで ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールした場合、Novell eDirectory スキーマまたは ConsoleOne プラグインは ZENworks for Desktops 3.2 のポリシーをサポートしません。一方、最初に ZENworks for Desktops 3.2 SP3 をインストールした場合、ZENworks for Desktops 3.2 のスキーマとプラグインは ConsoleOne に配置されます。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のインストール後に ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールするときに、ZENworks for Desktops 3.2 のスキーマとプラグインは維持されます。

インベントリサーバで ZENworks for Desktops 3 を実行している場合は、ZENworks for Desktops 3.2 および ZENworks for Desktops 3.2 SP3 をインストールし、インベントリサービスを開始して、サーバを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする少なくとも 1 つ前のデータベースを開く必要があります。ZENworks for Desktops 3.2 のインストール方法については、[Novell Support Web サイト \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) を参照してください。

- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management のインストール後は、ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションインベントリの構成要素、および ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のエージェントとポリシーは、次のように共存します。
 - ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management エージェントのインベントリデータは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバに送信できず、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースに格納できません。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリエージェントは、インベントリデータを新規の ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバに送信できません。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリエージェントは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバ、または ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からアップグレードした ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにのみインベントリデータを送信できます。
 - ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、インベントリデータを ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにロールアップできますが、ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバは、インベントリデータを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバにロールアップできません。

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、データベースを ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにロールアップできませんが、ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバは、データベースを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバにロールアップできません。
- ◆ データを ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにロールアップする ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバには、正常に機能するためのパッチを適用する必要があります。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、データを別の eDirectory ツリー内の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 または ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにロールアップできません。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、トップダウン方式で ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする必要があります。インベントリデータのロールアップを実行する場合、ルートサーバ、中間サーバ、リーフサーバの順にアップグレードします。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバにインベントリデータを送信できません。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリデータベースを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバに直接接続しないでください。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバは、インベントリ対象の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションの .str ファイルを処理することができます。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、データベース情報を ZENworks for Desktops 3.2 SP3 または ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにロールアップすることができます。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバの .zip ファイルを処理することができます。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management に移行した ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバの SCANDIR およびそのサブディレクトリにある ZENworks for Desktops 3.2 SP3 の .str ファイルと .zip ファイルを削除しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバと ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバで、同じインベントリデータベースにインベントリデータを直接格納しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバのロールアップポリシーの次のレベルとして、別の eDirectory ツリーにあるインベントリサーバを指定しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のロールアップポリシーを、ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバに関連付けしないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバおよび ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバでは、ZENworks 6.5 Desktop Management に移行した ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ロールアップポリシーを使用することができます。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードしても、インベントリサーバの役割は変わりません。

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバがスキャンデータを別の ZENworks for Desktops 3.2 SP 3 インベントリサーバまたは ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにロールアップする場合、この ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバには必要な認証パッチがインストールされている必要があります。認証パッチの詳細については、[235 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバのアップグレード」](#)の [236 ページのステップ 1](#) を参照してください。

Inventory Agent

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリエージェントは、新規の ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにインベントリデータを送信できません。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリエージェントは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバ、または ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からアップグレードした ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにのみインベントリデータを送信できます。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 または ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリエージェントは、ZENworks 6.5 Desktop Management に移行した ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリポリシーを使用することができます。または、新規に作成した ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリポリシーを使用することができます。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリエージェントは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバにインベントリデータを送信できません。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.x エージェントをワークステーションイメージングでインストールまたはアップグレードする場合は、必ず、未登録の ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションでイメージを取得してください。

管理コンソール

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 と ZENworks 6.5 の両方の管理コンソールを使用して、同じ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリオブジェクトを設定しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 管理コンソールを使用して ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリデータおよびインベントリオブジェクトを管理することはできません。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management ConsoleOne スナップインを使用して、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 と ZENworks 6.5 Desktop Management の両方のインベントリデータとインベントリオブジェクト（インベントリサービスオブジェクト、データベースオブジェクト、ワークステーションインベントリポリシー、ロールアップポリシー、ディクショナリ更新ポリシー、データベースの場所ポリシーなど）を管理できます。

アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業

[230 ページの「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」](#)の説明を確認してから、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする前に、次の作業を実行する必要があります。

1. Inventory Service を停止します。

- ◆ NetWare インベントリサーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「stopser *」と入力します。

注：Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、sys:¥system¥invstop.ncf ファイルで Unload dbsrv8.nlm 行をコメント化します。

- ◆ Windows 2000 インベントリサーバの場合：コントロールパネルで[管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[ZENworks インベントリサービス] を選択して [停止] をクリックします。
2. インベントリデータベースを停止します。
Sybase インベントリデータベースを停止するには
 - ◆ NetWare の場合：Sybase コンソールのプロンプトで、<Q> キーを押します。
 - ◆ Windows 2000 の場合：コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Adaptive Server Anywhere - Zenworks for Desktops 3] を選択して [停止] をクリックします。
 3. 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、java.nlm をアンロードします（サーバコンソールで、「**java -exit**」と入力する）。

重要：このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Desktop Management を再インストールする際には、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。

4. 対象になる Windows サーバで、[サービス] ウィンドウを閉じます。
5. ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースのバックアップを作成して保存したことを確認します。
6. ConsoleOne から ZENworks for Servers 3.2 SP3 データベースにアクセスされていないことを確認します。
7. 推奨される ZENworks 6.5 ワークステーションインベントリ要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[27 ページの「準備」](#)を参照してください。
8. ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースで Oracle を実行している場合は、移行前に次の作業を実行する必要があります。

- 1 データベースバッファキャッシュ用の実質的な容量として約 128MB を確保できるように、*inventory_database_installation_path\%init.ora\%init.ora* の *db_block_buffers* の値を設定します。

db_block_size の値が 4096 である場合、最低値は 32768 となる必要があります。これにより、インベントリデータベースに対して 128MB のデータベースキャッシュが割り当てられます。*db_block_buffers* の現在の値が、128MB よりも大きい場合は、値を変更しないでください。

データベースの移行中に、Oracle の SGA(Shared Global) メモリを 30 ～ 40% 以上に設定することをお勧めします。

- 2 インベントリデータベースが稼動していることを確認します。
- 3 ORA-01555 およびその他のロールバックセグメント関連の問題が発生した場合、データベースの移行およびさらなるデータの保存が実行できなくなるので、より大容量のロールバックセグメントを設定しておく必要があります。

ロールバックセグメントの値を増やすには、次の SQL スクリプトを実行して、ロールバックセグメント (rbs) に他のデータファイルを追加し、Redo ロググループを追加します。

```
connect internal;

alter tablespace rbs add datafile 'Inventory_database_installation_path\%rbs2.ora' size
40M autoextend on next 50K maxsize 60M;

alter rollback segment rb0 storage (maxextents unlimited);

alter rollback segment rb1 storage (maxextents unlimited);

ALTER DATABASE ADD LOGFILE GROUP 3 ('Inventory_database_installation_path\%log3.ora')
SIZE 50M;
```

ZENworks 6.5 Desktop Management Server のインストール時に、Sybase をインストールすることを選択し、データベースファイルを上書きすることを選択しなかった場合、サーバのインストールプログラムは、既存の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースエンジンだけを自動的にアップグレードします。Sybase データベースのアップグレード中、既存のデータベースが移行可能であることを示すメッセージが表示されます。[はい] を選択した場合、既存のデータベースは、新しい ZENworks 6.5 Desktop Management データベースファイルによって上書きされます。[No] を選択した場合、Inventory Service が初めて開始されたときにデータベースの移行が実行されます。

インベントリデータベースをアップグレードするには、次の作業を実行する必要があります。

- 1 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Oracle データベースオブジェクトが存在する場合や、手動で Sybase データベースオブジェクトを作成した場合は、インベントリの移行ツールを使用して手動でデータベースオブジェクトを移行する必要があります。詳細については、[235 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。
- 2 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースで Sybase を実行している場合、Sybase キャッシュの値 (-c パラメータ) がサーバのメモリの 25% 以上に設定されていることを確認します。
 - ◆ NetWare データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには
 1. インベントリデータベースに対する接続をすべて終了します。
 2. Sybase サーバを終了します。
 3. sys:¥system ディレクトリの mgmt dbs.ncf ファイルを開きます。
 4. -c パラメータを変更します。たとえば、-c 128M に変更すると、128MB のキャッシュサイズが設定されます。
 5. ファイルを保存します。
 6. サーバコンソールから、インベントリデータベースをロードします。
「MGMTDBS」と入力します。
 - ◆ Windows データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには
 1. Sybase サービスを停止します。Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。
 2. データベースサーバ上で、dbengine ディレクトリから ntdbconfig.exe ファイルを実行します。ntdbconfig.exe は、Windows NT/2000 サーバで Sybase を使用している ZENworks データベース向けの ZENworks データベース設定ユーティリティです。このユーティリティを使用して、Sybase サービスの再設定を実行することができます。
 3. -c パラメータを変更します。
 4. [OK] をクリックします。
 5. Sybase サービスを再起動します。Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。

重要：ZENworks 6.5 Desktop Management Server インストールプログラムを実行することによって、複数のインベントリサーバとデータベースサーバを同時にアップグレードできます。

ただし、既存の ZENworks for Desktops 3.2 ワークステーションインベントリポリシー、データベースの場所ポリシー、およびロールアップポリシーは手動で移行する必要があります。手動でデータベースオブジェクトを作成した場合は、データベースオブジェクトも移行する必要があります。ポリシーの移行方法に関する詳細については、[235 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。

手動によるデータベースオブジェクトの移行

- 1 ZENworks 6.5 デスクトップ管理ワークステーションインベントリスナップインがインストールされた ConsoleOne で、[ツール] > [ZENworks インベントリ] > [インベントリの移行] の順にクリックします。
- 2 [Browse] をクリックして、移行の対象になるデータベースオブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含んだコンテナを参照して選択します。
- 3 **ステップ 2** でコンテナを選択した場合は、次の操作を実行します。
 - 3a 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナのデータベースオブジェクトを検索する場合は、[Search SubContainers] チェックボックスを選択します。
[Search SubContainers] チェックボックスは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。
 - 3b 選択済みのコンテナに含まれる、移行対象のデータベースオブジェクトを検索する場合は、[Search for Database Objects] チェックボックスを選択します。
このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
 - 3c [Find] をクリックします。
指定したコンテキストで検索されたすべての ZENworks for Desktops 3.2 データベースオブジェクトが、[レポート] パネルに表示されます。
- 4 [Migrate] をクリックします。
- 5 [Close] をクリックします。

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバのアップグレード

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバをアップグレードする前に、関連付けられたデータベースサーバをアップグレードしたことを確認します。

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバのインストール先のサーバがインストールの要件を満たしている場合は、ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバをインストールすることによって、ZENworks for Desktops 3.2. SP3 インベントリサーバをアップグレードできます。ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバをインストールする方法については、[51 ページの「Desktop Management Server のインストール手順」](#)を参照してください。ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks for Desktops 3.2 SP 3 と同じ役割のセットをサポートします。したがって、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードするときは、そのインベントリサーバの役割が維持されます。

重要：ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースに接続している場合、インベントリサーバまたはデータベースを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードするときは、関連付けられているコンポーネントを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする必要があります (ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサービスでは ZENworks 6.5 Desktop Management 準拠のデータベースを操作しないでください。逆の場合も同じです)。

複数の ZENworks for Desktops 3.2 SP 3 インベントリサーバを 1 台の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースサーバに接続している場合、このデータベースサーバを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードするときは、関連付けられているすべての ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバもアップグレードする必要があります。

ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールプログラムでは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサービスオブジェクトだけが自動的に ZENworks 6.5 Desktop Management に移行されます。インベントリサービスを開始する前に、ZENworks for Desktops インベントリの移行ツールを使用して、既存の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシーを ZENworks 6.5 Desktop Management のポリシーに手動で移行する必要があります。詳細については、[237 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP 3 インベントリポリシーの手動による移行」](#)を参照してください。

ポリシーの移行後に、次の操作を実行します。

- 1 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバがデータを ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにロールアップする場合、ZENworks 6.5 Desktop Management Companion 2 CD に含まれている次の認証パッチを適用する必要があります。

サーバ	ソースファイル	インベントリサーバ上のファイルコピー先
Netware	%invzfd3xpatch%zfd32\common%public%zenworks%wminv%lib ディレクトリのすべてのファイル	Inventory_server_installation_path\zenworks\inv%server%wminv%lib
	%invzfd3xpatch%zfd32%nw%java%bin%zenws.nlm	sys:%java%bin
	%invzfd3xpatch%zfd32%nw%java%lib ディレクトリのすべてのファイル	sys:%java%lib
Windows NT/2000	%invzfd3xpatch%zfd32\common%public%zenworks%wminv%lib ディレクトリのすべてのファイル	Inventory_server_installation_path\zenworks\inv%server%wminv%lib
	%invzfd3xpatch%zfd32%nt%zenworks%jre%1.2%bin%zenws.dll	sys_share\zenworks%jre%1.2%bin
	%invzfd3xpatch%zfd32%nt%zenworks%jre%1.2%lib ディレクトリのすべてのファイル	sys_share\zenworks%jre%1.2%lib

- 2 ワークステーションインベントリポリシーで、[コンピュータのスキャンを有効にする] オプションを選択して、インベントリデータをこのインベントリサーバに直接送信するすべてのインベントリ対象ワークステーションに対するインベントリスキャンを有効にします。
- 3 インベントリデータがロールアップされたら、このインベントリサーバにインベントリデータをロールアップするすべての下位レベルのインベントリサーバ上で実行する Sender サービスを開始します。

ZENworks for Desktops 3.2 SP 3 インベントリポリシーの手動による移行

- 1 ZENworks 6.5 デスクトップ管理ワークステーションインベントリスナップインがインストールされた ConsoleOne で、[ツール] > [ZENworks インベントリ] > [インベントリの移行] の順にクリックします。
- 2 [Browse] をクリックし、Inventory Service オブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含むコンテナを参照して選択します。
- 3 **ステップ 2** でコンテナを選択した場合は、次の操作を実行します。
 - 3a 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナの Inventory Service オブジェクトを検索する場合は、[Search SubContainers] チェックボックスを選択します。

[Search SubContainers] チェックボックスは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。
 - 3b 選択済みのコンテナ内の Inventory Service オブジェクトに関連付けられた Inventory ポリシーを検索する場合は、[Search for Policies] チェックボックスを選択します。

このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
 - 3c [Find] をクリックします。

インベントリサービスオブジェクトに関連付けられ、指定したコンテキスト内で検索されたすべての ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリポリシーが、[レポート] パネルに表示されます。
- 4 [Migrate] をクリックします。
- 5 [Close] をクリックします。

ポリシーの移行後、次の手順を実行します。

- 1 ZENworks 6.5 Desktop Management の Inventory Service を開始します。

Inventory Service を開始すると、Upgrade Service により、ZENworks for Desktops 3.2 データベーススキーマとインベントリデータが ZENworks 6.5 Desktops Management データベースに自動的に移行されます。このデータ移行プロセスが完了するのに、きわめて長い時間かかる場合があります。インベントリサーバの画面上に、データベースの移行および初期化が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

データベースが移行されたら、インベントリ ConsoleOne ユーティリティ（照会、概要、インベントリレポート、データベースエクスポート）や Storer でデータベースにアクセスできます。
- 2 ディクショナリ更新ポリシーを作成および設定して、ZENworks 6.5 Inventory Agent の最新バージョンのディクショナリを取得します。ディクショナリ更新ポリシーの作成方法の詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「**ワークステーションインベントリ**」を参照してください。

データベース移行後の作業

インベントリサーバをアップグレードし、インベントリデータベースを移行した後に、次の作業を実行する必要があります。

- 1 Inventory Service を停止します。
- 2 インベントリデータベースが Oracle を実行している場合、データベースのパフォーマンスを向上させるために次の手順を実行します。
 - 2a *inventory_database_installation_path*\%start.sql ファイルから既存のエントリを削除し、次のエントリを追加します。

```
SET ECHO ON

CONNECT INTERNAL

SET ECHO OFF

STARTUP PFILE=
inventory_database_installation_path\%path_to_init.ora\init.ora

SET NUMWIDTH 20

SET CHARWIDTH 40

SET ECHO ON

connect mw_dba;

SET ECHO OFF

alter table cim.t$product cache;

SET ECHO ON

connect internal

SET ECHO OFF

@<path to oracle home directory>\rdbms\admin\dbmspool

call sys.dbms_shared_pool.keep('zenworks.zenpin','P');

EXIT
```

- 2b *Inventory_server_installation_path*\%zenworks\inv\server\%minv\properties\%sql.zip から oracle\%common\oracle_perf.sql および oracle\%common\oracle_perf2.sql ファイルを実行して、パフォーマンス向上インデックスをデータベースに追加します。

- 2c *ZENworks 6.5 Companion 2* CD の %database\oracle8i\%common ディレクトリから oracle_dbexport_perf.sql を実行します。

インベントリデータベースのパフォーマンスを向上させる方法については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「パフォーマンスに関するヒント」を参照してください。

- 3 Inventory Service を開始します。

ZENworks 6.5 Middle Tier Server のインストール

ZENworks Middle Tier Server のインストールは必須ではありません。ただし、ZENworks Middle Tier Server により、企業のファイアウォール内外のユーザおよびワークステーションが、Novell eDirectory に加えて Windows ファイルシステムまたは NetWare ファイルシステムにアクセスできるようになります。

ZENworks Middle Tier Server の役割と利点に関する詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ZENworks Middle Tier Server とは」を参照してください。

ZENworks Middle Tier Server のインストール手順に関する詳細については、8 章 73 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール」または 9 章 95 ページの「Desktop Management Server と Middle Tier Server の同一コンピュータへのインストール」を参照してください。

管理対象ワークステーションのアップグレード

ZENworks 6.5 にアップグレードする前に、Novell Client をアップグレードするか、ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。eDirectory への認証を実行する手段として、Novell Client または ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントが使用されます。次の節を参照してください。

- 239 ページの「管理対象ワークステーション上の Novell Client のアップグレード」
- 240 ページの「デスクトップ管理エージェントのインストール」

管理対象ワークステーション上の Novell Client のアップグレード

ZENworks Desktop Management サーバをアップグレードし、ZENworks Middle Tier Server をインストールしたら、管理対象ワークステーションをアップグレードする必要があります。

ZENworks 6.5 Desktop Management は、企業内のワークステーションに Novell Client がインストールされているかどうかにかかわらず、ワークステーションを管理することができます。ただし、以前のバージョンの ZENworks for Desktops からアップグレードしたほとんどの管理者は、アップグレード後も引き続き Novell Client を使用しようと考えます。Novell Client を使用すると、eDirectory およびネットワークサーバにアクセスする場合に、パフォーマンスおよび拡張性の面で大きなメリットがもたらされます。

ZENworks 6.5 のインストール後も、ユーザがネットワークアクセスに Novell Client を使用することを希望する場合、ユーザのワークステーションに、最低限必要なバージョンの Novell Client をインストールする必要があります。ZENworks 6.5 で最低限必要になるバージョンがインストールされているかどうか、ワークステーションを確認します。可能な限り最新のバージョンにアップグレードします。[Novell Product Downloads \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) から最新の Novell Client を取得することができます。

ワークステーションの OS	Novell Client のバージョン（最低要件）	Novell Client のバージョン（推奨）
Windows 98 SE	3.34	3.34
Windows 2000	4.9 SP1a	4.9 SP1a
Windows XP	4.9 SP1a	4.9 SP1a

注：ZENworks 6.5 Desktop Management のインストール後も引き続き Novell Client を使用する場合、ワークステーションが企業ファイアウォールの内部に存在する状態では、Novell Client は ZENworks Middle Tier Server を介して認証を実行することができません。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「Novell Client の役割」を参照してください。

ACU(Automatic Client Update) 機能を使って、Novell Client を自動更新することができます。ACU は、ZENworks 6.5 アプリケーションによりログインスクリプトを使って配布できます。ACU およびその他のクライアントアップグレード情報に関する詳細については、『Novell Client for Windows Installation and Administration ガイド (<http://www.novell.com/documentation/lg/noclienu/index.html?treetitl.html>)』を参照してください。

認証にクライアントのみを使用する予定であっても、ZENworks 6.5 にデスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。ZENworks 6.5 Desktop Management で使用するためにクライアントも更新する ZENworks 6.5 管理コンポーネントは、エージェントインストールプログラムに同梱されています。

デスクトップ管理エージェントのインストール

Novell Client および ZENworks Server (ZENworks 6.5 では Desktop Management Server と呼びます) をアップデートしたら、ユーザワークステーションにデスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。このインストールにより、ユーザワークステーションの Novell Application Launcher、Workstation Manager、およびリモート管理ソフトウェアがアップデートされます。また、ワークステーションインベントリエージェントとイメージセーフデータ (Image Safe Data) サービスもインストールされます。

ユーザが eDirectory への認証に使用する唯一の手段としてデスクトップ管理エージェントを導入した後、ユーザのワークステーションから Novell Client をアンインストールすることができます。この場合、ZENworks 6.5 Desktop Management は“クライアントレス”になります。つまり、ユーザがデスクトップ管理エージェントを使ってログインする場合に ZENworks 6.5 Desktop Management で Novell Client が不要になります。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ZENworks 6.5 環境での Novell Client の使用」を参照してください。

ZENworks 6.5 Desktop Management コンポーネントが提供するワークステーションの機能は、デスクトップ管理エージェントをインストールした場合のみ利用できます。このことは、現在ワークステーションに Novell Client をインストールしている場合にも当てはまります。デスクトップ管理エージェントをインストールすると、Novell Client によってインストールされていた Desktop Management の機能が削除され、選択した ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションの機能に置き換えられます。

現在 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 を使用しているワークステーションにデスクトップ管理エージェントをインストールする場合、次のタスクを実行する必要があります。

1. 241 ページの「MSI(Microsoft Windows Installer) エンジンの導入」
2. 243 ページの「Novell Application Launcher を使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール」
3. 246 ページの「手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール」

MSI (Microsoft Windows Installer) エンジンの導入

デスクトップ管理エージェントインストールプログラム (zfdagent.msi) は、インストール処理中に MSI (Microsoft Windows Installer) のバージョン 1.1 以降を必要とします。インストールを実行する前に、各ワークステーションに MSI バージョン 1.11 以降を手動でインストールすることにより、Windows 98 ワークステーションをアップグレードすることができます。

次の表は、Windows ワークステーションにすでにインストールされている MSI のバージョンを示しています。

Windows バージョン (Windows Version)	インストールされている MSI エンジンのバージョン
Windows 98 SE ワークステーション	他のアプリケーションによってインストールされない限り、MSI はインストールされません。
Windows 2000 ワークステーション	OS に MSI 1.1 が同梱されています。
Windows XP ワークステーション	OS に MSI 2.0 が同梱されています。

注：同じバージョンの MSI エンジンを使用するために、すべてのユーザワークステーションをアップグレードするかどうかを検討する必要があります。

利便性を図るため、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の ¥windows インストーラフォルダに、Windows 2000/XP または Windows 98 で利用可能な MSI 2.0 が格納されています。

Microsoft Windows Installer に関する詳細については、[MSI Web サイト \(http://www.microsoft.com/windows2000/techinfo/administration/management/wininstaller.asp\)](http://www.microsoft.com/windows2000/techinfo/administration/management/wininstaller.asp) を参照してください。

MSI エンジンを実インストールする必要がある場合、ZENworks for Desktops 3.2 の Novell Application Launcher を使用して、単純なアプリケーションの配布で MSI エンジンを実インストールすることができます。

- 1 *Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD から、適切な MSI エンジンインストーラユーティリティを ZENworks サーバにコピーします。
 - ¥windows installer¥98¥instmsia.exe を実行すると、Windows 98 コンピュータに MSI 2.0 エンジンがインストールされます。
 - ¥windows installer¥nt¥instmsiw.exe を実行すると、Windows 2000/XP コンピュータに MSI 2.0 エンジンがインストールされます。
- 2 ConsoleOne に新たにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management スナップインを使って、インストールしようとしている MSI エンジンのバージョン用の単純なアプリケーションオブジェクトを作成します。

両方のバージョンのインストールを希望する場合は、各バージョンについて単純なアプリケーションオブジェクトを作成する必要があります。

- 2a 単純なアプリケーションに名前を付けた後、アプリケーションの実行可能ファイルの実行元になる場所のパスを入力します。パスには実行可能ファイルを含めます。Application Launcher によってワークステーションのターゲットディレクトリにファイルがコピーされるので、ファイルのコピー先になるターゲットディレクトリのパスを指定します。

例：c:¥temp¥instmsiw.exe

- 2b MSI エンジンアプリケーションを配布する前にワークステーションで満たす必要のあるシステム要件を定義します。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「eDirectory でのアプリケーションの設定」を参照してください。

- 2c アプリケーションオブジェクトをユーザまたはインポート対象ワークステーションに関連付けた後、この関連付けに適用する特性を選択します。

Application Launcher または Workstation Helper が起動して、アプリケーションオブジェクトが利用できるようになったらすぐにアプリケーションオブジェクトが実行するよう、この関連付けに対して [強制実行] 特性を選択することをお勧めします。

詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「eDirectory でのアプリケーションの設定」を参照してください。

- 3 単純なアプリケーションオブジェクトを設定します。

- 3a [アプリケーションオブジェクトのプロパティ] ページで [配布オプション] タブ > [アプリケーションファイル] の順にクリックします。

Application Launcher がワークステーションにファイルをコピーできるよう、[アプリケーションファイル] リストにファイルを追加する必要があります。詳細については、ConsoleOne のオンラインヘルプを参照してください。

- 3b [追加]、[ファイル] の順にクリックし、次のフィールドに入力します。

[ソースファイル]：ワークステーションにコピーする MSI エンジンインストーラユーティリティを選択します（たとえば、q:\public\zenworks\instmsiw.exe）。

[ターゲットファイル]：ファイル名を含む、ファイルのコピー先のフルパス（たとえば、c:\temp\instmsiw.exe）を入力します。

- 3c [OK] をクリックしてリストにファイルを追加し、[OK] をクリックしてアプリケーションオブジェクトの情報を保存します。

- 3d Windows 2000 または Windows XP にインストールしている場合、[アプリケーションオブジェクトのプロパティ] ページで [実行オプション] タブ > [使用環境] の順にクリックし、[通常の実行] オプションを選択します。そして、[実行プログラムのセキュリティレベル] を [保護なしのシステムユーザとして実行] に設定し、[OK] をクリックしてアプリケーションオブジェクトの情報を保存します。

[関連付け] タブで [強制実行] を選択した場合、Application Launcher が起動してアプリケーションオブジェクトを利用できるようになった直後に MSI エンジンがインストールされます。

MSI エンジンにより実行可能ファイルがインストールされますが、このファイルは、デスクトップ管理エージェント MSI をインストールするために後で使用されます。MSI エンジンインストーラユーティリティは、このファイル (msiexec.exe) をワークステーションの `windows_drive:\windows_directory\system` ディレクトリにインストールします。

zfdagent.msi パッケージは、多数のファイルをインストールし、ワークステーションに対してさまざまな環境設定の変更を実行する複雑なアプリケーションです。デスクトップ管理エージェントをインストールする最も効率的な方法は、Novell Application Launcher を使ってエージェントを MSI アプリケーションとしてワークステーションに配布する方法です。Novell Application Launcher は、エージェント MSI パッケージを配布するだけでなく、Windows Installer を呼び出してワークステーションへのインストールを実行します。

ここでは、Application Launcher を使って配布するよう MSI パッケージを設定する手順について説明します。

- ◆ 106 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定」
- ◆ 107 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更」
- ◆ 108 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加」

MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定

- 1 ConsoleOne で、アプリケーションオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規] > [オブジェクト] の順にクリックして、[新規オブジェクト] ダイアログボックスを開きます。
- 2 [新規アプリケーション] ダイアログボックスで、[. MSI ファイルが含まれるアプリケーション] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 .msi ファイルをコピーしたネットワークの位置のパスを指定します。
- 4 [次へ] をクリックし、必要に応じてフィールドを変更して、アプリケーションオブジェクトをカスタマイズします。
- 5 [次へ] をクリックし、エージェント MSI の配布に先立って、ワークステーションが満たす必要のある配布ルールを定義します。
- 6 [次へ] をクリックして、Agent の MSI アプリケーションオブジェクトを、配布先であるユーザまたはワークステーションに関連付けます。
- 7 [次へ] をクリックし、アプリケーションオブジェクトの設定を確認したら、[終了] をクリックしてアプリケーションオブジェクトを作成します。

重要： エージェント MSI (または何らかの MSI パッケージ) を Novell Application Launcher を使って配布する前に、Agent の MSI アプリケーションオブジェクトが [強制キャッシュ] に設定されており、eDirectory と Active Directory (使用されている場合) で、ローカルワークステーション上のユーザのアカウント情報が同期されていることを確認することをお勧めします。

MSI アプリケーションオブジェクトの作成に関する詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「Windows Installer (.MSI) ファイルからアプリケーションオブジェクトを作成する」を参照してください。

MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更

ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントの MSI パッケージより、デフォルトで次のすべての機能がインストールされます。

- ◆ [アプリケーション管理]：Novell Application Launcher を使用することにより、管理者がインストールして管理できるワークステーションアプリケーションに、ユーザがアクセスできるようにします。

- ◆ **Workstation Manager:** 管理者が eDirectory を使って、ワークステーションを設定、管理できるようにします。
 - ◆ **ワークステーションインベントリ (Workstation Inventory):** スキャンされたワークステーションから管理者がハードウェアとソフトウェアのインベントリ情報を収集できるようにします。この機能を選択すると、Workstation Manager がデフォルトで選択されます。
 - ◆ **[リモート管理] :** 管理者が管理コンソールからリモートワークステーションを管理できるようにします。
 - ◆ **ミラードライバ:** ビデオアダプタを独立して使用し、他のリモートコントロールソリューションと共存させることができます。この機能が選択されていると、MSI インストールでは、ビデオドライバのチェックが無視され、Windows のすべてのメッセージが非表示になります。ミラードライバを必要としない場合は、選択を解除できます（最適化が無効になります）。
- 注:** Mirror Driver は、まだ Microsoft によって署名されていません。
- ◆ **ワークステーションイメージング (Workstation Imaging):** 管理者が、ワークステーションのハードドライブのイメージを取得し、それをネットワークを介して他のワークステーションに配置できるようにします。

このデフォルトのインストールを変更する場合、MSI 機能を、zfdagent.msi アプリケーションオブジェクトのパブリックプロパティとして追加できます。次の手順を使用して、インストール対象機能のリストを変更します。

- 1 アプリケーションオブジェクトの [MSI] タブの [プロパティ] ページで、[追加] をクリックして、[追加するプロパティを選択してください] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [値の名前] フィールドに、プロパティ名として「ADDLOCAL」（すべて大文字）と入力し、[値のデータ] フィールドでプロパティの値を指定します。プロパティ値として次の機能名を 1 つ以上使用します。
 - ◆ ApplicationLauncher
 - ◆ WorkstationManager
 - ◆ RemoteManagement
 - ◆ MirrorDriver（このプロパティは、RemoteManagement プロパティを追加しなければ機能しません）
 - ◆ Imaging
 - ◆ インベントリ (Inventory)

コンマ（スペースなし）で区切るにより、これらの値を 2 つ以上リストに追加できます。たとえば、Application Launcher と Workstation Manager を機能として追加する場合、プロパティとして「ADDLOCAL」と入力し、そのプロパティの値として ApplicationLauncher と WorkstationManager を入力します。

- 3 [OK] をクリックして、プロパティを [プロパティ] リストに追加します。

Agent の MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加

次の表に、変更可能なその他のプロパティとその値（値に対する定義を含む）の一覧を示しています。この表に示されるプロパティで値が指定されていない場合、MSI パッケージはデフォルト値を使用します。

プロパティ	値	意味
ADDLOCAL	<ul style="list-style-type: none"> ◆ WorkstationManager ◆ ApplicationLauncher ◆ RemoteManagement ◆ MirrorDriver ◆ インベントリ (Inventory) ◆ Imaging 	インストールする機能をカンマで区切った一覧。
LOGIN_PASSIVE_MODE	0	ユーザログイン時に Novell ログインを表示します。
	1	デフォルトです。ユーザログイン時に標準の Microsoft ログインを表示します。
	注： ダイナミックローカルユーザを使用する場合、このプロパティに、値ゼロ (0) を割り当てる必要があります。	
EDITABLE_MT_ADDRESS	1	認証が行われる ZENworks Middle Tier の IP アドレスをユーザが変更できるようにします。Novell Client がインストールされていない場合のみ利用できます。
	0	デフォルトです。ユーザは Middle Tier のアドレスを指定することができません。
	このプロパティ用の値は、Novell Client がワークステーションにインストールされていない場合のみ有効です。Novell Client がすでにインストールされている場合、zfdagent.msi をインストールしてもその設定は有効になりません。 zfdagent.msi のインストール後に Novell Client が削除されると、これらの設定は有効になります。	
STARTUP_APPEXPLORER	1	Windows 起動時に Application Explorer を起動します。
	0	デフォルトです。Windows 起動時に Application Explorer を起動しません。
STARTUP_APPWINDOW	1	Windows 起動時に Application Window を起動します。
	0	デフォルトです。Windows 起動時に Application Window を起動しません。
MT_SERVER_ADDRESS	このプロパティは、ZENworks Middle Tier Server の IP アドレスまたは DNS 名を指定します。Middle Tier Server を使用していない場合、このプロパティを指定する必要はありません。	
HTTP_PORT	0-65536	このプロパティは、Middle Tier Server と通信する場合にデスクトップ管理エージェントによって使用される HTTP ポートを指定します。Middle Tier Server を使用している場合、このプロパティを追加して、その値を定義する必要があります。
	80	デフォルトの HTTP ポートです。

プロパティ	値	意味
NAL_SINGLE_TREE	1	Novell Application Launcher が、1 つのツリー内のアプリケーションにしかアクセスできないよう制限します。
	0	デフォルトです。Application Launcher がアプリケーションにアクセスするのに複数のツリーにアクセスできるようにします。
ZENWORKS_TREE	任意のツリー名	<p>このプロパティにより、eDirectory ツリーを ZENworks ツリーとして使用するよう指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Workstation Manager がインストールされている場合、このプロパティで指定されたツリーが、Workstation Manager によるポリシーの検索対象ツリーになります。 ◆ NAL_SINGLE_TREE プロパティが設定され、Novell Application Launcher がインストールされている場合、このツリーは、Application Launcher がアプリケーションを検索する唯一のツリーになります。

手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール

一度に 1 つのワークステーションをインストールする場合、手動で zfdagent.msi をインストールすることができます。詳細については、[100 ページの「手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール」](#)を参照してください。

手動でコマンドラインパラメータおよび MSI インストールプロパティを入力した場合、パラメータフィールドの表示例は次のようになります。

```
/i zfdagent.msi /qb STARTUP_APEXPLOER=1
```

アプリケーションオブジェクトの [パラメータ] フィールドには、行の長さに関する制限が設定されているため、多数の MSI インストールプロパティを追加できない場合があります。この制限を回避するには、次に示す 2 つの方法のいずれかを実行します。

- ◆ InstallShield* AdminStudio ZENworks Edition を使用して、.mst ファイルを作成します。

InstallShield AdminStudio の使用に関する詳細については、『[InstallShield AdminStudio ZENworks Edition インストールガイド](#)』を参照してください。

- ◆ Microsoft MSI エディタ (orca.exe) を使用することにより、zfdagent.msi ファイルのプロパティテーブルを編集して、必要になるすべてのデスクトップ管理エージェント MSI インストールプロパティを追加します。新たに追加されたすべてのプロパティを含む、編集済みの MSI をインストールすることができます。

orca.exe のインストール方法と使用方法に関する詳細については、[Microsoft サポート Web サイト \(http://support.microsoft.com\)](#) の [マイクロソフト サポート技術情報 255905 \(http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=KB;en-us;255905&\)](#) を参照してください。

19

ZENworks for Desktops 4.xからのアップグレード

次の節では、Novell® ZENworks® for Desktops 4 SP1b または ZENworks for Desktops 4.0.1（以下では2つとも ZENworks for Desktops 4.x と表記）から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする際に役立つ情報について説明します。正しくアップグレードするには、次の順序で作業を行います。

1. 247 ページの「ZENworks 6.5 をインストールするための前提条件の確認」
2. 247 ページの「eDirectory の確認」
3. 248 ページの「eDirectory スキーマの拡張」
4. 250 ページの「ConsoleOne のアップグレード」
5. 251 ページの「ZENworks for Desktop 4.x Server のアップグレード」
6. 268 ページの「Middle Tier Server のアップグレード」
7. 273 ページの「ワークステーションのアップグレード」

ZENworks 6.5 をインストールするための前提条件の確認

ネットワークのワークステーションおよびサーバが必要な前提条件を満たしていることを確認します。詳細については、27 ページの「準備」を参照してください。

eDirectory の確認

ZENworks 6.5 の属性を使ってディレクトリスキーマを拡張する前と後の両方について、eDirectory™ ツリーの状態を確認する必要があります。状態の確認に必要な情報については、次のリソースを参照してください。

- ◆ Novell Support Web サイトから利用可能な、Directory Health Check Procedures - Cross Platform - TID 10060600 (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10060600.htm>)
- ◆ Novell Support Web サイトから利用可能な、Checking the OS and DS Health for Inconsistent ZENworks behavior - TID 10062741 (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10062741.htm>)
- ◆ eDirectory Cool Solutions (<http://www.novell.com/cool solutions/nds>)

eDirectory スキーマの拡張

ZENworks 6.5 Desktop Management インストールプログラムによって、新しい ZENworks 6.5 の属性に合わせて eDirectory スキーマが拡張されます。このスキーマ拡張は追加形式であり、Zfd 4. x の拡張は削除されません。スキーマ拡張は元に戻すことができない処理です。

ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールは、サポートされているバージョンの Windows および Novell Client™ がインストールされているワークステーションで実行する必要があります。3 章 29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」を参照してください。

- 1 インストールを実行するワークステーションから、スキーマを拡張する eDirectory ツリーに対して管理者権限を持つユーザとして eDirectory で認証を受けます。
- 2 Novell ZENworks 6.5 Desktop Management CD をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 6.5 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell® ZENworks® 6.5		バージョン 6.5	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバーの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバーへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
		→ 終了	

- 3 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks Desktop Management] ページを表示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management		バージョン 6.5	N
スキーマの拡張と製品のライセンスリング	Novell eDirectoryツリーのスキーマを拡張し、ZENworks Desktop Managementをサポートします。また、ライセンスコードをインストールします。		
Desktop Management Services	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、デスクトップ、ワークステーション、およびラップトップを管理します。		
Middle Tier Server	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、Desktop Management AgentとDesktop Management Serviceとの間の要求を処理します。		
Desktop Management Agents	ワークステーション上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、アプリケーションの配布およびデスクトップ管理を行います。Microsoft Windows Installerが必要です。		
Documentation	Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
		戻る 終了	

- 4 [Schema Extensions and Product Licensing(スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] を選択して、スキーマ拡張プログラムを起動します。
- 5 [ソフトウェア使用許諾契約] ダイアログボックスで、[受諾] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [オブジェクト作成用 eDirectory ツリー] ダイアログボックスで、スキーマを拡張するツリーを選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [ZENworks ライセンス] ダイアログボックスで、ZENworks ソフトウェアに添付されているライセンスコードを入力し、[次へ] をクリックします。
ライセンスコードがない場合でも、ZENworks ソフトウェアをインストールできます。ソフトウェアのすべての機能がインストールされ、90 日間の評価期間中、使用できます。この評価期間中、または評価期間後に、もう一度インストールプログラムを実行し、[Schema Extensions and Product Licensing(スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] オプションを使用してライセンスコードを入力できます。
- 8 [インストール概要] ダイアログボックスで、[完了] をクリックしてスキーマを拡張します。
- 9 (省略可能) [ZENworks Schema Extension completion(ZENworks スキーマ拡張の完了)] ダイアログボックスで、[ログファイルの表示] をクリックして適用された拡張を確認します。
- 10 [ZENworks Schema Extension completion(ZENworks スキーマ拡張の完了)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- 11 eDirectory の状態確認を実行します。247 ページの「eDirectory の確認」を参照してください。

ConsoleOne のアップグレード

ZENworks 6.5 Desktop Management を使用するには、ConsoleOne® バージョン 1.3.6 が必要です。

ZfD 4.x では、サーバに ZfD 4.x スナップインをインストールするために、ZfD 4.x Server に ConsoleOne がインストールされている必要がありました。必要に応じて、ワークステーションから ConsoleOne を実行するために、ConsoleOne ディレクトリをサーバからワークステーションにコピーできます。

ZENworks 6.5 では、デスクトップ管理スナップインを Desktop Management Server 上の ConsoleOne ディレクトリと、ローカルワークステーション上の ConsoleOne ディレクトリの両方にインストールできます。デフォルトでは、スナップインはサーバを 4.x から 6.5 にアップグレードするときにサーバにインストールされます。

ConsoleOne をバージョン 1.3.6 にアップグレードするときには、次の点を確認する必要があります。

- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management の管理に使用するすべての場所にインストールします。
- ◆ 少なくとも 1 つの ConsoleOne のインストールには、ZfD 4.x スナップインを残しておきます。これによって、アップグレード処理中に ZfD 4.x を管理し続けることができます。

ConsoleOne をアップグレードするには

- 1 (省略可能) ZfD 4.x スナップインを含む ConsoleOne のインストールのコピーを少なくとも 1 つ作成します。

ConsoleOne 1.3.6 は ZfD 4.x スナップインをサポートしています。このスナップインを含む現在の ConsoleOne のコピーを作成するか、このスナップインを含む ConsoleOne 1.3.6 のコピーを作成する (**ステップ 3** を参照) か、またはその両方を実行するかを選択できます。

たとえば、ZfD 4.x Server に ConsoleOne 1.3.5 がインストールされており、ZfD 4.x スナップインが `sys:\%public%\mgmt%\consoleone\1.2` ディレクトリにあるときに、このインストールのコピーを保持したい場合は、`sys:\%public%\mgmt%\consoleone%\zfd4` ディレクトリを作成し、1.2 ディレクトリのすべてのファイルおよびサブディレクトリを `zfd4` ディレクトリにコピーします。

- 2 ConsoleOne 1.3.6 をローカルワークステーションまたは ZfD 4.x Server にインストールします。手順は次のとおりです。
 - 2a *Novell ZENworks 6.5 Companion 1* CD をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 6.5 インストールプログラムを自動実行します。
インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから `winsetup.exe` を起動します。
 - 2b [Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択します。
 - 2c [Novell ConsoleOne] を選択して、ConsoleOne 1.3.6 インストールプログラムを起動します。
 - 2d 画面の指示に従って、ConsoleOne を `...\%consoleone%\1.2` ディレクトリにインストールします。

インストールが完了すると、...¥console¥1.2 ディレクトリには ConsoleOne 1.3.6 が保存されています。ConsoleOne を ZfD 4.x スナップインがある場所にインストールした場合は、4.x スナップインも機能します。

- 3 (省略可能) ZfD 4.x スナップインを含む ConsoleOne 1.3.6 のコピーを保持する場合は、**ステップ 2** で作成したインストールを別の場所にコピーします。

重要: ZfD 4.x がインストールされている eDirectory ツリーを管理する場合は、ConsoleOne と ZfD 4.x スナップインを使用する必要があります。ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされている eDirectory ツリーを管理する場合は、ConsoleOne と ZENworks 6.5 スナップインを使用する必要があります。

6.5 スナップインを使用して ZENworks 4.x オブジェクトを管理しようとする、6.5 のライセンスがすでにインストールされていてもインストールを要求され、ZENworks のプロパティページを管理できません。

ZENworks for Desktop 4.x Server のアップグレード

ZENworks 6.5 Desktop Management Server インストールプログラムを使用することによって、ZfD 4.x Server をアップグレードします。

アプリケーション管理 (Application Management)、ワークステーション管理 (Workstation Management)、リモート管理 (Remote Management)、およびワークステーションイメージング (Workstation Imaging) コンポーネントのアップグレード処理は非常に容易で、アップグレード時に計画しなければならない点はほとんどありません。

ワークステーションインベントリ (Workstation Inventory) のアップグレード処理は、インベントリソフトウェアおよびデータベースを使用するサーバの数によって、複雑になる場合があります。

次の 2 つの節の説明に従って、インベントリのアップグレードと残りのアップグレードを別に計画することをお勧めします。

- ◆ **251 ページの「アプリケーション管理、ワークステーション管理、リモート管理、およびワークステーションイメージングのアップグレード」**
- ◆ **260 ページの「ワークステーションインベントリのアップグレード」**

アプリケーション管理、ワークステーション管理、リモート管理、およびワークステーションイメージングのアップグレード

ZENworks 6.5 アプリケーション管理、ワークステーション管理、リモート管理、およびワークステーションイメージングソフトウェアを使用して、ZfD 4.x Server をアップグレードするには、次の節で説明する手順に従います。

- ◆ **252 ページの「ソフトウェアのインストール」**
- ◆ **254 ページの「アプリケーション管理のアップグレードの完了」**
- ◆ **258 ページの「ワークステーション管理のアップグレードの完了」**
- ◆ **258 ページの「リモート管理のアップグレードの完了」**
- ◆ **259 ページの「ワークステーションイメージングのアップグレードの完了」**

ZENworks 6.5 ワークステーションインベントリを使用して、ZfD 4.x Server をアップグレードする手順については、**260 ページの「ワークステーションインベントリのアップグレード」**を参照してください。

アップグレードインストールの手順は新規インストールの場合と同じです。次の手順では、インストールプログラムを起動し、アップグレード特有の項目を選択する必要がある部分についてのみ説明します。インストールの詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

- 1 インストールを実行するワークステーションから、ZENworks 6.5 用にスキーマを拡張した eDirectory に対して管理者権限を持つユーザとして eDirectory で認証を受けます。248 ページの「eDirectory スキーマの拡張」を参照してください。
- 2 Novell ZENworks 6.5 Desktop Management CD をワークステーションの CD ドライブに挿入し、ZENworks 6.5 インストールプログラムを自動実行します。

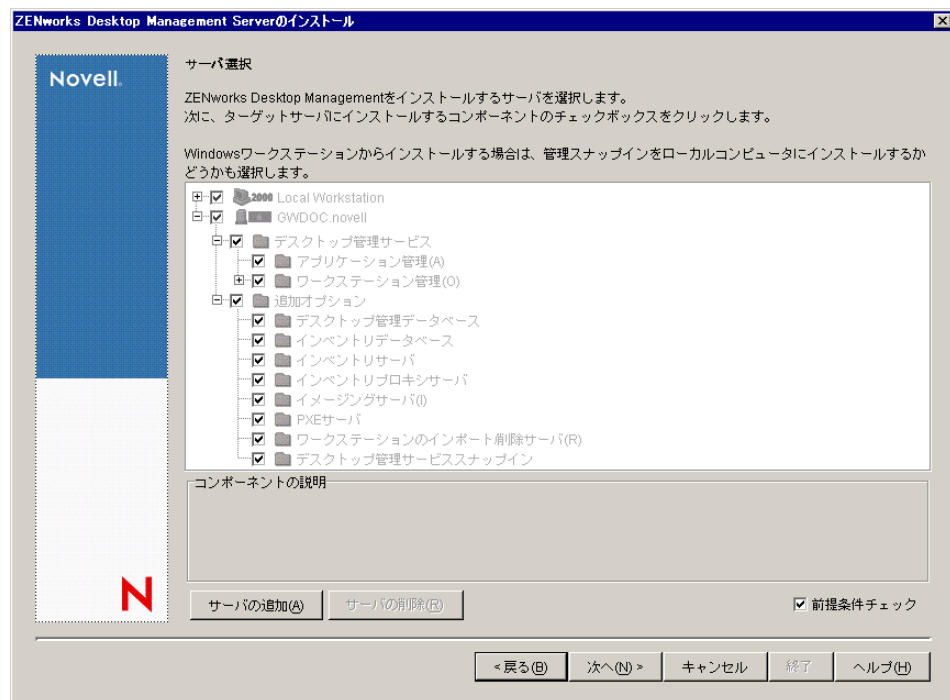
インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell ZENworks 6.5		バージョン 6.5	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバーの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバーへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
		→ 終了	

- 3 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks Desktop Management] ページを表示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management		バージョン 6.5	N
スキーマの拡張と製品のライセンスリング	Novell eDirectoryツリーのスキーマを拡張し、ZENworks Desktop Managementをサポートします。また、ライセンスコードをインストールします。		
Desktop Management Services	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、デスクトップ、ワークステーション、およびラップトップを管理します。		
Middle Tier Server	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、Desktop Management AgentとDesktop Management Serviceとの間の要求を処理します。		
Desktop Management Agents	ワークステーション上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、アプリケーションの配布およびデスクトップ管理を行います。Microsoft Windows Installerが必要です。		
Documentation	Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
		<< 戻る → 終了	

- 4 [デスクトップ管理サービス] を選択して、ZENworks Desktop Management Server インストールプログラムを起動します。
- 5 画面の指示に従ってアップグレードするサーバを追加し、次のように [サーバ選択] ページを表示しておきます。



6 サーバにインストールしないコンポーネントの選択を解除します。

たとえば、ワークステーションインベントリをまだアップグレードしない場合は、[インベントリデータベース]、[インベントリサーバ]、および [インベントリプロキシサーバ] の選択を解除します。コンポーネントを選択すると、[コンポーネントの説明] ボックスに説明が表示されます。

7 (省略可能) インストールプログラムで、ターゲットサーバが ZENworks 6.5 の前提条件を満たしているかどうかを確認しない場合は、[前提条件チェック] オプションの選択を解除します。

[前提条件チェック] オプションを選択したときに、ターゲットサーバが前提条件を満たしていない場合は、サーバをアップグレードするか、このオプションの選択を解除してインストールプログラムを再実行するまで、そのサーバに対してインストールは実行されません。

8 [次へ] をクリックし、画面の指示に従ってソフトウェアをインストールします。

9 次の節の手順に従って、アップグレード処理を完了します。

- ◆ 254 ページの「アプリケーション管理のアップグレードの完了」
- ◆ 258 ページの「ワークステーション管理のアップグレードの完了」
- ◆ 258 ページの「リモート管理のアップグレードの完了」
- ◆ 259 ページの「ワークステーションイメージングのアップグレードの完了」

アプリケーション管理のアップグレードの完了

次の節では、ZENworks Desktop Management のアプリケーション管理コンポーネントのアップグレードを完了するための手順を説明します。

- ◆ 254 ページの「ターミナルサーバアプリケーションの管理」
- ◆ 256 ページの「システム要件から配布ルールへの移行」

ZENworks 6.5 Desktop Management のアプリケーション管理の新機能については、[17 章 199 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management の変更点と新機能」](#)を参照してください。

ターミナルサーバアプリケーションの管理

ZENworks 6.5 では、次の一覧表に示されているように、ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバアプリケーションで利用できた一部の機能が削除され、いくつかの新機能が追加されています。

削除された機能	追加された機能
RDP アプリケーション：	RDP アプリケーション：
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 圧縮 ◆ シームレスウィンドウ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 色の定義 (256 色、ハイカラー 15 ビット、ハイカラー 16 ビット、およびハイカラー 24 ビット) ◆ リモートデスクトップサイズの定義 (解像度の設定) ◆ サーバの RDP ポートの定義 ◆ サーバのドメインの定義
	ICA アプリケーション：
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトからではなく、Citrix から読み込んだすべての設定による Citrix 機能のフルサポート
	RDP および ICA アプリケーション：
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks ダイナミックローカルユーザポリシーのサポート

重要： この情報は、ZENworks 6 DeFrame™ には該当しません。ターミナルサーバアプリケーションソリューションとして ZENworks 6 DeFrame を使用している場合は、[21 章 279 ページの「ZENworks 6 DeFrame からのアップグレード」](#)のアップグレード情報を参照してください。

このような変更の結果として、アップグレード時に次の点に注意する必要があります。

- ◆ **デスクトップ管理エージェント：** デスクトップ管理エージェントのサポートは次のとおりです。
 - ◆ ZfD 4. x 管理エージェントは、ZfD 4. x のターミナルサーバアプリケーションでのみ機能します。この管理エージェントは、ZENworks 6.5 のターミナルサーバアプリケーション (ConsoleOne の ZENworks 6.5 スナップインで作成したターミナルサーバのアプリケーションオブジェクト) では機能しません。
 - ◆ ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントは、ZfD 4. x と ZENworks 6.5 のどちらで作成したターミナルサーバアプリケーションでも機能します。
- ◆ **ConsoleOne：** ConsoleOne のサポートは次のとおりです。
 - ◆ ZfD 4. x ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトは、ConsoleOne の ZENworks 6.5 スナップインを使用して管理できません。ZfD 4. x ターミナルサーバのプロパティは eDirectory 内に存在していますが、ZENworks 6.5 スナップインでは表示されません。ZfD 4. x ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトを管理するには、ConsoleOne の ZfD 4. x スナップインを使用する必要があります。
 - ◆ ZENworks 6.5 ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトは、ConsoleOne の ZfD 4. x スナップインを使用して管理できません。ZfD 4. x スナップインでは、ZENworks 6.5 ターミナルサーバのプロパティは表示されません。

前に示した詳細に基づいて、円滑に移行するために次の手順に従うことをお勧めします。

- 1 すべてのワークステーションを ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントにアップグレードするまでは (273 ページの「ワークステーションのアップグレード」を参照)、既存のすべての ZfD 4. x ターミナルサーバアプリケーションを保持し、ConsoleOne の ZfD 4. x スナップインを使用して新しいターミナルサーバアプリケーションを作成します。これによって、ワークステーションにインストールされているデスクトップ管理エージェントのバージョンに関係なく、すべてのユーザが引き続きターミナルサーバアプリケーションにアクセスできます。
- 2 すべてのアプリケーションを ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントにアップグレードした後、ConsoleOne の ZENworks 6.5 スナップインを使用して、手動で ZfD 4. x ターミナルサーバアプリケーションを再作成します。

ZfD 4. x ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトから、ZENworks 6.5 ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトに情報を移動するための自動的な移行処理はありません。ZfD 4. x のアプリケーションオブジェクトを ZENworks 6.5 のアプリケーションオブジェクトとして手動で再作成するには

 - 2a ConsoleOne で、アプリケーションオブジェクトの作成先のコンテナを右クリックします。次に、[新規] をクリックし、[アプリケーション] をクリックします。
 - 2b [新しいアプリケーションオブジェクト] ダイアログボックスで、[ターミナルサーバアプリケーション] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。
 - 2c 画面の指示に従ってアプリケーションオブジェクトの作成を完了します。

ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトの作成については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「配布：ターミナルサーバアプリケーション」にある「eDirectory でのアプリケーションの設定」を参照してください。
- 3 新しい ZENworks 6.5 ターミナルサーバアプリケーションを作成した後、古い ZfD 4. x ターミナルサーバアプリケーションを削除します。

または

ワークステーションで ZfD 4. x デスクトップ管理エージェントを実行し続けることによって環境内の Windows NT 4.0 ワークステーションをサポートする場合は、ZfD 4. x ターミナルサーバアプリケーションを削除しないでください。ZfD 4. x と ZENworks 6.5 の両方のバージョンを保持し、ConsoleOne のそれぞれに対応する ZENworks スナップインを使用して各バージョンを管理する必要があります。

システム要件から配布ルールへの移行

ZfD 4. x のシステム要件は、強化された機能を反映し、以前のシステム要件と区別するために、配布ルールという名前に変更されました。ZENworks 6.5 の配布ルールは、AND/OR のブール演算子と要件のグループ化を使用することによって、より柔軟な配布の条件をサポートしています。ZfD 4. x では、すべてのシステム要件について AND 演算子が使用され、要件をグループ化する機能はありませんでした。

ZENworks 6.5 (またはそれ以降の) バージョンの Novell Application Launcher™ のみ、配布ルールで新しい演算子のロジックおよびグループ化を処理できます。したがって、ZfD 4. x Application Launcher との後方互換性を維持するために、既存のシステム要件は、eDirectory ツリーのスキーマをアップグレードする際に、レガシーシステム要件として保持されます。ZfD 4. x Application Launcher と ZENworks 6.5 Application Launcher はどちらもレガシーシステム要件を処理できるので、ユーザは、使用する Application Launcher のバージョンに関係なく、レガシーシステム要件のアプリケーションを使用し続けることができます。

レガシーシステム要件から配布ルールに移行する場合は、次の点に注意する必要があります。

- ◆ 配布ルールは、アプリケーションオブジェクトの「[配布ルール] ページ (アプリケーションオブジェクト > [可用性] タブ > [配布ルール] ページ)」で定義されます。
- ◆ レガシーシステム要件は、「[配布ルール] ページで、[レガシー] ボタンをクリックし、[レガシー設定を編集する] をクリックすることによって利用できます。このオプションを使用して、既存のレガシーシステム要件を編集したり、新しいレガシーシステム要件を追加したりできます。たとえば、ZfD 4.x Application Launcher を実行しているワークステーションで利用できる新しいアプリケーションオブジェクトを作成するような場合です。
- ◆ レガシーシステム要件を持ち、配布ルールを持たないアプリケーションの「[配布ルール] ページにアクセスすると、要件を配布ルールにインポートするかどうかを確認するメッセージが表示されます。要件をインポートしないことを選択した場合でも、後で「[配布ルール] ページの「[レガシー設定をインポートする] オプションを使用してインポートできます。
- ◆ レガシーシステム要件を配布ルールにインストールするか、手動で配布ルールを定義すると、ZENworks 6.5 Application Launcher では配布ルールだけが処理されます。レガシーシステム要件は無視されます。ただし、ZfD 4.x Application Launcher では、新しい配布ルールは認識されないため、レガシーシステム要件が処理されます。したがって、配布ルールを使用し、ワークステーションで ZfD 4.x Application Launcher も実行する場合は、配布ルールのリストとレガシーシステム要件のリストの両方を維持する必要があります。
- ◆ 配布ルールに対する変更内容は、レガシーシステム要件には追加されません。同様に、レガシーシステム要件に対する変更内容は配布ルールに追加されません。
- ◆ 配布ルールを定義し、レガシーシステムルールをインポートする場合、既存の配布ルールはレガシーシステムルールによって上書きされます。
- ◆ アプリケーションが利用できるようになる前に定義されていたオペレーティングシステムの要件は削除されます。ZfD 4.x では、アプリケーションを配布および起動できるようにするには、システム要件で OS プラットフォームを定義しておく必要があります。この要件は削除されました。新しい動作では次のようなロジックが使用されます。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムのみで実行する場合、オペレーティングシステムの配布ルールを定義する必要があります。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムを必要としない場合は、配布ルールを定義する必要はありません。オペレーティングシステムの配布ルールが定義されていないアプリケーションはデフォルトで、サポートの対象になるすべてのプラットフォーム (Windows 98、Windows 2000、および Windows XP) で利用できます。

このような詳細を考慮して、システム要件から配布ルールへの円滑な移行のために次の手順をお勧めします。

- 1 各アプリケーションオブジェクトについて、レガシーシステムルールを配布ルールにインポートします。必要に応じて、ルールを変更します。
- 2 ZfD 4.x Application Launcher を使用するワークステーションをサポートするために、レガシーシステム要件を保持します。
- 3 アプリケーションの配布条件が変更された場合は、配布ルールとレガシーシステム要件の両方を変更し、ZENworks 6.5 と ZfD 4.x の両方の Application Launcher が配布条件を適用できるようにします。

- すべてのワークステーションが ZENworks 6.5 Application Launcher にアップグレードされた後 (273 ページの「ワークステーションのアップグレード」を参照)、レガシーシステム要件を削除します。

または

ワークステーションで ZfD 4.x デスクトップ管理エージェントを実行し続けることによって環境内の Windows NT 4.0 ワークステーションをサポートする場合は、レガシーシステム要件を削除しないでください。レガシーシステム要件と配布ルールの両方を保持する必要があります。

配布ルールとレガシーシステム要件の詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」の「[配布ルール] ページ」を参照してください。

ワークステーション管理のアップグレードの完了

eDirectory ツリーを ZENworks 6.5 Desktop Management スキーマに合わせて拡張したときに (248 ページの「eDirectory スキーマの拡張」を参照)、新しい ZENworks 6.5 ポリシー属性が追加されています。既存の ZfD 4.x のポリシーは ZENworks 6.5 のポリシーに移行され、ZENworks 6.5 スナップインで管理できます。ポリシーをアップグレードするために、その他のアクションは必要ありません。

ZfD 4.x Workstation Manager は、ZENworks 6.5 ポリシーを適用し続けます。ただし、新しいポリシー機能は、ワークステーションが ZENworks 6.5 Workstation Manager にアップグレードされるまでは利用できません。このアップグレードは、ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントをインストールするときに実行されます。239 ページの「管理対象ワークステーションのアップグレード」を参照してください。

ワークステーション管理の新機能については、17 章 199 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management の変更点と新機能」を参照してください。

ZENworks 6.5 のポリシーの管理および使用の詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーション管理」を参照してください。

リモート管理のアップグレードの完了

eDirectory ツリーのスキーマを ZENworks 6.5 用に拡張し、ConsoleOne 1.3.6 および ZENworks 6.5 デスクトップ管理スナップインをインストールした後、ConsoleOne 1.3.6 のリモート管理機能を使用して、ZfD 4.x または ZENworks 6.5 リモート管理エージェントがインストールされたワークステーションでリモート操作を実行できます。

スタンドアロンリモート管理コンソールを使用している場合、ZfD 4.x リモート管理コンソールを使用し続けることも、ZENworks 6.5 リモート管理コンソールにアップグレードすることもできます。リモート管理コンソールは、Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD に収められています。リモート管理コンソールをインストールするには、CD 上の winsetup.exe を起動し、[Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択します。次に、[詳細] ボタンをクリックし、[Inventory and Remote Management Console (インベントリとリモート管理コンソール)] を選択します。

リモート管理をアップグレードするために、その他のアクションは必要ありません。

リモート管理の新機能については、17 章 199 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management の変更点と新機能」を参照してください。

リモート管理の使用の詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「リモート管理」を参照してください。

ワークステーションイメージングのアップグレードの完了

ZfD 4.x Server を ZENworks 6.5 にアップグレードした後、ワークステーションイメージングのアップグレードを完了するには、次の作業を行います。

- ◆ 259 ページの「スタンドアロンイメージングサーバのアップグレード」
- ◆ 259 ページの「ワークステーションイメージングエンジンのアップグレード」

ワークステーション管理の新機能については、17 章 199 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management の変更点と新機能」を参照してください。

ZENworks 6.5 のポリシーの管理および使用の詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

スタンドアロンイメージングサーバのアップグレード

スタンドアロンイメージングサーバを使用している場合は、インストールプログラムを実行して、サーバ上のイメージングソフトウェアをアップグレードする必要があります。252 ページの「ソフトウェアのインストール」の手順に従ってください。
[Software Selection(ソフトウェア選択)] ページが表示されたら、[イメージングサーバ] と [PXE サーバ] を除くすべてのオプションの選択を解除します。

ワークステーションイメージングエンジンのアップグレード

ZfD 4.x イメージングエンジンは、ZENworks 6.5 イメージングサーバと通信できません。ワークステーション上のイメージングエンジンをアップグレードする方法は、使用するイメージングブート方法によって異なります。

- ◆ **起動前サービス (Preboot Services) (PXE)：**必要な操作はありません。ワークステーションのイメージングエンジンは、次回、イメージングエンジンが ZENworks 6.5 イメージングサーバにアクセスしたときに ZfD 4.x から ZENworks 6.5 に更新されます。
- ◆ **Linux パーティション：**必要な操作はありません。ワークステーションのイメージングエンジンは、次回、イメージングエンジンが ZENworks 6.5 イメージングサーバにアクセスしたときに ZfD 4.x から ZENworks 6.5 に更新されます。

ZENworks 6.5 では、Linux パーティションは最低 50MB でなければならないことに注意してください。ワークステーションの Linux パーティションがこのサイズを下回っている場合は、パーティションのサイズを変更するか、代わりに起動前サービスを使用する必要があります。Linux パーティションの使用から起動前サービスへの変更については、260 ページの「Linux パーティションから起動前サービスへの移行」を参照してください。

- ◆ **ブートCDまたはディスク：**ZENworks 6.5 ソフトウェアを使用して新しいブートCDを作成します。手順については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーションイメージング」の「イメージングブート方法の準備」を参照してください。

Linux パーティションから起動前サービスへの移行

起動前サービス (PXE) に移行して、ワークステーションの Linux パーティションを使用しないようにする場合は、次の手順に従ってください。

- 1 ネットワークサーバに ZENworks 6.5 起動前サービスがインストールされていることを確認します。

詳しいインストールの手順については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「**ワークステーションイメージング**」の「**イメージングサーバの準備**」を参照してください。
- 2 起動前サービスがネットワークカードで提供されている PXE、または psetupn.exe を使用して作成した PXE ブート可能フロッピーディスクのいずれかから機能していることを確認します。
- 3 ConsoleOne で、Linux パーティションを無効にします。手順は次のとおりです。
 - 3a サーバポリシーパッケージオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックして、サーバポリシーパッケージのプロパティを表示します。
 - 3b [一般] ページ ([ポリシー] タブ > [一般] ページ) で、[ZENworks Imaging Policy (ZENworks イメージングポリシー)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。
 - 3c [Work To Do] タブ > [イメージングパーティション] の順にクリックし、[イメージングパーティション] ページを表示します。
 - 3d [ZENworks イメージングパーティションがある場合は無効化する] オプションを選択して、このオプションを有効にします。
 - 3e [OK] をクリックして、[イメージングパーティション] ページを閉じます。
- 4 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

Linux パーティションは、ワークステーションのハードドライブでブート可能でないパーティションになります。Linux パーティションを削除する場合は、ワークステーション上のベースイメージを復元し、イメージオブジェクト内の既存の Linux パーティションを削除するオプションを選択します。このオプションは、サーバポリシーパッケージまたはワークステーションポリシーパッケージで参照できます。

ワークステーションインベントリのアップグレード

ワークステーションインベントリを ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 6.5 にアップグレードするには、次の作業を示されている順序で実行します。

1. 261 ページの「**アップグレードを実行する前に確認すべき事項**」の情報を確認します。
2. 262 ページの「**アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業**」の説明に従って作業を行います。
3. 264 ページの「**ZENworks for Desktops 4.x インベントリデータベースのアップグレード**」の説明に従って作業を行います。
4. 265 ページの「**ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバのアップグレード**」の説明に従って作業を行います。
5. 266 ページの「**手動での ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシーの移行**」の説明に従って作業を行います。
6. 267 ページの「**データベース移行後の作業**」の説明に従って作業を行います。

アップグレードを実行する前に確認すべき事項

ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリコンポーネントを ZENworks 6.5 にアップグレードする前に、次の節で説明されている点を確認します。

- ◆ 261 ページの「Inventory Server」
- ◆ 261 ページの「Inventory Agent」
- ◆ 262 ページの「管理コンソール」

Inventory Server

- ◆ ZENworks 6.5 インベントリサーバと ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバは同じ eDirectory ツリーに共存させることができます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバはインベントリデータを ZENworks 6.5 インベントリサーバにロールアップできますが、ZENworks 6.5 インベントリサーバはインベントリデータを ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバにロールアップできません。

インベントリデータをロールアップする場合は、ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバを上階層から順に ZENworks 6.5 にアップグレードする必要があります。最初にルートサーバ、次に中間サーバ、最後にリーフサーバをアップグレードします。

- ◆ ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバおよび ZENworks 6.5 インベントリサーバはどちらも、ZENworks 6.5 にアップグレードした ZENworks for Desktops 4. *x* ロールアップポリシーを使用できます。
- ◆ ZENworks 6.5 インベントリデータベースを直接 ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバに接続しないでください。同様に、ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリデータベースを直接 ZENworks 6.5 インベントリサーバに接続しないでください。インベントリサーバとそのデータベースは同時にアップグレードします。サポートされるデータベース (Sybase、Oracle、および MS SQL) はすべて移行できますが、ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールでは Sybase データベースのみが自動的にアップグレードされます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバと ZENworks 6.5 インベントリサーバで、同じインベントリデータベースに直接インベントリデータを格納しないでください。
- ◆ ZENworks 6.5 インベントリサーバは ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバの .zip ファイルを処理できます。
- ◆ インベントリサーバを ZENworks 6.5 にアップグレードした後、ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバの SCANDIR ディレクトリにある ZENworks for Desktops 4. *x* の .str および .zip ファイルを削除しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバを ZENworks 6.5 にアップグレードしても、インベントリサーバの役割は変更されません。

Inventory Agent

- ◆ ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリエージェントは、ZENworks 6.5 インベントリサーバにインベントリデータを送信できます。つまり、データを ZENworks 6.5 インベントリデータベースに格納できます。

ZENworks 6.5 インベントリエージェントは、ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリサーバにインベントリデータを送信できません。つまり、データを ZENworks for Desktops 4. *x* インベントリデータベースに格納できません。

インベントリサーバおよびデータベースをアップグレードするまで、ZENworks 6.5 インベントリエージェントをアップグレードしないでください (273 ページの「**ワークステーションのアップグレード**」を参照)。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.x インベントリエージェントおよびZENworks 6.5 インベントリエージェントはいずれも、ZENworks 6.5 にアップグレードされた ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシー、または ZENworks 6.5 デスクトップ管理スナップインで作成された ZENworks 6.5 インベントリポリシーを使用できます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x エージェントをワークステーションイメージングでインストールまたはアップグレードする場合は、必ず、未登録の ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションでイメージを取得してください。

管理コンソール

- ◆ ConsoleOne の ZENworks 6.5 デスクトップ管理スナップインを使用して、ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 6.5 の両方のインベントリデータとインベントリオブジェクト (インベントリサービスオブジェクト、データベースオブジェクト、ワークステーションインベントリポリシー、ロールアップポリシー、ディクショナリ更新ポリシー、データベースの場所ポリシーなど) を管理できます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x ConsoleOne スナップインを使用して、ZENworks 6.5 Desktop Management のインベントリデータやインベントリオブジェクトを管理することはできません。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x および ZENworks 6.5 Desktop Management の両方のコンソールを使用して同じ ZENworks for Desktops 4.x インベントリオブジェクトを設定しないでください。

アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業

261 ページの「**アップグレードを実行する前に確認すべき事項**」の説明を確認してから、ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする前に、次の作業を実行する必要があります。

1. Inventory Service を停止します。
 - ◆ NetWare インベントリサーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「**sys:¥system¥invstop.ncf**」と入力します。

注：Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、sys:¥system¥invstop.ncf ファイルで `Unload dbsrv8.nlm` 行をコメント化します。
 - ◆ Windows 2000 インベントリサーバの場合：コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell インベントリサービス] を選択して [停止] をクリックします。
2. インベントリデータベースを停止します。

Sybase インベントリデータベースを停止するには

- ◆ NetWare の場合：Sybase コンソールのプロンプトで、<Q> キーを押します。
- ◆ Windows 2000 の場合：コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して、[停止] をクリックします。

3. ZENworks Web サーバを停止します。

- ◆ Windows NT の場合：[コントロール パネル] の [サービス] をダブルクリックし、[Novell ZFS Web Server] を選択して [停止] をクリックします。
- ◆ Windows 2000 の場合：[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell ZFS Web Server] を選択して [停止] をクリックします。

4. 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、java.nlm をアンロードします（サーバコンソールで、「**java -exit**」と入力する）。

重要： このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。ZENworks 6.5 Desktop Management を再インストールするときは、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。

5. 対象になる Windows サーバで、[サービス] ウィンドウを閉じます。

6. ZENworks for Desktops 4.x データベースのバックアップを作成し、保存したことを確認します。

7. ConsoleOne から ZENworks for Desktops 4.x データベースにアクセスされていないことを確認します。

8. 推奨される ZENworks 6.5 ワークステーションインベントリ要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[27 ページの「準備」](#)を参照してください。

9. ZENworks for Desktops 4.x データベースで Oracle を実行している場合は、移行前に次の作業を行う必要があります。

- 1 データベースバッファキャッシュ用の実質的な容量として約 128MB を確保できるように、*inventory_database_installation_path\init.ora* の *db_block_buffers* の値を設定します。

db_block_size の値が 4096 である場合、最低値は 32768 となる必要があります。これにより、インベントリデータベースに対して 128MB のデータベースキャッシュが割り当てられます。*db_block_buffers* の現在の値が、128MB よりも大きい場合は、値を変更しないでください。

データベースの移行中、Oracle の SGA (Shared Global) メモリを 30 ~ 40% またはそれ以上に設定することを推奨します。

- 2 インベントリデータベースが稼動していることを確認します。

- 3 ORA-01555 およびロールバックセグメントに関連した他の問題によりデータベースの移行およびその他データの保存が失敗する場合は、より大きなロールバックセグメントが必要になります。

ロールバックセグメントの値を増やすには、次の SQL スクリプトを実行して、ロールバックセグメント (rbs) に他のデータファイルを追加し、Redo ロググループを追加します。

```
connect internal;
```

```
alter tablespace rbs add datafile 'Inventory_database_installation_path\rbs2.ora' size 40M autoextend on next 50K maxsize 60M;
```

```
alter rollback segment rb0 storage (maxextents unlimited);
```

```
alter rollback segment rb1 storage (maxextents unlimited);
```

```
ALTER DATABASE ADD LOGFILE GROUP 3 ('Inventory_database_installation_path\log3.ora') SIZE 50M;
```

ZENworks 6.5 Desktop Management Server のインストール時に、Sybase をインストールすることを選択し、データベースファイルを上書きすることを選択しなかった場合、サーバのインストールプログラムは、既存の ZENworks for Desktops 4.x データベースエンジンだけを自動的にアップグレードします。Sybase データベースのアップグレード中、既存のデータベースが移行可能であることを示すメッセージが表示されます。[はい] を選択した場合、既存のデータベースは、新しい ZENworks 6.5 Desktop Management データベースファイルによって上書きされます。[No] を選択した場合、Inventory Service が初めて開始されたときにデータベースの移行が実行されます。

インベントリデータベースをアップグレードするには、次の作業を実行する必要があります。

- 1 ZENworks for Desktops 4.x Oracle データベースオブジェクトが存在する場合や、手動で Sybase データベースオブジェクトを作成した場合は、インベントリの移行ツールを使用して手動でデータベースオブジェクトを移行する必要があります。詳細については、[265 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。
- 2 ZENworks for Desktops 4.x データベースで Sybase を実行している場合、Sybase キャッシュの値 (-c パラメータ) がサーバのメモリの 25% 以上に設定されていることを確認します。
 - ◆ NetWare データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには
 1. インベントリデータベースに対する接続をすべて終了します。
 2. Sybase サーバを終了します。
 3. sys:¥system ディレクトリの mgmt dbs.ncf ファイルを開きます。
 4. -c パラメータを変更します。たとえば、-c 128M はキャッシュサイズを 128MB に設定します。
 5. ファイルを保存します。
 6. サーバコンソールから、インベントリデータベースをロードします。
「MGMTDBS」と入力します。
 - ◆ Windows データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには
 1. Sybase サービスを停止します。Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。
 2. データベースサーバ上で、dbengine ディレクトリから ntldbconfig.exe ファイルを実行します。ntldbconfig.exe は、Windows NT/2000 サーバで Sybase を使用している ZENworks データベース向けの ZENworks データベース設定ユーティリティです。このユーティリティを使用して、Sybase サービスの再設定を実行することができます。
 3. -c パラメータを変更します。
 4. [OK] をクリックします。
 5. Sybase サービスを再起動します。Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。
- 3 ZENworks for Desktops 4.x データベースで MS SQL を実行している場合、固定メモリの値がサーバメモリの 25% 以上であることを確認します。

重要： Desktop Management Server インストールプログラムを実行することによって、複数のインベントリサーバとデータベースサーバを同時にアップグレードできます。

ただし、既存の ZENworks for Desktops 4.x ワークステーションインベントリポリシー、データベースの場所ポリシー、およびロールアップポリシーは手動で移行する必要があります。手動でデータベースオブジェクトを作成した場合は、データベースオブジェクトも移行する必要があります。ポリシーの移行方法に関する詳細については、[265 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。

手動によるデータベースオブジェクトの移行

- 1 ZENworks 6.5 デスクトップ管理ワークステーションインベントリスナップインがインストールされた ConsoleOne で、[ツール] > [ZENworks インベントリ] > [インベントリの移行] の順にクリックします。
- 2 [Browse] をクリックして、移行の対象になるデータベースオブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含んだコンテナを参照して選択します。
- 3 手順 2 でコンテナを選択した場合、次の手順を実行します。
 - 3a 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナのデータベースオブジェクトを検索する場合は、[Search SubContainers] チェックボックスを選択します。

[Search SubContainers] チェックボックスは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。
 - 3b 選択済みのコンテナに含まれる、移行対象のデータベースオブジェクトを検索する場合は、[Search for Database Objects] チェックボックスを選択します。

このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
 - 3c [Find] をクリックします。

指定したコンテキストで検索されたすべての ZENworks for Desktops 4.x データベースオブジェクトが、[レポート] パネルに表示されます。
- 4 [Migrate] をクリックします。
- 5 [Close] をクリックします。

ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバのアップグレード

ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバをアップグレードする前に、インベントリサービスを停止し、関連付けられたデータベースサーバをアップグレードしたことを確認します。

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバのインストール先のサーバがインストールの要件を満たしている場合は、ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバをインストールすることによって、ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバをアップグレードできます。ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバをインストールする方法については、[7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)を参照してください。ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks for Desktops 4.x と同じ役割のセットをサポートしています。したがって、ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする場合、インベントリサーバの役割は保持されます。

重要：ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバを ZENworks for Desktops 4.x データベースに接続していた場合で、インベントリサーバまたはデータベースを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする場合は、関連づけられたコンポーネントを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする必要があります。ZENworks for Desktops 4.x インベントリサービスでは ZENworks 6.5 Desktop Management 準拠のデータベースを操作しないでください。逆の場合も同じです。

複数の ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバが ZENworks for Desktops 4.x データベースサーバに接続されている場合で、データベースサーバを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする場合は、関連付けられたすべての ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバもアップグレードする必要があります。

ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールプログラムによって、ZENworks for Desktops 4.x インベントリサービスオブジェクトだけが自動的に ZENworks 6.5 Desktop Management に移行されます。インベントリサービスを開始する前に、ZENworks インベントリの移行ツールを使用して、既存の ZENworks for Desktops 4.x のポリシーを ZENworks 6.5 Desktop Management のポリシーに手動で移行する必要があります。詳細については、[266 ページの「手動での ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシーの移行」](#)を参照してください。

手動での ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシーの移行

- 1 ZENworks 6.5 デスクトップ管理ワークステーションインベントリスナップインがインストールされた ConsoleOne で、[ツール] > [ZENworks インベントリ] > [インベントリの移行] の順にクリックします。
- 2 [Browse] をクリックし、Inventory Service オブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含むコンテナを参照して選択します。
- 3 手順 2 でコンテナを選択した場合、次の手順を実行します。
 - 3a 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナの Inventory Service オブジェクトを検索する場合は、[Search SubContainers] チェックボックスを選択します。

[Search SubContainers] チェックボックスは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。
 - 3b 選択済みのコンテナ内の Inventory Service オブジェクトに関連付けられた Inventory ポリシーを検索する場合は、[Search for Policies] チェックボックスを選択します。

このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
 - 3c [Find] をクリックします。

インベントリサービスオブジェクトに関連付けられ、指定したコンテキストで検索されたすべての ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシーが、[レポート] パネルに表示されます。
- 4 [Migrate] をクリックします。
- 5 [Close] をクリックします。

ZENworks 6.5 インベントリエージェントは、ワークステーションインベントリポリシーではなく、プライベートディクショナリと一般ディクショナリからソフトウェアスキャン設定ルールを取得します。一方、ZENworks for Desktops 4.x インベントリエージェントは、ソフトウェア設定としてワークステーションインベントリポリシーを使用し続けます。

ポリシーの移行後、次の手順を実行します。

- 1 ZENworks 6.5 Desktop Management の Inventory Service を開始します。

Inventory Service を開始すると、Upgrade Service により、ZENworks for Desktops 4.x データベーススキーマとインベントリデータが ZENworks 6.5 Desktops Management データベースに自動的に移行されます。このデータ移行プロセスが完了するのに、きわめて長い時間かかる場合があります。インベントリサーバの画面上に、データベースの移行および初期化が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

データベースが移行されたら、インベントリ ConsoleOne ユーティリティ（照会、概要、インベントリレポート、データベースエクスポート）や Storer でデータベースにアクセスできます。

- 2 ディクショナリ更新ポリシーを作成および設定して、ZENworks 6.5 Inventory Agent の最新バージョンのディクショナリを取得します。ディクショナリ更新ポリシーの作成方法の詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「*ワークステーションインベントリ*」を参照してください。

データベース移行後の作業

インベントリサーバのアップグレードとインベントリデータベースの移行が完了したら、次の作業を実行する必要があります。

- 1 Inventory Service を停止します。
- 2 インベントリデータベースが Oracle を実行している場合、データベースのパフォーマンスを向上させるために次の手順を実行します。
 - 2a *inventory_database_installation_path*\start.sql ファイルから既存のエントリを削除し、次のエントリを追加します。

```
SET ECHO ON

CONNECT INTERNAL

SET ECHO OFF

STARTUP PFILE=
inventory_database_installation_path\path_to_init.ora*init.ora

SET NUMWIDTH 20

SET CHARWIDTH 40

SET ECHO ON

connect mw_dba;

SET ECHO OFF

alter table cim.t$product cache;

SET ECHO ON

connect internal

SET ECHO OFF

@<path to oracle home directory>/rdbms/admin/dbmspool

call sys.dbms_shared_pool.keep('zenworks.zenpin','P');

EXIT
```

2b `Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip` から `oracle\common\oracle_perf.sql` および `oracle\common\oracle_perf2.sql` ファイルを実行して、パフォーマンス向上インデックスをデータベースに追加します。

2c *ZENworks 6.5 Companion 2* CD の `\database\oracle8i\common` ディレクトリから `oracle_dbexport_perf.sql` を実行します。

インベントリデータベースのパフォーマンスを向上させる方法については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「パフォーマンスに関するヒント」を参照してください。

3 (省略可能) インベントリデータベースで MS SQL を実行している場合、MS SQL Query Analyzer で、次に示す適切なユーザログインによって `Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip` から次のスクリプトを実行します。

1. CIM としてログインし、`mssql_perf_cim.sql` を実行します。
2. mw_dba としてログインし、`mssql_perf_mw_dba.sql` を実行します。
3. zenworks としてログインし、`msswl_perf_zenworks.sql` を実行します。

これにより、インベントリデータベースのパフォーマンスが向上します。

インベントリデータベースのパフォーマンスを向上させる方法については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「パフォーマンスに関するヒント」を参照してください。

4 Inventory Service を開始します。

Middle Tier Server のアップグレード

eDirectory ツリーのスキーマを ZENworks 6.5 の属性に合わせて拡張した後 (248 ページの「eDirectory スキーマの拡張」を参照)、ZfD 4.x Middle Tier Server を ZENworks 6.5 にアップグレードできます。そのためには、次の節で説明されている作業を完了します。

- ◆ 268 ページの「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」
- ◆ 269 ページの「ソフトウェアのインストール」
- ◆ 270 ページの「myapps.html ページの変更」

アップグレードを実行する前に確認すべき事項

Middle Tier Server をアップグレードする前に、次の点を考慮してください。

- ◆ 最初に ZfD 4.x サーバをすべて ZENworks 6.5 にアップグレードすることをお勧めします (251 ページの「ZENworks for Desktop 4.x Server のアップグレード」を参照)。ただし、これは必須ではありません。ZfD 4.x Middle Tier Server は ZENworks 6.5 Desktop Management Server と連携でき、ZENworks 6.5 Middle Tier Server は ZfD 4.x Server と連携できるからです。可能な場合には、バックエンドサーバから始めて、Middle Tier Server、ユーザワークステーションへと順に作業を進めるのが無難です。

- Windows サーバ上の Middle Tier Server をアップグレードする場合は、ZfD 4.x Middle Tier Server 用に定義した認証ドメインは、ZENworks 6.5 Middle Tier のインストール時に指定したコンテキストに置換されます。これらのコンテキストは、Windows レジストリキー
HKLM¥Software¥Novell¥Xtier¥Configuration¥Xsrv¥Authentication Domains¥CX1、CX2、CX3 などに格納されます。これらのコンテキストを使用し続けるには、コンテキストをメモしておくか、レジストリからエクスポートする必要があります。NSAdmin ユーティリティを使用して、新しい認証ドメインをセットアップすることもできます。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「NSAdmin による ZENworks Middle Tier Server の設定」の「Authentication Domains (認証ドメイン)」を参照してください。

ソフトウェアのインストール


ZfD 4.x Middle Tier Server をアップグレードするには、ZENworks 6.5 Middle Tier Server インストールプログラムを使用して、ZENworks 6.5 のファイルを既存の Middle Tier Server ファイルに上書きインストールします。

- 1 インストールの要件 (3 章 29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」を参照) を満たしているワークステーションで、Novell ZENworks 6.5 Desktop Management CD を CD ドライブに挿入して、ZENworks 6.5 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell® ZENworks® 6.5

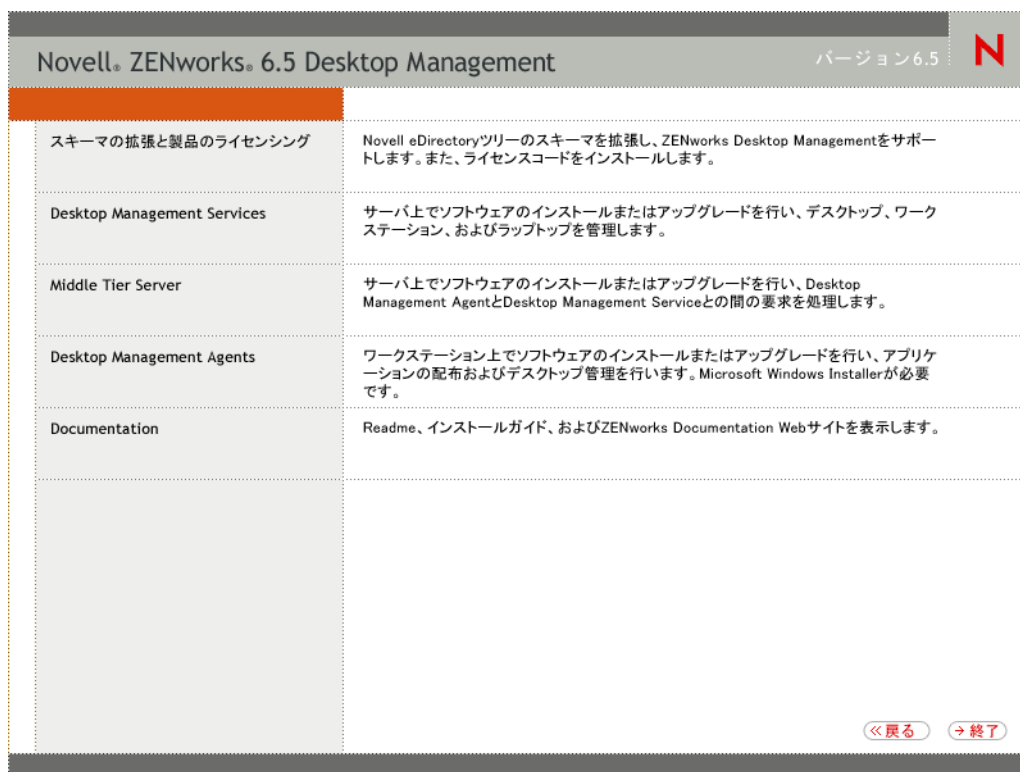
バージョン 6.5



Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。

→ 終了

- 2 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks Desktop Management] ページを表示します。



- 3 [Middle Tier Server] を選択し、ZENworks Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 4 画面の指示に従って、インストールを完了します。

インストールの手順の詳細については、**8 章 73 ページ**の「ZENworks Middle Tier Server のインストール」を参照してください。

myapps.html ページの変更

この節の説明は、ユーザが Web サーバ上の myapps.html ページにアクセスして、Novell Application Launcher プラグインをダウンロードするように設定する場合にのみ該当します。

Middle Tier Server のアップグレード時に、myapps.html.template ファイルが `web_server_root¥nwdocs` directory (NetWare の場合) または `inetpub¥wwwroot` directory (Windows の場合) にコピーされます。ユーザが myapps.html ページにアクセスしたときに、ZENworks 6.5 Novell Application Launcher プラグインがワークステーションに配布されるようにするには、myapps.html.template ファイルを変更し、名前を myapps.html に変更する必要があります。手順は次のとおりです。

- 1 ZfD 4. x の myapps.html ファイルのバックアップコピーを作成します。

NetWare サーバでは、myapps.html ファイルは `web_server_root¥nwdocs` ディレクトリにあります。Windows サーバでは、`inetpub¥wwwroot` ディレクトリにあります。

- 2 (条件付き) ZfD 4. x の myapps.html ファイルをカスタマイズしていた場合は、ZENworks 6.5 myapps.html.template ファイルも同じようにカスタマイズします。

ZENworks 6.5 では、ShowAppFrameNavigation、ShowIEToolBarButton、および NT4PluginVersion の 3 つの新しいパラメータが追加されました。次に各パラメータについて説明します。

SingleTree: このパラメータを使用すると、アプリケーション情報を読み込む対象となる単一の Novell eDirectory ツリーを指定できます。このパラメータを使用する場合、Application Launcher ではユーザが認証する他のツリーが無視されます。

このパラメータは、インストール時のみ適用されます。インストール後にこのパラメータを変更しても、影響はありません。

PortalView: このパラメータを使用して、Application Browser ビューのバナー部分を削除することによってポータルをサポートを改善できます。value の設定値は [true] または [false] です。[true] に設定すると、バナー部分は削除されます。

BannerURL: このパラメータは、PortalView パラメータが [false] に設定されている場合のみ適用されます。

このパラメータを使用して別のバナーを指定することができます。たとえば、Novell ロゴの代わりに自分の会社のロゴを含むバナーを使用できます。value の設定値は、HTML ページまたはグラフィックファイル (GIF、JPEG など) への URL にする必要があります。HTML ページを指定した場合、ページは BannerHeight パラメータで指定された高さに切り取られます。グラフィックファイルを指定した場合、バナー部分はグラフィックファイル全体が収まるようにスクロールします。バナー部分をスクロール可能にしたいくない場合は、グラフィックの高さが BannerHeight パラメータで指定された高さを超えないようにする必要があります。

BannerHeight: このパラメータは、PortalView パラメータが [false] に設定され、デフォルトの Novell バナーが BannerView パラメータによって無効になっている場合のみ適用されます。

このパラメータを使用してバナー部分の高さを決定します。value の設定値は 5 から 200 にする必要があります。5 未満の値は 5 に切り上げられます。200 を超える値は 200 に切り下げられます。

ShowTree: このパラメータは、Application Browser ビューが左のペイン (フォルダビューとも呼ばれます) を含むかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] の場合はフォルダビューが表示され、[false] の場合は削除されます。

ShowTasks: このパラメータは、フォルダビュー (左のペイン) が、[オンライン作業]、[オフライン作業]、[Middle Tier ログイン]、[Middle Tier ログアウト]、[アプリケーションを更新する]、および [ヘルプ] オプションを含むかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] の場合はオプションが表示され、[false] の場合は削除されます。

AppDisplayType: このパラメータは、アプリケーションが Application Browser ビューの右のペインにどのように表示されるかを決定します。value の設定値は [0] または [1] です。デフォルト値の [0] では、アプリケーションアイコンは、Windows エクスプローラの [大きいアイコン] の表示と同じように、大きなアイコンとして表示されます。設定値 [1] では、アプリケーションは、Windows エクスプローラの [一覧] の表示と同じように、表形式で一覧表示されます。

ShowAppFrameNavigation: このパラメータは、Application Browser ビューの右のペインにナビゲーションが含まれるかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] に設定すると、右のペインにナビゲーションが含まれます。ナビゲーションのタイプは、AppDisplayType パラメータの設定によって異なります。

- ◆ AppDisplayType パラメータが [0]（[大きいアイコン]）に設定されている場合、ナビゲーションはブレッডクラムとして表示されます（ZENworks Tree > Application Folder > Application A など）。
- ◆ AppDisplayType パラメータが [1]（[小さいアイコン]）に設定されている場合、ナビゲーションは、アプリケーションリストの一番上に上向き矢印として表示されます。

このパラメータの値を [false] に設定すると、Application Browser ビューで [A11] フォルダが開きます。つまり、すべてのアプリケーションアイコンが右のペインに表示されます。ConsoleOne のユーザの [Application Launcher の環境設定] で [A11] フォルダが無効になっている場合、このパラメータは無視されます（つまり、デフォルト値の [true] が使用されます）。

ShowIEToolbarButton: このパラメータは、Internet Explorer のツールバーに [Application Browser] ボタンを追加するかどうかを決定します。[Application Browser] ボタンは、ローカルバージョンの myapps.html ファイルを起動します。value の設定値は [true] または [false] です。デフォルトの設定は [true] で、ツールバーに [Application Browser] ボタンが追加されます。[false] に設定すると、ツールバーから [Application Browser] ボタンが削除されます。この設定を変更する場合、ユーザは必ず Internet Explorer を終了して、変更を有効にするために再度開く必要があります。

MiddleTierAddress: このパラメータは、eDirectory へのアクセスとして ZENworks Middle Tier Server を設定した場合にのみ適用されます。

MiddleTierAddress パラメータを使用して、ユーザが認証を受ける Middle Tier Server の IP アドレスを指定することができます。Middle Tier Server アドレスが Windows レジストリに含まれていない場合にのみ使用されます。ユーザが ZENworks デスクトップ管理エージェントインストールプログラムの実行時にアドレスを入力した場合、レジストリにはこのアドレスが含まれています。

Nt4PluginVersion: このパラメータは Zfd 4.0.1 からアップグレードする場合にのみ適用されます。

ZENworks 6.5 Novell Application Launcher プラグインは、Windows NT 4 ワークステーションではサポートされていません（Windows NT 4 のサポートの詳細については、[321 ページの「Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性」](#)を参照）。ただし、このようなワークステーションで Zfd 4.0.1 Novell Application Launcher プラグインを使用し続けることができます。このパラメータは、Windows NT ワークステーションで実行される最低限のバージョンの Zfd 4.0.1 Novell Application Launcher プラグインを指定します。

たとえば、デフォルトのパラメータの設定 (4, 0, 1, 0) では、オリジナルの ZfD 4.0.1 Novell Application Launcher プラグインがワークステーションにインストールされていることだけが要求されます。バージョン番号が 4, 0, 1, 0 よりも大きい (4, 0, 1, 1 や 4, 0, 1, 2 など) 更新された ZfD 4.0.1 Novell Application Launcher プラグイン (zfd40.cab) を Middle Tier Server に配置した場合、4.0.1.0 Novell Application Launcher プラグインがインストールされているワークステーションがアップグレードされるのは、このパラメータを新しいバージョンに変更した場合だけです。つまり、新しいバージョンの Novell Application Launcher プラグインを Middle Tier Server に配置しても、アップグレードは自動的には行われません。ワークステーションをアップグレードする場合は、このパラメータで新しいバージョン番号を指定して、アップグレードを強制的に実行する必要があります。

- 3 myapps.html ページにアクセスしてセットアップをテストします。

Windows 98/2000/XP のユーザが myapps.html ページにアクセスすると、新しい ZENworks 6.5 Novell Application Launcher プラグイン (zfdplugin.cab) がユーザのワークステーションにインストールされます。Windows NT ユーザが myapps.html ページにアクセスした場合は、ZfD 4.0.1 Novell Application Launcher プラグイン (zfd40.cab) が使用されます。

ワークステーションのアップグレード

ZENworks Desktop Management Server および ZENworks Middle Tier Server を更新した後、ワークステーションをアップグレードする必要があります。

ここでは、アップグレードの操作手順、および知っておく必要があるソフトウェアの動作について説明します。

- ◆ Novell Client を使用しているワークステーションでは、Novell Client をバージョン 4.9 SP1a にアップグレードします。これによって、古い Novell Client がアンインストールされ、バージョン 4.9 SP1a がインストールされます。
- ◆ ZfD 4.x エージェントがインストールされているワークステーションでは、ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントをインストールします。これによって、ZfD 4.x エージェントがアンインストールされ、ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントがインストールされます。

インストール方法および詳しいインストールの手順については、[10 章 99 ページの「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」](#)を参照してください。

- ◆ ZfD 4.0 に付属するバージョンのエージェント (setup.exe) は、サポートされなくなりました。ZfD 4.0 エージェントを ZENworks 6.5 にアップグレードする前に、この古いバージョンのエージェントを ZENworks 6 スイート (ZENworks for Desktops 4.0.1/SP1b) 以降に付属するバージョンのエージェントに置き換える必要があります。
- ◆ Novell Application Launcher で使用するためにデスクトップ管理エージェントのアップグレードアプリケーションオブジェクトを設定する場合は、そのアプリケーションを一度だけ実行するように設定して、エージェントがインストールされた後は、そのアプリケーションが Novell Application Launcher に表示されなくなるようにすることをお勧めします。このアプリケーションオブジェクトについては、アンインストールが有効になっていないことを確認します。

デスクトップ管理エージェントをアップグレードするために、管理者権限は必要ありません。インストール中は、デスクトップ管理エージェントによって、一時的にユーザの権限が昇格されます。

- ◆ ZfD 4. *x* エージェント (ZfD 4.0.1 Interim Release 4 を除く) を ZENworks 6.5 にアップグレードする場合、ワークステーションに関連付けられたアプリケーションオブジェクトを使用してアップグレードを実行する場合、ユーザにワークステーションの再起動を指示するメッセージは表示されません。

ユーザに関連付けられたアプリケーションオブジェクトを使用してアップグレードを実行する場合は、再起動を指示するメッセージが表示されます。

- ◆ ZfD 4.0.1 エージェント (またはそれ以降、Interim Release 4 を除く) を ZENworks 6.5 にアップグレードするときに、NAL_SINGLE_TREE MSI プロパティを設定する場合は、ZENWORKS_TREE プロパティも設定し、ワークステーションが ZENworks ファイルを受け取るツリーを指定する必要があります。

ZfD 4.0.1 エージェントを ZfD 4.0.1 Interim Release 4 からバージョン 6.5 にアップグレードする場合は、ツリーの値をワークステーションがインポートされるツリーに設定する必要があります。ワークステーションがインポートされていない場合、この設定は無視されます。

ZENworks for Desktops 4. *x* エージェントへのロールバック

ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントにアップグレードした後で ZfD 4. *x* エージェントにロールバックしないことを強くお勧めします。ロールバック (つまり、ZENworks 6.5 管理エージェントがインストールされている状態で、ZENworks for Desktops 4.0.1 エージェントまたはそれ以降のバッチや暫定リリースをインストール) すると、エージェントは動作を停止します。

以前のバージョンのエージェントに戻す必要がある場合は、ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントをアンインストールした後、ZENworks for Desktops 4.0.1 エージェントをインストールすることをお勧めします。

20

ZENworks 6.5 Launch ガジェットへのアップグレード

Novell® ZENworks® 6 Web セルフサービス (Web Self-Service) (以前のリリースでは、ZENworks OnDemand サービス™ と呼ばれていた) は廃止され、ZENworks 6.5 には含まれていません。Web セルフサービスの機能をどの程度使用していたかによって、ZENworks 6 Web セルフサービスのすべての機能を維持することも、アップグレードして ZENworks 6.5 Launch ガジェットによる起動機能だけを使用することもできます。

- ◆ **共存**：ZENworks 6 Web セルフサービスは、ZENworks 6.5 Desktop Management と共存させることができます。ZENworks 6 Launch Item ガジェットには、6.5 アプリケーション (ConsoleOne® の ZENworks 6.5 スナップインでアプリケーションオブジェクトを作成したアプリケーション) と 6.5 以前のアプリケーションが表示されますが、正常に起動できるのは 6.5 以前のアプリケーションだけです。これは、6.5 以前のスナップインを使用して管理することによって、6.5 以前のアプリケーションを維持する必要があることを意味します。DeFrame™ ターミナルサーバアプリケーションの場合は、ZENworks DeFrame ターミナルサーバも維持する必要があります。
- ◆ **アップグレード**：Novell exteNd™ Director™ 4.1 SE ポータル内から ZENworks アプリケーションを起動する機能を維持するために、ZENworks 6.5 Desktop Management には、Launch Item ガジェットが含まれています。ZENworks 6.5 では ZENworks Launch ガジェットに名前が変更されました。ZENworks Launch ガジェットは、ConsoleOne の ZENworks 6.5 スナップインを使用してアプリケーションオブジェクトを作成したアプリケーションを起動します。アプリケーションオブジェクトが 6.5 以前のスナップインで作成されたアプリケーションは表示されません。

次の節では、ZENworks Launch ガジェットにアップグレードする手順を説明します。

- ◆ 276 ページの「ポータルへの ZENworks Launch ガジェットのインストール」
- ◆ 277 ページの「ポータルへの Citrix ファイルのコピー」
- ◆ 277 ページの「ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール」
- ◆ 278 ページの「アプリケーションオブジェクトのアップグレード」
- ◆ 278 ページの「ZENworks 6 Web セルフサービスコンポーネントの削除」

ポータルへの ZENworks Launch ガジェットの実インストール

- 1 Novell exteNd Director 4.1 Standard Edition がインストールされ NetWare® 6.x または Windows 2000/2003 サーバで稼動していることを確認します。

インストールの詳細については、『[Novell exteNd Director Standard Edition インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/lg/nedse41\)](http://www.novell.com/documentation/lg/nedse41)』を参照してください。

- 2 exteNd Director 4.1 ポータルを管理できる Windows ワークステーションで、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD を CD ドライブに挿入します。
Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD には、ポータルモジュールファイル ZENworks.npm が含まれています。このファイルには、ポータルにインストールする ZENworks Launch ガジェットが含まれています。ファイルは、¥ZENworks Launch Gadget ディレクトリにあります。
- 3 ポータルに管理者としてログインします。
- 4 [Portal Administration(ポータルの管理)] > [Administer the Portal(ポータルを管理)] の順にクリックして、[Portal Administration(ポータルの管理)] ページを表示します。
- 5 [Modules(モジュール)] をクリックして [Modules(モジュール)] ページを表示します。
- 6 [インストール] をクリックして、[Install a New Module(新規モジュールのインストール)] ページを表示します。
- 7 [Path to Module File Package(モジュールファイルパッケージへのパス)] フィールドで [参照] をクリックし、ZENworks.npm ファイルを参照して選択します。
.npm ファイルは、*Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の ¥ZENworks Launch Gadget ディレクトリにあります。
- 8 [インストール] をクリックして、[Thin Client Support(シンクライアントサポート)] オプションを表示し、ICA および RDP クライアントのサポートを必要とする場合は [ICA & RDP]、RDP クライアントのサポートのみを必要とする場合には [RDP] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 9 (条件付き) シンクライアントのサポートについて [ICA & RDP] を選択した場合は、次のフィールドに入力して、[次へ] をクリックします。

Citrix XML Service Address: Citrix IMA データベースが存在するサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。複数の Citrix ファームを使用している場合は、IMA データベースが存在する各サーバのアドレスをカンマで区切って入力します。

Citrix XML Service Port: Citrix XML Service で使用されているポート番号を指定します。これは通常、ポート 80 になります。MMC でポート番号を確認するには、[サーバ] > [Server Properties(サーバのプロパティ)] > [MetaFrame XP Settings(メタフレーム XP の設定)] の順にクリックして、[TCP/IP Port(TCP/IP ポート)] フィールドにチェックを付けます。

- 10 インストールが完了したら、ポータルを終了します。
- 11 ポータルが NetWare® 6.x サーバ上にある場合は、サーバを再起動します。

または

ポータルが Windows 2000/2003 サーバ上にある場合は、サーバを再起動するか、または Tomcat を再起動します。

ポータルへの Citrix ファイルのコピー

ターミナルサーバ環境に Citrix サーバを使用している場合は、exteNd Director ポータルに複数の Citrix ファイルをコピーする必要があります。この Citrix ファイルは、ICA クライアントセッションを起動するときに Launch ガジェットで使用されます。

- 1 Citrix MetaFrame XP Presentation Server CD を使用して、
¥metaframe¥w2k¥program files¥citrix¥application¥nfuse ディレクトリ全体を次のポータルディレクトリにコピーします。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZenLaunchGadget
```

この結果、ディレクトリは次のようになります。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZenLaunchGadget¥nfuse
```

- 2 *.properties ファイルを com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥nfuse ディレクトリから次のポータルディレクトリに移動します。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥WEB-INF¥classes
```

いずれかのファイルがディレクトリにすでに存在する場合は、最新の日付のファイルを保存します。

- 3 *.jar ファイルを com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥nfuse ディレクトリから次のポータルディレクトリに移動します。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥WEB-INF¥lib
```

いずれかのファイルがディレクトリにすでに存在する場合は、最新の日付のファイルを保存します。

ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール

ZENworks Launch ガジェットでシンククライアントアプリケーションを起動するには、ワークステーションに Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントがインストールされている必要があります。

詳細情報については、以下を参照してください。

- ◆ 278 ページの「ICA クライアント」
- ◆ 278 ページの「RDP クライアント」

ICA クライアント

ZENworks Launch ガジェットでは、ワークステーションに ICA Program Neighborhood (PN) クライアントまたは ICA Web クライアントがインストールされている必要があります。PN クライアントまたは Web クライアントをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 Citrix Download Clients サイト (<http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755>) から PN クライアントまたは Web クライアントファイルをダウンロードします。
- 2 各ワークステーションにクライアントファイルを配布します。
 - 2a Web クライアントの場合は、wficat.cab ファイルをポータルサーバの次の場所にコピーします。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥bin
```

ユーザが ICA クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは CAB ファイルを使用して、Web クライアントをインストールします。

- 2b PN クライアントの場合は、『*Citrix 管理者ガイド*』に記載されているインストール手順に従うか、または Novell Application Launcher を使用して、クライアントファイルを配布します。

または

PN クライアントファイルの名前を wficat.cab に変更し、ポータルサーバの次の場所にコピーします。

```
tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥bin
```

RDP クライアント

Microsoft RDP 5.1 クライアント (msrdp.ocx) は、ZENworks Launch ガジェットに含まれています。RDP クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットはユーザのワークステーションの c:\program files\novell\zenworks ディレクトリに msrdp.ocx ファイルをインストールして、OCX ファイルを登録します。

アプリケーションオブジェクトのアップグレード

ZENworks Launch ガジェットは、ConsoleOne の ZENworks 6.5 スナップインを使用してアプリケーションオブジェクトを作成したアプリケーションだけを表示します。6.5 以前のアプリケーションを Launch ガジェットに表示したい場合は、6.5 スナップインを使用して再作成する必要があります。

ZENworks 6 Web セルフサービスコンポーネントの削除

ZENworks 6.5 Launch ガジェットにアップグレードした後、ユーザに ZENworks 6 Web セルフサービスガジェットへのアクセスを提供していたポータルの割り当てを削除する必要があります。必要に応じて、Novell eDirectory™ から Web セルフサービスオブジェクトを削除するだけでなく、ポータルからページやガジェットを削除することもできます。

21

ZENworks 6 DeFrame からのアップグレード

Novell® ZENworks® 6 DeFrame™ は廃止され、ZENworks 6.5 には含まれていません。ターミナルサーバアプリケーションのサポートは、Novell Application Launcher™ の、RDP クライアントセッションを Microsoft Windows ターミナルサーバに起動する機能、または ICA クライアントセッションを Citrix MetaFrame Server に起動する機能を介して利用できます。

ZENworks DeFrame で提供されていた不可分散や切断セッションの追跡などのターミナルサーバ管理機能は利用できません。その代わりに、Windows ターミナルサービスおよび Citrix MetaFrame Server で提供されている類似した機能を使用できます。

次の節では、アップグレードに役立つ情報について説明します。

- ◆ 279 ページの「ターミナルサーバの要件」
- ◆ 280 ページの「DeFrame ファイルのアンインストール」
- ◆ 280 ページの「DeFrame サーバオブジェクトの削除」
- ◆ 281 ページの「ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理」
- ◆ 289 ページの「ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理」
- ◆ 290 ページの「アプリケーションオブジェクトのアップグレード」
- ◆ 293 ページの「ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール」

ターミナルサーバの要件

次の表に、ZENworks 6.5 でサポートされる Windows ターミナルサーバまたは Citrix MetaFrame Server の最低要件を示します。

アイテム	最低要件
オペレーティングシステム	Service Pack 4 (最新のサービスパックを推奨) を適用した Windows 2000 Server Windows Server 2003 (最新のサービスパックを推奨)
Windows ターミナルサービス	Windows 2000/2003 Server オペレーティングシステムでサポートされているバージョン
Citrix MetaFrame (オプション)	Citrix MetaFrame XP Feature Release 3 (FR3) 最新のサービスパックおよびホットフィックスをお勧めします。 Citrix Web サイト (http://www.citrix.com) からダウンロードできます。

アイテム	最低要件
Desktop Management Agent (デスクトップ管理エージェント)	<p>ZENworks 6.5 バージョン</p> <p>デスクトップ管理エージェントは、ターミナルサーバでローカルユーザアカウントを動的に作成する場合にのみ必要です。</p> <p>デスクトップ管理エージェントのすべてのコンポーネントをインストールできますが、ターミナルサーバのサポートに必要なのは、アプリケーション管理コンポーネントとワークステーション管理コンポーネントのみです。</p>
Novell Client	<p>Novell Client™ 4.91 SP1 for Windows 2000/XP</p> <p>Novell Client は、デスクトップ管理エージェントをインストールする場合にのみ必要です。管理エージェントは、Novell Client を使用して Novell eDirectory から認証を受け、ダイナミックローカルユーザポリシーにアクセスします。</p>
Internet Explorer	<p>高度なセキュリティ (128 ビット以上) 暗号化を使用し、サービスパック 2 を適用した Internet Explorer 5.5</p> <p>Internet Explorer は、デスクトップ管理エージェントをインストールする場合のみ必要です。</p> <p>Internet Explorer 6.0 をインストールする場合は、クッキーを受け入れるようにプライバシーが設定されていることを確認してください。デフォルトでは、Internet Explorer 6.0 はクッキーを受け入れません。</p>

DeFrame ファイルのアンインストール

DeFrame ファイルは ZENworks for Desktops 4.0.1 管理エージェントの一部としてインストールされています。ターミナルサーバから管理エージェントを削除すると、DeFrame ファイルも削除されます。

- 1 ターミナルサーバで、[アプリケーションの追加と削除] ダイアログボックス ([スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除]) を開きます。
- 2 [現在インストールされているプログラム] の一覧で [ZENworks for Desktops 管理エージェント] を選択し、[削除] をクリックして画面の指示に従い操作します。

DeFrame サーバオブジェクトの削除

ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトを eDirectory から削除すると、DeFrame サーバオブジェクトとアプリケーションオブジェクトの関連付けが解除されます。

- 1 ConsoleOne® で、ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトを右クリックし、[NDS オブジェクトを削除] をクリックします。
- 2 削除を確認するために [はい] をクリックします。

ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理

ターミナルサーバでシンクライアントアプリケーションを実行するには、ターミナルサーバにローカルユーザアカウントが必要です。Workstation Manager (デスクトップ管理エージェントと共にインストールされます) およびユーザポリシーを使用して、ターミナルサーバのユーザアカウントを動的に管理できます。Workstation Manager を使用する場合は、次の節で説明するタスクを実行します。Workstation Manager を使用しない場合は、他のユーザ管理方法について 289 ページの「ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理」を参照してください。

- ◆ 281 ページの「Novell Client およびデスクトップ管理エージェントのインストール」
- ◆ 281 ページの「Workstation Manager のセットアップ」
- ◆ 282 ページの「パススルー認証の設定」
- ◆ 283 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントおよびプロファイルのセットアップ」

Novell Client およびデスクトップ管理エージェントのインストール

ターミナルサーバアカウントを動的に管理するには、ZENworks を使用する各ターミナルサーバに Novell Client およびデスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。

デスクトップ管理エージェントには、ターミナルサーバ上にローカルユーザアカウントを動的に作成する Workstation Manager コンポーネントが含まれています。管理エージェントは、Novell Client を使用して Novell eDirectory から認証を受け、ダイナミックローカルユーザポリシーにアクセスします。

- 1 [Novell Product Downloads \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) から Novell Client 4.91 SP1 (以降) をダウンロードして、ターミナルサーバにクライアントをインストールします。
- 2 デスクトップ管理エージェントをインストールして、Workstation Manager およびアプリケーション管理コンポーネントがインストールされていることを確認します。他のコンポーネントはオプションです。

デスクトップ管理エージェントのインストールの詳細については、10 章 99 ページの「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」を参照してください。

Workstation Manager のセットアップ

ZENworks Desktop Management には、Novell eDirectory ユーザポリシーが含まれており、ターミナルサーバ上のローカルユーザアカウントおよびプロファイルを簡単に管理できます。ターミナルサーバで稼動している Workstation Manager は、ユーザがターミナルサーバにログインしたときにポリシーを適用します。ここでは、Workstation Manager が正しくインストールおよび設定されているかを確認する方法について説明します。ユーザポリシーの作成および使用については、283 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントおよびプロファイルのセットアップ」を参照してください。

Workstation Manager は、デスクトップ管理エージェントと共にインストールされます。[サービス] ウィンドウで Workstation Manager サービスを確認することにより、ターミナルサーバに Workstation Manager がインストールされ稼動していることが確認できます。

複数の eDirectory ツリーがある場合は、ユーザオブジェクトが属している eDirectory ツリーを読み取るように Workstation Manager が設定されていることも確認する必要があります。手順は次のとおりです。

- 1 [スタート] メニュー > [設定] > [コントロール パネル] > [Network Identity(ネットワーク ID)] の順にクリックします。
- 2 [Novell Network Identity(Novell ネットワーク ID)] ダイアログボックスで、[設定] をクリックします。
- 3 [Workstation Manager を有効にする] ボックスがオンになっていて、ツリーが正しく設定されていることを確認します。
- 4 (オプション) HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/NOVELL/Workstation Manager/Identification キーの下にある Windows レジストリで、Tree 値を確認します。

パススルー認証の設定

ターミナルサーバアプリケーションを起動するプロセスを簡素化するために、ZENworks Desktop Management は、パススルー認証を提供しています。パススルー認証を使用すると、ユーザの eDirectory アカウントと Windows のユーザアカウントに同じユーザ名とパスワードを使用している限り、ターミナルサーバアプリケーションを起動するときに、ユーザ名およびパスワードの入力を要求するメッセージは表示されません。

デフォルトでは、パススルー認証は、ターミナルサーバにデスクトップ管理エージェントをインストールするときに自動的に設定されます。ただし、正しく設定されていることを確認するために、次の作業を実行することをお勧めします。

- 1 ターミナルサーバの [Use Client Provided Logon Information(クライアントからのログオン情報を使用する)] 設定をオンにして、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1a ターミナルサーバで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [ターミナルサービス構成] の順にクリックします。
 - 1b 接続タイプ (デフォルトは RDP-Tcp) をダブルクリックして、プロパティを入力します。
 - 1c [ログオン設定] タブで、[Use Client Provided Logon Information(クライアントからのログオン情報を使用する)] 設定をオンにして、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1d 接続タイプごとにこれを繰り返します。
- 2 ターミナルサーバの Novell Client のデフォルトプロファイル設定を確認します。
 - 2a ターミナルサーバで、タスクバーのステータス領域にある [Novell] アイコン (N アイコン) を右クリックし、[Novell クライアントプロパティ] をクリックします。
 - 2b [ロケーションプロファイル] タブをクリックします。

- 2c [ロケーションプロファイル] リストで [デフォルト] を選択し、[プロパティ] をクリックして、[Location Profiles Properties (ロケーションプロファイルのプロパティ)] ダイアログボックスを表示します。
- 2d [サービス] リストの [ログインサービス] を選択し、[Service Instance (サービスインスタンス)] リストの [デフォルト] を選択して、[プロパティ] をクリックし、[Novell ログイン] ダイアログボックスを表示します。
- 2e [ログイン成功後にプロファイルを保存] オプションを選択解除 (オフに) します。
- 2f [NDS] タブをクリックします。
- 2g [ツリー] フィールドで、シンククライアントアプリケーションがアプリケーションオブジェクトとして設定されている eDirectory ツリーを選択します。
- 2h [コンテキスト] および [サーバ] フィールドから情報を削除します。
- 2i 環境設定を保存するには、すべてのダイアログボックスで [OK] をクリックして閉じます。

ダイナミックローカルユーザアカウントおよびプロファイルのセットアップ

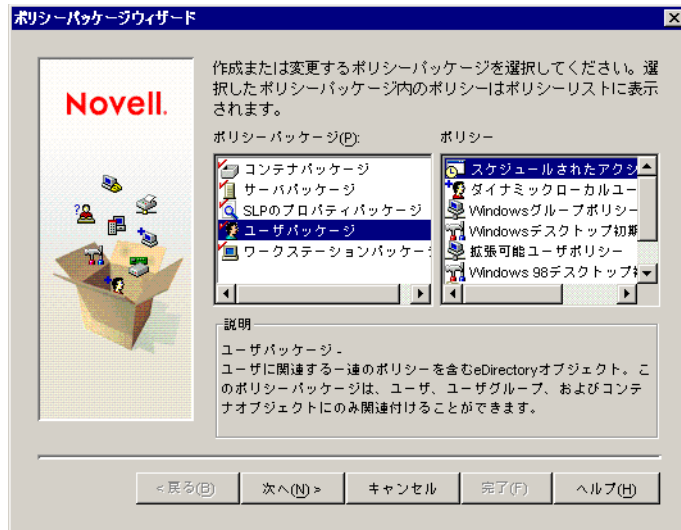
ターミナルサーバで Workstation Manager のインストールおよび設定が完了したら、ローカルユーザアカウントを制御するポリシーを有効にして設定する必要があります。ターミナルサーバに固有のユーザプロファイルを設定することもできます。次の節ではそれらの手順について説明します。

- ◆ 283 ページの「ユーザポリシーパッケージの作成」
- ◆ 286 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」
- ◆ 287 ページの「ターミナルサーバのユーザプロファイルの設定」
- ◆ 289 ページの「ユーザパッケージとユーザの関連付け」

ユーザポリシーパッケージの作成

ユーザポリシーパッケージに含まれる Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシーを使用して、ダイナミックローカルユーザアカウントおよび Roaming ユーザプロファイル进行管理します。既存のユーザポリシーパッケージを使用するか、または Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシー専用の新しいユーザポリシーパッケージを作成できます。使用するユーザポリシーパッケージがすでにある場合は、[139 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」](#)に進んでください。ユーザポリシーパッケージがない場合は、次の手順を実行して、ユーザポリシーパッケージを作成します。

- 1 ConsoleOne で、ユーザポリシーパッケージオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規] をクリックします。次に、[ポリシーパッケージ] をクリックし、ポリシーパッケージウィザードを表示します。

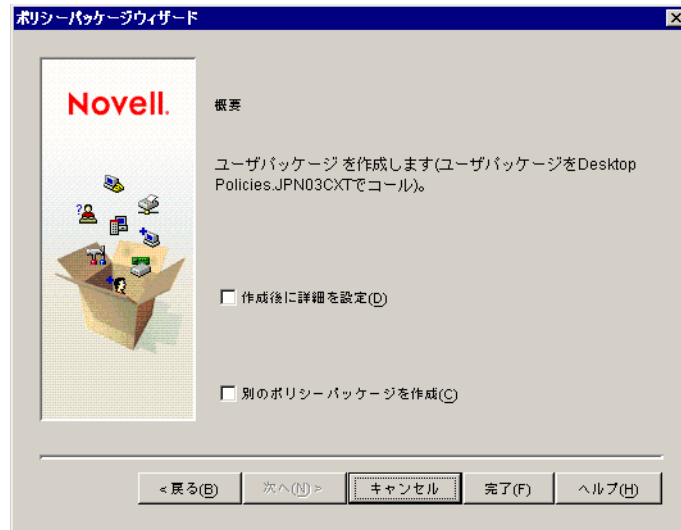


- 2 [ポリシーパッケージ] リストで、[ユーザパッケージ] を選択して、[次へ] をクリックします。

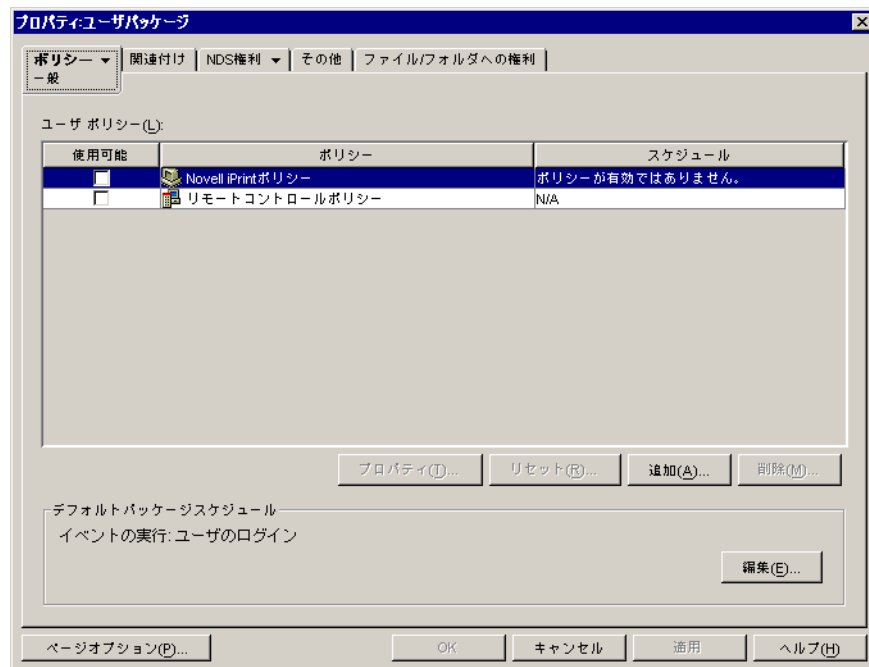


パッケージオブジェクトの名前は、パッケージオブジェクトが作成されるコンテナ内で一意でなければなりません。複数のユーザポリシーパッケージを作成する場合は、[Win2000-2003 TS ユーザパッケージ] など、わかりやすい名前を使用することもできます。ポリシーのユーザが存在する同じコンテナにポリシーを作成することもできます。

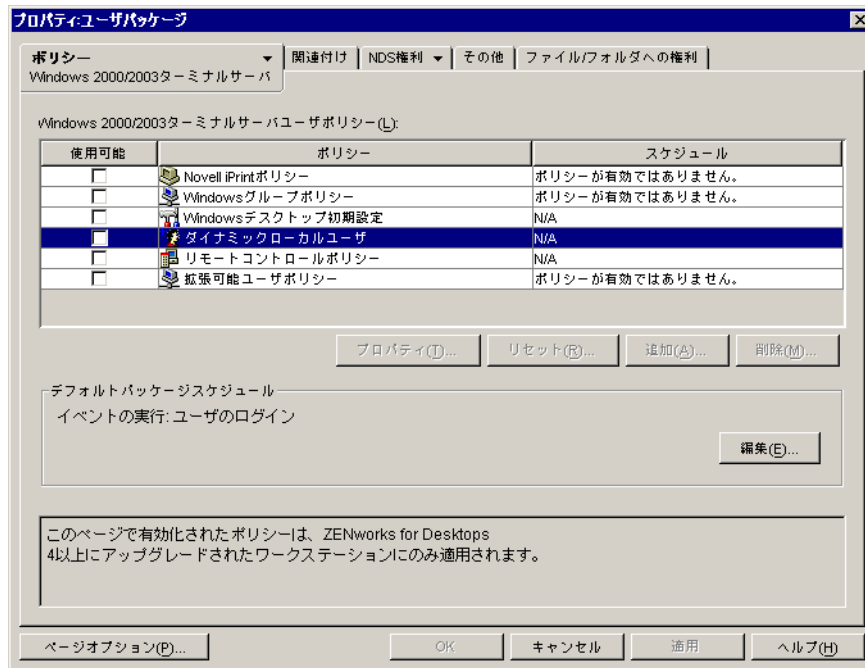
- 3 必要に応じて、パッケージのオブジェクト名と、パッケージが作成されるコンテナを変更して、[次へ] をクリックします。



- 4 [概要] ページで、[作成後に詳細を設定] を選択し、[完了] をクリックして、ユーザパッケージオブジェクトを作成し、オブジェクトのプロパティページを表示します。



- 5 [ポリシー] タブをクリックし、[Windows 2000-2003 ターミナルサーバ] をクリックして、[Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシー] ページを表示します。

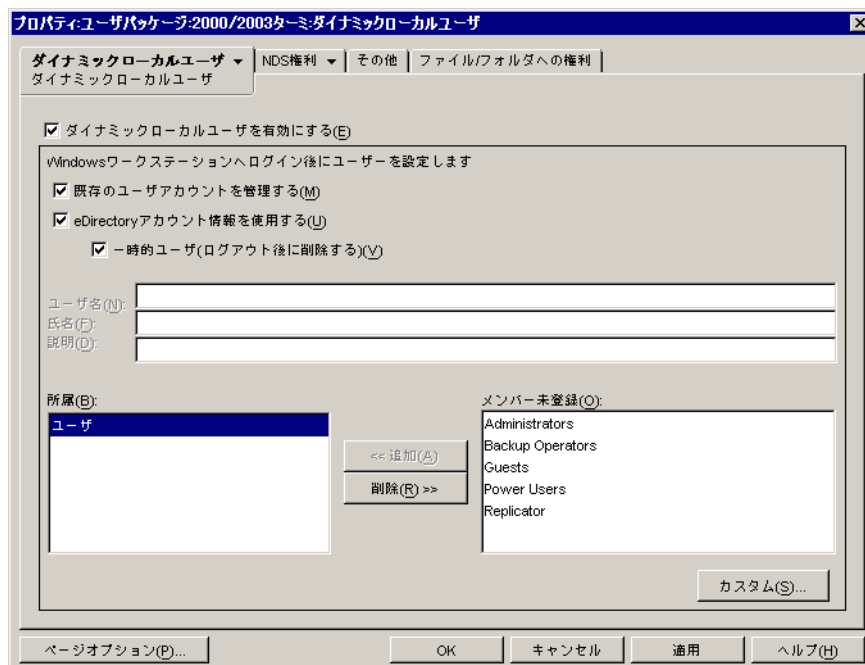


6 次の節「**ダイナミックローカルユーザアカウントの設定**」に進みます。

ダイナミックローカルユーザアカウントの設定

ダイナミックローカルユーザ (DLU) ポリシーを使用して、Workstation Manager がターミナルサーバ上にユーザアカウントを作成する方法を設定します。

- 1 [Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシー] ページで、[ダイナミックローカルユーザポリシー] の左にあるチェックボックスを選択して、ポリシーを有効にしてから、[プロパティ] をクリックして、[ダイナミックローカルユーザ] プロパティページを表示します。



2 次のフィールドを設定します。

[**ダイナミックローカルユーザを有効にする**]：Workstation Manager を有効にして、ユーザアカウントを動的に作成する場合は、このオプションを選択します。

[**既存のユーザアカウントを管理する**]：Workstation Manager で既存のユーザアカウントに DLU ポリシーを適用する場合は、このオプションを選択します。既存のユーザアカウントに DLU ポリシーを適用しない場合、DLU ポリシーは新しいユーザアカウントにのみ適用されます。

[**eDirectory アカウント情報を使用する**]：ローカルユーザアカウントに eDirectory ユーザ名とパスワードを使用する場合は、このオプションを選択します。ユーザの eDirectory と Windows アカウント情報を同期させてシームレスな認証を設定すると（135 ページの「**パススルー認証の設定**」を参照）、ターミナルサーバからシンククライアントアプリケーションを起動する際にアカウント情報を要求するプロンプトが表示されません。

[**一時的ユーザ（ログアウト後に削除する）**]：ユーザがシンククライアントアプリケーションを終了して、セッションを終了した後に、ユーザのアカウントを削除する場合は、このオプションを選択します。すべてのユーザアカウント情報が削除されます。ユーザプロファイルを保持する場合は、ターミナルサーバのユーザプロファイルを設定できます。次の節「**ターミナルサーバのユーザプロファイルの設定**」を参照してください。

[**選択されているグループ**] / [**選択されていないグループ**]：[選択されていないグループ] リストで、ユーザをメンバーにするグループを選択して、[追加] をクリックします。グループメンバーシップにより、ターミナルサーバでのユーザのアクセス権が決定されます。リストに表示されたグループに、ユーザに割り当てる正確なファイルシステム権利がない場合は、[ファイル権利] ページを使用します（[ダイナミックローカルユーザ] タブ > [ファイル権利] ページ）。

3 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[ダイナミックローカルユーザ] プロパティページを閉じます。

4 次の節「**ターミナルサーバのユーザプロファイルの設定**」に進みます。

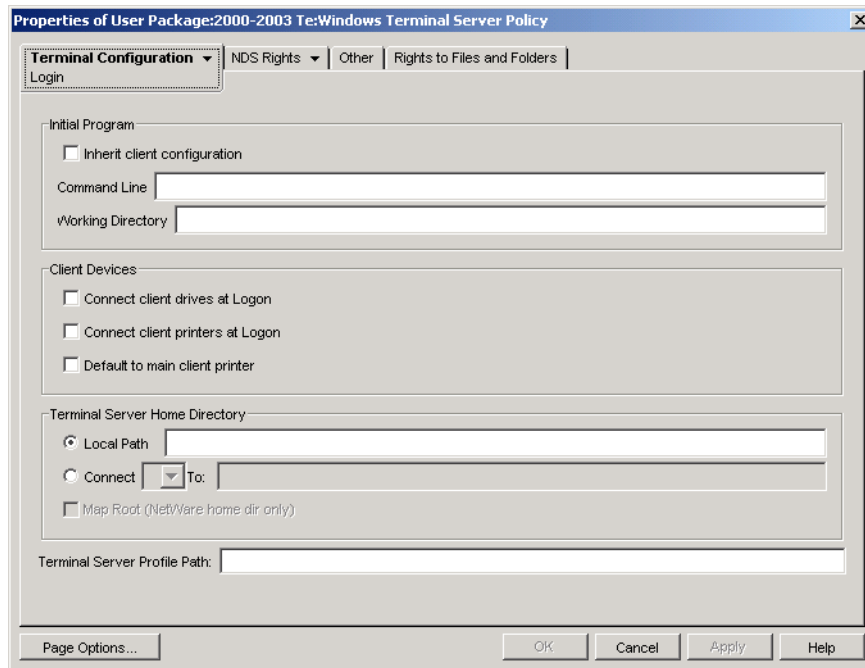
ターミナルサーバのユーザプロファイルの設定

Windows ターミナルサーバポリシーを使用すると、Roaming ユーザプロファイルのネットワーク上の格納場所を指定できます。このポリシーを利用するといくつかの利点があります。1) このポリシーは、リモートセッションまたはローカルセッションでユーザがターミナルサーバにログインした場合のみ適用されます。2) このポリシーには、クライアントセッションの制御に使用できる他の環境設定が含まれます。

ユーザプロファイルにこのポリシーを使用することは、Windows ターミナルサーバでユーザアカウントの [ターミナル サービスのプロファイル] プロパティページを設定することと同じです。

Windows ターミナルサーバポリシーを使用してユーザプロファイルを設定するには

- 1 [Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシー] ページで、[Windows ターミナルサーバポリシー] の左にあるチェックボックスを選択してポリシーを有効にしてから、[プロパティ] をクリックしてポリシーのプロパティページを表示します。
- 2 [ターミナルの環境設定] タブをクリックし、[ログイン] をクリックして、[ログイン] ページを表示します。



3 [クライアントの環境設定を継承] オプションを有効にします。

重要： このオプションを有効にしないと、ユーザがターミナルサーバアプリケーションを起動したときに、ポリシーは、起動されたアプリケーションではなく、ターミナルサーバのデスクトップをセッションで開きます。

4 [ターミナルサーバのプロファイルパス] フィールドに、プロファイルを保存するネットワーク位置へのパスを入力します。次の点に注意してください。

- ◆ %username% 変数を使用して、各ユーザのプロファイルが個別のディレクトリに保存されるようにしてください。例：

```
\\server%vol1%profiles%username%
```

このパスを使用すると、ユーザ jsmith のプロファイルは次の場所に保存されます。

```
\\server%vol1%profiles%jsmith
```

- ◆ ユーザのプロファイルディレクトリがすでに存在することを確認してください。この例では、jsmith のプロファイルが保存されるディレクトリとして、\\server%vol1%profiles%jsmith がすでに存在していなければなりません。
- ◆ ユーザにプロファイルディレクトリへの権利があることを確認してください。プロファイルディレクトリが NetWare® サーバ上にある場合は、eDirectory を使用して権利を割り当てることができます。プロファイルディレクトリが Windows サーバ上にある場合は、ユーザの Windows アカウントを使用して、共有権を割り当てる必要があります。

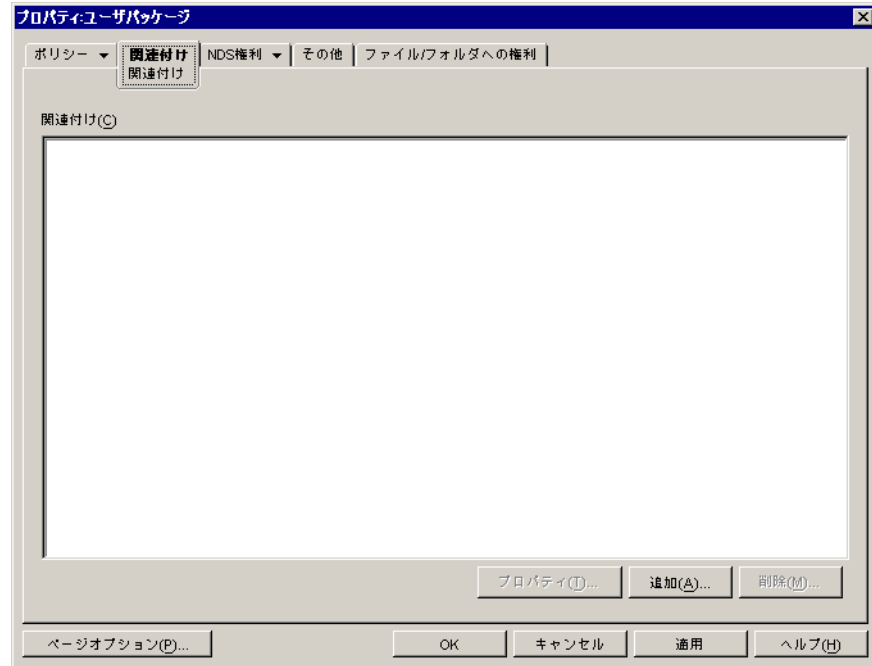
5 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[Windows ターミナルサーバ] プロパティページを閉じます。

6 次の節「**ユーザパッケージとユーザの関連付け**」に進みます。

ユーザパッケージとユーザの関連付け

ユーザポリシーパッケージを有効にする前に、ユーザに関連付ける必要があります。

- 1 ユーザパッケージオブジェクトのプロパティページが表示されていない場合は、[ユーザパッケージ] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [関連付け] タブをクリックして [関連付け] ページを表示します。



- 3 [追加] をクリックし、ポリシーパッケージを適用するユーザを参照して選択します。ユーザ、グループ、またはコンテナを追加します。
- 4 ユーザを追加し終わったら、[OK] をクリックして保存します。

ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理

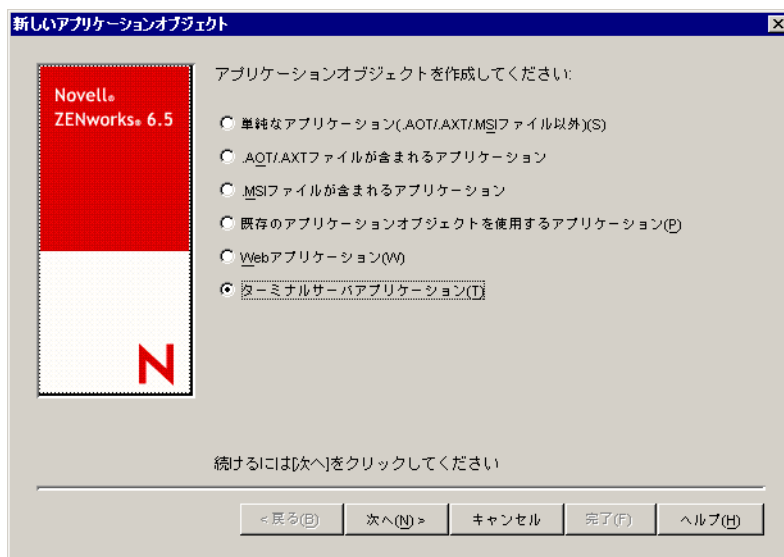
ターミナルサーバでユーザアカウントを動的に作成するときに、Workstation Manager とユーザポリシーを使用しない場合は、アカウントを他の方法で作成する必要があります（たとえば、各ターミナルサーバで静的アカウントを手動で作成するか、または Microsoft Active Directory を使用して作成します）。ユーザアカウントの作成方法については、Windows のマニュアルを参照してください。ユーザアカウントを作成するときは、次の点に注意してください。

- ◆ RDP アプリケーションに対してパススルー認証を有効にする場合、ユーザの Windows アカウントには、eDirectory アカウントと同じユーザ名とパスワードが必要です。
- ◆ パススルー認証は、ICA アプリケーションには使用できません。ユーザは、ICA アプリケーションを起動したときに、常にログインアカウント情報を要求されます。ICA アプリケーションに対してパススルー認証を有効にするには、Workstation Manager とユーザポリシーを使用する必要があります。
- ◆ グループメンバーシップまたは個別のユーザ許可によって、ターミナルサーバからアプリケーションを実行するには、ユーザアカウントに適切なファイルシステム権利を付与する必要があります。

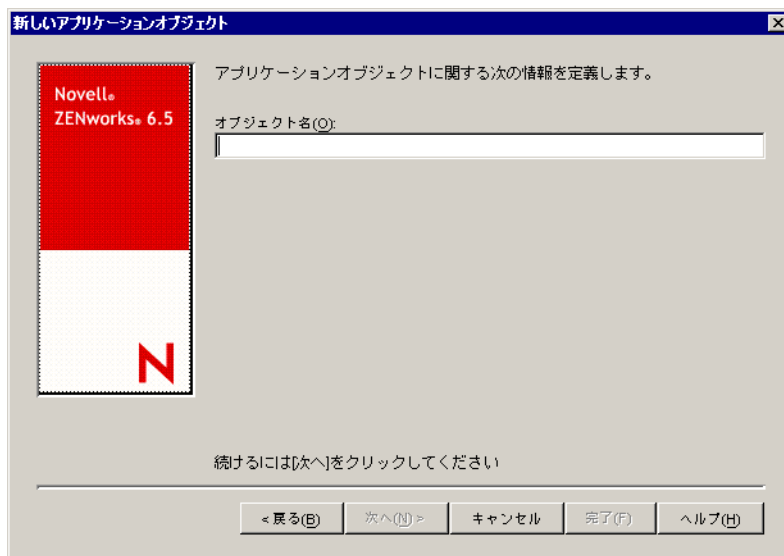
アプリケーションオブジェクトのアップグレード

DeFrame ターミナルサーバ上でホストされるアプリケーション用に作成されたアプリケーションオブジェクトは、ZENworks 6.5 Novell Application Launcher、Novell Application Launcher プラグイン、または ZENworks 6.5 Launch ガジェットでは使用できません。eDirectory でアプリケーションオブジェクトをターミナルサーバアプリケーションオブジェクトとして再作成することで、アップグレードする必要があります。手順は次のとおりです。

- 1 ConsoleOne で、アプリケーションオブジェクトの作成先のコンテナを右クリックします。次に、[新規] をクリックし、[オブジェクト] をクリックします。
- 2 [新規オブジェクト] ダイアログボックスで、[アプリケーション] を選択し、[OK] をクリックして [新しいアプリケーションオブジェクト] ダイアログボックスを表示します。



- 3 [ターミナルサーバアプリケーション] オプションを選択し、[次へ] をクリックして [オブジェクト名] ダイアログボックスを表示します。



4 アプリケーションオブジェクトの名前を指定します。

アプリケーションオブジェクトの名前は、次の規則に従って入力します。

- ◆ コンテナ内で一意の名前にします。
- ◆ 特殊文字を使用することもできます。ただし、正符号 (+)、等号 (=)、ピリオド (.) を使用するときは、その前に円マーク (¥) を付けます。
- ◆ 次の文字は、アプリケーションオブジェクトの名前では使用できますが、Windows のフォルダおよびファイルの名前では使用できません。

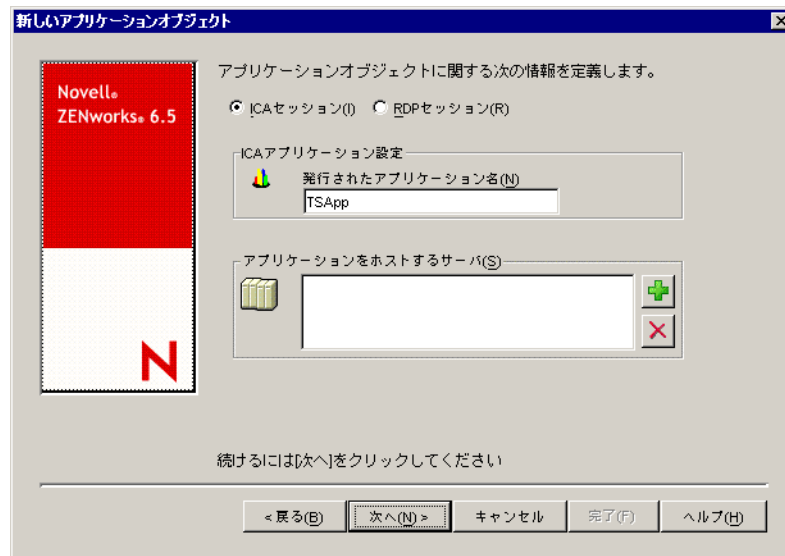
¥ / : * ? " < > |

アプリケーションオブジェクトの名前でこれらの文字を使用した場合、Novell Application Launcher ではなく Windows によって制御される場所 (Windows デスクトップなど) に表示されるときに、これらの文字がアンダースコア (_) で置き換えられます。

- ◆ 大文字と小文字、アンダースコアと空白は最初に入力したとおりに表示されますが、区別はされません。たとえば、ZENworks_Desktop_Management と ZENWORKS DESKTOP MANAGEMENT は、同一の名前として認識されます。

名前は eDirectory で表示されます。デフォルトでは、アプリケーションオブジェクトの名前は、ユーザのワークステーション上で Application Launcher に表示されるアプリケーションオブジェクトのアイコンのタイトルとしても使用されます。アプリケーションオブジェクトの作成後にも、必要に応じてアイコンのタイトルを変更できます (アプリケーションオブジェクトの [識別] タブの [アイコン] ページを使用します)。

5 [次へ] をクリックし、[ICA/RDP セッション] ダイアログボックスを表示します。



6 次の情報を入力して、アプリケーションを実行する ICA または RDP クライアントセッションを設定します。

[ICA セッション] を選択する場合は、次のフィールドに入力します。

[ICA セッション]: ICA (Independent Computing Architecture) クライアントセッションでアプリケーションを実行する場合はこのオプションを選択します。Citrix MetaFrame では、ICA クライアントセッションが必要です。

- ◆ **[発行されたアプリケーション名]**：デフォルトでは、このフィールドには前のページで入力したアプリケーションオブジェクトの名前が表示されますこの名前が Citrix IMA で定義されているアプリケーション名と一致しない場合は、Citrix の発行されたアプリケーション名に変更します。
- ◆ **[アプリケーションをホストするサーバ]**：アプリケーションをホストする Citrix サーバを追加します。サーバを追加するには、[追加] ボタンをクリックし、サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力して、[OK] をクリックします。

ここで定義したサーバは、アプリケーションが Novell Application Launcher または Novell Application Launcher プラグインから起動される場合にのみ使用されます。ZENworks Launch ガジェットは、その環境設定で定義されたサーバを使用します。ZENworks Launch ガジェットの環境設定については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」にある「ZENworks Launch ガジェット：設定」を参照してください。

[RDP セッション]：RDP (Remote Desktop Protocol) クライアントセッションでアプリケーションを実行する場合はこのオプションを選択します。Microsoft Windows ターミナルサーバでは、RDP クライアントセッションが必要です。Citrix MetaFrame も、RDP クライアントセッションをサポートしています。

[RDP セッション] を選択する場合は、次のフィールドに入力します。

- ◆ **[Terminal Server Address and Port (ターミナルサーバのアドレスとポート)]**：ターミナルサーバの IP アドレスまたはホスト名を指定します。ターミナルサーバがデフォルトのポート 3389 を使用していない場合は、[ポート] フィールドを編集して正しいポート番号を指定します。
 - ◆ **[サーバドメイン]**：ターミナルサーバが、Windows NT ドメインまたは Active Directory ドメインに含まれている場合は、ドメイン名を指定します。
 - ◆ **[アプリケーションパス]**：アプリケーションの実行可能ファイルのパスを指定します。ターミナルサーバで ConsoleOne を実行している場合は、ファイルを参照して選択できます。
 - ◆ **[作業ディレクトリ]**：アプリケーションが作業ファイルを作成するディレクトリのパスを指定します。
- 7 [次へ] をクリックし、アプリケーションのワークステーションへの配布を制御するルールを定義します。手順は次のとおりです。
- 7a [Add] をクリックし、定義するルールのタイプを選択します。
- 7b ルールの情報を入力し（ルールの情報については [ヘルプ] をクリックしてください）、[OK] をクリックして要件を一覧に追加します。
- 注：以前のバージョンの ZENworks では、オペレーティングシステムのバージョン (OS バージョン) ルールが必要でした。現在は不要です。
- 8 [Next] をクリックし、アプリケーションオブジェクトを、アプリケーションの配布先であるユーザまたはワークステーションに関連付けます。手順は次のとおりです。
- 8a [Add] をクリックし、ユーザオブジェクトまたはワークステーションオブジェクトを参照します。グループオブジェクト、ワークステーショングループオブジェクト、およびコンテナオブジェクト（部門、組織、または国）も選択できます。コンテナオブジェクトを選択した場合、そのコンテナの全ユーザオブジェクトおよびワークステーションオブジェクトについて、アプリケーションに関連付けるかどうかを選択できます。

重要：アプリケーションに関連付ける各ワークステーションは、事前にワークステーションオブジェクトとして eDirectory にインポートしておく必要があります。

- 8b ユーザまたはワークステーションをリストに追加した後、アプリケーションに適用する特性（[強制実行]、[NAL]、[スタートメニュー]、[デスクトップ]、[シストレイ]、[クイック起動]、[強制キャッシュ]）を設定するために、ユーザまたはワークステーションの該当するチェックボックスをオンにします。これらの特性の説明については、[ヘルプ] をクリックします。
- 9 [次へ] をクリックし、アプリケーションオブジェクトの設定を確認したら、[終了] をクリックしてアプリケーションオブジェクトを作成します。

ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール

Novell Application Launcher、Novell Application Launcher プラグイン、または ZENworks Launch ガジェットでターミナルサーバアプリケーションを起動する場合、常に Citrix ICA クライアントまたは Microsoft RDP クライアントを使用して、ターミナルサーバとのクライアントセッションが作成されます。このため、各ユーザのワークステーションに ICA および RDP クライアントをインストールする必要があります。

ICA クライアント

ワークステーションに ICA Program Neighborhood (PN) クライアントまたは ICA Web クライアントをインストールする必要があります。ユーザのワークステーションに PN クライアントまたは Web クライアントがまだインストールされていない場合は、次の手順に従います。

- 1 Citrix Download Clients サイト (<http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755>) から PN クライアントまたは Web クライアントファイルをダウンロードします。
- 2 各ワークステーションにクライアントファイルを配布します。手順は次のとおりです。
 - 2a 『Citrix 管理者ガイド』に記載されている手順に従うか、または Novell Application Launcher を使用して、クライアントファイルを配布します。
 - 2b (条件付き) ZENworks Launch ガジェットを使用している場合は、Web クライアント (wficat.cab) ファイルをポータルサーバ上の次の場所にコピーします。

`tomcat¥webapps¥nps¥portal¥gadgets¥com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget¥bin`

または

PN クライアントの場合は、ファイル名を wficat.cab に変更して上記の場所にコピーします。

ICA クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは CAB ファイルを使用してクライアントをインストールします。その後、ユーザは Novell Application Launcher、Novell Application Launcher プラグイン、および ZENworks Launch ガジェットから ICA アプリケーションを起動できます。

ZENworks Launch ガジェットの使用方法については、[20 章 275 ページの「ZENworks 6.5 Launch ガジェットへのアップグレード」](#)を参照してください。

RDP クライアント

Microsoft RDP 5.1 クライアント (msrdp.ocx) は、ZENworks デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Launch ガジェットに含まれています。デスクトップ管理エージェントのインストール時に、c:\program files\novell\zenworks ディレクトリに msrdp.ocx がインストールされます。ZENworks Launch ガジェットを使用する場合、ユーザが RDP クライアントセッションで実行するように設定されたターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは、c:\program files\novell\zenworks ディレクトリに msrdp.ocx ファイルをインストールします。

22

ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 へのアップグレード

この節には、次の情報が含まれています。

- ◆ 295 ページの「概要」
- ◆ 296 ページの「インストール前のチェックリスト」
- ◆ 297 ページの「Desktop Management Server 用 SP1 アップグレードのインストール」
- ◆ 304 ページの「ZENworks Middle Tier Server のアップグレード」
- ◆ 314 ページの「ZENworks 管理エージェントのアップグレード」

概要

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management Support Pack 1 (SP1) アップグレードの機能の概要については、次の情報を参照してください。

- ◆ 295 ページの「SP1 のインストールで実行される処理」
- ◆ 296 ページの「SP1 インストールプログラムが実行しない項目」
- ◆ 296 ページの「ネットワークサーバの段階的アップグレード」

SP1 のインストールで実行される処理

- ◆ SP1 のインストールプログラムは、6.5 がインストールされたパスを使用して、ZENworks 6.5 Desktop Management ソフトウェアを検出しアップグレードします。
- ◆ サーバ上で実行されているサービス（インベントリサービスを除く）はSP1のインストールプログラムによって停止および再開されます。
- ◆ 常に SP1 のファイルがコピーされ、新旧を問わずすべてのファイルがアップグレードファイルに置き換えられます。ZENworks ディレクトリ以外の場所にコピーされたファイルは、それらが古いファイルの場合のみ置換されます。
- ◆ SP1 インストールでは、インストール対象のワークステーションだけでなく、アップグレードウィザードによって検出されたのターゲットサーバ上の ConsoleOne スナップインがすべて ZENworks 6.5 SP1 にアップグレードされます。[ConsoleOne] チェックボックスをオンにする場合は、過去にインストールされたスナップインがすべてバージョン 6.5 であることが必要です。

SP1 インストールプログラムが実行しない項目

- ◆ 各機能に対応するチェックボックスを選択解除することはできません。これらのステータスは、アップグレード対象のサーバを選択したときにインストールプログラムによって判断されます。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management より前のバージョンのZENworksをZENworks 6.5 Desktop Management SP1 にアップグレードすることはできません。
- ◆ 既存のZENworks コンポーネント以外はインストールされません。
- ◆ インストールプログラムでは、ConsoleOne がインストールされていて 6.5 Desktop Management スナップインがインストールされていないワークステーションオブジェクトは選択できません。個々のワークステーションを Desktop Management SP1 スナップインでアップデートするには、そのワークステーションから、元のZENworks 6.5 Desktop Management Server に付属のインストールプログラムを実行する必要があります。
- ◆ eDirectory オブジェクトはいつさいアップグレードされません。すでにインストールされているZENworks 6.5 ソフトウェアのみアップデートされます。
- ◆ インベントリサーバをアップグレードする場合、インストールプログラムは自動的にインベントリサービスを開始しません。SP1 のアップグレード後に手動でサービスを開始する必要があります。

ネットワークサーバの段階的アップグレード

ZENworks 6.5 サーバを SP1 にアップグレードするとき、すべてのサーバを 1 回のパスでアップグレードすることも、地理的な条件に基づいて段階的にアップグレードすることもできます。

SP1 のインストールプログラムでは、複数のサーバが一度にアップデートされます。複数のサーバが存在する場合、1 回のインストールセッションでこれらのサーバをアップグレードするのに要する時間を検討してください。アップグレードにかかる時間が長すぎる場合、対象になるサーバを複数のグループに分けて、一度に 1 つのグループをアップグレードできるようにします。

インストール前のチェックリスト

- ❑ 27 ページの「準備」に示されているインストールの要件をすべて満たしていることを確認します。
- ❑ ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 をインストールするコンピュータに、ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされていることを確認します。
- ❑ SP1 の Readme でインストールに関する最新情報を確認します。ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 の readme は、[Novell ZENworks 6.5 Documentation Web サイト](http://www.novell.com/documentation/zenworks65)で入手できます。(http://www.novell.com/documentation/zenworks65)

- ❑ Novell Support Web サイト (<http://support.novell.com>) から、ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 のインストールプログラムをダウンロードします。

ダウンロードした SP1 のインストールプログラムを、インストール対象ワークステーションのハードドライブに保存する場合、ハードドライブのルートと、コピー先ディレクトリ間のパスには、8.3 形式の DOS ファイル名規則に準拠するディレクトリ名だけを使用することができます。パス内に長いディレクトリ名が存在する場合、インストールプログラムは起動しません。
- ❑ クラスタにインストールする場合は、手動で各クラスタノード上の Java をアンロードする必要があります。通常、インストールプログラムは自動的に Java をアンロードしますが、自動的にアンロードされるのは仮想サーバが存在するノード上の Java のみであるからです。各クラスタノード上の Java をアンロードするには、サーバのコマンドラインで、「**Java exit**」と入力します。
- ❑ Novell ConsoleOne のインスタンスが、ワークステーション上のマップされたドライブから起動され、ターゲットサーバ上で実行されている場合や、インストール対象のワークステーションから実行されている場合は、これらの ConsoleOne のインスタンスを終了してからインストールプログラムを実行します。こうした状況で ConsoleOne が実行されているコンピュータでは、ConsoleOne のアップデートされた ZENworks 6.5 Desktop Management スナップインがインストールされません。
- ❑ Desktop Management をインストールするために使用するワークステーションで、Desktop Management ソフトウェアをインストールするすべての eDirectory ツリーにログインしていない場合は、ログインします。

インストール中、ログインしたツリー内のすべてのターゲット NetWare サーバで自動的に認証され、SP1 のインストール先としてこれらのサーバを選択できます。
- ❑ SP1 を Windows サーバにインストールする場合は、すべての Windows サーバで [サービス] ウィンドウが閉じていること、そのサーバで認証を受けていること、および、そのサーバの存在するドメインで認証を受けていることを確認します。

インストールプログラムは、すべての ZENworks Desktop Management サービスを停止させますが、サーバへのインストール中に [サービス] ウィンドウが開いていると、これらのサービスを登録することができません。


Desktop Management Server 用 SP1 アップグレードのインストール

ZENworks 6.5 Desktop Management Server Support Pack 1 (SP1) を NetWare[®] サーバまたは Windows サーバにインストールするには、次の手順に従います。

- 1 Windows 2000/XP ワークステーション（または Windows 2000/2003 サーバ）を選択して、SP1 のインストールプログラムを実行します。

このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、29 ページの「**インストールに使用する Workstation の条件**」を参照してください。
- 2 Novell Support からダウンロードした SP1 インストールプログラムを参照し、winsetup.exe プログラムを実行します。

Novell® ZENworks® 6.5 — Support Pack 1



Desktop Management	ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1を適用します
Server Management	ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1を適用します
Handheld Management	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
Data Management	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
Patch Management	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
ソフトウェアパッケージ	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
Personality Migration	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
Companion プログラムおよびファイル	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
マニュアル	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します

→ 終了

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management — Support Pack 1

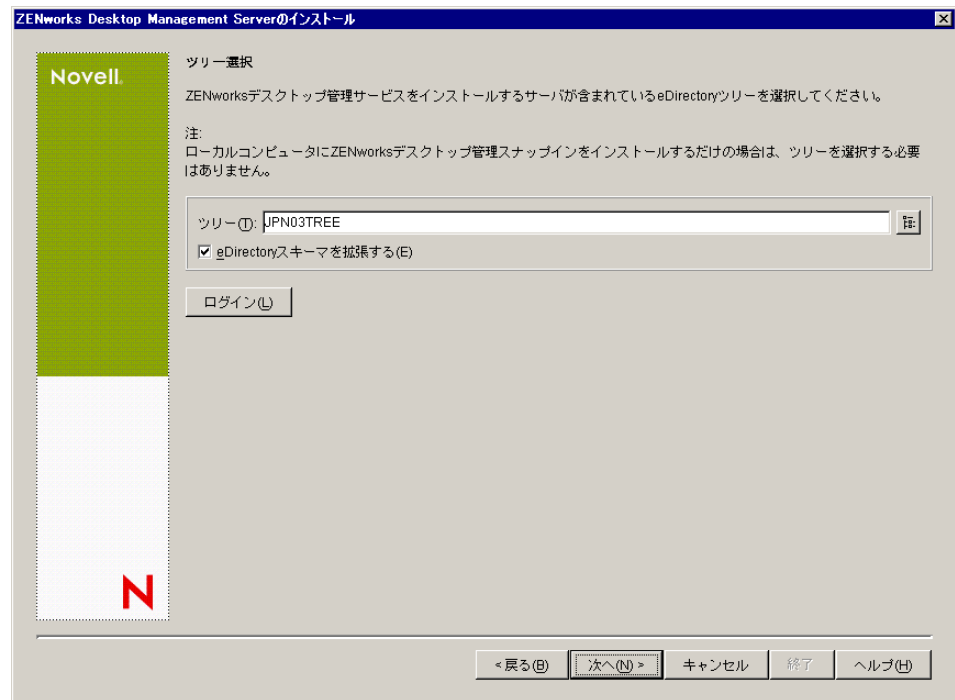
N

スキーマの拡張と製品のライセンス	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
デスクトップ管理サービス	Support Pack 1を適用します
Middle Tier Server	Support Pack 1を適用します
デスクトップ管理エージェント	Support Pack 1を適用します
マニュアル	Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します

◀ 戻る

→ 終了

- 5 [デスクトップ管理サービス] をクリックし、Desktop Management Server インストールウィザードを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Desktop Management Server Support Pack 1 のインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [ツリー選択] ページで、Desktop Management Server SP1 へのアップデートを行う Novell eDirectory™ ツリーの名前を入力または参照し、[次へ] をクリックします。
ZENworks 6.5 Support Pack 1 (SP1) をインストールしているため、eDirectory ツリーはすでに展開されています。6.5 インストールからの [スキーマの拡張] チェックボックスは、SP1 インストールのこのページには表示されません。

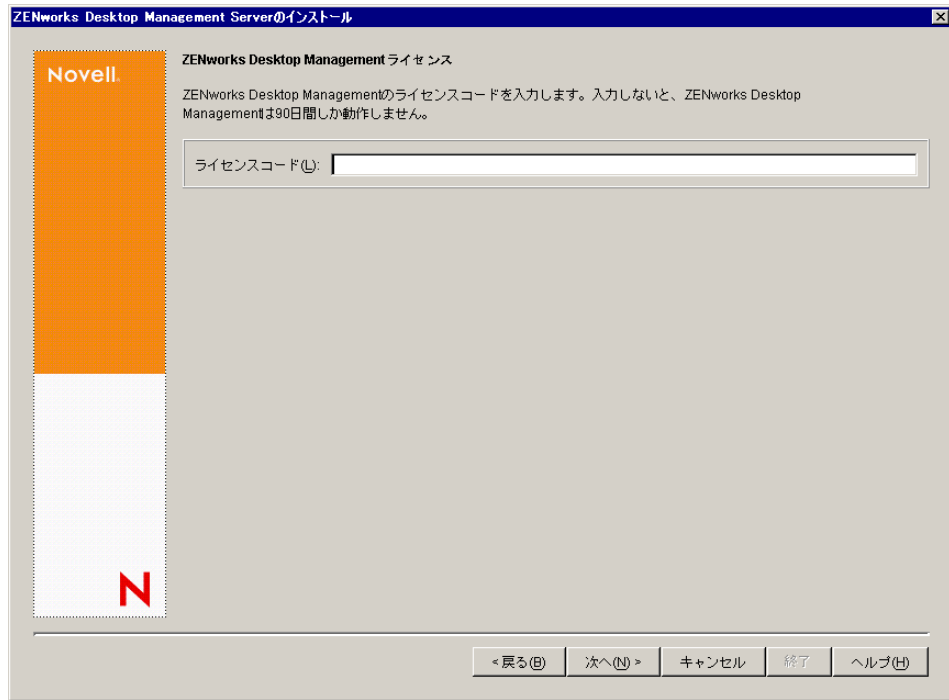


ZENworks Desktop Management スナップインだけをローカルの管理ワークステーションにインストールする場合は、ツリーを選択する必要はありません。

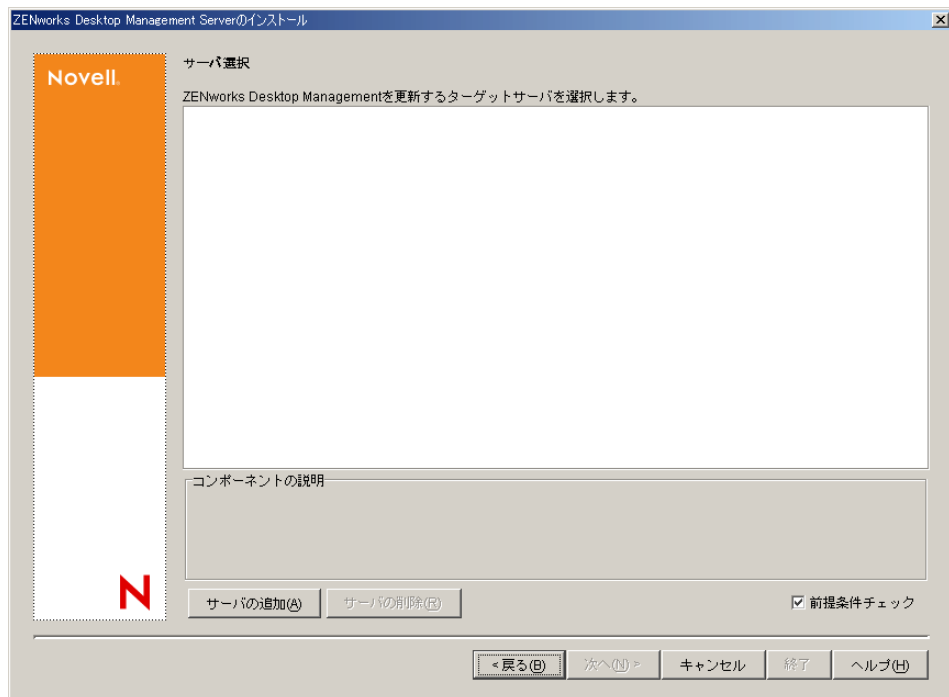
[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

- 10 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。

このページでライセンスコードを指定しない場合、ZENworks Desktop Management のこのインストールは評価版とみなされます。評価版としてインストールすると、定期的な間隔で製品のライセンスを取得するように促されます。90 日経つと、評価版は機能しなくなります。



- 11 [サーバ選択] ページで、[サーバの追加] をクリックし、Support Pack 1 をインストールするサーバの名前を参照します。



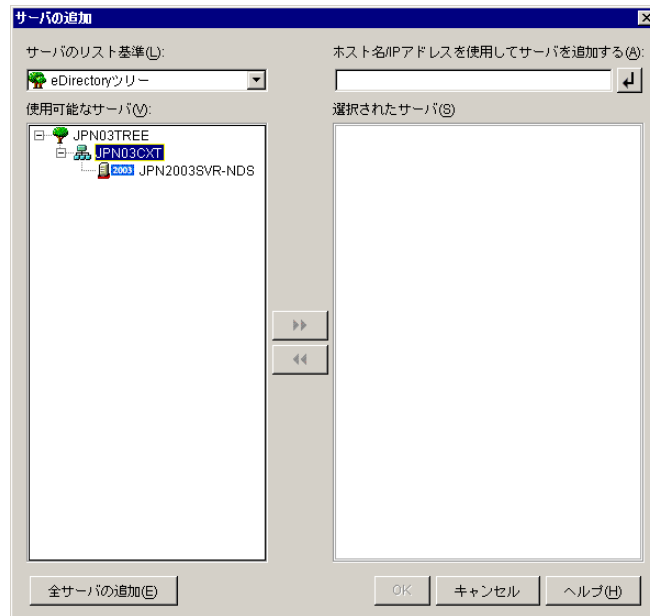
ステップ 9 で選択したツリーからのみサーバを選択できます。

Desktop Management Server は、インストールできるサーバのリストに含まれていても、ネットワークオペレーティングシステムによってはサポートされていない場合があります。詳細については、このインストールプログラムの最初（ライセンス契約の後）に表示されるサポート対象サーバのリストを確認するか、ZENworks Desktop Management オンラインマニュアルを参照してください。

ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 では、ZENworks Desktop Management Server がインストールされていないサーバを追加することもできますが、追加として選択しても、SP1 アップデートの候補としては拒否されます。

重要： デスクトップ管理サービス (Desktop Management Services) を NetWare クラスタにインストールした場合は、インストール先としてクラスタボリューム（仮想クラスタサーバ）を選択する必要があります。ConsoleOne スナップインをクラスタにインストールする場合は、クラスタボリュームを選択すると、スナップインが各クラスタノードにインストールされます。

11a（オプション）[サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとにサーバを一覧表示できます。サーバにインストールするには、[eDirectory ツリー] を選択し、インストール先のサーバの名前を参照してクリックするか、[全サーバの追加] をクリックしてコンテナ内のすべてのサーバを選択します。右方向矢印ボタンをクリックして、選択したサーバを [選択されたサーバ] ペインに移動し、[OK] をクリックします。



ディレクトリを参照して選択できる Windows サーバは、eDirectory がインストールされているサーバのみです。

認証されていない Windows サーバを追加する場合は、サーバのアイコンをダブルクリックしてダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Windows 認証に必要なアカウント情報を入力します。

11b（オプション）[サーバの追加] ダイアログボックスでは、[ホスト名 / IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドにサーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。指定した値は、サーバの名前に解決する必要があります。

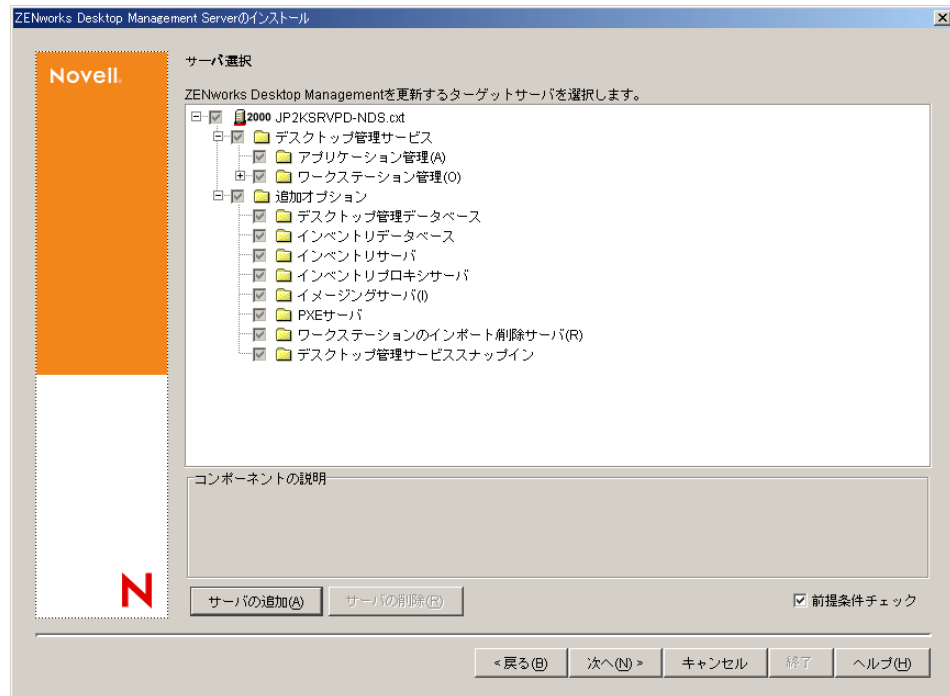
[🔍] をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- 12 [サーバ選択] ページには、そのサーバ上で ZENworks 6.5 によってインストール済みのサービスだけが、SP1 アップデートの候補として表示されます。[ローカルワークステーション] の設定を除き、選択内容を変更することはできません。

注：これらのサービスについては、54 ページの「完全インストール（スキーマの拡張を含む）の実行」を参照してください。

[ローカルワークステーション]：ZENworks 6.5 のインストールでは、[ローカルワークステーション] オプションの [Desktop Management Service Snap-ins(デスクトップ管理サービススナップイン)] を選択することで、ローカルワークステーションにデスクトップ管理サービススナップインをインストールするオプションを利用できました。

SP1 のインストールでは、スナップインがローカルにインストールされている場合にのみ、このチェックボックスが表示されます。必要に応じて、チェックボックスの選択を解除することもできます。



- 13 (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択内容を保存します。インストールプログラムでは、サーバのネットワークオペレーティングシステムのバージョン (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバおよびインストールするワークステーション上の Novell Client™ (4.9 SP1a) の有無とバージョン、および ConsoleOne (1.3.6) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合は、エラーまたは警告メッセージが表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるか、チェックボックスの選択を解除するまでインストールを続行することはできません。

- 14 [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。

[戻る] をクリックすると、必要に応じて何度でも変更を加えることができます。

[キャンセル] をクリックすると、インストール情報は保存されません。

インストール完了後、インストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmserver_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `%novell%\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。このログファイルには、コンポーネントのインストールが失敗したかどうかを示されます。

インストールの概要を見直し、選択した内容を確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmserver_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_installsummary.log`)。このファイルも `c:%novell%\zfdtemp` にあります。

- 15 (条件付き) アップグレード済みのインベントリサーバを使用している場合は、手動でインベントリサービスを開始する必要があります。

- ◆ **NetWare サーバの場合**：サーバのメインコンソールプロンプトで「**startinv**」と入力します。
- ◆ **Windows サーバの場合**：ステップ 15a に進みます。

15a [コントロール パネル] を開きます。

15b [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。

15c [Novell Inventory Service] を選択し、[開始] をクリックします。

アップグレード後の作業

ZENworks 6.5 インベントリサーバが ZENworks ソフトウェアディクショナリのアップデートを ZENworks 6.5 SP1 インベントリサーバから受け取った場合は、ZENworks 6.5 インベントリサーバ上で次の作業を行う必要があります。

- 1 Inventory Service を停止します。
- 2 `Inventory_server_installation_path\%zenworks%\inv\server\%wminv%\lib` ディレクトリにある `desktopcommonutility.jar` のバックアップを作成します。
- 3 `desktopcommonutility.jar` を *ZENworks 6.5 SP1 Companion* `CD\companion2\%zen65patch%\inv\server\%wminv%\lib` から `Inventory_server_installation_path\%zenworks%\inv\server\%wminv%\lib` ディレクトリにコピーします。
- 4 Inventory Service を起動します。

ZENworks Middle Tier Server のアップグレード

ZENworks 6.5 Desktop Management Server Support Pack 1 (SP1) を NetWare サーバまたは Windows サーバにインストールするには、次の手順に従います。

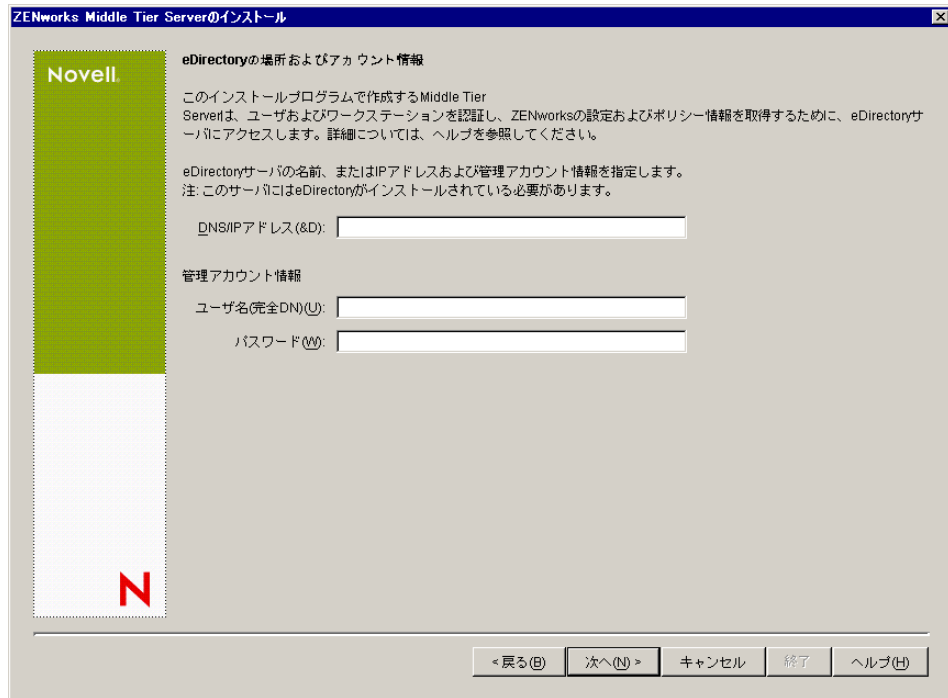
- 1 Windows 2000/XP ワークステーション（または Windows 2000/2003 サーバ）を選択して、Middle Tier Server SP1 のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、[29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」](#)を参照してください。
- 2 Novell Support からダウンロードした SP1 インストールプログラムを参照し、winsetup.exe プログラムを実行します。

Novell® ZENworks® 6.5 – Support Pack 1	
Desktop Management	ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1を適用します
Server Management	ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1を適用します
Handheld Management	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
Data Management	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
Patch Management	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
ソフトウェアパッケージ	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
Personality Migration	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
Companion プログラムおよびファイル	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
マニュアル	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します
	→ 終了

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management — Support Pack 1	
スキーマの拡張と製品のライセンスリング	このコンポーネントにはSupport Pack 1を適用できません
デスクトップ管理サービス	Support Pack 1を適用します
Middle Tier Server	Support Pack 1を適用します
デスクトップ管理エージェント	Support Pack 1を適用します
マニュアル	Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します
<div> 戻る 終了 </div>	

- 5 [Middle Tier Server] をクリックし、Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Middle Tier Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 SP1 インストールプログラムの [eDirectory の場所およびアカウント情報] ページでは、ラジオボタンを使用して、元の 6.5 環境から引き継ぐ Middle Tier の設定を選択できます。また、このページには、ZENworks Middle Tier Server の設定または再設定を行うためのラジオボタンも表示されます。



9a (省略可能) 元の設定を引き継ぐように選択した場合は、[次へ] をクリックしてインストールを続行します。308 ページのステップ 12 に進んでください。

9b (省略可能) Middle Tier Server の設定または再設定を選択した場合は、次のフィールドに必要な情報を入力します。

[DNS/IP アドレス] : eDirectory をインストールするサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

[ユーザ名 (完全 DN)] : Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を指定します (例: midtier-proxy.org-unit.org)。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。

必要な権限については、93 ページの「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」を参照してください。

[Password] : Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを指定します。

10 (ステップ 9b を選択した場合のみ) [ZENworks ユーザコンテキスト] ページ ([ユーザコンテキスト] フィールド) で、Desktop Management によって使用されるユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する、eDirectory コンテキストを指定します。

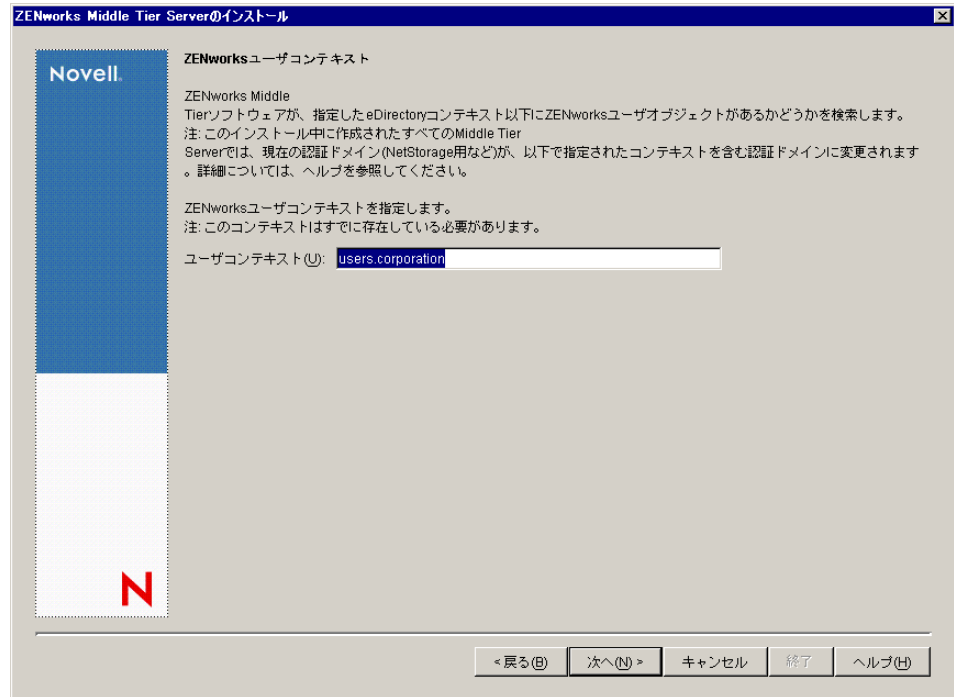
ユーザオブジェクトが常駐する最上位のコンテナのコンテキストを使用する必要があります。この値は ZENworks Middle Tier Server に渡されます。ZENworks Middle Tier Server では、ユーザ検索時の開始ポイントとしてこの値を使用します。

たとえば、ユーザが多くサブコンテナに存在している場合は、これらのサブコンテナすべてを保持するコンテナのコンテキストを指定します。ユーザが ZENworks Middle Tier Server を通じてログインすると、サーバは指定された eDirectory コンテナでユーザの検索を開始し、適切なユーザが見つかるまで指定したコンテナのサブコンテナを検索します。

このインストールで指定する Middle Tier Server の場合、現在設定済みの認証ドメイン (NetStorage 用に設定された認証ドメインなど) は、ここで指定したコンテキストを持つ 1 つの認証ドメインに置き換えられます。

インストール後に、NSAdmin ユーティリティを使用して、この認証ドメインのコンテキストを再設定することができます。このユーティリティは Web ブラウザで開くことができます (http://middle_tier_server_name/oneNet/nsadmin)。

インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。



- 11 (**ステップ 10** を選択した場合のみ) [ZENworks ファイルの場所] ページで、ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするためのネットワークの場所を選択します。

ZENworks Middle Tier Server では、ネットワーク上の他の場所にインストールされた ZENworks ファイルにアクセスする必要があります。ZENworks 管理者として、配布用のポリシーまたはアプリケーションの作成時に、これらのファイルの場所を定義します。このページで提供する情報は、Middle Tier Server が別のファイルシステムへのアクセス方法を決定する際に使用されます。ZENworks ファイルをまだ作成していなくても、この決定は現在のインストールに必要です。

- ◆ ZENworks の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルを NetWare サーバにだけ配置する場合は、1 番目のオプションボタンを選択します。
- ◆ ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルの一部、またはすべてを Microsoft Windows サーバ上に配置する場合は、2 つ目のオプションボタンを選択します。

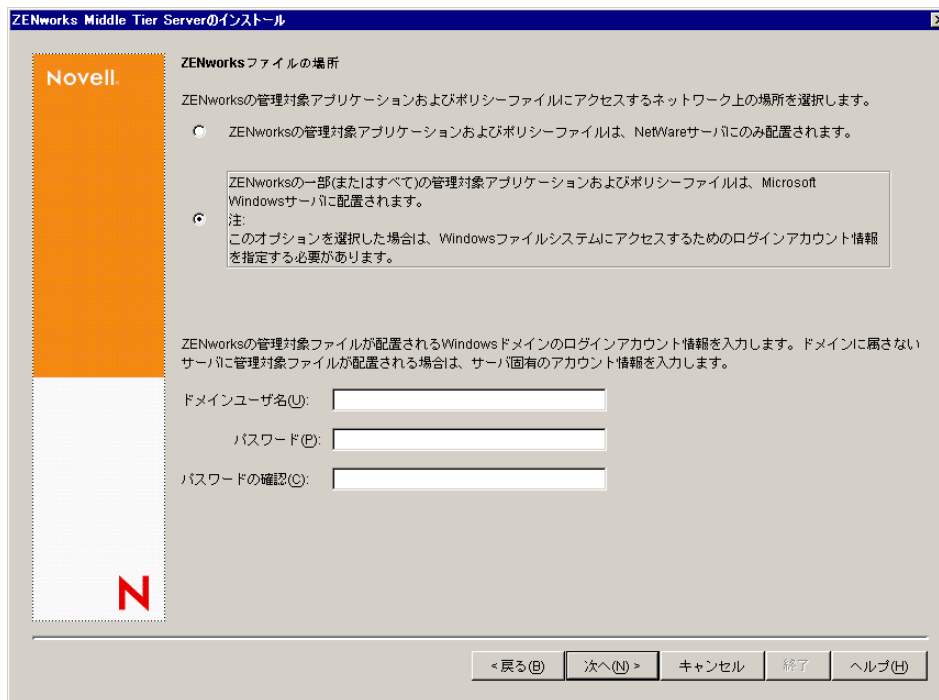
ZENworks ファイルを Windows ファイルシステムに配置する場合、Middle Tier Server は Novell eDirectory のユーザ名とパスワードを使用してこれらのファイルにアクセスすることができません。これらのファイルにアクセスするには、Windows ドメインのアカウント情報が必要です。

ドメインに属していないサーバ上にファイルを配置する場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

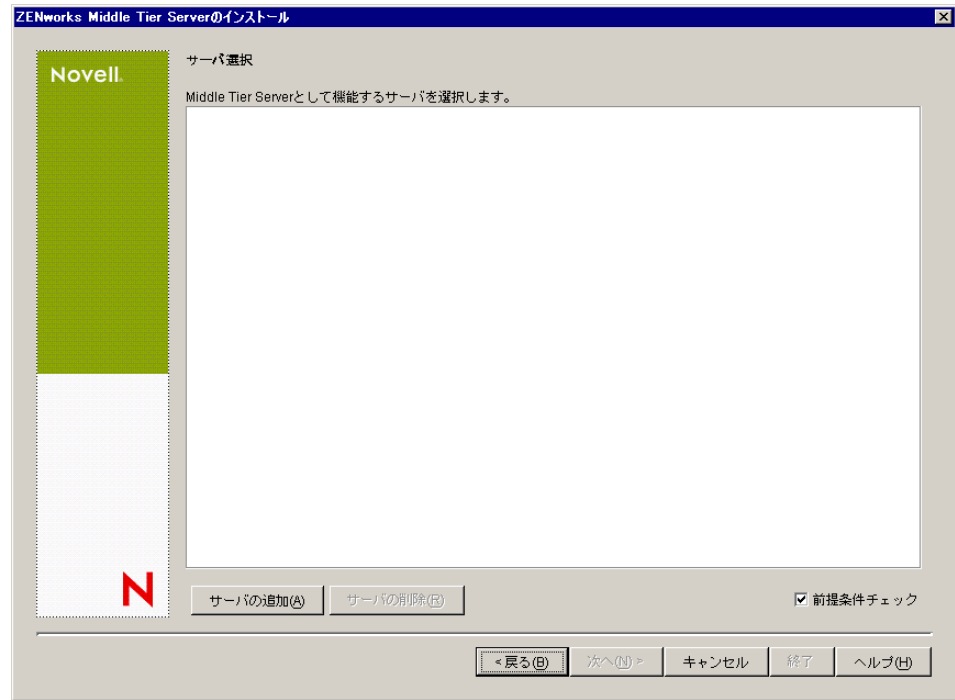
[ドメインユーザ名]：ZENworks ファイルの場所に対する Windows ファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内の任意のユーザのユーザ名を指定します。

[Password]：ZENworks ファイルに対するファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内のユーザのパスワードを指定します。

[パスワードの確認]：正しいパスワードが入力されたことを確認するために同じパスワードを指定します。



- 12 [サーバ選択] ページで、Middle Tier Server として機能するターゲットサーバのリストを作成する必要があります。[サーバの追加] ボタンを使用すると、サーバを検索してリストに追加するダイアログボックスが表示されます。[サーバの削除] ボタンを使用すると、追加したサーバをターゲットリストから削除することができます。[サーバの追加] をクリックします。



- 13 (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks Middle Tier Servers のインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。

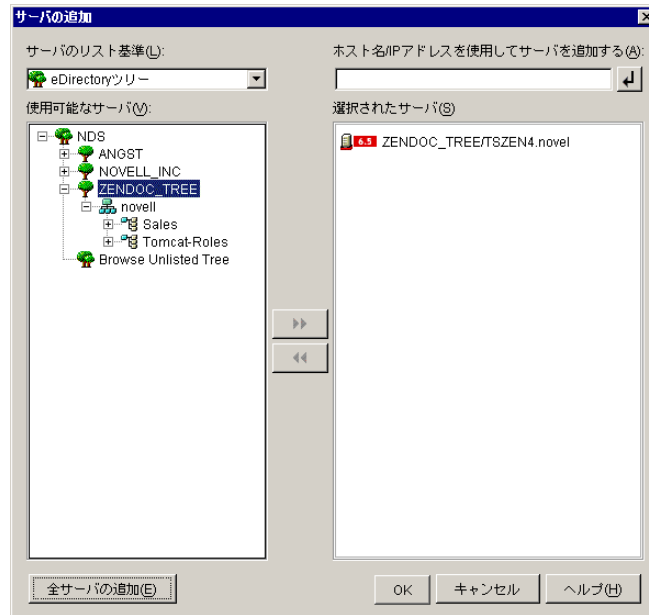
インストールプログラムは、以前にインストールされた Middle Tier Server ソフトウェアのバージョン、サーバのネットワークオペレーティングシステム (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバ上の IIS Web サーバの有無とバージョン、NetWare サーバ上の適切な Web サーバの有無とバージョン、およびターゲットサーバ上の NetStorage (2.6.0) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件が満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。

- 14 [サーバの追加] ダイアログボックスで、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストを開き、Novell eDirectory のツリー、Microsoft Windows Network の構造、または Microsoft Active Directory のツリー内の場所に基づいてサーバを一覧表示するオプションを表示します。

インストール中に、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを複数のサーバにインストールできます。サーバをリストに追加したら、[OK] をクリックします。

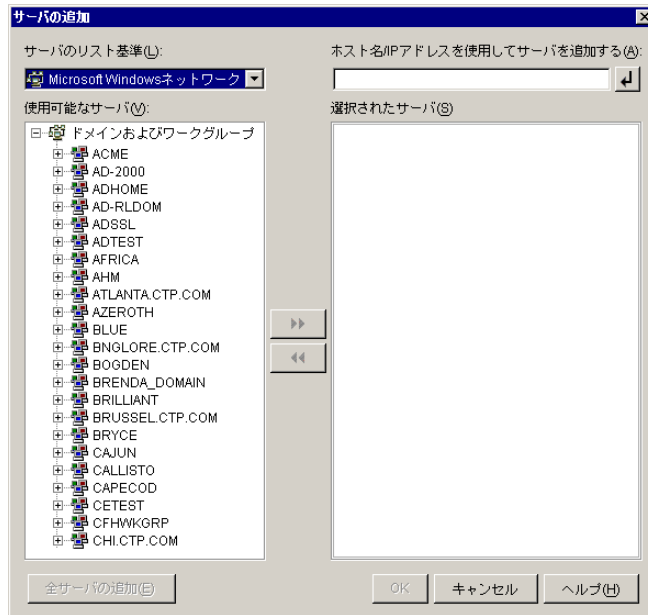
- 14a (eDirectory ツリーのサーバをリストに表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンボックスで [eDirectory ツリー] を選択し、現在認証されているすべての eDirectory ツリーを表示します。次に、ツリーを参照して目的のサーバまで移動し、右方向矢印ボタンをクリックしてサーバアイコンを [選択されたサーバ] リストボックスに移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックすると、ダイアログボックスにネットワーク上のすべてのツリーを表示できます。これらのツリーのいずれかをダブルクリックすると、認証されていないツリーでも、[使用可能なサーバ] リストに追加されます。
- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、サーバの名前に解決可能である必要があります。
 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- ◆ 認証されていないサーバを選択した場合は、ツリーの eDirectory アカウント情報を入力するように要求されます。
- ◆ [全サーバの追加] をクリックすると、認証が完了するときに、選択したツリーまたはコンテナのすべてのサーバが追加されます。上位レベルのコンテナを選択すると、そのコンテナのサーバすべてと、下位のコンテナにあるすべてのサーバが選択されます。
- ◆ サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、<Shift> または <Ctrl> キーを押しながらサーバを選択します。

- 14b (Microsoft Windows ネットワーク構造のサーバをリストに表示する場合)
 [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで [Microsoft Windows ネットワーク] を選択し、現在認証されているすべての Windows ワークグループと Microsoft ドメインを一覧表示します。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストに移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

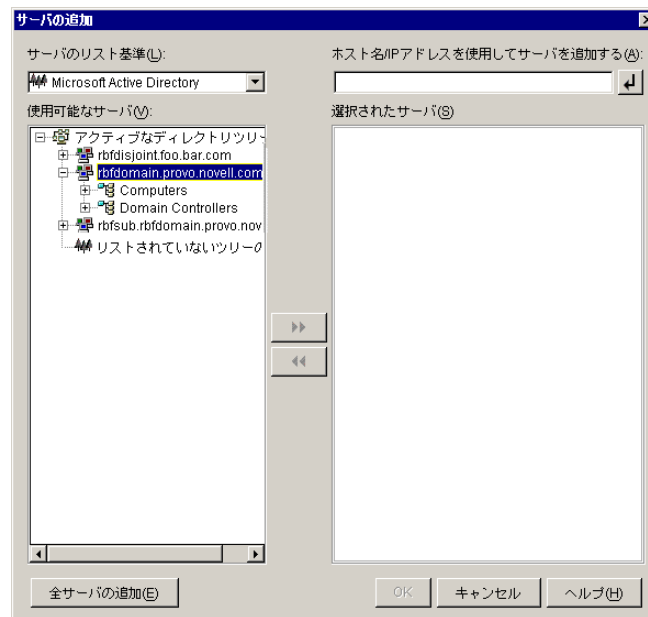
- ◆ [選択されたサーバ] リストにサーバを追加するには、サーバの管理ユーザである必要があります。サーバで認証されていない場合は、オブジェクトに疑問符のマークが表示されます。サーバが ZENworks 6.5 Desktop Management でサポートされているサーバプラットフォームの場合、疑問符のマークをダブルクリックしてサーバに対する認証を実行し、二重の右向き矢印をクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。
- ◆ Windows サーバ上にある ZENworks ファイルは、NetWare にインストールされた Middle Tier Server から取得することができないため、Microsoft ドメイン内のサーバの一覧を表示するときに、NetWare サーバは一覧に表示されません。
- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。この値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。
 をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

Windows サーバの複数のサーバ名のエイリアスを使用する場合、最初のエイリアスは Windows サーバの物理名であることが必要です。

- ◆ サーバの認証用に指定したアカウント情報(ステップ 11 を参照)が管理アカウントではない場合、サーバをターゲットサーバとして追加することはできませんが、[サーバの追加] ダイアログボックスを閉じるときに管理アカウントの入力を再度求められます。
- ◆ 選択したドメインまたはワークグループ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはワークグループを選択すると、そのドメインまたはワークグループ内の認証済みサーバのすべてが選択されます。

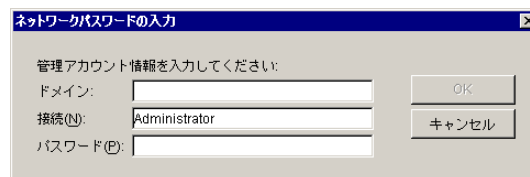
- ◆ [選択されたサーバ] リストからサーバを削除し、[使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] リストでサーバ名をクリックし、二重の左向き矢印をクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、〈Shift〉または〈Ctrl〉キーを押しながらサーバを選択します。

14c (Microsoft Active Directory でサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで、[Microsoft Active Directory] を選択します。ワークステーションが Active Directory のメンバーの場合、Active Directory のツリー内のドメインが表示されます。Active Directory で (ドメインごとに) リスト表示されるすべてのサーバを参照し、目的のサーバへの構造を参照します。次に、二重の右向き矢印をクリックして、サーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックして、追加するドメイン名の指定が可能なダイアログボックスを開きます。そして、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストにサーバを表示する前に、適切なアカウントを使ってサーバへの認証を実行することができます。



- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。

↓をクリックして名前解決処理を開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- ◆ ドメインオブジェクトを右クリックし、次の 3 種類の検索方法のいずれかを選択します。

[**検索基準の場所**]：ドメインのルートにあるコンピュータとドメインコントローラを一覧表示します。これはデフォルトの検索方法です。

[**ディレクトリ全体の検索**]：コンピュータが配置されているすべてのディレクトリコンテナを一覧表示します。

[**ディレクトリ階層の参照**]：ディレクトリ内のすべてのコンテナを一覧表示します。コンテナを 1 つずつ展開して、目的のコンピュータを探することができます。大規模なディレクトリの検索基準以外の場所にコンピュータがある場合、この検索方法が役立ちます。

- ◆ [全サーバの追加] をクリックして、選択したドメインまたはコンテナのすべてのサーバを追加します。ドメインまたはコンテナを選択すると、そのドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバが選択されます。
 - ◆ サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。[選択されたサーバ] から複数のサーバを削除するには、<Shift> または <Ctrl> キーを押しながらサーバを選択します。
- 15 [概要] ページで、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアおよび関連付ける Desktop Management Server のインストール先として選択した場所を確認します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストール処理を開始します。
- Middle Tier Server インストールウィザードは、別のインストールプログラムを起動します。このプログラムが完了するのを待ちます。
- インストール完了後、インストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmmidtier_install.log` になります（たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_install.log`）。このファイルは、インストール元のコンピュータの `%novell%\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。このログファイルには、コンポーネントのインストールが失敗したかどうかを示されます。
- インストールの概要を見直し、選択した内容を確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmmidtier_installsupportsummary.log` という名前のログファイルに保存されます（たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_installsupportsummary.log`）。このファイルも `c:%novell%\zfdtemp` にあります。
- 16 Desktop Management Server の eDirectory を対象とする ConsoleOne で、クリアテキストパスワードを許可するように Desktop Management Server を設定していることを確認します。
- 詳細については、[63 ページのステップ 15](#) を参照してください。
- 17 (NetWare 6 のインストールのみ) NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server 上の `autoexec.ncf` ファイルを編集して、Apache Web Server のロードとバインドが正常に行われるようにします。
- 詳細については、[94 ページの「NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集」](#) を参照してください。
- 18 ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたサーバを再起動します。

- 19 ワークステーションのブラウザで次の URL のいずれかを入力し、ZENworks Middle Tier Server がインストールされて、稼動していることを確認します。

`http://Middle_Tier_Server_DNS_or_IP/oneNet/xtier-stats`

`http://Middle_Tier_Server_IP_address/oneNet/zen`

ZENworks Middle Tier Server が稼動していれば、1 つ目の URL でサーバの統計値が表示された Web ページが開きます。ブラウザの [更新] ボタンをクリックすることにより、要求数が増加している場所が表示できます。

認証されていない場合、2 つ目の URL では、ユーザアカウント情報の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。認証された場合、3 つ目の URL では、XZEN (Middle Tier Server の Xtier モジュール) が実行中であることを示すメッセージを含んだ Web ページが表示されます。

ZENworks 管理エージェントのアップグレード

ここでは、アップグレードに関する注意事項、および知っておく必要があるソフトウェアの動作について説明します。

- ◆ Novell Client を使用しているワークステーションでは、Novell Client をバージョン 4.9 SP1a にアップグレードします。これによって、古い Novell Client がアンインストールされ、バージョン 4.9 SP1a がインストールされます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4. x エージェントがインストールされているワークステーションでは、ZENworks 6.5 SP1 デスクトップ管理エージェントをインストールします。これによって、ZENworks for Desktops 4. x エージェントがアンインストールされ、ZENworks 6.5 SP1 デスクトップ管理エージェントがインストールされます。

SP1 バージョンのデスクトップ管理エージェントをインストールする手順は、元のバージョンの 6.5 エージェントと同じです。インストール方法および詳しいインストールの手順については、[10 章 99 ページの「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」](#)を参照してください。

- ◆ ZfD 4.0 に付属するバージョンのエージェント (setup.exe) は、サポートされなくなりました。ZfD 4.0 エージェントを ZENworks 6.5 SP1 にアップグレードする前に、この古いバージョンのエージェントを ZENworks 6 スイート (ZENworks for Desktops 4.0.1/SP1b) 以降に付属するバージョンのエージェントに置き換える必要があります。
- ◆ デスクトップ管理エージェントのアップグレードアプリケーションオブジェクトを設定する場合は、そのアプリケーションを一度だけ実行するように設定して、エージェントがインストールされた後は、そのアプリケーションが Novell Application Launcher に表示されなくなるようにすることをお勧めします。このアプリケーションオブジェクトについては、アンインストールが有効になっていないことを確認します。

デスクトップ管理エージェントをアップグレードするために、管理者権限は必要ありません。インストール中は、デスクトップ管理エージェントによって、一時的にユーザの権限が昇格されます。

- ◆ ZfD 4. x エージェント (ZfD 4.0.1 Interim Release 4 または Interim Release 5 を除く) を ZENworks 6.5 SP1 にアップグレードする場合で、ワークステーションに関連付けられたアプリケーションオブジェクトを使用してアップグレードを実行する場合、ユーザにワークステーションの再起動を指示するメッセージは表示されません。

ユーザに関連付けられたアプリケーションオブジェクトを使用してアップグレードを実行する場合は、再起動を指示するメッセージが表示されます。

- ◆ ZfD 4.0.1 エージェント（またはそれ以降、Interim Release 4 を除く）を ZENworks 6.5 SP1 にアップグレードするときに、NAL_SINGLE_TREE MSI プロパティを設定する場合は、ZENWORKS_TREE プロパティも設定し、ワークステーションが ZENworks ファイルを受け取るツリーを指定する必要があります。

ZfD 4.0.1 エージェントを ZfD 4.0.1 Interim Release 4 からバージョン 6.5 SP1 にアップグレードする場合は、ツリーの値をワークステーションがインポートされるツリーに設定する必要があります。ワークステーションがインポートされていない場合、この設定は無視されます。



相互運用性

相互運用性とは、2 つ以上の製品が同じネットワーク環境（たとえば、同じツリー、同じサーバなど）で相互に対話することを示します。

この節のトピックは次のとおりです。

- ◆ 23 章 319 ページの「ZENworks for Desktops 4.x との相互運用性」
- ◆ 24 章 325 ページの「インベントリの相互運用性」
- ◆ 25 章 337 ページの「Remote Management の相互運用性」
- ◆ 26 章 339 ページの「他の Novell 製品との相互運用性」

23

ZENworks for Desktops 4.x との相互運用性

ZENworks for Desktops 4.x をアップグレードする場合は、互換性、コンポーネントの違い、および類似コンポーネントと一緒に実行する方法についていくつかの注意点があります。この節では、次の情報を紹介します。

- ◆ 319 ページの「4.x/6.5 相互運用環境でのワークステーションとサーバの互換性」
- ◆ 320 ページの「バージョン 4.x と 6.5 のコンポーネントの違い」
- ◆ 321 ページの「Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性」

4.x/6.5 相互運用環境でのワークステーションとサーバの互換性

以前に ZENworks for Desktops 4 Support Pack 1b (SP1b)、ZENworks for Desktops 4.0.1、または ZENworks for Desktops 4 Interim Release 2 あるいは Interim Release 4（総称的に ZENworks for Desktops 4.x と呼ばれます）をインストールした場合は、通常、ZENworks 6.5 Desktop Management に段階的にアップグレードします。この場合、相互運用する異なる ZENworks コンポーネントの機能について理解する必要があります。これらの製品の 2 つのバージョンは、さまざまなワークステーションやサーバにインストールされます。

次の表の各行には、ZENworks Desktop Management コンポーネントの ZENworks ワークステーションおよびサーバの互換性の組み合わせが示されています。

最初の表は、アプリケーション管理、ワークステーションポリシー管理、およびワークステーションイメージングの互換性があるバージョンを示しています。

Desktop Agent のバージョン	Middle Tier Server のバージョン	Desktop Management Server のバージョン
4.x	4.x	6.5
4.x	6.5	6.5
6.5	6.5	6.5

次の表は、ワークステーションインベントリの互換性があるバージョンを示しています。

Desktop Agent のバージョン	ワークステーションインベントリサーバのバージョン
4.x	6.5

次の表は、リモート管理の互換性があるバージョンを示しています。

Desktop Agent のバージョン	リモートコンソールのバージョン
4.x	6.5

バージョン 4.x と 6.5 のコンポーネントの違い

ネットワークの規模が大きい場合は、ワークステーション、ポリシー、または他の ZENworks の機能を ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 6.5 に全面的にアップグレードすることができません。この節では、アップグレード前の共存している 2 つのバージョンの動作の違いについて説明します。

次の表は、サポートされているワークステーションとサーバの設定を示しています。

一部の例外を除き、ZENworks 6.5 Desktop Management には、ZENworks for Desktops 4.x の機能に対して下位互換性がありあす。ただし、ZENworks 6.5 では一部の機能の動作が異なります。次の節では、注意する必要がある動作の違いについて説明します。

- ◆ 320 ページの「ワークステーションインポート」
- ◆ 320 ページの「ポリシー管理」
- ◆ 320 ページの「アプリケーション管理 (Application Management)」
- ◆ 320 ページの「ワークステーションイメージング」
- ◆ 321 ページの「Remote Management (リモート管理)」
- ◆ 321 ページの「Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)」

ワークステーションインポート

サーバでインポートサービスが ZENworks 6.5 にアップグレードされた場合は、ZENworks 4.x ワークステーションが同様に登録され、6.5 インポートサービスがワークステーションをインポートします。ZENworks 4.x および ZENworks 6.5 ワークステーションは、ZENworks 6.5 インポートサーバによってインポートできます。

ポリシー管理

ZENworks 6.5 Desktop Management は、Windows NT 4 ワークステーション、Windows 95 ワークステーション、Windows 98 ワークステーション (SE アップグレードなし)、Novell eDirectory™ (NDS® 8 よりも前のバージョン)、NetWare® 4.x、NetWare 5.0、または NetWare 5.1 をサポートしません。

ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 6.5 のポリシーにはほとんど違いがないため、これらのポリシーは問題なく共存できます。ZENworks 6.5 では、Windows ターミナルサーバポリシーが削除されています。

アプリケーション管理 (Application Management)

ZENworks for Desktops 4.x アプリケーション管理のシステム要件を新しい ZENworks 6.5 のシステム要件にインポートする場合は、レガシーシステムの要件がまだ存在していることを確認します。古いアプリケーション要件がそのまま存在している場合は、ZENworks 4.x アプリケーションが動作します。

ワークステーションイメージング

ワークステーションイメージングを ZENworks for Desktops 4.x からアップグレードする場合は、Desktop Management Server と同じブートディスクのバージョンを使用するようにしてください。たとえば、イメージングサーバを ZENworks 6.5 にアップグレードする場合は、ZENworks 6.5 ブート CD を使用して、手動でイメージを起動します。

Remote Management（リモート管理）

リモート管理のインストール中に Windows 2000/XP ワークステーションに対しミラードライバをインストールした場合、ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントは、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品と共存することができます。この結果、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品を、ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントと共に使用することが可能になります。

ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンソールは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3、ZENworks for Desktops 4.x、ZENworks for Servers 3.x、および ZENworks 6.5 Server Management のリモート管理エージェントと相互運用性があります。

Workstation Inventory（ワークステーションインベントリ）

ZENworks 6.5 Desktop Management では、インベントリエージェントがディクショナリファイルからソフトウェアスキャン設定を読み込みます。ZENworks for Desktops 4.x では、インベントリエージェントがワークステーションインベントリポリシーからソフトウェアスキャン設定を読み込みます。

Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性

ZENworks 6.5 Desktop Management は、Windows NT 4 ワークステーションを公式にはサポートしていません。ただし、NT 4 ワークステーションに ZENworks for Desktops 4.0.1 管理エージェントがインストールされている場合は、一部制限がありますが、ZENworks 6.5 Desktop Management を使用して NT 4 ワークステーションを管理できます（つまり、NT 4 ワークステーションは ZENworks 6.5 Management Server と通信できます）。

この節では、Windows NT ワークステーションに対する ZENworks 6.5 のサポートの範囲について説明します。内容は次の節に分かれています。

- ◆ 321 ページの「Desktop Management Agent（デスクトップ管理エージェント）」
- ◆ 322 ページの「ポリシーとポリシーパッケージ」
- ◆ 323 ページの「自動ワークステーションインポート/削除 (Automatic Workstation Import/Removal)」
- ◆ 323 ページの「アプリケーション管理 (Application Management)」
- ◆ 323 ページの「ワークステーションイメージング」
- ◆ 324 ページの「Remote Management（リモート管理）」
- ◆ 324 ページの「Workstation Inventory（ワークステーションインベントリ）」

Desktop Management Agent（デスクトップ管理エージェント）

ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェント MSI (zfdagent.msi) を使用して、Windows NT 4 ワークステーションに対してインストールを実行することはできません。

Windows NT 4 ワークステーションに対しては最新のパッチが適用された ZENworks for Desktops 4.x エージェントを使用することをお勧めします。ZENworks for Desktops 4.x エージェントの公開リリースは、[ZENworks for Desktops 4.0.1 Product Updates Web サイト \(http://support.novell.com/filefinder/17511/index.html\)](http://support.novell.com/filefinder/17511/index.html) で取得できます。

ポリシーとポリシーパッケージ

ZENworks 6.5 Desktop Management ポリシーおよびポリシーパッケージの特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ ポリシーおよびパッケージに関する NT 専用プロパティページが保持されます。ZENworks 6.5 にアップグレードした後も、引き続き NT ワークステーション管理に使用できます。
- ◆ ポリシーおよびポリシーパッケージに関するNT/2000/XPプロパティページが保持されます。ZENworks 6.5 にアップグレードした後も、引き続き NT ワークステーション管理に使用できます。
- ◆ ポリシーおよびパッケージオブジェクトのプロパティページには、NT 専用または NT/2000/XP プロパティページでポリシーを読み込むために NT4 ワークステーションが ZENworks for Desktops 4.0.1 管理エージェントを使用する必要があるという記述が示されます。
- ◆ Windows NT に関するその他の内容は、ポリシーのプロパティページに保持されます。
- ◆ ZEN MUP (ZENworks Multiple UNC Provider) と呼ばれるローカルリダイレクタファイルコピー機能は、NT ワークステーションでサポートされていません。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ZENworks Multiple UNC Provider の理解」を参照してください。
- ◆ ポリシーエラーログ機能は、NT ワークステーションではサポートされていません。
- ◆ DHCPによるMiddle TierのIPアドレスの提供は、NT4ワークステーションではサポートされていません。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「Middle Tier Server アドレスを配信するための DHCP オプションの実装」を参照してください。
- ◆ ZENworks ツリーは、Windows NT 4 ワークステーションではサポートされていません。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「ZENworks ツリーの使用」を参照してください。
- ◆ 次の表は、Windows NT ワークステーション用の ConsoleOne™ で利用できない、または無視されるワークステーション管理の設定を示しています。

ConsoleOne で検索する手順	無視される設定
ワークステーションまたはユーザパッケージ>Novell iPrint ポリシー> [設定] ページ	[このプリンタリストに含まれていないすべてのインストール済み iPrint プリンタを削除]
サーバパッケージ>ワークステーションインポートポリシー> [制限] ページ	[ユーザ履歴の無効化]
ワークステーションオブジェクト> [ユーザ履歴] ページ	[履歴に追加しない]

自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)

ZENworks 6.5 が存在する eDirectory ツリーに NT 4 ワークステーションオブジェクトを追加したり、eDirectory ツリーから NT 4 ワークステーションオブジェクトを削除したりできます。これは、ZENworks がはじめてその eDirectory ツリーにインストールされたのか、または ZENworks for Desktops 4.x からアップグレードされたのかに関係なく行なうことができます。

アプリケーション管理 (Application Management)

ZENworks 6.5 アプリケーション管理の特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ ConsoleOne のアプリケーション管理に関するプロパティページでは、Windows NT 4 ワークステーションに関する内容が保持されます。
- ◆ レガシーシステムの要件を使用して ZENworks 6.5 で作成されたアプリケーションオブジェクトは、Windows NT4/2000/XP および Windows 98 SE ワークステーションに適用されます。
- ◆ Novell Application Launcher™のWeb Browserビューのインストールマネージャは、ワークステーションのオペレーティングシステムを検出し、そのワークステーションに必要な .cab ファイルを要求します。zfd40.cab ファイルは Windows NT 4 ワークステーションで使用され、zfdplugin.cab は Windows 98/2000/XP ワークステーションで使用されます。ZENworks 6.5 Desktop Management へのアップグレード後、zfd40.cab ファイルはサーバのローカルドライブに保持されます。
- ◆ 次の表は、Windows NT ワークステーション用の ConsoleOne™ で利用できない、または無視されるアプリケーション管理の機能を示しています。

ConsoleOne で検索する手順	機能
MSI アプリケーションオブジェクト > [識別] タブ > [パッケージ情報] ページ	管理パッケージのパス
アプリケーションオブジェクト > [配布オプション] タブ > [配布前にプロセスを終了] ページ	すべての設定
アプリケーションオブジェクト > [配布オプション] タブ > [オプション] ページ	ワークステーションが関連付けられている場合のワークステーションセキュリティスペースでの配布
アプリケーションオブジェクト > [可用性] タブ > [配布ルール] ページ	すべての配布ルール機能が無視され、レガシーシステムの要件のみが読み込まれます。
アプリケーションオブジェクト > [共通] タブ > [アンインストールスクリプト] ページ	すべての設定

ワークステーションイメージング

ZENworks 6.5 ワークステーションイメージングの特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ eDirectory 内の Windows NT 4 ワークステーションオブジェクトは、ZENworks 6.5 イメージングポリシーに対して引き続き有効です。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 に付属するバージョンの ZENworks イメージング Windows エージェント (ziswin.exe) は、ZENworks 6.5 イメージングサーバで利用できるイメージセーフデータを作成できます。

Remote Management（リモート管理）

ZENworks 6.5 リモート管理の特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 によってインストールされたリモート管理エージェントを実行する Windows NT 4 ワークステーションは、ZENworks 6.5 リモートコントロールコンソールで管理できます。
- ◆ 次の ZENworks 6.5 リモート管理機能は、Windows NT4 ワークステーションでは利用できないか、または動作しません。
 - ◆ エージェント側で開始される接続
 - ◆ セッションの暗号化
 - ◆ 256 色のカラーパレットの強制適用

Workstation Inventory（ワークステーションインベントリ）

ZENworks 6.5 ワークステーションインベントリの特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ Windows NT 4 ワークステーションにインストールされた ZENworks for Desktops 4.0.1 管理エージェントは、ZENworks 6.5 インベントリサーバにスキャンを直接送信します。受信されたデータは、ZENworks 6.5 インベントリデータベースに格納されます。
- ◆ ZENworks 6.5 コンソールを使用して、Windows NT 4 ワークステーションに存在するデータを参照したり、インベントリポリシーを設定したりできます。
- ◆ Windows NT 4 ワークステーションでは、一部の情報が利用できないか、制限されます。

[ハードウェア]： スキャンされた Windows NT 4 ワークステーションでは、次のハードウェア情報が利用できないか、制限されます。

- ◆ モニタ情報は利用できません。
- ◆ システムシャーシ情報は利用できません。
- ◆ システム情報は新しい属性は表示されません。

ソフトウェア関連の拡張： スキャンされた Windows NT 4 ワークステーションでは、次のソフトウェア関連の拡張が利用できないか、制限されます。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 を使用した場合、製品名、ベンダ、バージョン、ID 番号、および場所がスキャンされます。
- ◆ ソフトウェアディクショナリを使用して作成されたスキャンおよび表示情報は利用できません。
- ◆ 製品スイート、製品、ウイルス対策情報などのスキャンおよび表示情報は利用できません。
- ◆ ファイル情報は利用できません。
- ◆ ディスク使用状況データは利用できません。

24 インベントリの相互運用性

ZENworks 6.5 Server Management のサーバインベントリコンポーネントと同じ環境で、Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントを実行することを計画している場合は、これらの製品をアップグレードまたはインストールする前に、最初に互換性の問題について理解し、対処方法を考える必要があります。

インベントリの相互運用性に特に適用される前提条件は次のとおりです。

- ◆ インベントリサーバをアップグレードする場合は、インベントリツリーの上位から下位へと展開します。最上位のサーバ（ルートサーバ）からインストールを開始して、次の下位レベルのサーバのインストールに進みます。
- ◆ 同じコンピュータに ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management がインストールされていて、ZENworks 6.5 Desktop Management を ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 (SP1) にアップグレードした場合、ZENworks 6.5 Server Management も ZENworks 6.5 Server Management SP1 にアップグレードする必要があります。逆の場合も同様です。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management は、同じインベントリデータベース（Sybase、Oracle、または MS SQL）を使用できます。インベントリデータベースを ZENworks 6.5 Server Management インストールの一部としてインストールした場合は、インベントリデータベースを ZENworks 6.5 Desktop Management インストールの一部としてインストールする必要はありません。また、インベントリデータベースを ZENworks 6.5 Desktop Management インストールの一部としてインストールした場合は、インベントリデータベースを ZENworks 6.5 Server Management インストールの一部としてインストールする必要はありません。
- ◆ Server Inventory および Workstation Inventory を管理するには、ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management の両方に対する Novell ConsoleOne® インベントリスナップインをインストールする必要があります。
- ◆ インベントリサーバがインベントリ対象サーバから直接 Server Inventory スキャンを受信した場合、またはロールアップによって Server Inventory スキャンを受信した場合は、このサーバに ZENworks 6.5 Server Management をインストールする必要があります。
- ◆ インベントリサーバがインベントリ対象ワークステーションから直接 Workstation Inventory スキャンを受信した場合、またはロールアップによって Workstation Inventory スキャンを受信した場合は、このサーバに ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールする必要があります。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management のインベントリには次のオブジェクトとポリシーが適用されます。

データベースオブジェクト

Inventory Service オブジェクト

ディクショナリ更新ポリシー

ロールアップポリシー
ZENworks データベースポリシー

インベントリの相互運用性を実現するために、これらの要件が満たされていることを確認します。

インベントリの相互運用性を実現するには、次の節を参照してください。

- ◆ 326 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性」
- ◆ 332 ページの「複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と旧バージョンの ZENworks for Desktops 間の相互運用性」
- ◆ 333 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの ZENworks 間の相互運用性」

ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性

- ◆ 326 ページの「同一サーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性」
- ◆ 326 ページの「複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性」

同一サーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性

ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management とが同一サーバにインストールされている場合、ZENworks 6.5 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントは、ZENworks 6.5 Server Management の Server Inventory コンポーネントとの間でのみ相互運用できます。

ZENworks 6.5 Desktop Management を、ZENworks 6.5 Server Management をインストールするのと同じファイルシステムの場所にインストールする必要があります。また、ZENworks 6.5 Server Management を、ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールするのと同じファイルシステムの場所にインストールする必要があります。

複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management 間の相互運用性

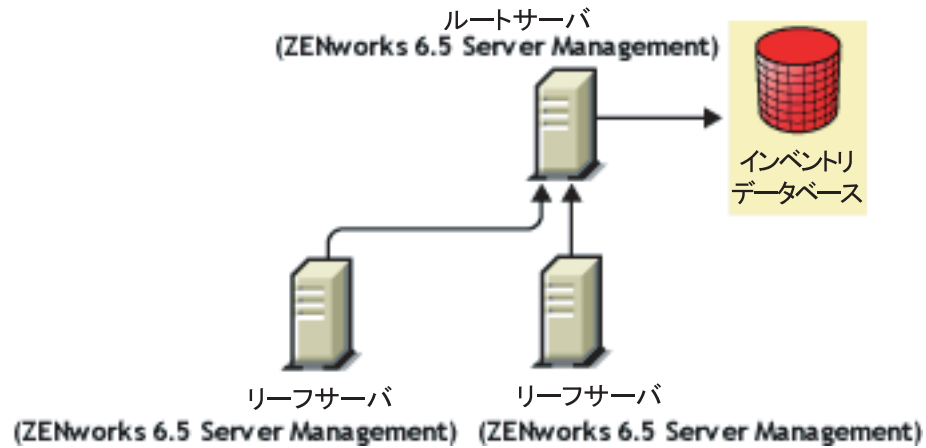
ここでは、ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management が同じネットワークの異なるサーバにインストールされている場合の、両者の相互運用性を実現するインストールシナリオについて説明します。

- ◆ 327 ページの「シナリオ1:Server Management環境へのDesktop Managementのインストール」
- ◆ 328 ページの「シナリオ2:Desktop Management環境へのServer Managementのインストール」
- ◆ 330 ページの「シナリオ3: ツリー間でのインベントリのロールアップ」

シナリオ 1: Server Management 環境への Desktop Management のインストール

このシナリオでは、インベントリツリーのすべてのサーバに ZENworks 6.5 Server Management しかインストールされていません。

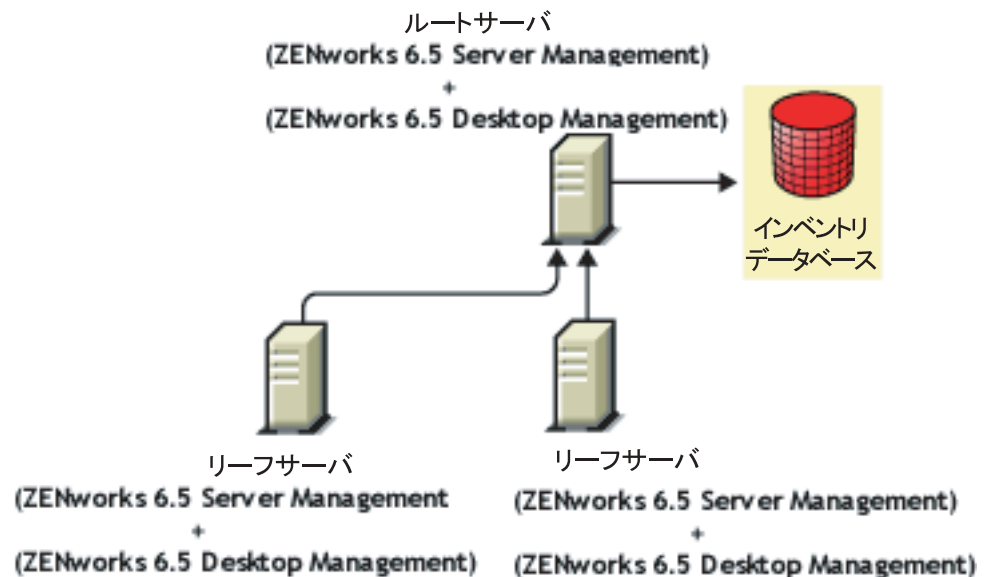
次の図は、この場合の構成例を示しています。



次のいずれかの方法を使用して、ZENworks 6.5 Desktop Management を ZENworks 6.5 Server Management にインストールできます。

- ◆ **方法 1:** トップダウンインストール方法により、ZENworks 6.5 Desktop Management をすべての ZENworks 6.5 Server Management サーバにインストールします。最上位のサーバからインストールを開始して、次の下位レベルのサーバのインストールに進みます。サンプルシナリオでは、最初に ZENworks 6.5 Desktop Management をルートサーバにインストールし、次にリーフサーバにインストールします。詳細については、[7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。

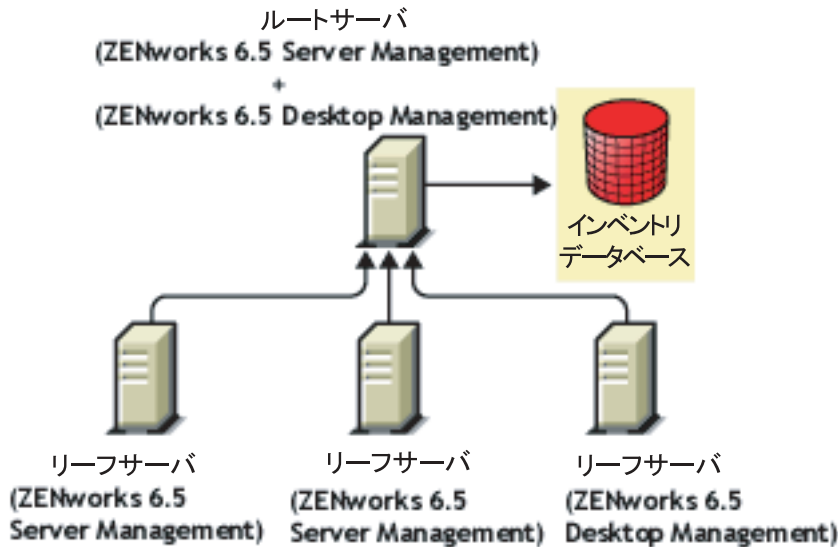


- ◆ **方法 2:** 次の作業を順に実行します。

1. ZENworks 6.5 Desktop Management をルートサーバにインストールします。詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。
2. ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされたリーフサーバを追加し、ルートサーバに対してロールアップを行うように設定します。詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

ZENworks 6.5 Server Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象サーバから .str ファイルを受信し、ZENworks 6.5 Desktop Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象ワークステーションから .str ファイルを受信します。ZENworks 6.5 Server Management および ZENworks 6.5 Desktop Management リーフサーバは、インベントリ情報をルートサーバにロールアップします。

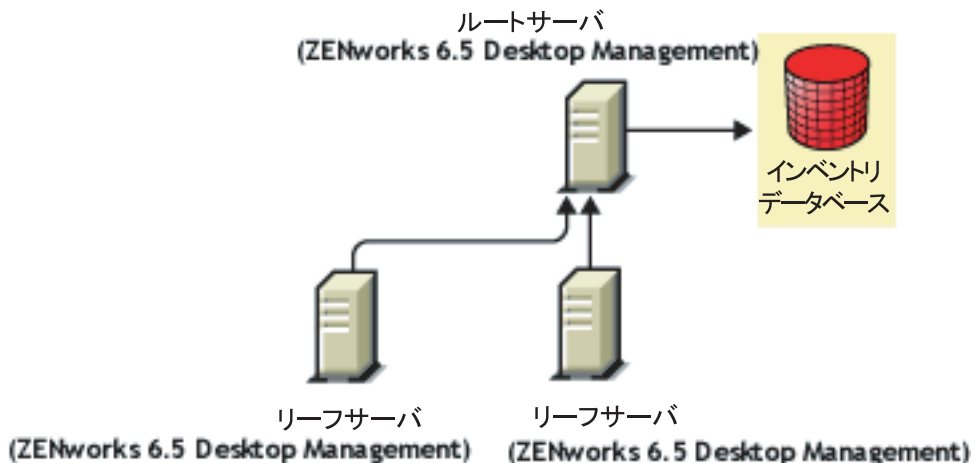
次の図は、この場合の構成例を示しています。



シナリオ 2: Desktop Management 環境への Server Management のインストール

このシナリオでは、インベントリツリーのすべてのサーバに ZENworks 6.5 Desktop Management しかインストールされていません。

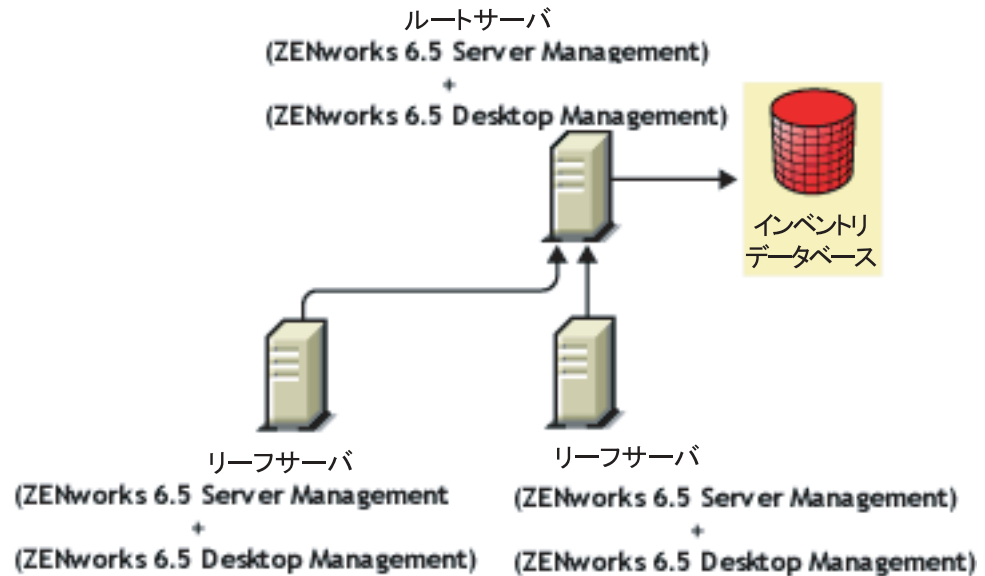
次の図は、この場合の構成例を示しています。



次のいずれかの方法を使用して、ZENworks 6.5 Server Management を ZENworks 6.5 Desktop Management にインストールできます。

- ◆ **方法 1:** トップダウンインストール方法により、ZENworks 6.5 Server Management をすべての ZENworks 6.5 Desktop Management サーバにインストールします。常に最上位レベルのサーバからインストールを開始し、以降 1 レベルずつ下位のサーバのインストールを続けます。サンプルシナリオでは、最初に ZENworks 6.5 Server Management をルートサーバにインストールし、次にリーフサーバにインストールします。ZENworks 6.5 Server Management をインストールするには、『***Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド***』の「**Policy-Enabled Server Management のインストール**」を参照してください。

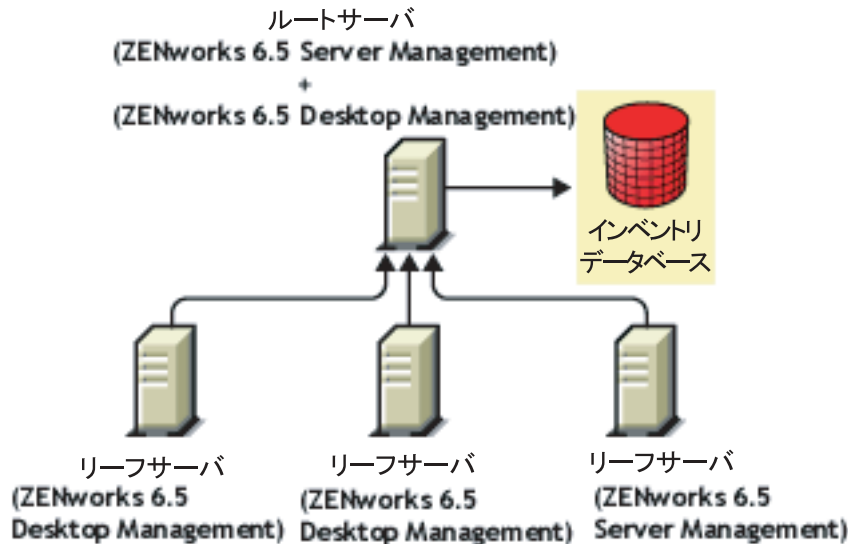
次の図は、この場合の構成例を示しています。



- ◆ **方法 2:** 次の作業を順に実行します。
 1. ZENworks 6.5 Server Management をルートサーバにインストールします。ZENworks 6.5 Server Management をインストールするには、『***Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド***』の「**Policy-Enabled Server Management のインストール**」を参照してください。
 2. ZENworks 6.5 Server Management がインストールされたリーフサーバを追加し、ルートサーバに対してロールアップを行うように設定します。ZENworks 6.5 Server Management をインストールするには、『***Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド***』の「**Policy-Enabled Server Management のインストール**」を参照してください。

ZENworks 6.5 Server Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象サーバから .str ファイルを受信し、ZENworks 6.5 Desktop Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象ワークステーションから .str ファイルを受信します。ZENworks 6.5 Server Management および ZENworks 6.5 Desktop Management リーフサーバは、インベントリ情報をルートサーバにロールアップします。

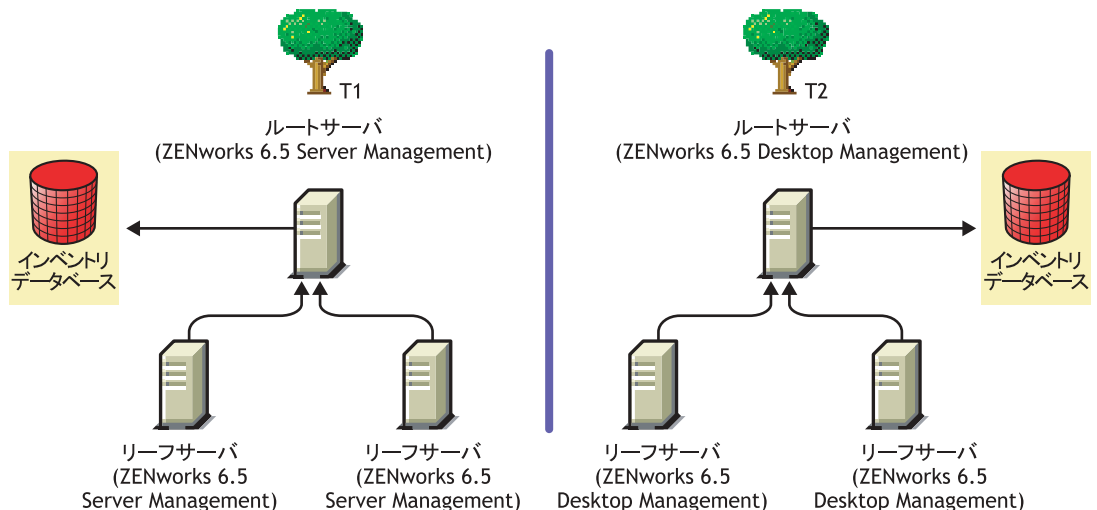
次の図は、この場合の構成例を示しています。



シナリオ 3: ツリー間でのインベントリのロールアップ

このシナリオでは、T1 と T2 の 2 つの eDirectory ツリーが存在します。T1 には ZENworks 6.5 Server Management が、T2 には ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされています。サーバおよびワークステーションの両方のインベントリ情報を受信する 1 台のルートサーバを設定するために、T1 と T2 インベントリツリーをマージする必要があります。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



次に示す 2 つの方法を使って、T1 と T2 をマージすることができます。

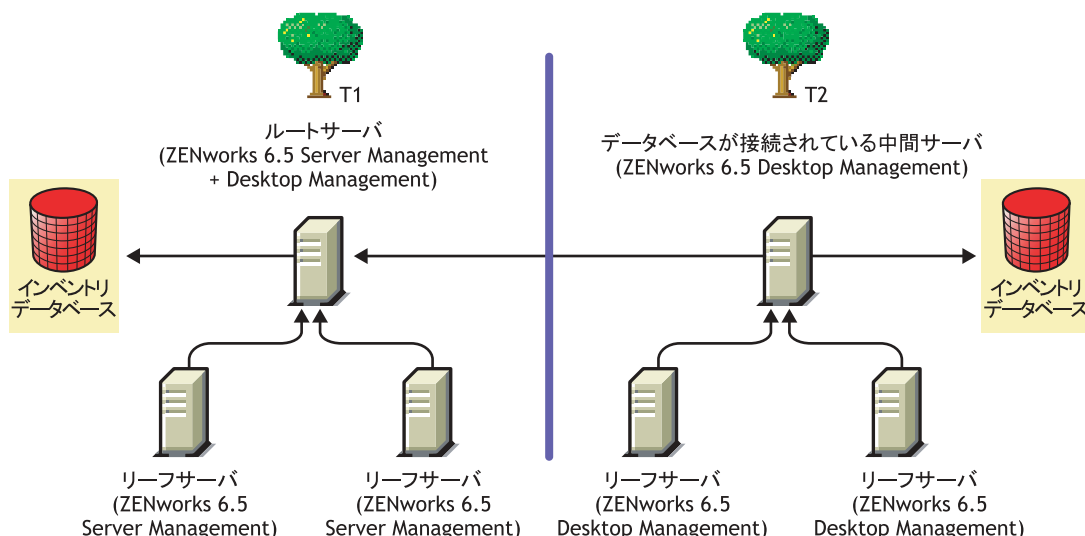
- ◆ 331 ページの「マージする方法 1」
- ◆ 331 ページの「マージする方法 2」

マージする方法 1

次に示す一般的な手順を実行して、T2 のインベントリデータを T1 のインベントリデータにマージすることができます。

1. T1 のルートサーバに ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールします。詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。
2. T2 のルートサーバの役割を、データベースが接続されている中間サーバに変更し、T1 のルートサーバに対してロールアップを実行するよう設定します。詳細については、『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の「インベントリサーバの役割変更」を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。

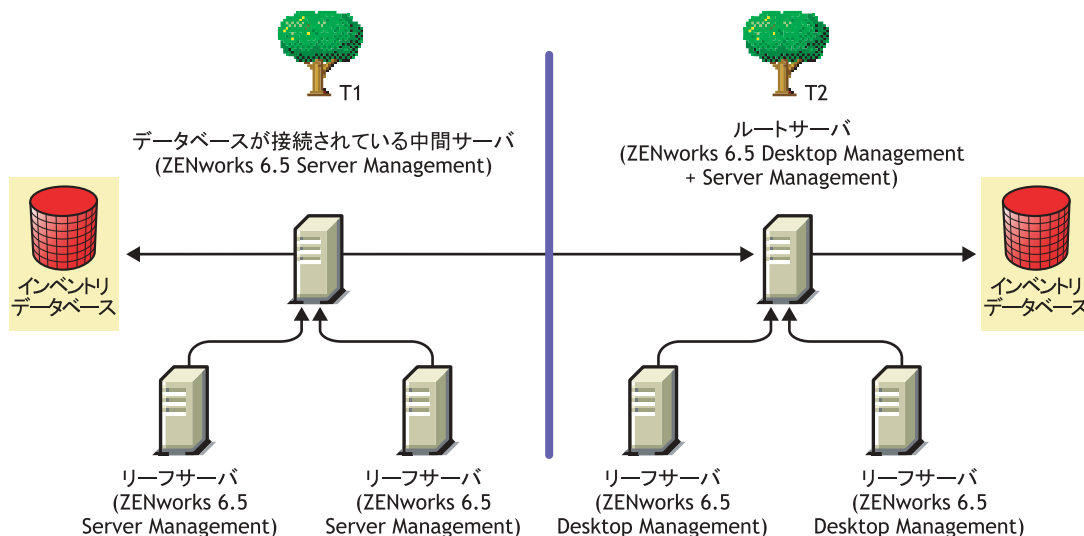


マージする方法 2

次に示す一般的な手順を実行して、T1 のインベントリデータを T2 のインベントリデータにマージすることができます。

1. T2 のルートサーバに ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド』の「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。
2. T1 のルートサーバの役割を、データベースが接続されている中間サーバに変更し、T2 のルートサーバに対してロールアップを実行するよう設定します。詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド』の「インベントリサーバの役割変更」を参照してください。

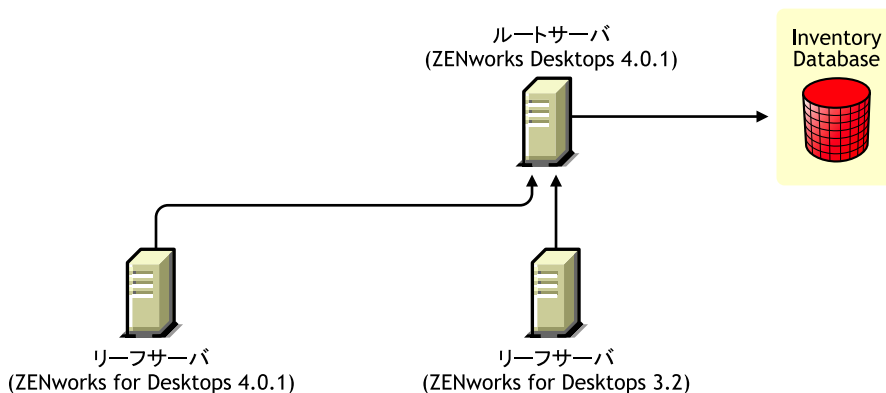
次の図は、この場合の構成例を示しています。



複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Desktop Management と旧バージョンの ZENworks for Desktops 間の相互運用性

この構成では、ZENworks for Desktops 4.0.1 と ZENworks for Desktops 3.2 がそれぞれインストールされた 2 台のリーフサーバが存在します。リーフサーバは、ZENworks for Desktops 4.0.1 がインストールされたルートサーバにインベントリ情報をロールアップします。

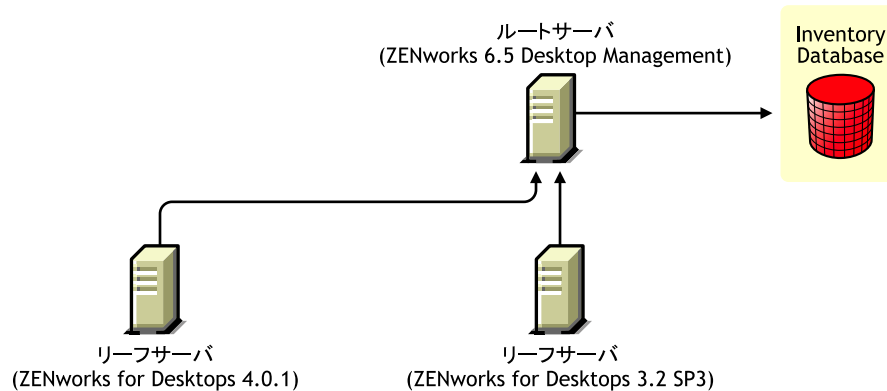
次の図は、この場合の構成例を示しています。



ZENworks 6.5 Desktop Management および旧バージョンの ZENworks が複数のインベントリサーバにインストールされている場合、これらのサーバ間の相互運用性は次の手順で実現できます。

1. ZENworks for Desktops 4.0.1 のルートサーバを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードします。詳細については、[260 ページの「ワークステーションインベントリのアップグレード」](#)を参照してください。
2. ZENworks for Desktops 3.2 のリーフサーバを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 にアップグレードします。詳細については、[229 ページの「ワークステーションインベントリのアップグレードの完了」](#)を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの ZENworks 間の相互運用性

- ◆ 333 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が 1 台のサーバにインストールされている場合の相互運用性」
- ◆ 334 ページの「ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性」

ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が 1 台のサーバにインストールされている場合の相互運用性

ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management の Inventory を同じサーバで実行する特定のコンピュータには、次の ZENworks バージョンまたは ZENworks バージョンの組み合わせが存在します。

ZENworks for Desktops 4.0.1
 ZENworks for Desktops 4.0 SP1b
 ZENworks for Servers 3.0.2
 ZENworks for Servers 3.0 SP2
 ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0.2
 ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0 SP2
 ZENworks for Desktops 4.0 SP1b および ZENworks for Servers 3.0.2
 ZENworks for Desktops 4.0 SP1b および ZENworks for Servers 3.0 SP2
 ZENworks for Desktops 3.2 SP3

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 以外は、最初に ZENworks 6.5 Server Management または ZENworks 6.5 Desktop Management のどちらか一方をアップグレードし、後でもう一方をアップグレードまたはインストールできます。この結果、ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management との間で Inventory を相互運用できるようになります。

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 が存在する場合は、次の手順に従ってください。

1. ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールします。
2. ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。

詳細は次のとおりです。

- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールするには、49 ページの「インストール」と『*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド*』を参照してください。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management をアップグレードするには、197 ページの「アップグレード」を参照してください。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management をインストールするには、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド*』の「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management をアップグレードするには、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド*』の「アップグレード」を参照してください。

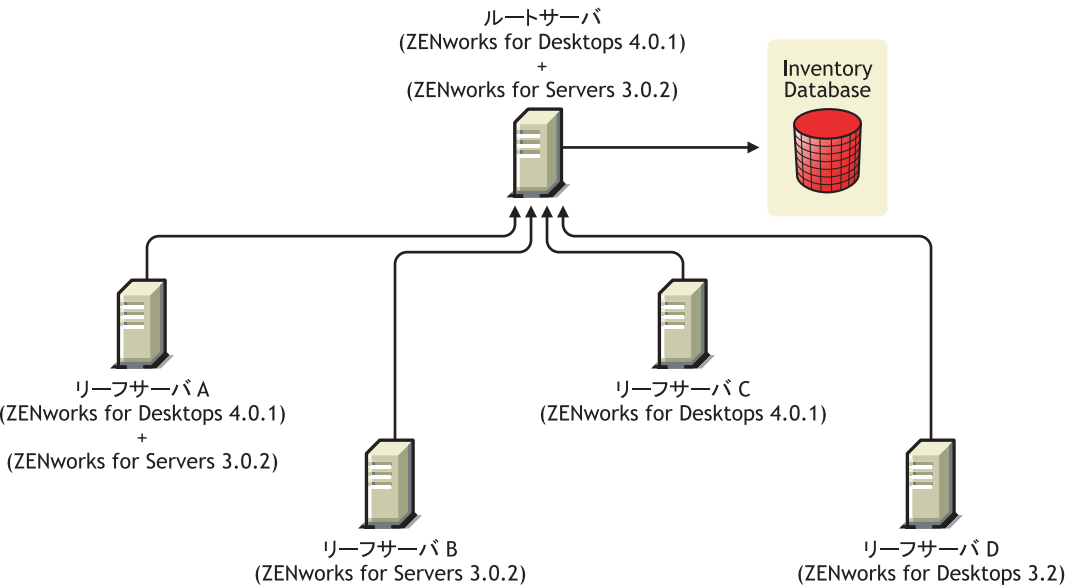
ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks 6.5 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性

この構成では、4 台のリーフサーバ (A、B、C、D) が存在し、それぞれ、次のバージョンの ZENworks がインストールされています。

リーフサーバ	インストールされている ZENworks のバージョン
リーフサーバ A	ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0.2
リーフサーバ B	ZENworks for Servers 3.0.2
リーフサーバ C	ZENworks for Desktops 4.0.1
リーフサーバ D	ZENworks for Desktops 3.2

リーフサーバは、ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0.2 がインストールされたルートサーバにインベントリ情報をロールアップします。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



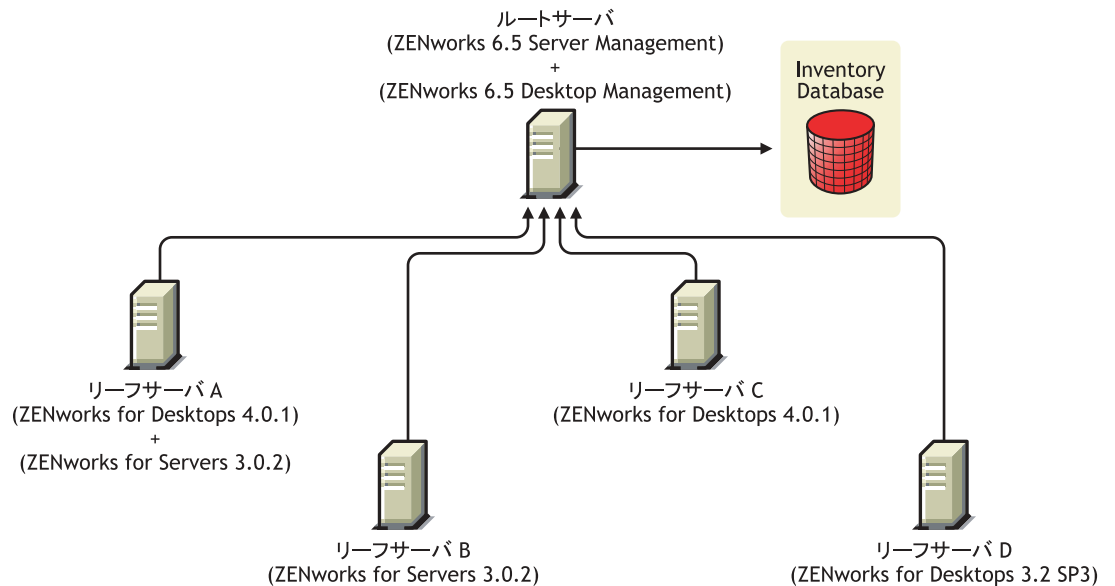
ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks Desktop 6.5 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のインベントリサーバにインストールされている場合、これらのサーバ間の相互運用性は次の手順で実現できます。

1. ルートサーバに ZENworks 6.5 Desktop Management および ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。

ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールに関する詳細については、[7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)を参照してください。ZENworks 6.5 Server Management のインストールに関する詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド*』の「[Policy-Enabled Server Management のインストール](#)」を参照してください。

2. リーフサーバ D を ZENworks for Desktops 3.2 から ZENworks for Desktops 3.2 SP3 にアップグレードします。詳細については、[229 ページの「ワークステーションインベントリのアップグレードの完了」](#)を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



25

Remote Management の相互運用性

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management のリモート管理コンソールは、次のバージョンのリモート管理エージェントと相互運用性があります。

ZENworks for Desktops 3.x/4.x

ZENworks for Servers 3.x

ZENworks 6.5 Server Management

26

他の Novell 製品との相互運用性

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management は、他のいくつかの Novell 製品と相互運用でき、これらの製品を補完します。この節では、この相互運用性に関する詳細や他の情報へのリンクを示します。

この節には、次の情報が含まれています。

- ◆ 339 ページの「サードパーティのリモート管理製品との相互運用性」
- ◆ 339 ページの「Novell iChain との相互運用性」
- ◆ 339 ページの「Novell Cluster Services との相互運用性」
- ◆ 340 ページの「Novell GroupWise クライアントとの相互運用性」
- ◆ 340 ページの「Novell Nterprise Branch Office との相互運用性」

サードパーティのリモート管理製品との相互運用性

Novell ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントのインストール時にミラードライバを Windows 2000/XP ワークステーションにインストールすることを選択した場合、リモート管理コンポーネントは、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品と共存することができます。

これにより、ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントと同じ環境で、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品を使用できるようになります。

Novell iChain との相互運用性

ZENworks 6.5 Desktop Management と Novell iChain® 2.3 Support Pack 1 との間には、役に立つ相互運用性がサポートされています。詳細については、Novell Support Knowledgebase の TID 10092443 (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10092443.htm>) を参照してください。

Novell Cluster Services との相互運用性

ZENworks 6.5 Desktop Management は、既存の Novell Cluster Services™ 環境にインストールできます。詳細については、[369 ページの付録 B「Novell Cluster Services 環境へのインストール」](#)を参照してください。

Novell GroupWise クライアントとの相互運用性

ZENworks アプリケーション管理を使用すると、Novell GroupWise® クライアントを簡単に展開できます。アプリケーション管理を使用して展開を行うことに関する詳細については、『*GroupWise 6.5 Administration Guide*』の「[Using ZENworks for Desktops to Deploy the GroupWise Client \(http://www.novell.com/documentation/lg/gw65/gw65_admin/data/a2iiiss.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/gw65/gw65_admin/data/a2iiiss.html)」を参照してください。

Novell Nterprise Branch Office との相互運用性

ZENworks Desktop Management は、一元化されたアーキテクチャに基づいて、Novell Nterprise Branch Office™ 2.0 と統合することができ、アプリケーションファイルのレポジトリとして Branch Office を使用することにより、ZENworks を一元的に管理できるようになります。

これらの 2 つの Novell 製品を一緒に使用することに関する詳細については、『*Novell Nterprise Branch Office Setup Guide*』の「[Integrating ZENworks for Desktops with Nterprise Branch Office \(http://www.novell.com/documentation/lg/nbo2/setupguide/data/boj4ly3.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/nbo2/setupguide/data/boj4ly3.html)」を参照してください。

VI

アンインストール / 再インストール

状況によって、Novell® ZENworks® Desktop Management のコンポーネントをアンインストールまたは再インストールする必要がある場合があります。この節では、次の Desktop Management コンポーネントのアンインストールおよび再インストールに関する情報を提供します。

- ◆ 27 章 343 ページの「Remote Management のアンインストール」
- ◆ 28 章 347 ページの「ワークステーションインベントリのアンインストールまたは再インストール」

27

Remote Management のアンインストール

この章では、Novell® ZENworks® リモート管理をアンインストールする手順について詳しく説明します。

- ◆ 343 ページの「リモート管理エージェントコンポーネントのアンインストール」
- ◆ 343 ページの「リモート管理サーバコンポーネントのアンインストール」

リモート管理エージェントコンポーネントのアンインストール

この節では、リモート管理エージェントファイルを削除する方法について説明します。

リモート管理エージェントを削除するには

- 1 コントロールパネルで、[プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- 2 [ZENworks デスクトップ管理エージェント] を選択します。
- 3 [変更] をクリックします。
- 4 ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェント InstallShield ウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。
- 5 [カスタムセットアップ] ウィンドウで [リモート管理] の選択を解除し、[次へ] をクリックして [終了] をクリックします。

リモート管理サーバコンポーネントのアンインストール

この節では、Wake-on-LAN ファイルおよび ConsoleOne® ファイルを削除する方法について説明します。

- ◆ 343 ページの「ConsoleOne ファイルの削除」
- ◆ 345 ページの「Wake-on-LAN ファイルの削除」

ConsoleOne ファイルの削除

ConsoleOne ファイルを削除すると、リモート管理エージェントおよびサーバ側のリモート管理コンポーネントがアンインストールされます。

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。

ConsoleOne が複数のワークステーションの Remote Management サーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。

2 サーバまたはワークステーション上の *ConsoleOne_installation_directory¥1.2* ディレクトリで、次の操作を行います。

- ◆ 次のファイルを削除します。

¥bin¥directoryrights.dll
¥bin¥ntgroups.ini
¥bin¥userreports.ini
¥lib¥zen¥classes12.zip
¥lib¥zen¥dataexportsnapins3x.jar
¥lib¥zen¥dbexport.jar
¥lib¥zen¥dbexport3x.jar
¥lib¥zen¥dbexportres.jar
¥lib¥zen¥jconn2.jar
¥lib¥zen¥jdbcdrv.zip
¥lib¥zen¥smanager.jar
¥lib¥zen¥zenutility.jar
¥reporting¥export¥invxml.dtd
¥snapins¥zen¥dataexportsnapins.jar
¥snapins¥zen¥inventoriesnapins.jar
¥snapins¥zen¥inventoriesnapins3x.jar
¥snapins¥zen¥jgl3.1.0.jar
¥snapins¥zen¥policymigration.jar
¥snapins¥zen¥swdictionarysnapins.jar
¥snapins¥zen¥tableutilities.jar
¥snapins¥zen¥tracer.jar
¥snapins¥zen¥workstationsnapins.jar

- ◆ ¥reporting¥canned¥novell reporting¥zeninventory ディレクトリから次のサブディレクトリを削除します。

zeninventory
zeninventory3x
zeninventory4x
zeninventory30
zeninventory32

3 同じワークステーションまたはサーバに Remote Management ConsoleOne スナップインをインストールしていない場合、次の操作を実行します。

- ◆ 次のファイルを削除します。

¥bin¥desktop4.exe
¥bin¥desktop4.ini
¥bin¥mssql.ini
¥bin¥ndsaccess.dll
¥bin¥oracle.ini
¥bin¥remagent.ini
¥bin¥sybase.ini
¥help¥njha.jar

```
%help%novellzeninven.hs
%help%novellzenrmgt.hs
%help%novhlp.css
%lib%zen%desktop.jar
%lib%zen%desktop3x.jar
%lib%zen%desktopcommonutility.jar
%lib%zen%statuslog.jar
%lib%zen%zeninimages.jar%bin%desktop4.exe
```

- ◆ 次のディレクトリを削除します。

```
%bin%zen%sybaseproxy
%help%en%novell_zfd_inventory
%help%en%novell_zfd_remotemgmt
```

- 4 インベントリ ConsoleOne スナップインがインストールされている各ワークステーションまたはサーバで、手順 1 から 3 を繰り返します。

Wake-on-LAN ファイルの削除

- 1 Wake-on-LAN サービスを停止します。

- ◆ NetWare[®] の場合：サーバコンソールで、「**stopWol.**」と入力します。
- ◆ Windows 2000/2003 サーバの場合：コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell ZENworks Wake-on-LAN サービス] を選択して [停止] をクリックします。

- 2 リモート管理コンポーネントがインストールされているディレクトリを削除します。

- ◆ NetWare サーバの場合、次のディレクトリを削除します。

```
install_path%remmgmt%server%logs
install_path%remmgmt%server%lib
install_path%remmgmt%server%properties
sys:%system
```

次のファイルを削除します。

```
wolenv.ncf
wolsetenv.ncf
startwol.ncf
stopwol.ncf
wolstatus.log
```

- ◆ Windows サーバの場合、次のディレクトリを削除します。

```
install_path%remmgmt%server%lib
install_path%remmgmt%server%logs
install_path%remmgmt%server%properties
install_path%remmgmt%server%bin
```

- 3 Windows サーバの場合、次のレジストリエントリを削除します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CURRENTCONTROLSET¥SERVICES¥PROMETHEUS WAKE ON LAN
SERVICE
- 4 Novell® eDirectory™ から、Wake-on-LAN サービスオブジェクト
(SERVERNAME_WOLSERVICE) を削除します。
- 5 ConsoleOne を使用して、eDirectory から Wake-on-LAN ポリシーのすべてのイン
スタンスを削除します。

28

ワークステーションインベントリのアンインストールまたは再インストール

この章では、Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントをアンインストールおよび再インストールする際に役立つ情報を紹介します。

- ◆ 347 ページの「ワークステーションインベントリのアンインストール」
- ◆ 355 ページの「NetWareおよびWindowsサーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」

ワークステーションインベントリのアンインストール

ZENworks Desktop Management から、ワークステーションインベントリを自動的にアンインストールすることはできません。インベントリサーバ、Sybase 上のインベントリデータベース、Novell eDirectory™ オブジェクト、および ConsoleOne® ファイルを手動で削除する必要があります。

注：インベントリデータベースが Oracle または MS SQL にマウントされている場合は、Oracle または MS SQL によってそれぞれ推奨されているアンインストール手順に従ってください。

ワークステーションインベントリコンポーネントがインストールされているすべてのサーバおよびワークステーションから、オブジェクトとファイルを削除する必要があります。

インベントリが企業内に展開されている場合は、まずすべてのリーフサーバをアンインストールしてから、中間サーバ、ルートサーバの順にアンインストールします。

ワークステーションインベントリをアンインストールする前に、必ずルートサーバ内のインベントリデータベースのバックアップを作成し、保存しておいてください。

ワークステーションインベントリを手動でアンインストールするには、次の手順に従います。

- ◆ 348 ページの「ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール」
- ◆ 349 ページの「データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール」
- ◆ 349 ページの「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」
- ◆ 350 ページの「Sybase エンジンのアンインストール」
- ◆ 351 ページの「インベントリサーバソフトウェアのアンインストール」
- ◆ 353 ページの「XML プロキシサーバのアンインストール」
- ◆ 354 ページの「ConsoleOneからのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール」
- ◆ 355 ページの「デスクトップ管理インベントリエージェントのアンインストール」

ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール

- 1 インベントリサーバ上の Inventory Service を停止します。
 - ◆ NetWare[®] サーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「**StopSer ***」と入力します。
 - ◆ Windows 2000/2003 サーバの場合：コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell インベントリサービス] を選択して [停止] をクリックします。
- 2 ZENworks データベースポリシーが有効になっている場合は、無効にします。
 - 2a ConsoleOne で、SLP オブジェクトのプロパティパッケージを右クリックし、[Properties]、[Policies] の順にクリックします。
 - 2b [ZENworks データベース] ポリシーを選択して [プロパティ] をクリックし、[インベントリ管理] タブをクリックします。
 - 2c 指定したインベントリデータベースのエントリを削除し、[OK] をクリックします。

重要： ZENworks データベースポリシーが複数のインベントリサーバで使用されている場合、それらのインベントリサーバをアンインストールしてからこの手順を実行する必要があります。
- 3 ワークステーションインベントリポリシーを無効にします。
 - 3a ConsoleOne で、ワークステーションパッケージオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 - 3b [ポリシー] をクリックし、適切なオペレーティングシステムのサブオプションを選択します。
 - 3c ワークステーションインベントリポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [リセット] ボタンをクリックし、[はい] をクリックします。
 - 3d ワークステーションインベントリポリシーの選択を解除します。
 - 3e [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

重要： 複数のオペレーティングシステムにワークステーションインベントリポリシーを設定している場合は、[ポリシー] タブで該当するオペレーティングシステムのサブオプションを選択し、この手順を繰り返します。
- 4 ロールアップポリシーとディクショナリ更新ポリシーが設定されている場合は、これらのポリシーを無効にします。
 - 4a ConsoleOne で、サーバパッケージを含むコンテナを検索し、サーバパッケージを右クリックします。[プロパティ]、[ポリシー] の順にクリックし、NetWare または Windows のサブオプションをクリックします。
 - 4b ロールアップポリシーを選択し、[リセット] ボタンをクリックして、[はい] をクリックします。
 - 4c ロールアップポリシーの選択を解除します。
 - 4d ディクショナリ更新ポリシーを選択し、[リセット] ボタンをクリックして、[はい] をクリックします。
 - 4e ディクショナリ更新ポリシーの選択を解除します。
 - 4f [適用]、[閉じる] の順にクリックします。
- 5 ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクトを含むコンテナを検索し、Inventory Service オブジェクトを削除します。

データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール

ConsoleOne で、インベントリデータベースオブジェクトを含むコンテナを検索し、インベントリデータベースオブジェクトを削除します。

Sybase インベントリデータベースのアンインストール

- ◆ 349 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 349 ページの「Windows サーバからのアンインストール」

NetWare サーバからのアンインストール

- 1 Sybase コンソールプロンプトで「q」と入力して Sybase を停止します。
- 2 `sys:¥system¥mgmt dbs.ncf` から、`database_path¥mgmt db` エントリを削除します。
- 3 `sys:¥system¥zenworks.properties` の `INVDBPATH` キーの値を確認します。
- 4 `INVDBPATH` キーで指定された値から、`mgmt db.log` を含むインベントリデータベースファイル (`mgmt db*.db`) を削除します。

データベースファイル内のインベントリ情報を使用する場合は、削除する前に、必ずデータベースファイルのバックアップを作成しておきます。
- 5 `sys:¥system¥zenworks.properties` から `INVDBPATH` キーを削除します。
- 6 `ZFD_INVENTORY_DATABASE_SERVER` キーを削除します。

`sys:¥system¥zenworks.properties` から次のセクションを削除します。

`[Zfd_Inventory_Database_Server]Version = 6.5.0 Desktop Management product build date`
`Installed_From = Product CD`
`Support_Pack = 0`
- 7 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。

NetWare サーバコンソールプロンプトで、「`mgmt dbs.ncf`」と入力します。

Windows サーバからのアンインストール

- 1 `HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS` レジストリエントリの `DBENGINEPATH` キーの値をメモします。
- 2 Sybase を停止します。
 - 2a Windows コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
 - 2b [Novell Database - Sybase] を選択します。
 - 2c [停止] をクリックします。
- 3 `mgmt db` エントリを削除します。
 - 3a `dbengine_installation_directory¥ntdbconfig.exe` を実行します。
 - 3b [NTDBConfig] ダイアログボックスで、`mgmt db` へのパスを削除し、[OK] をクリックします。
 - 3c その他の `.db` エントリが存在しない場合は、Sybase エンジン削除して手順 4に進みます。Sybase エンジン削除する方法については、350 ページの「Sybase エンジンのアンインストール」を参照してください。

- 4 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS レジストリエントリの INVDBPATH キーの値をメモします。
- 5 INVDBPATH キーで指定された値から、mgmtdb.log を含むインベントリデータベースファイル (mgmtdb*.db) を削除します。
データベースファイル内のインベントリ情報を使用する場合は、削除する前に、必ずデータベースファイルのバックアップを作成しておきます。
- 6 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS レジストリエントリから INVDBPATH キーを削除します。
- 7 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS¥ZFD レジストリエントリからインベントリデータベースサーバキーを削除します。
- 8 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。
 - 8a Windows コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 - 8b [Novell Database - Sybase] を選択します。
 - 8c [開始] をクリックします。

Sybase エンジンのアンインストール

Sybase エンジンは、他の ZENworks 製品で使用されていない場合に限り、削除することができます。

- ◆ 350 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 351 ページの「Windows サーバからのアンインストール」

NetWare サーバからのアンインストール

- 1 Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、まずデータベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンをアンインストールする必要があります。
- 2 Sybase コンソールプロンプトで「q」と入力して Sybase を停止します。
- 3 sys:¥system¥zenworks.properties の DBENGINEPATH キーの値を確認します。
- 4 データベースがデータベースサーバにマウントされているかどうかを確認します。

NetWare では、データベースがデータベースサーバにマウントされている場合、sys:¥system¥mgmt dbs.ncf に .db エントリが含まれています。

このファイルに .db エントリが含まれていない場合は、mgmt dbs.ncf を削除します。ファイルに .db エントリが含まれている場合は、Sybase エンジンの削除を中止してください。

- 5 sys:¥system¥autoexec.ncf から mgmt dbs.ncf エントリを削除します。
- 6 DBENGINEPATH で指定されているディレクトリ（手順 3 で確認）を削除します。
- 7 sys:¥system¥zenworks.properties から DBENGINEPATH キーを削除します。

Windows サーバからのアンインストール

- 1 Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、まずデータベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンアンインストールする必要があります。
- 2 Sybase を停止します。
 - 2a Windows コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
 - 2b [Novell Database - Sybase] を選択します。
 - 2c [停止] をクリックします。
- 3 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリの DBENGINEPATH キーの値をメモします。
- 4 データベースがデータベースサーバにマウントされているかどうかを確認します。
 - 4a `dbengine_installaton_directory\ntdbconfig.exe` を実行して、.db エントリが含まれているかどうかを調べます。
 - 4b データベースがデータベースサーバにマウントされている場合は、`ntdbconfig.exe` ファイルに .db エントリが含まれています。`ntdbconfig.exe` に .db エントリが含まれている場合は、Sybase エンジン削除しないでください。
 .db エントリが存在しない場合は、
 HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES レジストリエントリから ASANYS_ZENWORKS キーを削除します。
- 5 DBENGINEPATH で指定されているディレクトリを削除します。

インベントリサーバソフトウェアのアンインストール

- ◆ [351 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」](#)
- ◆ [352 ページの「Windows サーバからのアンインストール」](#)

NetWare サーバからのアンインストール

- 1 インベントリサーバのサーバコンソールプロンプトで **StopSer *** と入力し、インベントリサービスを停止します。
- 2 `Java.nlm` をアンロードします。サーバコンソールで、**java -exit** と入力します。
- 3 `sys:\system\zenworks.properties` の `INVSrvPATH` キーおよび `ZWSPATH` キーの値をメモします。
- 4 `ZFD_INVENTORY_SERVER` キーを削除します。
`sys:\system\zenworks.properties` から次のセクションを削除します。

`[Zfd_Inventory_Server]Version = 6.5.0 Desktop Management product build date`
`Installed_From = Product CD`
`Support_Pack = 0`
- 5 `invsrvpath\scandir` ディレクトリを削除します。
- 6 `invsrvpath\server` ディレクトリを削除します。

- 7 sys:¥system¥autoexec.ncf から次のエントリを削除します。
 ; ZENworks Inventory Settings
 StartInv.ncf
- 8 sys:¥system ディレクトリから次のファイルを削除します。
 invenv.ncf
 invenvset.ncf
 listser.ncf
 startinv.ncf
 startser.ncf
 startzws.ncf
 stopser.ncf
 dbexport.ncf
 debug.properties
 stopdb.ncf
- 9 インベントリサーバに Policy and Distribution Services と XML プロキシサーバがインストールされていない場合は、ZWSPATH によって指定されているディレクトリを削除して、ZENworks Web Server コンポーネントを削除します。
 9a sys:¥system¥autoexec.ncf から次のエントリを削除します。
 ; ZENworks Inventory Settings
 ZFS.ncf
 9b sys:¥system ディレクトリから zwsstart.ncf ファイルを削除します。
 9c sys:¥system¥zenworks.properties から ZWSPATH キーを削除します。
 9d zws_volume:¥zfs-startup.xml を削除します。
 9e zws_volume:¥zenworks¥zfs.ncf を削除します。
- 10 sys:¥system¥zenworks.properties から INVSrvPATH キーを削除します。

Windows サーバからのアンインストール

- 1 インベントリサーバ上の Inventory Service を停止します。
 1a Windows コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
 1b [Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。
 1c [Novell ZENworks Service Manager] を選択し、[停止] をクリックします。
- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS レジストリエントリの INVSrvPATH および ZWSPATH キーの値をメモします。
- 3 *invsrvpath*¥scandir ディレクトリを削除します。
- 4 *invsrvpath*¥server ディレクトリを削除します。
- 5 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CURRENTCONTROLSET¥SERVICES レジストリエントリから ZENINVENTORY キーを削除します。
- 6 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS¥ZFD レジストリエントリからインベントリサーバキーを削除します。

- 7 インベントリサーバに Policy and Distribution Services および XML プロキシサーバがインストールされていない場合は、ZENworks Web Server コンポーネントを削除します。
 - 7a `zwspace` ディレクトリを削除します。
 - 7b `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS` レジストリエントリから `ZWSPATH` キーを削除します。
 - 7c `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES` レジストリエントリから `ZWSSRV` キーを削除します。
- 8 `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS` レジストリエントリから `INVSrvPath` キーを削除します。
- 9 実行した変更を有効にするため、コンピュータを再起動します。

XML プロキシサーバのアンインストール

ポリシーサービスと配布サービス、またはインベントリがサーバにインストールされていない場合に、サーバからインベントリ XML プロキシサーバファイルをアンインストールするには

- ◆ 353 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 354 ページの「Windows サーバからのアンインストール」

NetWare サーバからのアンインストール

- 1 サーバコンソールのプロンプトで「`java -killzfsexit`」と入力して、`java.nlm` をアンロードします。
- 2 `sys:\system\zenworks.properties` の `ZWSPATH` キーの値を確認します。
- 3 `sys:\system\zenworks.properties` から次のセクションを削除します。


```
[ZfD_XML_Proxy_Server]

Version=6.5.0 Desktop Management product build date

Installed_From = Product CD

Support_Pack = 0
```
- 4 `sys:\system\autoexec.ncf` から次のエントリを削除します。


```
; ZENworks Inventory Settings

ZFS.ncf
```
- 5 `sys:\system` ディレクトリから `zwsstart.ncf` ファイルを削除します。
- 6 `sys:\system\zenworks.properties` から、`ZWSPATH` ディレクトリおよび `ZWSPATH` エントリを削除します。
- 7 `zws_volume:\zenworks` ディレクトリから `zfs-startup.xml` および `zfs.ncf` を削除します。

Windows サーバからのアンインストール

- 1 ZENworks Web Server を停止します。
コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell ZENworks サービスマネージャ] を選択して [停止] をクリックします。
- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS レジストリエントリの ZWSPATH キーの値をメモします。この値は zwspath ディレクトリを示しています。
- 3 zwspath ディレクトリを削除します。
- 4 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS¥ZFD レジストリエントリからインベントリプロキシ XML サーバキーを削除します。
- 5 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CURRENTCONTROLSET¥SERVICES レジストリエントリから ZWSSRV キーを削除します。
- 6 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS¥ レジストリエントリから ZWSPATH キーを削除します。
- 7 `zws_volume:¥zenworks¥zfs-startup.xml` を削除します。

ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール

他の製品の管理に ConsoleOne を使用している場合は、ConsoleOne 自体をアンインストールしないでください。

ConsoleOne からワークステーションインベントリスナップインのみを削除するには

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。
ConsoleOne が複数のワークステーションのインベントリサーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。
- 2 サーバまたはワークステーション上の `ConsoleOne_installation_directory¥1.2` ディレクトリで、次の操作を行います。
 - ◆ 次のファイルを削除します。
`¥lib¥zen¥dbexport.jar`
`¥lib¥zen¥desktop.jar`
`¥lib¥zen¥zeninvimages.jar`
`¥lib¥zen¥zenutility.jar`
`¥lib¥zen¥statuslog.jar`
`¥lib¥zen¥classes12.zip¥lib¥zen¥vbjapp.jar¥lib¥zen¥vbjorb.jar¥lib¥zen¥jdbcdrv.zip`
`¥snapins¥zen¥inventorysnapins.jar`
`¥snapins¥zen¥inventorysnapins3x.jar¥snapins¥zen¥dataexportsnapins.jar¥snapins¥zen¥policymigration.jar¥snapins¥zen¥workstationsnapins.jar¥snapins¥zen¥tracer.jar¥help¥novellserverinv.hs¥bin¥directoryrights.dll¥bin¥displayrules.properties¥bin¥schemarules.properties`
 - ◆ 次のディレクトリを削除します。
`¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory`
`¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory30`
`¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory32`
`¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory3x`
`¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory4x`

- 3 リモート管理の ConsoleOne スナップインを同じワークステーションまたはサーバにインストールしていない場合は、次のファイルを削除します。

```
¥bin¥desktop4.exe
¥bin¥mssql.ini
¥bin¥msvp60.dll
¥bin¥ndsaccess.dll
¥bin¥oracle.ini
¥bin¥remagent.ini
¥bin¥sybase.ini
¥help¥novellzeninven.hs
¥help¥novellzenrmgt.hs ¥help¥en¥novell_zfd_inventory
¥help¥en¥novell_zfd_remotemgmt
¥lib¥zen¥desktop.jar
¥lib¥zen¥desktop3x.jar¥lib¥zen¥desktopcommonutility.jar
¥resources¥resources.jar
¥snapins¥zen¥commonsnapins.jar
```

デスクトップ管理インベントリエージェントのアンインストール

ユーザワークステーション上でデスクトップ管理インベントリエージェントをアンインストールする必要がある場合は、Windows の [アプリケーションの追加と削除] を実行することによってアンインストールを実行できます。Novell Application Launcher™ によってデスクトップ上に作成されたアプリケーションアイコンは削除されません。

注：インストール後は、どのユーザでも Windows の [アプリケーションの追加と削除] を実行してデスクトップ管理インベントリエージェントのアンインストールを試みることができます。ユーザがローカルの管理権限を持っていないければ、このエージェントのアンインストールは成功しません。

NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール

インストールが正常に実行されなかった、または誤ってファイルを削除するなどしてデータ破損が起き、再インストールしなければデータの修復ができないなどの理由で、デスクトップ管理サービスのワークステーションインベントリコンポーネントを再インストールすることが必要な場合があります。

重要：再インストールでは、再びスキーマを拡張する必要はありません。

ここでは、ワークステーションインベントリコンポーネントの再インストールに焦点を絞って説明します。

- ◆ 356 ページの「ワークステーションインベントリの再インストールの準備」
- ◆ 356 ページの「ワークステーションインベントリの再インストール」
- ◆ 358 ページの「ワークステーションインベントリの再インストールの確認」
- ◆ 358 ページの「デスクトップ管理インベントリエージェントの再インストール」

ワークステーションインベントリの再インストールの準備

- 1 ワークステーションインベントリを再インストールする必要があるサーバを識別します。
- 2 Inventory Service を停止します。
 - ◆ NetWare インベントリサーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「**sys:¥system¥invstop.ncf**」と入力します。

注：Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、`sys:¥system¥invstop.ncf` ファイルで `Unload dbsrv8.nlm` 行をコメント化します。
 - ◆ Windows 2000/2003 インベントリサーバの場合：[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Inventory Service] を選択して [停止] をクリックします。
- 3 インベントリデータベースを停止します。
 - ◆ NetWare の場合：Sybase コンソールのプロンプトで、<Q> キーを押します。
 - ◆ Windows 2000/2003 の場合：[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。
- 4 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、`java.nlm` をアンロードします（サーバコンソールで、「**java -exit**」と入力する）。

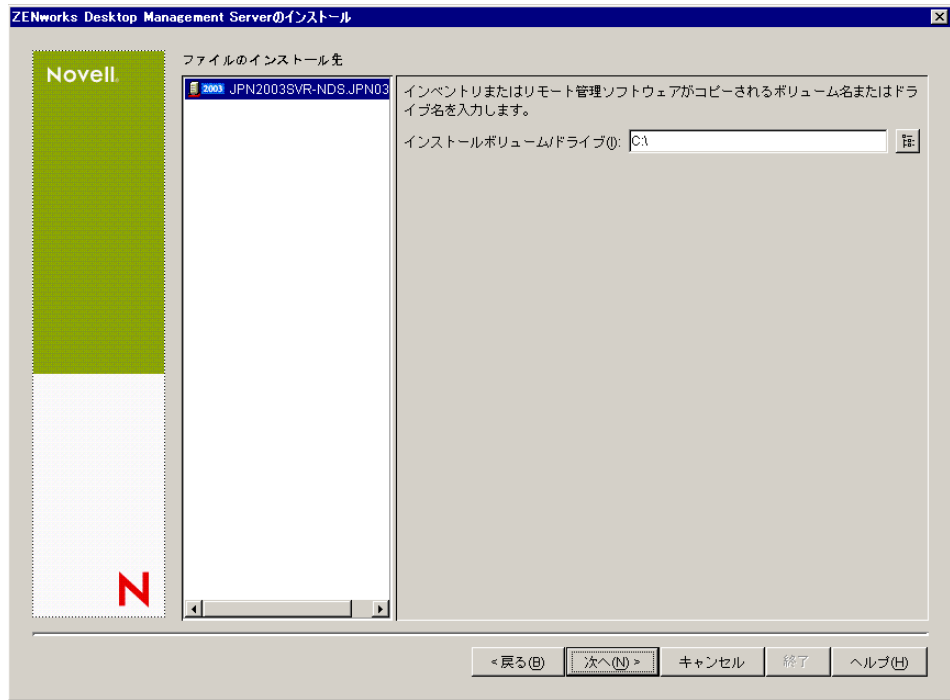
重要： このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Desktop Management を再インストールする際には、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。
- 5 対象になる Windows サーバで、[サービス] ウィンドウを閉じます。
- 6 再インストール先のサーバがある Novell eDirectory™ ツリーにログインします。

Windows 2000 サーバに再インストールする場合、再インストール先のサーバで認証されるためには、Administrator（または同等の権利を持つユーザ）としてログインする必要があります。
- 7 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」に進みます。

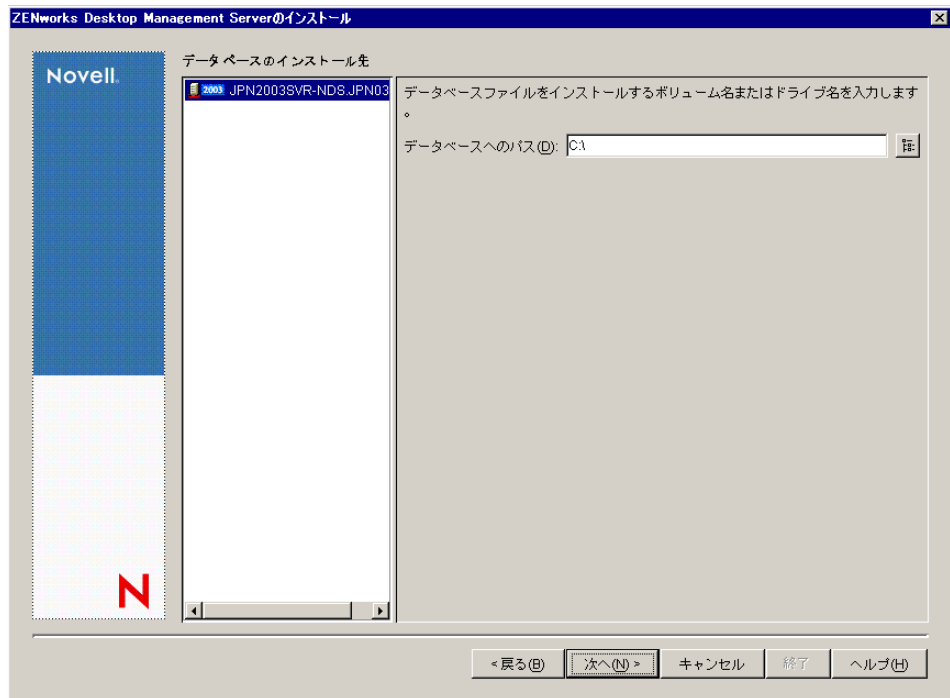
ワークステーションインベントリの再インストール

ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションインベントリを以前のインストール上に再インストールする場合は、既存のポリシーおよび scandir ディレクトリが使用されます。

再インストールの際の [ファイルのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、ワークステーションインベントリまたはリモート管理ファイルがそのパスにインストールされます。



再インストールの際の「データベースのインストール先」ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、データベースがそのパスにインストールされます。



ワークステーションインベントリの再インストールの確認

- 1 インストールが完了したら、インストールログファイルを参照して、インストールに失敗したコンポーネントがないかどうかを確認します。
- 2 ファイルがなくなったり、壊れたりした問題を解決するために再インストールした場合は、問題が解決されていることを確認します。

デスクトップ管理インベントリエージェントの再インストール

デスクトップ管理インベントリエージェントをワークステーションに再インストールするには、[100 ページの「手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール」](#)を参照してください。

VII

付録

『インストールガイド』のこの節には、ZENworks Desktop Management をインストールする際に役立つ詳細情報を紹介する付録が記載されています。次の付録で構成されています。

- ◆ 361 ページの付録 A 「ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 6.5 のポリシーパッケージの違い」
- ◆ 369 ページの付録 B 「Novell Cluster Services 環境へのインストール」
- ◆ 389 ページの付録 C 「Novell BorderManager VPN クライアントと相互運用する場合の制限」
- ◆ 393 ページの付録 D 「バージョン情報を含むレジストリエントリ」
- ◆ 405 ページの付録 E 「インストールに関するエラーメッセージ」
- ◆ 441 ページの付録 F 「XMLRPC のライセンス契約」
- ◆ 445 ページの付録 G 「ドキュメントの更新」

A

ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 6.5 のポリシーパッケージの違い

次の表は、更新された ZENworks 6.5 Desktop Management システムのポリシー構成を示しています。

- ◆ 361 ページの「コンテナポリシーパッケージの構成」
- ◆ 361 ページの「サーバポリシーパッケージの構成」
- ◆ 363 ページの「SLP ポリシーの構成」
- ◆ 363 ページの「ユーザポリシーパッケージの構成」
- ◆ 366 ページの「ワークステーションポリシーパッケージの構成」

コンテナポリシーパッケージの構成

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
一般	検索ポリシー	検索ポリシー	[パーティション] オプションの削除。

サーバポリシーパッケージの構成

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
一般	イメージングサーバポリシー	イメージングサーバポリシー	イメージセーフデータの一部として配布するため、名前付きサーバと DNS ドメインサフィックスをポリシーに追加。
一般	ワークステーションインポート	ワークステーションインポート	変更なし。
一般	ワークステーションの削除	ワークステーションの削除	変更なし。
一般	zeninvRollupPolicy	ロールアップポリシー (Roll-Up Policy)	名前の変更。複数のツリーで使用するため、サーバの IP/DNS エントリを追加。プロキシサーバ設定も追加。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
一般	該当なし	ZENworks Database	データベースの種類と URL の設定が可能。 ワークステーションインベントリがインストールされている場合は、インベントリデータベースの場所をサーバ上に指定できます。この設定は、SLP の設定よりも優先されます。
一般	該当なし	ディクショナリ更新ポリシー (Dictionary Update Policy)	異なるインベントリサーバへのソフトウェアディクショナリの配布に関する設定が可能。 新しいポリシーです。
Windows:	イメージングサーバポリシー	イメージングサーバポリシー	イメージセーフデータの一部分として配布するため、名前付きサーバと DNS ドメインサフィックスをポリシーに追加。
Windows:	ワークステーションインポート	ワークステーションインポート	変更なし。
Windows:	ワークステーションの削除	ワークステーションの削除	変更なし。
Windows:	zeninvRollupPolicy	ロールアップポリシー (Roll-Up Policy)	名前の変更。複数のツリーで使用するため、サーバの IP/DNS エントリを追加。プロキシサーバ設定も追加。
Windows:	該当なし	ZENworks Database	データベースの種類と URL の設定が可能。 ワークステーションインベントリがインストールされている場合は、インベントリデータベースの場所をサーバ上に指定できます。この設定は、SLP の設定よりも優先されます。
Windows:	該当なし	ディクショナリ更新ポリシー (Dictionary Update Policy)	異なるインベントリサーバへのソフトウェアディクショナリの配布に関する設定が可能。 新しいポリシーです。
NetWare	イメージングサーバポリシー	イメージングサーバポリシー	イメージセーフデータの一部分として配布するため、名前付きサーバと DNS ドメインサフィックスをポリシーに追加。
NetWare	ワークステーションインポート	ワークステーションインポート	変更なし。
NetWare	ワークステーションの削除	ワークステーションの削除	変更なし。
NetWare	zeninvRollupPolicy	ロールアップポリシー (Roll-Up Policy)	名前の変更。複数のツリーで使用するため、サーバの IP/DNS エントリを追加。プロキシサーバ設定も追加。
NetWare	該当なし	ZENworks Database	データベースの種類と URL の設定が可能。 ワークステーションインベントリがインストールされている場合は、インベントリデータベースの場所をサーバ上に指定できます。この設定は、SLP の設定よりも優先されます。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
NetWare	該当なし	ディクショナリ更新ポリシー (Dictionary Update Policy)	異なるインベントリサーバへのソフトウェアディクショナリの配布に関する設定が可能。 新しいポリシーです。

SLP ポリシーの構成

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
一般	SMTP Host	SMTP Host	変更なし。
一般	SNMP Trap Targets	SNMP Trap Targets	変更なし。
一般	該当なし	XML ターゲット (XML Targets)	新しいポリシー。XML ログデータの URL ターゲットを指定。
一般	ZENworks Database	ZENworks Database	データベースの種類と URL の設定が可能。

ユーザポリシーパッケージの構成

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
一般	ヘルプデスクポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 6.5 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne スナップインを使用する必要があります。
一般	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
一般	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	ダイナミックローカルユーザ	ダイナミックローカルユーザ	変更なし。
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	ヘルプデスクポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 6.5 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne スナップインを使用する必要があります。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	NT デスクトップ初期設定	Windows デスクトップ初期設定	名前の変更。
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	NT ユーザプリンタ	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 6.5 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne スナップインを使用する必要があります。
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	NT ユーザシステムポリシー	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	拡張可能ユーザポリシー	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
WinNT-2000 ZfD 4 では WinNT-2000-XP	Windows 2000 グループポリシー	Windows 2000 グループポリシー	名前の変更。
Win 9x	95 デスクトップ初期設定	Windows デスクトップ初期設定	名前の変更。
Win 9x	95 ユーザシステムポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 6.5 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne スナップインを使用する必要があります。
Win 9x	ヘルプデスクポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 6.5 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne スナップインを使用する必要があります。
Win 9x	リモートコントロールポリシー	削除	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
Win 9x	拡張可能ユーザポリシー	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
Win 9x	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
WinNT（新しいタブ）	該当なし	ダイナミックローカルユーザ	変更なし。新しいカテゴリ。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロールと NAT の機能強化。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	ダイナミックローカルユーザ	変更なし。新しいカテゴリ。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	Windows グループポリシー	変更なし。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	ダイナミックローカルユーザ	変更なし。新しいカテゴリ。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
Win2000 ターミナルサーバ（新しいタブ）	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
Win2000 ターミナルサーバ（新しいタブ）	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
Win2000 ターミナルサーバ（新しいタブ）	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
Win2000 ターミナルサーバ (新しいタブ)	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
Win2000 ターミナルサーバ (新しいタブ)	該当なし	Windows グループポリシー	変更なし。
Win2000 ターミナルサーバ (新しいタブ)	該当なし	Windows ターミナルサーバポリシー	変更なし。

ワークステーションポリシーパッケージの構成

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
一般	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
一般	ワークステーションイメージングポリシー	ワークステーションイメージングポリシー	変更なし。
一般	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
一般	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	拡張可能コンピュータポリシー	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	NT クライアント設定	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	NT コンピュータブリンタ	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	NT RAS 環境設定	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 6.5 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne スナップインを使用する必要があります。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	ログイン制限	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	Windows 2000 グループポリシー	Windows グループポリシー	名前の変更。ローカルプラットフォームでのポリシーの妥当性に関する警告メッセージのみを追加。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	ワークステーションイメージングポリシー	場所の移動	このカテゴリから削除。[一般] タブでのみ使用可能。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキャンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキャン機能の追加。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
WinNT-2000 (ZfD 4 では WinNT-2000-XP)	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
Win 9x	95 クライアント設定	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
Win 9x	95 コンピュータプリンタ	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
Win 9x	95 コンピュータシステムポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 6.5 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne スナップインを使用する必要があります。
Win 9x	95 RAS 環境設定	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 6.5 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne スナップインを使用する必要があります。
Win 9x	拡張可能コンピュータポリシー	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
Win 9x	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
Win 9x	ログイン制限	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
Win 9x	ワークステーションイメージングポリシー	場所の移動	このカテゴリから削除。[一般] タブでのみ使用可能。
Win 9x	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキャンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキャン機能の追加。
Win 9x	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 6.5 のポリシー	ZENworks 6.5 での変更点
Win 9x	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロールと NAT の機能強化。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキャンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキャン機能の追加。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
WinNT（新しいタブ）	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキャンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキャン機能の追加。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
Win2000（新しいタブ）	該当なし	Windows グループポリシー	名前の変更。ローカルプラットフォームでのポリシーの妥当性に関する警告メッセージのみを追加。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキャンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキャン機能の追加。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
WinXP（新しいタブ）	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。

B

Novell Cluster Services 環境へのインストール

このドキュメントでは、Novell® ZENworks® Desktop Management のコンポーネントを Novell Cluster Services™ 環境にインストールおよび設定する際の操作を理解するために役立つ情報を提供します。この章では、次の内容について説明します。

- ◆ 369 ページの「概要」
- ◆ 370 ページの「インストールの前に」
- ◆ 370 ページの「クラスタ環境の準備」
- ◆ 371 ページの「Desktop Management コンポーネントのインストール」
- ◆ 379 ページの「ワークステーションイメージングの設定」
- ◆ 380 ページの「ワークステーションインベントリの設定」
- ◆ 381 ページの「クラスタ化されたワークステーションインベントリをZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする」
- ◆ 381 ページの「クラスタ環境におけるワークステーションインベントリのアンインストール」
- ◆ 387 ページの「クラスタ環境におけるワークステーションインベントリの再インストール」

概要

ZENworks 6.5 Desktop Management のほとんどのコンポーネントは、「クラスタセーフ」と考えられています。これは、ZENworks 6.5 Desktop Management のサービスを Novell Cluster Services 環境にインストールすることはできますが、クラスタボリュームがダウンした場合、そのクラスタがフェールオーバーしている間はサービスが中断されることを意味します。

フェールオーバーが実行されると、Desktop Management のほとんどのサービスは復元されますが、ワークステーションイメージングは再起動する必要があります。単一のリソース（ポリシーファイルがコピーされているサーバ）に依存するアプリケーション管理と一部のグループポリシーは、リソースが有効化されるのを待機中にタイムアウトになります。次のログイン時、またはスケジュールされたイベントが発生してファイルリソースが再度有効になるまで、そのポリシーは適用されません。

クラスタ環境での ZENworks 6.5 Desktop Management の操作に関する既知の問題については、Novell ZENworks 6.5 Documentation Web サイトで、[ZENworks 6.5 Desktop Management Readme \(http://www.novell.com/documentation/lg/zenworks65/readme/readme_desktops_65.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/zenworks65/readme/readme_desktops_65.html) を参照してください。

ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 (SP1) にアップグレードした場合、ワークステーションインベントリコンポーネントは Novell Cluster Services 環境をサポートします。ただし ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理の Wake-On-LAN コンポーネントはクラスタ環境をサポートしていません。

クラスタ環境への ZENworks Middle Tier Server のインストールはサポートされていません。

Novell Cluster Services の詳細については、[NetWare 6 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/lg/ncs6p/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/ncs6p/index.html) または [NetWare 6.5 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/lg/nw65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/nw65/index.html) で、Novell Cluster Services のマニュアルを参照してください。

インストールの前に

Novell ZENworks 6.5 Desktop Management を Novell Cluster Services 環境にインストールおよび設定する前に、各製品のハードウェア要件およびソフトウェア要件がすべて満たされていることを確認します。

- ❑ Novell Cluster Services をインストールする 2 つ以上の NetWare® 6 または NetWare 6.5 サーバ（「ノード」とも呼ばれます）
- ❑ クラスタの一部となる NetWare 6 サーバにインストールされ稼動している Novell Cluster Services 1.6
- ❑ クラスタの一部となる NetWare 6.5 サーバにインストールされ稼動している Novell Cluster Services 1.7
- ❑ クラスタ対応が指定された作成済みクラスタボリューム（仮想サーバまたはクラスタサーバと呼ばれます）

クラスタリングの詳細については、[Novell Cluster Services のマニュアル \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

クラスタ環境の準備

Desktop Management のクラスタノードを準備するには

- 1 各ノードを ConsoleOne® 1.3.6 以降にアップグレードします。

ConsoleOne 1.3.6（またはそれ以降）は、*Novell ZENworks 6.5 Companion 1* CD に含まれています。Desktop Management を正しく機能させるには、ConsoleOne 1.3.6 以降をクラスタノードごとにインストールする必要があります。詳細については、[250 ページの「ConsoleOne のアップグレード」](#)を参照してください。

- 2 各ノードの Java をアンロードします。

Desktop Management のインストールプログラムでエラーメッセージが表示されないようにするには、サーバ（クラスタノード）で実行されている Java をアンロードしてから、Desktop Management をインストールします。そのためには、サービスを提供する各ノードのシステムコンソールにアクセスする必要があります。各ノードのシステムコンソールで、次のコマンドを入力します。

```
unload java
```

- 3 ワークステーションに Novell Client™ をインストールします。適切なクライアントのインストールの詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「[Novell Client の理解](#)」を参照してください。

Desktop Management コンポーネントのインストール

Novell Cluster Services で構成されたネットワークに ZENworks Desktop Management をインストールするには

- 1 適切な Novell Client で設定されたネットワーク上のワークステーションから、クラスタが存在するディレクトリツリーに管理者としてログインします。

重要： ZENworks Desktop Management のインストールプログラムを実行している間は、このワークステーションおよび他のすべての管理ワークステーションで ConsoleOne を実行しないようにしてください。

- 2 Windows 2000/XP ワークステーション（または Windows 2000/2003 サーバ）を選択して、Desktop Management Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」を参照してください。

- 3 インストールするワークステーションで、Novell ZENworks 6.5 Desktop Management CD を挿入します。

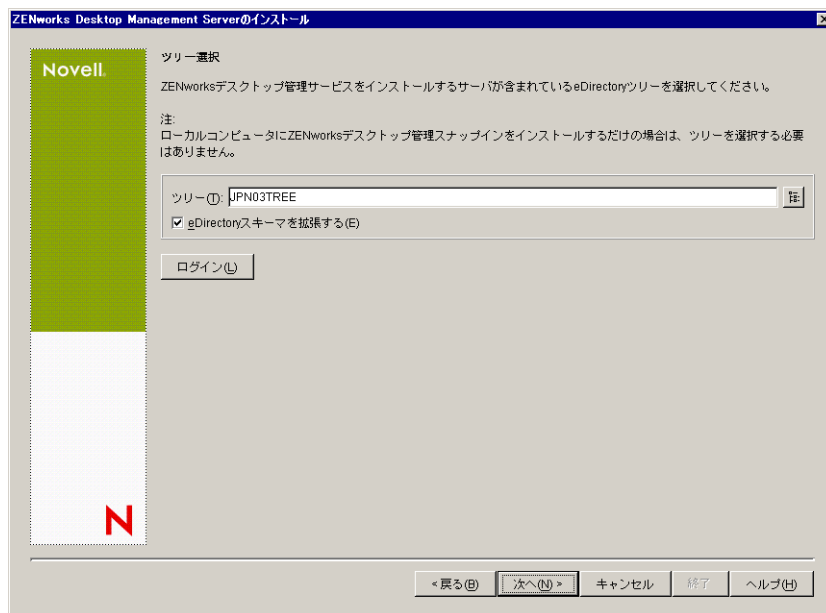
winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で実行します。

Novell. ZENworks. 6.5		バージョン 6.5	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
		→ 終了	

- 4 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 5 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。

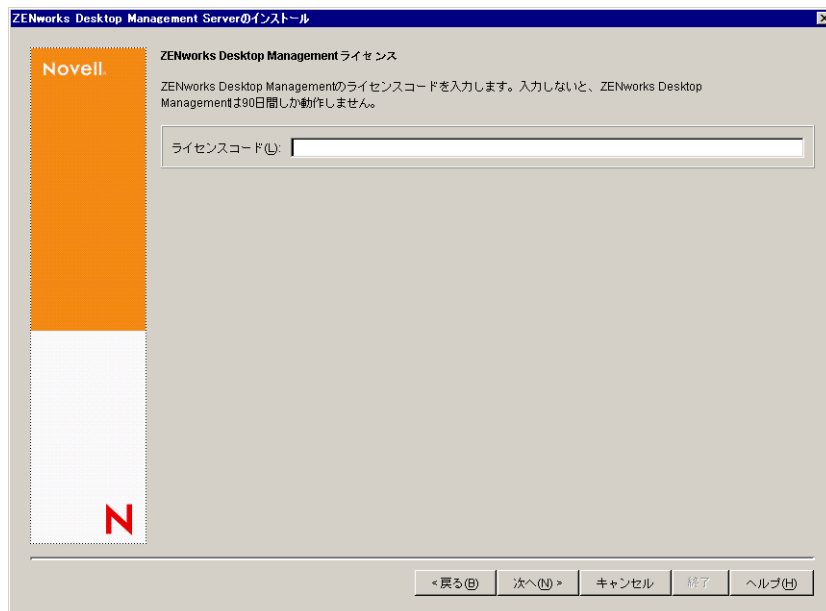
- 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Desktop Management Server のインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- [ツリー選択] ページで、Desktop Management Server をインストールする Novell eDirectory™ ツリーの名前を入力または参照します。このインストールのスキーマをまだ拡張していない場合は (53 ページのステップ 1 を参照)、[eDirectory スキーマを拡張する] を選択し、ZENworks Desktop Management Server をインストールするツリーのスキーマを拡張します。[次へ] をクリックします。

注：ZENworks Desktop Management Server を複数のツリーに同時にインストールすることはできません。



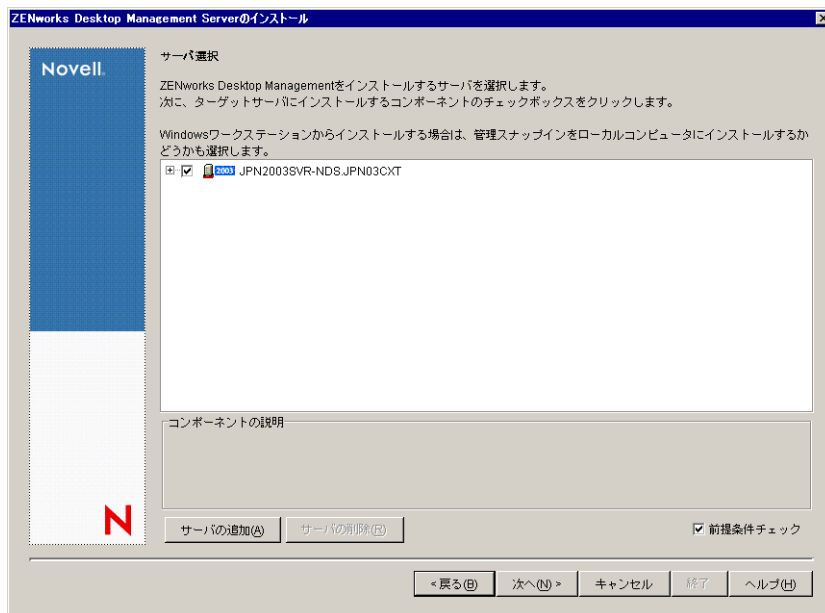
ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

- 10 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。次に [終了] をクリックします。

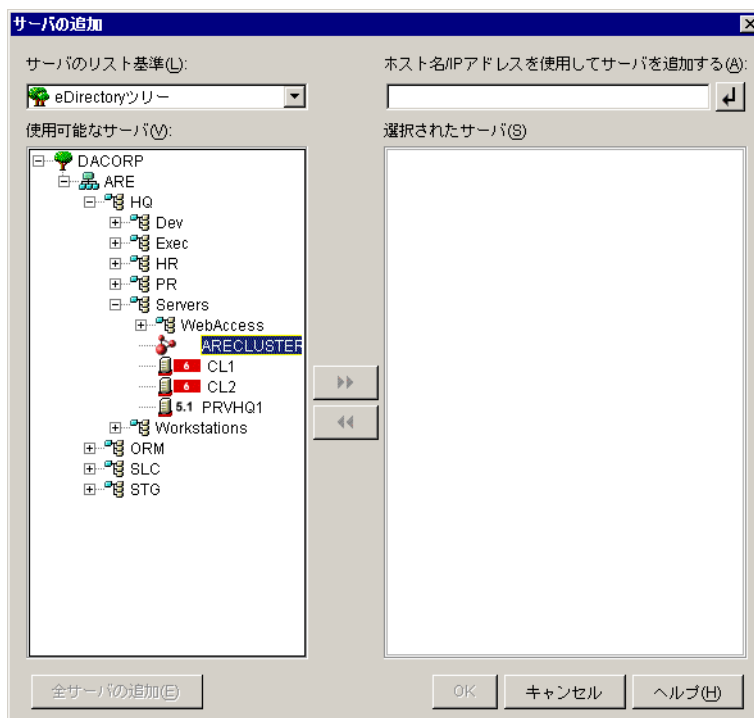


このページでライセンスコードを入力しなければ、この ZENworks Desktop Management のインストールは評価版と見なされます。評価用にインストールした場合は、製品のライセンスを取得するように定期的に通知されます。90 日経つと、評価版は機能しなくなります。

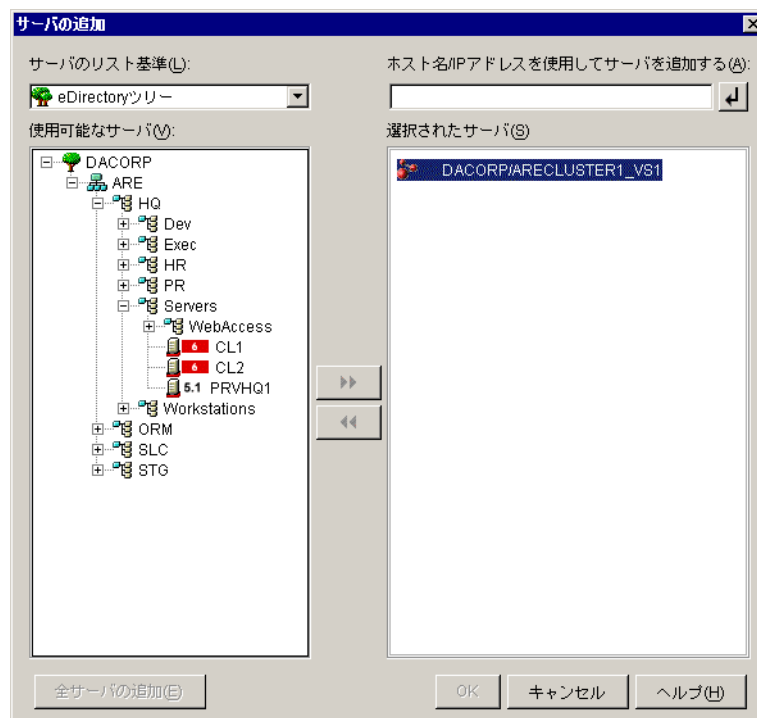
- 11 [サーバ選択] ページで、[サーバの追加] をクリックし、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするクラスタオブジェクトを参照します。



- 12 [サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとにサーバを一覧表示できます。事前に選択したツリーからのみサーバ（またはクラスタオブジェクト）を選択できます。

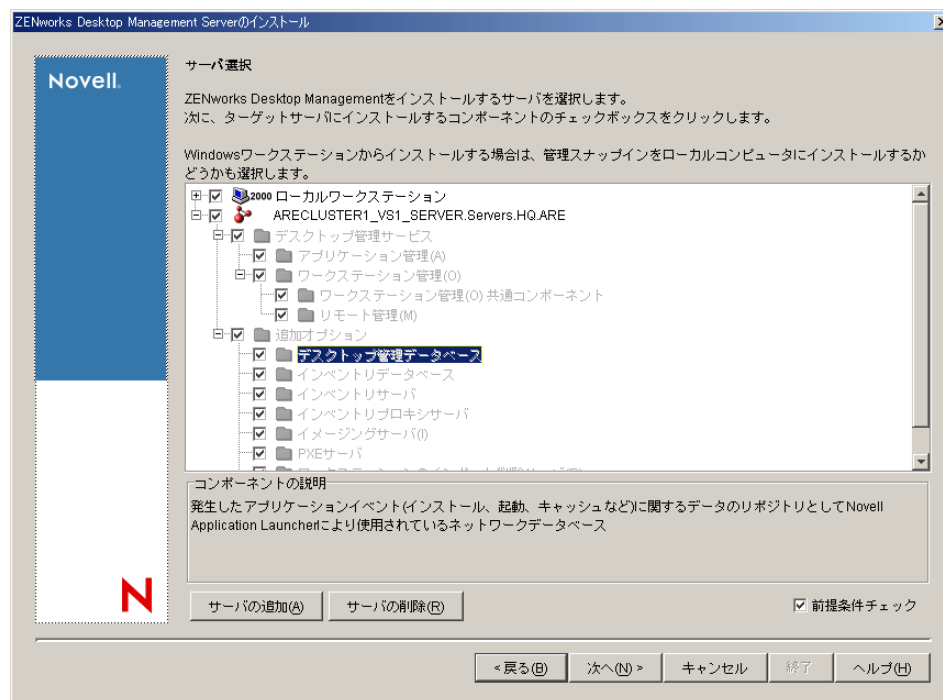


クラスタにインストールするには、[eDirectory ツリー] を選択し、インストール先のクラスタオブジェクトの名前を参照してクリックします。右方向矢印ボタンをクリックして、選択したクラスタオブジェクトを [選択されたサーバ] ペインに移動し、[OK] をクリックします。



重要： クラスタオブジェクトを選択する場合は、オブジェクトが属する個々のクラスタノードサーバは選択しないようにしてください。これらのオブジェクトは、インストールプログラムによって検出されます。クラスタにインストールする際は、必要に応じてクラスタ化されていないサーバも選択できます。

- 13 この「サーバ選択」ページで、クラスタにインストールするデスクトップ管理サービスを指定できます。次に、「次へ」をクリックして、設定を保存します。



次のサービスがリストに表示されます。

[ローカルワークステーション]： ConsoleOne 1.3.6 のインストールプログラムでは、ConsoleOne ファイルがローカルハードドライブにインストールされますが、デスクトップ管理サービススナップインはインストールされません。

必要に応じて、ローカルワークステーション名の下にある [デスクトップ管理サービススナップイン] オプションを選択すると、ローカルワークステーションにデスクトップ管理サービススナップインをインストールできます。スナップインを追加するには、ConsoleOne をワークステーションにインストールしておく必要があります。

[デスクトップ管理サービス]： デスクトップ管理サービス（「Desktop Management Server」は総称です）は、ワークステーションのアプリケーションとポリシーを設定し配布できるファイルおよびプログラムであり、一般的に使用されます。これらのサービスによって、Windows のアプリケーション、ユーザ、ワークステーションの設定、処理、および動作を自動的に管理できます。

- ◆ **[アプリケーション管理]**： アプリケーション、更新、およびパッチの配布や修復、トラッキングの自動化を有効にするソフトウェアをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **[ワークステーション管理共通コンポーネント]**： ユーザをワークステーションおよびネットワークに対して認証したり、環境設定情報を eDirectory との間で送受信するために使用するワークステーション常駐モジュールをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **[リモート管理]**： ZENworks 6.5 Desktop Management は、クラスタオブジェクトへのこのコンポーネントのインストールをサポートしていません。

[追加オプション]： デスクトップ管理サービスの展開をカスタマイズする場合は、その目的に応じて次の中からサービスを選択します。

- ◆ **[デスクトップ管理データベース]**： 発生したアプリケーションのイベント（インストール、起動、キャッシュなど）に関するデータのリポジトリとして、Novell Application Launcher™ で使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **[インベントリデータベース]**： インベントリ対象ワークステーションから収集したハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報のリポジトリとして、ワークステーションインベントリで使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。

重要： Inventory データベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。
『ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド』の手順に従ってください。

- ◆ **[インベントリサーバ]**： 管理されたワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報の収集と表示を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、そのコンポーネントを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする必要があります。Server Management へのアップグレードに関する詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド*』の「**アップグレード**」にある「**サーバインベントリ**」を参照してください。

- ◆ **[インベントリプロキシサーバ]**：ネットワークファイアウォールを越えて配置されたインベントリサーバへの、インベントリスキャンデータのロールアップを有効にするプロキシサービスをインストールする場合は、このオプションを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のインベントリコンポーネントがインストールされていないことを確認してください。
 - ◆ **[イメージングサーバ]**：ワークステーションにワークステーションイメージファイルを作成、保存、送信、または復元するために使用する Linux イメージング環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。
 - ◆ **[PXE サーバ]**：Preboot Execution Environment (PXE) が有効なワークステーションと通信し、そのワークステーションにイメージングタスクを送信できるようにするために、サーバで使用する PXE プロトコルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- 注**：起動前サービスをインストールすると、インストールされるコンポーネントにプロキシ DHCP サーバが含まれます。標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上にプロキシ DHCP サーバをインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。
- ◆ **[ワークステーションのインポート / 削除サーバ]**：ワークステーションオブジェクトを eDirectory に追加する（すでに追加されている場合は削除する）ファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。ワークステーションオブジェクトは、アプリケーションまたはコンピュータの設定を受信するために eDirectory で管理されます。
 - ◆ **[デスクトップ管理サービススナップイン]**：デスクトップ管理ツールおよびユーティリティを起動し、eDirectory でデスクトップ管理オブジェクトのプロパティページを表示して、これらのオブジェクトを参照したり設定できるように、ConsoleOne に追加機能をインストールする場合は、このオプションを選択します。

注：初回インストール後にインストールプログラムを再度実行する場合（たとえばアップグレード時、または ZENworks コンポーネントの追加時）、リスト内のチェックボックスが選択されていても、背景色がグレーになっているときがあります。これは、この一般カテゴリのコンポーネントのうち、前回のインストール時に選択されなかったコンポーネントが今回インストールできることを示しています。構造を展開して、カテゴリ内のコンポーネントのリストを表示すると、インストールするコンポーネントのチェックボックスを選択できます。

その後のインストールで、項目とラベルテキストがグレーの影付きでコンポーネント構造に表示される場合もあります。これは、このコンポーネントが以前にインストールされたことを示しています。コンポーネントが再インストールされないようにそのコンポーネントの選択を解除するには、項目をダブルクリックする必要があります。選択を解除しても、その項目がアンインストールされることはありません。チェックボックスを選択すると、インストールプログラムは古いコンポーネントを上書きします。

- 14 (オプション) デフォルトでは、[前提条件チェック] チェックボックスが選択されています。インストールプログラムで、クラスタオブジェクトが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。インストールプログラムでは、オブジェクトのネットワークオペレーティングシステムのバージョン（必要なサービスまたはサポートパックを含む）、インストールするワークステーション上の Novell Client (4.9 SP1a) の有無とバージョン、ConsoleOne (1.3.6) の有無とバージョン、およびクラスタオブジェクトの JVM (1.4.1) のバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件を満たしていない場合は、警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールおよび検出されるまで処理は続行されません。

- 15 [Next] をクリックします。

- 16 (オプション) ワークステーションインベントリまたはリモート管理のインストールを選択すると、[ファイルのインストール先] ページが表示されます。
- 16a [選択されたサーバ] リストから1つまたは複数のターゲットサーバを選択し、ワークステーションインベントリ、またはリモート管理の各ファイルをインストールするクラスタ共有ボリュームを参照するか入力します。
- 注: ZENworks 6.5 のワークステーションインベントリまたはリモート管理コンポーネントの以前のインストールがコンピュータで検出されると、既存のパスが淡色表示されます。今回のインストールでは、すべてのファイルがその既存のパスにインストールされます。
- 16b [Next] をクリックします。
- 17 (オプション) インベントリデータベースまたはデスクトップ管理データベースのインストールを選択すると、[Database Location Installation(データベースロケーションのインストール)] ページが表示されます。
- 17a 左のペインで、以前に指定した NetWare クラスタサーバを選択します。
- 17b [データベースへのパス] フィールドで、データベースファイルをインストールするクラスタ共有ボリュームの名前を参照して選択するか、指定します。
- データベースサーバごとに別のボリュームを指定できます。たとえば、NetWare クラスタサーバごとにボリューム名が異なっても構いません。ただし、同一のサーバにデータベースファイルの複数のインスタンスを設定することはできません。各サーバで実行できるデータベースエンジンのインスタンスは1つだけです。NetWare クラスタサーバの場合、このパスに2バイト文字を指定することはできません。
- 17c [Next] をクリックします。
- 18 (オプション) 同じ NetWare クラスタサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページが表示されます。インストールプログラムで、サーバパッケージ内にサーバパッケージおよびデータベースの場所ポリシーを自動的に作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページで次の設定を行います。
- 18a [スタンドアロンの設定] チェックボックスを選択します。
- 18b データベースの場所に関して共通の検索ポリシーを参照させるサーバを選択します。
- 18c このポリシーを含むサーバパッケージを作成、設定するツリーコンテナの名前を入力するか、参照して選択します。
- 18d [Next] をクリックします。
- 19 (オプション) [インベントリプロキシサービスの設定] ページで、XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートを持つ1つまたは複数の NetWare クラスタサーバを選択します。次に、[プロキシポート] フィールドで、使用するポートを指定します。
- すべてのサーバに対して同じポート番号を設定するには、サーバをすべて選択します。サーバを1つずつ選択し、値を個別に定義することもできます。デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ~ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。
- 20 [Next] をクリックします。

- 21 [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。
- 22 ConsoleOne で、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールしたツリーを選択し、[LDAP グループ] を右クリックします。次に、[プロパティ] > [一般] の順にクリックし、[クリアテキストパスワードを許可] を選択します。

注： ConsoleOne 1.3.6 を使用している場合、ZENworks Middle Tier Server の認証ドメインとして機能する各サーバの [LDAP Group Object (LDAP グループオブジェクト)] で、[TLS にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択が解除されている必要があります。Desktop Management Server をインストールした後で、このパラメータを設定する必要がある場合は、設定変更後に ZENworks Middle Tier Server を必ず再起動してください。

Active Directory ドメイン内の Windows サーバにインストールする場合、Active Directory ではポート 389 と 636 を使用するため、認証ドメインとして使用するサーバの LDAP グループオブジェクトを代替ポート番号を使用するように設定します。

ZENworks Middle Tier Server をすでにインストールしている場合は、ZENworks Middle Tier Server をリセットして、Desktop Management Server で LDAP クリアテキストパスワードの変更を認識させる必要があります。この操作は、サーバを再起動することで実行できます。

ワークステーションイメージングの設定

デスクトップ管理サービスのインストールが終了したら、ワークステーションイメージングがクラスタ環境で動作するよう設定する必要があります。必要な設定手順を次に示します。クラスタ環境のマルチキャストに関する問題も理解しておく必要があります。詳細については、[380 ページの「マルチキャストに関する問題」](#)を参照してください。

- 1 *shared_cluster_volume*:¥system の *tftp.ini* ファイルを編集して、次の行をコメント化します。

```
ReadPath=sys:¥tftp¥
```

コメント化した行の直後に次の行を追加します。*shared_cluster_volume* は、実際の共有クラスタボリューム名に置き換えます。

```
ReadPath=shared_cluster_volume:¥tftp¥
```

- 2 *shared_cluster_volume*:¥system の *pdhcp.ini* ファイルを編集して、次の行を追加します。*IP_address_of_the_shared_cluster_volume_on_virtual_server* は、仮想サーバ上の共有ボリュームの実際の IP アドレスに置き換えます。

```
TRANSACTION_SERVER_IP = IP_address_of_the_shared_cluster_volume_on_virtual_server
```

- 3 *shared_cluster_volume*:¥system の *zfdstart.ncf* ファイルを編集して、次の行を変更します。

```
SEARCH ADD shared_cluster_volume:¥SYSTEM
```

次のように変更します。

```
SEARCH ADD shared_cluster_volume:¥SYSTEM
```

- 4 アンロードスクリプトのクラスタオブジェクトを修正します。

- 4a ConsoleOne でクラスタオブジェクトを開き、NWCS のボリュームリソースを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

4b [アンロード] ページの [スクリプト] テキストボックスに「unload imgserv <<y」と入力し、[適用] をクリックします。

4c [Cluster State(クラスタの状態)] ページで、オフラインにするリソースボリュームを選択して、[オフライン] をクリックします。次に、同じリソースボリュームを再度選択して、[オンライン] をクリックします。

この手順で、イメージングサーバが最初から起動します。

5 `shared_cluster_volume:¥system` の `zfdstop.ncf` ファイルを編集して、次の行をコメント化します。

```
Unload imgserv
```

マルチキャストに関する問題

イメージングサーバコンソール (imgserv.nlm) をホストしている仮想サーバがフェールオーバーすると、imgserv.nlm で手動で設定したイメージングのマルチキャストセッションは失われます。この問題は、これらのマルチキャストセッションを再度作成し、プロセスを手動で再スタートする方法でのみ解決できます。

ワークステーションインベントリの設定

ZENworks 6.5 SP1 デスクトップ管理サービスのインストールが終了したら、ワークステーションインベントリがクラスタ環境で動作するように設定する必要があります。必要な設定手順を次に示します。

- 1 インベントリデータベースオブジェクトを設定します。Desktop Management のインストール時に Sybase* を選択した場合、インストールプログラムはデータベースオブジェクト (Inventory database_server_name) を作成し、このオブジェクトのプロパティを設定します。**ステップ 1a** と **ステップ 1b** を省略してください。
Oracle* または MSSQL* を使用する場合は **ステップ 1a** に進みます。
 - 1a Oracle または MSSQL でインベントリデータベースを管理する場合は、データベースオブジェクトを作成してプロパティを設定してあることを確認します。
詳細については、**63 ページの「NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定」**を参照してください。
 - 1b データベースオブジェクトをクラスタ環境用に設定するには、ConsoleOne® でデータベースオブジェクトを右クリックし、[Properties]、[ZENworks Database] の順にクリックし、仮想サーバの DN (NCP サーバオブジェクト) を参照して選択するか、仮想サーバの IP アドレスを指定して、[OK] をクリックします。
- 2 インストール時に、スタンドアロン設定を選択しなかった場合は、データベースの場所ポリシーを作成する際、Inventory database_virtual_server_name にインベントリデータベースを設定します。
- 3 ワークステーションインベントリポリシーを作成する際、Inventory Service_virtual_server_name に Inventory Service オブジェクトの DN を設定します。
- 4 すべてのロールアップポリシーを設定するには、クラスタサービスの Inventory Service オブジェクトを選択します (Inventory Service_virtual_server_name)。

クラスタ化されたワークステーションインベントリを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする

クラスタ環境の ZENworks for Desktops 3.2 SP 3 ワークステーションインベントリを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする場合、インベントリポリシーを設定し直す必要があります。ポリシーを設定し直すには、次の作業を実行します。

- ❑ クラスタをターゲットサーバとして使用するインベントリロールアップポリシーを、クラスタサービスの Inventory Service オブジェクトを参照するように設定します (*virtual_server_name* ではなく、*Inventory Service_virtual_server_name* がターゲットとなるように変更する)。
- ❑ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 では、すべてのクラスタノードの NCP サーバオブジェクトにインベントリロールアップポリシーが関連付けられます。しかし ZENworks 6.5 にアップグレードした後は、仮想サーバの NCP サーバオブジェクトに手動でインベントリロールアップを関連付ける必要があります。
- ❑ NCP サーバオブジェクトに関連付けられたすべてのインベントリロールアップポリシーは、仮想サーバの NCP サーバオブジェクトに関連付ける必要があります。
- ❑ 仮想サーバの ISO を参照するように、すべてのワークステーションインベントリポリシーを設定し直します。
- ❑ DB オブジェクトを手動で作成した場合は、仮想サーバの NCP サーバオブジェクトを参照するようにサーバの DN を設定し直してください。

クラスタ環境におけるワークステーションインベントリのアンインストール

ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 のワークステーションインベントリコンポーネントを自動でアンインストールすることはできません。インベントリサーバ、Sybase 上のインベントリデータベース、Novell eDirectory™ オブジェクト、および ConsoleOne® ファイルを手動で削除する必要があります。

注： インベントリデータベースが Oracle または MS SQL にマウントされている場合は、Oracle または MS SQL によってそれぞれ推奨されているアンインストール手順に従ってください。

ワークステーションインベントリコンポーネントがインストールされているすべてのサーバおよびワークステーションから、オブジェクトとファイルを削除する必要があります。

インベントリが企業内に展開されている場合は、まずすべてのリーフサーバをアンインストールしてから、中間サーバ、ルートサーバの順にアンインストールします。

ワークステーションインベントリをアンインストールする前に、必ずルートサーバ内のインベントリデータベースのバックアップを作成し、保存しておいてください。

ワークステーションインベントリを手動でアンインストールするには、次の手順に従います。

1. [382 ページの「ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール」](#)
2. [383 ページの「データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール」](#)
3. [383 ページの「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」](#)
4. [383 ページの「Sybase エンジンのアンインストール」](#)

5. 384 ページの「インベントリサーバソフトウェアのアンインストール」
6. 385 ページの「XML プロキシサーバのアンインストール」
7. 386 ページの「ConsoleOneからのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール」
8. 387 ページの「クラスタスクリプトへの変更の適用」

ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール

- 1 Netware インベントリサーバのサーバコンソールプロンプトで **StopSer *** と入力し、インベントリサービスを停止します。
- 2 ZENworks データベースポリシーが有効になっている場合は、無効にします。
 - 2a ConsoleOne で、SLP オブジェクトのプロパティパッケージを右クリックし、[Properties]、[Policies] の順にクリックします。
 - 2b [ZENworks データベース] ポリシーを選択して [プロパティ] をクリックし、[インベントリ管理] タブをクリックします。
 - 2c 指定したインベントリデータベースのエントリを削除し、[OK] をクリックします。

重要： ZENworks データベースポリシーが複数のインベントリサーバで使用されている場合、それらのインベントリサーバをアンインストールしてからこの手順を実行する必要があります。

- 3 ワークステーションインベントリポリシーを無効にします。
 - 3a ConsoleOne で、ワークステーションパッケージオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 - 3b [ポリシー] をクリックし、適切なオペレーティングシステムのサブオプションを選択します。
 - 3c ワークステーションインベントリポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [リセット] ボタンをクリックし、[はい] をクリックします。
 - 3d ワークステーションインベントリポリシーの選択を解除します。
 - 3e [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

重要： 複数のオペレーティングシステムにワークステーションインベントリポリシーを設定している場合は、[ポリシー] タブで該当するオペレーティングシステムのサブオプションを選択し、この手順を繰り返します。

- 4 ロールアップポリシーとディクショナリ更新ポリシーが設定されている場合は、これらのポリシーを無効にします。
 - 4a ConsoleOne で、サーバパッケージを含むコンテナを検索し、サーバパッケージを右クリックします。[プロパティ]、[ポリシー] の順にクリックし、NetWare のサブオプションをクリックします。
 - 4b ロールアップポリシーを選択し、[リセット] ボタンをクリックして、[はい] をクリックします。
 - 4c ロールアップポリシーの選択を解除します。
 - 4d ディクショナリ更新ポリシーを選択し、[リセット] ボタンをクリックして、[はい] をクリックします。
 - 4e ディクショナリ更新ポリシーの選択を解除します。
 - 4f [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

- 5 ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクトを含むコンテナを検索し、Inventory Service オブジェクトを削除します。

データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール

ConsoleOne で、インベントリデータベースオブジェクトを含むコンテナを検索し、インベントリデータベースオブジェクトを削除します。

Sybase インベントリデータベースのアンインストール

- 1 Sybase コンソールプロンプトで「q」と入力して Sybase を停止します。
- 2 すべてのクラスタノードで、`sys:¥system¥mgmt dbs. ncf` から、`database_path¥mgmt db. db` エントリを削除します。
重要： その他のデータベースパスは削除しないようにします。
- 3 任意のクラスタノードで `sys:¥system¥zenworks. properties` の `INVDATABASEPATH` キーの値をメモします。
- 4 `INVDATABASEPATH` キーで確認した値から、すべてのクラスタノードの `mgmt db. log` も含めインベントリデータベースファイル (`mgmt db*. db`) を削除します。
重要： データベースファイル内のインベントリ情報を使用する場合は、削除する前に、必ずデータベースファイルのバックアップを作成しておきます。
- 5 すべてのクラスタノードの `sys:¥system¥zenworks. properties` から `INVDATABASEPATH` キーを削除します。
- 6 すべてのクラスタノードで、`ZFD_INVENTORY_DATABASE_SERVER` キーを削除します。
すべてのクラスタノードで、`sys:¥system¥zenworks. properties` から次のセクションを削除します。

```
[Zfd_Inventory_Database_Server]Version = 6.5.0 Desktop Management product build date  
Installed_From = Product CD  
Support_Pack = 0
```

- 7 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。

Sybase コンソールプロンプトで「**mgmt dbs. ncf**」と入力します。

Sybase エンジンのアンインストール

Sybase エンジンは、他の ZENworks 製品で使用されていない場合に限り、削除することができます。

- 1 Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、まずデータベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンをアンインストールする必要があります。
- 2 Sybase コンソールプロンプトで「q」と入力して Sybase を停止します。
- 3 任意のクラスタノードで `sys:¥system¥zenworks. properties` の `DBENGINEPATH` キーの値をメモします。
- 4 データベースがデータベースサーバにマウントされているかどうかを確認します。
データベースがデータベースサーバにマウントされている場合、クラスタノードの `sys:¥system¥mgmt dbs. ncf` ファイルに `. db` エントリが含まれます。
ファイルに `. db` エントリが含まれていない場合は、すべてのクラスタノードから `mgmt dbs. ncf` を削除します。ファイルに `. db` エントリが含まれている場合は、Sybase エンジンを削除しないでください。

- 5 すべてのクラスタノードについて、クラスタロードスクリプトから mgmtlbs.ncf エントリを削除します。
- 6 アンロードスクリプトから dbsrv8.nlm を削除します。
- 7 DBENGINEPATH で指定されているディレクトリ（手順 3 で確認）を削除します。
- 8 すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks.properties から DBENGINEPATH キーを削除します。

インベントリサーバソフトウェアのアンインストール

- 1 インベントリサーバのサーバコンソールプロンプトで **StopSer *** と入力し、インベントリサービスを停止します。
- 2 NetWare インベントリサーバのコンソールプロンプトで「**java -exit**」と入力して、java.nlm をアンロードします。
- 3 いずれかのクラスタノードで、sys:¥system¥zenworks.properties の INVSrvPATH キーおよび ZWSPATH キーの値をメモします。
- 4 ZFD_INVENTORY_SERVER キーを削除します。

すべてのクラスタノードで、sys:¥system¥zenworks.properties から次のセクションを削除します。

```
[Zfd_Inventory_Server]Version = 6.5.0 Desktop Management product build date
Installed_From = Product CD
Support_Pack = 0
```

- 5 すべてのクラスタノードの *invsrvpath¥scandir* ディレクトリを削除します。
- 6 すべてのクラスタノードの *invsrvpath¥server* ディレクトリを削除します。
- 7 すべてのクラスタノードのクラスタロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
StartInv.ncf
```

- 8 アンロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
java -killzenwsinv
java -killzwexit
```

- 9 すべてのクラスタノードの sys:¥system ディレクトリから次のファイルを削除します。

```
invenv.ncf
invenvset.ncf
listser.ncf
startinv.ncf
startser.ncf
startzws.ncf
stopser.ncf
dbexport.ncf
debug.properties
stopdb.ncf
```

- 10 インベントリサーバに Policy and Distribution Services と XML プロキシサーバがインストールされていない場合は、ZWSPATH によって指定されているディレクトリを削除して、ZENworks Web Server コンポーネントを削除します。
- 10a すべてのクラスタノードのクラスタロードスクリプトから次のエントリを削除します。
 ; ZENworks Inventory Settings
 ZFS.ncf
- 10b すべてのクラスタノードの sys:%system ディレクトリから zwsstart.ncf を削除します。
- 10c すべてのクラスタノードの sys:%system%zenworks.properties から ZWSPATH キーを削除します。
- 10d `zws_volume:%zfs-startup.xml` を削除します。
- 10e `zws_volume:%zenworks%zfs.ncf` を削除します。
- 11 すべてのクラスタノードで、sys:%system%zenworks.properties ファイルから INVSrvPATH キーを削除します。

XML プロキシサーバのアンインストール

- 1 サーバコンソールのプロンプトで「**java -killzfsexit**」と入力して、java.nlm をアンロードします。
- 2 任意のクラスタノードで sys:%system%zenworks.properties の ZWSPATH の値をメモします。
- 3 すべてのクラスタノードの sys:%system%zenworks.properties から次のセクションを削除します。
 [ZfD_XML_Proxy_Server]
 Version=6.5.0 *Desktop Management product build date*
 Installed_From = Product CD
 Support_Pack = 0
- 4 すべてのクラスタノードのクラスタロードスクリプトから次のエントリを削除します。
 ; ZENworks Inventory Settings
 ZFS.ncf
- 5 すべてのクラスタノードの sys:%system ディレクトリから zwsstart.ncf を削除します。
- 6 すべてのクラスタノードで、sys:%system%zenworks.properties から、ZWSPATH ディレクトリおよび ZWSPATH エントリを削除します。
- 7 `zws_volume:%zenworks%zfs-startup.xml` ディレクトリから `zfs-startup.xml` および `zfs.ncf` を削除します。

ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール

他の製品の管理に ConsoleOne を使用している場合は、ConsoleOne 自体をアンインストールしないでください。

ConsoleOne からワークステーションインベントリスナップインのみを削除するには

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。

ConsoleOne が複数のワークステーションのインベントリサーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。

- 2 サーバまたはワークステーション上の *ConsoleOne_installation_directory*¥1.2 ディレクトリで、次の操作を行います。

- ◆ 次のファイルを削除します。

```
¥lib¥zen¥dbexport.jar
¥lib¥zen¥desktop.jar
¥lib¥zen¥zeninvmessages.jar
¥lib¥zen¥zenutility.jar
¥lib¥zen¥statuslog.jar
¥lib¥zen¥classes12.zip¥lib¥zen¥vbjapp.jar¥lib¥zen¥vbjorb.jar¥lib¥zen¥j
  dbcdrv.zip
¥snapins¥zen¥inventorysnapins.jar
¥snapins¥zen¥inventorysnapins3x.jar¥snapins¥zen¥dataexportsnapins.jar¥
  snapins¥zen¥policymigration.jar¥snapins¥zen¥workstationsnapins.jar¥s
  napins¥zen¥tracer.jar¥help¥novellserverinv.hs¥bin¥directoryrights.dl
  l¥bin¥displayrules.properties¥bin¥schemarules.properties
```

- ◆ 次のディレクトリを削除します。

```
¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory
¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory30
¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory32
¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory3x
¥reporting¥canned¥novellreporting¥zeninventory4x
```

- 3 リモート管理の ConsoleOne スナップインを同じワークステーションまたはサーバにインストールしていない場合は、次のファイルを削除します。

```
¥bin¥desktop4.exe
¥bin¥mssql.ini
¥bin¥msvp60.dll
¥bin¥ndsaccess.dll
¥bin¥oracle.ini
¥bin¥remagent.ini
¥bin¥sybase.ini
¥help¥novellzeninven.hs
¥help¥novellzenrmgt.hs ¥help¥en¥novell_zfd_inventory
¥help¥en¥novell_zfd_remotemgmt
¥lib¥zen¥desktop.jar
¥lib¥zen¥desktop3x.jar¥lib¥zen¥desktopcommonutility.jar
¥resources¥resources.jar
¥snapins¥zen¥commonsnapins.jar
```

クラスタスクリプトへの変更の適用

ここまでの節で行った変更をクラスタスクリプトに適用するには、クラスタをオフラインにした後に再度オンラインにします。

クラスタ環境におけるワークステーションインベントリの再インストール

インストールが正常に実行されなかった、または誤ってファイルを削除するなどしてデータ破損が起き、再インストールしなければデータの修復ができないなどの理由で、クラスタ環境で使用している、デスクトップ管理サービス (ZENworks 6.5 Desktop Management SP1) のワークステーションインベントリコンポーネントを再インストールすることが必要な場合があります。

重要： 再インストールでは、再びスキーマを拡張する必要はありません。

ここでは、ワークステーションインベントリコンポーネントの再インストールに焦点を絞って説明します。

- ◆ [387 ページの「ワークステーションインベントリの再インストールの準備」](#)
- ◆ [388 ページの「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)
- ◆ [388 ページの「ワークステーションインベントリの再インストールの確認」](#)

ワークステーションインベントリの再インストールの準備

- 1 ワークステーションインベントリを再インストールする必要があるサーバを識別します。
- 2 NetWare サーバコンソールのプロンプトで「**sys:¥system¥invstop.ncf**」と入力して、Inventory Service を停止します。
注： Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、**sys:¥system¥invstop.ncf** ファイルで **Unload dbsrv8.nlm** 行をコメント化します。
- 3 NetWare Sybase コンソールプロンプトで <Q> キーを押して、インベントリデータベースを停止します。
- 4 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、**java.nlm** をアンロードします (サーバコンソールで、「**java -exit**」と入力する)。
重要： このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Desktop Management を再インストールする際には、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。
- 5 再インストール先のサーバがある Novell eDirectory™ ツリーにログインします。
- 6 [371 ページの「Desktop Management コンポーネントのインストール」](#)に進みます。

ワークステーションインベントリの再インストール

ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションインベントリを以前のインストール上に再インストールする場合は、既存のポリシーおよび scandir ディレクトリが使用されます。

- ◆ 再インストールの際の [ファイルのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、ワークステーションインベントリまたはリモート管理ファイルがそのパスにインストールされます。
- ◆ 再インストールの際の [データベースのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、データベースがそのパスにインストールされます。

ワークステーションインベントリの再インストールの確認

- 1 インストールが完了したら、インストールログファイルを参照して、インストールに失敗したコンポーネントがないかどうかを確認します。
- 2 ファイルがなくなったり、壊れたりした問題を解決するために再インストールした場合は、問題が解決されていることを確認します。

C

Novell BorderManager VPN クライアントと相互運用する場合の制限

次の節では、Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management と Novell BorderManager® 3.8 VPN クライアントを同じネットワーク環境で使用する場合は制限について説明します。

内容は次の節に分かれています。

- ◆ 389 ページの「シナリオ 1: ワークステーションに Novell Client とデスクトップ管理エージェントをインストールする」
- ◆ 390 ページの「シナリオ 2: ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールする」

シナリオ 1: ワークステーションに Novell Client とデスクトップ管理エージェントをインストールする

次の環境で ZENworks 6.5 を使用する場合は制限を次の表に示します。

- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management Server は BorderManager 3.8 と同じ eDirectory® ツリーにインストールされています。
- ◆ Novell Client™ と ZENworks 6.5 デスク管理エージェントはユーザワークステーションにインストールされています。

テストされた機能	ZENworks の動作または制限
認証: ユーザが VPN ネットワークと eDirectory ツリーに同時にログインします。	<ul style="list-style-type: none">◆ システムの起動時に配布されるよう設定されたポリシーを除く、すべての ZENworks ポリシーがワークステーションに配布されます。◆ ユーザが最初にローカルワークステーションにログインし、次に VPN ネットワークにログインする場合は、エージェントのみの環境での動作および制限と同じです。詳細については、390 ページの「シナリオ 2: ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールする」を参照してください。

シナリオ 2: ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールする

次の環境で ZENworks 6.5 を使用する場合は次の表に示します。

- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management Server は BorderManager 3.8 と同じ eDirectory[®] ツリーにインストールされています。
- ◆ ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェント (Novell Client なし) はユーザワークステーションにインストールされています。

テストされた機能	ZENworks の動作または制限
認証 ユーザが VPN ネットワークと eDirectory ツリーに同時にログインします。	<ul style="list-style-type: none">◆ VPN クライアントは組み込まれません (Novell Client 環境とは異なり、ユーザは常に最初にデスクトップにログインする必要があります)。◆ NetIdentity は組み込まれません (VPN クライアントはユーザアカウント情報で NetIdentity セキュアストアを作成しません)。
Automatic Workstation Import (自動ワークステーションインポート)	<ul style="list-style-type: none">◆ ユーザが VPN クライアントを使用して認証した後に、手動での登録 (zwsreg.exe) が必要になります。◆ DNS 名 zenwsimport は、ZENworks Middle Tier Server または DNS/ホストファイルで設定できます。ただし、ユーザが Middle Tier zenwsimport 設定を使用するには、Middle Tier Server で認証される必要があります。◆ ワークステーションは LAN 上で最初に登録し、次に VPN クライアントによって接続できます。
ユーザ関連ポリシーの配布	<ul style="list-style-type: none">◆ ユーザは、VPN クライアントの起動前にワークステーションにログインする必要があるため、ダイナミックローカルユーザポリシーは失敗します。◆ iPrint ポリシーの配布がログインイベントとして、またはスケジュール済みのアクションとして設定されている場合、通常、このポリシーは配布されます。◆ 拡張可能ユーザポリシーの配布がログインイベントとして、またはスケジュール済みのアクションとして設定されている場合、通常、このポリシーは配布されます。設定の変更を有効にするために、ワークステーションの再起動が必要になる場合があります。◆ Windows グループポリシーの配布がログインイベントとして、またはスケジュール済みのアクションとして設定されている場合、通常、このポリシーは配布されます。設定の変更を有効にするために、ワークステーションの再起動が必要になる場合があります。◆ 通常、リモートコントロールポリシーは配布されます。 リモートコントロールの動作は、ワークステーションオブジェクトに保存されている、インポートされたワークステーション IP アドレスには基づきません。BorderManager 3.8 には VPN セッションに固有の IP アドレスがあり、リモートでクライアントを制御する場合はこの IP アドレスを使用する必要があります。ワークステーションオブジェクトはログインされている必要があります。

テストされた機能	ZENworks の動作または制限
ワークステーション関連ポリシーの配布	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スケジュール済みのアクションによる配布が設定されているエージェントポリシーは、通常、VPN クライアントによる認証の前にローカルでログインする必要のあるワークステーションに配布されます。設定の変更を有効にするために、ワークステーションの再起動が必要になる場合があります。 ◆ iPrint ポリシーの配布がログインイベントとして、またはスケジュール済みのアクションとして設定されている場合、通常、このポリシーは配布されます。 ◆ スケジュール済みのアクションによる配布が設定されている拡張可能ポリシーは、通常、VPN クライアントによる認証の前にローカルでログインする必要のあるワークステーションに配布されます。設定の変更を有効にするために、ワークステーションの再起動が必要になる場合があります。
Novell Application Launcher™ によるユーザ関連アプリケーションの配布	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ユーザが他の Middle Tier アプリケーション (NetStorage など) を使用してすでにログインしている場合でも、配布には、ZENworks Middle Tier Server ログインによる認証を選択する必要があります。 ◆ ZENworks Middle Tier ログイン機能による認証が完了するまで、オンライン作業とオフライン作業の切り替えが正常に機能しない場合があります。 ◆ インターネットブラウザでは Myapps.html アクセスが失敗し、GPF エラーが生成されます。通常、アプリケーションは認証後に配布されます。
<ul style="list-style-type: none"> ◆ MSI アプリケーション ◆ 単純なアプリケーション ◆ Web アプリケーション ◆ AOT/AXT 	
Novell Application Launcher によるワークステーション関連アプリケーションの配布	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Application Launcher は、ワークステーション関連アプリケーションを配布しません。 ◆ ユーザがログイン時にワークステーションオブジェクトへの認証を実行できない場合、Application Launcher Workstation Helper (zenappsws.dll) は接続されません。その一方で、Workstation Manager では VPN 接続が利用可能になってから約 60 秒後にログインが実行されます。
<ul style="list-style-type: none"> ◆ MSI アプリケーション ◆ 単純なアプリケーション ◆ Web アプリケーション ◆ AOT/AXT 	

D

バージョン情報を含むレジストリエントリ

この章では、Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management のインストールプログラムによって作成されるレジストリエントリ（ワークステーションおよびサーバ）を定義します。これらのエントリには、このリリースの製品バージョン情報が含まれています。ワークステーションインベントリスキャナソフトウェアは、これらのエントリを使用して、インストール済みのデスクトップ管理コンポーネントおよびバージョンを判断し、レポートします。Novell サポートに問い合わせる必要がある場合は、このバージョン情報をサポート技術者に伝えることにより、発生している問題の理解および解決に役立てることができます。

この章では、次の内容について説明します。

- ◆ 393 ページの「Windows ワークステーション上で提供されるバージョン情報」
- ◆ 396 ページの「Windows サーバ上で提供されるバージョン情報」
- ◆ 400 ページの「NetWare サーバ上で提供されるバージョン情報」

注：レジストリ内でのビルド日付の形式は *ymmd* です。

Windows ワークステーション上で提供されるバージョン情報

この節のレジストリ情報では、Windows ワークステーション上で次のインストール済み ZENworks エージェントに対して提供される、レジストリデータに従って構成されています。

- ◆ 393 ページの「ワークステーションにインストール済みの ZENworks デスクトップ管理エージェント」
- ◆ 394 ページの「Windows ワークステーション上のインベントリエージェント」
- ◆ 394 ページの「Windows ワークステーション上のリモート管理エージェント」
- ◆ 395 ページの「Windows ワークステーション上のアプリケーション管理エージェント」
- ◆ 395 ページの「Windows ワークステーション上のイメージングエージェント」
- ◆ 395 ページの「Windows ワークステーション上の Workstation Manager エージェント」

ワークステーションにインストール済みの ZENworks デスクトップ管理エージェント

いずれかの ZENworks 6.5 デスクトップ管理エージェントがワークステーションにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Display Name	ZENworks Desktop Management Agent (ZENworks デスクトップ管理エージェント)
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥InstallPath	インストールパス - インストールルート ディレクトリ 例 C:¥program files¥novell¥zenworks
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Language	言語 ID 例 1033 (英語の場合)
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥ProductGUID	MSI 製品 GUID

Windows ワークステーション上のインベントリエージェント

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリエージェントがインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Inventory¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Inventory¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Inventory¥Display Name	デスクトップ管理インベントリエージェント
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Inventory¥InstallPath	インストールパス

Windows ワークステーション上のリモート管理エージェント

ZENworks 6.5 Desktop Management リモート管理エージェントがインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Remote Management¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Remote Management¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Remote Management¥Display Name	ZENworks Desktop Management リモート管理エージェント
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Remote Management¥InstallPath	インストールパス

Windows ワークステーション上のアプリケーション管理エージェント

ZENworks 6.5 Desktop Management アプリケーション管理エージェントがインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Application Management¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Application Management¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Application Management¥Display Name	ZDM アプリケーション管理エージェント
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Application Management¥InstallPath	インストールパス

Windows ワークステーション上のイメージングエージェント

ZENworks 6.5 Desktop Management イメージングエージェントがインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Imaging¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Imaging¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Imaging¥Display Name	ZDM イメージングエージェント
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Imaging¥InstallPath	インストールパス

Windows ワークステーション上の Workstation Manager エージェント

ZENworks 6.5 Desktop Management Workstation Manager エージェントがインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Workstation Manager¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Workstation Manager¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Workstation Manager¥Display Name	ZDM Workstation Manager エージェント
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Agent¥Workstation Manager¥InstallPath	インストールパス

Windows サーバ上で提供されるバージョン情報

この節のレジストリ情報では、次のようなインストール済み ZENworks サーバに関して、Windows サーバ上で提供されるレジストリデータが一覧表示されています。

- ◆ 396 ページの「Windows サーバにインストール済みの ZENworks Desktop Management サーバコンポーネント」
- ◆ 397 ページの「Windows サーバ上のアプリケーション管理サーバコンポーネント」
- ◆ 397 ページの「Windows サーバ上のリモート管理サーバコンポーネント」
- ◆ 397 ページの「Windows サーバ上の NAL データベースサーバコンポーネント」
- ◆ 398 ページの「Windows サーバ上のインベントリデータベースサーバコンポーネント」
- ◆ 398 ページの「Windows サーバ上のインベントリサーバコンポーネント」
- ◆ 398 ページの「Windows サーバ上のインベントリ (XML) プロキシサーバコンポーネント」
- ◆ 399 ページの「Windows サーバ上のイメージングサーバコンポーネント」
- ◆ 399 ページの「Windows サーバ上の起動前サービスサーバコンポーネント」
- ◆ 399 ページの「Windowsサーバ上のワークステーションのインポート/削除サーバコンポーネント」
- ◆ 400 ページの「Windows サーバ上の ZENworks Middle Tier サーバ」

Windows サーバにインストール済みの ZENworks Desktop Management サーバコンポーネント

いずれかの ZENworks 6.5 Desktop Management サーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みの場合にすべての ZENworks 6.5 Desktop Management サーバコンポーネントによって使用されるレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Langauge	言語 ID 例 1033 (英語の場合)
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Version	6.5. ビルド. リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Support Pack	0

Windows サーバ上のアプリケーション管理サーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management アプリケーション管理サーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥App Management Server¥Version	6.5. ビルド. リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥App Management Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥App Management Server¥Display Name	ZENworks アプリケーション管理サーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥App Management Server¥Install Path	インストールパス

Windows サーバ上のリモート管理サーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management リモート管理サーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Remote Management Server¥Version	6.5. ビルド. リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Remote Management Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Remote Management Server¥Display Name	ZENworks Desktop Management リモート管理サーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥RMPPath	インストールパス

Windows サーバ上の NAL データベースサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management NAL データベースサーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥NAL Database Server¥Version	6.5. ビルド. リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥NAL Database Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥NAL Database Server¥Display Name	ZDM NAL データベースサーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥NALDBPath	インストールパス

Windows サーバ上のインベントリデータベースサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリデータベースサーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Database Server¥Version	6.5. ビルド. リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Database Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Database Server¥Display Name	ZDM インベントリデータベースサーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥InvDBPath	インストールパス

Windows サーバ上のインベントリサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Server¥Version	6.5. ビルド. リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Server¥Display Name	ZDM インベントリサーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥InvSrvPath	インストールパス

Windows サーバ上のインベントリ (XML) プロキシサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリ (XML) プロキシサーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥XMLProxy Server¥Version	6.5. ビルド. リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥XMLProxy Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥XMLProxy Server¥Display Name	ZDM XML プロキシサーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZWSPPath	インストールパス

Windows サーバ上のイメージングサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management イメージングサーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Imaging Server¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Imaging Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Imaging Server¥Display Name	ZENworks イメージングサーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Imaging Server¥Install Path	インストールパス

Windows サーバ上の起動前サービスサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management 起動前サービス (PXE) サーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥PXE Server¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥PXE Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥PXE Server¥Display Name	ZENworks PXE サーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥PXE Server¥Install Path	インストールパス

Windows サーバ上のワークステーションのインポート / 削除サーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management インポート / 削除サーバコンポーネントが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Workstation Import Server¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Workstation Import Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Workstation Import Server¥Display Name	ZENworks ワークステーションインポートサーバ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Workstation Import Server¥Install Path	インストールパス

Windows サーバ上の ZENworks Middle Tier サーバ

ZENworks 6.5 Middle Tier サーバが Windows サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Middle Tier Server¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Middle Tier Server¥Support Pack	0
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Middle Tier Server¥Display Name	ZENworks Middle Tier Server
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Middle Tier Server¥InstallPath	インストールパス

NetWare サーバ上で提供されるバージョン情報

この節のレジストリ情報では、次のようなインストール済み ZENworks サーバに関して、NetWare® サーバ上で提供されるレジストリデータが一覧表示されています。

- ◆ 400 ページの「NetWare サーバにインストール済みの ZENworks Desktop Management サーバコンポーネント」
- ◆ 401 ページの「NetWare 上のアプリケーション管理サーバコンポーネント」
- ◆ 401 ページの「NetWare 上のリモート管理サーバコンポーネント」
- ◆ 401 ページの「NetWare 上の NAL データベースサーバコンポーネント」
- ◆ 402 ページの「NetWare 上のインベントリデータベースサーバコンポーネント」
- ◆ 402 ページの「NetWare 上のインベントリサーバコンポーネント」
- ◆ 402 ページの「NetWare 上のインベントリ (XML) プロキシサーバコンポーネント」
- ◆ 403 ページの「NetWare 上のイメージングサーバコンポーネント」
- ◆ 403 ページの「NetWare 上の起動前サービスサーバコンポーネント」
- ◆ 403 ページの「NetWare 上のワークステーションのインポート/削除サーバコンポーネント」
- ◆ 404 ページの「NetWare 上の ZENworks Middle Tier サーバ」

NetWare サーバにインストール済みの ZENworks Desktop Management サーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management サーバが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Language	言語 ID 例 1033 (英語の場合)
Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
Software¥Novell¥ZENworks¥ZfD¥Support Pack	0

NetWare 上のアプリケーション管理サーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management アプリケーション管理サーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software\Novell\ZENworks\Zfd\App Management Server\Version	6.5. ビルド. リビジョン
Software\Novell\ZENworks\Zfd\App Management Server\Support Pack	0
Software\Novell\ZENworks\Zfd\App Management Server\Display Name	ZENworks アプリケーション管理サーバ
Software\Novell\ZENworks\Zfd\App Management Server\InstallPath	インストールパス

NetWare 上のリモート管理サーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management リモート管理サーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Remote Management Server\Version	6.5. ビルド. リビジョン
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Remote Management Server\Support Pack	0
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Remote Management Server\Display Name	ZENworks Desktop Management リモート管理サーバ
Software\Novell\ZENworks\Zfd\RMPath	インストールパス

NetWare 上の NAL データベースサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management NAL データベースサーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software\Novell\ZENworks\Zfd\NAL Database Server\Version	6.5. ビルド. リビジョン
Software\Novell\ZENworks\Zfd\NAL Database Server\Support Pack	0
Software\Novell\ZENworks\Zfd\NAL Database Server\Display Name	ZDM NAL データベースサーバ
Software\Novell\ZENworks\Zfd\NALDBPath	インストールパス

NetWare 上のインベントリデータベースサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリデータベースサーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Database Server¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Database Server¥Support Pack	0
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Database Server¥Display Name	ZDM インベントリデータベースサーバ
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥InvDBPath	インストールパス

NetWare 上のインベントリサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Server¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Server¥Support Pack	0
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥Inventory Server¥Display Name	ZDM インベントリサーバ
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥InvSrvPath	インストールパス

NetWare 上のインベントリ (XML) プロキシサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥XMLProxy Server¥Version	6.5. ビルド、リビジョン
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥XMLProxy Server¥Support Pack	0
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥XMLProxy Server¥Display Name	ZDM XML プロキシサーバ
Software¥Novell¥ZENworks¥Zfd¥ZWSPath	インストールパス

NetWare 上のイメージングサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management イメージングサーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Imaging Server\Version	6.5. ビルド、リビジョン
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Imaging Server\Support Pack	0
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Imaging Server\Display Name	ZENworks イメージングサーバ
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Imaging Server\InstallPath	インストールパス

NetWare 上の起動前サービスサーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management 起動前サービスサーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software\Novell\ZENworks\Zfd\ PXE Server\Version	6.5. ビルド、リビジョン
Software\Novell\ZENworks\Zfd\ PXE Server\Support Pack	0
Software\Novell\ZENworks\Zfd\ PXE Server\Display Name	ZENworks PXE サーバ
Software\Novell\ZENworks\Zfd\ PXE Server\InstallPath	インストールパス

NetWare 上のワークステーションのインポート / 削除サーバコンポーネント

ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションのインポート / 削除サーバコンポーネントが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Workstation Import Server\Version	6.5. ビルド、リビジョン
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Workstation Import Server\Support Pack	0
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Workstation Import Server\Display Name	ZENworks ワークステーションインポートサーバ
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Workstation Import Server\InstallPath	インストールパス

NetWare 上の ZENworks Middle Tier サーバ

ZENworks 6.5 Middle Tier サーバが NetWare サーバにインストール済みであることを示すレジストリキーおよび値を、次の表に示します。

レジストリキー	値
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Middle Tier Server\Version	6.5. ビルド、リビジョン
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Middle Tier Server\Support Pack	0
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Middle Tier Server\Display Name	ZENworks Middle Tier Server
Software\Novell\ZENworks\Zfd\Middle Tier Server\InstallPath	インストールパス

E

インストールに関するエラーメッセージ

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management コンポーネントのインストール時に、ZENworks Desktop Management コンポーネントを正常にインストールできない場合は、エラーメッセージが表示されることがあります。この節では、ZENworks Desktop Management コンポーネントのインストール時に表示されるすべてのエラーメッセージについて説明します。

インストールする ZENworks Desktop Management コンポーネントを選択してください。

- ◆ 405 ページの「Remote Management のインストールエラー」
- ◆ 409 ページの「ワークステーションインベントリのインストールエラー」

Remote Management のインストールエラー

次の各節では、リモート管理コンポーネントのインストールに関連するエラーメッセージについて詳しく説明します。

- 1110: サーバ *server_name* に Wake-on-LAN 設定プロパティファイルを作成できません
- 1111: Unable to create the filename file on the server *server_name*
- 1112: WOLENVSET.NCF ファイルをサーバ *server_name* に作成できません
- 1113: サーバ *server_name* の Wake-on-Lan サービスオブジェクトを作成できません
- 1114: サーバ *server_name* の Wake-on-Lan サービスオブジェクトを変更できません
- 1116: サーバ *server_name* 上のリモート管理コンポーネントのインストール先パスが無効です
- 1117: Windows NT/Windows 2000/Windows Server 2003 *server_name* 上でサービスとして Wake-on-LAN を作成できません
- 1118: サーバ *server_name* で Query.properties を作成できません
- 1126: STARTWOL.NCF エントリをファイル *filename* (サーバ *server_name* 上) に追加できません
- 1127: STOPWOL.NCF エントリをファイル *filename* (サーバ *server_name* 上) に追加できません
- 1134: サーバ *server_name* 上のリモート管理サーバのインストール先パスを設定できません

1110: サーバ *server_name* に Wake-on-LAN 設定プロパティファイルを作成できません

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリで *RemoteManagement_installationpath\zenworks\remmgmt\server\properties\wolconfig.properties* ファイルを作成します。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name
SingletonPort=65434
LDAPServer=DNS_name_or_IPaddress_of_the_Wake_on_LAN_server
LDAPPort=LDAP_port_number
```

このエラーは、インストールプログラムが config.properties ファイルを作成できなかったときに発生します。その結果、インベントリサービスが有効になりません。

可能な起因： wolconfig.properties ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) wolconfig.properties が存在しない場合は、このファイルを *RemoteManagement_installationpath\%zenworks%\remmgmt\%server%\properties* ディレクトリに手動で作成します。

- 2 次のエントリを追加します。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name
SingletonPort=65434
LDAPServer=DNS_name_or_IPaddress_of_the_Wake_on_LAN_server
LDAPPort=LDAP_port_number
```

1111: Unable to create the *filename* file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、サーバ上の *install_path\%zenworks%\remmgmt\%server%\bin\%wolsetenv.ini* ファイルにエントリを追加します。

可能な起因： ファイルをコピーしているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1112: WOLENVSET.NCF ファイルをサーバ *server_name* に作成できません

ソース： ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、NetWare® リモート管理サーバ上に *sys:\system\wolenvset.ncf* ファイルを作成します。envset wol_install_dir = Remotemanagement_server_install_path が追加されました。リモート管理サーバのインストールパスは、*sys:\system\%zenworks.properties* ディレクトリの RMPATH キーから取得できます。

可能な起因： ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) wolenvset.ncf ファイルが *sys:\system* ディレクトリに存在しない場合は、このファイルを作成します。

- 2 次のエントリを追加します。

```
envset wol_install_dir = Remotemanagement_server_installation_path
```

1113: サーバ *server_name* の Wake-on-Lan サービスオブジェクトを作成できません

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムで、サーバの Wake-on-LAN サービスオブジェクトの作成に失敗しました。

解決法: ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://www.support.novell.com>) にお問い合わせください。

1114: サーバ *server_name* の Wake-on-Lan サービスオブジェクトを変更できません

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムでサーバの Wake-on-LAN サービスオブジェクトを修正できませんでした。

解決法: ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://www.support.novell.com>) にお問い合わせください。

1116: サーバ *server_name* 上のリモート管理コンポーネントのインストール先パスが無効です

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムでリモート管理インストールディレクトリのパスを取得できませんでした。

解決法: リモート管理のインストールを実行しているコンソールから、管理者権限でサーバにログインしているかどうかを確認します。

解決法: ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://www.support.novell.com>) にお問い合わせください。

1117: Windows NT/Windows 2000/Windows Server 2003 *server_name* 上でサービスとして Wake-on-LAN を作成できません

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度: 重大

可能な起因: インストールプログラムは、Windows* 2000/2003 サーバに Wake-on-LAN Service を作成します。この問題は、Wake-on-LAN Service が作成されていない場合に発生します。

解決法： ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://www.support.novell.com>) にお問い合わせください。

1118: サーバ *server_name* で Query.properties を作成できません

ソース： ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、*consoleOne_path\bin* ディレクトリに query.properties ファイルを作成します。このファイルが存在しない場合は、リモート管理のインストール用に *rmver=both* エントリが追加されます。ZENworks 6.5 Server Management のリモート管理コンポーネント上に ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントをインストールする場合は、query.properties がすでに存在しています。

可能な起因： query.properties ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： *rmver=both* エントリを含むように query.properties ファイルを修正します。

1126: STARTWOL.NCF エントリをファイル *filename*(サーバ *server_name* 上) に追加できません

ソース： ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムで次の WOL エントリを *zfdstart.ncf* ファイルに書き込むことができませんでした。

```
;ZENWORKS WAKEONLAN SETTINGS
startwol.ncf
```

可能な起因： *zfdstart.ncf* ファイルへの書き込みを行っているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： *sys:%system* ディレクトリの *zfdstart.ncf* ファイルに次のエントリを追加します。

```
;ZENWORKS WAKEONLAN SETTINGS
startwol.ncf
```

1127: STOPWOL.NCF エントリをファイル *filename*(サーバ *server_name* 上) に追加できません

ソース： ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムで次の WOL エントリを *zfdstop.ncf* ファイルに書き込むことができませんでした。

```
;STOP ZENWORKS WAKEONLAN SERVICES
stopwol.ncf
```

可能な起因： *zfdstop.ncf* ファイルへの書き込みを行っているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： *sys:%system* ディレクトリの *zfdstop.ncf* ファイルに次のエントリを追加します。

```
;STOP ZENWORKS WAKEONLAN SERVICES
stopwol.ncf
```

1134: サーバ *server_name* 上のリモート管理サーバのインストール先パスを設定できません

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

問題の重要度: 重大

説明: リモート管理のインストールでは、レジストリキー
hkey_local_machine¥software¥novell¥zenworks¥rmpath を
RemoteManagement_install_path¥remgmt の値で更新します。

解決法: ZENworks 6.5 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://www.support.novell.com>) にお問い合わせください。

ワークステーションインベントリのインストールエラー

ワークステーションインベントリコンポーネントのインストールに失敗した場合、インストールプログラムは次のいずれかのエラーメッセージを
c:¥novell¥zfdtemp¥pldebuglogs.txt ファイルに記録します。

- 801: インストールプログラムは filename(サーバ *server_name*) 上の名前を変更できませんでした。filename は使用されている可能性があります。
- 804: Startinv.ncf エントリを filename ファイル(サーバ *server_name* 上)に追加できません
- 807: Unable to assign rights to the SCANDIR directory on server *server_name*
- 812: Unable to create the password for the Service object
Inventory_Service_object_name
- 813: Unable to get the volumes on the server *server_name*
- 814: An internal error occurred while getting the volumes on the server
server_name
- 817: An internal error occurred while creating rights for the scandir directory
on the server *server_name*
- 819: Unable to create the configuration property file on the server *server_name*
- 826: Unable to load the mgmt dbs.ncf file on the server *server_name*
- 831: サーバ *server_name* 上の sys¥system¥autoexec.ncf ファイルに mgmt dbs.ncf エントリを追加できません
- 836: インストールプログラムにより新しい MGMTDBS.NCF ファイルが作成されます。
The installation program was unable to rename the existing mgmt dbs.ncf file
on the server *server_name*. Rename mgmt dbs.ncf before proceeding with the
installation
- 837: Unable to create the TracerMedia property file on the server *server_name*
- 874: Unable to create the Service Manager as a service on Windows NT/ Windows
2000/ Windows Server 2003 *server_name*
- 875: サーバ *server_name* でデータベースがインストールされている共有ディレクトリ
のパスを取得できません
- 876: Unable to create the Sybase service on the Windows NT/ Windows 2000/
Windows Server 2003 *server_name*
- 887: An internal error occurred while creating the database object *object_name*
on the server *server_name*
- 1051: サーバ *server_name* 上の javadir.bat に JRE パスを書き込みません

1052: Unable to create the filename file on the server server_name
1053: 共有 share_name のパスをサーバ server_name 上で取得できません
1060: Unable to add the STOPSER * entry in the filename file for the server server_name
1061: UNLOAD DBSRV8.NLM エントリを filename(サーバ server_name 上) に追加できません
1066: Unable to assign public rights to ODBC parameters of the Database object database_object_name
1071: Input-output error occurred while modifying the existing mgmtlbs.ncf for the server server_name
1080: サーバ server_name のインベントリサービスオブジェクトを作成できません
1081: Unable to assign supervisor privileges to the Service object service_object_name
1082: NCP サーバ server_name のトラスティとしてインベントリサービスオブジェクトを割り当てることができません
1084: Unable to initialize zwinstal.dll
1087: Unable to detect the operating system of the workstation where install is running
1088: An internal error occurred while checking for entry in file filename on the server server_name
1091: Unable to create the zwssrv.ncf file on the server server_name
1092: Unable to append entries to the zwssrv.cfg file on the server server_name
1093: Unable to append entries to the zws.properties file on the server server_name
1094: サーバ server_name のインベントリサービスオブジェクトを変更できません
1095: Unable to create the invenvset.ncf file on the server server_name
1097: サーバ server_name で MGMTDBS.NCF の変更失敗しました
1098: サーバ server_name で MGMTDBS.NCF の作成に失敗しました
1102: サーバ server_name でインベントリのインストール先パスを設定できません
1104: サーバ server_name で ZENworks Web Server のインストール先パスを設定できません
1105: An input-output error occurred while reading the zenworks.properties file, for the server server_name. The previous installations of the Inventory server could not be detected
1106: サーバ server_name で有効なデータベースのインストールを検出できません
1107: サーバ server_name 上のインベントリコンポーネントのインストール先パスが無効です
1118: Unable to create query.properties on the server server_name
1121: データベースオブジェクト名を old_database_object_name から new_database_object_name に変更できません (サーバ server_name 上)
1122: Unable to modify the database object on the server server_name
1123: Failed to update load and unload scripts on the server server_name
1124: サーバ server_name で autoexec.ncf ファイルから古いインベントリエントリを削除できません
1125: Unable to create the database object database_object_name on the server server_name
1128: Zenworks Web Server エントリをファイル filename(サーバ server_name 上) に追加できません

1129: Unable to set the ZENworks installation path on server server_name
1130: サーバ server_name 上のデータベースエンジンのインストール先パスを設定できません
1131: サーバ server_name 上のインベントリデータベースのインストール先パスを設定できません
1132: サーバ server_name 上の Novell Application Launcher データベースのインストール先パスを設定できません
1135: サーバ server_name 上の XML プロキシコンポーネントのインストール先パスが無効です
1137: Unable to add Inventory entries to the load script on the server server_name
1138: Unable to add Inventory entries to the unload script on the server server_name
1139: Unable to add database entries to the load script on the server server_name
1140: Unable to add database entries to the unload script on the server server_name
1143: Unable to retrieve the path where Inventory was installed for server server_name
1148: Unable to create ZENworks Web Server as a service on Windows NT/2000 server server_name
1149: Unable to add the ZENworks Web Server path to invenvset.bat on the server server_name
1149: Unable to add the ZENworks Web Server path to invenvset.bat on the server server_name
1150: Unable to add ZENworks Web Server entry to the load script on server_name
1151: Unable to add ZENworks Web Server entry to the unload script on server_name
1153: Unable to add Inventory entries to the password.txt file on the server server_name
1154: Unable to add the password.txt file path entry to zws.properties file on the server server_name
1159: entry エントリをファイル filename (サーバ server_name 上) に追加できません
1160: entry1 を entry2 に置換できません (ファイル filename 内)
1161: サーバ server_name でポリシーサービスと配布サービスの以前のインストールが検出されました。インストールではインベントリサービスを自動的に開始できません。ポリシーサービスと配布サービスを開始した後、インベントリサービスを開始してください
1162: サーバ server_name でインベントリサーバの不完全なインストールが検出されました。インベントリサーバを再インストールしてください
1163: Unable to start the ZENworks Web Server on server server_name. 詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください
1164: サーバ server_name でインベントリサービスを開始できません。詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください
1166: Unable to create zwssearch.ncf file on the server server_name
1167: Unable to add a search path to the ZENworks Web Server on server server_name

1168: サーバ `server_name` 上のレジストリにバージョン情報を書き込めません
 1169: ファイル `filename` (サーバ `server_name` 上) から以前のインベントリエントリを削除できません
 1170: Unable to add entries to the zenworks.properties file, on server `server_name`
 1171: Unable to add the ZENworks Web Server entries to the file `filename`, on the server `server_name`
 2701: サーバ `server_name` 上に ZWSSTART.NCF ファイルを作成できません
 2702: サーバ `server_name` 上のロードスクリプトからエントリを削除できません
 2703: Unable to remove the entries from the unload script on server `server_name`
 2704: Unable to append entries to zws.ncf file on the server `server_name`
 2707: Unable to create dbconfig.properties file on the server `server_name`
 2708: Unable to assign rights to the directory `directory_name` on server `server_name`
 インストール先パスが長すぎます。
`share_name` 共有を `server_name` (`directory_path`) に作成できません

**801: インストールプログラムは `filename` (サーバ `server_name`) 上の名前を変更できませんでした。
`filename` は使用されている可能性があります。**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare® サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 情報

説明: インストールプログラムでコンピュータ上に以前のインストールが検出されると、ファイルの名前が変更されます。このエラーは、インストールプログラムがファイルの名前を変更できないときに発生します。

解決法: 必要な操作はありません。ファイル名を変更せずにインストールプログラムの処理が続行します。

804: Startinv.ncf エントリを `filename` ファイル (サーバ `server_name` 上) に追加できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: NetWare サーバでは、インストールプログラムが Inventory サーバの `sys:¥system¥autoexec.ncf` ファイルに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD ZEN_web_server_installation_path
zws.ncf
SEARCH ADD sys:¥java¥njclv2¥bin
;ZENworks Inventory Settings
startinv.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリを `autoexec.ncf` ファイルに追加できないときに発生します。

可能な起因: 他のアプリケーションが `autoexec.ncf` ファイルを使用またはロックしているか、`autoexec.ncf` ファイルが存在しません。

解決法： 次の手順を実行します。

1 (条件付き) autoexec.ncf ファイルが存在しない場合は、sys:¥system ディレクトリに手動で autoexec.ncf ファイルを作成します。

2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD ZEN_web_server_installation_path
zws.ncf
SEARCH ADD sys:¥java¥njclv2¥bin
;ZENworks Inventory Settings
startinv.ncf
```

807: Unable to assign rights to the SCANDIR directory on server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが scandir ディレクトリにアクセス権を割り当てることができませんでした。

可能な起因： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインします。詳細については、

可能な起因： インストールプログラムが、Windows ワークステーションまたはサーバから実行されていません。

解決法： Windows ワークステーションまたはサーバに推奨されるワークステーションインストール要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[47 ページの「ユーザーワークステーションの要件」](#)を参照してください。

解決法： ネットワークが稼動していることを確認します。

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

812: Unable to create the password for the Service object *Inventory_Service_object_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

813: Unable to get the volumes on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重要

説明: サーバにすでに Sybase* がインストールされている場合、インストールプログラムは指定したサーバのボリュームを表示します。このエラーは、インストールプログラムがボリュームを表示できないときに発生します。

解決法: 必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

814: An internal error occurred while getting the volumes on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重要

説明: サーバにすでに Sybase がインストールされている場合、インストールプログラムは指定したサーバのボリュームを表示します。このエラーは、インストールプログラムがボリュームを表示できない場合に発生します。

解決法: 必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

817: An internal error occurred while creating rights for the scandir directory on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、scandir ディレクトリのトラスティとして [ルート] を割り当て、作成権限、削除権限、および書き込み権限を与えます。このエラーは、インストールプログラムがこれらの権利を scandir に割り当てることができなかったときに発生します。

解決法: 管理者権限またはそれと同等の権限でサーバにログインしていることを確認します。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

819: Unable to create the configuration property file on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリで `Inventoryserver_installationpath¥zenworks¥inv¥server¥wminv¥properties¥config.properties` ファイルを作成します。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name
InventoryServiceDN=DN_of_Inventory_Service_object
SingletonPort=65433
StoreRolledupAuditData=false
LDAPServer=DNS_name_of_the_Inventory_server
LDAPPort=LDAP_port_number
```

このエラーは、インストールプログラムが config.properties ファイルを作成できなかったときに発生します。その結果、インベントリサービスが有効になりません。

可能な起因： config.properties ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) config.properties が存在しない場合は、このファイルを `Inventoryserver_installationpath\%zenworks%\inv\server\%wminv\properties` ディレクトリに作成します。

- 2 次のエントリを追加します。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name
InventoryServiceDN=DN_of_Inventory_Service_object
SingletonPort=65433
StoreRolledupAuditData=false
LDAPServer=DNS_name_of_the_Inventory_server
LDAPPort=LDAP_port_number
```

826: Unable to load the mgmt dbs.ncf file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重要

説明： インストールプログラムが、インストール後に Sybase を起動できません。

解決法： mgmt dbs.ncf ファイルを手動でロードするには、NetWare のコンソールプロンプトで `sys:%system%mgmt dbs.ncf` と入力します。

831: サーバ *server_name* 上の `sys%system%autoexec.ncf` ファイルに mgmt dbs.ncf エントリを追加できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 他のアプリケーションが autoexec.ncf ファイルをロックしているか、autoexec.ncf ファイルが存在しません。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) autoexec.ncf ファイルが存在しない場合は、`sys:%system` ディレクトリに autoexec.ncf ファイルを作成します。

- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
;ZENworks Database Settings
sys:%system%mgmt dbs.ncf
```

836: インストールプログラムにより新しいMGMTDBS.NCFファイルが作成されます。The installation program was unable to rename the existing mgmt dbs.ncf file on the server *server_name*. Rename mgmt dbs.ncf before proceeding with the installation

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、mgmt dbs.ncf ファイルに変更を加える前に、このファイルのバックアップを試みます。このエラーは、バックアップに失敗したときに発生します。

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

837: Unable to create the TracerMedia property file on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、tracermedia.properties ファイルを *Inventory_server_installaton_path\zenworks\inv\server\wminv* properties ディレクトリに作成します。このエラーは、インストールプログラムがこのファイルの作成に失敗したときに発生します。

可能な起因: tracermedia.properties ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: 次の内容で *Inventory_server_installaton_path\zenworks\inv\server\wminv* properties ディレクトリに tracermedia.properties ファイルを作成します。

```
com.novell.utility.trace.TraceMediumConsole = ON; INFORMATION
```

```
com.novell.utility.trace.TraceMediumFile = ON; ALL; Inventory_server_logs_path
```

```
com.novell.utility.trace.TraceMediumWindow = OFF; VERBOSE
```

874: Unable to create the Service Manager as a service on Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、Windows インベントリサーバ上のサービスとしてサービスマネージャを作成します。このエラーは、このインストールに失敗した場合に発生します。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

875: サーバ *server_name* でデータベースがインストールされている共有ディレクトリのパスを取得できません

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

可能な起因: 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法: 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインします。

876: Unable to create the Sybase service on the Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

887: An internal error occurred while creating the database object *object_name* on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、Sybase の Database オブジェクトを作成し、このオブジェクトのプロパティを設定します。このエラーは、インストールプログラムがこのオブジェクトを作成できないときに発生します。

解決法: [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1051: サーバ *server_name* 上の javadir.bat に JRE パスを書き込めません

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、javadir.bat ファイルを次のエントリで *Inventory_server_installation_directory¥zenworks¥server¥wminv¥bin* ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path¥Inv¥jre
```

このエラーは、インストールプログラムが javadir.bat ファイルを指定した内容で作成できなかったときに発生します。

解決法: javadir.bat ファイルを次のエントリで *Inventory_server_installation_directory¥zenworks¥server¥wminv¥bin* ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path¥Inv¥jre
```

1052: Unable to create the *filename* file on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、javadir.bat ファイルを次のエントリで *Inventory_server_installation_path*¥zenworks¥server¥wminv¥bin ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path¥Inv¥jre
```

このエラーは、インストールプログラムが javadir.bat ファイルを作成できないときに発生します。

可能な起因: javadir.bat ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: javadir.bat ファイルを次のエントリで *Inventory_server_installation_path*¥zenworks¥server¥wminv¥bin ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path¥Inv¥jre
```

1053: 共有 *share_name* のパスをサーバ *server_name* 上で取得できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリ、インベントリデータベース、またはプロキシサービスのインストール

問題の重要度: 重大

可能な起因: コンポーネントがインストールされているパスの取得中にエラーが発生しました。

解決法: 管理者権限またはそれと同等の権限でサーバにログインしていることを確認します。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

1060: Unable to add the STOPSER * entry in the *filename* file for the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、invstop.ncf ファイルにエントリを追加してインベントリサービスを停止することができませんでした。

可能な起因: invstop.ncf ファイルにエントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) invstop.ncf ファイルが存在しない場合は、sys:¥system ディレクトリに invstop.ncf ファイルを作成します。

- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
; ZENworks Inventory Settings
```

```
;-----Stop Inventory services and the Inventory database-----
```

```
StopSer *
```

重要: invstop.ncf がすでに存在する場合は、データベースエントリ unload dbsrv8.nlm の前に指定されたエントリを追加してください。

1061: UNLOAD DBSRV8.NLM エントリを *filename*(サーバ *server_name* 上) に追加できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、invstop.ncf ファイルにエントリを追加して Sybase データベースを停止することができません。

可能な起因: invstop.ncf ファイルにエントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: sys:¥system¥invstop.ncf ファイルに次のエントリを追加します。
;ZENworks Database Settings
Unload dbsrv8.nlm

1066: Unable to assign public rights to ODBC parameters of the Database object *database_object_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 警告

説明: データベースオブジェクトの設定中に内部エラーが発生しました。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 ConsoleOne[®] で、データベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [NDS の権利] > [このオブジェクトのトラスティ割り当て] > [トラスティの追加] の順にクリックします。
- 3 [Public] を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [プロパティの追加] > [zendbODBCConnectionParameters] > [OK] の順にクリックします。
- 5 [プロパティの追加] > [zendbODBCDriverFileName] > [OK] の順にクリックします。
- 6 [プロパティの追加] > [zendbODBCDataSourceName] > [OK] の順にクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [Apply] > [Close] の順にクリックします。

1071: Input-output error occurred while modifying the existing mgmtlbs.ncf for the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムが、既存の mgmtlbs.ncf ファイルを修正できません。

可能な起因: 既存の mgmtlbs.ncf ファイルを変更しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

- 解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。
- 解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1080: サーバ *server_name* のインベントリサービスオブジェクトを作成できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、サーバのインベントリサービスオブジェクトを作成できません。

解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1081: Unable to assign supervisor privileges to the Service object *service_object_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、スーパーバイザ権利によるそれ自体へのエントリ権限をインベントリサービスオブジェクトに割り当てられません。

解決法： インベントリサービスオブジェクトにスーパーバイザ権を割り当てます。

- 1 ConsoleOne で Inventory Service オブジェクトを右クリックし、[Trustees of this Object] をクリックします。
- 2 [Add Trustee] ボタンをクリックし、[Inventory Service] オブジェクトを選択します。
- 3 [Property] リストから [Entry Rights] を選択します。
- 4 [Rights] リストの [Supervisor] チェックボックスをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [Apply] > [Close] の順にクリックします。

1082: NCP サーバ *server_name* のトラスティとしてインベントリサービスオブジェクトを割り当てることができません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： Inventory Service オブジェクトは、[All Attribute Rights] の読み取りおよび比較権限を持つ、NCP サーバのトラスティに設定されています。

解決法： Inventory Service オブジェクトを NCP サーバのトラスティとして割り当てます。

- 1 ConsoleOne で NCP サーバオブジェクトを右クリックし、[Trustees of this Object] をクリックします。
- 2 [Add Trustee] ボタンを追加します。
- 3 Inventory Service オブジェクトを選択します。
- 4 [Property] リストから [All Attributes Rights] を選択します。
- 5 [Rights] リストの [Read] および [Compare] チェックボックスをクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [Apply] > [Close] の順にクリックします。

1084: Unable to initialize zwinstal.dll

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1087: Unable to detect the operating system of the workstation where install is running

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： ZENworks 6.5 インストールプログラムで、インストールプログラムが実行されているワークステーションのオペレーティングシステムを検出できません。

解決法： Windows ワークステーションに推奨されるワークステーションインストール要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[6 章 47 ページの「ユーザワークステーションの要件」](#)を参照してください。

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1088: An internal error occurred while checking for *entry* in file *filename* on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

- 解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。
- 解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1091: Unable to create the zwsenv.ncf file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、zwsenv.ncf ファイルを次のエントリで zws ディレクトリに作成します。

```
envset zwsinstallpath=ZENworks_Web_Server_installation_path
```

このエラーは、インストールプログラムが zwsenv.ncf ファイルを zws ディレクトリに作成できなかったときに発生します。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには、
sys:¥system¥zenworks.properties ファイル内の ZWSPATH キーの値をメモします。
- 2 zwsenv.ncf ファイルを次のエントリで ZWS ディレクトリに作成します。

```
envset zwsinstallpath=ZENworks_Web_Server_installation_path
```

1092: Unable to append entries to the zwssrv.cfg file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリを
zenworks_web_server_installation_directory¥bin¥zwssrv.cfg ファイルに追加します。

```
Computer=Windows_machine_name
```

```
CLASSPATH=ZWS_installation_directory¥ZenWebServer.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥xmlrpcext.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥xmlrpcservlet.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥jcert.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥jnet.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥jdom.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥jsse.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥xmlrpc.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥servlet.jar;
```

```
ZWS_installation_directory¥xerces.jar;
```

```
BinDirectory=ZWS_installation_directory¥bin
```

```
WorkingDirectory=ZWS_installation_directory¥bin
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリの追加に失敗した場合に発生します。

可能な起因： ファイルにエントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

1 ZENworks Web Server のインストールパスをメモします。

1a REGEDIT を起動します。

1b HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS で、ZWSPath 属性の値を読み取ります。

2 `zenworks_web_server_installation_directory\bin\zwssrv.cfg` に次のエントリを追加します。

```
Computer=Windows_machine_name

CLASSPATH=ZWS_installation_directory\ZenWebServer.jar;
ZWS_installation_directory\xmlrpcext.jar;
ZWS_installation_directory\xmlrpcservlet.jar;
ZWS_installation_directory\jcert.jar;
ZWS_installation_directory\jnet.jar;
ZWS_installation_directory\jdom.jar;
ZWS_installation_directory\jsse.jar;
ZWS_installation_directory\xmlrpc.jar;
ZWS_installation_directory\servlet.jar;
ZWS_installation_directory\xerces.jar;

BinDirectory=ZWS_installation_directory\bin

WorkingDirectory=ZWS_installation_directory\bin
```

1093: Unable to append entries to the zws.properties file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが `zws.properties` ファイルを編集できません。

可能な起因： `zws.properties` ファイルにエントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1094: サーバ *server_name* のインベントリサービスオブジェクトを変更できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、既存のインベントリサービスオブジェクトを修正できません。

- 解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。
- 解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1095: Unable to create the invenvset.ncf file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、invenvset.ncf ファイルを次の内容で NetWare Inventory サーバの sys:¥system ディレクトリに作成します。

```
envset inv_install_dir= Inventory_server_installation_path
```

```
envset zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 インベントリサーバのインストールパスを取得するには、
sys:¥system¥zenworks.properties ファイル内の InvSrvpath キーの値を読み取ります。
- 2 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには、
sys:¥system¥zenworks.properties ファイル内の ZWSPath キーの値を読み取ります。
- 3 invenvset.ncf ファイルを次のエントリで sys:¥system ディレクトリに作成します。

```
envset inv_install_dir= Inventory_server_installation_path
```

```
envset zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

1097: サーバ *server_name* で MGMTDBS.NCF の変更失敗しました

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： mgmt dbs.ncf を編集しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1098: サーバ *server_name* で MGMTDBS.NCF の作成に失敗しました

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： mgmt dbs.ncf ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

- 解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。
- 解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1102: サーバ *server_name* でインベントリのインストール先パスを設定できません

- ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール
- 問題の重要度： 重大
- 可能な起因： インストールプログラムが、レジストリで Inventory サーバのインストールパスを更新できませんでした。
- 解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。
- 解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1104: サーバ *server_name* で ZENworks Web Server のインストール先パスを設定できません

- ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール
- 問題の重要度： 重大
- 可能な起因： インストールプログラムが、レジストリで ZWS サーバのインストールパスを更新できません。
- 解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。
- 解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1105: An input-output error occurred while reading the zenworks.properties file, for the server *server_name*. The previous installations of the Inventory server could not be detected

- ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール
- 問題の重要度： 情報
- 説明： インストールプログラムは、sys:¥system¥zenworks.properties ファイルを読み取って、インベントリが以前にインストールされているかどうかを確認します。
- 解決法： 必要な操作はありません。

1106: サーバ *server_name* で有効なデータベースのインストールを検出できません

- ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール
- 問題の重要度： 情報

可能な起因： レジストリからデータベースエンジンの場所を検出できません。

解決法： 必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

1107: サーバ *server_name* 上のインベントリコンポーネントのインストール先パスが無効です

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1118: Unable to create query.properties on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールプログラムは、query.properties ファイルをエントリ insver=zfd で *ConsoleOne_installation_path\bin* に作成します。ワークステーションインベントリが ZENworks 6.5 Server Management のサーバインベントリコンポーネント上にインストールされている場合、insver の値は「both」に変わります。

可能な起因： query.properties ファイルを作成または更新しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： query.properties ファイルがすでに存在する場合は、insver の値が正しいことを確認します。

解決法： query.properties ファイルが存在しない場合は、query.properties ファイルを次の内容で *ConsoleOne_installation_path\bin* ディレクトリに手動で作成します。

- ◆ ワークステーションインベントリを新規のセットアップでインストールする場合は、「insver=zfd」と入力します。
- ◆ ワークステーションインベントリを ZENworks 6.5 Server Management のサーバインベントリコンポーネント上にインストールする場合は、「insver=both」と入力します。

1121: データベースオブジェクト名を *old_database_object_name* から *new_database_object_name* に変更できません (サーバ *server_name* 上)

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

- 説明： ZENworks 6.5 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントを ZENworks for Desktops 4.x インベントリ上にインストールする場合は、インストールプログラムが ZENworks for Desktops 4.x データベースオブジェクトの名前を `server_name_invDatabase` に変更します。このエラーは、ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールプログラムが Database オブジェクトの名前を変更できないときに発生します。
- 解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。
- 解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1122: Unable to modify the database object on the server *server_name*

- ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール
- 問題の重要度： 重大
- 説明： インストールプログラムが、サーバ上の既存の Database オブジェクトを変更できません。
- 解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。
- 解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1123: Failed to update load and unload scripts on the server *server_name*

- ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール
- 問題の重要度： 重大
- 説明： インストールプログラムは、NetWare クラスタサーバ用にロードスクリプトおよびアンロードスクリプトにエントリを追加します。このエラーは、インストールプログラムがこうしたスクリプトにエントリを追加できない場合に発生します。
- 解決法： インストール中に、インベントリサーバまたはデータベースのインストールを選択した場合、選択したコンポーネントを再インストールします。インベントリサーバとデータベースの両方のインストールを選択した場合、両方のコンポーネントを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

1124: サーバ *server_name* で autoexec.ncf ファイルから古いインベントリエントリを削除できません

- ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール
- 問題の重要度： 重要
- 説明： インストールプログラムは、次のエントリをサーバ上の `sys:¥system¥autoexec.ncf` ファイルから削除します。sybase.ncf、mgmt dbs.ncf、gatherer.ncf、master.ncf、および storer.ncf です。

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリを削除できないときに発生します。

解決法： 次のエントリを `autoexec.ncf` から手動で削除します。 `sybase.ncf`、`mgmtlbs.ncf`、`gatherer.ncf`、`master.ncf`、および `storer.ncf` です。

1125: Unable to create the database object *database_object_name* on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1128: Zenworks Web Server エントリをファイル *filename*(サーバ *server_name* 上) に追加できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重要

説明： インストールプログラムは、`sys:¥system¥autoexec.ncf` ファイルにエントリを追加して、ZENworks Web Server を起動することができませんでした。

解決法： `sys:¥system¥autoexec.ncf` ファイルに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zenworks_web_server_installation_path
zenworks_installation_volume¥zenworks¥zfs.ncf
```

1129: Unable to set the ZENworks installation path on server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、レジストリに ZENworks のパスを設定できませんでした。

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1130: サーバ *server_name* 上のデータベースエンジンのインストール先パスを設定できません

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1131: サーバ *server_name* 上のインベントリデータベースのインストール先パスを設定できません

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、レジストリに Inventory データベースのインストールパスを設定できません。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1132: サーバ *server_name* 上の Novell Application Launcher データベースのインストール先パスを設定できません

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのインベントリデータベースのインストール

問題の重要度： 重大

説明： ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールプログラムは、レジストリキー `hkey_local_machine\software\novell\zenworks\ naldbpath` を `database_installation_path\database` の値で更新します。

可能な起因： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていることを確認します。

解決法： レジストリキー `hkey_local_machine\software\novell\zenworks\ naldbpath` を `database_installation_path\database` の値で手動で作成します。

1135: サーバ *server_name* 上の XML プロキシコンポーネントのインストール先パスが無効です

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、XML Proxy Service をインストールする有効なパスを取得できませんでした。

解決法： XML Proxy Service を再インストールします。詳細については、355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1137: Unable to add Inventory entries to the load script on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、ロードスクリプトでデータベースエントリの後に次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zws_installation_path
```

```
invc1st:¥zenworks¥zfs.ncf
```

```
SEARCH ADD SYS:¥JAVA¥NJCLV2¥BIN
```

```
;ZENworks Inventory Settings
```

```
StartInv.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法: ロードスクリプトで、データベースエントリの後に次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zws_installation_path
```

```
invc1st:¥zenworks¥zfs.ncf
```

```
SEARCH ADD SYS:¥JAVA¥NJCLV2¥BIN
```

```
;ZENworks Inventory Settings
```

```
StartInv.ncf
```

1138: Unable to add Inventory entries to the unload script on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、アンロードスクリプトの `del secondary ipaddress` 行の前に次のエントリを追加します。

```
java -killzenWSInv
```

```
delay 8
```

```
java -killzfsexit
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをアンロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法: 次のエントリを、アンロードスクリプトのインベントリエントリ（存在する場合）の後、および“`del secondary ipaddress`”エントリの前に追加します。

```
java -killzenWSInv
```

```
delay 8
```

```
java -killzfsexit
```

1139: Unable to add database entries to the load script on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリをロードスクリプトに追加します。

```
;ZENworks Database Settings  
sys:¥system¥mgmtlbs.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： ロードスクリプトで、インベントリエントリの前に次のエントリを追加します。

```
;ZENworks Database Settings  
sys:¥system¥mgmtlbs.ncf
```

1140: Unable to add database entries to the unload script on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリをアンロードスクリプトに追加します。

```
unload dbsrv8.nlm <<y
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをアンロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： 次のエントリを、アンロードスクリプトのインベントリエントリの後、および“del secondary ipaddress”エントリの前に追加します。

```
unload dbsrv8.nlm <<y
```

1143: Unable to retrieve the path where Inventory was installed for server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重要

説明： 旧バージョンの ZENworks がインストールされているパスを、ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールプログラムが取得できません。

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1148: Unable to create ZENworks Web Server as a service on Windows NT/2000 server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1149: Unable to add the ZENworks Web Server path to invenvset.bat on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、inenvset.bat ファイルを次のエントリで *Inventory_server_installation_path*¥zenworks¥inv¥server¥wminv¥bin ディレクトリに作成します。

```
set zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

このエラーは、インストールプログラムが ZWS のインストールパスをレジストリから取得できないときに発生します。

解決法: invenvset.bat ファイルに次のエントリを手動で追加します。

```
set zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

zws のインストールパスを取得するには、次の操作を行います。

- 1 REGEDIT を起動します。

- 2 *hkey_local_machine¥software¥novell¥zenworks* で、ZWSPath 属性の値を読み取ります。

1150: Unable to add ZENworks Web Server entry to the load script on *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリをロードスクリプトに追加します。

```
SEARCH ADD ZWS_installation_path  
ZWS.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリをロードスクリプトに追加できないときに発生します。

解決法: ロードスクリプトに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD ZWS_installation_path  
ZWS.ncf
```

1151: Unable to add ZENworks Web Server entry to the unload script on *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリをアンロードスクリプトに追加します。

```
java -killzwsexit
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリをアンロードスクリプトに追加できないときに発生します。

解決法: 指定のエントリを、アンロードスクリプトのエントリ *del secondary ipaddress* の前に追加します。

1153: Unable to add Inventory entries to the password.txt file on the server *server_name*

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度 : 重大

説明 : インストールプログラムは、XML Proxy Service のインストール時に、password.txt ファイルを次のエントリで ZWS のインストールディレクトリに作成または更新します。
inventory=novell

可能な起因 : password.txt ファイルを作成または更新しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法 : 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) password.txt が存在しない場合は、ZENworks Web Server インストールディレクトリに作成します。
- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

inventory=novell

1154: Unable to add the password.txt file path entry to zws.properties file on the server *server_name*

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度 : 重大

説明 : インストールプログラムは、次のエントリを
ZENworks_Web_Server_installation_directory\zws.properties ファイルに追加します。
passwordfile=path_of_password.txt

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリで zws.properties ファイルを作成できないときに発生します。

可能な起因 : zws.properties ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法 : 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) zws.properties が存在しない場合は、ZENworks Web Server インストールディレクトリに作成します。
- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

passwordFile=path_of_password.txt

1159: *entry* エントリをファイル *filename* (サーバ *server_name* 上) に追加できません

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度 : 重大

可能な起因 : sys:¥system¥zfdstop.ncf ファイルに InvStop.ncf エントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法 : InvStop.ncf エントリが存在しない場合は、sys:¥system¥zfdstop.ncf ファイルに手動で追加します。

1160: *entry1* を *entry2* に置換できません (ファイル *filename* 内)

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのプロキシサービスのインストール

問題の重要度: 重大

説明: プロキシサービスの再インストール時に、インストールプログラムは `zws.properties` ファイル内のプロキシポート値を新しい値に置換します。このエラーは、インストールプログラムがプロキシポート値を新しい値に置換できないときに発生します。

解決法: `zws_installation_directory\zws.properties` ファイルに、プロキシポートの新しい値を手動で入力します。

1161: サーバ *server_name* でポリシーサービスと配布サービスの以前のインストールが検出されました。インストールではインベントリサービスを自動的に開始できません。ポリシーサービスと配布サービスを開始した後、インベントリサービスを開始してください

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバおよび Windows サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度: 情報

説明: ZENworks 6.5 のインストール時に Standalone Preconfiguration を選択した場合、インストールプログラムはスタンドアロンサーバの設定を行い、インベントリサービスおよび ZENworks Web サーバサービスを自動的に起動します。ただし、ZENworks 6.5 Server Management のポリシーサービスと配布サービスがすでにインストールされている場合、ZENworks 6.5 インストールプログラムはインベントリサービスおよび ZENworks Web サーバサービスを自動的に起動しません。

解決法: インベントリサービスを起動する前に、ポリシーサービスと配布サービスを手動で起動する必要があります。ポリシーサービスと配布サービスの起動方法に関する詳細については、[ZENworks 6.5 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks) を参照してください。

1162: サーバ *server_name* でインベントリサーバの不完全なインストールが検出されました。インベントリサーバを再インストールしてください

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバおよび Windows サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度: 重大

説明: ZENworks 6.5 のインストールプログラムは、ZWS サービスを起動する前に、`zenworks.properties` ファイルで ZWS のパスを検索します。このエラーは、インストールプログラムがこのパスを見つけることができないときに発生します。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

1163: Unable to start the ZENworks Web Server on server *server_name*. 詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度: 重大

説明： ZENworks 6.5 のインストールプログラムが ZENworks Web サーバサービスを起動できませんでした。

解決法： サーバ上の sys:¥system¥zws.ncf ファイルを手動で実行します。

1164: サーバ *server_name* でインベントリサービスを開始できません。詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度： 重要

説明： ZENworks 6.5 のインストールプログラムがインベントリサービスを起動できませんでした。

解決法： サーバ上の sys:¥system¥startinv.ncf ファイルを手動で実行します。

1166: Unable to create zwssearch.ncf file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度： 重要

説明： ZENworks 6.5 のインストールプログラムは、sys:¥system¥zwssearch.ncf ファイルをエントリ SEARCH ADD ZENworks_Web_Server_installation path でサーバ上に作成します。

解決法： サーバ上に sys:¥system¥zwssearch.ncf ファイルを手動で作成します。

1167: Unable to add a search path to the ZENworks Web Server on server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリまたはプロキシサービスのインストール

問題の重要度： 重要

説明： ZENworks 6.5 のインストールプログラムが、サーバ上の sys:¥system¥zwssearch.ncf ファイルを起動できません。

解決法： サーバ上の sys:¥system¥zwssearch.ncf ファイルを手動で実行します。これにより、ZENworks Web サーバに検索パスが自動的に追加されます。

1168: サーバ *server_name* 上のレジストリにバージョン情報を書き込めません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバおよび Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： ZENworks 6.5 のインストールプログラムが、レジストリにバージョン情報を書き込めませんでした。

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1169: ファイル *filename* (サーバ *server_name* 上) から以前のインベントリエントリを削除できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでの Sybase インベントリデータベースのインストール

問題の重要度: 重要

説明: ZENworks for Desktops 4. x から ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする場合は、ZENworks 6.5 のインストールプログラムが ZENworks for Desktops 4. x インベントリのエントリを削除します。

このエラーは、ZENworks 6.5 のインストールプログラムが ZENworks for Desktops 4. x インベントリのエントリを削除できない場合に発生します。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1170: Unable to add entries to the zenworks.properties file, on server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: ZENworks 6.5 インストールプログラムが、バージョン情報およびインストールパスを zenworks.properties ファイルに書き込めませんでした。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[355 ページの「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1171: Unable to add the ZENworks Web Server entries to the file *filename*, on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare および Windows でのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度: 重大

説明: このエラーは、インストールプログラムが NetWare および Windows 用の invenv.ncf ファイルに ZENworks Web Server エントリを追加できないときに発生します。

可能な起因: ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: 次の操作を行います。

NetWare で、次のエントリが invenv.ncf ファイルにない場合は、次のエントリを追加します。

```
envset tmpopath=$tmpopath;$zws_install_dir%xmlpccextRes.jar
```

Windows で、次のエントリが *inventory_install_path\%wminv%bin\invenv.bat* ファイルにない場合は、次のエントリを追加します。

```
tmpopath=%tmpopath%;%zws_install_dir%xmlpccextRes.jar
```


2701: サーバ *server_name* 上に ZWSSTART.NCF ファイルを作成できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリ
またはプロキシサービスのインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、ZWS Web サーバを起動するために
sys:¥system¥zwsstart.ncf ファイルを作成します。このエラーは、インストールプロ
グラムが zwsstart.ncf ファイルを作成できないときに発生します。

可能な起因: zwsstart.ncf ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには、
sys:¥system¥zenworks.properties ファイル内の ZWSPATH キーの値をメモします。
- 2 (条件付き) zwsstart.ncf が存在しない場合は、sys:¥system ディレクトリに
zwsstart.ncf ファイルを作成します。
- 3 ファイルに次のエントリを追加します。

ZENworks_Web_Server_installation_path¥zwsenv.ncf

ZENworks_Web_Server_installation_path¥zws¥zws.ncf

2702: サーバ *server_name* 上のロードスクリプトからエントリを削除できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリ
データベースまたはプロキシサービスのインストール

問題の重要度: 重大

可能な起因: ZENworks 6.5 Desktop Management を ZENworks for Servers または ZENworks for
Desktops の以前のバージョン上にインストールする場合は、インストールプログラム
がロードスクリプトからエントリを削除します。このエラーは、インストールプロ
グラムがロードスクリプトからエントリを削除できないときに発生します。

解決法: [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

2703: Unable to remove the entries from the unload script on server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリ
データベースまたはプロキシサービスのインストール

問題の重要度: 重大

可能な起因: ZENworks 6.5 Desktop Management を ZENworks for Servers または ZENworks for
Desktops の以前のバージョン上にインストールする場合は、インストールプログラム
がロードスクリプトからエントリを削除します。このエラーは、インストールプロ
グラムがロードスクリプトからエントリを削除できないときに発生します。

解決法: ConsoleOne を使用して、Unload スクリプトから dbsrv8.nlm エントリを削除します。

2704: Unable to append entries to zws.ncf file on the server *server_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのインベ
ントリサーバ / プロキシサービスのインストール

問題の重要度: 重大

説明： このエラーは、ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールプログラムが ZEN ロードエントリを zfs.ncf に書き込めなかった場合に発生します。

可能な起因： zfs.ncf を修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： ZENworks 6.5 Desktop Management のインベントリサーバおよびインベントリプロキシサーバ (XML Proxy) コンポーネントを再インストールします。詳細については、[7 章 51 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)を参照してください。

2707: Unable to create dbconfig.properties file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのインベントリサーバ / プロキシサービスのインストール

問題の重要度： 重要

説明： このエラーは、インストールプログラムが invenv.ncf ファイルに ZENworks Web Server エントリを追加できないときに発生します。

可能な起因： ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次のファイルが存在することを確認します。

- ◆ Invconfig.properties(*Inventory_database_volume*¥zenworks¥database¥inventory ディレクトリ)
- ◆ Nalconfig.properties(*NAL_database_volume*¥zenworks¥database¥nal ディレクトリ)

ファイルが存在しない場合は、次のファイルを手動で作成します。

- ◆ 次のエントリを含む Invconfig.properties。
DBObjectDN=*DV of the Inventory database object in eDirectory*
- ◆ 次のエントリを含む Nalconfig.properties。
DBObjectDN=*DV of the NAL database object in eDirectory*

2708: Unable to assign rights to the directory *directory_name* on server *server_name*

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムで scandir ディレクトリまたは dictdir ディレクトリにアクセス権を割り当てることができませんでした。

可能な起因： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていることを確認します。

可能な起因： インストールプログラムが、Windows ワークステーションまたはサーバから実行されていません。

解決法： Windows ワークステーションまたはサーバに推奨されるワークステーションインストール要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[47 ページの「ユーザーワークステーションの要件」](#)を参照してください。

解決法： ネットワークが稼動していることを確認します。

解決法： 次の操作を行います。

- 1 Inventory Service を停止します。
- 2 scandir ディレクトリまたは dictdir ディレクトリに権限を割り当てます。
 - ◆ **Scandir:** *inventory_installation_drive¥zenworks¥inv¥scandir* ディレクトリを「ScanDir」として共有し、作成権限を全員に割り当てます。
 - ◆ **Dictdir:** *inventory_installation_drive¥zenworks¥inv¥dictdir* ディレクトリを「DictDir」として共有し、フルアクセス権を全員に割り当てます。
- 3 Inventory Service を起動します。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

インストール先パスが長すぎます。

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバおよび Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

解決法： インストールパスに指定する文字が 169 文字を超えないようにします。

share_name 共有を *server_name (directory_path)* に作成できません

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 共有を作成するコンピュータにアクセスできません。

解決法： そのコンピュータにアクセスできることを確認します。Ping を実行して、コンピュータの接続状態を確認します。

解決法： Windows エクスプローラを使用して、そのコンピュータ上の他の共有へのアクセスを試みます。

F

XMLRPC のライセンス契約

Novell® ZENworks® Desktop Management は、XMLRPC プロトコルを使用して、インベントリ情報を下位のインベントリサーバから次のレベルのインベントリサーバにロールアップします。

Desktop Management ソフトウェアで使用されるサードパーティの XMLRPC コードのライセンス契約を次に示します。

- ◆ 441 ページの「HELMA のライセンス」
- ◆ 442 ページの「John Wilson のライセンス」
- ◆ 442 ページの「Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス」

HELMA のライセンス

Copyright (c) 1999-2001, Hannes Wallnofer (hannes@helma.at).
All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。

バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。

このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、Helma またはその貢献者の名称を、書面による事前の明確な許可なく使用することはできません。

このソフトウェアは、HANNES WALLNOFER から「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。事由のいかんを問わず、損害発生の原因いかんを問わず、責任の根拠が契約であるか厳格責任であるか（過失その他の）不法行為であるかを問わず、HANNES WALLNOFER は、仮にそのような損害が発生する可能性を知らされていたとしても、このソフトウェアの使用から発生した直接損害、間接損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害または結果損害のいずれに対しても（代替品またはサービスの提供、使用機会、データまたは利益の損失の補償、または業務の中断に対する補償を含め）責任をいっさい負いません。

John Wilson のライセンス

Copyright (c) 1999, John Wilson (tug@wilson.co.uk).
All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。

バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。

このソフトウェアの機能や使用に言及するすべての広告材料には、次の告知を表示する必要があります。

この製品には、John Wilson が開発したソフトウェアが含まれています。このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、John Wilson の名称を、書面による事前の明確な許可なく使用することはできません。

このソフトウェアは JOHN WILSON から「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。John Wilson は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用により発生するいかなる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または結果的損害（代用品または代用サービスの調達、使用、データ、または利益の逸失、業務の中断など）に対して、その事由を問わず、それが契約責任、厳格責任、または不法行為賠償責任（過失責任を含む）のいずれに基づくものであれ、たとえそのような損害の可能性を通知されていても、責任を負わないものとします。

Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス

Copyright (C) 2001 Brett McLaughlin & Jason Hunter.
All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

1. ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。
2. バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。
3. このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、「JDOM」の名称を、書面による事前の許可なく使用することはできません。書面による許可については、license@jdom.org にお問い合わせください。
4. JDOM Project Management (pm@jdom.org) からの書面による事前の許可なく、このソフトウェアから派生する製品を「JDOM」と呼ぶことや、その名称または名称の一部に「JDOM」を使用することはできません。

また、再配布物やソフトウェア自体に付属するエンドユーザドキュメントには、以下と同等の告知を含めることを要望します（ただし、必須ではありません）。

「この製品には、JDOM プロジェクト (<http://www.jdom.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。」

このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示暗示を問わず、商品性および特定目的に対する適合性の保証も含め、いかなる保証もなされません。JDOM の作成者または JDOM Project の貢献者は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用により発生するいかなる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または結果的損害（代用品または代用サービスの調達、使用、データ、または利益の逸失、業務の中断など）に対して、その事由を問わず、それが契約責任、厳格責任、または不法行為賠償責任（過失責任を含む）のいずれに基づくものであれ、たとえそのような損害の可能性を通知されていても、責任を負わないものとします。

このソフトウェアは多くの個人から JDOM Project のために自発的に提供された作品から構成されており、オリジナルは Brett McLaughlin <brett@jdom.org> および Jason Hunter <jhunter@jdom.org> によって作成されました。JDOM Project の詳細については、<<http://www.jdom.org/>> を参照してください。

G

ドキュメントの更新

この節には、Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management の最初のリリース以降に、『インストールガイド』に加えられたドキュメント内容の変更について説明します。お使いのドキュメントを最新の状態に更新するために、この情報を役立ててください。

この節で列挙する変更はすべてドキュメントにも反映されているものです。マニュアルは、Web 上で HTML と PDF の 2 つの形式で提供されています。HTML および PDF ドキュメントは、ここに示すドキュメントの変更に基づいて最新の状態になっています。

ドキュメントの変更が発行された日付ごとに、更新情報をグループ化しています。日付の付いた節の中では、ZENworks 6.5 Desktop Management の目次に記載されている節名に基づいて、アルファベット順に変更を示しています。

使用している PDF ドキュメントのコピーが最新の内容であるかどうかを確認するには、PDF ドキュメントのタイトルページ、またはタイトルページのすぐ後ろの法的通知の欄で、発行された日付を参照してください。

ドキュメントは次に示す日付で更新されました。

- ◆ 445 ページの「2004 年 7 月 23 日」
- ◆ 446 ページの「2004 年 8 月 25 日」
- ◆ 448 ページの「2004 年 10 月 4 日」
- ◆ 448 ページの「2004 年 10 月 25 日」
- ◆ 449 ページの「2005 年 2 月 11 日 (Support Pack 1)」

2004 年 7 月 23 日

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

場所	変更
108 ページの「MSI アプリケーション オブジェクトに対するプロパティの追加」	プロパティテーブルに、IGNORE_3RDPARTY_GINA という新しいプロパティを追加しました。
405 ページの「Remote Management のインストールエラー」	この節は新しいエラーメッセージで更新されました。

場所	変更
219 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバのアップグレード」> 229 ページの「ワークステーションインベントリのアップグレードの完了」	232 ページの「Inventory Agent」に関してアップグレード前の考慮事項を追加しました。 ZENworks for Desktops 3. <i>x</i> エージェントをワークステーションイメージングでインストールまたはアップグレードする場合は、必ず、未登録の ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションでイメージを取得してください。
251 ページの「ZENworks for Desktop 4. <i>x</i> Server のアップグレード」> 260 ページの「ワークステーションインベントリのアップグレード」	261 ページの「Inventory Agent」に関してアップグレード前の考慮事項を追加しました。 ZENworks for Desktops 4. <i>x</i> エージェントをワークステーションイメージングでインストールまたはアップグレードする場合は、必ず、未登録の ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーションでイメージを取得してください。
409 ページの「ワークステーションインベントリのインストールエラー」	この節は新しいエラーメッセージで更新されました。

2004 年 8 月 25 日

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

場所	変更
66 ページの「データベース場所ポリシーの設定」	この節は更新されました。
173 ページの「DirXML ドライバの設定」	ZENworks for Desktops 4. <i>x</i> に付属していた readdomainguid.exe に代わり adshimdiscoverytool.exe を使用するため、173 ページのステップ 2 を更新しました。 Companion CD におけるドライバの場所を明確に示すため、174 ページのステップ 10 を更新しました。
68 ページの「ワークステーションインベントリポリシーの設定」	この節は更新されました。
170 ページの「DirXML の Active Directory 管理者アカウントの作成」	DirXML 用の管理者 AD アカウントの作成プロセスをより具体的に示すため、新しい手順を追加しました。

場所	変更
106 ページの「MSI アプリケーション オブジェクトの作成と設定」	新しいアプリケーションオブジェクトの追加プロセスをより具体的に示すため、新しい手順を追加しました。
146 ページの「エージェントのログインのカスタマイズ」	エージェントのインストール中に ZENworks Middle Tier Server の IP アドレスにプロトコル (http: や https:) を追加すると、エージェントが Middle Tier Server に接続できなくなる点を強調するため、グラフィックおよび注意事項 (「重要」) を追加しました。
171 ページの「DirXML のインストール」	DirXML のインストール前に、Windows サーバ上の ZENworks サービスを停止する必要がある点をユーザに警告するため、注意事項 (「重要」) を追加しました。 ステップ 3 で DirXML インストールプログラムの名称を訂正しました。
369 ページの「Novell Cluster Services 環境へのインストール」	クラスタ環境で ZENworks のリモート管理および ZENworks ワークステーションインベントリを使用した場合の制限事項をより具体的に示すため、 概要 の 4 つ目の段落を修正しました。
179 ページの「Desktop Management Server のインストール」	Windows のみの環境における Desktop Management Server のインストールプロセスをより具体的に説明するため、 ステップ 2 を修正し、 ステップ 3 および ステップ 4 を追加しました。
100 ページの「手動のインストール手順」	エージェントのインストール中に ZENworks Middle Tier Server の IP アドレスにプロトコル (http: や https:) を追加すると、エージェントが Middle Tier Server に接続できなくなる点を強調するため、注意事項 (「重要」) を追加しました。
54 ページの「完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行」	ConsoleOne 1.3.6 のインストールプロセスをより正確に反映するため、 63 ページのステップ 15 を修正しました。
29 ページの「インストールに使用する Workstation の条件」	ZENworks スナップインをローカルワークステーションにインストールする場合の説明として、項目を追加しました (4 つめの箇条書きを参照)。この場合は ConsoleOne が必要になるため、その点についても記述しました。
128 ページの「Novell Application Launcher プラグインの再インストール」	プラグインを Windows NT ワークステーションから削除するための手順を追加しました。
164 ページの「eDirectory インストールプログラムの実行」	Windows サーバ上に解凍された eDirectory 8.7.3 インストールプログラム (setup.exe) の場所 (ステップ 3) を修正しました。
66 ページの「ワークステーションインポートポリシーのセットアップ」	ワークステーションインポートポリシーのセットアップ手順を修正しました。 ステップ 3 および ステップ 6 を追加しました。 ステップ 4 を修正しました。

場所	変更
35 ページの「ワークステーションインベントリのみをインストールする場合のソフトウェア要件」	(Novell Client 4.9 SP1a がインストールされた)Windows 2000 サーバまたは Windows Server 2003 上にパッチをインストールする際に参照すべき TID の番号を変更しました。
47 ページの「ユーザワークステーションのハードウェア要件」	ワークステーションでワークステーションイメージングを使用する場合の RAM の要件 (128 MB を推奨) を具体的に記述しました。
134 ページの「ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理」	Windows ターミナルサーバポリシーを使用したターミナルユーザプロファイルの格納場所設定に関する情報を削除しました (旧バージョンで使用されていたターミナルサーバポリシーは、ZENworks 6.5 では存在しないため。ターミナルサーバでは Windows デスクトップ初期設定ポリシーを使用して、Roaming プロファイルを設定する必要があります)。

2004 年 10 月 4 日

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

場所	変更
39 ページの「ZENworks Middle Tier Server の制限」	Apache Web サーバおよび Novell NetStorage のインストールに関する箇条書き項目を追加しました。代わりに ZENworks 6.5 Middle Tier インストールプログラムの前提条件ページに表示されていた情報を削除しました。

2004 年 10 月 25 日

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

場所	変更
369 ページの付録 B「Novell Cluster Services 環境へのインストール」	ZENworks 6.5 Middle Tier Server を Novell Cluster Services 環境にインストールすることはできないことを説明する記述を追加しました。
163 ページの「テストラボの環境設定」	ZENworks Middle Tier Server を、Password Synchronization (SRV-02) とは別のサーバ (SRV-03) にインストールし、ZENworks 6.5 Desktop Management を Windows のみの環境で実行する事例を紹介しました。この 2 つのコンポーネントを同じサーバにインストールすることはできません。
186 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール」	ZENworks Middle Tier Server を Windows のみの環境にインストールする場合の前提条件を具体的に記述しました。Middle Tier Server を DirXML Password Synchronization と同じサーバにインストールしてはなりません。そのため、この節の最初の段落を変更し、Middle Tier Server を独自のサーバにインストールする旨を記述しました。

場所	変更
334 ページの 「ZENworks 6.5 Desktop Management、 ZENworks 6.5 Server Management、およ び旧バージョンの ZENworks が複数の サーバにインス トールされている 場合の相互運用性」	内容をより正確に反映するため、節タイトル（「相互運用性を実現するインス トールシナリオ」）を変更しました。
333 ページの 「ZENworks 6.5 Desktop Management、 ZENworks 6.5 Server Management、およ び旧バージョンの ZENworks が 1 台の サーバにインス トールされている 場合の相互運用性」	内容をより正確に反映するため、節タイトル（「相互運用性を実現するための ZENworks Inventory のインストール」）を変更しました。
325 ページの「イ ンベントリの相互 運用性」	前提条件に次の箇条書き項目を追加しました。 ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management とが同 一サーバにインストールされている場合、ZENworks 6.5 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントは、ZENworks 6.5 Server Management の Server Inventory コンポーネントとの間でのみ相互運用でき ます。
39 ページの 「ZENworks Middle Tier Server の制 限」	ZENworks 6.5 Middle Tier Server を Novell Cluster Services 環境にインス トールすることはできないことを説明する箇条書き項目を追加しました。

2005 年 2 月 11 日 (Support Pack 1)

ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 のリリースに際し、次の節が更新さ
れました。変更内容は次のとおりです。

場所	変更
156 ページの 「Windows ワークス テーションへの証 明書のインポート」	以前は記載されていた、Windows ワークステーションへの証明書の実インストール 手順が削除されました。これは、User Account（ユーザアカウント）用のイン ストールのみに適用される手順です。その代わりに、User Account（ユーザ アカウント）、Computer Account（コンピュータアカウント）、または Service Account（サービスアカウント）で使用するための証明書をインポートする方 法を説明している URL が記載されています。

場所	変更
369 ページの 「Novell Cluster Services 環境へのインストール」	Novell Cluster Services 環境でのワークステーションインベントリのインストールに関連する情報を追加して付録を更新しました。
277 ページの「ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール」	ワークステーションへの Microsoft RDP クライアントのインストール方法を説明する節を追加しました。
319 ページの 「ZENworks for Desktops 4.x との相互運用性」	Support Pack 1 に対する多数の変更で、この節が更新されました。SP1 の特定の変更内容は、章の中に記載されています。
369 ページの「概要」	Support Pack 1 ではワークステーションインベントリでクラスタ環境がサポートされるようになったことを示すため、4 つ目の段落を修正しました。
Windows 環境で使用するための ZENworks の準備	ZENworks 6.5 に付属するバージョンの DirXML は、eDirectory 8.7.3 とのみ互換性があり、eDirectory 8.8 とは互換性がないことを示す注釈が、160 ページの「必要とされるネットワーク設定」に加えられました。
295 ページの 「ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 へのアップグレード」	ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 へのアップグレード方法を説明する章を追加しました。
110 ページの「デスクトップ管理 エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開」	ここで説明する内容が、エージェントディストリビュータを使用して、Microsoft ドメインまたは Active Directory のメンバーであるワークステーションにデスクトップ管理エージェントを配布することを目的としていることを明確にするため、節のタイトルを変更し、内容を追加しました。
116 ページの「デスクトップ管理 エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開」	Support Pack 1 でエージェントディストリビュータに追加された、IP アドレスを使用して Windows ワークグループ内のワークステーションにデスクトップ管理エージェントを配布する機能を明確にするため、この節を追加しました。
210 ページの 「ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 の変更点と新機能」	ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 での変更点に関する情報を提供するため、節を追加しました。